講義科目名称：　医療・福祉・教育の基礎　　授業コード：S1000

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
足立　勤一・小林　義信・富澤　一央・塚越　亜希子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 医療・福祉・教育に関わる専門職の基礎について学び、専門職者としての素養を身に付けることを目的とする。 的とする。 【到達目標】 ①医療・福祉・教育に関わる法・制度について理解・説明できる。 ②医療・福祉・教育に関わる専門職と、その役割ついて理解・説明できる。 ③ライフステージに応じた対象者の生活支援に関して、各専門職の取り組みを理解・説明できる。 ④対人コミュニケーションや多職種連携の重要性について理解・説明することができる。
授業の概要	人は生まれてから最期を迎えるまで、多様な生活を送る。医療・福祉・教育に関わる支援者の役割は、人々が必要な教育を受け、幸福で健康的な生活を送ることができるようにすることである。本講義では、乳幼児期から老年期にある様々な年代の対象者が、生き生きと生活を送るために、どのような専門職が、どのように治療・指導・援助に関わっているか演習を交えながら学ぶ。 また、治療・指導・援助の際には、対象者や多くの専門職とのコミュニケーション（多職種連携）が必要不可欠である。講義内で行われる、グループワークなどの演習を通し、人とのコミュニケーションの重要性についても理解を深めて欲しい。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション／「ボランティア活動」と「サービス・ラーニング」（足立勤一） 【key words】 【授業概要】 本学の建学の精神である「仁」をもとに、「ボランティア活動」と「サービス・ラーニング」の基本について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	「障害について学ぼう」　-共生社会の実現に向けて-（小林義信） 【key words】 【授業概要】 障がいのあるなしにかかわらず、だれもが安心して幸せに生活できる共生社会の実現に向けて、障がいについて学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】

	第３回	社会福祉士の専門性と連携（富澤一央） 【key words】 【授業概要】 社会福祉士の仕事と多職種と連携する時の情報共有の大切さ、人に伝える難しさを学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第４回	子どもの育ちに大切なこと（塚越亜希子） 【key words】 【授業概要】 子どもたちの笑顔と未来を守るために、今、改めて注目されている保育・幼児教育の重要性について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第５回	手術を受ける子どもへの関わり方（西山智春） 【key words】 【授業概要】 病院で子どもが医療行為により引き起こされる心理的混乱に対し、プレパレーションを通した説明の仕方を学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第６回	高齢者に対するコミュニケーション（剱持貴史） 【key words】 【授業概要】 ユマニチュードなどのコミュニケーション技法を通して、高齢者の心をつかむコミュニケーションについて学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第７回	私の健康、備えあれば患え（うれえ）なし？（橋本いずみ） 【key words】 【授業概要】 自分の健康を守るためにどのようなことに気をつけていますか。健康を守るための仕組みや方法について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第８回	医療者の目線から学ぶ救急止血処置 【key words】 【授業概要】 生体に不可欠な血液の種類と出血のメカニズムについて理解し、救急止血処置を医療者の目線で学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第９回	ひとの身体と臨床における理学療法の役割（小林雄斗） 【key words】 理学療法士、リハビリテーション、役割 【授業概要】 医療、スポーツ、福祉など多岐にわたる領域で、理学療法士が実際にどのようなアプローチを通して現場で活躍しているかを学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料　（事前に配布します） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１０回	理学療法における治療テクニックと大学での学び（浅野貞美） 【key words】 骨、コミュニケーション、グループワーク 【授業概要】

	理学療法の基本的な治療テクニックを紹介します。また本学学生の様子を通して基礎科目の重要性を学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１１回　作業療法士から見る対象者の生活課題とリハビリテーション　（高坂駿） 【key words】 リハビリテーション、作業、作業療法 【授業概要】 作業療法士がリハビリテーションの中で果たす役割や、人の生活を構造的に捉える視点等について演習を通じてお伝えします。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の典型的な平日を思い出し、どんな活動が、どこで、誰と、どのように行われているか考えてきてください。 【予習復習に必要な想定時間】 20分程度 第１２回　臨床や地域における作業療法の実践　（牛込祐樹） 【key words】 作業療法、治療・支援、実践 【授業概要】 作業療法の概要を学び、作業療法士が対象の方々や社会の抱える課題に対して具体的にどのように取り組み、実践を行っているのかを学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日本作業療法士協会ホームページのピックアップコンテンツである「TEAM　OT」、「OTのスゴ技（作業療法士）」について、自身の興味のある内容を２つ読んでおいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 20分程度 第１３回　介護という生活支援学のススメ（清水久二雄） 【key words】 【授業概要】 バラエティに富む人の「生活」とそれを支援するために「生活する」ことを考えつつ、介護のエピソードからも学んでいきます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回　コード・ブルーから学ぶチーム医療と医療情報（淡島正浩） 【key words】 【授業概要】 メディカルスタッフが連携・協働し,専門スキルを発揮するチーム医療と推進のために大切なことを学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　臨床検査技師の使命（半田正） 【key words】 【授業概要】 検査のスペシャリストとして、どのように医療へ貢献しているのか、学んでみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１６回　臨床工学技士の仕事（秋山康則） 【key words】 【授業概要】 高度医療の現場で活躍する臨床工学の業務と、将来期待される可能性について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・本講義は、高大連携事業の一環で行われ、履修者は主に初学者（高校生）となる。 ・授業形態は、対面またはオンデマンドとなる。オンデマンドの場合は、PC、インターネット環境が必要となる。 ・予習復習をしっかりすること。

	・講義では、学びを深めるグループワークや演習も行うので、積極的にアクティビティに参加すること。 ・各講義の終盤には小テストを実施予定のため、聞き落としたことや質問は授業内にすること。 ・講義は前橋キャンパスを中心に行うが、専門分野についての学びを深めるために、看護学部（藤岡キャンパス）や、リハビリテーション学部（本町キャンパス）での講義も行う。 〔受講のルール〕 ・講義は特別な事情のない限り、欠席のないようにすること。 ・講義内外問わず、積極的に自ら調べたり、質問をすること。 ・講義中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	オムニバス形式の授業のため、その単元の内容に関わるものは単元を担当した教員に、なるべくその場で質問をすること。
授業外時間にかかわる情報	授業を受ける前に必ずシラバスを確認して、授業内容の把握や予習を進めておくこと。 また、分からないことを解決したり、授業で扱った内容の理解を深めるため、自ら調べ学習を進めること。
オフィスアワー	講義時に指示する。
評価方法	各講義終了時の試験を総合して評価する。（100%）
教科書	講義内で適時資料配布する。
参考書	講義内で適時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 哲学　　授業コード：S1015

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
鈴木　利定			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	「人間とは何か」　我々はこれまで幾度となくこの問いかけを繰り返してきた。中国の思想家たちは、この問いにどのように解答しているのか。そしてそれぞれの解答に対して自分自身はどう思うのかを自ら問うてみる学問をねらいとしている。
授業の概要	孔子は人間にいかに生くべきかという問いについて、人間によるべき新しい「道」をどのように考えたか。仁と礼について、特に最近は礼儀をわきまえないという声もある。つまり「形式的な礼など無用だ。真心さえ持っていればそれでよいのでは虚礼廃止だ。」ということもあるが、孔子の説いた礼をもとに現代における礼のあり方を学ぶ。プラトンと同じく孔子は、理想国家を説くことにより政治のあり方を説いた。孔子の説いた政治道徳の現代にあてはまることを学ぶ。老子・荘子は孔子と並ぶ中国の代表的な思想家である。両者は全く相反する傾向すら持っている。この両者の思想を比較し、学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画		
	第１回	科目オリエンテーション / 論語序説「史記」孔子出家で孔子の履歴を知る。学ぶことの意義、孝弟について、文を学ぶことは人倫の大きなる者について、信と義について。君子と貧しきものの生き方。学問について。
	第２回	政とは如何なるべきか。志学より従心までの心持。孝と敬と。人物の観察法。身を正すこと。内省。志の大切さ。道に志す。性善論。信の大切さ。
	第３回	教育論、礼に反する儀式について。僭し泰れに旅したこと。祭りと祭神について。射にみる古道について。
	第４回	大学の道についての孔子の説明。大学辛句（右経一章）　明徳を明らかにするを釈く。民を新に釈く。（右伝の三章、右伝の二章）
	第５回	至善に止まるを釈く。本末を釈く。（右伝の三章、右伝の四章）　心を正しくして身を脩めて、家を斉う。（右伝の七章、右伝の八章）
	第６回	家を斉へて国を治むるを釈く。（右伝の十章）　朱子の中庸に対する解説であり、孔子の孫子思が道学のその伝を失わんことを優えて作るより説きおこす。（中庸章句序）
	第７回	道に対する知者、愚者、賢者、不肖のかかわりを論ずる。（右章第四章、五章、六章）
	第８回	顔回が中庸をえらび人生に処したことを論ずる。（右第七、八、九章）

	第９回　国に道あると無きとに関せず節操を持つべきを子略に示す。（右第十、十一章） 第１０回　孔子が憂いが無いのは文王だけだろうと語った理由を論ず。（右第十九章） 第１１回　よく民を治めるには、誠は天の道なるを知るに有るを論ず。（右第二十章） 第１２回　孔子の思想が「人間中心」であり、「ヒューマニズム」であるといわれるのはなぜかを学ぶ。 第１３回　孟子の人間観と荀子の人間観は孔子を中心とした仁と礼のいずれかの強調からきたものである。孟子、荀子はそれぞれを重視するものか、仁を重視するものかを考える。「四端の心」について学ぶ。 第１４回　老荘思想においては、人間をどのようにとらえるか。又、儒教の人間観に対してどのような批判をしているかを学ぶ。 第１５回　老荘思想と儒教のどちらの人間観により自己の思想を築いていくのかを学ぶ。
受講生に関わる情報および受講のルール	成績評価は、試験・レポート・出席状況を監み、一度も休みのない者については、成績としては十分な評価を与える。出欠席は重視する。理由なくして欠席、遅刻の多い者（二回以上の者）は成績評価を受ける資格を失う。欠席の虚偽申告（代返等）をした者は単位を認めない。講義中のノート筆記は必ず行い、質問に対して的確な解答ができるよう努める。私語は厳禁。注意を促し、場合によっては退出を命ずる。再試は1回のみ。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	テキストの予習・復習をすること。
オフィスアワー	火曜日 10:30～12:00
評価方法	■筆記試験（□論述 □客観）　■レポート　□口答試験　□実地試験　□その他 評価配分：成績評価は、試験（60%）・レポート（20%）・授業取組み状況（20%）を鑑み、評価を与える。
教科書	鈴木利定著「儒教哲学の研究－修正版」（明治書院）　　咸有一徳（中央法規）
参考書	講義の中で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 道徳教育　　授業コード： S1091

英文科目名称： moral education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
岡野　康幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会の一員として人は他者と協力し共存しながら生活をしていきます。では、どのようにすれば自他ともによりよい生活を送ることが可能でしょうか。それは人が誰しも心の奥に存在する「人間らしくよりよく生きよう」とする小さな声、つまり道徳心を構築することから始まります。この講義では道徳心をどのように育てていくのかを建学の精神（儒学の「仁」）と関連しながら解説していきます。また、小・中教員免許の習得を目指す学生のために、どのように道徳の授業を厚生・展開するのかを、テキスト以外にも身近な事例話題をもとに指導案の作成などを通して指導力に育成に当たります。 【到達目標】 ・自覚的に道徳心を養おうとする態度を身につけ、感情ではなく道徳的判断を可能としその道徳的判断を論理的に説明できる。 ・児童・生徒の発達段階に即した道徳の授業を計画し、系統的に授業ができる。
授業の概要	・人はどのような時に道徳心を発揮するのか、テキスト掲載の中国古典を例に学生との議論や解説を通じて考察する。その過程を経ることにより、人としてのあり方・生き方について自ら学び、積極的に社会に参加できる力を養う。 ・児童・生徒が日常的に経験する事例から道徳の端緒を探り、どのように拡充していくかを討論から考察する。 ・道徳や倫理に限らず、考察の根本は先ず「知る」ことです。そして「知る」ための手段が読書です。課題図書や読書に関する発表やレポートを課します。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	○
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	授業オリエンテーション（講義内容・方法・授業時の留意事項・評価）ハチドリのひとしずく（事象の論説・事実把握・論述すること） 【key words】 受講の際の注意事項　はちどり　自分にできること 【授業概要】 受講の際の注意点を最初に説明します。ハチドリのひとしずくをを読み、どのように感じたか書いてもらい、発表をしてもらいます。何人かに発表をしてもらった後に傾向を分析し、人間の道徳的判断の基準について解説していきます。 【教科書ページ・参考文献】 プリントを配布します 【課題・予習・復習・授業準備指示】 初回は特にないが、遅刻をしないこと。 【予習復習に必要な想定時間】 初回はなし。
	第２回	咸有一徳とは　学長訓話「若きみなさんへ」Ⅰ 【key words】 咸有一徳　仁　習慣 【授業概要】 これから２週にわたり、「若きみなさんへ」を読んでいきます。この訓話はテキスト『咸有一

		徳』及び本学教育方針のエッセンスです。この訓話が理解できれば本学の精神のおおよそは理解できたと言っても過言ではないでしょう。この回では「咸有一徳」の意味と「躾と習慣」についてともに考えていきましょう。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１３～Ｐ２６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず参考文献に挙げてある辞書類で調べておくこと。これらの辞書類は図書館に備わっています。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第３回	咸有一徳とは　学長訓話「若きみなさんへ」Ⅱ 【key words】 古典　論語　仁　建学の精神 【授業概要】 訓話「若きみなさんへ」の後半です。教養を身に付ける方法はいくつもあるでしょう。しかしその中でも読書、なかんずく古典を読むことは、オーソドックスな身に付け方ではないでしょうか。この回では、本学の建学精神とも関わる、中国の古典『論語』を例に教養について考えてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ２６～Ｐ３７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず参考文献に挙げてある辞書類で調べておいてください。これらの辞書類は図書館に備わっています。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第４回	「仁」とは何か　「真心」とは何か 【key words】 仁　真心　惻隠の心　四端 【授業概要】 「仁」の意味を一言で述べるのは実に難しいことです。それは『論語』の中で孔子が仁の意味を定義せず、場面場面で違うことを述べているからです。しかし、それでも最大多数的に述べることは可能です。この回では論語に現れた「仁」を分析し、どのような意味が付与されているのか、そして私たちに「仁」は何を要求しているのか。「真心」という言葉とともに考えてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ３９～Ｐ５６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず参考文献に挙げてある辞書類で調べておいてください。くこと。これらの辞書類は図書館に備わっています。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第５回	「至誠」とは何か 【key words】 至誠　尽くす　儒教　儒学 【授業概要】 「至誠」とは「真心」の漢語的表現です。至誠なればこそ人を動かすことが可能なのです。中国古典によれば、人間も本来は善≒至誠なのですが、そのようになれないのは何故なのでしょうか。「至誠」という言葉をキーワードに中国古典の中から考えていきましょう。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ５７～Ｐ７０ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず参考文献に挙げてある辞書類で調べておいてください。これらの辞書類は図書館に備わっています。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第６回	家庭生活の基本マナー　福祉界が望むマナー（儒学における関係古典文献より考察） 【key words】 家族　あいさつ　服装　ホウレンソウ 【授業概要】 社会は人と人との関係で成り立っています。お互いが快適に生活するための礼儀作法、それがマナーです。マナー違反は罪ではないですが悪にはなります。それは他人をして不愉快にするからです。お互いが快適に生活するためにどのようなマナーを身に付けなくてはならないのか。この回では家庭と多くの学生が就職するであろう福祉界を例に考えていきましょう。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ７１～Ｐ８６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず図書館にある各種辞書類で調べてください。 【予習復習に必要な想定時間】 ２０分
	第７回	ボランティアにおける品位あるマナー　学校生活における品位あるマナー（中国古典、先達の言葉から考察） 【key words】 ボランティア　礼儀　あいさつ　学校生活　服装　環境美化活動 【授業概要】 私たちはボランティア先で、学ばせてもらう立場の者です。したがって、ボランティア先で失礼な言動や礼儀に欠けた行為をすることは断じて許されません。快く受け入れてもらい、お互いが気持ちよく作業するためのマナーをここでは学びます。また、学校生活におけるマナーについて考えて生きます。「親しき仲にも礼儀あり」ということわざが示すように、友人同士でもマナーは必要です。また先生に対する「礼」というのも重要です。友人や先生にどのように接するべきなのか考えてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】

		『咸有一徳』P87～P102 【課題・予習・復習・授業準備指示】 敬語の使い方を高校までに使用した便覧等を用いて復習しておくこと。講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず図書館にある各種辞書類で調べてください。 【予習復習に必要な想定時間】 ２０分
	第８回	咸有一徳の振り返り　芥川龍之介「桃太郎」を利用した道徳教育 【key words】 咸有一徳、儒学　仁 【授業概要】 前回までの学んだ内容を復習します。本学では建学の精神とのかかわりから、儒学を教科書『咸有一徳』を通じて学んでいます。教科書に出て来た「仁」を代表とするテクニカルターム（術語）を他者に説明できるようにしてください。次回以降、小中高における道徳について講義していきます。どのように道徳の授業準備をしていくべきなのか、芥川龍之介「桃太郎」を例に講義していきます。 【教科書ページ・参考文献】 最初～Ｐ１０２　芥川龍之介「桃太郎」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今まで扱った部分を読んでおくこと。青空文庫（https://www.aozora.gr.jp/）に収録されている芥川龍之介「桃太郎」を講義前までに必ず読み、紙にダウンロードしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第９回	小学校・中学校学習指導要領に示された「道徳」－各年代における位置づけ－、明治以降の教育界における道徳教育の変遷 【key words】 修身　道徳　学習指導要領 【授業概要】 この回より５週にわたり、学習指導要領に記されている「道徳」について考察していきます。戦後教育において「道徳」がどのように位置づけされてきたのか。また近代以降の日本の公教育の変遷について概説しますを考察していきます。 【教科書ページ・参考文献】 プリントを配布します。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 『学制百年史』（文部科学省のホームページに全文が掲載されています）から日本における公教育変遷の概略を理解しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第１０回	小学校・中学校における道徳課題について 【key words】 小学校学習指導要領　中学校学習指導要領　特別の教科　道徳 【授業概要】 小学校では平成３０年度から、中学校では平成３１年度から道徳教育の教科化が始まりました。小学･中学生にはどのような道徳的課題があるのでしょうか。また教師としてどのように日常生活で生徒に接するべきなのか考えてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領の中から関連部分を抜き出したプリントを配布します。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 その日のうちに、講義で触れた学習指導要領の部分を再度読み直し、意味を定着させてください。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第１１回	道徳課題に基づき指導案を作成してみる 【key words】 指導案作成　足袋の季節 【授業概要】 次回以降の模擬授業に備え指導案を作成してもらいます。指導案・模擬授業で使用する題材は、中学校「道徳」の教科書に必ず収録されている「足袋の季節」です。どのようにして生徒み多面的な発想をもたらし、また道徳心を育むか。グループに分かれ指導案を作成し、次週以降の模擬授業に備えてもらいます。 【教科書ページ・参考文献】 「足袋の季節」はプリントを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 『学習指導要領』の授業を進める際の注意点をよく読んでおくこと 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第１２回	模擬授業 【key words】 指導案　模擬授業　足袋の季節 【授業概要】 各班が作成した指導案に基づき「足袋の季節」の模擬授業をしてもらいます。模擬授業を見ている側にも、問題点の指摘や、参考になった点を発表してもらいます。発表･見学ともに積極的に参加して意見を出してもらいます。 【教科書ページ・参考文献】 前回配布済みの「足袋の季節」を持参してください。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各班で計画を立て練習をして、当日の発表に臨んでください。また発表の終えた班は訂正の上、次週提出をしてください。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第１３回	続模擬授業、総括（総括に基づき訂正の上、指導案を提出してもらいます） 【key words】

	指導案　模擬授業　足袋の季節 【授業概要】 前回に続き発表してもらいます。発表済みの班はこの日に訂正を加えた指導案を提出してもらいます。（この日、発表の版は次週に提出）指導案を作成したままでなく、見直し・訂正を加えた上で各班に提出してもらいます。 【教科書ページ・参考文献】 前回配布済みの「足袋の季節」を持参してください。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各班で計画を立て練習をして、当日の発表に臨んでください。また発表の終えた班は訂正の上、次週提出をしてください。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分 第１４回　夏目漱石『坊っちゃん』から、教師のありかたを考える 【key words】 夏目漱石　坊っちゃん　教師のあり方 【授業概要】 教師を題材とした文学作品で有名なものに夏目漱石の『坊っちゃん』が挙げられます。この作品は漱石自身の松山中学での教師生活が下敷きにあります。主人公の坊ちゃんが教師としてなぜ成功しなかったのか。クラス運営等を含め、作品の中から教師のあり方を探っていきます。 【教科書ページ・参考文献】 夏目漱石『坊ちゃん』（新潮文庫・岩波文庫等） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 『坊っちゃん』を授業が始まる前までに必ず読んでおくこと 【予習復習に必要な想定時間】 ２時間～４時間 第１５回　時事問題の考察・発表・解説（人としてのあり方・生き方を考える） 【key words】 時事問題 【授業概要】 最近の入社試験における時事問題は、答えのない時事問題を出す企業が増加しているようです。情報化社会において知りたい情報は直ぐに手に入りますが、手に入れた情報をどう分析し活用するかは、その人の思考力にかかっています。答えが一つでない問いに対し、どのように答えるか。時事問題について考察し提出してもらいます。 【教科書ページ・参考文献】 各自が一週間前後の新聞記事から、気になった話題を選んできてください。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 気になった新聞記事について、相手にどのようにわかりやすく発表するか。家で400字から600字でまとめてきてください。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間～２時間
受講生に関わる情報および受講のルール	・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。 ・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。注意をしてもやめない時は退室を命ずる。 ・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。 ・不明な用語に当たったら、辞典類で調べること。 ・臨機応変の対応ができるよう、15回の講義中に１人１分で発表をしてもらいます。 ・道徳に関する問題について、毎回受講生に議論と意見を表明してもらいます。道徳は他人の問題でなく、自分の問題です。また学生諸君に課題を出しますので積極的・能動的に取り組むこと。 ・シラバスは講義の進行状況によって変わることもある。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・講義に臨む前に、指定個所を必ず読んでおくこと。読んでいるという前提で講義を進める。 ・社会は人間相互の道徳心で成立していることを、新聞・ニュース等を契機として自分の頭で考えること。 ・１年生のうちに文庫本・親書100冊以上を読みこなすという気合を持つこと。
オフィスアワー	毎週火曜１４時～１６時
評価方法	期末試験７０％　課題１５％　発表１５％
教科書	鈴木利定・中田勝著『咸有一徳』修訂第３版、中央法規、2020年5月
参考書	『岩波哲学・思想事典』岩波書店、1998年3月『中国文化史大事典』大修館書店、2013年5月『中学校学習指導要領（平成29年告示）』『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　特別の教科 道徳編』『小学校学習指導要領（平成29年告示）』『小学校学習指導要領解説（平成29年告示）解説　特別の教科 道徳編』夏目漱石『坊っちゃん』（新潮文庫、岩波文庫等）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育

	■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 健康論　　授業コード：S1111

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
櫻井　秀雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 生涯を通じて健康で豊かな生活を送るため、自らの健康観に基づく取り組みを、地域社会の健康施策と連携し、健康生活を実現することを図る。特に、日常生活の心身のを通じて、健康を増進し疾病を予防する「一次予防」に焦点をあて、日常生活に取り入れられるよう、さまざまな工夫と方法を習得する。 【到達目標】 ①個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めることができる。 ②日常的に栄養･休養･運動を積極的に取り入れ、健康生活の向上を図ることができる。 ③生涯を通して自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てることができる。
授業の概要	健康の意義、疾病やその対処法、心の健康とその保持、社会と健康の関わり、健康の自己管理、体力つくりの方法、運動の持つ文化性、食と健康との関わりについて学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　健康を考える（意識、意義、人間の幸福） 【key words】 WHOの健康の定義 【授業概要】 シラバスの説明、「健康」を考えるをテーマに、健康の社会的マネジメント（健康を社会問題として考える、健康マネジメント施策の歴史と展開、ヘルスプロモーション）を学び、健康を考えることの大切さを習得する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：「大学生のための健康論」　一健康･運動･スポーツの基礎知識一　ｐ1-7 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「ヘルスマネジメント」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	ヘルスマネジメント論（我が国の動向、健康の個人的マネジメント） 【key words】 健康政策　健康管理 【授業概要】 わが国の動向（健康づくり政策、健康増進政策と個人の身体運動との関わり）、健康の個人的マネジメント（運動不足を生む現代的背景、健康と運動、“運動不足病”の始まり、分銅不足がもたらすもの、健康をつくるということ）を学び、健康管理の大切さを習得する。 【教科書ページ・参考文献】

教科書：「大学生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー　　p 8-p22
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「生活習慣」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　疾病予防論（生活習慣病）
【key words】
疾病　生活習慣

【授業概要】
生活習慣病（がん、循環器疾患、高血圧、心血管疾患、脳血管疾患、糖尿病、高脂血症、生活習慣病を予防するライフスタイル：運動、栄養、喫煙、飲酒、休養、・睡眠など）について学び、、日常生活で予測される疾病を取り上げ、その対処方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：　「大学生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー　　p 23-p34
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「感染症」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　疾病予防論（感染症）
【key words】
疾病　感染症

【授業概要】
感染症（近年の感染症の動向と感染症の発症要因、主な感染症とその対策、かぜ、とインフルエンザ、結核、ＨＩＶ，ＡＩＤＳ、感染経路、話題になった感染症）、について学び、日常生活で予測される疾病を取り上げ、その対処方法について習得する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：「「大学生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー　　p 35-p43
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「メンタルヘルス」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　メンタルヘルス論（精神の正常と異常、心身相関、精神障がいの分類）
【key words】
精神衛生　健康管理

【授業概要】
精神の正常と異常（健康と病気、正常と異常、事例性）、心身相関（心身相関の問題、脳と精神現象、精神心理学、ニューロンと精神伝達物質）、精神障害の分類（伝統分類、操作的分類）について学び、心の健康とその保持を習得する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：「大学生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー　　p 44-p52
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「青年期の心性と身体」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　メンタルヘルス論（青年期の身体と心性、青年期に多い精神障がいとその治療）
【key words】
精神衛生　健康管理

【授業概要】
青年期の身体と心性（青年期の身体変化、青年期の心性）、青年期に多い精神障害とその治療（青年期の主な精神障害、疾病分類以外の視点からの状態像分類）、精神の健康増進と予防（キャンパス内、大学保健管理センター）について学び、心の健康とその保持について習得する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：「大学生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー　　p 53-p70
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「体力」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　体力論（体力、体力診断、青少年の体力、青少年の体力、加齢と体力）
【key words】
体力

【授業概要】
体力となにか（体力の概念、体力の分類、体力と健康とのかかわり）、体力診断（意義、歴史、新体力テストの概要）、青少年の体力（発育・発達と体力、体力の性差、体力の年次変化、運動

		習慣と体力）、加齢と体力（加齢の影響、加齢と体力の個人差、暦年齢と体力年齢）を学び、体力の把握とその増進方法を習得する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：「大学生のための健康論」　一健康･運動･スポーツの基礎知識ー　　p 71-p96 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「運動のプログラム」など経験したことをまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第８回	運動プログラム論（身体運動プログラムの考え方、運動の実際） 【key words】 運動プログラム 【授業概要】 運動プログラムの考え方（意義、効果的な運動、プロセス、運動プログラムの自由度、運動の自覚的効果）、運動処方の実際（心肺機能を高める運動、筋力と筋持久力を高める運動）、運動処方の現実と課題を学び、具体的な体力増進のための方法を習得する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：「大学生のための健康論」　一健康･運動･スポーツの基礎知識ー　　p 97-p114 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「スポーツと健康」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第９回	スポーツと健康論（スポーツと寿命、スポーツとスキル、運動スキルの学習） 【key words】 運動　スキル 【授業概要】 スポーツと健康をテーマに、スポーツと寿命（アスリートの寿命、運動と寿命）、スポーツとスキル（アスリートのスキル、スキルの個人差）、運動スキルの学習（運動スキルの学習と転移、ゴールデンエイジとシナプスの可塑性、運動システムとミラーシステム）を学び、個々の健康つくりにスポーツの大切さと応用方法を習得する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：「大学生のための健康論」　一健康･運動･スポーツの基礎知識ー　　p 115-p132 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「運動文化」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１０回	運動文化論（身体運動と文化、運動･スポーツの文化と思想、現代のスポーツ･身体運動） 【key words】 運動　文化 【授業概要】 身体運動と文化（身体運動に対する視線、今日の健康ブームと身体観）、運動・スポーツの文化と思想（古代ギリシャ・ローマ時代の身体運動文化、中世・近世の身体文化、西洋の身体運動文化、日本における身体運動文化、中東の身体運動文化）、現代のスポーツ・身体運動（文化としてのスポーツ・身体運動、レジャーとしてのスポーツ）について学び、運動の持つ文化性に着目し運動の意味を習得する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：「大学生のための健康論」　一健康･運動･スポーツの基礎知識ー p 133～143 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「生涯スポーツ」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１１回	生涯スポーツ論（スポーツ行政と地域スポーツ） 【key words】 スポーツ基本法　総合型スポーツクラブ 【授業概要】 生涯スポーツと健康生活の推進について、スポーツ基本法の生涯スポーツ振興施策で、種目の多様性、多世代、指導者、会員が集う拠点施設、自主的運営を掲げ、地域に根ざした自主的運営型・複合型スポーツクラブとして「総合型地域スポーツクラブ」を推進していることを学び、これからの健康つくりに地域住民が主体的に運営する生涯スポーツクラブの推進が重要であることを習得する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：（資料）スポーツ基本法　総合型地域スポーツクラブ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「職と健康」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１２回	食の健康論（食生活の推移、各栄養素の役割、ＰＦＣバランスと健康、スポーツと運動） 【key words】 食　食育　健康　スポーツ 【授業概要】 日本人の食生活推移（食生活の変遷、食品群別摂取量の年次推移、エネルギー産生栄養素の年次推移、食料自給率、和食文化）、各栄養素の役割、食に関する日本の政策（食事摂取基準、食生活指針、食事バランスガイド、日本人の長寿を支える「健康な食事」のあり方）、ＰＦＣバラン

	スと健康（日本型食生活、ＰＦＣバランスと減量効果、糖質制限と健康）、スポーツと栄養（栄養摂取とリカバリー、運動パフォーマンスと栄養摂取）を学び、食生活のスポーツとの関連を習得する 【教科書ページ・参考文献】 教科書：「大学生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ーｐ149～169 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「職と健康」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１３回　健康つくりと運動（ラジオ体操・みんなの体操の基礎理論と実践） 【key words】 身体運動　リズム　健康 【授業概要】 ラジオ体操皆の体操の基礎理論と実践を通じて、身体運動の正しい動きの仕組み、運動の組み合わせと実施方法、運動中の留意点等を学び、ラジオ体操・皆の体操の理解と指導方法を習得する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：（資料）参考文献:　ラジオ体操教則本　日本郵政公社　日本ラジオ体操連盟 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「ラジオ体操」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１４回　健康つくりと運動（ラジオ体操・みんなの体操の応用理論と実践） 【key words】 身体運動　リズム　健康 【授業概要】 ラジオ体操・みんな体操の応用理論と実践を通じて、身体運動の正しい動きの仕組み、運動の組み合わせと実施方法、運動中の留意点等を学び、ラジオ体操・みんなの体操の理解と指導方法を習得する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：（資料）参考文献:　ラジオ体操教則本　日本郵政公社　日本ラジオ体操連盟 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「ラジオ体操、みんなの体操」についてまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　まとめ 【key words】 健康　運動　栄養　休養 【授業概要】 現代の健康つくりに係わる様々な問題を取り上げ、現在あるいは未来に向かって生きていくためにどのように考えていけばよいのか質疑応答をおこなう。個々の健康つくりについて自己評価をおこなう。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：「大学生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー　ｐ176-p183 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分自身の健康つくりについてまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	コメントカードを使用
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	新聞、ニュースなどで最新の健康情報に関することはメモをしておくなど、特に意識するよう習慣づけること。
授業外時間にかかわる情報	講義の初日に周知する　　他の時間の希望時は随時相談。
オフィスアワー	筆記試験（70%）　日常の健康管理や授業への取り組みなどの平常点（30%）　総合評価で60%以上
評価方法	電気通信大学健康・スポーツ科学部会編：　大学生のための「健康」論　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー：　道和書院：　2018
教科書	健康・体力つくり財団：「健康日本21」　2010
参考書	笹川スポーツ財団：「スポーツ白書」2018
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 公立学校教員（保健体育）21年管理職6年、群馬県教育委員会指導部体育課指導主事（学校体育、生涯スポーツ指導）4年、群馬県スポーツ振興事業団健康スポーツ課指導主事（県内市町村の健康スポーツ普及指導）群馬県教育委員会スポーツ振興課課長補佐（県内市町村の健康スポーツ指導）2年、群馬県知事部局（障害福祉・社会福祉・保健福祉）、群馬県社会福祉事業団、群馬県立ふれあいスポーツプラザ次長・指導課長5年（高齢者・障がい者の健康・スポーツ指導に当たる）群馬県教育委員会教育長表彰（保健体育）群馬県障がい者スポーツ指導者協議会会長（現在）

	アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： スポーツ及びレクリエーション実技　　授業コード：S1121　S1122

英文科目名称： Sports and RecreationPractical Skill Training

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(60)	必修
担当教員			
田口　敦彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	「授業の目的」レクリエーションプログラムの習得と企画や運営、指導技術を身につける。学びを通して、ゲームや歌、集団遊び、スポーツといったアクティビティを効果的に活用し、福祉施設、病院、学校教育の現場等で対象者や目的に合わせた支援活動できるようになることを目的とする。 [到達目標] 1.福祉分野や教育分野などで、高齢者や子どもなどの対象者の心の元気づくりの手助けをすることができる。 2.1 対1、1 対集団といった場面で、コミュニケーションを促進する力を身につけている 3.既存のアクティビティを、対象に合ったアクティビティへとアレンジする力を身につけている 4.対象者の主体性や協調性を引き出す力を身につけている 5.福祉施設や保育や学校教育など、現場に応じたレクリエーションプログラムを企画・展開する力を身につけている
授業の概要	レクリエーションの楽しさを知り、ゲームや歌、集団遊び、スポーツといったアクティビティを効果的に活用したレクリエーション支援の技術を習得する。そのための指導理論、組織論、事業論などの学習を通じ、支援者(指導者)としての実践力を高める。レクリエーションインストラクター資格取得のための科目である。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	◎
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	○
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション・レクリエーションの理解 【key words】 レクリエーション 【授業概要】 余暇活動におけるレクリエーション援助の役割を理解する。さらに基本的人権としてレクリエーション活動が位置づけられていることも同時に学ぶ指定体育着、体育館シューズを着用し装飾品や爪など活動時に支障とならないようにすること。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P4～8 学習課題の概要を確認しておくこと 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｱｲｽﾌﾞﾚｰｷﾝｸﾞとして相応しい材料を検討しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第２回	レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション活動の習得 レクリエーション支援のためのゲーム 【key words】 アイスブレーキング 【授業概要】 集団の雰囲気を和らげ、無理なく、無駄なく、快く活動が進められるようなアイスブレーキングを実践し、その効果を理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P66

【課題・予習・復習・授業準備指示】
コミュニケーションゲームを実践したが、どのような効果があったのか確認しておくこと。次回は室内でできるレクリエーションを実践するがどのような活動があるか考えておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション支援のためのゲーム対象に合わせたアレンジ方法①
【key words】
アレンジ
【授業概要】
対象にあわせたレクリエーション・ワークの全体像を理解する。あわせて「環境の設定」についてその用法を学ぶ。様々な「アレンジ」手法を知るとともに、基本となる「段階的なアレンジ法」を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P74
【課題・予習・復習・授業準備指示】
素材・アクティビティの中から段階的なアレンジ法を活用したアレンジに取り組んでみる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　レクリエーション支援の方法　自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法　段階的に成功体験をしやすくするアレンジの基本と応用
【key words】
アレンジの方法

【授業概要】
アレンジ例を通してもともとの素材・アクティビティを最初の段階と位置付け、それを楽しむことで個人と集団の土台に、効力感を高めやすい付け足していくという原則を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P74
【課題・予習・復習・授業準備指示】
アレンジ方法を用いて中高年向けの健康体操などをアレンジしてみる。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第５回　レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション活動の習得　レクリエーション支援のための歌
【key words】
アイスブレイク　集団ゲーム　　歌
【授業概要】
室内でできるレクリエーションゲーム実践する。歌を歌いながら体を動かす支援の方法及び２重課題について理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
対象者にとって快適な遊びの提供とは何かを考えておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション支援のための様々な活動　新聞紙を使ったレクリエーションゲーム(実践)
【key words】
アイスブレイク　集団ゲーム
【授業概要】
新聞紙を使った遊びについて理解する。新聞紙を使用するだけで様々なゲーム　遊びができることを確認する。子どもから高齢者まで楽しめるアクティビティについて知る。
【教科書ページ・参考文献】
参考書P162～206
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分にはどんなレクリエーションが提供できるか考えておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-1（制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践）
【key words】
レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング

【授業概要】
レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第８回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-2（制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践）
【key words】
レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング

【授業概要】
レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。
【教科書ページ・参考文献】
参考書P162～206
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第９回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-3　(企画案の評価及び好評)
【key words】
レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング
【授業概要】
レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。
【教科書ページ・参考文献】
参考書P162～206
【課題・予習・復習・授業準備指示】
反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション支援のための様々な活動
【key words】
アレンジ　キンボール
【授業概要】
対象者にあわせたレクリエーション・ワークの全体像を理解する。様々なアレンジの手法を知ると共に、基本となる「段階的なアレンジ法」を体験して理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回も同様の活動を行うので競技ルールの確認を行っておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション支援のための様々な活動
【key words】
アレンジ　キンボール
【授業概要】
対象者にあわせたレクリエーション・ワークの全体像を理解する。様々なアレンジの手法を知ると共に、基本となる「段階的なアレンジ法」を体験して理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回も同様の活動を行うので競技ルールの確認を行っておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-1（制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践）
【key words】
レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング

【授業概要】
レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。

【教科書ページ・参考文献】
参考書P162～206
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第１３回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-2（制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践）
【key words】
レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング
【授業概要】
レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。
【教科書ページ・参考文献】
参考書P162～206
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第１４回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-3　(企画案の評価及び好評)
【key words】
レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング
【授業概要】
レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。

【教科書ページ・参考文献】
参考書P162～206
【課題・予習・復習・授業準備指示】
反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１５回　前期の振り返り　まとめ
【key words】
レクリエーション支援
【授業概要】
前期の授業の振り返りとレポートについての確認を行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
前期レポート指示を確認し振り返りを行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１６回　レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション支援のための歌
【key words】
リズム、地域文化伝承、地域貢献
【授業概要】
前橋だんべえ踊りについて実践する。基本、サンバ、ファンク等のバージョンの一連の流れの確認と地域のおける文化伝承、お祭り、行事等のレクリエーションについて理解を深める。リズムと心の高揚の効果について理解する
【教科書ページ・参考文献】
参考書P25
【課題・予習・復習・授業準備指示】
積極的な参加を心がけること
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１７回　レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション支援のための歌
【key words】
リズム、地域文化伝承、地域貢献
【授業概要】
前橋だんべえ踊りについて実践する。基本、サンバ、ファンク等のバージョンの一連の流れの確認と地域のおける文化伝承、お祭り、行事等のレクリエーションについて理解を深める。リズムと心の高揚の効果について理解する
【教科書ページ・参考文献】
参考書P25
【課題・予習・復習・授業準備指示】
積極的な参加を心がけること
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１８回　レクリエーション支援の方法　信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ　①あたたかくもてなすという意識と配慮
【key words】
ホスピタリティ、コミュニケーションワーク
【授業概要】
レクリエーションの提供を効果的に行うためには、対象者との良好なコミュニケーションが欠かせないことを理解する必要がある。そのためのホスピタリティについて学習する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P58
【課題・予習・復習・授業準備指示】
日常の生活の中でホスピタリティについて意識してみる。そこから良好なコミュニケーションの取り方を実践してみる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１９回　レクリエーション支援の方法　信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ　②対象者の気持ちを受け止めていることを伝える技術
【key words】
ラポート　ジョイニング　トラッキング　アコモデーション　マイム
【授業概要】
対象者との良好なコミュニケーションをとるために信頼関係を成立させる必要性やそのための技法をについて理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P62
【課題・予習・復習・授業準備指示】
日常生活の会話の中で信頼関係が築かれている状態とはどのようなものか。ラポートの成立している状態等について意識してみる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２０回　レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション支援のための様々な活動
【key words】
ユニバーサルホッケー
【授業概要】
ユニバーサルホッケーはいつでも・どこでも・誰でも楽しめるスポーツとして愛好されること知る。このスポーツは、安全生が高く、年齢・性別を越えて幅広くプレイできるのが特徴を理解しながら実践活動を進める。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回も同様の活動を行うので競技ルールの確認を行っておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２１回　レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション支援のための様々な活動
【key words】
ユニバーサルホッケー
【授業概要】
ユニバーサルホッケーはいつでも・どこでも・誰でも楽しめるスポーツとして愛好されること知る。このスポーツは、安全生が高く、年齢・性別を越えて幅広くプレイできるのが特徴を理解しながら実践活動を進める。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
対象者が快適に楽しめる工夫について検討しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２２回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-1（制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践）
【key words】
レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング
【授業概要】
レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。
【教科書ページ・参考文献】
参考書P162～206
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第２３回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-2（制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践）
【key words】
レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング

【授業概要】
レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。
【教科書ページ・参考文献】
参考書P162～206
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第２４回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-3　（企画案の評価及び好評）
【key words】

レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング

【授業概要】
レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P162～206
【課題・予習・復習・授業準備指示】
反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２５回　レクリエーション支援の方法　良好な集団作りの方法・アイスブレーキング　集団がまとまる仕組みを活かすプログラム　アイスブレーキングモデル
【key words】
よりより生の実現
【授業概要】
レクリエーション支援の目的が対象者のよりよい生の実現につながることを理解する。目的に合わせて、レクリエーション支援を展開するイメージを確認する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P70　参考書P274
【課題・予習・復習・授業準備指示】
CASE STUDY の事例を確認しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２６回　レクリエーション支援の方法　自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法　対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技法の活用方法（CSSプロセス）
【key words】
素材・アクティビティ、ハードル設定、CSSプロセス

【授業概要】
支援者の願い＝対象者の生活課題の充実に向けて、様々な支援の「素材・アクティビティ」を選択し、展開していく際の原則的な考え方を理解する。併せて、実際の選択時に参考できる既存の

	「素材・アクティビティ」の分類方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P78　参考書　P278～P287 【課題・予習・復習・授業準備指示】 目的に合わせたレクリエーションワークを構成する3つの技術について確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２７回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-1（制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践） 【key words】 レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング 【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間 第２８回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-2（制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践） 【key words】 レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング 【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間 第２９回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-3　（企画案の評価及び好評） 【key words】 レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング 【授業概要】 レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第３０回　1年間の振り返り　まとめ 【key words】 レクリエーション支援 【授業概要】 1年の授業の振り返りとテストについての確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】 試験に向けて配付したプリントを確認しておくこと 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	・レクリエーション活動(実技)を行う場合は、指定体育着、体育館シューズを着用すること。 ・装飾品や爪など活動時に支障とならないようにすること。 ・積極的に授業に取り組むこと。また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること ・実技活動、グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。 ・遠隔授業にて受講する場合はにはカメラ機能をオンにすること。通信環境により実施できない場合は申し出ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・日頃からレクリエーションに関する情報を新聞、雑誌、テレビ　インターネット等で収集するよう心がけること。 ・地域で行われているレクリエーション活動に積極的に参加すること。
オフィスアワー	月曜日　5時限　（変更時は掲示する）
評価方法	評価の基準：到達目標の達成度を評価する。 評価の方法：筆記試験50%　ﾚﾎﾟｰﾄ等提出物(活動企画書)20%　実技30%　として総合的に評価す

	る。
教科書	楽しさをとおした心の元気づくり　レクリエーション支援の理論と方法 (財)日本レクリエーション協会
参考書	必要に応じて紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 地域においてスポーツ活動指導の経験あり アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　情報処理演習　　授業コード：S1132　S1134

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(60)	必修
担当教員			
藤本　壱			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 演習を中心として、情報リテラシーの理解や情報利活用能力を高め、レポート・論文の作成やプレゼンテーション、データ分析などに生かせるようにすることを目的とする 【到達目標】 ①パソコンの基本的な操作を理解する ②基本的な情報の利活用（収集・分析など）ができる ③Microsoft Wordでレポート等の文章を作成できる ④P検3級の試験を受験できる ④Microsoft Excelでデータの集計や分析を行うことができる ⑤Microsoft PowerPointでプレゼンテーションができる ⑥情報セキュリティや情報モラルについて正しく理解できる
授業の概要	授業を通し、情報リテラシーを理解し、情報利活用能力を高め、レポート・論文などの各種の文書を作成したり、基本的なデータ分析を行ったり、プレゼンテーションを行ったりすることができるようになることを目標とする。 また、パソコン検定の「P検」の3級レベルを受験できる程度の知識と技能を得られうようにする

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	△
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回　オリエンテーション、パソコンの基本操作 【key words】 情報リテラシー、パソコンの基本 【授業概要】 情報リテラシーの必要性や、情報処理とパソコンの関係などを学習する ・講義のオリエンテーション ・情報リテラシーの必要性 ・情報を利活用する上でのパソコンの役割 ・パソコンの基本操作（キーボードの使い方など） 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・情報リテラシーの基本を復習する ・キーボード入力を練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２回　情報の収集と利用 【key words】 インターネット、検索、図書館 【授業概要】 レポート作成などの元となる情報の収集や利用の方法を学習する ・主な情報源(新聞、書籍、インターネット、etc) ・インターネットの仕組み

・ホームページの検索(Google)
・インターネットの主な情報源(統計データ、WikiPediaなど)
・図書館の蔵書の検索
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・ホームページで各種の情報を検索する
・図書館で必要な蔵書を検索する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　レポート・論文の作成(1)
【key words】
レポート、論文
【授業概要】
レポートや論文を作る基本的な流れを学習する
・レポート・論文の基本(作文との違いなど)
・レポートの構成の立て方(アウトラインを作ってから詳細に進む)
・Wordでの文書作成の基本
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テーマを立ててレポートの構成を考え、それをWordで入力する練習をする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　レポート・論文の作成(2)
【key words】
書式、構成
【授業概要】
レポートや論文を構成する各種の項目と、それをWordで作成する手順を学習する
・基本的な書式の設定(ページ書式、文字書式、段落書式)
・文書の構成を整える(箇条書きなど)
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
適切な書式設定を行い、読みやすいレポートを作成する練習をする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　情報の分析や可視化(1)
【key words】
Excel、表、分析、可視化
【授業概要】
情報の分析・可視化のツールとなるExcelの基本を学習する
・情報の分析・可視化とExcelの関係
・Excelでの情報管理の基本(データの入力・整理など)
・Excelでの基本的な書式設定
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
Excelで情報を管理する練習をする(各種のデータの入力や整理など)
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　プレゼンテーション(1)
【key words】
プレゼンテーション、PowerPoint
【授業概要】
プレゼンテーションの一連の流れや、資料作成の基本について学習する
・プレゼンテーションの流れ(準備作業、資料作成、発表など)
・資料作成前の準備(データ収集、構成の検討、会場設備の確認など)
・PowerPointでの資料作成の基本(スライド作成、書式設定など)
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
プレゼンテーションのテーマを立てて、実際にプレゼンテーションすることを想定して準備作業などを行う練習をする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　レポート・論文の作成(3)
【key words】
表
【授業概要】
レポートや論文の中で表を使って情報をまとめる場面は多いので、表の作り方を学数する
・表の作成とデータ入力
・表の操作（行／列の挿入、削除、コピー、セルの結合など操作)
・表の書式設定(罫線、網掛け、文字配置など)
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
表を作る練習をしてWordやPowerPointでレポートや論文を作る際に活用する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　レポート・論文の作成(4)
【key words】

		図形、写真、ワードアート、スマートアート 【授業概要】 レポートや論文に図や写真を入れる場面も多いので、それらの扱い方を学習する ・図形の挿入と書式設定 ・図や写真の挿入 ・図等のレイアウト ・ワードアート(特殊なレイアウトの文字の並び)の挿入 ・スマートアート(よく使いそうな図)の挿入 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 図形や写真を含む文書を作る練習をしてレポートや論文を作る際に活用する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第９回	レポート・論文の作成(5) 【key words】 改ページ、表紙、ヘッダー、フッター、スタイル、目次 【授業概要】 レポートや論文を仕上げる際に行う作業について学習する ・レポートの推敲(文章を読み直す、誤字脱字のチェック、不備がないかどうかのチェックなど) ・改ページの挿入 ・ヘッダー(上余白)とフッター(下余白)の利用 ・スタイル(書式の組み合わせ)の利用と設定 ・目次の作成 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 レポートを美しく仕上げる練習をする 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１０回	情報の分析や可視化(2) 【key words】 棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ 【授業概要】 多くの情報をグラフで可視化する方法を学習する ・棒グラフの作成 ・グラフ要素の追加軸ラベル、データラベルなど）と書式設定 ・折線、円グラフの作成 ・複合グラフの作成 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グラフの作成を練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１１回	情報の分析や可視化(3) 【key words】 計算、集計、分析 【授業概要】 多くの情報を分析する際の基本となる計算や関数の使い方を学ぶ ・Excelでの計算の基本 ・データの集計(合計、最大値、最小値など) ・データ分析の基本(平均、標準偏差など) 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 数式や関数を使った計算を練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１２回	プレゼンテーション(2) 【key words】 アニメーション、動画 【授業概要】 聞き手にとって分かりやすいプレゼンテーションを行うための手法や、それをPowerPointで実現する手順を学ぶ ・動きのあるプレゼンテーションの作成(アニメーション、画面切り替え) ・プレゼンテーション内での動画や音声の利用 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 動きのあるプレゼンテーションを作れるように練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１３回	プレゼンテーション(3) 【key words】 発表、練習、アフターフォロー 【授業概要】 プレゼンテーション直前、当日、そして終了後に行うことや、それらに関するPowerPointの機能を学習する ・プレゼンテーション前の準備(発表の練習、発表時間の測定と発表内容の調整など) ・プレゼンテーションでの話し方(視線誘導、ジェスチャーなど) ・アフターフォロー(プレゼンテーション後の資料の配布など) 【教科書ページ・参考文献】

スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実際のプレゼンテーションを行えるように練習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１４回　文書等の活用と管理
【key words】
コピー、貼り付け、ドライブ、フォルダ、ファイル
【授業概要】
レポートや論文を作る際に、アプリケーション間でデータをコピーしたりなど、各種の作業が必要となるので、それらについて学習する
・アプリケーション間のコピーと貼り付け
・ドライブ／フォルダ／ファイルの概念
・フォルダ／ファイルの操作（コピー、移動、削除など）
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
アプリケーション間のデータのやり取りを練習する
ファイル操作に慣れる
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１５回　情報セキュリティ・情報モラルと課題説明・作成
【key words】
情報セキュリティ、情報モラル、課題
【授業概要】
情報を利活用する上で知っておくべき情報セキュリティや情報モラルを学習する
また、課題の作成も行う
・情報セキュリティ
・情報モラル
・課題内容の説明
・課題作成実習
・課題を作成して期限までに提出
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
情報セキュリティに留意し、ウィルス感染などの被害を受けないようにする
情報モラルを守り、他の人に迷惑をかけないようにする
課題を作成して期限までに提出する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１６回　レポート・論文の作成(6)
【key words】
脚注、図表番号、テンプレート
【授業概要】
レポートや論文を作る上で便利な機能を学習する
・脚注の設定(ページ末尾の脚注、文末脚注)
・図表番号の設定(図表番号の入力、図表番号の参照)
・テンプレートの作成
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
レポートを作る際に目次や脚注等の機能を利用する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１７回　レポート・論文の作成(7)
【key words】
セクション、ブックマーク、相互参照、引用文献
【授業概要】
レポートや論文を作る上で便利な機能を学習する
・段組みの設定(2段組み等)
・セクションで文章を複数のブロックに区切る
・ブックマーク(文章内に付ける目印)の挿入
・相互参照(ブックマークの位置のページ番号等の情報を挿入する)
・引用文献の挿入
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
長文作成の際にブックマークや相互参照を活用する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１８回　情報の分析や可視化(4)
【key words】
スパークライン、条件付き書式
【授業概要】
Excelで情報を可視化する方法を学習する
・スパークラインの作成
・条件付き書式の設定
・各種の条件付き書式（データバー、カラーバー、アイコンセット）
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
スパークラインや条件付き書式を活用してデータを見やすくする
【予習復習に必要な想定時間】

30分

第１９回　情報の分析や可視化(5)

【key words】
データベース、並べ替え、抽出、ピボットテーブル
【授業概要】
多くのデータを元に分析を行う方法を学習する
・データベース用のデータ入力
・データの並べ替え
・データの抽出
・ピボットテーブルを使った集計
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
アンケートなどのデータを整理する際にExcelを活用する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２０回　情報の分析や可視化(6)

【key words】
相対参照、絶対参照、関数
【授業概要】
情報の分析の際に必要な各種の計算方法を学習する
・相対参照と絶対参照
・順位(RANK関数)
・複合条件(AND関数／OR関数)
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
Excelで複雑な計算を行う際にこの回で行ったことを利用する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２１回　情報の分析や可視化(7)

【key words】
名前、関数
【授業概要】
情報の分析の際に必要な各種の計算方法を学習する
・セルに名前を付けて数式で利用する
・セルにふりがなを表示する
・日付に関する関数
・文字列に関する関数
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
名前機能や各種の関数の使い方を理解する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２２回　情報の分析や可視化(8)

【key words】
ワークシート、インポート、マクロ
【授業概要】
情報の分析などの際に必要な各種の機能を学習する
・複数のワークシートを使う
・データのインポート
・マクロの基本
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
名前機能や各種の関数の使い方を理解する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２３回　文書の共同作成

【key words】
Googleドキュメント、Googleスプレッドシート
【授業概要】
複数の人で共同して文書を作る方法を学習する
・Googleドキュメントの利用
・Googleスプレッドシートの利用
・文書の共有と同時編集
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
Googleドキュメントなどを使って文書を共同で編集できるようになる
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２４回　コンピュータの仕組み(1)

【key words】
CPU、入力装置、出力装置
【授業概要】
コンピュータを構成する要素を理解する
・中央演算処理装置(CPU)
・入力装置
・出力装置
【教科書ページ・参考文献】

スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
コンピュータの各種構成要素について復習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２５回　コンピュータの仕組み(2)
【key words】
記憶装置、ハードディスク
【授業概要】
コンピュータを構成する要素を理解する
・主記憶装置と補助記憶装置
・ハードディスク
・CD／DVD／Blu-ray
・メモリカード／USBメモリ
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各種の記憶装置について復習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２６回　コンピュータの仕組み(3)
【key words】
バイト、アナログ、デジタル
【授業概要】
情報をコンピュータで扱う仕組みを理解する
・情報の量の単位
・アナログとデジタルの相互変換
・2進数と10進数
・ファイルの種類と拡張子
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
報をコンピュータで扱う仕組みを復習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２７回　コンピュータの仕組み(4)
【key words】
デジタル化、圧縮、データベース
【授業概要】
各種のデータをデジタル化する仕組みを理解する
・文字のデータ化（文字コードなど）
・画像のデータ化
・音声のデータ化
・動画のデータ化
・データベース
・プログラムとフローチャート
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
データをデジタル化する仕組みを復習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２８回　情報通信とネットワーク(1)
【key words】
LAN、インターネット
【授業概要】
情報通信やネットワークの基本を理解する
・情報通信システムの基本
・LANの仕組みや必要な機器
・インターネットへの接続
・情報通信システムの利用料金

【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
情報通信やネットワークの基本を復習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２９回　情報通信とネットワーク(2)
【key words】
ホームページ、メール
【授業概要】
ホームページの配信やメールの送受信の仕組みを理解する
・ホームページの配信の仕組み
・ホームページのアドレス（URL）
・ホームページの作成方法
・ホームページを活用した各種のシステム
・メール送受信の仕組み
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
繰り返しや条件判断を使ったプログラムを作ってみる
【予習復習に必要な想定時間】

	30分 第３０回　トラブルと対処 【key words】 トラブル 【授業概要】 コンピュータでトラブルが起こった時の対処を理解する ・ハードウェアのトラブルへの対処 ・アプリのトラブルへの対処 ・ネットワークのトラブルへの対処 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 トラブルが起こってもあわてないようにする 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	[受講生に関わる情報]　配布資料は当授業のホームページから各自ダウンロードすること。 [受講のルール] 積極的に授業に臨むこと。 演習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	配布資料を使って復習する
オフィスアワー	授業前後20分
評価方法	・前期 レポート課題による評価 レポートとしてのまとまり(30%)、Wordの各種機能の活用度(50%)、Excelの各種機能の活用度(20%) ・後期 レポート課題（30%） 筆記試験（70%）
教科書	繰り返して慣れる!完全マスターWord　Office365・Office2019対応、NOA出版 繰り返して慣れる!完全マスターExcel　Office365・Office2019対応、NOA出版 ドリルでマスター!PowerPoint&プレゼンテーション、NOA出版
参考書	なし
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 Office関連雑誌原稿執筆多数 パソコン関連書籍執筆多数 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 その他の具体的内容 授業を毎回録画してYouTubeで配布

講義科目名称： 英語Ⅰ　　授業コード：S1151　S1152　S1154

英文科目名称： English Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期(社福①・社福②・子ども)	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
戸塚　泰聖			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	・英語４技能の能力を高め、英語検定２級（準２級）合格レベルの力をつける。
授業の概要	・単語力をつけるため毎回豆テストを実施する。 ・身近な話題について英語でのコミュニケーションができるよう、ペアでの対話練習を通してスピーキング力をつける。 ・英語検定のテキストの長文読解問題を利用し、リーディング力をつける。（要予習） ・英語検定のテキストのリスニング問題を利用し、リスニング力をつける。 ・英語検定のテキストのライティング問題等を利用し、ライティング力をつける。 ・英字新聞記事等を利用し、４技能向上のための学習を行う。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	△
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　科目オリエンテーション 【key words】 英語検定２級 英字新聞 ４技能 Self-introduction 【授業概要】 ・英語を学習する意味について考えを深める。 ・講座の進め方・評価方法・予習復習等についての指示 ・Self-introductionをしてもらう。 ・英文読解方法の説明 ・英検２級の説明 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 １９年度第２回筆記　(A)Trouble with Transporting予習プリント 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第２回　Trouble with Transporting 【key words】 Transportation 【授業概要】 ・Pair conversation ・リーディング力養成　英文読解（Trouble with Transporting） ・リスニング力養成　リスニング問題　ディクテーション ・ライティング力養成

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１９年度第２回筆記　p.22-23
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１９年度第２回筆記　(B)The Return of Whales予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第３回　The Return of Whales

【key words】
Whale
Conservation

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（The Return of Whales）
・リスニング力養成　リスニング問題
・英字新聞読解

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１９年度第２回筆記　p.24-25
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１９年度第２回筆記　　Childcare service 予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第４回　Childcare service

【key words】
Childcare service
E-mail

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（Childcare service）
・リスニング力養成　リスニング問題
・ライティング力養成

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１９年度第２回筆記　p.26-27
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１９年度第２回筆記　３(B)Generations Helping Each Other 1予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第５回　Generations Helping Each Other 1

【key words】
Generation
Retirement home

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（Generations Helping Each Other 1）
・リスニング力養成　リスニング問題
・英字新聞読解

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１９年度第２回筆記　p.28-29
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１９年度第２回筆記　３(B)Generations Helping Each Other ２予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第６回　Generations Helping Each Other ２

【key words】
Volunteer
Loneliness

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（Generations Helping Each Other 2）
・リスニング力養成　リスニング問題
・ライティング力養成

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１９年度第２回筆記　p.28-29
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１９年度第２回筆記　３(C)Smart Stickers 1予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第７回　Smart Stickers 1

【key words】
Patient
Electronic device

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（Smart Stickers 1）
・リスニング力養成　リスニング問題
・英字新聞読解

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１９年度第２回筆記　p.30-31
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１９年度第２回筆記　３(C)Smart Stickers 2予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第８回　Smart Stickers 2

【key words】
Computer
Electronic sticker

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（Smart Stickers 2）
・リスニング力養成　リスニング問題
・英字新聞読解

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１９年度第２回筆記　p.30-31
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１９年度第1回筆記　2(A)The Mysteries of Amber予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第９回　The Mysteries of Amber

【key words】
Amber
Jewelry
Fossil

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（The Mysteries of Amber）
・リスニング力養成　リスニング問題
・ライティング力養成

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１９年度第１回筆記　p.48-49
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１９年度第1回筆記　2(B)Changing Slums予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１０回　Changing Slums

【key words】
Slum
U N

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（Changing Slums）
・リスニング力養成　リスニング問題
・英字新聞読解

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１９年度第１回筆記　p.50-51
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１９年度第1回筆記　３(A)Volunteer writing予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１１回　Volunteer writing

【key words】
Article
Volunteer

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（Volunteer writing）
・リスニング力養成　リスニング問題
・ライティング力養成

	【教科書ページ・参考文献】 英検２級過去６回全問題集　１９年度第１回筆記　p.52-53 【課題・予習・復習・授業準備指示】 １９年度第1回筆記　３(B)Metal Foam予習プリント 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
第１２回	Metal Foam 1 【key words】 Metal form Traffic accident 【授業概要】 ・Vocabulary test ・Pair conversation ・リーディング力養成　英文読解 (Metal Foam) ・リスニング力養成　リスニング問題 ・英字新聞読解 【教科書ページ・参考文献】 英検２級過去６回全問題集　１９年度第１回筆記　p.54-55 【課題・予習・復習・授業準備指示】 １９年度第1回筆記　3(B) Metal Foam 2　予習プリント 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
第１３回	Metal Foam 2 【key words】 Material Crash 【授業概要】 ・Vocabulary test ・Pair conversation ・リーディング力養成　英文読解 (Metal Foam) ・リスニング力養成　リスニング問題 ・ライティング力養成 【教科書ページ・参考文献】 英検２級過去６回全問題集　１９年度第１回筆記　p.54-55 【課題・予習・復習・授業準備指示】 １９年度第1回筆記　3(C) Counting Every Citizen 1　予習プリント 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
第１４回	Counting Every Citizen 1 【key words】 Economic growth Financial support 【授業概要】 ・Vocabulary test ・Pair conversation ・リーディング力養成　英文読解 (Counting Every Citizen) ・リスニング力養成　リスニング問題 ・英字新聞読解 【教科書ページ・参考文献】 英検２級過去６回全問題集　１９年度第１回筆記　p.56-57 【課題・予習・復習・授業準備指示】 １９年度第1回筆記　3(C) Counting Every Citizen 2　予習プリント 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
第１５回	Counting Every Citizen 2 【key words】 Income Bank account 【授業概要】 ・Vocabulary test ・Pair conversation ・リーディング力養成　英文読解 (Counting Every Citizen) ・リスニング力養成　リスニング問題 ・ライティング力養成 【教科書ページ・参考文献】 英検２級過去６回全問題集　１９年度第１回筆記　p.56-57 【課題・予習・復習・授業準備指示】 １８年度第３回筆記　2(A) Good job　予習プリント 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業中、指名し英文の意味を発表してもらうので、長文読解問題の英文についてはよく予習をして望むこと

	（予習想定時間は１時間）。※予習方法は講義の中で指示する。 ・スピーキング力をつけるため、ペアで英語での会話をする機会を設けるので、積極的に取り組むこと。 ・英和辞典もしくは電子辞書を必ず持参すること。 ・ファイル・ノートを用意し毎回持参すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	・授業の最後に、コメントカードを配布し、質問や授業の感想を書く時間を設ける。
授業外時間にかかわる情報	・英検を受験する学生は、英検受験に向けて授業以外でも過去問の学習を進めること。 ・英語についての質問や海外研修に関して知りたいことがあれば、高等教育支援センターまで来てください。
オフィスアワー	月曜～木曜まで、高等教育支援センターに在室の時は、いつでも質問に応じます。
評価方法	・単語テスト（10%）・予習状況および授業への参加姿勢（20%）※予習をしてあるかどうかを、授業開始前に毎回チェックします。※授業中、積極的に英語で発言することを評価します。・定期試験（70%）
教科書	2020年度版　英検２級過去６回全問題集　旺文社
参考書	英和辞典もしくは電子辞書
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 Ｓ５７（４月）～H20（３月）までの管理職になるまでの間、群馬県高等学校外国語（英語）の教諭として教壇に立った。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 英語Ⅱ　　授業コード：S1163　S1164　S1165

英文科目名称： EnglishⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期(社福①・社福②・子ども)	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
戸塚　泰聖			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	・英語４技能の能力を高め、英語検定２級（準２級）合格レベルの力をつける。 ・小学校での英語の授業で必要となる英語表現等を習得する。（こども専攻） ・社会福祉関係をテーマとした英文に習熟する。（社会福祉専攻）
授業の概要	・単語力をつけるため毎回豆テストを実施する。 ・身近な話題について英語でのコミュニケーションができるよう、ペアでの対話練習を通してスピーキング力をつける。 ・英語検定のテキストの長文読解問題を利用し、リーディング力をつける。（要予習） ・英語検定のテキストのリスニング問題を利用し、リスニング力をつける。 ・英語検定のテキストのライティング問題等を利用し、ライティング力をつける。 ・英字新聞記事等を利用し、４技能向上のための学習を行う。 ・小学校英語授業での英語表現の習熟（こども専攻） ・社会福祉をテーマとした英文の読解（社会福祉）

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回　科目オリエンテーション 【key words】 ・小学校での英語授業（こども専攻） ・社会福祉と英語（社会福祉専攻） 【授業概要】 ・小学校での英語授業について ・社会福祉と英語について ・Pair conversation ・英字新聞読解 【教科書ページ・参考文献】 英字新聞 【課題・予習・復習・授業準備指示】 １８年度第３回筆記　2(B)Mystery in the Sky　予習プリント 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第２回　Mystery in the sky 【key words】 Noctilucent cloud Mesosphere 【授業概要】 ・Vocabulary test ・Pair conversation ・リーディング力養成　英文読解（Mystery in the sky）

・リスニング力養成　リスニング問題
・ライティング力養成
【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１９年度第１回筆記　p.76-77
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１８年度第３回筆記　3(A) Your recent purchase　予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第３回　Your recent purchase
【key words】
Online book
Log in
Delivery

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（Your recent purchase）
・リスニング力養成　リスニング問題
・英字新聞読解

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１８年度第３回筆記　p.78-79
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１８年度第３回筆記　3(B)A New Type of Chocolate　予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第４回　A New Type of Chocolate
【key words】
Chocolate
Ingredient
Flavor

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（A New Type of Chocolate）
・リスニング力養成　リスニング問題
・ライティング力養成

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１８年度第３回筆記　p.80-81
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１８年度第３回筆記　3(C) Female Pioneers　予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第５回　Female Pioneers
【key words】
Computer programmer
Calculation
Program

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（Female Pioneers）
・リスニング力養成　リスニング問題
・英字新聞読解

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１８年度第３回筆記　p.82-83
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１８年度第２回筆記　2(A) New Bananas　予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第６回　New Bananas
【key words】
Variety
Fungus
Taste

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（New Bananas）
・リスニング力養成　リスニング問題
・ライティング力養成

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１８年度第３回筆記　p.100-101
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１８年度第２回筆記　2(B) The Benefits of Touch　予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】

１時間

第７回　The Benefits of Touch

【key words】
Sense
Touch
Autoimmune disorder

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（The Benefits of Touch）
・リスニング力養成　リスニング問題
・英字新聞読解

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１８年度第３回筆記　p.102-103
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１８年度第２回筆記　3(A) Parent volunteer　予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第８回　Parent volunteer

【key words】
Volunteer
Advertisement

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（Parent volunteer）
・リスニング力養成　リスニング問題
・ライティング力養成

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１８年度第３回筆記　p.104-105
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１８年度第２回筆記　3(B) A New Way to Use a Computer　予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第９回　A New Way to Use a Computer

【key words】
Device
Disabled people
Employment opportunity

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（A New Way to Use a Computer）
・リスニング力養成　リスニング問題
・英字新聞読解

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１８年度第３回筆記　p.106-107
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１８年度第２回筆記　3(C)The Mysterious Mummies 1　予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１０回　The Mysterious Mummies 1

【key words】
Mummies
Preserve

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（The Mysterious Mummies）
・リスニング力養成　リスニング問題
・ライティング力養成

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１８年度第３回筆記　p.108-109
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１８年度第２回筆記　3(C)The Mysterious Mummies 2 予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１１回　The Mysterious Mummies ２

【key words】
Analyze
Ancestor
Settler

【授業概要】
・Vocabulary test

・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（The Mysterious Mummies）
・リスニング力養成　リスニング問題
・英字新聞読解
【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１８年度第３回筆記　p.108-109
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１８年度第２回筆記　2(A) Getting Light Right予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１２回　Getting Light Right
【key words】
Quality of life
Artificial
Adjust

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（Getting Light Right）
・リスニング力養成　リスニング問題
・英字新聞読解

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１８年度第３回筆記　p.108-109
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１８年度第２回筆記　2(B) The Symmetry of Speed予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１３回　The Symmetry of Speed
【key words】
Symmetry
Advantage
Research

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（The Symmetry of Speed）
・リスニング力養成　リスニング問題
・英字新聞読解

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１８年度第３回筆記　p.128-129
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１８年度第２回筆記　3(A)Office repairs予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１４回　Office repairs
【key words】
Repair
Profit
Construction

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（Office repairs）
・リスニング力養成　リスニング問題
・ライティング力養成

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１８年度第３回筆記　p.130-131
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１８年度第２回筆記　3(B)The Price of a Song予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１５回　The Price of a Song
【key words】
Copyright
Expense
Compose

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（The Price of a Song）
・リスニング力養成　リスニング問題
・英字新聞読解

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１８年度第３回筆記　p.132-133
【課題・予習・復習・授業準備指示】

	１８年度第２回筆記　3(C)A Model Tourist Town予習プリント 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業中、指名し英文の意味を発表してもらうので、長文読解問題の英文についてはよく予習をして望むこと （予習想定時間は１時間）。※予習方法は講義の中で指示する。 ・スピーキング力をつけるため、ペアで英語での会話をする機会を設けるので、積極的に取り組むこと。 ・英和辞典もしくは電子辞書を必ず持参すること。 ・ファイル・ノートを用意し毎回持参すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	授業の最後に、コメントカードを配布し、質問や授業の感想を書く時間を設ける。
授業外時間にかかわる情報	・英検を受験する学生は、英検受験に向けて授業以外でも過去問の学習を進めること。 ・英語についての質問や海外研修に関して知りたいことがあれば、高等教育支援センターまで来てください。
オフィスアワー	月曜～木曜まで、高等教育支援センターに在室の時は、いつでも質問に応じます。
評価方法	・単語テスト（10%）・予習状況および授業への参加姿勢（20%）※予習をしてあるかどうかを、授業開始前に毎回チェックします。※授業中、積極的に英語で発言することを評価します。・定期試験（70%）
教科書	2020年度版　英検２級過去６回全問題集　旺文社
参考書	英和辞典もしくは電子辞書
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 Ｓ５７（４月）～H20（３月）までの管理職になるまでの間、群馬県高等学校外国語（英語）の教諭として教壇に立った。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 国際文化論　　授業コード：S1301

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
久山　宗彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的・到達目標】 国際文化論（intercultural studies）では、国際的な相互依存関係の中で生きていく私達が、自立した個人として生き生きと活躍していくためには、自国の文化に根差した自己の確立や、異なる文化を持った人達をも受け入れ、彼らと繋がっていける能力や態度を身に付けていくことを主眼としている。
授業の概要	世界の諸事情と日本との関係を知り、自らの歩む道について考える。更に、日本と世界（諸外国）の関係がどのように発展したらよいかについても考察する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	「国際文化論が目指すのは国際平和である。」～特に難民問題と日本の関わりを巡って～ 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第２回	和の文化（1）～その構造について～ 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第３回	和の文化（2）～神の文化との比較～ 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】

６０分
第４回　マルティン・ブーバー（Martin Buber）の「関係」の哲学（1）
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
６０分
第５回　マルティン・ブーバー（Martin Buber）の「関係」の哲学（2）～医療世界への応用～
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
６０分
第６回　日本外交の原点に位置する聖徳太子
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
６０分
第７回　日本・韓国・中国の文化の違い（２）
【key words】
日・韓・中の比較文化、歴史問題
【授業概要】
日本・韓国・中国の文化の違いを私たちはどのように乗り越えていったらよいかについて論じる。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分
第８回　EU、そして英国（東アジアと比較）
【key words】
西ドイツ・フランス・イタリア、ド・ゴール、東アジア共同体構想
【授業概要】
EUはアメリカニズムに対する危機感から生じたとも言える。しかし、地域統合には独自性と一体性があるから、限界もある。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分
第９回　日本と中東（１）
【key words】
ムハンマド、共存・共生、斎戒
【授業概要】
「和」を提唱した聖徳太子と「サラーム」（平和）の世界観を紹介したムハンマドが同時代人であったということもあって、日本と中東には共通の観念が多々見られることも紹介し、現代の中東世界の特徴についても言及する。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分
第１０回　日本と中東（２）
【key words】
ハリーファ、サウジアラビアからヨルダンまで、統合と断絶
【授業概要】
日本史に現れる権威としての天皇と将軍は、イスラーム史におけるハリーファ（カリフ）とスルターンの関係のようである。ところで、中東地域それぞれの国家の統合の柱は、宗教、言語（民族）の視点で見ると分かり易いと思う。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。

	【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１１回　国際ボランティア活動、湾岸戦争後のイラクの弱者に対する救援活動 【key words】 イラク、国際ボランティア活動、経済制裁 【授業概要】 湾岸戦争後、１３回も出かけることになったイラクの乳幼児に対する緊急救援活動を通して、イラクと日本での国際ボランティア活動のスタートから終了までの大事な諸点を紹介し、ボランティア精神の重要性を明らかにする。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１２回　ダブリン（Dublin）のホスピスの発祥の地である「聖母ホスピス」を訪ねて 【key words】 ターミナルケア、聖母ホスピス、careとcure 【授業概要】 医療技術は絶えず最新のものでなければならないが、「死」に対する深い精神的な態度は変わるものではない。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１３回　「国際平和」実現への第一歩とは（1） 【key words】 旧約・新約聖書、報復、汝の敵を赦す・愛する 【授業概要】 「あなたの目はその人に憐みを掛けてはいけない。命には命、目には目、歯には歯、手には手、足には足をもって償わせなければならない」（申命記１９～２１）とあるが、この旧約の報復の論理を身をもって克服・完成させたのは誰であろうか。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１４回　「国際平和」実現への第一歩とは（２） 【key words】 聖遷、聖家族エジプト避難の旅の実際、積極的な反一抵抗・敵対 【授業概要】 聖遷（ヘジュラ）と聖家族エジプト避難の旅の今日への問題提起 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１５回　国際文化論として考えるリハビリテーション 【key words】 リハビリテーション観・宗教観・障害 【授業概要】 世界をリードする立場にある日本のリハビリテーションであるが、それぞれの国との関係では言語・行政問題以外では、リハビリテーション観・宗教観の違いに注目することが重要である。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業レジュメは原則として毎回配布する。 ・授業には積極的な態度で臨むように。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	世界の国々と関わる日本のニュースにも、いつも関心を持っていただきたい。
オフィスアワー	授業後の10分間は対応可能です。
評価方法	最終レポート試験（80%）、授業時等のレポート（20%）
教科書	教科書は使用しないが、毎回の授業時には授業レジュメのほかに、時々参考資料を配布する。
参考書	授業時に随時紹介する。久山宗彦著「神の文化と和の文化」（北樹出版）もそのうちの一つである。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： チームケア入門Ⅰ　　授業コード：S1401

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	1単位(15)	選択
担当教員			
1年次担任教員			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] ねらい：「包括的視点で対象者を捉え、多職種による円滑なケアが展開できるための基礎的知識・技術・態度について学び多職種連携のあり方を修得する」 目的：他学部・学科との学生間の交流を通して、多職種の連携の必要性について気づくことができる。 [到達目標] 1) 自己の職種について他者に伝えることができる。 2) 他職種の基本的な役割について述べることができる。 3) ケアチームとして一連の取り組みのまとめ、報告、自己の評価ができる。 4) 他職種との連携について関心が持てる。
授業の概要	保健医療福祉の動向に伴い、多様なニーズを必要とする対象者が増加しており保健医療福祉教育専門職に求められることも多様化している。対象者のケアの目標を達成するためには、多職種間の連携が不可欠となる。保健医療福祉教育職種が連携を取り合うことの意義・必要性と多様なチームケアの在り方について学習する。群馬医療福祉大学の福祉・医療総合大学の特色を生かし、3学部・短期大学1学科合同チームによる、講義、演習を通して「チームケア」について学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	◎
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	科目オリエンテーション 【key words】 講義概要、チームケア、多職種連携、地域包括ケアシステム 【授業概要】 全8回の講義の進め方や評価方法等のオリエンテーション後、医療・福祉・教育領域において、なぜ今連携なのか、チームケアの目的・意義、背景、多職種の種類とその役割、連携の目的・意義について解説を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ・教科書：配布資料のみ ・参考資料：講義内で紹介 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：配布されたワークシートに沿い、自分の所属しているコースで取得が可能な資格／専門職を1つ取り上げ、具体的に、どんな仕事をしているのか」を簡単にまとめてくること。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第２回	チームケアを担う人々を理解する 【key words】 社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師、特別支援学校教諭、中学校・高校教諭 【授業概要】 医療・福祉・教育領域におけるチームケアを担う各専門職の役割について、各自が作成した課題を用いたグループワークと解説を通じて理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】

・教科書：なし
・参考資料：講義内で紹介
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートに沿い、自分の選択した専門職について以下の事柄を調べ、まとめること
①根拠法規、②対象者、③活躍の場、④具体的な業の内容、⑤他職種との連携、⑥その他
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　チームケア・チーム医療を担う人々を理解する
【key words】
多職種連携、認知症患者へのチームケア、発達障害を持つ児童へのチームケア
【授業概要】
医療・福祉・教育領域におけるチームケアを担う各専門職の役割について、各自が作成した課題を用いたグループワークを行い、他職を目指す学生にどのように説明することが望ましいかの検討を行う。また、呈示された事例へのチームでの対応の中で自職の担う役割についてグループでの検討を行い、自職の専門性に関する理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：なし
・参考資料：講義内で紹介
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備：合同演習で使用する自職の紹介についての資料を班ごとに作成し、担任に添削を受けること
課題：配布されたワークシートに沿い、事例内での自職の関わりについて班内で検討を行い、まとめること
【予習復習に必要な想定時間】
60-120分

第４回　チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議。
【key words】
多職種連携
【授業概要】
医療・福祉・教育領域におけるチームケアを担う各専門職の役割について、他学部の学生との間でお互いが作成した資料を用いたグループワークを行い、それぞれの専門職に関する基本的理解について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：なし
・参考資料：講義内で紹介
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備：自職について調べた資料をグループの人数分、用意・持参すること
【予習復習に必要な想定時間】

第５回　チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議、報告準備。
【key words】
多職種連携、認知症患者へのチームケア、発達障害を持つ児童へのチームケア
【授業概要】
医療・福祉・教育領域におけるチームケアを担う各専門職の役割について、共通の事例に対するそれぞれのかかわりについて他学部の学生との間でグループワークを行い、それぞれの専門職の専門性について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：なし
・参考資料：講義内で紹介
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備：自職の事例への関わりについてまとめた資料を持参すること
【予習復習に必要な想定時間】

第６回　チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議・報告会①
【key words】
多職種連携
【授業概要】
医療・福祉・教育領域におけるチームケアを担う各専門職の役割に関するこれまでの討議をもとに、多職種が連携することの意義について他学部の学生との間でグループワークを行い、その必要性や求められる姿勢について理解を深める
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：なし
・参考資料：講義内で紹介
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備：各グループ内で指定された時間の発表ができるよう準備を行なうこと
【予習復習に必要な想定時間】

第７回　チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議・報告会②
【key words】
多職種連携
【授業概要】
医療・福祉・教育領域においてチームケアを行うことの意義についての討議結果について、演習参加者全員でのシェアリングを行い、多職種連携を行う中での自職の役割や他職との連携方法について考察を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：なし
・参考資料：講義内で紹介
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：第4回～第7回の合同演習に関する振り返りを指定されたワークシートに行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第８回　学習成果をリフレクションする。一連の学習過程を評価・考察し自己の課題に気付くことができる。
【key words】

	多職種連携 【授業概要】 一連の学習過程について振り返りを行い、医療・福祉・教育領域におけるチームケアを担う専門職を目指す今後の学習に向けた目標設定や課題設定を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ・教科書：なし ・参考資料：講義内で紹介 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：指定されたレポート課題 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
受講生に関わる情報および受講のルール	［受講生に関わる情報］ ①予習：指示された事前学習課題を整理し、授業時活用する。 ②復習：授業で配布したプリント・資料を読み返す。 ③授業日程：履修者に対して6～7月を目安に掲示板にて8回の日程を提示するため、留意すること。 ［受講のルール］ ①積極的に取り組むこと。 ②レポート等の課題について、提出期限を厳守すること。 ③授業の学びをぽ配布されるポートフォリオ等に記載すること。 ④欠席・遅刻については大学事務局に必ず連絡を行い、後日授業担当教員に対応を確認すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	学習ポートフォリオ内の感想の記載欄など
授業外時間にかかわる情報	・自分の目指す職種等に関する調べ学習など、各回で課題が提示される予定である。それらに積極的に取り組むこと。 ・課題作成に用いた資料はフラットファイルなどに保管し、合同討議の際、参考にできるようにしておくこと。
オフィスアワー	初回に指示する。
評価方法	①グループワークでの取り組み50%。 ②ポートフォリオ評価50%。
教科書	各回で資料を配布する。
参考書	1. 鷹野和美著： チームケア論　　ぱる出版，2008. 2. 小松秀樹： 地域包括ケアの課題と未来、ロハス・メディカル、 2015
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 海外語学研修（カナダ）　　授業コード：S1501

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1年次～4年次	2単位(60)	選択
担当教員			
田口　敦彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 海外研修を通じて国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につける。また国際社会で活躍する医療福祉人材として、海外での様々な体験を通して世界を違う視点から見ることができるようになることを目的とする。本プログラムは参加者の英語能力を、面接授業、ワークショップ及びセミナーを通して向上させ、さらにカナダの歴史、文化、伝統等について学んだり、現地でのフィールドワークに携わったりしながら、カナダ独特の文化に触れ英語能力の更なる向上を目指していく。現地の学生やホームスティ先のホストファミリーとの交流により、英語によるコミュニケーション能力並びに異文化体験の機会を得る。
授業の概要	研修は、群馬医療福祉大学の協定・提携大学　カナダ・レジャイナ大学との間に企画された、誰もが参加しやすい語学学習(英語)に重点を置いたプログラムである。事前学習として訪問先の文化・社会等についての理解を深め、日常英会話についのコミュニケーション能力を高める。その後、本学の協定大学における11日間の研修プログラム(講義又フィールドワーク）を中心に実施し、帰国後、それらの講義、体験をもとに、まとめ・報告会を行う。　研修期間　平成31年8月28日～9月7日

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	研修先の概要(1)オリエンテーション　海外研修プログラムについての概要　申込書などの記入の仕方 【key words】 【授業概要】 グローバル人材海外研修を通じて、国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につけることを理解する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)を熟読しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	研修先の概要(2)　リジャイナ大学についての概要 【key words】 【授業概要】 リジャイナ大学についての概要 訪問するレジャイナ大学の概要について理解するとともに、レジャイナ大学が提携するESL(English as a Second Language class)プログラムを確認する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)パスポートやETA取得をスムーズに行うため事前に外務省等のホームページ

を確認して置くこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　カナダ研究(1)　世界とカナダの関係について　文化、歴史、経済、習慣等について
【key words】

【授業概要】
カナダの歴史、文化、伝統　自然等について学び、現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につける。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)ネット、情報誌等でカナダの文化、歴史等を収集しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　手続きガイダンス(1)　海外渡航に必要となる諸手続きについて
【key words】

【授業概要】
パスポート、ETAの申請について 。さらに渡航前の健康管理と安全管理について確認する。また、リスクマネジメントを徹底し、病状悪化などの緊急時用の対応ができるよう安全管理について渡航前から学ぶ。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　英語研修(1)　日常英会話　英語圏の生活に必要なこと
【key words】

【授業概要】
入国審査カードの書き方、入国審査での質問、機内での英会話
機内、出入国で使用する英語について学ぶ。さらに挨拶、日常会話について理解を深める。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　英語研修(2)　日常英会話　自文化を紹介する態度、言い回し
【key words】

【授業概要】
英語で自らの文化、習慣、伝統等を紹介する方法について学ぶ。またレジャイナ大学の学生と交流する機会があるので、レクリエーションプログラム等の計画を立てる。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　英語研修(3)　日常英会話　研修先でのコミュニケーション
【key words】

【授業概要】
研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　英語研修(4)　日常英会話　寮、ホームスティ　研修先での注意事項
【key words】

【授業概要】
研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　英語研修(5)　日常英会話　危機管理
【key words】

【授業概要】
研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　協定校での授業　会話、課外授業　Meet with Program Team
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　協定校での授業　会話、課外授業　Welcome &Program Orientation
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１２回　協定校での授業　会話、課外授業　Campus Orientation & Tour
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１３回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Canada-at-aGlance ①
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１４回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Canada-at-aGlance ②
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１５回　協定校での授業　会話、課外授業　Tour of the Royal Saskatchewan Museum
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第16回　協定校での授業　会話、課外授業　Language History ①
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第17回　協定校での授業　会話、課外授業　Language History ②
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第18回　協定校での授業　会話、課外授業　Farmer,s Market and Regina Down Town Tour
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第19回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Culture ①
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第20回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Cu l ture②
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第21回　協定校での授業　会話、課外授業　Tour of Sa s katoon & Western Development Museum
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第22回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Sports ①
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第23回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Sports ②
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第24回　協定校での授業　会話、課外授業　Tour of the Royal Canadian Mounted Police & Government House
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第25回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Arts ①
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第26回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Arts ②
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第27回　協定校での授業　会話、課外授業　Kayaking on Wascana & Barbeque wiyh U of R students
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第28回　協定校での授業　会話、課外授業　Program Closing Ceremony
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第29回　協定校での授業　会話、課外授業　Program Closing Ceremony
【key words】

【授業概要】
研修事業の成果報告会に向けて発表の準備及び研修前と研修後の意識変化について確認する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第30回　研修成果　報告会　（まとめとふりかえり）
【key words】

【授業概要】
研修成果　報告会　（まとめとふりかえり）
【教科書ページ・参考文献】

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
受講生に関わる情報および受講のルール	①研修への参加責任及び費用負担義務の所在が本人及び保護者であることを十分理解し、研修について保護者とよく話 し合い、同意を得る。 ②研修予定地の事情をよく調べ、研修機関のサポート内容などを確認しながら研修計画を作成する。 ③旅行保険等の加入など万全の準備をするほか、連絡体制についても明確にし、大学に伝える。 ④担当教員による事前・事後指導も評価の対象となるので、誠実な態度で指導を受ける。 ⑤国際情勢の急な変化によって研修実施が困難となる場合もあることに留意する。 ⑥小学校における英語必修化に伴い初等教育コースの学生は履修することが望ましい ⑦本講義は10人以上により開講する
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	渡航先の語学や会話を授業で受講しておくこと。また日常から海外のニュースを見聞きし、情報を得ておくことが必要である。旅券の取得、現地通貨などの準備、ツアーや航空券の手配、保険の申請などがある。
オフィスアワー	月曜日　16:00～17:30　(変更が生じた場合は適宜指示する)
評価方法	海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。 成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。 ① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。 ② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。 ③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。 ④ 研修期間中の活動記録を提出すること。 ⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること。 海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。 成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。 ① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。 ② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。 ③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。 ④ 研修期間中の活動記録を提出すること。 ⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること。 海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。 成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。 ① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。 ② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。 ③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。 ④ 研修期間中の活動記録を提出すること。 ⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること。
教科書	担当教員が適宜指示する。
参考書	海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)　渡航先に関するガイドブック、新聞、海外ニュース、ネットなどによる最新の情報など 海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)　渡航先に関するガイドブック、新聞、海外ニュース、ネットなどによる最新の情報など
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない

	ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 海外医療福祉研修（フィリピン）　　授業コード：S1505

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1年次～3年次	2単位(60)	選択
担当教員			
田口　敦彦・小林　洋子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	海外研修を通じて国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につける。また国際社会で活躍する医療福祉人材として、海外での様々な体験を通して世界を違う視点から見ることができるようになることを目的とする。このプログラムはフィリピンでの医療福祉事情の理解と臨床現場での実地体験を目的としたプログラムを組み込んでいる。医療・福祉施設（小児がん治療施設・リハビリデイケアセンター・障害者施設・病院)にて実地体験を経験し、国際的な視野、協調性、行動力、自主性といった能力を中心に培いながら、現地の学生との交流により、英語によるコミュニケーション能力並びに医療英語や英会話を含む英語能力の向上や異文化体験の機会をも得ることを目的とする。
授業の概要	研修は、群馬医療福祉大学の協定・提携大学　フィリピン・アレリアノ大学との間に企画された、誰もが参加しやすい医療福祉ボランティア学習に重点を置いたプログラムである。事前学習として訪問先の文化・社会等についての理解を深め、医療英語及び日常英会話についのコミュニケーション能力を高める。その後、本学の協定大学における8日間の研修プログラム(講義又フィールドワーク）を中心に実施し、帰国後、それらの講義、体験をもとに、まとめ・報告会を行う。 研修期間　平成32年3月15日～3月23日

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第1回	研修先の概要(1)オリエンテーション　海外研修プログラムについての概要　申込書などの記入の仕方 グローバル人材海外研修を通じて、国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につけることを理解する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)を熟読しておくこと。
	第2回	研修先の概要(2)　アレリアノ大学についての概要 訪問するアレリアノ大学の概要について理解するとともに、アレリアノ大学が提携する病院、福祉施設訪問プログラムを確認する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)パスポート取得をスムーズに行うため事前に外務省等のホームページを確認しておくこと。
	第3回	フィリピン研究(1)　世界とフィリピンの関係について　文化、歴史、経済、習慣等について フィリピンの歴史、文化、伝統　自然等について学び、現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につける。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)ネット、情報誌等でフィリピンの文化、歴史等を収集しておくこと。
	第4回	手続きガイダンス(1)　海外渡航に必要となる諸手続きについて パスポート、ETAの申請について 。さらに渡航前の健康管理と安全管理について確認する。また、リスクマネジメントを徹底し、病状悪化などの緊急時用の対応ができるよう安全管理について渡航前から学ぶ。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)
	第5回	医療福祉研修(1)　ボランティア先での注意事項 海外でボランティアを行う上での心構えや英語でのコミュニケーションまた英語以外でのコミュニケーションの方法等について理解する。レクリエーションの企画立案をグループごとに行う。レクリエーション企画について事前に自分たちができそうなことを事前に準備しておくこと。
	第6回	医療福祉研修(2)　ボランティア先でのレクリエーション企画について

		海外でボランティアを行う上での心構えや英語でのコミュニケーションまた英語以外でのコミュニケーションの方法等について理解する。レクリエーションの企画立案をグループごとに行う。日本の文化を紹介するにはどのように行ったらよいのかを考えてみる。
	第7回	英語研修(1)　日常英会話　英語圏の生活に必要なこと　　入国審査カードの書き方、入国審査での質問、機内での英会話 機内、出入国で使用する英語について学ぶ。さらに挨拶、日常会話について理解を深める。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
	第8回	英語研修(2)　日常英会話　自文化を紹介する態度、言い回し 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
	第9回	英語研修(3)　医療英語　　患者及び施設利用者とのコミュニケーション 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
	第10回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 アレリアノ大学　医療福祉研修プログラムへ参加し海外での実践活動・講義及びフィールドワークについて確認する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第11回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 アレリアノ大学のキャンパス見学及び概要説明。現地大学生との交流を行う。
	第12回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 アレリアノ大学のキャンパス見学及び概要説明。現地大学生との交流を行う。
	第13回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　健康診断　栄養管理　予防接種、体重モニタリング、について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第14回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　健康診断　栄養管理　予防接種、体重モニタリングについて学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第15回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　健康教育、出産について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第16回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　産前産後検診について学ぶフィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第17回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Kaisaka Rehabilitative therapies　リハビリ病院訪問　フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第18回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Kaisaka Adult day care services　高齢者デイケア訪問　フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第19回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Kaisaka Caring for persons with disabilities and social rehabilitation　身体障害者施設を訪問し社会復帰プログラムについて理解を深める。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第20回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Arellano University Rehabilitation Clinic Rehabilitation terapiesを訪問し　リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第21回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Arellano University Rehabilitation Clinic　リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。
	第22回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Arellano University Rehabilitation Clinic　リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。
	第23回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 マニラおよび近郊の文化、観光施設 現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。
	第24回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 マニラおよび近郊の文化、観光施設 現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。
	第25回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 マニラおよび近郊の文化、観光施設 現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。
	第26回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 CHILD HAUS children`s home,day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。
	第27回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 CHILD HAUS children`s home,day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。
	第28回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 CHILD HAUS children`s home,day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。
	第29回	研修成果　　レポート及び報告会プレゼンテーション準備

	研修事業の成果報告会に向けて発表の準備及び研修前と研修後の意識変化について確認する。 第30回　研修成果　報告会　（まとめとふりかえり） 研修事業の振り返りと研修の成果について確認を行う。
受講生に関わる情報および受講のルール	①研修への参加責任及び費用負担義務の所在が本人及び保護者であることを十分理解し、研修について保護者とよく話し合い、同意を得る。 ②研修予定地の事情をよく調べ、研修機関のサポート内容などを確認しながら研修計画を作成する。 ③旅行保険等の加入など万全の準備をするほか、連絡体制についても明確にし、大学に伝える。 ④担当教員による事前・事後指導も評価の対象となるので、誠実な態度で指導を受ける。 ⑤国際情勢の急な変化によって研修実施が困難となる場合もあることに留意する。 ⑥本講義は10人以上により
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	渡航先の語学や会話を授業で受講しておくこと。また日常から海外のニュースを見聞きし、情報を得ておくことが必要である。旅券の取得、現地通貨などの準備、ツアーや航空券の手配、保険の申請などがある。
オフィスアワー	月曜日　5時限　（変更が生じた場合は適宜指示する）
評価方法	海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。 成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。 ① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。 ② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。 ③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。 ④ 研修期間中の活動記録を提出すること。 ⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること
教科書	担当教員が適宜指示する。
参考書	海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)　渡航先に関するガイドブック、新聞、海外ニュース、ネットなどによる最新の情報など
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 福祉心理学　　授業コード： S3001

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
齊藤　和良			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 　高齢者、障害者、乳幼児等の社会的弱者やその福祉現場の仕事に携わる福祉専門職について理解を深め、人道的な支援や受容・共感的態度を身につける。 〔到達目標〕 ①家庭における児童の問題や青少年の問題行動について説明できる。 ②福祉現場において生じる問題及びその背景について説明できる。 ③福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる。 ④虐待、認知症に関する必要な支援方法について説明できる。
授業の概要	福祉心理学は、社会福祉の対象となるすべての人々とその支援者のウエルビーイング（well-being）のために、心理学的な手法を用いて支援していくことを探求する学問である。本授業では、発達及び加齢や障害の概念を学習することから始め、当事者と家族の福祉的な問題そして福祉従事者の抱える問題について整理し、これらの福祉心理学的な対応について学習する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション（福祉心理学とは　福祉領域の公認心理師－社会福祉の展開と心理支援） 【key words】 社会福祉　ウェルビーイング　ノーマライゼーション 公認心理師　福祉心理学 【授業概要】 社会福祉の展開（福祉の定義、歴史、理念と現在の施策の概要）、心理支援の必要性（福祉心理学の概要と生活支援の重視）について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書（福祉心理学　ミネルヴァ書房　序章　福祉領域の概観 p.1 - p.14）、プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.15 - p.27）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「福祉心理学の対象」を記入する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	生活を支える心理支援 【key words】 自立支援　就労支援　社会的養護　里親委託　当事者運動　コミュニティ・ケア 【授業概要】 福祉と人々の生活、福祉の制度と心理職、児童福祉（子ども家庭福祉と子育て）、障害を持った人たちの支援、生活困窮者の生活支援、高齢者の生活支援、不登校・ひきこもりの福祉的支援、地域福祉における心理支援及び予防的支援と公認心理師の役割について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書（福祉心理学　第１章　子ども家庭福祉を見渡すー 子どもと家庭がより健全に育まれるためにp.15 - p.27.）、プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.18 - p.22）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「福祉心理学の役割」を記入する。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　暴力被害者への心理支援

【key words】
DV（ドメスティック・バイオレンス）　虐待　被害者支援　トラウマケア　暴力被害
【授業概要】
夫婦間暴力、DVと子どもの虐待、その他の暴力について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書（福祉心理学　２　児童虐待防止と家庭支援　p.18 - p.22）、プリント資料の配布。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.181 --p.186）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「DVについて」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　福祉心理学的心理支援の実際 ― 児童虐待への心理支援の実際

【key words】
児童虐待防止法　児童相談所　ネグレクト　児童福祉施設　児童心理治療施設　PTSD（心的外傷後ストレス障害）
【授業概要】
子どもの虐待相談件数の増大、児童虐待問題における児童相談所の役割、児童相談所における心理診断・支援、児童福祉施設入所や里親委託時の支援及び地域における家族の支援について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書（福祉心理学　第10章　福祉分野でのその他の取り組み ― 福祉のその先を見据えて４ 児童虐待の予防を目指した地域づくり―ほほえみプロデュース p.181 --p.186）、プリント資料の配布。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.69 - p.86）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題について」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　子どもと親への心理支援の実際

【key words】
子育て支援　ひとり親家庭　婦人相談所　母子生活支援施設　児童家庭支援センター
【授業概要】
子育て支援、ひとり親家庭等の支援、要保護・要支援ケースへの支援及び社会的養護における子どもと親への支援について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書（福祉心理学　第４章　子どもの入所施設における支援と課題 ― 傷ついた子どもとその家族に寄り添う　p.69 - p.86）、プリント資料の配布。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で指摘した重要な項目の復習。予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.173 - p.181）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題について」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　生活困窮・貧困者への心理支援

【key words】
貧困　生活保護　ホームレス　子どもの貧困
【授業概要】
生活困窮・貧困の背景と問題、生活困窮・貧困の実態と心理支援、子どもの貧困及び公認心理師の役割と期待について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書（福祉心理学　第10章　福祉分野でのその他の取り組み ― 福祉のその先を見据えて p.173 -　p.181）、プリント資料の配布。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.101 - p.113.）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題について」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　障害のある人への支援

【key words】
乳幼児検診　発達障害　自閉スペクトラム障害　発達障害者支援法　アウトリーチ
【授業概要】
障害・疾病のある人への福祉的支援と心理支援、事例から見る福祉心理学の実践、本人への発達支援と親子関係の調整及び福祉サービス等の併用と効果について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　（福祉心理学　第６章　知的障害･発達障害･強度行動障害児･者への支援 ― 社会全体を見渡して，一人ひとりに向きあう p.101 - p.113.）、プリント資料の配布。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.129 - p.149）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「障害の概念について」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　高齢者への心理支援

【key words】
高齢者福祉関連法　地域ケア包括システム　新オレンジプラン　認知症（中核症状・周辺症状）認知機能検査
【授業概要】
高齢者の現状と生活課題、高齢者福祉関連の法律と制度、高齢期の認知症及び高齢者福祉領域に

おける心理的支援の重要性について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書（福祉心理学　第８章　高齢者の在宅支援と施設利用者の支援 ― 利用者と支援者を支えるしくみ p.129 - p.149）、プリント資料の配布。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.151 - p.168）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「認知症について」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　認知症高齢者の心理支援の実際
【key words】
アルツハイマー型認知症　認知機能障害　グループホーム　ユニットケア
【授業概要】
認知症の定義、認知症における症状の特徴とさまざまな心理問題、認知症高齢者の心理支援の実際について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書（福祉心理学　第９章　高齢者心理へのアプローチの実際 ― よりよきアセスメントとケアに向けて p.151 - p.168）、プリント資料の配布。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.169 - p.173）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題について」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　ひきこもり・自殺予防の心理支援の実際
【key words】
社会的孤立　家族支援　多様性
【授業概要】
ひきこもりの心理支援及び自殺予防の心理支援について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書（福祉心理学　第10章　福祉分野でのその他の取り組み ― 福祉のその先を見据えて　1 社会的ひきこもり支援 p.169 - p.173）、プリント資料の配布。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている精神障害について調べておくこと。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題について」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　精神障害者への心理支援の実際
【key words】
精神保健福祉法　障害者総合支援法　障害受容　権利擁護
【授業概要】
精神障害者を支える制度とサービス、精神障害者の困難さの理解、クラブハウス活動、就労に至ったAさんの事例及び公認心理師に必要な基本姿勢について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
プリント資料の配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で指摘した重要な項目の復習。　予習として次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.129 - p.149）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題について」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　家族・職員への心理支援の実際
【key words】
介護負担　家族支援
【授業概要】
福祉対象者の家族への心理支援及び福祉施設職員等への心理支援について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書（福祉心理学　第８章　高齢者の在宅支援と施設利用者の支援 ― 利用者と支援者を支えるしくみ p.129 - p.149）、プリント資料の配布。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で指摘した重要な項目の復習。　予習として次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.87 - p.99）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題について」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　福祉・介護分野での多職種協働（IPW）と心理職の位置づけ
【key words】
ケアマネージメント　専門職　多職種協働（IPW）
【授業概要】
多職種協働に関わる専門職とその役割、多職種協働とチームアプローチ及び多職種協働における公認心理師の役割について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書（福祉心理学　第５章　障害児・者の福祉を見渡す ― 多職種連携の一翼を担うために p.87 - p.99）、プリント資料の配布。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で指摘した重要な項目の復習。　予習として次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.129 - p.149）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題について」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１４回　IPW実践事例報告
【key words】

	療養病床　地域包括ケアシステム　ケアプラン　グループケア　情報共有　介護職員　生活の質（QOL） 【授業概要】 療養病床でのIPWの実際と工夫、特別養護老人ホームでのIPWの実際と工夫、児童養護施設でのIPWの実際と工夫、障害者生活介護施設でのIPWの実際と工夫及び母子生活支援施設でのIPWの実際と工夫について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書（福祉心理学　第８章　高齢者の在宅支援と施設利用者の支援 ― 利用者と支援者を支えるしくみ p.129 - p.149）、プリント資料の配布。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で指摘した重要な項目の復習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題について」を記入する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　福祉心理学のまとめ 【key words】 福祉心理学の対象　虐待　いじめ　認知症　発達　障害の概念 【授業概要】 福祉心理学のまとめと試験対策 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 福祉心理学全体に対する復習と期末試験の対策 【予習復習に必要な想定時間】 90分～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・教科書を必ず持参すること。 ・虐待を始めとして、乳幼児、高齢者、障害者に関する問題について、各種メディア（新聞やテレビ、インターネットなど）で日常的に報道されているニュースに対して常に問題意識を持つように、主体的に捉えていく態度を日頃から養うこと。 〔受講のルール〕 ・事後学習として教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。 ・授業には、積極的に参加すること。 ・私語や携帯電話・スマートフォンの使用など他の受講生の迷惑になる行為の厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておき、各自の意識を高めること。 ・参考図書や関連書籍を読み、授業内に解説したキーワードについて理解を深めること。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期試験（70%）と課題への積極的な取り組み（30%）でもって総合的に評価する。課題はコメントカードの記述内容を点数化する。
教科書	川畑隆・笹川宏樹・宮井研治　（編著）公認心理師の基本を学ぶテキスト 17　福祉心理学 ― 福祉分野での心理職の役割　ミネルヴァ書房ISBN: 978-4-623-08718-1
参考書	中島健一編　公認心理師の基礎と実践　第17巻 福祉心理学　：遠見書房（2018/8/19） 適宜、授業時に紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 福祉施設（日本盲人職能開発センター）での指導員として勤務した経験をもとに、福祉領域での心理臨床的な関わりの必要性や心理的支援の在り方について講じる。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 社会福祉史　　授業コード：S3011

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
義基　祐正			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会福祉の歴史的変遷を見ながら、現代に至るまでの歴史的事実を学ぶ。 【到達目標】 日本および各国の福祉史を見ることで、現在の日本の福祉（社会保障）の問題点を探れるようになる。
授業の概要	日本および主要各国の福祉の歴史的事実、福祉思想の変遷を学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	◎
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	社会福祉のあゆみを学ぶー科目オリエンテーション 【key words】 ＜key words＞ 講義の受け方 【授業概要】 ＜授業概要＞ 講義の受け方、予習復習について、評価方法などについて説明する 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ 目次 【課題・予習・復習・授業準備指示】 必ず教科書を読むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第２回	貧困問題の発生と旧救貧法 【key words】 ＜key words＞ 封建社会、救貧 ＜授業概要＞ ＜教科書＞ 【授業概要】 中世イギリスの社会的背景から、救貧の芽生えについて概観する 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回同様 【予習復習に必要な想定時間】 前回同様

	第３回	旧救貧法の社会思想と新救貧法の成立 【key words】 ＜key words＞ 救貧法、古典派経済学 ＜授業概要＞ ＜教科書＞ 【授業概要】 新救貧法成立までの動きを学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回同様 【予習復習に必要な想定時間】 前回同様
	第４回	民間社会福祉部門の役割 【key words】 ＜key words＞ COS,リッチモンド、セツルメント ＜教科書＞ 【授業概要】 民間社会福祉部門の果たした役割について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回同様 【予習復習に必要な想定時間】 前回同様
	第５回	社会主義の台頭と貧困調査の意義 【key words】 ＜key words＞ 社会主義、貧困調査、ブース、ラウントリー 【授業概要】 ＜授業概要＞ 社会主義の台頭が福祉にとってどのような意味があったのかを学び、貧困調査の意義について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回同様 【予習復習に必要な想定時間】 前回同様
	第６回	救貧法の廃止と擁護をめぐる対立 【key words】 ＜key words＞ ウェッブ夫妻 【授業概要】 ＜授業概要＞ 救貧法を乗り越えていく過程について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回同様 【予習復習に必要な想定時間】 前回同様
	第７回	社会立法の動き 【key words】 ＜key words＞ 自由改良主義、ニューディール政策 【授業概要】 ＜授業概要＞ 福祉国家成立過程について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回同様 【予習復習に必要な想定時間】 前回同様
	第８回	ベヴァリッジ体制の確立 【key words】 ＜key words＞ ベヴァリッジ体制、貧困の再発見

【授業概要】
＜授業概要＞
福祉の国家責任についてみていく
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回同様
【予習復習に必要な想定時間】
前回同様

第９回　パーソナル・ソーシャル・サービスの形成と展開
【key words】
＜key words＞
パーソナル・ソーシャル・サービス
＜授業概要＞
恤救規則以後の社会保障の変遷を概観する
＜教科書＞
１４－１６

【授業概要】
対人援助サービスの発展過程についてみていく
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　近年のイギリスにおける福祉改革と新自由主義
【key words】
＜key words＞
新自由主義、第三の道

【授業概要】
＜授業概要＞
1980年代以降のイギリスの福祉制度改革についてみていく
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回同様
【予習復習に必要な想定時間】
前回同様

第１１回　日本の第二次世界大戦前の慈善・社会事業
【key words】
＜key words＞
隣保扶助、恤救規則、慈善事業

【授業概要】
＜授業概要＞
戦前の日本の社会事業についてみていく
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回同様
【予習復習に必要な想定時間】
前回同様

第１２回　日本の社会福祉に影響を及ぼした人物①
【key words】
＜key words＞

【授業概要】
＜授業概要＞

【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回同様
【予習復習に必要な想定時間】
前回同様

第１３回　日本の社会福祉に影響を及ぼした人物②
【key words】
＜key words＞

【授業概要】
＜授業概要＞

【教科書ページ・参考文献】

	＜教科書＞ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回同様 【予習復習に必要な想定時間】 前回同様 第１４回　日本の第二次世界大戦後の社会福祉 【key words】 ＜key words＞ 占領下の社会福祉、高度経済成長、社会福祉基礎構造改革 【授業概要】 ＜授業概要＞ 戦後の日本の社会福祉制度の流れをみる 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回同様 【予習復習に必要な想定時間】 前回同様 第１５回　今日の社会福祉の動きーまとめ 【key words】 【授業概要】 まとめ 質疑応答 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・教科書を必ず持参すること ・予習復習を行うこと ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生に迷惑になる行為は行わないこと
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業のなかで必要に応じて伝える
オフィスアワー	授業のなかで伝える
評価方法	期末試験　８０％　　授業の中での質問等での参加など取り組み状況等　２０％
教科書	清水・朴　編著「よくわかる社会福祉の歴史」　ミネルヴァ書房
参考書	授業のなかで適宜伝える
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 心理学研究法　　授業コード：S3051

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
長谷川　貴之			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 心理学で用いられている研究法の共通する基礎的知識・考え方を理解させる. 【到達目標】 実験法・調査法・観察法・面接法の概容を理解させる. 研究を「公表する」ときのルールを理解させる.
授業の概要	本講義では，心理学研究入門としての技能・技術の最低限の基盤知識を紹介し，基本的な考え方を理解してもらう．更に，心理学における研究法である実験法・調査法・観察法・面接法の概要を紹介し，特徴を理解してもらう．また，研究結果を公表するということに関して，客観的・倫理的な観点からの理解を共有してもらう.

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画

第１回　ガイダンス・心理学とは何か

【key words】
心理学　心　意識現象　意識　行動　実証的科学

【授業概要】
心理学の定義，心理学を研究することの難しさ，心理学を研究することの面白さ.

【教科書ページ・参考文献】
pp. i～iii, v, 1～7 (序章)

【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える.

【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に.

第２回　心理学のなりたち：心理学史

【key words】
アリストテレス　還元主義　ダーウィン　進化論　比較心理学　ヴント　近代心理学　内観法　ゲシュタルト心理学　行動主義　フロイト　精神分析　社会心理学　認知心理学　バンデューラ　社会的学習理論　公認心理士

【授業概要】
心理学と哲学，心理学と医学，心理学と生物学，近代心理学の創始とその発展，第二次大戦後の心理学，日本の心理学.

【教科書ページ・参考文献】
pp. 10～24 (第1章)

【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える.

【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に.

第３回　研究の準備：心理学研究の基礎知識

【key words】
概念　定義　概念的定義　操作的定義　妥当性　信頼性　誤差　系統誤差　偶然誤差　相関　因果　共変　変数　独立変数　従属変数　操作　剰余変数　交絡　統制
【授業概要】
概念的定義と操作的定義，信頼性と妥当性，相関と因果，さまざまな変数.
【教科書ページ・参考文献】
pp. 25～36（第2章）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に.

第４回　研究の準備：先行研究の探し方

【key words】
J-STAGE　メディカルオンライン　CiNii Articles　PsycARTICLES　PsycINFO　KAKEN（科学研究費助成事業データベース）
【授業概要】
リサーチ・クエスチョン，巨人の肩の上に立つということ，先行研究レビューの意義，先行研究の収集法：概論，心理学の研究論文に触れる，心理学の研究テーマを知る，さあ，歩きはじめよう.
【教科書ページ・参考文献】
pp. 37～52（第3章）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に.

第５回　研究の基礎：研究法概説

【key words】
実験法　統制群　要求特性　実験者効果　調査法　質問紙　尺度　評定法　内的一貫性　時間的安定性　オンライン調査　観察法　自然観察　実験的観察法　参与観察法　逸話記録法　行動目録法　生態学的妥当性　面接法
【授業概要】実験法，調査法，観察法，面接法.
【教科書ページ・参考文献】
pp. 53～65（第4章）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に.

第６回　研究の基礎：人間を対象とする測定における諸問題

【key words】
参加者効果　要求特性　社会的望ましさ　デセプション　デブリーフィング　キャリーオーバー効果　実験者効果　二重盲検法　努力の最小限化　IMC　生態学的妥当性
【授業概要】
参加者効果，実験者効果，努力の最小限化，生態学的妥当性との両立.
【教科書ページ・参考文献】
pp. 66～78（第5章）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に.

第７回　データの中身を知る：記述統計

【key words】
変数　尺度　測定　比率尺度　間隔尺度　順序尺度　名義尺度　心理尺度　度数分布　ヒストグラム　代表値　平均　外れ値　中央値（メディアン）　最頻値（モード）　散布度　分散　標準偏差　四分位範囲
【授業概要】
数値データの利点，尺度，記述統計.
【教科書ページ・参考文献】
pp. 79～90（第6章の前半）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に.

第８回　データの中身を知る：記述統計／データから対象を見通す：推測統計

【key words】
標準化　標準得点　z値　偏差値　相関　散布図　相関係数　連関　疑似創刊　選抜効果　母集団　標本（サンプル）　推測統計　無作為抽出（ランダムサンプリング）　サンプルサイズ　標本統計量　標準誤差
【授業概要】
記述統計，推測統計とは，標本抽出に伴う結果の変動.
【教科書ページ・参考文献】
pp. 90～101（第6章の後半，第7章の前半）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に．

第９回　データから対象を見通す：推測統計

【key words】
統計的仮説検定　帰無仮説　有意水準　有意確率（p値）　第１種の過誤　第２種の過誤　検定力　効果量　検定力分析　ベイズ統計学　事前確率　尤度　事後確率　事前分布　事後分布　ベイズファクター
【授業概要】
統計的仮説検定，統計的仮説検定における2種類の誤り，効果量と検定力分析，ベイズ統計学の基本的考え方．
【教科書ページ・参考文献】
pp. 102～111（第7章の後半）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に．

第１０回　研究倫理：研究者として「なすべきこと」

【key words】
インフォームド・コンセント　デセプション　デブリーフィング　倫理審査　ＩＲＢ
【授業概要】
エシックスの基本的な考え方，最小限のコストやリスク，説明責任，個人情報・データの保護，成文化されたエシックス，倫理審査
【教科書ページ・参考文献】
pp. 113～124（第8章）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に．

第１１回　研究倫理：研究者として「やってはいけないこと」

【key words】
問題のある研究実践　仮説の後づけ（HARKing）　後知恵バイアス　偽陽性　確証バイアス　p値ハッキング（p -hacking）　出版バイアス　「お蔵入り」問題
【授業概要】
モラルとしての研究倫理，研究者が陥るかもしれない「地獄」，仮説の後づけ（HARKing），p値ハッキング（p -hacking），蔓延するQRPs.
【教科書ページ・参考文献】
pp. 125～134（第9章）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に．

第１２回　研究倫理：モラル違反を抑止するシステム

【key words】
再現可能性　透明性　開放性　付録　事前登録制度
【授業概要】
研究結果の再現可能性，心理学界で起こった問題，システムの整備，心理学研究の「パラダイムシフト」．
【教科書ページ・参考文献】
pp. 135～148（第10章）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に．

第１３回　研究成果の公表：心理学論文の書き方・その１

【key words】
表題　問題と目的（序論）　方法　結果　考察　引用文献　要約　付録　テクニカル・ライティング
【授業概要】
論文のアウトライン，論文の文章表現．
【教科書ページ・参考文献】
pp. 149～159（第11章の前半）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に．

第１４回　研究成果の公表：心理学論文の書き方・その２

【key words】
アメリカ心理学会のマニュアル　執筆・投稿の手引き（日本心理学会）　心理科学実験実習 レ

	ポート作成 チェックリスト（関西学院大学心理学研究室） 【授業概要】 図表，全体的なチェック，心理科学実験実習 レポート作成 チェックリスト． 【教科書ページ・参考文献】 pp. 160～170（第11章の後半） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える． 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習の時間は，３時間を目安に． 第１５回　よりよい心理学研究のために 【key words】 確実性　意外性　学術的価値　社会的価値 【授業概要】 「研究」するということ，よい研究とは何か，心理学研究への船出． 【教科書ページ・参考文献】 pp. 171～176（終章） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足して，学期末試験に備える． 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習の時間は，３時間を目安に．
受講生に関わる情報および受講のルール	コメントカードの提出を義務付ける．
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	予習・復習にかける時間は，３時間を目安にし，教科書の該当部分は必ず事前に通読しておく．
オフィスアワー	原則として，毎回授業終了後に質問・学習相談等に応じる．
評価方法	学期末試験が約６割，コメントカードが約４割．合計で60%以上が合格点．
教科書	三浦 麻子（監修・著）『なるほど！心理学研究法』北大路書房，2017，ISBN 978-4-7628-2966-6
参考書	講義の中で適宜紹介する．
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 学習心理学（学習・言語心理学）　　授業コード：S3061

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
調整中			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 学習・言語心理学を学ぶための基礎知識習得を目的とする。 【到達目標】 レスポンデント条件付け・オペラント条件付け・観察学習、初期の言語発達に関する概念説明ができる。 学習心理学、言語心理学に関連した専門用語、学習のプロセス等に関する知識を得ることができる。
授業の概要	本講義では、初学者が対象であることを念頭に、学習心理学で見出された研究の解説を体系的に行う。内容としては、学習の基本的メカニズム、レスポンデント条件づけ、オペラント条件づけ、概念学習、言語発達、社会性の発達などを取り上げる。理解をより深めるために、演習および小テストの実施を予定している。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　心理学における学習とは 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　学習心理学における研究法 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３回　行動の観察と記録 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第４回　行動の測定とグラフ化

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第５回　強化

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第６回　消去

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第７回　分化強化

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第８回　弱化

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第９回　刺激性制御

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　レスポンデント条件づけ

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　先行子操作

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回　ことばの発生 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回　言語の発達 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回　コミュニケーションの発達 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　まとめ 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１６回　到達テスト 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 　小テストが２回予定される。講義の最後に授業内容に関するコメントカードを作成して提出することが求められる。 〔受講のルール〕 　配布資料を冊子としてまとめておくこと。理解度把握のため、資料持参のチェックが行われる場合がある。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教科書はもとより、講義中に配布した資料は各自で復習すること。
オフィスアワー	授業開始２週目に指示する。
評価方法	コメントカード（20%）、小テスト１（20%）、小テスト２（20%）、到達テスト（40%）、授業内発言（追加点）
教科書	実森 正子 ・ 中島 定彦（著） 学習の心理―行動のメカニズムを探る（コンパクト新心理学ライブラリ　2） サイエンス社　2000
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 　□実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 　□PBL(課題解決型学習)

	■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 発達心理学　　授業コード：S3071

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	4単位(60)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
橋本　広信			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 人は人として生きるように独自の準備をして生まれてくる。しかし、ただ生まれただけでは、「ヒト」として普通に生きていくことは不可能である。人は人として生きるために、誕生後に多くの変化を遂げることを前提に生まれてくるのである。しかも、その変化は一人で達成できるものではなく、親を代表とする周囲の環境との相互作用において、はじめて成しうる形になっている。本講義では、こうした人の生涯（Life）の中で起こる絶え間ない変化を”発達”として捉え、そこに潜む発達のメカニズムを学ぶことを第一の目的とする。 また、その理解を通して、人が経験する出来事や変化が、人生全体（生涯発達）においてはどのような意味を持つのかについて、その影響の仕方を理解する感性と力を磨いてもらいたい。その力が、今目の前にいる人に対してどのような支援が必要なのかを適切に理解する前提となるからである。 【到達目標】 ①人の発達的変化における心理的過程とその基本的なメカニズムを理解できる。 ②人の発達的変化を踏まえたうえで、各発達段階において顕著になる心理的特性を理解できる。 ③生涯発達の枠組みから見た各段階における心理的変化の意味や意義を理解し、各段階で人が背負う発達上の課題を説明することができる。
授業の概要	この授業では基本的に教科書のトピックに即しながら、生涯発達心理学の視点に立って各発達段階の一般的な心理的特性と発達的変化の過程を学習する。さらに、提示する参考資料を基に学習したことを応用し、具体的な人物の心理や発達的変化の意味や意義を考察し、学習の理解を深めていく。各自、“人”という存在に興味を持ち、積極的に人とその人生を探究する気持ちを持って受講してもらいたい。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　　科目オリエンテーション　ヒトとして生まれるということ 【key words】 【キーワード】 ・進化、遺伝と環境、シュテルン、輻輳説、ジェンセン、環境閾値説、ルクセンブルガー、ライフサイクル、エリクソン、心理社会的危機 【授業概要】 ・科目のオリエンテーションを行う。1年間をかけながら「発達に関する心理学」を学ぶ見通しについて説明する。そして、人の連続的な変化の様相を「発達」としてとらえる見方について解説する。 ・また、あらゆる人が、誰かの子として生まれ、そこで育ち、どこかの社会に入り込み、やがて死と向き合いながら老いていくという基本的なライフサイクルを進む“旅”をしているというイメージについて考え、今後の学習課題のイメージを広げ、共有していく。 （予定ワーク「生まれてから死ぬまでの一生涯をいくつかの時期に分けるとするならば、どのように分けるか。また、そのように分けた理由を説明できるようにしておくこと。」） 【教科書ページ・参考文献】 ・教科書1－7ページ

【課題・予習・復習・授業準備指示】
①「ヒトの一生」をイメージしＡ４用紙に絵で表現する。余白に解説を加えること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第２回　発達するとはどういうことか？

【key words】
発達観、寿命、バルテス、生涯発達、獲得と喪失、可塑性、個体発生、系統発生、ドーキンス、環境適応、社会脳仮説、
【授業概要】
・はじめに発達観の変化を考える。人の寿命は他の動物と比較して非常に長くなっているが、その変化がもたらすことを通して、ヒトの発達の独自性について考えていく。
・また、上記のように、大人になるまでが発達ではなく、一生の変化のあり方を考えるのが生涯発達心理学であるということを理解する。
・さらに、遺伝子の世代間伝達と文化の世代間伝達について、ドーキンスの考え方について紹介し、生物の変化の基本原理である、「環境適応」の考え方を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書8-16ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ドーキンスという人物と、「利己的な遺伝子」という言葉について調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第３回　ヒトの発達の独自性とは　子ども時代がなぜ長い？

【key words】
自己意識、共同注意、ポルトマン、離巣性、就巣性、生理的早産、祖母仮説、ブロンフェンブレンナー、生態学的システム理論、遺伝子型、表現型、双生児法、共有環境、行動遺伝学、
【授業概要】
・ヒトの発達の大きな特徴は、子ども期の長さにある。それが、どのような意味や意義をもっているのかを、他の動物との比較もしながら、学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書18-27ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
行動遺伝学について調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第４回　生命の芽生えから誕生まで

【key words】
胎児、胎芽、感覚、出生前診断、トリソミー、新優生学
【授業概要】
・ヒトの「胎児期」の発達状態についてまず学習する。ヒトとしての発達は受精直後からスタートするといえるが、時にはその時点での環境や発達上の問題が大きく人生を左右することを理解する。また、生まれた時に“本能的にできる”こと（原始反射・原始行動）を学び、それを備えて生まれてくることの意味を考えていく。
・後半は、出生をめぐる現代的な問題として、新型出生前診断がもたらす影響について検討し、「新優生学」について考えていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書28-41ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
範囲が広いので、あらかじめ上記部分を熟読し、用語も調べておくこと。新優生学については、大きな問題でもあるので、興味を持って、授業後にも学びを広げてほしい。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第５回　見て・さわって・感じる①　赤ちゃんがとらえる世界

【key words】
タブラ・ラサ、選好注視法（ファンツ）、馴化ー脱馴化法、期待背反法、原始反射、原始行動、視覚的断崖（ギブソン）、運動発達の順序、感覚協応、発達性協調運動障害
【授業概要】
・人が生まれた時にはどのような状態であるのか、また、歩き話せるようになるまでの1年程度の間にどのような発達を遂げていくのかについて概観する。また、人が特殊な未成熟状態で生まれてくることを確認し、それが親子の関わりを育むあり方について考えていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書42-50ページ（抜粋）　プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
言葉がわからず運動ができない赤ちゃんの心について研究する方法について調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第６回　見て・さわって・感じる②　赤ちゃんがとらえる世界

【key words】
表象、対象の永続性、サビタイジング、顔の認知、ピアジェの認知発達理論、シェマ、同化、調節、均衡化、操作、感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期、脱中心化、三つ山問題
【授業概要】
・子どもが感じている感覚的な世界と大人の感じる世界の違いについて、ピアジェの理論を通して学んでいく。また、そこに見られる「子どもらしさ」というものがもたらす認知の特徴について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書43-53ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ピアジェとその理論について予習しておくこと。
・子どもらしい認知の世界がうまく表現されている映画、小説、アニメ、絵本などを調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

	第７回	他者との関係性を築く① 【key words】 ・ベビースキーマ、共鳴動作、生理的微笑、社会的微笑、デュシェンヌ・スマイル、ボウルビィ、愛着（アタッチメント）、ハーロウ、エインズワース、ストレンジシチュエーション法、Ａ～Ｄ型 【授業概要】 ・赤ちゃんとして生まれた時の特徴を踏まえ、それらが引き出す大人の反応を理解する。また、誕生と同時に、それぞれの個性を持った赤ちゃんと親の間に、強い関係性が生じるが、それらの型がどのように発達に影響を及ぼしていくかについて、新規場面法の実験を通して理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書54-62ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 愛着についてよく調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第８回	他者との関係性を築く② 【key words】 内的作業モデル、愛着障害、分離不安、見捨てられ不安、発達障害、リスク要因、プロテクト要因、レジリエンス 【授業概要】 ・内的作業モデルについてまず学び、外からは見えにくい親子のあり方の及ぼす影響を理解する。また、うまく親子の深い親密な関係性を作れていない場合に生じると予想される、様々な心理的課題や問題について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書64-68ページ、プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 愛着障害についてよく調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第９回	「いま」「ここ」をこえて①：言語と遊びの発達 【key words】 スターン、表象、延滞模倣、象徴機能、シンボル、ふり遊び、ごっこ遊び、構音、クーイング、規準喃語、共同注視、共同注意、9カ月の奇跡、社会的参照、指さし行動（要求、叙述、応答）、初語 【授業概要】 ・言葉を持たずに生まれてきた赤ちゃんの世界は感覚的な世界として成り立っていると推測されるが、そこに言葉というものが入り込むプロセスを見ていく。また、単純ではあるが、一つの言葉を備えることによって、子どもの世界がどのように広がり、変化をしていくかについてイメージをできるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書69-76ページ、プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 言葉の発達の基本について、その流れをあらかじめ予習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第１０回	「いま」「ここ」をこえて②：言語と遊びの発達 【key words】 ・語彙爆発、統語、談話（ディスコース）、語り（ナラティブ）、足場かけ、鏡映文字、外言、内言、ビゴツキー、遊び、機能遊び、象徴遊び、役割遊び、パーテン、並行遊び、連合遊び、協同遊び 【授業概要】 言葉そのものの発達によって広がる知的感覚的世界と、それに伴って広がっていく、子どもの遊びの様相について学んでいく。子どもの遊びの背後にある、知的感覚的世界を理解することで、何が育っているか、何を使っているかを理解できるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書76-83ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・子どもの頃の自分の遊びについて振り返り、どんな遊びをしていたか書き出しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第１１回	自分を知り、自分らしさを築く①：関わりの中で育まれる自己 【key words】 主体としての自己、客体としての自己、ダブルタッチ、生態学的自己、対人的自己、マークテスト、第1次反抗期、自己主張期、原初的感情、自己意識的感情、他者意識的感情、良い子 【授業概要】 ・生まれた時には、ヒトはおそらく自分がどのような人間なのかなどということを考えることさえできない。しかし、毎日の暮らしの中で積み上がっていく体験や感覚的世界の中で、やがて身体で感じる感覚、心に湧き出る感情などを通し、ある時「自己」というものの存在に気づく。ここでは、乳幼児期の自己の発達の様相を見ていくことで、ヒトらしさの元ともなる自己意識の形成過程を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書84-91ページ、プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書該当部分を熟読しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第１２回	自分を知り、自分らしさを築く②：関わりの中で育まれる自己 【key words】 自己概念、概念的自己、拡張自己、自己抑制、自己制御、自己主張、エフォートフル・コントロール、マシュマロ実験、自我耐性 【授業概要】 ・自己を客体として見ることができるようになり、自分の経験を表現する手段である話し言葉が

		発達するに伴い、子どもは自分の内面に注意を向け、語り、自分がどのような人であるのかを形にしていく。こうして育つ自己概念は、やがて家庭という閉じた場だけではなく、社会との関係で調整を余儀なくされながら、子どもに自分と社会を調和させる抑制力を育てていく。ここでは、子どもがこうした過程を経る中で、様々な個性を形成することを学び、時としてそれがその後の人生に大きな影響を及ぼすことを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書91-97ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書該当部分を熟読しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第１３回	思考の深まり①　学校での学び 【key words】 9歳の壁、10歳の壁、記憶、短期記憶、長期記憶、手続き記憶、宣言記憶、エピソード記憶、意味記憶、記憶術、ワーキングメモリ（作業記憶、作動記憶）、長期記憶、記憶の処理水準、分散効果 【授業概要】 ・自分や世の中を漠然とでも捉える力がついた子どもたちは、やがて、社会に出ることを前提にした教育を一斉に受ける段階に入っていく。この長い学校時代において、学ぶ力は大きく子どもの人生に影響を及ぼすといえる。ここでは、学びの基礎ともなる記憶の基本的メカニズムを学び、思考を支える基盤を理解する。そして、そこに何が刻まれるかということが、その後の人生にどのような影響を及ぼすかについても考えてみたい。 【教科書ページ・参考文献】 教科書110-118ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分がテスト前などに、どのように記憶をしようとしているか、振り返って説明できるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第１４回	思考の深まり②　学校での学び 【key words】 内発的動機づけ、外発的動機づけ、アンダーマイニング効果、エンハンシング効果、メタ認知、コグニティブ・トレーニング 【授業概要】 思考の広がりを支える基盤ともなる動機づけについて学ぶ。何が促進し、何が阻害するかに関する基本理論を理解し、積極的な学習を引き出す方途を探る。また、思考の深まりを左右する大きな要因としての、メタ認知の問題を理解し、認知の力を引き出すための具体的方法を体験しながら学んでいく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書118-123ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 コグニティブ・トレーニングを調べておくこと。できれば宮口幸治の本を調べて読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第１５回	エリクソンのライフサイクル論（児童期まで） 【key words】 エリクソン、エピジェネティック・チャート、基本的信頼、自律性、勤勉性、コンピテンシー等 【授業概要】 ・前期のまとめとして、誕生から死に至るまで、関連し合いながら一連の継続する発達過程を進むとしたエリク・エリクソンのライフサイクル論を学ぶ。ここでは、8段階あるエリクソンの発達理論の前半4段階を学びながら、これまで学んできたことを振り返り、まとめの課題を解説していきます。 【教科書ページ・参考文献】 プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「子ども時代とは、どのような時代なのか」を語り合えるように、あらかじめ考えておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第１６回	子どもからの卒業①　青年期の身体的成熟と精神的未成熟 【key words】 思春期スパート、第2次性徴、自己評価、自我体験、青年期の自己中心性、想像上の観客、個人的寓話、自身焦点 【授業概要】 ・児童期までの土台の上に、徐々に自分の将来を描く作業に取り組み始めるのが、社会に入っていくための準備期間ともいえる青年期である。後期は青年期から一生涯の発達について見ていくが、まずは「子どもの終わり」に対処するという観点からこの時期の意義について考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書124-129ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「自我体験」について調べ、そうした体験がうまく表現されている作品などについて調べ、できればその場面をコピーしたり、文章で説明できるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第１７回	子どもからの卒業②　青年期の友人関係と恋愛関係 【key words】 ・ホール（Hall,S.）、疾風怒涛、ジェンダー、形式的操作、第二反抗期、青年期年期平穏説、友人の機能、チャムシップ、恋愛、恋愛スタイル 【授業概要】 人生の十字路ともいえる青年期には大きな選択や変化を体験する。動揺することによって、新たな大人としての自己を生む過程において、自己を互いに支え合う仲間である友人の役割が大きくなる。また、そうした親密な関係づくりを通して、異性との出会いや関係の基本的スタイルも出来上がるといえる。ここでは、友人関係と恋愛関係のあり方の中に見える、青年期の心理につい

て学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書130-136ﾍﾟｰｼﾞ、プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
友情や恋愛感情がうまく表現されていると思われる作品を探して、説明できるようにしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第１８回　子どもからの卒業③　青年期の親子関係
【key words】
親子関係、脱衛生化、心理的離乳、共依存
【授業概要】
子どもから大人への過渡期である青年期には、親子の関わりが再び重要なテーマにもなってくる。自立に向けたプロセスにおいて、かつて青年期を経験した親との間に、どのような関係が浮かんでくるか。ここでは、心理的離乳という言葉を手掛かりに、子どもが親の力も借りながら、親からも卒業し、一人の人として自立するステップについて理解していく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書136-139ﾍﾟｰｼﾞ、プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
心理的離乳について調べておくこと。また、自分の日ごろの親子の関わり方について振り返っておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第１９回　大人になるために　アイデンティティ・クエスト
【key words】
アイデンティティ、アイデンティティ拡散、アイデンティティ・クエスト、マーシャのアイデンティティ・ステイタス、モラトリアム
【授業概要】
・青年期の変容過程の先に、自分がどのような人であるか、自分のパーソナリティがだんだん明確になってくる。自分が誰で、どのような人間であるべきかという意識の核にあるアイデンティティの課題について、エリクソンのアイデンティティ理論やマーシャの理論に基づいて学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書140－144ﾍﾟｰｼﾞ、プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
指定する人物について調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第２０回　青年期の危機と問題行動
【key words】
・反社会的行動、非社会的行動、
【授業概要】
・青年期の変容過程においては、進むべき道を見失ったり、自分がわからなくなったり、様々な混乱をを体験することが多くなる。少年院での事例などをもとに、人生を前に向かって進めなくなる青年たちの多くが体験する問題を整理し、何が本質的な課題であり、そこから進むために必要な支援は何かを探索する。
【教科書ページ・参考文献】
プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
非行の問題について、特に少年院について調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第２１回　青年期の危機と精神病理
【key words】
不安神経症、パーソナリティ障害、自傷、摂食障害、境界性人格障害、アタッチメントの問題、創造的退行
【授業概要】
・青年期には様々な形で、「病的」な状態になることが増え、「精神障害」や「精神疾患」のように、医療の対象になる状態になるものもあることを理解する。ここでは、精神病理として表現される青年期の危機の様相を学びながら、その症状の奥に横たわる「自立」や「アイデンティティ形成」上の課題を捉える視点を学びます

【教科書ページ・参考文献】
プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・できる限り映画か小説で「17歳のカルテ」を見ておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第２２回　職業選択とキャリア発達
【key words】
・親密　対　孤立、ジェネラティビティ　対　停滞、スーパーのキャリア理論、ロストジェネレーション

【授業概要】
・社会人としての責任を負い始めることで、青年は自らの青年期を終わらせ、徐々に「成人」としての自分を生き始める初期成人期の課題について理解していく。社会人としての経験が浅い中で「役割」を求められる中で、「未解決の課題」が浮かび上がり、青年期以前の問題と向き合う必要性が出てくるプロセスなどを理解することで、初期成人期の課題の捉え方を深めます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書144-149ﾍﾟｰｼﾞ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
働くことが、収入の確保以上に何をもたらすかについて、考えておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第２３回　家庭生活における発達

【key words】
結婚、婚姻制度、性役割観（ジェンダー）、親密性、機能不全家族
【授業概要】
・エリクソンのライフサイクル論における、成人期の課題について、特に親密性（intimacy）という言葉を通して学んでいく。また、成人期の大きな課題として多くの人が向かい合う、自分自身が新たな家族を形成するという課題について学び、家族の機能と機能しない家族の淵源について理解を深めます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書149-157ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分自身の性役割観について調べておくこと。また、結婚についての制度に関し、意見を述べられるように準備しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第２４回　関わりの中で成熟する　成人期

【key words】
世代性（ジェネラティヴィティ）　対　停滞、現代女性のライフサイクルの木、アロマザリング、子どもの自立支援、老親の介護や看取りの問題
【授業概要】
・エリクソンンによる成人期の見方を基礎としながら、親となった大人が自己の内部に抱いている心理的な問題と向かい合う様相について学ぶ。また、大人としてのライフコースの選択の幅の広がりや、孤立した子育ての問題など、現代を生きる大人の問題について概説する。特に、世代と世代のライフサイクルのつながり合いについて理解を深めていきます。
【キーワード】
・コンステレーション、愛着、内的ワーキングモデル、虐待、世代間連鎖
【教科書・参考文献】
・（145-147ページ）
【課題・予習・復習・授業準備】
・資料を読み切る時間がないので、授業後に熟読しておくこと
【アクティブラーニング】
・
【教科書ページ・参考文献】
教科書158-172ページ、プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートに沿って、自分の親とその親について、簡単なインタビューをしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第２５回　中年期の発達と危機、そして再生へ

【key words】
・家族星座、コンステレーション、愛着、内的ワーキングモデル、虐待、世代間連鎖
【授業概要】
・かつてはあまり注目されなかった、大人になってからしばらく生きたがために生じてくる「中年期の危機」とその意義（再生）について学んでいく。中年期以降に、老いや社会的引退に向かって進む自己を自覚し始めるとき、再び問い直される人格のあり方と、その問い直しの意味について、ユングの「個性化」の理論を手掛かりに考えていく。

【教科書ページ・参考文献】
プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・中年期の危機を描いた映画を提示する。できる限り視聴しておくこと（『マディソン郡の橋』『アメリカン・ビューティ』『海辺の家』など）。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第２６回　人生を振りかえる①

【key words】
・エイジズム、加齢、超高齢期、バトラー、ライフレビュー、サクセスフル・エイジング、役割の喪失、時計の時間、心の時間

【授業概要】
・ライフサイクルの最終段階である老年期の発達の特徴について、「老い」に注目しながらその基本的傾向について解説をしていきます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書173-184ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・松島恭子編（2004）『ライフサイクルの心理療法』（創元社）の「私の終わりとの対話」（プリント）藤子不二雄『未来ドロボウ』
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第２７回　老年期の危機と統合

【key words】
・統合　対　絶望、老賢者、生き生きとした関わり合い、相互性（ミューチュアリティ）
【授業概要】
・老年期には、「これまで生きてきた私と再び向き合い直す」という発達上の課題があり、人によりこの過去との向き合いの中に、さらなる「危機」を体験することを学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
映画『ストレイト・ストーリー』をできる限りあらかじめ視聴しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

	第２８回　死への対応：死に対する態度と準備 【key words】 統合　対　絶望、グリーフケア、モーニングケア 【授業概要】 ・老年期の最終盤の心の仕事は、死んでいくこととともいえる。それは、その日その瞬間が車で、生きている限り生き続けていくことだともいえる。数々の心身の不調や不安に襲われながらも、自己を統合し続けていくという老年期の心理的課題を理解するために、ある夫婦がそれぞれの最晩年を過ごした時間を捉えた映画を通して、リアリティのある老年期の姿を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 プリント　映画を視聴する予定 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指定する映画のあらすじを調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習3時間 第２９回　統合しきれない物語　ライフクリプトについて 【key words】 語れない物語、ライフクリプト、グリーフケア、モーニングケア、ＰＴＳＤ、ＰＴＧ 【授業概要】 ・長い人生を生きていく中では、人それぞれに、誰にも語ることのできない物語を抱え込むことが予想される。笑顔の奥に潜む、心の傷や負の記憶などを抱えて生きることの意味を理解し、そうした思い出を含めて、まるごと人を支える態度の大切さを解説する。 【教科書ページ・参考文献】 プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指定した論文をもとに授業を行う。人によって、誰にも語れない物語を抱えていくことを前提に、そのようなことが描かれている作品を探して説明できるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習2時間 第３０回　まとめ　”私”のライフサイクルが閉じる時 【key words】 終末期の死のプロセス、キューブラー＝ロス、お迎え体験、スピリチュアル・ペイン、延命治療と尊厳死、ライフサイクルの完結 【授業概要】 ・老年期に至り、「死」が現実のものとして意識されてくると、自分の人生を閉じるということが、リアリティをもつテーマとなります。 ・発達心理学の最後のテーマは、長い時間を築き上げてきた「私」の時間が終わることについて考える。映画の架空の物語を一つの題材として、「私が死んでいく」ということに対する意識や、死の瞬間について学び、本講義のまとめとする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書185-189ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 映画『ワンダフルライフ』をできる限り視聴しておくこと。最低限あらすじを調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・人生初期から終末期に至るまで長期間の発達を扱う。人の生涯全般に興味を持ち、人生そのものを深く考える姿勢を求める。 ・各発達段階の講義終了時などに、「まとめ課題」「調べ課題」など、ミニレポートの提出を求める予定。 〔受講のルール〕 ・遅刻、居眠り、飲食等はせず、集中して受講すること。 ・他の受講生の迷惑になる行為（私語等）や指示のない中での情報通信機器の操作はしないこと。 ・勝手な振る舞いなど、講義の妨げになる行為を繰り返す場合、退出を命ずる。この理由での退出は欠席扱いとするので注意すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	資料を配布するシステムのスレッドに返信する形で、各授業終わりにコメントを入れておくこと。出席の確認のためにも行うので、必ず学籍番号と名前を入れて、コメントを書き込んでおくこと。
授業外時間にかかわる情報	授業ごとの授業計画で、授業の前に調べておくことや授業後に整理すべきこと等の課題を課し、授業外学習を求めることがある。事前にシラバスをもとに何をすることを求められているかについて理解をし、準備や事後学習をすること。
オフィスアワー	高等教育支援センターにて授業後３０分（木：17時30分～18時00分）を予定。その他センターにて声をかけること。メールでの相談や質問も受け付ける。hashimoto@shoken-gakuen.ac.jp
評価方法	①前期後期の期末に実施する到達度を見る試験（80%）、②授業時に指示をする「まとめ」もしくは「調べ」課題（レポート課題等）に関する総合評価（20%）、これら①～②を合わせて総合評価を出し60%以上の評価得点のものを単位認定する。レターグレード（S・A・B・C）については、本学基準に沿って算出する。
教科書	坂上裕子・山口智子・林　創・仲間玲子（2014）『問いからはじめる発達心理学』（有斐閣）
参考書	適宜指示をする
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート

	■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ネット上で公開されている動画などの視聴をあらかじめ義務付け、授業の前提とする内容の回を設ける。

講義科目名称： 教育心理学（教育・学校心理学）　　授業コード：S3111

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース・選択／福祉心理コース・学校教育コース・必修
担当教員			
橋本　広信			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。 【到達目標】 ①発達段階や個人差を前提にした、適切な教育のあり方を理解する。 ②学校や園での教育を中心とした、発達と教育に関する心理学の基礎知識を修得する。 ③学習方法や指導法や教授法、学びや認知の過程の理解を深めることで、よりよい教育の成立のために必要なことについて理解し、説明できる。
授業の概要	発達段階や個人差を心理面からよく理解した上で、一人一人の子どもに対する適切な教育のあり方について、これまでの教育心理学の成果をふまえて考えていく。また、学校を中心とする子どもたちの集団での学びおよびその学びの場で、幼児、児童及び生徒が出会う発達上の課題や教育上の問題について理解する。 　本講義では、学生自身の体験を自ら振り返りながら、よりよい教育的な関わりとはどのようなことなのか、話し合う機会も多く設けたい。また、子どもが体験する具体的な学習項目も挙げながら、幼児、児童及び生徒の学習や認知的プロセスの傾向性を理解し、個に応じた指導や多様な教授法の基本となる考え方を理解する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	発達と教育科目オリエンテーション：教育心理学を学ぶことの目標 【key words】 獲得と喪失、ナチュラル・ペダゴジー説、促進的教育、発達の再近接領域（ヴィゴツキー）、足場かけ 【授業概要】 科目オリエンテーションとして、発達と教育の関係性を学ぶ。特に、人の営みとしての「教育」がもつ特殊性の理解から、人が集団で社会を形成して生きる道を選んだこと、そこでの教育の可能性をいかに考えるかということが、「教育」の効果を左右する要因となる点などについて理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書2-16ページ（教科書第1章） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ヴィゴツキーという人物について調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第２回	認知の発達 【key words】 ピアジェ、シェマ、同化と調節、感覚運動期、前操作期、象徴的思考段階、直観的思考段階、具体的操作期、形式的操作期 【授業概要】

ピアジェが考えた認知発達のプロセスを理解する。子どもがどのように世界と自分を理解し、大人とどのように異なるのかを考える。また、ピアジェ以後の研究でわかってきたことや、関わり合いの中で子どもを見ることの重要性について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書17-29ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ピアジェの認知発達理論について予習を行っておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第３回　学習の理論
【key words】
パブロフ、古典的条件付け、スキナー、オペラント条件付け、バンデューラー、観察学習、状況論的アプローチ（ヴィゴツキー）、正統的周辺参加、状況に埋め込まれた学習
【授業概要】
行動論、認知論、状況論という三つの立場から、学習はそれぞれどのようにとらえられるのかについて学ぶ。様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を学びながら、どのようなことが起これば学習が成立したと考えるべきなのかについて検討する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書32-44ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
パブロフとスキナーの考え方の違いについてよく理解するために予習をすること。レイヴとウェンガーの「正統的周辺参加」の概念は難しいので、あらかじめ予習をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第４回　知識の獲得と問題解決
【key words】
選択的注意、短期記憶、ワーキングメモリー、長期記憶、チャンク、リハーサル、体制化、精緻化、宣言的記憶、非宣言的記憶、意味記憶、エピソード記憶、手続き記憶、問題解決、洞察
【授業概要】
日々の学習は記憶として脳内に保存される。ここでは、子どもの日々の学びがどのようにして記憶として蓄積されるのか。記憶のメカニズムを理解し、子どもの知識獲得や問題解決のプロセスの土台を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書45-51ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
記憶は特に重要な部分なので、よく復習をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第５回　学習への意欲と動機づけ
【key words】
マズロー、ケンリック、内発的動機づけ、外発的動機づけ、自己調整学習、アンダーマイニング効果、エンハウンシング効果、期待価値論、学習性無力感、達成目標理論
【授業概要】
学習のあり方を左右する要因としての「動機」に注目する。動機の背景に潜む欲求をマズローの欲求階層説をもとに整理する。また、動機づけの代表的分類である内発的動機づけと外発的動機づけについて取り上げる。また学習への動機づけの強さと、個人のコンピテンスや自己効力感、原因帰属との関係についても学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書52-66ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学習に関する思い出を掘り起こし、「やる気が出た」状況と、「やる気を失った」状況を挙げておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第６回　協働学習
【key words】
協働学習、他者の影響、バズ学習、ジグソー学習、
【授業概要】
学習に関する理論を学んだところで、ここでは他の学習者とともに学ぶことの意義や教室の中でそのような学習が行われる方法について学ぶ。特に、教室の中でグループを作って学ぶ方法の特徴について学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書67-73ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループ学習などの体験を振り返り、仲間と共に学習をする形態のメリットとデメリットをあらかじめ箇条書きにして、発表できるようにしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第７回　授業のタイプ
【key words】
発見学習（ブルーナー）、有意味受容学習、プログラム学習、ICTの利用、反転授業
【授業概要】
教室で行われる授業について、学習過程に注目して分類できることを理解する。特に、学習を有意味なものとしてとらえるのか、機械的なものとしてとらえるのか、また、学習者自身が発見的に取り組むのか、与えられたものを受容するのかということで分類しあり方について理解し、それぞれの特徴を整理する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書74-81ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分が受けた授業のタイプを分けて整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

	第８回	個に応じた学びと指導 【key words】 適正処遇交互作用（クロンバック）、学力の個人差、多重知能理論（ガードナー）、認知カウンセリング 【授業概要】 教室には、性格も学力も生活背景も異なる子どもたちが集まっている。そこでは当然、様々なレベルの「個人差」があることになる。ここでは、そうした個人差を理解し対応をしていくために、個に応じた個別指導と認知カウンセリングについて理解を深め、子どもの学び方に基づいた支援を行うための基礎知識を得る。 【教科書ページ・参考文献】 教科書82-91ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 87ページの「基本的学習観質問紙」をやっておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第９回	学習観と学習方略 【key words】 学習観、学習方略、自己調整学習（ジマーマン）、ごまかし勉強、 【授業概要】 子どもたちがとっている意識的、無意識的な学習行動を「学習方略」としてとらえ、それらのあり方から学習をどうとらえているかという「学習観」の理解の手掛かりを得ることについて学ぶ。また、自分自身で自己の学習方略を振り返りながら調整をしていく「自己調整学習」という考え方についても理解を深めていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書92-101ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ジマーマンの自己調整学習について、あらかじめネットなどで調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第１０回	教室の中の人間関係 【key words】 学級集団、学級風土、教師のリーダーシップ、PM理論、教師期待効果（ピグマリオン効果）、ゴーレム効果、ハロー効果（光背効果）、ソシオメトリック・テスト、社会的促進、社会的抑制 【授業概要】 教育の効果は、理屈以上に教師と児童生徒との人間関係が大きな影響を及ぼす。今回は、教室の中の人間関係について、学級集団や学級風土がいかに作られていくのか、また教師と児童生徒、児童生徒同士の関係性に影響する要因や関係性をいかにとらえることができるかについて、学んでいく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書104-117ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書110ページの「教師のリーダーシップを測定する項目」のところをやっておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第１１回	不適応への理解と指導 【key words】 不登校、いじめ、非行、連携 【授業概要】 子どもを取り巻く社会状況はめまぐるしく変化している。こうした変化に対応するように、子どもたちが抱え込む問題も多様化し、より深刻さを増してきている。家庭や社会の教育力の低下も指摘される中、教師はどのように彼らの問題を受け止め、どこまで対処をしていけばいいのか。今回は子どもの不適応の理解と指導のあり方の基本について考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書118-128ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 子どもの不登校者数や自殺者数について調べ、改善するためには何をすべきかについて、一つ、案を出しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第１２回	発達障害と特別支援教育 【key words】 自閉スペクトラム症、学習障害、注意欠陥多動性障害、特別支援教育 【授業概要】 現在発達上の障害があると考えられている子どもたちが多く存在する。しかし、発達障害については正しい理解がなかなか進まず、定型発達の子どもたちとの差異が強調されるだけになりがちな現状がある。ここでは、発達障害を概観するとともに、発達障害を持つ児童生徒への支援と特別支援教育の基本的なあり方について考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書129-141ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ASD、LD、AD/HDについて調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第１３回	心理アセスメントと心理療法 【key words】 心理アセスメント、知能検査、精神分析、来談者中心療法、認知行動療法 【授業概要】 問題を抱える子どもと出会った時、普通のように見えて、どこかに適応的に生きられない問題があると感じることがある。そうしたとき、感覚や直感ではなく、実際に子どもにとって不適応を

	引き起こす原因がどこにあるかを調べ、探し、特定していくために、様々なアセスメントや検査の方法が用いられる。ここでは知能検査をはじめとした代表的なアセスメントの方法を知り、基本的な児童生徒への対応についても考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書142-152ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 知能検査は大変重要な項目になるので、よく予習復習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習3時間 第１４回　学び合うコミュニティ 【key words】 コミュニティ、資質・能力、教師の成長、校内研修、自主研究会、ALACTモデル、コルトハーヘン 【授業概要】 教育の実践的な場面での教師の資質・能力向上のためのコミュニティの意味とその具体的な役割について学ぶ。教師としての資質や能力を育むには、コミュニティの中で省察と対話を中核とした交流が必要になる。学校の内外で、こうしたつながりの中に身を置き、教師自らが主体的な学習者（アクティブ・ラーナー）として成長するために必要なことについて考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書153-167ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これからの時代の教師に求められる「資質」「能力」「人格」とは何か、考えておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間 第１５回　教育における評価 【key words】 測定と評価、評価のタイミング、評価の基準、ルーブリック、ポートフォリオ 【授業概要】 教育の成果をどのように把握するのか。教育における重要テーマである「評価」の方法について学ぶ。単に学期末のテストで教育の成果を測るという狭い意味での評価を越えて、評価を正しく行い、改善に用いることの意義を学ぶ。また、評価に関する新しい考え方や方法についても理解をする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書168-176ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「授業評価アンケート」についてシステム上で実施をすること。実際のテストについての指示をよく確認し、準備をすること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・教科書を毎回持参すること。授業のスライドなどの資料を毎回配布するため、ファイル等を用いて各自管理をすること。 ・定期的に「まとめ」や「調べ」課題を出す予定。 〔受講のルール〕 ・遅刻、居眠り、飲食等はせず、集中して受講すること。 ・他の受講生の迷惑になる行為（私語等）や指示のない中での情報通信機器の操作はしないこと。 ・勝手な振る舞いなど、講義の妨げになる行為を繰り返す場合、退出を命ずる。この理由での退出は欠席扱いとするので注意すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカードもしくはコメントカード（受講生数により指示）、zoom授業の場合は、スレッドにコメントを挙げること。
授業外時間にかかわる情報	授業概要を参考に、次回の授業に出てくる用語について教科書、心理学辞典、ネットなどであらかじめ調べて授業に臨む努力をすること。 授業時に紹介する資料や図書など、積極的に調べておくこと。
オフィスアワー	高等教育支援センターにて授業後30分、もしくはメールでの相談を随時受け付ける。 hashimoto@shoken-gakuen.ac.jp
評価方法	①期末に実施する理解度・到達度を見る試験（80%）、②授業時に指示をする「まとめ」もしくは「調べ」課題（レポート課題等）に関する総合評価（20%）、これら①～②を合わせて総合評価を出し60%以上の評価得点のものを単位認定する。レターグレード（S・A・B・C）については、本学基準に沿って算出する。
教科書	魚崎　祐子（2020）『教えと学びを考える　教育心理学』（玉川大学出版会）
参考書	適宜指示をする
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法

	等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ネット上の動画教材を利用し、事前学習や事後学習を促進する。

講義科目名称： 教育原理　　授業コード：S5001

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース／福祉心理コース・選択／学校教育コース・必修
担当教員			
江原　京子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 教育の①理念並びに歴史及び思想、②教育課程の意義及び編成の基礎的理解を得る。新しい時代に必要とされる資質・能力の育成とカリキュラム･マネジメントを行うことの意義を理解する。 [到達目標] 1　教育思想の変遷に基づき、歴史的背景から教育の本質を捉えることができる。 2　学校の歴史・義務教育の意義が理解できる。 3　教育課程を理解し、教育活動の展開の実際を身につける。
授業の概要	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想を社会的背景に照らし合わせて考察し、学習指導要領を基準として各学校で編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、教育の基本的概念を習得する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等）、教育の可能性 【key words】 教育の語源、教育の可能性･必要性、カント 【授業概要】 科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等）、教育の可能性･授業の冒頭に示す【視点】を意識し授業に臨む。 毎回、【視点】にそった内容のミニレポートを課す。課題をミニレポートという形でまとめることにより、授業内容をより理解し、各自の興味関心が膨らむ。・講義内容によっては、資料、レジュメ等で進める回もある。各自が捉える「教育」とは何かについて、意見・考えを述べる。教育の語源に視点をあてながら、語源からみえる「教育」とは何かについて考える。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP1～P7　第1章　なぜ教育学をまなぶのか 参考書：沼田裕之(2004)『＜問い＞としての教育学』第１章　どうして学ばなければならないのだろうか 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教育の語源からみえてくる「教育」とは何か、カントの命題から教育の可能性・必要性を整理し、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。ソクラテスの助産術について事前に学習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第２回	子ども観と教育観（積極的教育、消極的教育、助教法、助産術） 【key words】 積極的教育、消極的教育、助産術、ソクラテス、ルソー

【授業概要】

子ども観と教育観について、積極的教育、消極的教育、助産術から捉える。
【教科書ページ・参考文献】
テキストP1～第1章　なぜ教育学をまなぶのか
【課題・予習・復習・授業準備指示】
子ども観と教育観について、積極的教育、消極的教育、助産術から捉え、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。アテネとスパルタの教育について調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第３回　教育における人間像　（古代１、古代２、中世、あるゆる人にあらゆるものを、国民、市民
【key words】
7自由科、アテネの教育、スパルタの教育

【授業概要】

教育における人間像について、古代、中世に遡り、国民、市民となっていった歴史的変遷を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
テキストP23～P27　第2章　学校はどのようにつくられたか-その歴史と課題
資料、レジュメ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育における人間像について、歴史的変遷から捉え、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。テキストP23～第2章学校はどのようにつくられたか、学校とは何かについて事前に学習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第４回　近代学校の誕生と発展（下構型・上構型の学校システム、複線型・分岐型・単線型の就学形態）
【key words】
下構型・上構型の学校システム、複線型・分岐型・単線型の就学形態

【授業概要】

下構型・上構型の学校システムと複線型・分岐型・単線型の就学形態について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
テキストP28～第2章　学校はどのようにつくられたかーその歴史と課題
テキストP243～付録：学校の系統図
【課題・予習・復習・授業準備指示】
下構型・上構型の学校システムと複線型・分岐型・単線型の就学形態について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。テキストP23～、義務教育の成立について事前に学習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第５回　日本における義務教育の成立と展開（明治以前、明治～昭和10年代、昭和20年代以降）
【key words】
学制、小学校令、学校教育法

【授業概要】

日本における義務教育の成立と展開（明治以前、明治～昭和10年代、昭和20年代以降）を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
学校はどのようにつくられたかーその歴史と課題
資料：日本における義務教育の成立と展開
【課題・予習・復習・授業準備指示】
日本の義務教育の成立と展開について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
オープンスクールについて調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第６回　多様化する学校・学校は誰のためにあるか（閉鎖性・開放性、オープンスクール）
【key words】
閉鎖性、開放性、オープンスクール

【授業概要】
近代国家が教育を支配する巧妙な支配方式であることを学び、教育を学校のみに閉じ込めてしまう閉鎖性の体制から開放性へと向う多様化する学校について考察する。改めて学校は誰のためにあるのかを確認する。

【教科書ページ・参考文献】
テキストP23～第2章　学校はどのようにつくられたかーその歴史と課題
資料：閉鎖性・開放性、オープンスクール
【課題・予習・復習・授業準備指示】
閉鎖性から開放性へと向かう中で、学校は誰のためにあるのかを考察する。本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。児童中心主義と教師中心主義を調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第７回　教育実践を支える思想（児童中心主義、教師中心主義、問題解決／活動／労作の原理）
【key words】
児童中心主義、教師中心主義、問題解、デューイ

【授業概要】

教育実践を支える思想（児童中心主義、教師中心主義、問題解決／活動／労作の原理）を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
テキストP1～第1章　なぜ教育学をまなぶのか
資料：教育実践を支える思想

【課題・予習・復習・授業準備指示】
児童中心主義とは何か、教師中心主義とは何かを確認し、教育実践を支える思想について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。テキストP131～「子どもに学ぶということ」を事前学習する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第８回　教えると学ぶ（教えていないけど学ぶ・教えているけど学ばない、教師－教材－子ども）
【key words】
教えると学ぶ、教師－教材－子ども

【授業概要】
教えていないけど学ぶ・教えているけど学ばない、教師－教材－子どもの関係性を読み解き、教えると学ぶとはどういったことなのか、について学ぶ。
グループ討議を行う。
【教科書ページ・参考文献】
テキストP131～　第6章　子どもに学ぶということ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教えると学ぶとはどういったことなのか、について本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。教育課程について調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第９回　教育課程編成の主体（学校で何を教え、何を学ぶか）
【key words】
教育課程の編成、学習指導要領、教師

【授業概要】

教育課程編成の主体は何かを学び、学校で何を教え、何を学ぶのかを考察する。
【教科書ページ・参考文献】
テキストP49～　第3章　学校で何を教え、何を学ぶか
参考書：田中耕治他著(2005)『新しい時代の教育課程』有斐閣アルマ
　　文部科学省(2018)中学校学習指導要領／高等学校指導要領
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育課程編成の主体とは何かを確認し、学校で何を教え、何を学ぶのかを教育課程編成から読み解き、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。教育課程の類型について、事前に学習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１０回　教育課程の類型　（経験主義、系統主義）
【key words】
教育課程の類型、経験主義、系統主義

【授業概要】

教育課程の類型である経験主義と系統主義について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
テキストP71～　第4章　なぜ学習指導の転換が必要か
参考書:田中耕治他著(2005)『新しい時代の教育課程』有斐閣アルマ
　　文部科学省(2018)中学校学習指導要領／高等学校指導要領

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育課程の類型（経験主義、系統主義）について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出する。
学習指導要領の変遷(小学校則～国民学校令施行規則まで、試案)について事前に学習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１１回　学習指導要領の変遷①（小学校則～国民学校令施行規則まで、試案としての学習指導要領）
【key words】
小学校教則、国民学校令施行規則、学習指導要領（試案）、経験主義

【授業概要】

学習指導要領の変遷（小学校教則～国民学校令施行規則まで、試案としての学習指導要領）について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
テキストP49～　第3章　学校で何を教え、何を学ぶか、参考書：田中耕治他著(2005)『新しい時代の教育課程』有斐閣アルマ、文部科学省(2018)中学校学習指導要領／高等学校指導要領.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学習指導要領の変遷について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
学習指導要領の変遷(告示としての学習指導要領)について事前に学習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１２回　学習指導要領の変遷②（告示としての学習指導要領）
【key words】
改訂のねらいと特徴

【授業概要】

告示としての学習指導要領の改訂のねらいと特徴について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
テキストP49～　第3章　学校で何を教え、何を学ぶか、参考書：田中耕治他著(2005)『新しい時代の教育課程』有斐閣アルマ、文部科学省(2018)中学校学習指導要領／高等学校指導要領.

【課題・予習・復習・授業準備指示】
学習指導要領の変遷（告示としての学習指導要領の改訂のねらいと特徴）について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。教育課程編成の方法について、事前に学習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１３回　教育課程編成の方法
【key words】
新学習指導要領、社会に開かれた教育課程の実現、主体的･対話的で深い学び

【授業概要】

教育課程編成の方法について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
テキストP49～　第3章　学校で何を教え、何を学ぶか、参考書：田中耕治他著(2005)『新しい時代の教育課程』有斐閣アルマ、文部科学省(2018)中学校学習指導要領／高等学校指導要領
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育課程編成の方法について、本時の内容をミニレポートにまとめて提出すること。
カリキュラム・マネイジメントについて、調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１４回　カリキュラム・マネイジメントと評価
【key words】
カリキュラム･マネイジメント、評価

	【授業概要】 カリキュラム･マネイジメントと評価について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 資料・レジュメ:カリキュラム・マネイジメントと評価 参考書：田村 知子他(2016)『カリキュラムマネジメント・ハンドブック』ぎょうせい 【課題・予習・復習・授業準備指示】 カリキュラム･マネイジメントと評価について、本時の内容をミニレポートにまとめ、提出する。 テキストP205～「教師について考える」を熟読し、教師の仕事･教職の専門性について事前に学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分 第１５回　教師について考える 【key words】 教師の仕事、教職の専門性 【授業概要】 教師の仕事とは何か、教職の専門性とは何かについて学ぶ。 グループで意見交換を行う。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP205～第９章　教師について考える 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教師の仕事、教職の専門性について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 教育原理の講義で学んだことを復習し、定期試験に向けて準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
受講生に関わる情報および受講のルール	１　遅刻・欠席は授業時間前に必ず届け出ること。無断欠席や遅刻の多い学生は受講取消もあり得る。 ２　授業中に課したミニレポート・シャトルカードを必ず提出すること。 ３　予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。 ４　将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード、ミニミニレポート
授業外時間にかかわる情報	授業の要約もしくは課題をミニレポートとシャトルカードにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニレポートをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。 定期試験やミニレポートのまとめは授業中の内容が中心となるため、真摯な態度で授業に臨み、毎回の授業内容を確認し、疑問点等を残さないようにしておくこと。
オフィスアワー	水曜日　16時～17時30分　それ以外の時間帯については、要相談・要予約
評価方法	授業中に課したミニミニレポートの内容（30%）、試験またはレポート（70%）を総合して評価する。
教科書	柴田義松著『新教育原理』有斐閣双書、2005年
参考書	田中耕治他著(2005)『新しい時代の教育課程』有斐閣アルマ 文部科学省(2018)中学校学習指導要領／高等学校指導要領 講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない

	ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　社会福祉特講Ⅰ　　授業コード：S8001

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(30)	社会福祉コース・福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
白石　憲一・安留　孝子・林　孝和			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会福祉士国家試験に向けた学習方法を自分なりに把握することを目的とする。 【到達目標】 社会福祉士国家試験に向けて、自主的・主体的な学習方法を形成し、継続して学習する習慣を身につける。自身が作成した解説を用い、他者に説明することができる。月例テストを行うことで、学びが身についているのかを自身で判断できる。
授業の概要	既習科目を中心に学習していく。社会福祉士国家試験に合格するための基礎的学習方法と基礎的学力の向上を図るため、過去問を解いた上で、自身で解説を作成し提出する。自身が作成した解説を他者に伝える。月に1回、月例テストを行う。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	社会福祉士国家試験の概要 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 社会福祉士国家試験の出題傾向やレポートの作成方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 14頁～21頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会福祉振興・試験センターのHPを調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第２回	社会福祉士の仕事（１） 【key words】 社会福祉士 【授業概要】 地域福祉の中核機関としての社会福祉協議会の中で、社会福祉士に求められる役割を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 14頁～352頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会福祉協議会をHPから調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第３回	社会福祉士の仕事（２） 【key words】 社会福祉士、医療ソーシャルワーカー、福祉事務所、ケースワーカー 【授業概要】 医療機関で社会福祉の立場からクライエントの相談にのり支援する医療ソーシャルワーカー、福祉事務所のケースワーカーの役割を学習する。 【教科書ページ・参考文献】

		45、132、200頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の身近な病院や福祉事務所のHPを調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第４回	社会福祉士の仕事（３） 【key words】 社会福祉士、特別養護老人ホーム、生活相談員、地域包括支援センター 【授業概要】 特別養護老人ホームの生活相談員や地域包括支援センターの相談員の役割を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 76、85頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の身近な特別養護老人ホームや地域包括支援センターのHPを調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第５回	社会福祉士国家試験基礎知識（１） 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 社会福祉士国家試験で必要とされる知識を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 14頁～352頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第６回	第1回　中間テスト 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 中間テストに解答し、習熟度を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 14頁～352頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第７回	社会福祉士国家試験基礎知識（2） 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 社会福祉士国家試験で必要とされる知識を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 64～78、84～87、296～312、314～318、138～140頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第８回	第2回　中間テスト 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 中間テストに解答し、習熟度を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 64～78、84～87、296～312、314～318、138～140頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第９回	「読解力」が問われる国家試験問題の紹介と解説 【key words】 事例問題、社会福祉士国家試験 【授業概要】 社会福祉士国家試験の事例問題で、読解力の重要性を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 社会福祉士国家試験の過去問題 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各教科の教科書を使って、文章を読む練習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第１０回	レポート作成（１） 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 該当科目のポイントや勉強方法について学習し、社会福祉士国家試験の過去問題2問の解説を、レポートとして各自で作成する。 【教科書ページ・参考文献】 社会福祉士国家試験の過去問題 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第１１回　レポート作成（２） 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 該当科目のポイントや勉強方法について学習し、社会福祉士国家試験の過去問題2問の解説を、レポートとして各自で作成する。 【教科書ページ・参考文献】 社会福祉士国家試験の過去問題 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第１２回　第3回　中間テスト 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 中間テストに解答し、習熟度を理解する 【教科書ページ・参考文献】 14頁～352頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第１３回　レポート作成（３） 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 該当科目のポイントや勉強方法について学習し、社会福祉士国家試験の過去問題2問の解説を、レポートとして各自で作成する。 【教科書ページ・参考文献】 社会福祉士国家試験の過去問題 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第１４回　レポート作成（４） 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 該当科目のポイントや勉強方法について学習し、社会福祉士国家試験の過去問題2問の解説を、レポートとして各自で作成する。 【教科書ページ・参考文献】 社会福祉士国家試験の過去問題 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第１５回　期末テスト 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 1年次に履修している科目について、国家試験形式で期末試験を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 社会福祉士国家試験の過去問題等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。該当科目の国家試験の過去問題を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
受講生に関わる情報および受講のルール	各回において、最新の国家試験該当科目をプリントアウトし持参すること。各回の該当科目のテキスト、ノート等を用意すること。 各回の事前に最新の国試該当科目を解いておくこと。授業内で解答の解説作りを行う。授業内で作り終えない場合には、原則翌週までに提出すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	各回の事前に最新の国試該当科目を解いておくこと。授業内容に該当する授業科目の教科書を事前に通読しておくこと。授業で学習した内容は、その日のうちにしっかりと理解するように努めること。学内模試が行われる場合には、参加すること。
オフィスアワー	木曜日4限
評価方法	レポート20%、テスト40%、課題への取り組み・提出物など40%。
教科書	いとう総研資格取得支援センター「見て覚える！社会福祉士国試ナビ」（中央法規）
参考書	社会福祉小六法　社会福祉用語辞典（ 出版社は指定しないが、最新版のもの）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している

	具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　基礎演習Ⅰ　　授業コード：S9001　S9002　S9003　S9004　S9005　S9006　S9007

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(60)	必修
担当教員			
江原　京子・櫻井　秀雄・安留　孝子・林　孝和・義基　祐正			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　本学の建学の精神・教育目標に基づき、高校と大学の相違を、さまざまな観点から学び、円滑な移行を目指して初年次教育をおこなう。基礎演習Ⅰにおいては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組み、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を養う。基礎演習の導入として、高校のリメディアル教育、学問への動機づけ、コミュニケーション能力など、学習成果を保証するための学習方法や技術を総合的に学ぶことを目的とする。 【到達目標】 ①礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組むことができる。 ②基礎演習における学習の基礎能力として、授業の受け方、図書館利用指導、レポート作成などの学習スキルを身に付けることができる。 ③ミニミニ研究や制作を通して、問題解決能力、コミュニケーション能力を養うことができる。
授業の概要	授業を①建学の精神と実践教育、②学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の５つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動等に関する人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を養成するとともに、基礎的学習スキルを身に付けることにより、読書力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の基礎を確立する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	建学の精神と実践教育プログラム①（学長訓話・学部長講話、基礎演習Ⅰの前期の内容、授業の受け方、各担当教員より） 【key words】 【key words】訓話･講話、前期基礎演習Ⅰ、他コースとの理解･交流、初年次教育 【授業概要】 【授業概要】 ①学長訓話・学部長講話を聞き、本学の建学の精神を理解し、1年間の目標を立てる。 ②前期基礎演習Ⅰの概要を確認する。 ③大学生活について（各担当教員より） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】学生ハンドブック、配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 　本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。 次回、タオル、裁縫用具を持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	建学の精神と実践教育プログラム②－生活を科学する（雑巾作成、タオル、糸と針、はさみ用意）

【key words】
【key words】生活科学、環境美化

【授業概要】
【授業概要】
①環境美化活動の意義をグループで話し合う。
②実際に雑巾を作成する（安全に作業ができるよう配慮する）。
③手縫いとミシンの違いに気づく。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに　提出すること。
・作成した雑巾を提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　心身の健康プログラム①－相手に好感をもたれるメールの送り方
【key words】
【key words】礼儀・挨拶　人間関係
【key words】礼儀・挨拶、メールの送り方、好感度

【授業概要】
【授業概要】。
①好感のもたれるメールの送り方を知る。
②礼儀をわきまえた文章の作成について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】　配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　心身の健康プログラム②－クラス裁量パートⅠ：クラスメイトの得意分野を知る
【key words】
【key words】　仲間作り、特技

【授業概要】
【授業概要】
①クラスメイトの得意分野を知り、互いに尊重する気持ちを育む。
②互いに特技を披露する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】特になし
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　心身の健康プログラム③－クラス裁量パートⅡ：クラス運営・クラスの交流
【key words】
【【key words】クラス運営、仲間との交流
【授業概要】
【授業概要】
①クラスメイトとの交流を通してクラス運営の在り方を知る。
②円滑なクラス運営の在り方を身につける。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】特になし
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　学士力育成プログラム①　図書館の利用の仕方
【key words】
【key words】蔵書検索、文献検索
【授業概要】
【授業概要】
①本学の図書館司書を招き、「図書館の利用の仕方」を学ぶ。
②蔵書検索、文献検索の仕方を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書ページ・参考文献】配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
・『知へのステップ第５版』第1章、第2章を読んでおくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　学士力育成プログラム②　『知へのステップ』スタディ・スキルズとは／ノートテイキング
【key words】
【key words】生徒から学生へ、スタディ・スキルズ、ノートテイキング
【授業概要】
【授業概要】

①スタディ・スキルズの全体像をつかむ。
②ノートテイキングの方法を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
学習技術研究会 2020年『知へのステップ第５版』くろしお出版 第1章、第2章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の内容を基礎演習（Ｉ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
・『知へのステップ第５版』第3章、第4章を読んでおくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　学士力育成プログラム③　『知へのステップ』リーディングの基本スキル
【key words】
【key words】テキストの種類、読みの種類、構成、要約
【授業概要】
【授業概要】
①テキストの種類に応じた読み方を身につける。
②テキストを読んで、要約する方法を身につける。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
学習技術研究会 2020年『知へのステップ第５版』くろしお出版　第3章、第4章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の内容を基礎演習（Ｉ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
・『知へのステップ第５版』第8章を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　学士力育成プログラム④　『知へのステップ』アカデミック・ライティングの基本スキル
【key words】

【key words】序論・本文・結論　事実と意見　引用　参考文献
【key words】序論・本論･結論、レポート、事実と意見、引用

【授業概要】
【授業概要】
①レポートと感想文の相違を実例を通じて学ぶ。
②レポートの構成を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
学習技術研究会 2020年『知へのステップ第５版』くろしお出版　第8章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の内容を基礎演習（Ｉ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
・『知へのステップ第５版』第9章を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　学士力育成プログラム⑤　『知へのステップ』効果的なアカデミック・ライティングのために
【key words】
【key words】文、文章、表現、箇条書き

【授業概要】
【授業概要】
①わかりやすい文を書くためのポイントをつかむ。
②視覚的にわかりやすい表現方法のポイントをつかむ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
学習技術研究会 2020年『知へのステップ第５版』くろしお出版　第9章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の内容を基礎演習（Ｉ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
・『知へのステップ第５版』第5章を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　学士力育成プログラム⑥　『知へのステップ』大学図書館における情報収集
【key words】
【key　words】情報収集、図書館

【授業概要】
【授業概要】
①情報収集の概念と必要性を学ぶ。
②大学における図書館の利用方法を身につける。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
学習技術研究会 2020年『知へのステップ第５版』くろしお出版　第5章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の内容を基礎演習（Ｉ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　心身の健康プログラム④　生活の充実について（防犯教育）

【key words】
【key words】防犯、ネット被害、一人暮らしの注意事項、ＳＮＳの上手な使用方法

【key words】防犯　安全・安心な学生生活

【授業概要】
【授業概要】
①生活安全、ネット犯罪・被害について、講話を聞く。
②サイバー被害にあわないための方策を考える。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ、参考文献】配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の内容を基礎演習Ｉワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　進路・資格取得プログラム①　入学前教育に基づく学力試験
【key words】
【Key　words】日本語力、数理能力、一般常識

【key words】一般常識、数的処理、基礎学力

【授業概要】
【授業概要】
①基礎学力基盤試験を実施することを通して、自己の学習課題を確認する。。
②自己課題に則り、自主学習の計画を立てる。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】基礎学力基盤試験
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題･予習･復習・授業準備指示】
基礎演習（Ｉ）ワークシートに試験のやり直しを行い、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１４回　心身の健康プログラム⑤　生活の充実について（消費者トラブル防止教育）
【key words】
【key　words】消費者トラブル、生活の質
【授業概要】
【授業概要】
①消費者トラブル被害状況についての講話を聞く。
②消費者トラブル被害にあわないためには、日頃からどのようなことに気をつけたら良いかを考える。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】　配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
基礎演習（Ｉ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１５回　建学の精神と実践教育プログラム③　前期の振り返り、後期の計画
【key words】
【key　words】前期総括、振り返り、授業アンケート、環境美化活動
【授業概要】
【授業概要】
①基礎演習1ノートの前期総括をまとめる。
②授業評価アンケートを実施する。
③環境美化活動を念入りに行う。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】基礎演習（Ｉ）ノート、基礎演習（Ｉ）　ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
基礎演習（Ｉ）ノート、基礎演習（Ｉ）　ワークシートの記入漏れがないかを確認し、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１６回　建学の精神と実践教育プログラム④　（学長訓話・学部長講話、基礎演習Ｉの後期の内容、各担当教員より）
【key words】
【key words】　訓話・講話、伝達事項
【授業概要】
【授業概要】
①学長訓話・学部長講話、各担当教員からの話を聞き、1年間の目標を確認し、後期を意欲的にスタートする。
②後期基礎演習Ｉの概要を確認する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の内容を基礎演習（Ｉ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１７回　進路・資格取得プログラム②　就職能力試験
【key words】
【key words】　職種、適性、一般常識

【授業概要】
【授業概要】
①就職能力試験を実施し、各自の適性を知る。
②将来、就きたい職種を意識する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】就職適性試験
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１８回　心身の健康プログラム⑥　生活の充実について（デートＤＶ防止教育）

【key words】
【key words】　デートDV、対人関係、男女共同参画

【key words】　ハラスメント、デートＤＶ

【授業概要】
【授業概要】
①デートＤＶについて理解する。
②代表学生によるロールプレイングを通して、相手の気持ちになって考える術を身につける。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
・デートＤＶに関する資料を熟読しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１９回　地域貢献プログラム①　地域とのかかわりⅠ（ミニミニ研究：計画立案）

【key words】
【key words】　ミニミニ研究、計画立案、地域

【授業概要】
【授業概要】
①地域との関わりを意識し、ミニミニ研究の計画立案を行う。
②イベント委員が主体となって、研究活動を進めていく。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】配布資料等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２０回　地域貢献プログラム②　地域とのかかわりⅡ（ミニミニ研究：テーマ、内容等の決定）

【key words】
【key words】ミニミニ研究、テーマ、資料の収集
【授業概要】
【授業概要】
①地域との関わりを意識し、ミニミニ研究のテーマ、内容等を決める。
②イベント委員が主体となって、研究活動を進めていく。

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】配布資料等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２１回　地域貢献プログラム③　地域とのかかわりⅢ（ミニミニ研究：テーマに沿った内容で準備を進める）

【key words】
【key words】ミニミニ研究、調査、探求

【授業概要】
【授業概要】
①地域との関わりを意識し、ミニミニ研究のテーマに沿った内容で準備を進める。
②イベント委員が主体となって、研究活動を進めていく。

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２２回　心身の健康プログラム⑦　生活の充実について（交通安全教育）

【key words】
【key words】交通事故、交通安全、交通マナー、安全運転

【授業概要】

【授業概要】
①群馬県警の方をお迎えし、交通安全教育を実施する。
②事故事例を通して交通マナーについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】配布資料等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２３回　進路・資格取得プログラム③　４年生講話

【key words】
【key words】　先輩学生との交流、資格取得、就職
【授業概要】
【授業概要】
①各コースごとに４年生、約5名を招聘し講話を聞く。
②コース・専攻毎の分科会に分かれ、全体会より一層具体的な講話を聞く。
③自己の将来を考えるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】配布資料等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
・『知へのステップ第５版』　第11章･第12章を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２４回　学士力育成プログラム⑦　『知へのステップ』プレゼンテーションの基本スキル

【key words】
【key words】プレゼンテーション、レジュメ、パワーポイント
【授業概要】
【授業概要】
①わかりやすいプレゼンテーションの基本スキルを学ぶ。
②相手に伝わる資料の作成方法を身につける。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
学習技術研究会 2020年『知へのステップ第５版』くろしお出版　第11章、第12章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２５回　心身の健康プログラム⑧　生活の充実について（消費者被害防止教育）

【key words】
【key words】消費者被害防止、安全・安心、架空請求
【授業概要】
【授業概要】
①事例を通して消費者被害の実態を知る。
②消費者被害にあわないための方策を学び、安全・安心な生活をおくる。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】配布資料等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２６回　地域貢献プログラム④　地域とのかかわりⅣ（ミニミニ研究：制作開始／調査・探求）

【key words】
【key words】　ミニミニ研究、制作、調査・探求
【授業概要】
【授業概要】
①地域との関わりを意識し、ミニミニ研究の制作を開始する。
②イベント委員が主体となって、研究・制作活動を進めていく。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】配布資料等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２７回　地域貢献プログラム⑤　地域とのかかわりⅤ（ミニミニ研究：制作／調査・探求、まとめ）

【key words】
【key words】ミニミニ研究、制作、調査・探求、まとめ

【授業概要】
【授業概要】
①地域との関わりを意識し、ミニミニ研究のテーマに沿って制作、調査・探求を進める。
②イベント委員が主体となって、研究・制作活動を進めていく。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】配布資料等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】

	60分 第２８回　地域貢献プログラム⑥　地域とのかかわりⅥ（ミニミニ研究：発表準備、クラス内振り返り） 【key words】 【key words】　振り返り、発表準備、パワーポイント 【授業概要】 【授業概要】 ①地域との関わりを意識したミニミニ研究のクラス内の振り返りをを行う。 ②イベント委員が主体となって、全体発表の準備を進めていく。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】クラス内発表資料、全体発表資料、レジュメ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の内容を基礎演習（Ｉ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第２９回　地域貢献プログラム⑦　地域とのかかわりⅦ（ミニミニ研究：全体発表） 【key words】 【key words】　全体発表、プレゼンテーション、レジュメ 【授業概要】 【授業概要】 ①地域との関わりを意識したミニミニ研究の全体発表を行う。 ②イベント委員が主体となって、全体発表を進めていく。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】発表資料、パワーポイント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の内容を基礎演習（Ｉ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第３０回　建学の精神と実践教育プログラム⑤　後期総括、演習ファイルの整理、授業アンケート、環境美化活動 【key words】 【key words】後期総括、振り返り、授業アンケート、環境美化活動 【授業概要】 【授業概要】 ①基礎演習1ノートの後期総括をまとめる。 ②授業評価アンケートを実施する。 ③環境美化活動を念入りに行う。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】基礎演習（Ｉ）ノート、基礎演習（Ｉ）　ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・基礎演習（Ｉ）ノート、基礎演習（Ｉ）　ワークシートの記入漏れがないかを確認し、期日までに　提出すること。 ・２年次実施する基礎演習Ⅱに向けて準備を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	１　基礎演習は、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。 ２　私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。 ３　全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること。 ４　基礎演習Ｉで使用した資料等は、必ず基礎演習Ｉファイルに綴じておくこと。 ※　コロナ禍の状況下で、授業内容が変更となる場合があることを了承いただきたい。その場合は口頭もしくは別途授業予定表を配布するなどして周知する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	基礎演習（Ｉ）ワークシート
授業外時間にかかわる情報	図書館利用、インターネット利用、レポートの作成等に関する時間は、授業時間外の活用が重要である。
オフィスアワー	各担当者に確認すること
評価方法	基礎演習Ｉへの取り組み（30%）、基礎演習Ｉノートの内容（30%）、基礎演習Ｉワークシートの内容（40%）を総合して評価する。
教科書	1 鈴木利定・中田勝（著）2002年『咸有一徳』中央法規 2 中田勝（翻訳）2009年 初編『伝習録』明治書院 3 学習技術研究会 2020年『知へのステップ』くろしお出版
参考書	その他、講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 担当者が、それぞれ社会福祉（社会福祉士、精神保健福祉士他）、子ども（保育園、幼稚園、小学校他）、学校教育（特別支援、中学校、高等学校、教育委員会での教育行政他）等で勤務実績を積み上げている。。

	アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 倫理学　　授業コード： S1035

英文科目名称： Ethics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	社会福祉専攻・必修
担当教員			
鈴木　育三			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	地球生命の一部として存在する人類の直面している諸課題を（共生の倫理）の視点から実践事例をあげて考察する。
授業の概要	①　倫理の思想と歴史 ②　自然との共生　Eco-Ethica(生圏倫理）を中心にして ③　社会的存在としての人間の歴史的現実と倫理的諸課題 ④　社会福祉（保障）と共生の倫理 ⑤　グローバル化社会の倫理的諸課題についてシラバスに従って展開する

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	orientation 【key words】 Ethos（エートス） 【授業概要】 ①　倫理とは何か、その意味について考え、その言葉の由来を考察する。 ②　履修上の諸注意 ③　推薦図書紹介 ・今道友信著「エコエティカ」生圏倫理学入門（講談社学術文庫） ・山脇直司著「公共哲学とは何か」ちくま新書 【教科書ページ・参考文献】 参考文献　今道友信著「エコエティカ」生圏倫理学入門　ect. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	倫理主体としての「人間」とは 【key words】 人間性（humanity） 【授業概要】 『人間的実存の基本的事実は「人と人が共存しつつある人間」である』ーM,Buber 推薦図書　M・ブバー著「人間とは何か」児島洋訳、理想社 【教科書ページ・参考文献】 参考文献　絵本「あおくんときいろちゃん」レオ・レオーニ作　至光社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第３回	共生する＜生命＞の倫理 【key words】 Bio Ethics（生命倫理） 【授業概要】 中村元著、構造倫理講座Ⅲ「＜生命＞の倫理」を中心にして、生命科学の進歩と生命の不思議さ

について学び、その倫理的課題について、生命倫理について考察する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第４回　共生（Convivency)とは
【key words】
Ecology
【授業概要】
「地球上のあらゆる生物は、お互いの関係なしには生存できず、すべてがネットワークをつくっているわけです。このなかのどこかにほころびができると、ネットワークはうまく働かなくなるわけで、いまでは共生は生態系を構成するすべての生き物の関係と考えられるようになりました。『「生きもの」感覚で生きる』中村桂子著、講談社p.33ー共生は生きもののルールより

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第５回　自然との共生①ー自然とLifeCycle
【key words】

【授業概要】
「もう一度、共生と循環という哲学を人類は取り戻さなければならない。もちろん人間にとって進歩は必要です。ですから科学技術を共生と循環という哲学のもとに共存させていく。」梅原猛著、「共生と循環の哲学」p.112
「人間は、自然を父とし母として生まれたものであり、自然のなかの他のすべての生きとし生けるものと共生する以外には生きられない。人間には神によって与えられた自然支配の特権などというものは存在しない。この自然との共生を人類の根本原理としなければならない」p.60
【教科書ページ・参考文献】
参考文献　上掲書　梅原猛「共生と循環の哲学」小学館
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第６回　生態学Ecologyと経済学Economics
【key words】
自然環境破壊と科学技術
【授業概要】
科学技術の発展によって、自然環境破壊は、著しく広大、深刻化しています。公害、気候異変ect.は、人間の生活のみならず、多様な生物を絶滅へと追いやっています。現代社会の倫理的課題を考察。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第７回　人間の歴史と倫理的課題（Ⅰ）
【key words】
①戦争
【授業概要】
共生の倫理の重要な課題は、戦争－国家が他国に対し、政治的な意志を貫徹するためにとる最終的かつ暴力的手段－である。
何故人間は‘戦争’という手段を行使するのか、人間の内に秘んでいるディーモーニッシュな＜悪性＞についてアウシュビッツ強制収容所の『夜と霧』DVDを教材にして考察する。
【教科書ページ・参考文献】
参考文献　「共生と平和への道」聖心女子大学キリスト教文化研究所
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第８回　人間の歴史と倫理的課題（Ⅱ）
【key words】
②差別と偏見
【授業概要】
・「ハンセン病重監房の記録」宮坂道夫著
・水平社運動－部落解放運動の原点から差別・偏見の歴史を学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
参考文献　DVD「草津重監房収容者」の記録
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第９回　多様性と共生への道
【key words】
apartheid
【授業概要】
南アフリカ共和国のアパルトヘイト（人種差別制度）及びその政策に対して、隔離政策関連を廃止させ、南アフリカ初の黒人大統領となった、ネルソン・マンデラの生涯に学ぶ。
教材　DVD「マンデラとデクラーク」
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】 第１０回　社会福祉の思想と共生の倫理 【key words】 Human Rights 【授業概要】 人権思想の歴史と、世界人権宣言を中心にして、社会福祉（保障）の基本的理念について学ぶ。 ・基本的人権の尊重（９条） ・生存権（２５条） 【教科書ページ・参考文献】 参考文献　日本国憲法（１９４６年１１月３日発布） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１１回　科学技術と人類の課題（Ⅰ） 【key words】 ＜核エネルギーと共生の倫理＞ 【授業概要】 情報技術（IT)の発展によって、グローバル化する世界にあって、地球倫理の構築が必要とされている今日、核エネルギーをはじめ、技術革新によってもたらされる利便性と弊害について考察する。 ・福島原発事故をめぐって ・大気汚染と気候異変 【教科書ページ・参考文献】 参考文献　松井孝典著『地球倫理へ』岩波書店 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回　科学技術と人類の課題（Ⅱ） 【key words】 Pandemic 【授業概要】 ２０２０年、新型コロナウィルスが世界的規模で大流行している。これに対応するために、我々は今、何をするべきか。 「重要なことは、生命倫理をめぐる個々の解答をするよりも、むしろそうした個々の判断のベースにある『価値の体系（信念体系）』をできるだけ一貫した形で個人が築いていくことではないだろうか」広井良典著、『生命の政治学』岩波書店p.212 【教科書ページ・参考文献】 上掲書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回　倫理学・補足講義（1）いかに生きるか？ 【key words】 【授業概要】 「われわれは、好むと好まざるとにかかわらず人間として生まれ、人間として生きてきたのであるが、今後どのように生きたらよいのであろうか？」中村元著『＜生きる道＞の倫理　春秋社p.3 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回　倫理学・補足講義（2）分ち合の行為 【key words】 ＜実践＞すること 【授業概要】 「仏教の理想は＜慈悲＞であるが、人々に対する温かな思いやりというものは、単に心の中で思っているだけでは慈悲にならない。それは実際の行為、奉仕の行に具現されねばならない。」上掲書p.208 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　倫理学　総括：質疑・応答 【key words】 【授業概要】 最終レポート提出について、課題の提示 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	私語厳禁
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	リアクション・ペーパー提出
授業外時間にかかわる情報	講義時に指示する。

オフィスアワー	講義時に指示する。
評価方法	リアクション・ペーパー、及び出席　５０点 レポート提出　５０点
教科書	教科書は無いが、随時参考文献を紹介する。
参考書	随時提示
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　日本国憲法　　授業コード：S1081

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	社会福祉コース／福祉心理コース／児童福祉コース・選択／学校教育コース／初等教育コース・必修
担当教員			
森田　隆夫			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　日本国憲法が実質的にも日本の最高法規となりうるのは、それが人権の体系であるからである。基本的人権は、すべての法領域に妥当する普遍的原理であり、社会福祉法、社会福祉六法といった社会福祉に関する法律も、これを基礎とする。この憲法に触れ、人権の意味を知り、一般人としての、また、社会福祉の専門家としての基礎を作る。 【到達目標】 ①六法で条文を調べることができる。 ②憲法につきその重要な概念、制度等を説明することができる。 ③法を解釈するという思考方法をとることができる。
授業の概要	先ずは、条文に当たり、その理解をしたい。次に、それを基礎にして考えてほしい判例を、出来るだけ多く示す。適宜、関連する法律(特に行政法)の紹介も行う。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	△
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、　人権①（～前文） 【key words】 憲法　基本原理 【授業概要】 社会規範について説明をする。 憲法の意義、歴史、基本原理を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ16～22 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　ｐｐ22～27 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	人権②（天皇～私人間効力） 【key words】 国民主権　平和主義　人権享有主体性 【授業概要】 日本国憲法の基本原理である国民主権、平和主義について説明をする。 基本的人権総論として、人権共有主体性等の説明をする。〃 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ22～27 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　ｐｐ27～30 【予習復習に必要な想定時間】

		60分
	第３回	人権③（包括的基本権・法の下の平等） 【key words】 包括的基本権　法の下の平等 【授業概要】 新しい人権を生む１３条と自由とともに保障されている平等権について説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ27～30 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書ｐｐ30～32 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第４回	人権④（精神的自由（１）） 【key words】 精神的自由　思想良心の自由　信教の自由　学問の自由 【授業概要】 精神的自由権について、思想良心の自由　信教の自由　学問の自由を題材に説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ30～32 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　ｐｐ32～34 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第５回	人権⑤（精神的自由（２）） 【key words】 表現の自由　知る権利　検閲 【授業概要】 精神的自由の中心と位置付けられる表現の自由、そこから生まれる知る権利等について説明する。 関連する判例事案について討議する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ32～34 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　ｐｐ34～35 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第６回	人権⑥（経済的自由） 【key words】 経済的自由　職業選択の自由　財産権　居住・移転の自由 【授業概要】 職業選択の自由、財産権等を題材とし、精神的自由と比較して経済的自由について説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ34～35 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　ｐｐ35～37 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第７回	人権⑦（人身の自由） 【key words】 人身の自由　適性手続の保障 【授業概要】 人身の自由の保障と、そのための適正手続の重要性について説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ35～37 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　ｐｐ37～39 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第８回	人権⑧（生存権・教育を受ける権利） 【key words】 生存権　プログラム規定説　教育を受ける権利 【授業概要】 社会権につき自由権との比較のうえ説明する。 特に、福祉の基礎となる生存権に関する判例の考え方を紹介する。 関連する判例事案について討議する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ37～39 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　ｐｐ39～41 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第９回	人権⑨（労働権・参政権・国務請求権・国民の義務） 【key words】 労働権　参政権　国務請求権　国民の義務

【授業概要】
前回までに取り上げた人権以外の人権につき概説する。
国民の義務を説明する。″

【教科書ページ・参考文献】
ｐｐ39～41
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　ｐｐ43～49

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　統治①（統治機構・国会）
【key words】
権力分立　立法権　国会　二院制
【授業概要】
日本国憲法が定める統治機構について説明をし、そのうちの立法権を担う国会につき説明する。

【教科書ページ・参考文献】
ｐｐ43～49
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　ｐｐ49～51

【予習復習に必要な想定時間】
60分
60分

第１１回　統治②（内閣）
【key words】
行政権　内閣　議員内閣制
【授業概要】
行政権を担う内閣について説明をする。
国会との関係において議院内閣制を説明する。

【教科書ページ・参考文献】
ｐｐ49～51
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　ｐｐ52～57
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　統治③（裁判所Ⅰ）
【key words】
司法権　裁判所　統治行為論　三審制

【授業概要】
司法権の意義・範囲とその限界を説明する。
司法権を担う裁判所の組織について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
ｐｐ52～57
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　ｐｐ57～59
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　統治④（裁判所Ⅱ（裁判員制度含む））
【key words】
裁判官の独立　違憲審査権　裁判員制度
【授業概要】
裁判所を構成する裁判官の独立性、法律等を違憲とする違憲審査権につき説明をする。
あわせて、裁判員制度について概説する。

【教科書ページ・参考文献】
ｐｐ57～59
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　ｐｐ59～63
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１４回　統治⑤（財政・地方自治）
【key words】
財政立憲主義　公金支出　地方自治の本旨
【授業概要】
社会福祉に関しても重要性を有する財政、地方自治について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
ｐｐ59～63
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書、プリントを見直しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分

	第１５回　　まとめ 【key words】 憲法　人権　統治 【授業概要】 憲法に関し、特に重要と思われる事項につき再度説明をし、復習をしてもらう。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ16～63 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・社会福祉を志す者として、出席時間の厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教科書で予習・復習すること、特に憲法の条文に目を通しておくことが絶対に必要です。
オフィスアワー	火曜　10時半～12時、　木曜　16時～17時半
評価方法	定期試験（６０％）、授業時間に行う小テスト（４０％）を総合して評価する。
教科書	森長秀 編著「法学入門」光生館，2015年
参考書	小六法（例：「ポケット六法」有斐閣，2018年）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　社会調査の基礎　　授業コード：S1102　S1103

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期（社福②）・後期（社福①）	2年次	2単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・選択
担当教員			
大野　俊和			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 社会福祉士受験のためだけでなく、社会科学としての社会福祉を生み出すうえで必要な調査の知識習得を目的とする。 〔到達目標〕 社会福祉調査の基本的な手続き・技法を理解・習得する。 量的調査・質的調査についての知識を得る。 調査における倫理について理解する。
授業の概要	本講義では、社会現象を検討する上で用いられる社会福祉調査の理論とその分析手法について解説を行う。 講義では、実際のデータを用いた基礎分析ならびに、表グラフを用いたレポート作成についての実習がなされることになる。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	△
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	社会福祉調査の意義と目的 【key words】 社会福祉調査、貧困調査、統計法 【授業概要】 講義ガイダンスおよび社会調査の捉え方について学びます。 社会調査と社会福祉調査の関係を踏まえて、社会福祉調査の意義と目的について概観します。つぎに、社会調査の歴史について概観し、社会保障や社会福祉の発展において社会調査が果たしてきた役割について理解します。そして、社会福祉調査と関連の深い、日本における統計調査の基幹法となる統計法についての理解を深めます。 アクティブラーニング ブースのロンドン調査についてインターネットを通じて実際のデータを眺めながら理解します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書第1章2～19ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第2章について予習を進める 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第２回	社会福祉調査における倫理と個人情報保護 【key words】 倫理と個人情報保護 【授業概要】 社会福祉調査が調査対象者である個々人からのデータを収集するに伴って、調査対象者のプライバシーへの関与を生起させるという性質を踏まえ、調査対象者の人権を保護するという観点から、社会福祉調査における倫理や個人情報の保護について理解します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書第2章20～26ページ

【課題・予習・復習・授業準備指示】
第3章について予習を進める
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第３回　社会福祉調査のデザイン
【key words】
ソーシャルワーク・リサーチ　量的調査、質的調査
【授業概要】
社会福祉調査は、ジェネラリスト・ソーシャルワークにおいてソーシャルワーク・リサーチとして位置づけられます。ソーシャルワークは実戦に基づく学問であり、実践と調査は切り離せない関係にあります。ソーシャルワーク実践のための理論、そして調査の関係について理解し、ソーシャルワークの過程における調査の知識と技術の適用について学びます。ソーシャルワーク・リサーチは論理的な実践であり、論理的な道筋として演繹法と帰納法の理路によるソーシャルワーク・リサーチについても理解します。
さらに、調査計画書の作成について学びます。社会福祉調査の計画を通じて、調査目的を達成するための適切な方法の選択、対象設定、データの収集方法や分析へ進むリサーチのプロセスを理解しておくことが大切です。
【教科書ページ・参考文献】
教科書第3章28～53ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
52ページの各グラフを読み、違いについて理解する。

【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第４回　調査におけるデータ分析
【key words】

【授業概要】
度数分布表とヒストグラムの作成を行います。
また、代表値について理解を深めます。

アクティブラーニング
データを用いて度数分布表およびヒストグラムを作成します
【教科書ページ・参考文献】
50～53ページ　必要な場合、情報処理のテキストを用意すること
【課題・予習・復習・授業準備指示】
データにもとづいて課題作成を行います。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第５回　量的調査の方法　量的調査の特徴と種類
【key words】
全数調査と標本調査、横断調査と縦断調査、自計式調査と他計式調査
【授業概要】

ソーシャルワーカーには、クライエントの特徴や置かれている環境などをアセスメントするだけでなく、ソーシャルワーク実践の効果をクライエントに説明するために、科学的根拠に基づいた指標や資料などを持ち得ていることが求められています。量的調査ではこれらを数値化することにより、クライエントの特徴や環境を可視化するとともに、実践の効果を測定します。
ソーシャルワーク実践における量的調査の意義や貢献、限界を理解したうえで、量的調査がソーシャルワークの技術の一つであることを常に意識しながら、具体的な調査方法やデータの分析手法、分析結果の解釈方法について学びます。
アクティブラーニング
グループ単位でΣの計算課題を解きます。また平均と標本標準偏差の課題を個人で解いていきます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書第4章56～71ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第６回　量的調査の方法　調査票（質問紙）の作成方法と留意点
【key words】
ワ-ディング、ダブルバーレル質問、キャリーオーバー効果
【授業概要】
前週に引き続き、平均と標本標準偏差の課題を個人で解いていきます。
その後、調査票作成時におけるワーディングの問題について学びます。

アクティブラーニング
平均と標本標準偏差の課題を個人で解いていきます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書第4章72～86ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第７回　量的調査の方法　量的調査におけるデータ解析
【key words】

【授業概要】
代表値および散布度についてデータを用いて学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書第4章87～126ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】

プリントを配布します。各ワードを理解します。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第８回　量的調査の方法　量的調査におけるデータ解析
【key words】

【授業概要】
不偏分散、標本標準偏差についてデータを用いて学びます。

アクティブラーニング
エクセルを用いて、例題を解きながら学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書第4章87～126ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
エクセルを用います。基本的な関数を用いて分析を行います。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第９回　量的調査の方法　量的調査におけるデータ解析
【key words】

【授業概要】
前回に引き続き、不偏分散、標本標準偏差についてデータを用いて学びます。

アクティブラーニング
エクセルを用いて、例題を解きながら学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書第4章87～126ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
エクセルを用います。基本的な関数を用いて分析を行います。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１０回　量的調査の方法　量的調査におけるデータ解析
【key words】

【授業概要】
量的調査の重要用語および、回帰、相関係数を学びます。

アクティブラーニング
エクセルを用いて、例題を解きながら学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書第4章87～126ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
エクセルを用います。基本的な関数を用いて分析を行います。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１１回　質的調査の方法　質的調査の特徴と種類
【key words】

【授業概要】
質的調査の特徴や種類について学びます。ソーシャルワーク・リサーチにおいて、質的調査は調査領域の記述、仮説生成、理論構築のために選択される調査方法です。ソーシャルワークは人々の生活や関係性、社会とのつながりにおける問題にかかわります。そのような問題は数値で表し、理解することが困難な領域も少なくありません。人と環境、そして、その相互接触面の理解を深めるためには、その場面の詳細な調査が必要になります。また、その場面に至るまでの年月、プロセスや構造の変化などは、少数の対象にじっくりと関わる調査のスタイルが求められます。
質的調査は、調査対象や問いのレベル、調査目的によって適切にその方法を選択しなければなりません。ここでは質的調査の全体像をつかみ、質的調査の代表的な方法について学びを深めます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書第5章130～197ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１２回　質的調査の方法　質的調査の特徴と種類　質的調査におけるデータの分析
【key words】

【授業概要】
質的調査の代表的な方法である、KJ法およびグラウンデッドセオリーアプローチについて学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書第5章130～197ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１３回　質的調査の方法　質的調査におけるデータの分析
【key words】

	【授業概要】 前回に引き続き、質的調査の代表的な方法である、KJ法およびグラウンデッドセオリーアプローチについて学びます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書第5章130～197ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第１４回　ソーシャルワークにおける評価 【key words】 【授業概要】 ソーシャルワーカーは内省することっで成長するといわれています。ソーシャルワーク実践では、ソーシャルワーカーは自らが支援ツールとなります。ソーシャルワーカーとして成長するためには客観的なかかわりを振り返らなければなりません。また、ソーシャルワークは専門職としてのアカウンタビリティを求められます。場当たり的な実践、経験則に頼った実践は、クライエントからはもちろん、社会からの承認も得ることもできません。展開したソーシャルワーク実践を適切に評価し、それを公表することでアカウンタビリティを果たせるとすれば、その評価の質が問われます。ここでは、ソーシャルワーク実践の評価の意義を理解し、社会福祉調査の知識と技術をソーシャルワークの評価に適用させて実施する方法について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書第6章200～229ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第１５回　ソーシャルワークにおける評価と到達テスト 【key words】 【授業概要】 前回に引き続き、ソーシャルワークにおける評価について学びます。具体的には、ソーシャルワークにおける評価対象、評価方法について学びます。また、最後にこれまでを振り返って、確認のための小テストを実施します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書第6章200～229ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 PCもしくはLL教室での講義・実習が主体となる。 〔受講のルール〕 データの受け渡しのため、USBメモリ等の記録媒体を用意しておくこと。 マイクロソフトエクセルの基礎的な操作知識（if関数等）を前もって習得しておくことが望ましい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	エクセルとワードが不得手の学生は1年次の情報処理のテキストを持参すること。教科書はもとより、講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。
オフィスアワー	金曜日3時限目
評価方法	コメント評価（15%）、課題の提出（65%）、小テスト（20%）。
教科書	″最新　社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座５ 社会福祉調査の基礎 2021 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟　　中央法規出版
参考書	講義中に適宜指定する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない

	ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 韓国語Ⅰ　　授業コード：S1194

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
朴　惠蘭			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ハングル（文字）の成り立ちや発音を学習し、文字が読み、書けるようにする。日常生活の中でよく使う基本会話を身に付 ける。韓国語で自己紹介が出来るようにする。パソコンで韓国語の入力が出来るようにする。 【到達目標】 １）ハングル文字が書けて正しく読める。 ２）挨拶・生活の基本会話を身に付ける。 ３）韓国語で自己紹介が出来る。 ４）　パソコンで韓国語の入力が出来る。
授業の概要	ハングルの特長、話し言葉の特徴や発音、イントネーションを日常生活及び一般的な話題を通じて学び、基礎会話が 出来る様に何度も口に出して練習する。 ハングルの仕組、特徴を理解し読み書き出来る様にくり返し練習する。パソコン・CD・DVD等の視聴覚教材も用いる。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回　オリエンテイション　ハングルについて、語順、仕組み、特徴 【key words】 ハングル・仕組み・語順 【授業概要】 ハングルが創られた時代、歴史的な背景をDVDを見せて説明して、ハングルの仕組みと語順、特徴、漢字との関連性を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ14～17 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ハングルの仕組みを理解して次の授業に備える。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２回　ハングルの母音、出会いの挨拶 【key words】 母音・組み合わせ・挨拶 【授業概要】 ハングルの10個の基本母音の読み書きを説明して練習させて組み合わせを説明して覚えさせる。 出会いの時の挨拶を口に出して練習させる。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ20～24 【課題・予習・復習・授業準備指示】 母音10個の読み書きを復習して覚えること。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　ハングルの子音、発音のコツ、別れの挨拶

【key words】
子音・平音・激音・有声音化

【授業概要】
ハングルの基本子音14個の形と発音の読み書きを復習して覚える。基本母音との組み合わせを説明して、子音には平音と激音があり発音の際にコツがあることを教える。別れる時の会話を口に出して繰り返して練習させる。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ26～37
【課題・予習・復習・授業準備指示】
子音14個の読み書きを復習して覚えること。であいと別れの時の会話を復習して次の授業でペアで発表すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第４回　ハングルの子音（平音、激音、濃音の相違点）　感謝、謝罪の際の会話

【key words】
濃音・感謝・謝罪

【授業概要】
ハングルの基本子音14個以外に5個の子音(濃音)を平音、激音と比較しながら息の量で発音のコツを覚えさせる。感謝と謝罪の時の会話を口に出して練習させる。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ38～47
【課題・予習・復習・授業準備指示】
平音・激音・濃音の違いを理解して書けるように復習すること。教科書48ｐ49ｐ課題を提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　ハングルの二重母音、有声音化　食事の時の会話

【key words】
複合母音・組み合わせ

【授業概要】
基本母音を二重に組み合わせて、さらに11個の複合母音(二重母音)を書けて読めるように練習させる。
食事の時の会話を何度も口に出して練習して、ペアで発表する。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ50～55
【課題・予習・復習・授業準備指示】
基本母音、二重母音、子音(平音・激音・濃音）を組み合わせた文字を書いて提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　ハングルのパッチム、出かける時の会話

【key words】
パッチム・有声音パッチム・連音化

【授業概要】
パッチムとは何かを説明して、パッチムの中で有声音パッチムの読み方、書き方を覚えて発音出来るようにする。出かける時の会話(行って来ます、行ってらっしゃい)を何度も口に出してペアで練習する。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ58～61
【課題・予習・復習・授業準備指示】
パッチムのある単語の読み書きを復習して覚える。
【予習復習に必要な想定時間】
60

第７回　ハングルの二重パッチム、お願いの時の会話

【key words】
二重パッチム・無声音パッチム

【授業概要】
パッチムは有声音パッチムと無声音パッチムと二重パッチムに分類し区別して説明して、発音出来るように練習させる。お願いの時の会話を何度も口に出して練習する。
【教科書ページ・参考文献】
p62～65
【課題・予習・復習・授業準備指示】
無声音パッチムの読み書きを復習して覚える。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　ハングルの発音の法則

【key words】
有声音化・連音化・弱化・鼻音化・激音化・濃音化

【授業概要】
ハングルの発音の際には様々な発音の法則(有声音化・連音化・弱化・鼻音化・激音化・濃音化)があることを説明して、正確に発音出来るように練習する。
【教科書ページ・参考文献】
p66～69　付録ｐ204～207

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書67ｐ69ｐ練習ドリルをやること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　ハングルのカナ表記法による人名、地名などの固有名詞の表記
【key words】
人名・地名・住所

【授業概要】
日本語の人名・地名などをハングルで書く時に表記法によるルールを説明して、名前と住所をハングルで書いてみる。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ25
【課題・予習・復習・授業準備指示】
日本の都道府県名をハングルで書いてみること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　パソコンでのハングルの入力の仕方
【key words】
ハングルのキーボード

【授業概要】
パソコンでのハングルのキーボードを画面上に出す方法を操作して打ち方を教えて簡単な自己紹介文を打ってみる。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ102
【課題・予習・復習・授業準備指示】
家のパソコンを操作してハングルが打ってるようにして自己紹介文を打ってプリントアウトして提出する。

【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第１１回　～は～ですの文型、自己紹介
【key words】
人称代名詞・職業

【授業概要】
人称代名詞・職業の韓国語の単語を覚えて～は～ですの文型を練習して自己紹介文を書いてみる。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ75～77
【課題・予習・復習・授業準備指示】
人称代名詞を復習して暗記して来ること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　～は～ですか？の文型
【key words】
国名・何人(日本人、韓国人、中国人、イギリス人、アメリカ人)

【授業概要】
国名を韓国語で覚えてあなたは何人ですか、私は～人ですの文型を国の名前を入れ替えながら練習する。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ78～79
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書80ｐ課題を書いて提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60％

第１３回　これは～ですか、それは～ですの文型、指示代名詞
【key words】
指示代名詞・これ・それ・あれ・どれ・身の回りの単語

【授業概要】
指示代名詞と身の回りの単語を覚えてこれは～ですか、それは～ですの文型を書いてみる。又ペアで単語を入れ替えながら読む練習をする。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ83～85
【課題・予習・復習・授業準備指示】
指示代名詞を復習して暗記して来ること。

【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第１４回　助詞～も、～ではありませんの文型、ハングルゲーム

	【key words】 教室の中のもの・野菜・果物・動物の名前動物の名前をゲーム形式 【授業概要】 教室の中にあるものの単語を覚えてこれも～ですか、それは～ではありませんの文型を単語を入れ替えながら繰り返して練習して覚える。ハングルで野菜、果物、動物の名前をゲーム形式で探すことをしてハングルの読む能力を確かめる。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ86～87 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書88ｐ課題を書いて提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　読み書きのまとめ、日常会話の復習 【key words】 まとめ・基礎会話 【授業概要】 ハングル文字が書けて発音の変化の法則通り正しく読めるかをまとめて復習する。日常生活での基礎会話と自己紹介を韓国語で発表する。 【教科書ページ・参考文献】 プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テストに備えての復習用のプリントを書いて提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	日本語に無い発音が多い為、正しい発音を身に付けるためには、積極的に出席し積極的に何度も口に出して練習する 事が望ましい。 文字の読み書きから覚えて行く初めての言語なので文字を覚える為には、繰り返しの練習、復習が必要である。 韓国語Ⅰに続けて韓国語Ⅱも一緒に履修する事が望ましい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	毎回の授業後に復習用の宿題を次回授業時に提出する事
オフィスアワー	授業の15分前、授業後の30分は対応可能。
評価方法	定期試験60%　宿題及びレポート40%
教科書	李 昌圭 著　『　韓国語へ旅しよう　（初級）　』　　朝日出版社
参考書	自作プリント
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 韓国語Ⅱ　　授業コード：S1196

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
朴　惠蘭			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 基礎会話から少し進んだ日常会話を身に付ける。数字、番号、物の値段が言えるようにする。言葉を通じて韓国語と日本語の発想、表現の違いなどを確認して行く。韓国に興味が持て、現代韓国社会・文化と現代日本社会・文化との共通点と相違点を知る。 【到達目標】 1）基礎会話から進んだ日常会話を身に付ける。 2）月・日・番号・値段が言える。 3）韓国語と日本語の共通点、相違点を知る。 4）簡単な発表などを韓国語で出来る様にする。 5）韓国の社会・文化・歴史に対する理解を深める。
授業の概要	韓国語Ⅰで韓国語の基礎会話、発音の習得を終えた学生を対象に、書く・読む・話すの4機能のうち書くこと・話す事にやや比重を置いて授業を進めて行き会話力を身に付ける。疑問詞、数詞などを用いて教科書の項目別文例をもとに、対応の言い換え練習を行いながら会話を覚えて行く。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、この人は誰ですか、助詞～の 【key words】 家族の呼び名・性別・三人称 【授業概要】 韓国語では性別によって呼び名が違うことを知って呼び名を覚える。三人称代名詞この方、その方、あの方どの方を覚える。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ97 【課題・予習・復習・授業準備指示】 家族の呼び名を覚えて暗記して来ること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	指示代名詞　（事物・場所）、これは誰のものですかの文型 【key words】 この、その、あの、どの、省略 【授業概要】 この人は～です、この～は～の物ですの文型に物や人物の名を入れ替えながら練習する。助詞～

のは会話の中でほとんど省略されることは日本語との相違点である事を知る。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ91～96
【課題・予習・復習・授業準備指示】
この～は～の物ですの文を10個作って宿題として提出する。

【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第３回　助詞（も）、否定形、家族の呼び名、指示代名詞の復習
【key words】
まとめ・復習

【授業概要】
人称代名詞、家族の名称、身の回りの単語を用いて今まで習った文型に書き入れる練習をして復習ししっかり覚えたかを確認していく。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ98～101
【課題・予習・復習・授業準備指示】
指示代名詞、身の回りの単語、家族の名称を復習して暗記して来ること。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　助詞（と）、位置関係の言葉
【key words】
前後・左右・上下・パッチムある単語、ない単語

【授業概要】
位置関係の言葉を口に出して練習して覚える。助詞～もはパッチムある単語とない単語のあとに形で接続を理解してそれぞれの形を覚える。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ103～105
【課題・予習・復習・授業準備指示】
位置関係の言葉を復習して暗記して来ること。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　助詞（に）、～に～があります、ありませんの文型
【key words】
居る・ある・場所

【授業概要】
位置関係の言葉と場所の言葉を用いて～に～があります、ありませんの文型を練習して覚えて行く。居る・あるを区別しない事もと日本語との相違点である事を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ106～110
【課題・予習・復習・授業準備指示】
～に～がありますの文を10個作って次回に宿題として提出する事。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　用言の「です・ます形」、助詞（を）
【key words】
基本形・語幹・語尾・活用

【授業概要】
生活の中でよく使う動詞、形容詞の基本形から語尾を変えて～です、ます形の会話体にすることを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ111～115
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学校、教室の中でよく使う動詞、形容詞を20個覚えること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第７回　～で～をしますの文型、助詞（で）
【key words】
丁寧な会話体

【授業概要】
覚えた基本動詞と形容詞を丁寧な会話体に書き換える練習をして～で～をしますの文型を覚える。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ116～117
【課題・予習・復習・授業準備指示】
113ｐのドリルをして提出する事。
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第８回　映像（韓国映画）で学ぶハングル
【key words】
映画・聴き取り・感想文

【授業概要】
映像（韓国映画）を通して文化を知って、今まで教科書で学んだ会話文の聴き取り能力を確かめる。

【教科書ページ・参考文献】
DVD
【課題・予習・復習・授業準備指示】
韓国映画の感想文を書いて提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第９回　否定の表現、体の名称
【key words】
後置否定形

【授業概要】
覚えた基本動詞と形容詞を語尾を変えて、否定形（～しません、～くありません）の文型を覚える。体の名称を覚える。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ118～120
【課題・予習・復習・授業準備指示】
体の名称を復習して暗記して来ること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　曜日の言い方、尊敬会話体
【key words】
何曜日・いつ・尊敬補助語幹

【授業概要】
一週間の曜日の言い方を練習して覚える。尊敬補助語幹を用いて尊敬会話体の文章作りの練習をする。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ121～125
【課題・予習・復習・授業準備指示】
曜日の言い方を復習して暗記して来ること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　不規則活用、連結語尾～しにの文型
【key words】
脱落・連結語尾

【授業概要】
用言を尊敬会話体に活用する際に不規則活用の用言があることを説明して覚える。連結語尾～しにを用いて文作りの練習をする。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ126～129
【課題・予習・復習・授業準備指示】
～しにの語尾を用いて5個の文作りをして提出する事。
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第１２回　疑問詞
【key words】
誰・いつ・どこ・なぜ・何・いくら・どうやって

【授業概要】
疑問詞を用いての疑問文を単語を入れ替えながら練習して覚える。
【教科書ページ・参考文献】
プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
疑問詞7個を復習して暗記して来ること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　過去形、過去尊敬形
【key words】
過去時制補助語幹

【授業概要】
用言の基本形の過去補助語幹と尊敬補助語幹を用いて過去形、過去尊敬形の会話文を復習して覚える。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ135～137、ｐ140～141
【課題・予習・復習・授業準備指示】
138ｐ139ｐのドリルで復習して提出する事。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１４回　連結語尾～て、して、連結語尾～けれとも、が
【key words】
動作の継続・順序・内容の対立

【授業概要】
動作の継続と順序の連結語尾～で、～してと内容の対立の連結語尾～けれともを用いて会話文作りの練習をして覚える。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ142～144
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書145ｐの課題をやって提出すること。

	【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　まとめて復習 【key words】 助詞・活用・不規則活用 【授業概要】 今までの助詞、活用した会話文、単語、文型をまとめて復習して日常会話、教室会話を二人ペアで発表させる。 【教科書ページ・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日常生活会話、教室会話を復習してテストに備える。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
受講生に関わる情報および受講のルール	日常生活及び身近な一般的な題材を中心に会話を学んで行く授業である。日本語の発音と似ている単語も多く、新たな発見も有り、とても学び易い言語でもある。身に付ける為には、繰り返しの練習、復習が必要である。原則として「韓国語Ｉ」の修了者を対象とする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	毎回の授業後に復習用の宿題を次回授業時に提出する事。
オフィスアワー	授業の15分前、授業後の30分は対応可能。
評価方法	定期試験60%　宿題及びレポート40%
教科書	李 昌圭 著　『 韓国語へ旅しよう （初級） 』　朝日出版社
参考書	自作プリント
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 中国語Ⅰ　　授業コード：S1197

英文科目名称： Chinese (Mandarin)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
岡野　康幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ・中国語の正確な発音と初歩の文法・語彙を修得することにより、自身に関する簡単なことが言えるようにする。 ・中国語の学習を通じて、日本語との構造の差異に着目する。 【到達目標】 ・ピンインを見て発音ができるようになる。 ・中国語であいさつ・簡単な自己紹介ができるようになる。
授業の概要	中国語は声調（音声の高低）によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語です。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習（予習・復習）の筋道をつける。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	◎
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　諸注意　読みなれている言葉を中国語で発音してみよう 【key words】 受講にあたっての諸注意　中国語　漢語　簡体字　繁体字　ピンイン 【授業概要】 みなさんにとって中国語を本格的に学ぶのは初めてのことだと思います。初回に中国語と中国に関する概説をします。漢字や漢文表現は日本語の一部となっています。しかしもとは中国語（古典中国語）です。孔子やラーメンを中国語で発音し、日本語との差異を感じてください。なお、この授業で言う「中国語」とは、中華人民共和国で使用されている“普通话”（普通話）を指して言います。 【教科書ページ・参考文献】 P2 【課題・予習・復習・授業準備指示】 この日講義した内容を忘れないように、帰宅後もう一度ノートを見返してください。大まかな中国語の概略の定着が図れます。 【予習復習に必要な想定時間】 １０分
	第２回	発音の決まりごと（１） 【key words】 ピンイン　声調（四声）　単母音　複合母音 【教科書ページ・参考文献】 教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【授業概要】 中国語は声調言語（音の高低によって意味が異なる）です。故に入門段階では発音の練習が最も重視されます。著名な中国語研究者が「中国語　発音よければ　半ばよし」と言うほど、中国語における発音の比重は高いのです。この回では、声調（四声）・単母音・複合母音について発音

		練習していきます。 【教科書ページ・参考文献】 P2・P3 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能性が大だからです。 【予習復習に必要な想定時間】 １５分
	第３回	発音の決まりごと（２） 【key words】 声調　併音 【授業概要】 前回に続き発音の練習をします。今回は鼻母音・軽声・声調変化について練習していきます。また中国語の発音表記法である併音（ピンイン）の使い方についても講義します。 【教科書ページ・参考文献】 P4～P7 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能性が大だからです 【予習復習に必要な想定時間】 １５分
	第４回	第０課　你好！（こんにちは　その1） 【key words】 你好　併音 【授業概要】 外国語を学ぶ際にあいさつはどの言語でも最初に学ぶ語彙でしょう。発音の練習をしっかりやっていきます。またピンインの綴り方を学習します。 【教科書ページ・参考文献】 P4・P5 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。 【予習復習に必要な想定時間】 １５分
	第５回	第０課　你好！（こんにちは　その2） 【key words】 你好　併音　名前の尋ねかた 【授業概要】 今回より意味も含め本格的に中国語を学んで行きます。あいさつ・自己紹介・よろしくのあいさつ三大要素を暗記できるまで言ってみましょう。また中国語では名前の尋ねかた、あいさつの仕方についても何通りかあります。語彙を増やして表現を豊富にしてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P4・P5 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。 【予習復習に必要な想定時間】 １５分
	第６回	第１課　你是日本人吗？（あなたは日本人ですか　その１） 【key words】 是構文（名詞述語文） 【授業概要】 この回では人称代名詞と動詞“是”「～です」について学習します。動詞“是”の構文は名詞述語文と呼ばれるもので基本構造の文です。この構文を使って会話と作文をしていきます。 【教科書ページ・参考文献】 P10・P11 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。 【予習復習に必要な想定時間】 １５分
	第７回	第１課　你是日本人吗？（日本人ですか　その２） 【key words】 是　不是　也　吗 【授業概要】 前回の復習から始めます。知識をしっかり植えつけましょう。新しく動詞“是”の疑問文・否定文のつくり方と副詞”也”の使い方そして疑問文の作り方を学習します。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P10～P13 【課題・予習・復習・授業準備指示】

		予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。 【予習復習に必要な想定時間】 １５分
	第８回	第２課　这是什么？（これは何ですか　その１） 【key words】 这个 那个 哪个 【授業概要】 この回では指示代名詞（こそあど【これ・それ・あれ・どれ】）について学習します。この構文を使って会話と作文をしていきます。 【教科書ページ・参考文献】 P14・P15 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。 【予習復習に必要な想定時間】 １５分
	第９回	第２課　这是什么？（これは何ですか　その２） 【key words】 什么 谁 哪里 的 【授業概要】 前回の復習から始めます。知識をしっかり植えつけましょう。疑問詞疑問文“什么”“谁”“哪里”を使って疑問 文を作ってみましょう。また助詞“的”を使い所有を示す「～の」の構文も学習します。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P14～P17 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。 【予習復習に必要な想定時間】 １５分
	第１０回	第３課　今天几月几号？（今日は何月何日ですか　その１） 【key words】 曜日の言い方 【授業概要】 日付・曜日の尋ねかたについて学習します。日付･曜日の言い方は基本的に日本語と同じですが、語彙が異なりますので気をつけてください。 【教科書ページ・参考文献】 P18・P19 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。 【予習復習に必要な想定時間】 ２０分
	第１１回	第３課　今天几月几号？（今日は何月何日ですか　その２） 【key words】 動詞文　S+V+O 【授業概要】 前回の復習から始めます。知識をしっかり植えつけましょう。動詞文（主語+動詞【+目的語】）の構文は動 詞述語文と呼ばれるものです。動作を表す語彙を用いて表現力を豊富にしていきましょう。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P18～P21 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。 【予習復習に必要な想定時間】 ２０分
	第１２回	第４課　你今年多大？（あなたは今年何歳ですか？　その１） 【key words】 年齢の尋ね方 【授業概要】 年齢の尋ねかた・年の言い方について学習します。中国語では年齢を聞くときに、①子ども②同世代･年下③目上の人で尋ね方が異なります。（日本語でもそうですよね）難しいことはありませんが、使い分けができるようにしてください。また年の言い方（おととし・去年・今年・来年・再来年）の言い方についても学習します。 【教科書ページ・参考文献】 P22・P23 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。次回、既習分の小テストを実施します。 【予習復習に必要な想定時間】

	２０分 第１３回　第４課　你今年多大？（あなたは今年何歳ですか？　その２） 【key words】 年の言い方　数の数え方 【授業概要】 小テスト及び前回の復習から始めます。知識をしっかり植えつけましょう。この回では一から百までの数の数え方を学習します。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P22～P25 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。 【予習復習に必要な想定時間】 ２０分 第１４回　第５課　現在几点？（いま何時） 【key words】 時間 【授業概要】 講義の前に再小テストを実施します。講義では、時刻の尋ねかた・言い方について学習します。日本語と時刻の言い方が異なる場面もありますので、その違いに注意しながら学習していきましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P26～P29 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。 【予習復習に必要な想定時間】 ２０分 第１５回　前期総復習 【key words】 総復習　発音　併音の綴り方 【授業概要】 前期に学習したことが定着しているか復習します。特に発音は中国語学習における最大のポイントです。確実に定着させましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P3～P29 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前期最後の講義になりますので、よく理解できなかった点や発音しにくいところをリスト化して講義に来てください。また練習問題や小テストの間違えた部分を再度やり直して講義に臨んでください。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
受講生に関わる情報および受講のルール	・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。 ・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。中国語Ⅰに続けて中国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	漢字で書かれていても中国語は外国語です。漢字を見て中国語ではどのように発音するのかと意識してみてください。
オフィスアワー	毎週火曜１４時～１６時
評価方法	期末試験７０％　小テスト３０％
教科書	川邉雄大『体育・スポーツ系のための入門中国語』朝日出版社、２０１９年１月
参考書	相原茂『はじめての中国語』講談社現代新書、１９９０年２月
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育

	■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 中国語Ⅱ　　授業コード：S1196

英文科目名称： Chinese (Mandarin)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
岡野　康幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ・中国語Ⅰに続き、正確な発音、初級文法・語彙を修得することにより、身辺の日常的な事柄を表現できるようにする。 ・中国語の学習を通して、日本語日本文化との相違に着目する。 ・語学学習を通して、異文化理解を深めます。 【到達目標】 ・簡単・初歩的な日常会話ができるようにする。このレベルは真面目に予習復習をすれば中国語検定４級のレベルになります。
授業の概要	中国語は声調（音声の高低）によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語です。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習（予習・復習）の筋道をつける。加えて、中国語Ⅱは語学のみならず、中国の文化歴史にも着目し授業を進めます。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	◎
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	第６課　你家有几口人？（あなたの家族は何人ですか　その１） 【key words】 你家　几 【授業概要】 数の数え方について学習します。中国語では１０以下か以上かで尋ね方が異なります。家族の場合はたいてい１０人以下でしょうから“几”になります。また家族人員を示す語彙も覚えましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P30・P31 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P30・P31の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第２回	第６課　你家有几口人？（あなたの家族は何人ですか　その２） 【key words】 動詞“有” 【授業概要】 所有を示す動詞“有”を使い「ある、持っている」を表す文章を作っていきます。肯定文以外にも否定文･疑問文のつくり方も覚えましょう。関連表現も覚えていきましょう。また練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P30～P33 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P33の単語帳（家族）を聞き、中国語で家族名称が答えられるようよく予習をしてください。合わ

せてP30・P31の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　第７課　体育馆在哪儿？（体育館はどこですか　その１）
【key words】
動詞“在”所在・在所を表す

【授業概要】
所在・存在を示す“在”を使い「ある、いる」を表す文章を作っていきます。肯定文以外にも否定文･疑問文のつくり方も覚えましょう。更に願望を示す助動詞“想”を使い自分の願望を表す文章を作ってみましょう。
【教科書ページ・参考文献】
P34・P35
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P34・P35の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第４回　第７課　体育馆在哪儿？（体育館はどこですか　その２）
【key words】
連動文

【授業概要】
動作が二つ連続して行なわれる文章を連動文と言います。例えば、体育館に行ってバスケットをする。と言った場合、“行って”と“する”の二つの動詞からこの一文は成り立っています。中国語での連動文を作ってみましょう。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。
【教科書ページ・参考文献】
P34～P37
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P37の単語帳（方位詞）を聞き、中国語で方位名称が答えられるようよく予習をしてください。合わせてP34・P35の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　第８課　山田太郎在家吗？（山田太郎は家にいますか　その１）
【key words】
100以上の数の数え方　動詞“在”の活用（肯定文・否定文・疑問文）

【課題・予習・復習・授業準備】

【授業概要】
この回では１００以上の数の数え方を学習します。日本語の数え方と若干異なりますので気をつけてください。また前々回に学習した所在・存在を示す“在”を使い（わたしは～にいる）という文章を作っていきます。
【教科書ページ・参考文献】
P38・P39
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P38・P39の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第６回　第８課　山田太郎在家吗？（山田太郎は家にいますか　その２）
【key words】
电话 番号として言うときの“一”の発音

【授業概要】
電話口での中国語会話を学習します。電話で外国語を使用するのは想像以上に難しいです。（相手の顔が見えないので、表情を窺えません）しかし、初級者でも基本的なことはいえますので、基礎的な会話を学習しましょう。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。
【教科書ページ・参考文献】
P38～P41
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p41の単語帳（街中）を聞き、中国語で街中に関する言葉を答えられるようよく予習をしてください。合わせてP38・P39の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　第９課　你喜欢什么？（あなたは何が好きですか　その１）
【key words】
Ｓ+Ｖ+Ｏ　喜欢

【授業概要】
中国語の基本構文はＳ+Ｖ+Ｏ（主語+述語+目的語）です。この構文を体に染み込むまで徹底して学習します。“喜欢”を使い（～が好き）という文章を作っていきます。
【教科書ページ・参考文献】
P42・P43
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P42・P43の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第８回　第９課　你喜欢什么？（あなたは何が好きですか　その２）
【key words】
喜欢　動詞

【授業概要】
“喜欢”を使って、肯定文以外に否定文や疑問文を作っていきます。中国語は日本語と異なり「～するのが好き」という形になります。ですから日本語では「野球が好き」で通じますが中国語の場合、「野球をするのが好き（我喜欢打棒球）」となります。（打が動作を示す）このことについても学習し理解してください。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。
【教科書ページ・参考文献】
P42～P45
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p45の単語帳（行動）を聞き、中国語で行動に関する言葉を答えられるようよく予習をしてください。合わせてP42・P43の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　第10課　你身体真棒！（あなたの体は本当にすばらしい　その１）
【key words】
副詞　很 真

【授業概要】
形容する際の文章（形容詞述語文）について学習し、習得してもらいます。形容詞述語文の大きな特徴として必ず副詞“很”“真”などを付けなければなりません。“是”構文との相違に着目しながら解説していきます。
【教科書ページ・参考文献】
P46・P47
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P46・P47の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１０回　第10課　你身体真棒！（あなたの体は本当にすばらしい　その２）
【key words】
主述述語文　吧

【授業概要】
主述述語文（～は～が～だ、例として象は鼻が長い）と文末の“吧”について学習します。特に“吧”は３種類の使い方があるので注意して学習していきましょう。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。
【教科書ページ・参考文献】
P46～P47
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p49の単語帳（対義語）を聞き、中国語で対義語を答えられるようよく予習をしてください。合わせてP46・P47の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　第11課　　您要什么？（あなたは何が欲しいですか　その１）
【key words】
助動詞　要（要には二つの意味があるので気をつけてください）

【授業概要】
助動詞“要”は（～したい）という願望を意味するときと、（欲しい）の意味の場合と二つあります。この差異に注意して学習していきます。
【教科書ページ・参考文献】
P50・P51
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P50・P51の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　第11課　　您要什么？？（あなたは何が欲しいですか　その２）
【key words】
金額の数え方

【授業概要】
お金の数え方について学習します。また買い物の際の中国語を身につけましょう。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。
【教科書ページ・参考文献】
P50～P53
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p53の単語帳（色）を聞き、中国語で色を答えられるようよく予習をしてください。合わせてP50・P51の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　第12課　　你打羽毛球打得很好！
【key words】
様態補語　得

【授業概要】
様態補語“得”について学習します。日本語とは言い表し方が異なりますので、差異に着目しながら学習します。
【教科書ページ・参考文献】
P54・P55

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 P54・P55の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 20分 第１４回　第12課　你打羽毛球打得很好！ 【key words】 助動詞　会 【授業概要】 助動詞“会”（できる）は学習･練習の結果何らかの技能が「できる」と言う意味を表します。この“会”を使い文章を作ります。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P54～P57 【課題・予習・復習・授業準備指示】 p57の単語帳（動作）を聞き、中国語で動作を答えられるようよく予習をしてください。合わせてP54・P55の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１５回　ドリル　総復習中国語のまとめ 【key words】 復習　外国語を学ぶ意義 【授業概要】 ドリル問題を解き弱点を把握し解決していきます。この時点でしっかりマスターしていれば中国語検定４級のレベルになります。４級は中国語の基礎をマスターしたレベルになります。中国語検定試験４級に挑戦してみるのも面白いと思います。最終回ですので、外国語を学ぶ意義について受講生とともに考えます。 【教科書ページ・参考文献】 P58～P69 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P58～P62は初歩レベルですので、家で解いてきてください。（即ち宿題を意味します） 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。 ・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。 ・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。 ・中国語Ⅰに続けて中国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	漢字で書かれていても中国語は外国語です。漢字を見て中国語ではどのように発音するのかと意識してみてください。
オフィスアワー	毎週火曜１４時～１６時
評価方法	期末試験７０％　小テスト３０％
教科書	川邉雄大『体育・スポーツ系のための入門中国語』朝日出版社、２０１９年１月
参考書	相原茂他「why？にこたえる　はじめての　中国語の文法書新訂版』同学社、２０１６年１１月　倉石武四郎『中国語五十年』岩波新書、１９７３年１月
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 経済学　　授業コード： S1211

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
白石　憲一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 経済学の基礎を学習していないと、毎日報道される経済関係のニュースに対して自分なりの的確な見解を持つことは難しい。この授業では学生がマクロ経済学の基礎を理解することを目的とする。 【到達目標】 そして毎日起きる経済事象について自分なりの意見を持つことを授業の到達目標とする。
授業の概要	経済学の基礎理論について概観していく。あわせて現実の経済データを用いて、経済の実態についても講義をしていく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	○
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテ-ション 【key words】 【key words】 経済学 【授業概要】 授業の概要について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 21頁～240頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第２回	貧困 【key words】 【key words】 相対的貧困、イギリス 【授業概要】 貧困の種類と福祉施策の歴史について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 「国民生活基礎調査」（厚生労働省） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 相対的貧困について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第３回	社会保障と経済 【key words】 【key words】

医療保険制度、アメリカ
【授業概要】
福祉施策と経済学との関わりについて学習する。

【教科書ページ・参考文献】
「社会保障」（中央法規）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
アメリカの医療保険制度について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第４回　経済学とジェンダー
【key words】
【key words】
ジェンダー
【授業概要】
ジェンダーと経済学との関わりについて学習する。

【教科書ページ・参考文献】
4頁～7頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ノーベル平和賞受賞者について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第５回　格差
【key words】
ジニ係数
【授業概要】
ジニ係数の解釈の方法について学び、さらに格差拡大の要因とその影響について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
「格差と成長」（OECD）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ジニ係数の統計数値を確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第６回　GDP
【key words】
ＧＤＰ、三面等価の原則
【授業概要】
ＧＤＰのデータの作成方法、データの読み方について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
「国民経済計算」（内閣府）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「国民経済計算」（内閣府）の統計数値を確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第７回　幸福の経済学
【key words】
幸福、相対所得仮説
【授業概要】
相対所得仮説と幸福感の関係について学習する。

【教科書ページ・参考文献】
「幸福の政治経済学」（ダイヤモンド社）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
幸福感に関係する統計を確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第８回　ストック経済学
【key words】
株価

【授業概要】
株価データの見方、キャピタルゲインの計算方法について学習する。

【教科書ページ・参考文献】
「入門マクロ経済学」（日本評論社）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
日本の株価を新聞で確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第９回　経済成長
【key words】
ソロー、労働、資本、技術進歩
【授業概要】

新古典派の経済成長理論について学習する。

【教科書ページ・参考文献】
「入門マクロ経済学」（日本評論社）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
経済成長率の統計を確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第１０回　教育の経済学
【key words】
認知能力、非認知能力

【授業概要】
認知能力、非認知能力の意味を理解し、仕事の業績との関係について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
「学力の経済学」（ディスカヴァー・トゥエンティワン）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
認知能力、非認知能力について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第１１回　福祉と経済学
【key words】
福祉教育

【授業概要】
福祉と経済学との関わりについて学習する。
【教科書ページ・参考文献】
4頁～7頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
明治・大正時代の日本の経済状況について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第１２回　国際収支
【key words】
国際収支表

【授業概要】
国際収支表の統計について、具体的な統計数字を用いて学習する。

【教科書ページ・参考文献】
「入門マクロ経済学」（日本評論社）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
国際収支表の統計を確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第１３回　国際金融
【key words】
為替レート

【授業概要】
為替レートの意味を理解し、貿易との関係について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
「入門マクロ経済学」（日本評論社）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
為替レートの統計数字を確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第１４回　金融
【key words】
貨幣ストック、金利、貨幣需要
【授業概要】
貨幣ストックの統計、金利・貨幣需要の決定要因について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
「入門マクロ経済学」（日本評論社）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
金融に関係する統計数値を確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第１５回　経済学と日本経済
【key words】
経済理論

【授業概要】
経済理論と経済現象の関係について学習する。

【教科書ページ・参考文献】

	21頁～240頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 新聞を読む。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
受講生に関わる情報および受講のルール	新聞、ニュースなどで最新の経済の情報について確認すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	予習を毎回行い、質問があればコメントカードを活用すること。
オフィスアワー	木曜日4限
評価方法	試験（60%）と授業中の課題（40%）によって評価
教科書	井堀利広「大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる」（KADOKAWA）2015
参考書	中谷巌「入門マクロ経済学」（日本評論社）2007
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： チームケア入門Ⅱ　　授業コード：S1405

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	1単位(15)	選択
担当教員			
2学年担任			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 包括的視点で対象者を捉え、多職種による円滑なケアが展開できるための基礎的知識・技術・態度について学び多職種連携のあり方を修得する。具体的な事例検討を通してチームケアの実践につながる演習を行うことができる。 [到達目標] 1) 事例検討を通して、職種毎に課題を明確化し、自らできること、やるべきことを列挙できる。 2) 事例検討を通して、多職種の特徴・連携の必要性・連携上の留意点を理解することができる。 3) 多職種連携・チームケアのあり方・今後の課題に気付くことができる。 4) 多職種連携・チームケアの気付き・課題について継続した取り組みができる。 5) チームメンバーを尊重し主体的・計画的・協力的に取り組むことができる。
授業の概要	保健医療福祉の動向に伴い、多様なニーズを必要とする対象者が増加しており保健医療福祉教育専門職に求められることも多様化している。対象者のケアの目標を達成するためには、多職種間の連携が不可欠となる。IPE (Interprofessional Education occurs)は、2職種間、またはそれ以上の専門職が主体となって、共同とケアの質を改善することを目的とし「共に学び、互いから学び、互いについて学ぶ」という方法をとる。その基本は共に尊重し学び合うという視点である。本学が目指す各専門職教育過程は、どの段階においても複数の職種との相互作用が求められる。IPEの体験は「仲間づくり、主体的学習、自身の考えを相手に伝える」という基本的学習姿勢を培う機会となる。初年次のIPEの体験の導入は、高学年の専門職連携を意図した実習に直接つながり、基礎教育の早期から段階的に積み上げ発展させていくことにより現在の保健医療福祉の変化に多様な対応が可能となる基礎的能力を養う。 保健医療福祉教育職種が連携を取り合うことの意義・必要性と多様なチームケアの在り方について学習する。群馬医療福祉大学の福祉・医療総合大学の特色を生かし、3学部合同チームによる「チームケア教育」を行う。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	◎
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	○
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回　チームケア入門Ⅱ-① 【key words】 多職種連携 【授業概要】 科目オリエンテーション、多職種連携、チームケアの考え方、取り巻く背景、リハビリ・福祉職・看護職の役割について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　チームケア入門Ⅱ-② 【key words】

【授業概要】
各グループごとに事例展開に関する調べ学習を行う。(情報交換・共有)
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第３回　チームケア入門Ⅱ-③
【key words】

【授業概要】
事例展開に関する調べ学習・自職種の特徴を踏まえ、事例の問題点・課題点を挙げ、自職種ができることやるべきことをまとめる（学部毎）。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第４回　チームケア入門Ⅱ-④
【key words】

【授業概要】
事例について各学部毎に課題（問題点）を明確化し、自分の職種ができることやるべきことを職種ごとに明らかにするための準備を行う。パワーポイントにて作成。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートの様式3～様式8までを記入
【予習復習に必要な想定時間】
第５回　チームケア入門Ⅱ-⑤
【key words】

【授業概要】
事例について各学部毎に課題（問題点）を明確化し、自分の職種ができることやるべきことを職種ごとに明らかにするための合同会議(3学部小グループ)。報告準備。パワーポイントにて作成。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートの様式9～様式10までを記入
【予習復習に必要な想定時間】
第６回　チームケア入門Ⅱ-⑥
【key words】

【授業概要】
明確化した課題（問題点）について自分の職種ができることやるべきことについて全学部で報告（3学部大グループ）、共有する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第７回　チームケア入門Ⅱ-⑦
【key words】

【授業概要】
明確化した課題（問題点）について自分の職種ができることやるべきことについて全学部で報告（3学部大グループ）、共有する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第８回　その上で、。
【key words】

【授業概要】
事例検討による一連の学習過程を評価・考察する。― チームケア教育への関心・自己の課題に気付き課題を達成するための方法を考えることができるようにする ―
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートの様式11～様式13-2までを記入
【予習復習に必要な想定時間】
第９回
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】 第１０回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１１回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	①予習：事前学習課題を整理し、授業時活用する。 ②復習：授業で配布したプリント・資料を読み返す。 [受講のルール] ①積極的に取り組むこと。 ②レポート等の課題について、提出期限を厳守する。 ③授業の学びを必ず記載すること。記載することで表現力を養うものである。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・関連文献、新聞などに関心を持ち情報収集することを期待する。
オフィスアワー	別途指示をする。
評価方法	①グループワークでの取り組み50%　　②ポートフォリオ評価50%
教科書	資料配布
参考書	1. 鷹野和美著：チームケア論　ぱる出版，2008.　2. 小松秀樹：地域包括ケアの課題と未来、ロハス・メディカル、2015
実務者経験/アク	

ティブラーニング/ リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　現代社会と福祉　　授業コード：S2053

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	必修
担当教員			
稲葉　一洋			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ・現代社会における社会福祉の意義や理念、福祉政策との関係について理解する 【到達目標】 ・社会福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解できる ・福祉制度の意義や理念、現状や課題について説明できる ・福祉政策におけるニーズと資源について理解できる ・福祉政策の構成要素について説明できる ・相談援助活動と福祉政策との関係について理解できる
授業の概要	現代社会には、生活上の困難を抱える個人及び家族が存在している。 こうした人々の生活上の困難に対して、社会福祉は社会的に緩和や解決を図るために存在している。 この授業では、現代社会の特質と社会福祉・福祉政策の動向を関連づけ、社会福祉の思想・哲学・理論、歴史や政策・制度、支援技術等に関して理解を深めていく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　　オリエンテーション・社会福祉の原理 【key words】 社会福祉　福祉サービス　福祉政策 【授業概要】 ・この授業についてのオリエンテーションを行う。 ・「社会福祉の原理」とは何かを考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp2-6 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと ・テキスト、講義内容をノートにまとめること 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　　社会福祉の原理を問う 【key words】 社会福祉とは何か　時期区分　社会福祉の基礎づけ　社会福祉の正当化 【授業概要】 ・社会福祉の原理は、どう問われてきたかを学ぶ。 ・社会福祉の原理が問われる理由を考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp6-13 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと

・テキスト、講義内容をノートにまとめること
【予習復習に必要な想定時間】

第３回　社会福祉の歴史を学ぶ視点

【key words】
歴史　個人と社会　社会福祉の時期区分
【授業概要】
・社会福祉の歴史を学ぶ意義を理解する。
・個人と社会の関係を歴史的視点から学ぶ。
・社会福祉の歴史を「段階論」として理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp16-20
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること
【予習復習に必要な想定時間】

第４回　欧米の社会福祉の歴史的展開

【key words】
慈善組織協会　セツルメント　リッチモンド　貧困調査　ベヴァリッジ報告　貧困の再発見

【授業概要】
・イギリスの社会福祉史を学ぶ。
・アメリカの社会福祉史を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：22-32
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること
【予習復習に必要な想定時間】

第５回　日本の社会福祉の歴史的展開

【key words】
恤救規則　救護法　福祉三法　福祉六法　人間裁判　日本型福祉社会（論）

【授業概要】
・社会福祉の「萌芽期・生成期」を学ぶ。
・社会福祉の「発展期・成熟前期」を学ぶ。
・社会福祉の「成熟後期・転換期」を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp34-45
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること
【予習復習に必要な想定時間】

第６回　社会福祉の思想・哲学

【key words】
イデオロギー　自由主義　フェミニズム　「自助・互助・共助・公助」

【授業概要】
・自由主義イデオロギーについて学ぶ。
・フェミニズムについて理解する。
・イデオロギーによって社会福祉の見方が異なることを説明する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp48-59
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること
【予習復習に必要な想定時間】

第７回　社会福祉の理論

【key words】
パラダイム　社会福祉理論　ティトマス　福祉多元主義

【授業概要】
・戦後日本の社会福祉理論の歴史的展開と特徴を学ぶ。
・海外の社会福祉・福祉政策に関する歴史的展開と特徴を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp60-68
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること

【予習復習に必要な想定時間】

第８回　社会福祉の論点

【key words】
主体論　客体論　公私関係　協働関係　普遍主義　選別主義
【授業概要】
・社会福祉をめぐる論点を形式的に把握することを学ぶ。
・社会福祉の公私関係について理解する。
・福祉政策における普遍主義と選別主義について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp70-78
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること

【予習復習に必要な想定時間】

第９回　社会福祉の対象とニーズ

【key words】
ニーズ（必要）

【授業概要】
・社会福祉の対象としてのニーズの特徴を理解する。
・ニーズがどのように変化してきたかを理解する。
・社会福祉学におけるニーズの捉え方とその現代的課題を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：80-87
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること
【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　現代における社会問題

【key words】
貧困　社会的孤立　社会的排除　社会的包摂　ヴァルネラビリティ

【授業概要】
・現代が抱える社会問題の全体像について学ぶ。
・社会問題の解決策が検討できるようになる。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp.90-98
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること
【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　社会問題の構造的背景

【key words】
人口減少・少子高齢化　世帯構造　脱工業化　価値観の変化

【授業概要】
・社会問題が発生する構造や背景について学ぶ。
・社会問題には複合的要因が関連していることを理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp.100-107
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること

【予習復習に必要な想定時間】

第１２回　福祉政策とは何か

【key words】
福祉政策　社会福祉政策　社会政策　幸福

【授業概要】
・「狭義の福祉」と「広義の福祉」を理解する。
・福祉と幸福、徳、選好、功績との関係から理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp.110-118
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキキス、講義内容をノートにまとめること

【予習復習に必要な想定時間】

第１３回　福祉政策において重要な概念・理念

【key words】
自由　平等　自由主義　新自由主義
【授業概要】
・自由と平等の概念について学ぶ。
・自由主義の思想とその変容について学ぶ。
・新自由主義が福祉政策に与える影響を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp119-130
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること

【予習復習に必要な想定時間】

第１４回　ニーズ（必要）

【key words】
ニーズ　デマンド　行政需要

【授業概要】
・ニーズという言葉の使い方について学ぶ。
・福祉政策におけるニーズをデマンドとの関連で学ぶ。
・公正の原理としての必要原則を貢献原則との関連で学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp134-151

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること

【予習復習に必要な想定時間】

第１５回　資源（リソース）

【key words】
資源　現金給付　現物給付　ベヴァリッジ報告

【授業概要】
・ニーズを充足する資源（リソース）について理解する。
・福祉政策における資源について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp152-163

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること

【予習復習に必要な想定時間】

第１６回　福祉政策の構成要素

【key words】
福祉政策　準市場　福祉多元主義　ローカルガバナンス

【授業概要】
・福祉政策の構成要素を、政策の分野と各分野の目的から理解する。
・資源配分の諸形態を、経済市場、社会市場、準市場と関連づけて理解する。
・政府や事業者、国民が果たす役割について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp166-177

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること

【予習復習に必要な想定時間】

第１７回　福祉政策の過程と評価

【key words】
政策循環　実行可能性　給付　規制　福祉計画

【授業概要】
・福祉政策過程の全体像と各過程を理解する。
・福祉政策の方法・手段、及び評価にかかわる重要概念を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp178-192

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキキス、講義内容をノートにまとめること

【予習復習に必要な想定時間】

第１８回　福祉政策と包括的支援の現状　①社会福祉法と一億総活躍社会

【key words】
社会福祉基礎構造改革　自立支援　社会福祉法　一億総活躍社会

【授業概要】
・社会福祉基礎構造改革と社会福祉法について学ぶ。
・「一億総活躍社会」について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp194-201

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること

【予習復習に必要な想定時間】

第１９回　福祉政策と包括的支援の現状　②地域共生社会の実現

【key words】
地域共生社会　多文化共生　持続可能な社会

【授業概要】
・近年の福祉政策の動向について包括的支援の視点から理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp202-213

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること
【予習復習に必要な想定時間】

第２０回　福祉政策と包括的支援の課題

【key words】
地域共生社会　多文化共生の地域づくり

【授業概要】
・地域共生社会の実現と地域づくりに向けた課題を理解する。
・福祉人材の確保と多文化共生の推進のための課題を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp214-220
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること
【予習復習に必要な想定時間】

第２１回　福祉政策と関連施策　①保健医療政策と教育政策

【key words】
国民皆保険制度　医療ソーシャルワーカー　子どもの貧困　「人間らしい生活」

【授業概要】
・保健医療政策の概要と重要性について学ぶ。
・社会福祉政策における教育政策の役割を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：224-232
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること”
【予習復習に必要な想定時間】

第２２回　福祉政策と関連施策　②住宅政策と労働政策

【key words】
住宅政策　雇用保険　生活困窮者自立支援制度　生活保護

【授業概要】
・住宅政策の内容を福祉国家の社会政策という観点から理解する。
・日本の住宅政策の特徴と近年の変化を学ぶ。
・雇用保険と生活保護、第二のセーフティネットについて学ぶ。
・障害者やひとり親を対象とした就労支援の概要を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp233-244
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること
【予習復習に必要な想定時間】

第２３回　福祉政策と関連策　③災害政策

【key words】
災害対策基本法　災害救助法　被災者生活再建支援法

【授業概要】
・災害の現状及び災害対策の必要性を理解する。
・災害対策関係法律の概要について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp244-251
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること
【予習復習に必要な想定時間】

第２４回　福祉サービスの供給と利用の過程　①福祉供給部門

【key words】
福祉多元主義　ペストフの三角形
【授業概要】
・福祉サービスの供給が多元的な供給主体によって担われていることを理解する。
・各供給主体の特徴について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：：pp254-261
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること

【予習復習に必要な想定時間】

第２５回　福祉サービスの供給と利用の過程　②福祉供給過程

【key words】
福祉計画　割当　ストリート官僚　市場メカニズム
【授業概要】
・サービス供給過程のメカニズムの全体像を理解する。
・ストリート官僚が果たしている役割と裁量の意味を理解する。

	・市場メカニズム導入がもたらすメリットとデメリットを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp263-270 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと ・テキスト、講義内容をノートにまとめること 【予習復習に必要な想定時間】 第２６回　福祉サービスの供給と利用の過程　③福祉利用過程 【key words】 社会権　受給権　成年後見制度　日常生活自立支援事業　アウトリーチ 【授業概要】 ・利用者が福祉サービスを利用する過程を学ぶ。 ・権利保障の視点から福祉サービスの利用過程を理解する。 ・福祉サービスを利用する権利を保障するソーシャルワークの機能を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp272-280 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと ・テキスト、講義内容をノートにまとめること 【予習復習に必要な想定時間】 第２７回　福祉政策の国際比較の視点と方法 【key words】 福祉レジーム論　20世紀型福祉政策　21世紀型福祉政策 【授業概要】 ・福祉レジーム論とは何かを理解する。 ・この論から各国の福祉政策が、どのように特徴づけられるかを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp. 282-288 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと ・テキスト、講義内容をノートにまとめること 【予習復習に必要な想定時間】 第２８回　福祉政策の動向：欧米 【key words】 ワークフェア 【授業概要】 ・近年の欧米諸国における福祉政策の改革と展開を学ぶ。 ・その改革が各国の福祉政策に、どのような変化をもたらしているかを学ぶ・ 【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp. 289-294 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと ・テキスト、講義内容をノートにまとめること 【予習復習に必要な想定時間】 第２９回　福祉政策の動向：東アジア 【key words】 20世紀型福祉政策　21世紀型福祉政策 【授業概要】 ・近年の東アジア諸国における福祉政策の改革と展開を学ぶ。 ・その改革が各国の福祉政策に、どのような変化をもたらしているかを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp296-300 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと ・テキスト、講義内容をノートにまとめること 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　１年間のまとめ：これからの社会福祉 【key words】 法律による社会福祉　自発的社会福祉　「地域共生社会」の実現 【授業概要】 ・これからの社会福祉のあり方を考えて「現代社会と福祉」のまとめを行う 【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp306-324 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキスト・パワーポイントの全体を見直しておいてください ・テキスト、講義内容のノート全体の総まとめに取り組もう 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・社会科の基礎知識が必要です。中学校・高等学校の歴史分野、公民分野の復習をしておきましょう。

	・授業シラバスを必ず確認しておくこと。 ・授業の予習・復習は、必ず行い、積極的な態度で授業に臨むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ICT利用（WEBフォームやメールなど）
授業外時間にかかわる情報	・テキストをしっかり予習・復習しましょう。 ・意味の解らない言葉・用語は、調べておきましょう。
オフィスアワー	・対面授業終了後の30分間
評価方法	・小レポート・参加度　　30% ・筆記試験（実施できない場合はレポート）70%
教科書	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『社会福祉の原理と政策』中央法規出版　2021
参考書	必要に応じて適宜指示する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 障害者に対する支援と障害者自立支援制度　　授業コード：S2083

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
松永　尚樹			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要を把握し、障害者福祉制度の発展過程を学んだうえで、専門職として必要な障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度を理解する。 【到達目標】 ①障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要を把握するために必要な統計調査を読み取ることができる。 ②障害者福祉制度の発展過程を理解し、現行の法制度までの流れを説明することができる。 ③専門職として必要な障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度の概要を実践において想定できるようになる。
授業の概要	この授業では、障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や障害者福祉制度の発展過程について学び、障害者総合支援法の内容を理解するとともに、障害児者にかかる福祉制度を学修する。 　障害児者の支援の過程において、障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度からニーズにそったサービスを考え、専門職として必要な障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度の概要を実践において想定できるように授業を展開する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	オリエンテーション（講義の進め方、評価、リアクションペーパーや小テストの提出方法等） 【key words】 オリエンテーション／講義の進め方 【授業概要】 ①シラバスの確認 ②履修上の注意 ③コメントカードについて ④定期試験について ⑤教科書について ⑥予習・復習について 【教科書ページ・参考文献】 シラバス 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）
	第２回	障害の概念と理念≪レジュメ①≫ 【key words】 障害の概念／ICF／統合モデル 【授業概要】 ①障害の概念と理念 ②障害者の人権保障と福祉の理念

【教科書ページ・参考文献】
教科書p26～p30／p2～p14
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。
キーワードを事前に調べておくこと。
※小テスト実施予定
【予習復習に必要な想定時間】
1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）

第３回　障害者の生活実態とニーズ≪レジュメ②≫

【key words】
障害者人口の現状／手帳取得状況／生活実態・ニーズ／基本指針
【授業概要】
①障害者人口からみた課題
②障害種別にみる定義と生活実態・ニーズ
③障害者問題とニーズ
【教科書ページ・参考文献】
教科書p15～p25
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。
キーワードを事前に調べておくこと。　次回からは小六法を使用するので持参すること。
※小テスト実施予定
【予習復習に必要な想定時間】
1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）

第４回　障害者福祉制度の発展過程（障害者権利保障の歴史を含む）≪レジュメ③≫

【key words】
国連・障害者権利条約／国際障害者年／障害者権利条約／日本の障害者施策の歴史
【授業概要】
①国連・障害者権利条約
②日本における障害者福祉のあゆみ

【教科書ページ・参考文献】
教科書p2～p14
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。
キーワードを事前に調べておくこと。
本日確認した、条約や法律は小六法を再度見ておくこと。
※小テスト実施予定
【予習復習に必要な想定時間】
1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）

第５回　障害者福祉の法（障害者基本法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法）

【key words】
障害者基本法／身体障害者福祉法／知的障害者福祉法／精神保健福祉法
【授業概要】
①障害者基本法と障害者福祉の法体系
②対象別の法
【教科書ページ・参考文献】
教科書p32～p89
【課題・予習・復習・授業準備指示】
キーワードを事前に調べておくこと。
本日確認した、法律は小六法を再度見ておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）

第６回　障害者福祉の法（発達障害者福祉法、医療観察法、難病法、障害者虐待防止法、障害者差別解消推進法、その他）

【key words】
発達障害者支援法／児童福祉法／子ども・子育て支援法／医療観察法／難病法／障害者虐待防止法
【授業概要】
①対象別の法
②差別の禁止、差別是正措置の法

【教科書ページ・参考文献】
教科書p32～p89
【課題・予習・復習・授業準備指示】
障害者総合支援法のサービス利用説明パンフレットを熟読すること。（全国社会福祉協議会）
【予習復習に必要な想定時間】
1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）

第７回　障害者の福祉サービス（障害者総合支援法と障害者支援　経緯・理念・考え方）

【key words】
障害者総合支援法の経緯・理念・考え方
【授業概要】
①障害者総合支援法までの経緯
②障害者総合支援法の概要

【教科書ページ・参考文献】
教科書p102～p167
【課題・予習・復習・授業準備指示】
キーワードを事前に調べておくこと。
本日確認した法律は小六法を再度見ておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）

	第８回	障害者の福祉サービス（障害者総合支援法と障害者支援　サービス内容・支給決定のプロセス） 【key words】 介護給付の種類／訓練等給付の種類／障害福祉サービスの支給決定／障害支援区分／利用者負担 【授業概要】 ①介護給付と訓練等給付 ②障害福祉サービスの支給決定、障害支援区分、利用者負担 【教科書ページ・参考文献】 教科書p102～p167 【課題・予習・復習・授業準備指示】 キーワードを事前に調べておくこと。 本日確認した法律は小六法を再度見ておくこと。 サービス内容・支給決定のプロセスは覚えよう。 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）
	第９回	障害者の福祉サービス（障害者総合支援法と障害者支援　自立支援医療・審査請求） 【key words】 自立支援医療／補装具／相談支援／地域生活支援事業／苦情解決／審査請求／他法との適用関係 【授業概要】 ①自立支援医療 ②補装具 ③相談支援 ④地域生活支援事業 ⑤苦情解決と審査請求 ⑥障害者総合支援法と他法との適用関係 【教科書ページ・参考文献】 教科書p102～p167 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。 キーワードを事前に調べておくこと。 本日確認した法律は小六法を再度見ておくこと。 ※小テスト実施予定 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）
	第１０回	障害者の所得保障（障害者雇用促進法を含む） 【key words】 障害者の就労実態／障害者雇用促進法／障害者優先調達推進法／ハローワーク等における支援／障害者職業センター／学校卒業後の進路保障 【授業概要】 ①障害者の就労実態 ②労働保障の制度 ③福祉と労働の統一的保障 【教科書ページ・参考文献】 教科書p187～p192 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。 キーワードを事前に調べておくこと。 本日確認した法律は小六法を再度見ておくこと。 ※小テスト実施予定 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）
	第１１回	障害者の社会生活参加 【key words】 【授業概要】 ①障害者の低所得性と所得保障の課題 ②所得保障、経済的負担軽減の制度 障害基礎年金／障害厚生年金／特別障害給付金／特別児童扶養手当法／特別児童扶養手当／障害児福祉手当／特別障害者手当／経過的福祉手当／労働者災害補償保険法／生活保護法／税制による負担軽減措置／各種の負担軽減措置 【教科書ページ・参考文献】 教科書p76～p89 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。キーワードを事前に調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 2.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）
	第１２回	障害福祉の整備計画と障害者運動 【key words】 【授業概要】 ①障害者の社会参加実態とニーズ ②市民の障害理解と差別・偏見の実態とニーズ ③バリアフリー環境の整備 障害者の社会参加実態とニーズ／国連・障害者権利条約における社会参加の理念／障害者の社会参加における制度上の課題／情報アクセシビリティ／ユニバーサルデザイン／差別禁止と偏見／バリアフリー／バリアフリー新法 【教科書ページ・参考文献】 レジュメ　参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。キーワードを事前に調べておくこと。

	【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。） 第１３回　専門職の役割と実際（相談支援事業所の内容を含む） 【key words】 障害児支援／児童の権利に関する条約／障害者の権利に関する条約／母子保健法／障害児の福祉サービス／障害児福祉計画／児童福祉法／特別支援教育 【授業概要】 ①子ども期の特徴と障害児支援 ②2つの権利条約と障害児支援 ③障害の早期発見と早期対応 ④障害児の福祉サービス 【教科書ページ・参考文献】 教科書p154～p167 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。キーワードを事前に調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。） 第１４回　多職種連携とネットワーキング 【key words】 障害者参加／障害福祉サービス利用における国、事業者の責務／障害者運動／生活のしづらさなどに関する調査／国・地方公共団体の役割／障害者基本計画／障害福祉計画 【授業概要】 ①障害者・関係団体の法参加、整備計画参加 ②障害者総合支援法等の国・自治体の役割と障害者参加 ③障害者基本法の障害者計画と障害者総合支援法の障害福祉計画 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。キーワードを事前に調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。） 第１５回　まとめ（事例検討） 【key words】 まとめ 【授業概要】 ①まとめ ②授業の振り返り ③グループワークによる全体の総括 【教科書ページ・参考文献】 教科書全体 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テストに向けた学習を進めること。 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間、グループワークの準備時間等もを含める。）
受講生に関わる情報および受講のルール	授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語・携帯電話の使用）は厳禁。 授業開始時（単元の最初）にプリントを配布する場合がある。休んだ場合は、原則、友達等にプリントをもらってもらうこと。 単元の終わりに小テストを実施する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード（web）
授業外時間にかかわる情報	本科目は、社会福祉士及び精神保健福祉士の国家試験の受験科目にも指定されている。障害児者に関する事柄について、幅広い内容を学習するため、教科書及び配布プリント等を利用し予習、復習すること。
オフィスアワー	火曜　10時～12時／金曜日　10時30分～12時　それ以外の時間帯については、アポイントを取ってもらいたい。
評価方法	定期試験50%、小テスト20%、リアクションペーパー30% ※定期試験が60点を満たない場合は再試とする。
教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 最新　社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座８ 『障害者福祉』（最新版）
参考書	福祉小六法編集委員会『福祉小六法』　（株）みらい（最新版）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク

	□アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 授業コード：S2092

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	４単位(60)	必修
担当教員			
義基　祐正			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 児童福祉の現状と課題を理解し、支援のあり方や福祉制度を学ぶことにより、社会福祉業務に必要な知識等を身につけることを目的とする。 【到達目標】 ①現代の児童福祉の現状と課題、児童福祉の理念、児童福祉の関係法令・実施体制・専門職・権利擁護が理解できる。 ②社会福祉士や児童指導員等有資格者として必要な児童福祉の基本的な知識を修得できる。
授業の概要	教科書により、子育ての現状と課題、次世代育成支援策、児童福祉ニーズ、権利保障、児童福祉の法体系、障害児、児童の健全育成、子育て支援、社会的養護児童、非行児童、被虐待児等の現状支援策について講義を行う。 また、子どもの権利保障にとって児童福祉の果たす役割について考察を重ねる。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	△
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション 【key words】 ＜key words＞ 社会福祉　貧困　自己責任 【授業概要】 ＜授業概要＞ 授業の受け方、予習復習、評価の方法などを説明 社会福祉とは何かを考えながら、児童福祉を学ぶ意味について考える 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書、六法を読むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第２回	現代社会と子ども① 【key words】 ＜key words＞ 子どもの貧困 える。 【授業概要】 ＜授業概要＞ 子どもの貧困の実態について考える

【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第３回　現代社会と子ども②
【key words】
＜key words＞
子どもの定義　子どもを取り巻く現実

【授業概要】
＜授業概要＞
現代社会に生きる子どもと家族を取り巻く状況を概観する
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
垣内国光他の教科書ｐ13～27

【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第４回　子ども福祉の歴史
【key words】
＜key words＞
児童労働　セツルメント　子どもの権利の誕生

【授業概要】
＜授業概要＞
前近代から近代の子どもの実態を見ていくなかで、どのようにして子どもの権利が誕生していったのかを考える
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
垣内国光他の教科書ｐ28～47
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第５回　子どもの権利と福祉
【key words】
＜key words＞
保護の対象から権利の主体へ

【授業概要】
＜授業概要＞
子どもの権利向上の流れが、子どもを保護するだけのものから権利主体へと発展してきたことを学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
垣内国光他の教科書ｐ51～67
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第６回　子どもを守るしくみ
【key words】
＜key words＞
子ども家庭福祉の法体制　行財政　実施体制

【授業概要】
＜授業概要＞
子どもを守るしくみとしての主要な法律や行財政のしくみ、施設の概要について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
垣内国光他の教科書ｐ68～85
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第７回　子ども家庭福祉に関する法律①
【key words】
＜key words＞
法体系　基本的な法律

【授業概要】
＜授業概要＞
児童福祉法について詳しく学ぶ
【教科書ページ・参考文献】

＜教科書＞
八重樫他の教科書ｐ27～33
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第８回　子ども家庭福祉に関する法律②
【key words】
直接支える法律
【授業概要】
子ども家庭福祉を直接支えている諸法律について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
八重樫他の教科書ｐ34～41
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第９回　子ども家庭福祉に関する法律③
【key words】
＜key words＞
手当　少子化対策

【授業概要】
＜授業概要＞
各種手当に関する法律や少子化対策関連法について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
八重樫他の教科書ｐ42～47
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１０回　生命倫理と母子保健
【key words】
＜key words＞
母子保健　優生政策

【授業概要】
＜授業概要＞
母子保健について学ぶと同時に、生命倫理について考え優生思想に対して批判的な思考を養う
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
垣内国光他の教科書ｐ86～96
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１１回　少子化対策と子育て支援
【key words】
少子高齢化
【授業概要】
少子高齢化社会の子育ての現状について理解し、少子化対策としての子育て支援について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
垣内国光他の教科書ｐ97～112
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１２回　現代における保育とは
【key words】
＜key words＞
子育て家庭の減少　社会福祉における保育

【授業概要】
＜授業概要＞
子育て環境が大きく変化しているなかで、社会福祉としての保育の役割について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
垣内国光他の教科書ｐ113～125
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１３回　学齢期の子どもの教育と福祉
【key words】
＜key words＞
学齢期　児童健全育成事業

【授業概要】
＜授業概要＞
学齢期の子どもの遊び・学習権・福祉と教育の協働の視点から、今日学齢期に求められている福祉的課題を学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
垣内国光他の教科書ｐ126～140
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１４回　障害と子ども・家族
【key words】
＜key words＞
障害　医療　特別支援教育

【授業概要】
＜授業概要＞
障害とは何かについて学ぶと同時に、どのようなサービスがあり、支援が求められているか考える
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
垣内国光他の教科書ｐ141～158
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１５回　子ども虐待
【key words】
＜key words＞
虐待の定義　介入　予防

【授業概要】
＜授業概要＞
虐待の定義を学び、また現状を把握する。また、介入のあり方や予防について考察していく
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
垣内国光他の教科書ｐ159～175
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１６回　社会的養護
【key words】
＜key words＞
基本理念と原理

【授業概要】
＜授業概要＞
社会的養護の基本理念と原理を学び、今後の課題について考えていく
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
垣内国光他の教科書ｐ176～192
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１７回　子ども家庭福祉の実施体制①
【key words】
国　都道府県　市町村
【授業概要】
国や都道府県、市町村の役割と行政のしくみと機関について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
八重樫他の教科書ｐ49～80
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１８回　子ども家庭福祉の実施体制②
【key words】
＜key words＞
施設　専門職

【授業概要】
＜授業概要＞
児童養護施設の種類と目的、設置と運営、専門職員について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
八重樫他の教科書ｐ81～92
【課題・予習・復習・授業準備指示】

		前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第１９回	子ども家庭福祉の実施体制③ 【key words】 ＜key words＞ 権利擁護　財源 【授業概要】 ＜授業概要＞ 子ども家庭福祉サービスにおける権利擁護と財源について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ 八重樫他の教科書ｐ93～101 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第２０回	子ども・家族の貧困 【key words】 貧困　世代的再生産　子どもの貧困対策の推進に関する法律 【授業概要】 貧困のなかに暮らす子どもの実態を捉え、現在どのような支援が行われ、課題があるのか考える 【教科書ページ・参考文献】 垣内国光他の教科書ｐ193～207 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第２１回	ひとり親家庭の福祉 【key words】 ＜key words＞ ひとり親家庭　養育費 【授業概要】 ＜授業概要＞ ひとり親家庭の現状を把握し、どのような支援策があり、課題は何かを考える 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ 垣内国光他の教科書ｐ208～224 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第２２回	非行少年の背景と支援 【key words】 ＜key words＞ 少年犯罪　非行 【授業概要】 ＜授業概要＞ 非行少年の定義を学び、実際の状況を把握する。そして、非行から立ち直るためには社会福祉にどのような役割があるのかを考える 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ 垣内国光他の教科書ｐ225～238 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第２３回	いじめ・不登校・登校拒否 【key words】 いじめ　不登校　スクールソーシャルワーカー 【授業概要】 いじめや不登校の現状を把握し、学校現場における福祉的課題にどのようにこたえていけばいいのかを考える 【教科書ページ・参考文献】 八重樫他の教科書ｐ219～226 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第２４回	ひきこもりと若者支援 【key words】 ＜key words＞ ひきこもり 【授業概要】

＜授業概要＞
ひきこもりの現状を把握し、支援の谷間にある若者支援のあり方について考える
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
垣内国光他の教科書ｐ239～250
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第２５回　女性と福祉
【key words】
婦人保護事業　DV
【授業概要】
女性福祉の実態と女性が置かれている社会的実態を把握し、支援のあり方を考える
【教科書ページ・参考文献】
垣内国光他の教科書ｐ251～267
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第２６回　児童福祉法の理念と児童憲章、子どもの権利条約
【key words】
＜key words＞
児童福祉法　児童憲章　子どもの権利条約（児童の権利に関する条約）

【授業概要】
＜授業概要＞
子どもの権利保障にかかわる法体系や憲章について、子どもの実態から今一度考察を試みる
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第２７回　子どもの発達保障と子ども家庭福祉
【key words】
発達保障
【授業概要】
子どもが健やかに発達するためには、子ども家庭福祉にある課題は何かを考える
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
垣内国光他の教科書ｐ268～287を予習
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第２８回　子ども家庭福祉の担い手
【key words】
＜key words＞
担い手　専門職

【授業概要】
＜授業概要＞
子ども家庭福祉の担い手と専門職に就いて学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
垣内国光他の教科書ｐ268～287
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第２９回　子ども家庭福祉専門職の専門性
【key words】
＜key words＞
専門性

【授業概要】
＜授業概要＞
子ども家庭福祉のソーシャルワークの専門性について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第３０回　まとめ
【key words】
まとめ

	質疑応答 【授業概要】 子どもの権利保障の視点から、子ども家庭福祉のあり方について今一度考えてみる 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・教科書を必ず持参すること ・常日頃の子どもにかかわる事件やニュースをよくつかんでおくこと
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・授業内容を基盤にして、自己学習につなげていくこと ・その他、授業のなかで伝える
オフィスアワー	授業のなかで伝える
評価方法	期末試験　８０％　　授業への取り組み等　２０％
教科書	八重樫牧子、原葉子責任編集『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』弘文堂 垣内国光、岩田美香、板倉香子、新藤こずえ編『子ども家庭福祉』生活書院
参考書	授業のなかで必要に応じて伝える
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 スクールソーシャルワーカー アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 相談援助の理論と方法Ⅰ　　授業コード：S2114

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	社会福祉専攻・必修／子ども専攻・選択
担当教員			
鈴木　淳			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】クライエントは、身体上または精神上の障害や社会生活環境上の理由などから、実に多様な日常生活問題に直面しています。社会福祉士が、クライエントの主体性に力添えし、well-beingの増進をめざしてクライエントと協働する際に、その支援の中核となるのが相談援助活動です。これを適切に展開するためには、クライエントその人と置かれている状況の双方/全体を理解することで得られる根拠に基づく必要があります。本授業では、多岐にわたる実際の相談援助活動で着目すべきことがらを理論的・方法論的な基礎として整理し、ていねいに確認していきます。 【到達目標】(1～15) 1)クライエントとその社会生活環境の関係性の何に社会福祉士が関わりをもつのかを説明できる。2)社会福祉士が認識し呼応すべきクライエントのニーズの種類を述べることができる。3)クライエント-社会福祉士援助関係の構造形成とその質について説明できる。4)ケースの発見から支援終結までの支援展開過程の各段階を経時的に述べることができる。 (16～30) 1) 相談援助活動におけるアウトリーチの意義と必要性を説明できる。2) クライエント-社会福祉士関係の根底にある「契約」「面接」「介入」の特性を説明できる。3) 相談援助活動でのアセスメントとモニタリングの着目点を具体的に述べることができる。4) 相談援助活動記録の方法と活用について説明できる。
授業の概要	(1～15) 1)相談援助活動を構成する複数の要素とその関係構造を解説したのち、2)クライエント-社会福祉士間援助関係の構築について理解します。3)実際はつなぎ目なく連続している相談援助活動の展開過程を、段階的に追いながら、その各々の目的や意義について説明します。 (16～30) 1) 来談対応と対をなすアウトリーチによるクライエントへの接近について解説を追加し、2)クライエント-社会福祉士間援助関係の構築に欠かせない「契約」「介入」「面接」の意義を理解します。3)連続している相談援助活動展開上、目的に応じた修正を適宜図るために併行させる経過観察の実際について学び、支援の有効性・効果性の意識も高めます。4) 個人情報保護と職業倫理を基礎に、活用できる記録のあり方を説明します。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　現代社会の諸相と福祉ニーズに対応する社会福祉士 【key words】 福祉ニーズ　ウェルビーイング　QOL　クライエント　ソーシャルワーカー 【授業概要】 クライエントという人とその社会生活という環境の双方とその相互関係に関わりをもつことになる、ソーシャルワーカーとソーシャルワークの全体像・構成要素を概観します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp1－25。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 クライエントを支援するためにソーシャルワーカーが自分自身をどのように準備しておくのかを理解しましょう。
	第２回	クライエント-環境-社会資源-社会福祉士

【key words】
相互作用過程/関係　ストレングス/エンパワメント　介入　社会資源活用　ソーシャルワーカーの役割/機能
【授業概要】
社会生活上の問題から導き出されるクライエントのニーズの階層性と、それに対応するソーシャルワーカーの役割・機能を整理します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp27－51。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

その場面や課題に応じて担うソーシャルワーカーの役割・機能は複合的です。クライエントの生活全体を見すえる観点を理解しましょう。

第３回　人と環境の相互作用をシステムとして理解する
【key words】
システム理論　相互作用　援助関係
【授業概要】
人の生活の全体を理解する際に有用なシステム論の考え方を学び、関係要因が相互作用する中でソーシャルワーカーがクライエントと援助関係を形成する意義にふれます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp53－77。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

システム論モデルについては抽象的な印象をもつかもしれませんが、本来多面的な社会生活をありのまま理解していくのに重要な視点群を用意してくれます。

第４回　相談援助の構造
【key words】
援助関係　援助構造　よい関係　自己覚知

【授業概要】
相談援助を進めるのにあたって、ソーシャルワーカーがクライエントにとってどのような位置関係にいる必要があるのか、について考えます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp78－90。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

クライエントへ関わることと同時並行してソーシャルワーカーが自分自身を観察する意識を養いましょう。

第５回　相談援助の展開過程 1　ケース発見
【key words】
相談援助の過程　相談援助の構造　ケース発見　ラポール形成　不安の除去

【授業概要】
相談援助の展開過程について、その目的と対象を整理し、各段階の概要とそれを支える基本概念を理解します。それをふまえて、クライエントをケースとして見出す際の留意点を学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp91－102。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

ソーシャルワーカーとの出会いの段階でクライエントがもっている心理社会的特性を理解しましょう。

第６回　相談援助の展開過程 2　受理面接
【key words】
主訴　傾聴　個別化　問題の要点　緊急度

【授業概要】
クライエントの主訴を理解し、ソーシャルワーカーが具体的に担える役割・機能を提示し、支援契約を結ぶ確認をする段階の意義を学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp103－107。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

主訴をより理解するためには、人－環境に関する情報が必須で、次回のテーマとなります。

第７回　相談援助の展開過程 3　問題の把握とニーズの確定
【key words】
ニーズ確定　人と環境の相互作用　アセスメント

【授業概要】
主訴を分析して問題の本質を理解し、具体的な支援のテーマであるニーズとして確認していくステップをたどります。その際、クライエントの現状を評価・把握する際に必須となる、人－環境に関する情報を多次元的に整理することも学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp108－117。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

人－環境に関する情報群を分析的かつ総合的に整理し、クライエントの全体像を理解する視点を理解しましょう。

第８回　相談援助の展開過程 4　評価から目標設定へ

【key words】
評価結果　目標設定　ニーズ　実現性　リスクの把握

【授業概要】
クライエントの生活問題の何をどのように判断して、支援の目標を設定するのかを具体的に学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp118－126。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

現時点で あるいは 今後 予測されるリスクについての意識と管理も、同時に考えていくことになります。

第９回　相談援助の展開過程 5　支援計画の立案と実施

【key words】
援助計画　介護計画　ソーシャルワーク理論　支援チーム　ケース会議

【授業概要】
クライエントと生活問題の双方を全体的に理解する多視点＝多様な理論的視野の概要を理解し、明確化された目標に向けての援助計画の立案と介護計画の検討について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp123－130。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

社会資源の単なる提供ではなく、クライエントおよび家族の能力の活用を促す支援の具体化が基本です。

第１０回　相談援助の展開過程 6　経過観察

【key words】
経過観察（モニタリング）　生活課題への取組状況の把握　新しい問題　状況の変化　記録

【授業概要】
計画にもとづく支援の提供が実際「的確に」進んでいるかを把握し、必要に応じて支援の修正などへつなげていく、経過観察（モニタリング）の内容を学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp131－135。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

支援に伴われた生活の開始時点は、クライエントが戸惑いを覚えやすい時期でもあります。その心理社会的状態を理解しましょう。

第１１回　相談援助の展開過程 7　再評価

【key words】
再評価（再アセスメント）　支援の見直し　支援の強化　生活の継続　潜在的ニーズ

【授業概要】
経過観察よって確認されたクライエントの状況変化や新たなニーズについて、再度評価し、支援計画の調整を図ることを学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp136－139。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

支援開始後に、よりきめ細やかな問題対応などが具体化してくる場合があります。支援の修正や目標の再設定は、クライエントの生活の継続性を支持するものです。

第１２回　相談援助の展開過程 8　支援終結

【key words】
支援の終結　分離不安　依存　自立

【授業概要】
支援は永久に続くものではなく、クライエントの自立性が確認されて一段落するものであることを理解します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp140－142。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

後任者に引き継ぐような場合も、ひとつの終結といえます。その準備についても、この機会に具体的に考えてみましょう。

第１３回　相談援助の展開過程 9　支援の効果測定

【key words】
支援計画の妥当性　支援の効果性　評価　アカウンタビリティ　エビデンス・ベースド・プラクティス
【授業概要】
支援の終結にあわせて行なう、計画の的確性、支援の効果性、クライエントが築いてきた力 の評価をすることについて学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp141－144。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

支援の過程を振り返るためには、記録を適切に残していくことが必須です。

第１４回　相談援助の展開過程10　地域支援
【key words】
地域ニーズ　地域資源の課題　予防的対応　サービス開発

【授業概要】
複数の個別的支援によって集約しうる地域ニーズを把握するとともに、問題の深刻化を回避するための予防的視点やサービス開発のためのソーシャルアクションを学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp144－148。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

個別的支援とともに地域社会へ目を向けることの意義を理解しましょう。

第１５回　前期のまとめ
【key words】
―
【授業概要】
前期学習内容を振り返るとともに、後期学習内容への接続を図ります。

【教科書ページ・参考文献】
―
【課題・予習・復習・授業準備指示】

相談援助の理論的方法論的な考え方学び始めました。十分に復習をして、Ｉ後期ひいては次年度Ⅱへ学習をつなげていきましょう。

第１６回　前期の復習　相談援助活動をより精緻にするために
【key words】
―
【授業概要】
前期学習内容を振り返るとともに、後期学習内容を概観します。

【教科書ページ・参考文献】
―
【課題・予習・復習・授業準備指示】

前期に学んだ相談援助の過程を実践活動として機能させる意識をもちましょう。

第１７回　地域福祉とアウトリーチ
【key words】
アウトリーチ　インボランタリー・クライエント　社会的不適応　ケース発見　ニーズの掘り起こし
【授業概要】
アウトリーチを必要としている人たち、アウトリーチの機能と方法、アウトリーチを実践する際の留意点について学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐｐ149－159。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

アウトリーチは、ソーシャルワーク実践上、来談対応と対をなす重要なクライエント接近方法です。

第１８回　相談援助活動における契約
【key words】
契約　合意形成　対等関係　目標設定　支援方法　目標達成

【授業概要】
相談援助過程の基本原則である クライエントとソーシャルワーカー間の各種合意とその総体の契約について理解します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐｐ161－173。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

支援においては、クライエントとの対等性やクライエントの自己決定を実現することが中核であり、そのために契約は重要な基盤です。

第１９回　相談援助活動におけるアセスメント１　問題の多面的統合的とらえ方
【key words】
アセスメント特性　援助関係　バイステックの7原則　自己覚知　面接における言語反応

【授業概要】
ソーシャルワークにおけるアセスメントの特性を理解し、クライエントがかかえた問題を多面的統合的にとらえるための面接構成の方法や援助関係の形成について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp175－182。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

面接では、基本的な知識、観察力、感受性、コミュニケーション力が実践的に求められてきます。特に、ソーシャルワーカーのクライエントに向けた言語反応は、具体的に理解して下さい。

第２０回　相談援助活動におけるアセスメント２　得るべき情報項目と情報理解のための視覚化の手法

【key words】
統合的アセスメント　守秘義務　共感性と想像力　情報の分析と統合　エコマップ　ジェノグラム
【授業概要】
渡部（1999）をよりどころに、ジェネラリストソーシャルワーカーにおける統合的アセスメントの着目点16項目を学び、得られた情報群を視覚的に整理する方法を理解します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp183－194。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

クライエントをとりまくさまざまな環境がかかわって問題がつくり出されることが多いので、背景情報の関係性をどのように整理するかについて注目しましょう。

第２１回　相談援助活動におけるアセスメント 3　得た情報の整理と活用
【key words】
情報の組織化　情報の関連性　情報の解釈と類推　情報の要約　ライフサイクル論

【授業概要】
アセスメント面接で得た情報を統合化し支援に利用するために必要な知識、想像力、分析・解析力、統合・要約についてまとめます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp195－198。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

アセスメント力を高めるためには、ひとと社会を理解する目的のさまざまな分野の知見を学んでいく必要があります。ソーシャルワーカーとしての自己研鑽を意識しましょう。

第２２回　支援介入の意義と方法
【key words】
全体論的認識　直接的介入　間接的介入　介入の戦略　クリティカル・シンカー

【授業概要】
ミクロからマクロに至る広範囲なレベルにおけるソーシャルワーク介入の意義とその方法について理解します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp199－215。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

支援介入を適切に行なうために、エビデンス・ベースドの考え方を十分理解しましょう。

第２３回　経過観察（モニタリング）　1 対象　方法・手順
【key words】
インプリメンテーション　モニタリング　対象者の明確化　モニタリングのスケジュールと手続き
【授業概要】
支援計画の実施（インプリメンテーション）に付帯する支援進捗の観察（モニタリング）の意義と具体的な手続きを学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp217－226。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

支援目標に向かって、関係支援者間でのリアルタイムな情報共有や役割修正・強化を図る主旨・根拠を理解しましょう。

第２４回　経過観察（モニタリング）　2 状況分析から再アセスメントへ
【key words】
進捗状況の把握　ソーシャルワーカーの態度　クライエントの問題解決能力　再アセスメント　支援計画の修正
【授業概要】
モニタリングによって把握した多面的な情報の再統合とそれにもとづく支援計画の的確な修正について理解します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp226－232。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

モニタリングの結果は、短期目標ごとに時系列的にまとめていくことが、多岐にわたる問題の整理につながります。

第２５回　相談援助活動の効果性の検証
【key words】
効果測定　実験計画法　プロセス評価　アウトカム評価　サービス開発

【授業概要】
支援実行が支援目標にかかわってどのように有効であったかを検証し、社会資源提供とニーズ充足の因果関係について考えます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp233－242。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

クライエントの人権がかかわるために、全て数理科学的に効果測定が実施できるわけではないですが、支援活動の根拠をもとうとすることは重要です。

	第２６回　相談援助活動における面接 【key words】 面接の目的　焦点づけ・方向づけ　関与しながら待つ　構造化面接　非構造化面接 【授業概要】 支援の中核である面接の構造的特性を理解し、そこでのコミュニケーション展開について留意点をまとめます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp243－262。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 何のための面接か、今日のこの面接は次の何につながるのか、支援全体におけるその面接の意味をよく理解しましょう。 第２７回　記録をすること 1　意義と目的および種類 【key words】 記録業務　記録の活用目的　記録の種類 【授業概要】 最も基本となるケース記録・面接記録だけでなく、カンファレンス資料を含め、ケースワークに付帯して多様な記録業務がある認識と、記録は活用されて意味をもつという考え方を学びます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp263－277。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 目にするかもしれない他者を意識して、適切な情報内容や表現で都度記載することが重要です。 第２８回　記録をすること 2　記録業務のIT化と倫理的配慮 【key words】 記録の形式　記録のIT化　個人情報の保護　個人情報の利用・共有　倫理 【授業概要】 記録の形式について概観した後、記録のIT化にともなってより一層注意を払うべき個人情報の保護と利用にかかる倫理を学びます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp278－287。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 クライエントの個人情報を十分保護するとともに、関係支援者とその個人情報を共有することは、一件相反しますが、倫理観を持って工夫を考えることにより、支援に結びつけることができます。 第２９回　交渉と支援チーム連携 【key words】 多様で複雑な問題　多職種支援チーム　交渉・調整　エンパワメント　プレゼンテーション 【授業概要】 支援にかかわる多職種混成チームの連携のあり方と、クライエントの多様なニーズに呼応する支援を目的とした交渉の技術について考えます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp289－309。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 面接も交渉も目的的なコミュニケーションの技術が必要です。支援チームが機能するためにも、チームメンバーが相互理解を意識し、意見交流を図らなければなりません。 第３０回　相談援助の理論と方法Ｉのまとめ 【key words】 ― 【授業概要】 後期学習内容を振り返るとともに、次年度Ⅱへの接続を図ります。 【教科書ページ・参考文献】 ― 【課題・予習・復習・授業準備指示】 相談援助の理論的方法論的な考え方を1年間学びました。十分に復習をして、次年度Ⅱへ学習をつなげていきましょう。
受講生に関わる情報および受講のルール	チェック式のレジュメを用意する他、視覚的な板書を心がけますから、各自 口頭説明も書き添えるなどノートはまめに取るようにして、さらに 受講後一両日中の復習につなげて下さい。理解を助けるために、適宜事例を示していきます。仮に、欠席によって事例を聴き逃し、自分で指定教科書だけで内容を押さえようとしても、しばしば教科書の表現が難しいため、わかりづらいことがあります。欠席しないように十分注意して下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	minute paper
授業外時間にかかわる情報	たとえば、皆さんは、ボランティア活動などでいろいろな背景・ニーズをもったひと達と出会うでしょう。その機会には、与えられたその時の役割をこなすだけでなく、授業で取り上げた社会福祉士の観点と照らし合わせてそのひと達を理解しようと試みて下さい。それが、専攻学生としての資質と力量を向上させるトレーニングになるはずです。ただし、そのひと達に関して知り得たことについては、守秘義務を遵守することは必須です。

	★1回の授業に対して、概ね2時間以上の事前事後自主学習が必要です。
オフィスアワー	水曜日 17：00～19：00　1号館204研究室
評価方法	学期末課題レポート（85%）および授業への取り組み方（15%）で評定します。
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編　相談援助の理論と方法Ⅰ　新・社会福祉士養成講座7　中央法規2016年
参考書	授業中に適宜紹介・提示します。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 聴覚言語障害/発達遅滞・発達障害/高次脳機能障害/摂食嚥下障害を中心に、大学病院等 において 当事者に対するリハビリテーション治療・生活支援(就学・就労等を含む)ならびにその家族および関係者に対する適切な応談(コミュニケーション)・支援・リエゾン・調整・啓蒙を具体的に実践しています。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 相談援助実習指導Ⅰ　　授業コード：S2151　S2152　S2153　S2154　S2155

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
富澤　一央・柳澤　充・川端　奈津子・安留　孝子・大久保　圭介			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ① 相談援助実習の意義について理解する。 ② 相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。 ③ 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ④ 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 【到達目標】 ①相談援助実習の意義、社会福祉士の役割や専門性について表現できる。 ②実習先施設・機関についての概要を伝えることができる。 ③相談援助実習履修試験に合格できる水準の知識及び技術を身につけている。 ④自己理解、自己覚知を行い、自分自身の実習先を選択できる。
授業の概要	相談援助実習の意義と目的、社会福祉士として必要な福祉倫理、相談援助実習の対象となる機関・施設の設置目的・業務内容・利用者・職員の役割と援助内容・課題についてグループによる調べ学習・発表を中心に授業を進める。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	オリエンテーション　授業方法及び留意事項　相談援助実習資格試験について 【key words】 実習前学習　相談援助実習の意義 【授業概要】 実習へのガイドブックを使用し、実習の意義と目的や実習教育の流れを解説する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習へのガイドブックを購入し読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	相談援助実習の意義と目的の理解 【key words】 実習前学習　相談援助実習の意義 【授業概要】 実習へのガイドブックを使用し、実習の意義と目的や実習教育の流れを解説する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会福祉実習を行う意義や目的と目標としている社会福祉士について考えてくる。 【予習復習に必要な想定時間】

		30分
	第３回	社会福祉士に期待される役割と専門性の理解（社会福祉士に求められる職業倫理） 【key words】 実習教育の流れ　倫理綱領　行動規範 【授業概要】 実習へのガイドブックを使用し、実習の意義と目的や実習教育の流れを解説する。相談援助実習の留意事項を解説する。社会福祉士の倫理綱領を読み、社会福祉士が守らなければならないことを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会福祉士の倫理綱領と行動規範を読んでくる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第４回	実習先機関・施設の理解（行政機関） 【key words】 実習が行なえる施設・機関　実習前学習 【授業概要】 事前学習の課題を整理し、事前学習のグループ分けを行い、グループ学習を行い発表の準備を行う。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 福祉の行政機関の業務内容、関係法令を調べ、まとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第５回	実習先機関・施設の理解（行政機関） 【key words】 福祉事務所　児童相談所 【授業概要】 行政関係施設①福祉事務所、②児童相談所に関するグループ学習の内容を発表する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック　施設HP パンフレット 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会福祉協議会、地域包括支援センターの業務内容、関係法令をまとめ、疑問点や不明点を明確にしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第６回	実習先機関・施設の理解（社会福祉協議会、地域包括支援センター） 【key words】 社会福祉協議会　地域包括支援センター 【授業概要】 市町村社会福祉協議会、地域包括支援センターに関するグループ学習の内容を発表する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック　施設HP パンフレット 【課題・予習・復習・授業準備指示】 高齢者施設の種別と業務内容、関係法令・制度について調べ、まとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第７回	実習先機関・施設の理解（高齢者施設） 【key words】 高齢者者施設・事業 【授業概要】 高齢者関係施設（①特別養護老人ホーム、②養護老人ホーム、③介護老人保健施設、④デイサービスセンター（ショートステイ）、⑤グループホーム（地域密着型施設）、）に関する概要等調べた内容を発表し、質問を受け理解を深める。 事前学習の課題を整理し、グループ学習を行い発表の準備を行う。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック　施設HP パンフレット 【課題・予習・復習・授業準備指示】 高齢者施設についての疑問点や不明点を明確にしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第８回	実習先機関・施設の理解（高齢者施設） 【key words】 高齢者関係施設 【授業概要】 高齢者関係施設（①特別養護老人ホーム、②養護老人ホーム、③介護老人保健施設、④デイサービスセンター（ショートステイ）、⑤グループホーム（地域密着型施設）、）に関する概要、グループ学習で調べた内容を発表し、質問を受け理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック　施設HP パンフレット 【課題・予習・復習・授業準備指示】 児童福祉施設の種別と業務内容、関係法令、制度について調べ、まとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第９回	実習先機関・施設の理解（児童福祉施設） 【key words】

		児童福祉施設 【授業概要】 児童福祉施設（①児童養護施設、②母子生活支援施設、③障害児入所施設、④児童発達支援センター、⑤情緒障害児短期治療施設、⑥児童自立支援施設）に関する事前学習の課題を整理し、グループ学習を行い発表の準備を行う。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック　施設HP パンフレット 【課題・予習・復習・授業準備指示】 児童福祉施設についての疑問点や不明点を明確にしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１０回	実習先機関・施設の理解（児童福祉施設） 【key words】 児童福祉施設 【授業概要】 児童関係施設（①児童養護施設、②母子生活支援施設、③障害児入所施設、④児童発達支援センター、⑤情緒障害児短期治療施設、⑥児童自立支援施設）に関する事前学習内容の発表を行う。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック　施設HP パンフレット 【課題・予習・復習・授業準備指示】 障害者関係施設の種別と業務内容、関係法令、制度について調べ、まとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１１回	実習先機関・施設の理解（障害者支援施設） 【key words】 障害者施設・事業 【授業概要】 事前学習の課題を整理し、障害者関係施設・事業（①障害者支援施設、②就労継続・就労移行事業、③障害者地域活動支援センター、④相談支援事業・障害者就業・生活支援センター、⑤独立行政法人　国立重度知的障害者総合施設のぞみの園、⑥群馬県立障害者リハビリテーションセンター）のグループ学習を行い発表の準備を行う。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック　施設HP パンフレット　障害者総合支援法 【課題・予習・復習・授業準備指示】 障害者関係施設についての疑問点や不明点を明確にしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１２回	実習先機関・施設の理解（障害者支援施設、医療福祉関連施設） 【key words】 障害者施設・事業 【授業概要】 障害者関係施設・事業（①障害者支援施設、②就労継続・就労移行事業、③障害者地域活動支援センター、④相談支援事業・障害者就業・生活支援センター、⑤独立行政法人　国立重度知的障害者総合施設のぞみの園、⑥群馬県立障害者リハビリテーションセンター）のグループで調べた内容を発表する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック　施設HP パンフレット 【課題・予習・復習・授業準備指示】 病院(MSW)や更正保護施設について調べて、まとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１３回	実習先機関・施設の理解（その他の機関・施設） 【key words】 病院　更正保護　独立社会福祉士 【授業概要】 病院、更生保護施設、独立型社会福祉士に関するグループ学習の内容を発表する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック　HP パンフレット 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これまで調べた内容と発表を振り返り、実習先希望調査を記入してくる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１４回	事前学習の意義・目的・方法の理解（実習先希望調査票の提出） 【key words】 事前学習　関係法令・制度　社会資源 【授業概要】 社会福祉援助実習を行なうまでに事前学習をしておく必要性を理解する。 事前学習の内容を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習の意義と目的についてまとめ、学習方法を考える。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１５回	実習開始までの取り組み（まとめ、レポート課題）　相談援助実習資格試験 【key words】 実習までの流れ 【授業概要】 社会福祉援助実習を行なうまでの流れについて理解する。

	実習開始までに準備をしておく内容について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会福祉相談援助実習の意義、目的についてもう一度考え、実習への考えについてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	①5分の4以上出席しない場合は単位取得できない（公欠を含む）。 ②提出物の期限内提出が行われない場合は単位取得ができないこと。 ③欠席、遅刻をする場合は、授業開始前に大学に連絡を入れること。 ④無断遅刻・無断欠席をした場合は社会福祉士実習委員会で対応を協議する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	実習先機関・施設の理解のために調べ学習をグループ等で行うことがある。グループで連携・協力し課題に取り組むこと。
オフィスアワー	各教員より授業時に伝える
評価方法	相談援助実習資格履修試験（20%）、課題やグループワークへの取り組み（50%）、提出物の提出状況 及びその内容（30%）を総合して評価する。　但し、相談援助実習資格試験に合格しなければ単位を認定しない
教科書	「実習へのガイドブック」群馬医療福祉大学出版
参考書	福祉臨床シリーズ編集委員会編「社会福祉シリーズ２２　相談援助実習・相談援助実習指導」弘文堂出版　／社会福祉小六法、社会福祉用語辞典、その他教員配付資料
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 障害者団体、病院、在宅介護支援センター、ホームレス支援施設などでソーシャルワーカーとしての実務経験があり、現在も社会福祉士事務所代表として成年後見受任事業などを行っている。群馬県立しろがね学園（障害児入所施設）における１５年の勤務と、児童相談所での５年の勤務をとおして、障害児・者、要保護児童などの処遇に携わった経験を活かした現場の実践感覚を大切にした授業展開を行っている。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 相談援助演習Ⅱ　　授業コード：S2191　S2192　S2193　S2195　S2196

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位(60)	社会福祉コース・児童福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・初等教育コース・選択
担当教員			
富澤　一央・柳澤　充・川端　奈津子・安留　孝子・大久保　圭介			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ①相談援助演習Ⅰでの学びを踏まえたうえで、ソーシャルワーク実践の基礎技術である面接技法・記録技法の習得を主たる目標とする。 ②本演習によって、他科目との関連性を視野に入れた、ソーシャルワークの展開過程を考慮した事例検討を行い、次年度の相談援助実習に向けた知識・技術・感性・考え方等を基本を養う。 【到達目標】 ①ソーシャルワーク実践の基礎技術である面接技法・記録技法を課題に応じて選択できる。 ②各相談援助技術の特色を理解し、説明できる。 ③相談援助実習指導Ⅰでの学びと並行し、各福祉領域での相談援助技術について説明できる。 ④倫理綱領、行動規範に基づいた社会福祉士としての行動を想定できる。
授業の概要	相談援助等の実習と関連づけながら、福祉専門職として必要な基本的な技法、ソーシャルワークの展開過程について理解を深め、事例を通して、ソーシャルワーカーの役割や考え方、アプローチの方法、技法の使用方法をロールプレイやグループによるり実践的・体験的な演習方法で学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	オリエンテーション　授業の進め方　授業に参加する上での注意事項　評価方法 【key words】 講義の進め方 【授業概要】 相談援助演習Ⅰの振り返り 相談援助演習Ⅱの流れと受講時のルール確認 本授業の進め方や参加する上での注意事項について説明する 【教科書ページ・参考文献】 P1～P30 【課題・予習・復習・授業準備指示】 演習Ⅰで行ったものを復習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	ソーシャルワークの価値と倫理　倫理綱領 【key words】 傾聴　価値と倫理 【授業概要】 物語を読み、個人の考えをまとめた後グループになり話し合いを行う。まとまった意見を発表し、共感・受容、価値観の違いなどについて、ソーシャルワーカーとして利用者をどのように捉えることが重要になるのかを解説する。 【教科書ページ・参考文献】 社会福祉士の倫理綱領・行動規範 ソーシャルワーク演習ワークブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会福祉士の倫理綱領と行動規範を読んでくる。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　ソーシャルワークの価値と倫理　行動規範

【key words】
社会福祉士の倫理綱領　行動規範
【授業概要】
社会福祉士の倫理綱領を読み、自分自身が考える社会福祉士の価値を理解する。
グループになり専門職の倫理を考える、日本社会福祉士会の「倫理綱領」と比較し、社会福祉士としての「倫理綱領」とは何かを考察する。
【教科書ページ・参考文献】
社会福祉士の倫理綱領・行動規範
ソーシャルワーク演習ワークブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
社会福祉士の倫理綱領・行動規範を読んで重要だと思う部分をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　ソーシャルワーク実践　面接技法 面接の目的

【key words】
インテーク面接　非言語的コミュニケーション
【授業概要】
社会福祉士として行う面接とはどのようなものかビデオを見て考え、ワークシートにまとめる。
【教科書ページ・参考文献】
P59～P63
【課題・予習・復習・授業準備指示】
社会福祉士が行う面接はどのようなものかを考えてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　ソーシャルワーク実践　面接技法　面接に入る心構え

【key words】
構造化面接　SOLER
【授業概要】
面接に対する利用者の気持ちを理解する演習を行い、社会福祉士として面接を行う時の心構えと環境設定についてグループワークを行う。
【教科書ページ・参考文献】
P59～P63
【課題・予習・復習・授業準備指示】
インテーク面接の目的と意義について考えてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　ソーシャルワーク実践　面接技法　インテーク面接

【key words】
インテーク面接　主訴　傾聴
【授業概要】
初めて会う社会福祉士に対する利用者の気持ちをグループで話し合う。利用者の気持ちを尊重した面接とはどのようなものか演習を行う。
インテーク面接の目的について講義を行う。
【教科書ページ・参考文献】
P59～P63
【課題・予習・復習・授業準備指示】
傾聴と聞くの違いについて考えてくる
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　ソーシャルワーク実践　面接技法　傾聴の方法

【key words】
姿勢　態度　距離
【授業概要】
面接場面における非言語的コミュニケーションの重要性を知り、ソーシャルワーカーとして、姿勢・態度・距離などが利用者の話を促進させたり、逆に阻害させる要因になることを考えながら演習を行う。
【教科書ページ・参考文献】
P59～P63
【課題・予習・復習・授業準備指示】
面接のロールプレイを行うため社会福祉士の技法と利用者の気持ちをまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　ソーシャルワーク実践　面接技法　面接の具体的技法

【key words】
ロールプレイ　面接技法
【授業概要】
三人一組になり、作成したシナリオに沿ってロールプレイを行なう。実際に行なって振り返りをグループと全体で行なう。
【教科書ページ・参考文献】
P59～P63
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ロールプレイの振り返りをまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　ソーシャルワーク実践　記録技法　記録の意義と目的

【key words】
面接　記録
【授業概要】
前回の振り返りを行い、面接とは何かを考える。その時のワーカーとしての心構えや使用する技

術等についてまとめる。
面接や支援を行なった結果を記録として残す目的を講義する。
【教科書ページ・参考文献】
P65～P75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
記録の種類について教科書を読んでくる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　ソーシャルワーク実践　記録技法　記録の種類
【key words】
逐語記録　要約記録　説明体記録
【授業概要】
記録の種類について講義を行い、それぞれがどのように記録をする時に使用されるのかを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
P65～P75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
記録技法の事例を読んでくる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　ソーシャルワーク実践　記録技法　記録の内容と方法
【key words】
逐語記録　要約記録　説明体記録
【授業概要】
社会福祉士が記録に使用する用紙の説明を行う。説明を聞き、読んできた事例を面接用紙、アセスメント用紙にまとめる。
グループワークを行い読みやすい内容にするためにはどのようにすれば良いのか検討する。
【教科書ページ・参考文献】
P65～P75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
書いた記録を書き直してくる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　ソーシャルワーク実践　記録技法　記録における留意点
【key words】
逐語記録　要約記録　説明体記録
【授業概要】
前回の記録を使用し、読みやすい内容に改善する。
記録技法のまとめの講義を行う。
【教科書ページ・参考文献】
P65～P75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ケースワークについて教科書を読んでくる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　ケースワークの展開過程　ケースワーク
【key words】
ケースワークの展開過程　インテーク　アセスメント　プランニング
【授業概要】
ケースワークの展開過程の講義を行い、各段階を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
P88～P94
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各段階の目的を復習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１４回　ケースワークの展開過程　ケースワーク
【key words】
モニタリング　評価　面接技法　記録技法
【授業概要】
展開過程の続きを講義し理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
P88～P94
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各段階の目的を復習しておく。事例を読んでくる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１５回　ケースワークの展開過程　ケースワーク
【key words】
アセスメント　情報収集・分析　アセスメント時の留意点
【授業概要】
展開過程の一連の事例を使用し、各段階で何を行うのかを具体的に理解していく。
アセスメントではどのような情報を収集するのかを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
P88～P94
【課題・予習・復習・授業準備指示】
プランニングの留意点について教科書を読んで、事例のプランニングを考えてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１６回　ケースワークの展開過程　ケースワーク
【key words】
プランニング　長期目標　短期目標　数値化

【授業概要】
展開過程の一連の事例を使用し、各段階で何を行うのかを具体的に理解していく。
アセスメントした情報からプランニングを行う。
自分で考えてきたプランニングをグループで話し合い、援内容を具体的に考える。

【教科書ページ・参考文献】
P88～P94
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループワークの留意点について教科書を読んでくる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１７回　ソーシャルワークの展開過程　　グループワーク
【key words】
グループダイナミクス　社会福祉士の役割
【授業概要】
グループワーク時の社会福祉士の役割と留意点の講義を行い、グループワークについて理解する。
【教科書ページ・参考文献】
P95～P100
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループワークの展開過程について教科書を読んでくる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１８回　ソーシャルワークの展開過程　　グループワーク
【key words】
準備期　開始期　作業期　終結

【授業概要】
グループワークの事例を読み、社会福祉士の役割と留意点を理解し、グループで、どのようにグループワークを進めていくのか検討を行う。
【教科書ページ・参考文献】
P95～P100
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事例を読み、社会福祉士の役割を考えてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１９回　ソーシャルワークの展開過程　　グループワーク
【key words】
準備期　開始期　作業期　終結
【授業概要】
検討した結果を発表し、全体で理解する。

【教科書ページ・参考文献】
P95～P100
【課題・予習・復習・授業準備指示】
コミュニティワークについて教科書を読んでくる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２０回　地域を基盤とした相談援助演習　コミュニティワーク
【key words】
コミュニティワーク　ニーズ把握　地域計画　社会福祉士の役割

【授業概要】
コミュニティワーク時の社会福祉士の役割と留意点の講義を行い、コミュニティワークについて理解する。

【教科書ページ・参考文献】
P101～P107
【課題・予習・復習・授業準備指示】
コミュニティワークの展開過程について教科書を読んでくる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２１回　地域を基盤とした相談援助演習　コミュニティワーク
【key words】
地域診断　組織化　地域ニーズ　活動計画

【授業概要】
コミュニティワークの事例を読み、コミュニティの役割と留意点を理解し、グループで、どのようにコミュニティワークを進めていくのか検討を行う。

【教科書ページ・参考文献】
P101～P107

【課題・予習・復習・授業準備指示】
事例を読み、社会福祉士の役割を考えてくる。
【予習復習に必要な想定時間】

60分
第２２回　地域を基盤とした相談援助演習　コミュニティワーク
【key words】
地域診断　組織化　地域ニーズ　活動計画

【授業概要】
検討した結果を発表し、全体で理解する。

【教科書ページ・参考文献】
P101～P107
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ケースワーク、グループワーク、コミュニティワークについてまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第２３回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　治療モデル・環境モデル・生活モデル
【key words】
治療モデル　生活モデル
【授業概要】
事例を使用し、治療モデルと生活モデルのアセスメントやプランニングに違いについてグループワークを行い理解する。
グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。
【教科書ページ・参考文献】
ソーシャルワーク演習のための88事例
治療モデル　生活モデルの事例
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ストレングスモデルについて復習してくる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第２４回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　ストレングスモデル
【key words】
ストレングスモデル　リフレーミング

【授業概要】
事例を使用し、ストレングスモデルでの社会福祉士の視点、アセスメントやプランニングについてグループワークを行い理解する。
グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。

【教科書ページ・参考文献】
ソーシャルワーク演習のための88事例
ストレングスモデルの事例
【課題・予習・復習・授業準備指示】
心理社会的アプローチについて復習してくる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第２５回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　心理社会的アプローチ
【key words】
社会心理的アプローチ　状況の中の人
【授業概要】
事例を使用し、社会心理的アプローチでの社会福祉士の視点、アセスメントやプランニングについてグループワークを行い理解する。
グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。
【教科書ページ・参考文献】
ソーシャルワーク演習のための88事例
心理社会的アプローチの事例
【課題・予習・復習・授業準備指示】
問題解決アプローチについて復習してくる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第２６回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　問題解決アプローチ
【key words】
問題解決アプローチ　4つのP
【授業概要】
事例を使用し、問題解決アプローチでの社会福祉士の視点、アセスメントやプランニングについてグループワークを行い理解する。
グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。
【教科書ページ・参考文献】
ソーシャルワーク演習のための88事例
問題解決アプローチの事例
【課題・予習・復習・授業準備指示】
危機介入アプローチについて復習してくる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第２７回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　危機介入アプローチ
【key words】
危機介入アプローチ　死の受容過程
【授業概要】
事例を使用し、危機介入アプローチでの社会福祉士の視点、アセスメントやプランニングについてグループワークを行い理解する。
グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。
【教科書ページ・参考文献】

	ソーシャルワーク演習のための88事例 危機介入アプローチの事例 【課題・予習・復習・授業準備指示】 行動変容アプローチについて復習してくる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第２８回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　行動変容アプローチ 【key words】 行動変容アプローチ　モデリング　オペラント条件付け 【授業概要】 事例を使用し、行動変容アプローチでの社会福祉士の視点、アセスメントやプランニングについてグループワークを行い理解する。 グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。 【教科書ページ・参考文献】 ソーシャルワーク演習のための88事例 行動変容アプローチの事例 【課題・予習・復習・授業準備指示】 エンパワメントアプローチについて復習してくる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第２９回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　エンパワーメントアプローチ 【key words】 エンパワメントアプローチ　ストレングス　パワーレス 【授業概要】 事例を使用し、エンパワメントアプローチでの社会福祉士の視点、アセスメントやプランニングについてグループワークを行い理解する。 グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。 【教科書ページ・参考文献】 ソーシャルワーク演習のための88事例 エンパワメントアプローチの事例 【課題・予習・復習・授業準備指示】 家族システム論アプローチについて復習してくる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第３０回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　家族システム論 【key words】 家族システム　家族の相互作用 【授業概要】 事例を使用し、家族システムアプローチでの社会福祉士の視点、アセスメントやプランニングについてグループワークを行い理解する。 グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。 【教科書ページ・参考文献】 ソーシャルワーク演習のための88事例 家族システムアプローチの事例 【課題・予習・復習・授業準備指示】 それぞれのアプローチ法についてまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	（1）履修上の注意 グループワーク等に積極的に参加し、次年度の相談援助実習に対するモチベーションを高められるよう、自己研鑽に努めること。 グループワークを行うため遅刻・欠席厳禁 （2）学習上の助言 社会福祉専門職として必要な実践力の習得するために、自ら考え、気づくことが重要である。 （3）予備知識や技能 相談援助の基盤と専門職と深い関わりがある科目である。そのため、相談援助の基盤と専門職の復習をしっかり行うことが望まれる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	社会福祉士としての基本となる各種技法を復習し修得すること
オフィスアワー	各教員より授業時に伝える
評価方法	試験またはレポート（40%）、提出物・リアクションペーパー・課題への取り組み（60%）
教科書	社会福祉シリーズ21　ソーシャルワーク演習　『相談援助演習』弘文堂
参考書	社会福祉小六法　社会福祉用語辞典（出版社は指定しないが、最新版のもの）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 障害者団体、病院、在宅介護支援センター、ホームレス支援施設などでソーシャルワーカーとしての実務経験があり、現在も社会福祉士事務所代表として成年後見受任事業などを行っている。群馬県立しろがね学園（障害児入所施設）における１５年の勤務と、児童相談所での５年の勤務をとおして、障害児・者、要保護児童などの処遇に携わった経験を活かした現場の実践感覚を大切にした授業展開を行っている。 アクティブラーニング要素

	□PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　社会保障　　授業コード：S2202

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
松原　直樹			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会保障制度は、私たちが生活していく中で誰もが直面する失業や病気・けが、介護の必要性などの困難な状況に社会全体で手助けをしようとする制度である。社会保障は、日常生活に困難を抱えている場面において、なくてはならない仕組みであり、社会福祉に関わる仕事に就く人だけでなく、生活者としても、理解しておく必要のある事がらである。さまざまな場面でセーフティネットとなっている社会保障に関する理解を深めていくことを授業の目的とする。 【到達目標】 １．社会保障の用語及び歴史的理解。 ２．社会保障制度の目的・体系の理解。 ３．社会福祉及び国民生活への政策の理解。
授業の概要	まず社会保障の全体像について理解し、年金・医療・介護・労働などの各保険制度の概要や現状、今後の課題について理解する。また現実のデータから社会保障の動向について整理を行い、さらに社会福祉士・精神保健福祉士国家試験における、社会保障の過去問を活用しながら、具体的な事例を想定し、社会保障制度の目的・役割・課題について理解を深める。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	オリエンテーション、現代社会における社会保障の現状 【key words】 社会保障　人口動態　少子高齢化　人口減少社会　非正規雇用　ワークライフバランス 【授業概要】 社会保障の学習予定について概観する。また、社会福祉士国家試験出題基準及び精神保健福祉士国家試験出題基準における社会保障の位置づけを知る。そして、社会保障制度を取り巻く現在の環境について理解する。少子高齢化、人口減少期を迎えている日本の現状とそうした状況下での労働人口やその将来予測について検討し、それに関連する労働環境の現状および整備について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p.ⅰ～p.ⅷ、p.1～p.15 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書第1章(〈中央法規〉第11章)を読んでおく。 〈復習〉本日の授業の概要を確認する。まとめチェック1で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第２回	社会保障の概念・理念と対象 【key words】 社会保障の概念　社会保障の役割　社会保障の機能　社会保障の理念　社会保障の対象 【授業概要】 社会保障の概念について知る。さらに、現代の社会保障における個人・政府・地方自治体及び社会福祉事業者の関わりについて知る。また、社会保障と福祉国家の関係について理解する。ま

た、日本国憲法及び基本的人権と社会保障の関係について理解する。続いて、社会保障全体についての目的及び機能について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.16～p.35
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第2章1～4節(〈中央法規〉第1章)を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック2で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第３回　社会保障制度の展開
【key words】
救貧法　社会保険法　恤救規則　救護法
【授業概要】
社会保障がどのような経緯をたどって現在に至っているかを理解し、また社会保障制度の思想や哲学の知識や流れを全体的に把握する。
【教科書ページ・参考文献】
p.36～p.46
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第2章5節(〈中央法規〉第2章)を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック3で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第４回　社会保障と財政①
【key words】
社会保障費用統計　社会保障給付費　政策分野別・部門別・機能別社会保障給付費　国民負担率
【授業概要】
最新社会保障費用統計を見て、その特徴を理解する。また、部門別、機能別の社会保障給付費に関する統計を検討し、その特徴を理解する。また、その上で、社会保障と国民経済の関係および国民負担率について現状を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.47～p.57
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第3章(〈中央法規〉第4章1節)を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック4で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第５回　社会保障と財政② 社会保険と社会扶助
【key words】
社会保障関係費　国民経済　社会保険　社会扶助
【授業概要】
社会保障が経済活動にどのような影響を及ぼしているのかを理解する。また、国民の生活を保障する社会保障の方法として、社会保険と社会扶助について、それぞれの概念とその内容を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.57～p.75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第4章(〈中央法規〉第3章)を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック5で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第６回　医療保険制度①医療保険制度の概要
【key words】
国民皆保険　高齢者の医療の確保に関する法律　被用者保険　地域保険
【授業概要】
医療保険制度がこれまでどのように形作られてきたかについて理解する。そして、医療保険制度の全体像について理解する。また、保険診療をめぐる利用者・医療機関・保険者の関係について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.87～p.89
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章1節(1)(〈中央法規〉6章1節)を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック6で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第７回　医療保険制度②被用者保険
【key words】
健康保険　協会けんぽ　健康保険組合　療養の給付　共済組合
【授業概要】
被用者保険である健康保険と共済制度について理解する。そのため、それぞれの保険の被保険者および保険者について理解する。また、共通する保険給付の内容について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.92～p.94, p.102
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章1節(2)(4)(〈中央法規〉6章2節)を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック7で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

	第８回	医療保険制度③国民健康保険 【key words】 国民健康保険　国民健康保険組合　国民健康保険財政 【授業概要】 地域保険である国民健康保険について理解する。この保険の被保険者および保険者について理解する。また、国民健康保険財政について、理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p.94～p.101 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈〈予習〉教科書第6章1節(3)(〈中央法規〉6章3節)を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック8で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第９回	医療保険制度④高齢者医療制度 【key words】 後期高齢者医療制度　高齢者の医療の確保に関する法律　広域連合 【授業概要】 後期高齢者医療制度のしくみについて理解する。被保険者、保険料、および財源構成について、学習する。その他の高齢者医療に関する制度についても概観する。 【教科書ページ・参考文献】 p.102～p.106 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈〈予習〉教科書第6章1節(5)(〈中央法規〉6章4節)を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック9で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第１０回	医療保険制度⑤国民医療費、公費負担医療 【key words】 国民医療費　医療費適正化　混合医療の拡大　診療報酬改定 【授業概要】 公費負担医療について理解する。最新のデータにより国民医療費について理解する。また、最近の医療費や医療提供体制に関わる動向について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p.106～p.109 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書第6章1節(6)(〈中央法規〉6章5節)を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック10で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第１１回	介護保険制度①介護保険制度制定の経緯 【key words】 措置から契約　介護保険法　介護保険法改正 【授業概要】 介護保険制度が創設された背景と創設された経緯について、理解する。まず、介護保険制度創設以前の高齢者福祉・老人保健制度について概観し、介護保険の創設過程及び介護保険制度の見直しの経緯について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 p.110～p.115 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書第6章2節(1)(2)(〈中央法規〉7章1節)を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック11で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第１２回	介護保険制度②介護保険制度の基本的なしくみ 【key words】 第1号被保険者・第2号被保険者　要介護認定　介護保険審査会 【授業概要】 現在の介護保険制度の概要について、保険者・被保険者・利用手続きについて、学習する。被保険者については第1号被保険者と第2号被保険者の別について、またそれぞれの保険料について学習する。利用手続きについては、要介護認定を含む介護保険利用手順を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p.115～p.121 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書第6章2節(3)(4)(〈中央法規〉7章2節1～4)を読んでおく。 〈復習〉本日の授業の概要を確認する。まとめチェック12で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第１３回	介護保険制度③介護サービスの種類 【key words】 要介護　要支援　介護給付　予防給付　施設サービス　居宅サービス　介護予防サービス　地域密着型サービス 【授業概要】 介護保険の給付について、要介護1～5の認定を受けた要介護者を対象とした介護給付と要支援1～2の認定がされた要支援者を対象とした予防給付について、その内容について、理解する。また、地域密着型サービス、地域密着型介護予防サービスについてもその内容を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p.121～p.126

【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章2節(4)2)(〈中央法規〉7章2節5)を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック13で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第１４回　介護保険制度④地域支援事業、地域包括ケアシステム、政策動向
【key words】
地域支援事業　地域包括支援センター　地域包括ケアシステム　介護保険財政　介護保険制度改革
【授業概要】
地域支援事業について、理解する。また、地域包括ケアシステムについて、その理念と内容について理解する。介護保険財政及び介護保険制度の課題について、理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.126～p.135
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章2節(5)(〈中央法規〉7章2節6、3節)を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック14で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第１５回　前半のまとめ
【key words】
社会保障の概念や対象及びその理念　社会保障の財源と費用　医療保険制度の具体的内容　介護保険制度の具体的内容
【授業概要】
これまで学習した「社会保障の概念や対象及びその理念」「社会保障の財源と費用」「医療保険制度の具体的内容」「介護保険制度の具体的内容」について、その概要を復習する。また、その範囲について、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験問題の解答・解説によって、理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
p.1～p.135(p.76～p.86除)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉配布プリントを通読しておく。
〈復習〉授業で取り上げた、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験問題の解答・解説を復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第１６回　年金保険制度①公的年金制度の沿革と概要
【key words】
国民皆年金体制　公的年金制度の沿革　年金制度改革
【授業概要】
公的年金の概要について理解する。そのため、公的年金制度が現在の制度に至る過程について理解する。さらに、公的年金制度めぐる近年の改革について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.136～p.141
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章3節(1)(2)(〈中央法規〉5章1節)を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック16で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第１７回　年金保険制度②国民年金・厚生年金
【key words】
国民年金第1～3号被保険者　厚生年金適用事業所　国民年金の免除　学生納付特例制度　国民年金保険料　厚生年金保険料率
【授業概要】
国民年金の概要と被保険者の種類について理解する。また、厚生年金の概要と被保険者について理解する。さらに、国民年金と厚生年金の関係について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.141～p.144
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章3節(3)(4)(〈中央法規〉5章2・3節)を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック17で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第１８回　年金保険制度③老齢基礎年金・老齢厚生年金
【key words】
老齢基礎年金　老齢厚生年金　年金支給要件　年金額
【授業概要】
国民年金および厚生年金の給付の種類について、理解した後、老齢基礎年金及び老齢厚生年金の支給のための要件および年金額について、理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.144～p.146
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章3節(5)1)(〈中央法規〉5章2・3節)を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック18で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第１９回　年金保険制度④障害基礎年金・障害厚生年金、遺族基礎年金・遺族厚生年金

【key words】
障害基礎年金　障害厚生年金　遺族基礎年金　遺族厚生年金
【授業概要】
障害基礎年金及び障害厚生年金の支給のための要件および年金額について、理解する。また、遺族基礎年金及び遺族厚生年金の支給のための要件および年金額について、理解し、両者の支給対象者の違いについて、理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.144,p.147～p.151
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章3節(5)2)～4)(〈中央法規〉5章2・3節)を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック19で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第２０回　年金保険制度⑤年金保険の動向
【key words】
社会保障制度改革国民会議 税・社会保障一体改革　マクロ経済スライド 財政検証 所得代替率 厚生年金基金
【授業概要】
社会保障・税一体改革以来の年金制度をめぐる動向について理解する。そして、現在の年金制度に関する課題と今後の見通しについて知る。
【教科書ページ・参考文献】
p.154～p.160
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章3節(7)(〈中央法規〉5章4節)を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック20で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第２１回　労働保険制度①労働保険制度の概要と沿革、労働者災害補償保険
【key words】
労働保険　労働者災害補償保険　労働基準監督署　ハローワーク　労災認定
【授業概要】
労働者に対する保険制度である雇用保険・労働者災害補償保険について、概要と沿革を理解する。今回は、労働者災害補償保険の対象、保険給付の内容及び給付の前提となる労災認定について、理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.161～p.170
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章4節(1)～(5)(〈中央法規〉8章1・2節)を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック21で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第２２回　労働保険制度②雇用保険、求職者支援、労働保険制度をめぐる最近の動向
【key words】
雇用保険　失業等給付　雇用保険二事業　就職促進給付　雇用継続給付
【授業概要】
労働保険のうち、雇用保険について、理解する。失業等給付の具体的な給付内容について、理解し、また雇用保険二事業について、その内容を理解する。雇用保険の財源構成についても理解する。さらに、最近の労働環境と労働保険の関係についても理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.170～p.179
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章4節(6)～(8)(〈中央法規〉8章3～5節)を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック22で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第２３回　生活保護制度、社会手当制度
【key words】
生活保護制度　社会手当　児童手当　児童扶養手当
【授業概要】
生活保護法の内容について、特に基本原理・生活保護の種類・保護施設について理解する。また、税を財源とする金銭給付である社会手当制度について、具体的な施策を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.180～p.204
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章5～6節(〈中央法規〉9章2・7節)を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック23で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第２４回　社会福祉制度①沿革と概要、児童福祉、母子・父子福祉
【key words】
社会福祉法　社会福祉事業　社会福祉財政　児童福祉法　児童福祉施設　子ども・子育て支援新制度　母子・父子及び寡婦福祉法
【授業概要】
社会福祉制度が整備されてきた経緯を学習し、社会福祉制度の現状を理解する。児童を対象とした福祉施策について、児童福祉法及び子育て支援関連法にもとづき、理解する。また、ひとり親家庭を対象とした福祉施策についても理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.205～p.221

【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章7節(1)～(5)1)(〈中央法規〉9章1・3・5節)を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック24で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第２５回　社会福祉制度②障害者福祉、高齢者福祉
【key words】
障害者基本法　障害者総合支援法　老人福祉法　高齢者虐待防止法
【授業概要】
障害者を対象とした福祉施策について、障害者基本法・障害者総合支援法をはじめとした障害者福祉関連法にもとづき、理解する。高齢者を対象とした福祉施策について、老人福祉法法にもとづき、理解する。また、介護保険法との関連についても理解する。さらに、高齢者の権利保障についての施策も理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.221～p.226
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章7節(5)2)～3)(〈中央法規〉9章4・6節)を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック25で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第２６回　民間保険制度①民間保険と社会保険、民間保険の概要
【key words】
民間保険　生命保険　損害保険　第三分野の保険
【授業概要】
公的保険による所得補償では不十分な場合、それを補完するものとして重要な役割を有している民間保険について、公的保険との相違を中心に理解する。民間保険の諸原則及び保険給付の対象範囲について、理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.76～p.86
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第5章(〈中央法規〉10章1～3節)を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック26で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第２７回　民間保険制度②私的年金
【key words】
企業年金　確定拠出年金　確定給付年金　個人年金
【授業概要】
公的年金を補完する役割を担っている企業年金と個人年金について、その概要と具体的なしくみについて理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.151～p.154
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章3節(6)(〈中央法規〉10章4節)を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック27で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第２８回　諸外国における社会保障制度①欧米
【key words】
スウェーデンの社会保障　ドイツの社会保障　フランスの社会保障　イギリスの社会保障　アメリカの社会保障
【授業概要】
人口構成の高齢化を迎えている欧米諸国の社会保障制度について、2つの類型に分けて、検討した上で、まずは具体的に5カ国の社会保障制度についても日本と比較しながら理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.227～p.237
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第7章1～3節(〈中央法規〉12章1節～2節5)を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック28で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第２９回　諸外国における社会保障制度②オセアニア、中国、ロシア、韓国
【key words】
オーストラリアの社会保障　ロシアの社会保障　中国の社会保障　韓国の社会保障　社会保障協定
【授業概要】
人口構成の高齢化を迎えている日本の近隣諸国の社会保障制度について、検討した上で、具体的に4カ国の社会保障制度についても日本と比較しながら理解する。社会保障に関わる諸協定について、理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.237～p.243
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第7章4・5節(〈中央法規〉12章2節6～3節)を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック29で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

	第３０回　　全体のまとめ 【key words】 年金保険　労働者災害補償保険　雇用保険　社会福祉制度 【授業概要】 これまで学習してきたもののなかで、特に「年金保険」「労働保険」及び「社会福祉制度」について、その概要を復習する。また、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験問題の解答・解説によって、理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 p.1～p.246 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書終章を読んでおく。これまでの配付資料を通読しておく。 〈復習〉授業で取り上げた、まとめチェックその他の解答・解説を復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
受講生に関わる情報および受講のルール	・自己責任(無断欠席・遅刻等しない）を持って受講すること。 ・自分自身で社会保障分野の内容が理解できるように努めること。 ・社会福祉分野の国家試験と深い関わりがある科目のため、予習・復習をすること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ミニテスト及び質問・コメントカード
授業外時間にかかわる情報	配布資料、新聞や社会保障に関連する参考書等を自主的に勉強すること。
オフィスアワー	木曜日15時50分から
評価方法	期末試験（80%），ミニテスト・中間テスト・受講状況（20%）
教科書	川村匡由 編著『福祉ライブラリ　改訂 社会保障』建帛社
参考書	社会福祉士養成講座編集委員会編『社会保障（第６版）』中央法規出版 社会福祉小六法・社会福祉用語辞典（最新版）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 心理統計学(心理学統計法)　　授業コード：S3081

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
河内 和直			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 本講義は，心理学データの分析・解釈に必要な統計的方法の習得を目的とする． 【到達目標】 単に統計学の基本的概念を理解するだけでなく，人の精神活動や行動に関する情報を統計学的根拠に則して読みとくことができる．
授業の概要	授業は講義形式での説明のほか，模擬データを配布して実際に統計処理を行い，その結果を解釈するという演習形式を取りながら学習を進める．

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション　心理学研究の基礎としての統計学
	第２回	統計学の初歩Ⅰ　「統計をとる」ことの意義
	第３回	統計学の初歩Ⅱ　変数と尺度，シグマ(Σ)記号の意味
	第４回	度数分布Ⅰ　質的変数の度数分布
	第５回	度数分布Ⅱ　量的変数の度数分布
	第６回	基本統計量Ⅰ　代表値(平均値，中央値，最頻値)
	第７回	基本統計量Ⅱ　散布度(分散，標準偏差)
	第８回	基本統計量Ⅲ　分布型(歪度，尖度，正規性)
	第９回	基本統計量Ⅳ　標準正規分布の使い方
	第１０回	相関と回帰Ⅰ　散布図，相関関係の理解
	第１１回	相関と回帰Ⅱ　ピアソンの積率相関係数
	第１２回	相関と回帰Ⅲ　相関行列，多変数間の相関分析

	第１３回　　相関と回帰Ⅳ　回帰分析 第１４回　　相関と回帰Ⅴ　回帰分析の応用(重回帰分析) 第１５回　　前期の総括 第１６回　　統計的検定Ⅰ　母集団と標本 第１７回　　統計的検定Ⅱ　統計的検定の考え方 第１８回　　カイ2乗検定Ⅰ　ピアソンの適合度の検定 第１９回　　カイ2乗検定Ⅱ　ピアソンの独立性の検定 第２０回　　t検定Ⅰ　対応のある標本の平均値の差の検定 第２１回　　t検定Ⅱ　独立2標本の平均値の差の検定 第２２回　　t検定Ⅲ　ウェルチの方法による平均値の差の検定 第２３回　　分散分析Ⅰ　分散分析の考え方 第２４回　　分散分析Ⅱ　一元配置の分散分析 第２５回　　分散分析Ⅲ　多重比較検定 第２６回　　その他の検定　中央値の検定　ほか 第２７回　　統計的検定をめぐる諸問題　その限界と適用上の留意点 第２８回　　多変量解析の概説Ⅰ　因子分析 第２９回　　多変量解析の概説Ⅱ　クラスター分析 第３０回　　後期の総括
受講生に関わる情報および受講のルール	数学的素養はほとんど必要ありませんが，数値情報を読解するための根気と思考力を要します．十分な学習意欲・態度をもって臨んでください．また，受講に際しては必ず恒常的に出席してください．なお，欠席した場合は別途，授業外課題に取り組んで頂きます．
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	その他（質問等は授業ごとに随時対応。紙面にて対応する場合あり。）
授業外時間にかかわる情報	統計概念の復習に重点をおき，わからない点は何度でも質問し，理解を深めること．
オフィスアワー	授業後に教室内で次の授業に支障の出ない時間で対応．
評価方法	前期・後期の筆記試験の結果（８０％）と平常点（２０％）（宿題，演習課題）で総合評価を行います．演習課題は全て提出することが原則です．
教科書	繁枡算男・山田剛史【編】(2019) 心理学統計法　遠見書房
参考書	適宜紹介
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ☐実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ☐PBL(課題解決型学習) ☐ディスカッション・ディベート ☐グループワーク ☐プレゼンテーション ☐実習、フィールドワーク ☐アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育

	□情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 老人心理学　　授業コード：S3091

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
齊藤　和良			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 老化が及ぼす様々な心理的影響について理解し、高齢者の心理に関する基礎的知識を習得するとともに，高齢者の抱える心理的諸問題についての理解を深めていくことを目的とする。同時に，高齢者への心理的支援についての知識や対応の仕方についての習得を目指す。 〔到達目標〕 ① 高齢者の心理的特徴について説明できる。 ② 高齢者の心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。 ③ 高齢者の生活状況について、身体・心理・社会的側面から説明できる。 ④ 認知症の症状理解に基づき、適切な支援方法を考案することができる。
授業の概要	本講義では、高齢者の基本的理解として老化が及ぼす心理的影響（感覚・知覚の老化、認知機能の老化など）や高齢者を取り囲む環境の変化に触れ、高齢者の抱える心理的な諸問題を取り上げ、その支援のあり方について考察する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	△
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション　－ 高齢者心理学（老人心理学）とは 【key words】 老人（高齢者）　超高齢社会　老化　老化の特徴 【授業概要】 高齢者の定義、超高齢社会、高齢者心理学の目的と対象、老化と加齢の違い、老化の定義（アーキング：蓄積性、進行性、内因性、有害性）老化の特徴、生理機能の低下、ストレス耐性の低下、老化に伴う増大（疾病羅漢率の増大、死亡率の増大）について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書（よくわかる高齢者心理学）　p.12-p.21　プリント資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	老化の特徴と老化現象 【key words】 老化現象　ライフサイクル　発達課題 【授業概要】 ライフサイクルと老年期の課題、高齢者の生活機能の偏差値モデル（シュロック）、老化現象、生理機能の老化、脳神経系機能の加齢変化、脳神経機能とは、加齢に伴う脳神経系機能の変化、脳神経系機能の加齢変化がもたらす影響について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書（よくわかる高齢者心理学）　p.2-p.5、p.22-p.31　プリント資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。次

回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　高齢者の日常生活動作（ADL）、感覚・知覚
【key words】
日常生活動作（ADL）　手段的日常生活動作（IADL）　感覚　知覚　注意
【授業概要】
高齢者の日常生活能力（ADL、IADL）、高齢者の理解と対応（ペックによる中高年期の発達課題と心理的危機）、高齢者の感覚・知覚（加齢に伴う感覚の変化、感覚の加齢変化がもたらす影響）、知覚の加齢変化、知覚と注意について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書（よくわかる高齢者心理学）p.8-p.11　プリント資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　高齢者の注意（高齢者の認知機能 ①　－ 注意）
【key words】
選択性注意　分配性注意　ストループ課題
【授業概要】
注意の種類（持続性注意、選択性注意、転換性注意、分配性注意）、意図的過程（注意の切り替え、切り替えコスト）、非意図的過程（ストループ課題、注意の捕捉、注意の解放）、日常場面の注意（中心視と周辺視、加齢効果、自動車運転）について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　（よくわかる高齢者心理学）p.52-p.61　プリント資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　高齢者の知能（高齢者の認知機能 ②　－ 知能）
【key words】
知能の定義　知能検査　結晶性知能　流動性知能
【授業概要】
知能の定義と知能検査、高齢者の知能（結晶性知能、流動性知能）高齢期の知能（加齢と知能の関連、発達曲線）、高齢期の知能研究法（横断法、縦断法、系列法）、シャイエの知能発達曲線、高齢者の知能に影響する諸要因（健康状態、性差、教育的背景）について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書（よくわかる高齢者心理学）p.80-p.89　プリント資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　高齢者の記憶（高齢期の認知機能 ③　－ 記憶）
【key words】
記憶のモデル　感覚記憶　短期記憶　長期記憶　エビングハウスの忘却曲線
【授業概要】
高齢者の記憶、エビングハウスの忘却曲線　記憶のメカニズムとシステム（感覚記憶、短期記憶、長期記　憶）　記憶の種類（顕在記憶　潜在記憶　意味記憶　エピソード記憶）について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書（よくわかる高齢者心理学）p.62-p.78　プリント資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　高齢者のパーソナリティ
【key words】
パーソナリティ（人格）　性格　パーソナリティ類型　適応機制　老年期における三つの喪失
【授業概要】
パーソナリティ（人格）とは、エリクソンの心理社会的発達段階、高齢者のパーソナリティと適応、ライチャードのパーソナリティの類型（円熟型、安楽椅子型、自己防衛型、他罰型、自罰型）、高齢期の適応、　適応機制（防衛機制。逃避規制、攻撃規制）、老年期における三つの喪失（健康、経済、役割）について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書（よくわかる高齢者心理学）p.100-p.107　プリント資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　高齢者の感情と欲求
【key words】
感情　欲求　マズローの欲求階層説
【授業概要】
老年期の三つの喪失（経済的喪失、健康の喪失、役割の喪失）と適応、高齢者の感情、感情の加齢的変化、
欲求の加齢変化、マズローの欲求階層について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書　（よくわかる高齢者心理学）p.108-p.117　プリント資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　高齢期の適応と精神障害
【key words】
死への適応　キューブラー・ロス　死の受容へのプロセス（五段階説）　障害の受容　精神障害の分類
【授業概要】
死への適応、キューブラー・ロスの「死ぬ瞬間」、死の受容へのプロセス（五段階説）、障害の受容、障害の受容過程、高齢期における精神障害、精神障害の分類（外因性精神障害、内因性精神障害、心因性精神障害、神経症）、精神障害の三大症状、器質性疾患と機能性疾患、老年期精神障害の特徴について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書（よくわかる高齢者心理学）　p.158-p.167　プリント資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　高齢期のライフイベント
【key words】
ライフイベント　配偶者との死別 悲嘆のプロセス グリーフケア 生きがい
【授業概要】
配偶者との死別、複雑性悲嘆の診断基準、正常でない悲嘆反応の危険因子、死別後の悲嘆、通常の悲嘆と正常でない悲嘆、悲嘆のプロセス、グリーフケア、高齢期における役割の変化、生きがい、高齢者の日常生活と就労について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書（よくわかる高齢者心理学）　p.130-p.139　プリント資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　高齢期の認知症
【key words】
認知症　中核症状　周辺症状 アルツハイマー病　　脳血管障害
【授業概要】
老年期うつ病、老化による物忘れと認知症、変性疾患に伴う認知症（アルツハイマー病、レビー小体型認知症、前頭側頭葉変性症、血管性認知症）、認知症の中核症状と周辺症状について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
プリント資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　高齢期の病気と健康増進
【key words】
老年症候群 廃用症候群 ヘルスプロモーション
【授業概要】
健常老化と病的老化、老年症候群と廃用症候群、高齢者を取り巻く環境上の問題、高齢者の健康・病気・疾病率、身体機能の障害と高齢者のADL、高齢者の健康改善の向上、ヘルスプロモーション、健康的な行動実施の支援について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
プリント資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　施設入所高齢者への心理的支援
【key words】
施設入所高齢者への対応 動機づけ療法　施設職員の心理的負担
【授業概要】
高齢者への対応、社会的対応、施設入所老人への対応、現実見当識プログラム、再動機づけ療法、施設で暮らす高齢者、施設で暮らす高齢者への心理的援助、施設職員の心理的負担と援助、事故と高齢者について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書（よくわかる高齢者心理学）　p.172-p.173　p.184-p.185　プリント資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１４回　在宅高齢者への心理的支援

	【key words】 ソーシャルネットワーク　コンボイモデル　地域包括ケアシステム 【授業概要】 ソーシャルネットワーク、高齢期の対人関係、コンボイモデル、ソーシャルサポートの緩衝効果と直接効果、ストレスの概念、高齢者福祉関連の法律と制度、老人福祉法、介護保険法、高齢者虐待防止法、地域包括ケアシステムについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書（よくわかる高齢者心理学）　p.140-p.141 p.152-p.153　プリント資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。次回の授業の予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　老人心理学（高齢者心理学）のまとめ 【key words】 老人心理学　知能の二面性　記憶の種類　認知症 【授業概要】 ソーシャルネットワーク、高齢期の対人関係、コンボイモデル、ソーシャルサポートの緩衝効果と直接効果、ストレスの概念、高齢者福祉関連の法律と制度、老人福祉法、介護保険法、高齢者虐待防止法、地域包括ケアシステムについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書（よくわかる高齢者心理学）　プリント資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。老人心理学（高齢者心理学）の復習。 【予習復習に必要な想定時間】 90分～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・教科書を必ず持参すること。 ・事後学習として、教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。 〔受講のルール〕 ・私語や携帯電話・スマートフォンの使用など他の受講生の迷惑になる行為の厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておき、各自の意識を高めること。 ・参考図書や関連書籍を読み、授業内に解説したキーワードについて理解を深めること。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期試験（70%）と課題への積極的な取り組み（30%）により総合的に評価する。課題はコメントカードの記述内容を点数化する。
教科書	佐藤眞一・権藤恭之編著　（やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ）　よくわかる高齢者心理学　ミネルヴァ書房　2016年
参考書	佐藤眞一・高山緑・増本康平著　老いのこころ - 加齢と成熟の発達心理学　有斐閣　2014年 適宜、授業時に紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ケースメソッド（ある実際の事例を取り上げ、その問題の解決方法についてグループディスカッションの形で検討する。事例については３回を予定。）

講義科目名称： 障害児（者）心理学　　授業コード：S3101

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
齊藤　和良			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 　本講義では、障害児（者）の基本的理解として、障害が及ぼす心理的影響（感覚・知覚、認知、自己概念、行動など）を学び、重要な心理的な諸問題を取り上げ、その支援の在り方について理解を深める。 〔到達目標〕 ①身体障害、知的障害及び精神障害について概説できる。 ②障害が及ぼす心理的影響について理解できる。 ③障害者（児）の心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。
授業の概要	障害児（者）心理学では、まず身体障害、知的障害及び発達障害などの様々な障害の特性（心理や行動）を学び、各障害児（者）に対する心理社会的な支援のあり方について理解を深める。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション　　－　障害とは何か、障害の捉え方 【key words】 障害の概念　国際障害分類　　国際生活機能分類（ICF）　障害者差別解消法　合理的配慮　公認心理師 【授業概要】 科目のオリエンテーションとして、障害とは何か、世界保健機関（WHO）の国際障害分類及び国際生活機能分類に基づく障害の捉え方について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書　（障害者・障害児心理学　遠見書房　p.11 - p.19）、　プリント資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の「第2章　身体障害の概要　p.23 - p.36」を一読しておくこと。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	身体障害の概要 【key words】 身体障害　身体障害者福祉法　身体障害者手帳　国際障害分類（ICIDH）　国際生活機能分類（ICF） 障害者総合支援法　障害者差別解消法 【授業概要】 身体障害の定義と分類（身体障害者福祉法による定義、身体障害者手帳、国際障害分類と国際生活機能分類）、身体障害の概要（肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、言語障害、内部障害）、身体障害児者の全体状況及び障害者関連法（障害者基本法、障害者総合支援法、障害者差別解消法）について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書（障害者・障害児心理学　第2章　身体障害の概要　p.23 - p.36）、プリント資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】

		授業の予習 として、（教科書　第３章　知的障害の概要p.37- p.46）を一読しておくこと。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第３回	知的障害の概要 【key words】 知的障害　知的障害者福祉法　国際疾病分類（ICD-10）　精神疾患の診断・統計マニュアル（DSM-4） 知的障害の原因別分類（外因性障害、内因性障害など） 【授業概要】 我が国の法令における知的障害，福祉・教育等の領域における知的障害、国際的な診断基準における知的障害（国際疾病分類、精神疾患の診断・統計マニュアル、米国知的・発達障害協会）及び知的障害の原因について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書（第３章　知的障害の概要 p.37 - p.46）、プリント資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回の授業の予習として、教科書　第４章 精神障害の概要 p.47 - p.59」を一読しておくこと。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第４回	精神障害の概要 【key words】 精神障害　アセスメント　精神機能　精神症状　精神保健福祉法 【授業概要】 精神障害の分類（外因性障害、内因性障害、心因性障害）、精神状態の把握及び精神障害の症状の把握の仕方について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書（第４章　精神障害の概要 p.47 - p.59）、プリント資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回の授業の予習として、教科書　第５章 発達障害の概要 p.60 - p.71」を一読しておくこと。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第５回	発達障害の概要 【key words】 発達障害　精神疾患の診断・統計マニュアル（DESM-5）　国際疾病分類（ICD-11）発達障害者支援法　自閉症　広汎性発達障害　注意欠陥多動性障害（ADHD）　学習障害（LD）自閉症スペクトル障害 【授業概要】 発達障害の概念（発達とは、発達障害とは、発達障害の分かりにくさ）、主な発達障害（自閉症スペクトラム障害、注意欠陥多動性障害、学習障害）及び「発達障害をどう理解し、どう支援を始めるか」について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書（第５章　発達障害の概要 p.60 - p.71）、プリント資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回の授業の予習として、教科書　視覚障害p.84- p.85、第10章　p.126 - p.135」を一読しておくこと。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第６回	視覚障害児・者の理解と心理的援助 【key words】 視覚障害の定義　失明原因　盲と弱視　ロービジョン（low vision） 【授業概要】 視覚障害の概要と分類、医学的弱視と教育社会的弱視、視覚障害児の心理的特性及び視覚障害のある人への支援について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書（視覚障害p.84- p.85、第10章 身体障害者への必要な支援 p.126 - p.135）、プリント資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 視覚障害の復習と次回の聴覚障害（教科書 p.85 - p.88）の予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第７回	聴覚障害児・者の理解と心理的援助 【key words】 伝音性難聴　感音性難聴　デシベル(dB)　９歳の壁 【授業概要】 聴覚障害の概要と分類、伝音性難聴と感音性難聴、聴覚障害児の心理的特性、９歳の壁及び聴覚障害のある人への支援について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書（ p.85 - p.88）、プリント資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 聴覚障害についての復習。知的障害について（教科書 p.89 - p.101、p.136 - p.146）の予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第８回	知的障害児・者の理解と心理的援助 【key words】 知的障害の定義、知的障害の病因、ダウン症候群　知能　知能指数　　知的発達　知的障害の知覚　知能特性　行動特性

【授業概要】
知的障害の定義と分類　知的障害の病因、知的障害の疫学　知能の定義、知能指数、知的障害児の知能の発達と知能特性と行動特徴、知的障害のある人に必要な援助の全体像及び臨床心理の専門家に求められる援助について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　(p.89 - p.101、p.136 - p.146)、プリント資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
知的障害の復習と次回の肢体不自由に関する予習(（教科書 p.82 - p.84）についての予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　肢体不自由児・者への心理的援助
【key words】
運動障害　脳性麻痺（CP）　脳損傷と非脳損傷　幻肢（痛）認知の障害　図-地の知覚障害　身体像（body image）　重複障害
【授業概要】
肢体不自由の原因（脳損傷、非脳損傷）、脳性麻痺（CP）の定義と類型、幻肢（痛）、肢体不自由児の運動発達やコミュニケーションの発達及び重複障害や重症心身障害の定義について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書（ p.82 - p.84）、プリント資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
肢体不自由についての復習と病弱虚弱についての予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　病弱児・者の理解と心理的援助
【key words】
病気の推移　ホスピタリズム　病弱　身体虚弱
【授業概要】
病弱の定義、病弱教育対象児の病気の推移、病弱教育対象児の病気の概要と心理的援助、病気の自己管理への心理的援助、ターミナル期の支援及び二次的な発達や性格の偏りについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
プリント資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
病弱・身体虚弱の定義と種類そして病弱児の心理的な側面の復習。精神障害、情緒障害の予習（教科書 p.102 - p.114）。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　情緒障害児、精神障害者の理解と心理的援助
【key words】
精神障害　情緒障害　不登校　選択性緘黙症　外傷性ストレス障害（PTSD）
【授業概要】
精神障害及び情緒障害の定義、主として心理的な要因による情緒障害の分類、代表的な情緒障害の概要及び精神障害者や情緒障害児に対する主な心理的支援について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書（p.102 - p.114、p.147 - p.167）、プリント資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
精神障害、情緒障害、PTSDの復習。広汎性発達障害（教科書 p.115-p.125）についての予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　広汎性発達障害児・者の理解と心理的援助
【key words】
発達障害の定義　広汎性発達障害　自閉症　アスベルガー症候群　障害の三つ組　発達障害者支援法
【授業概要】
広汎性発達障害（自閉症、アスベルガー症候群その他）の特徴、自閉症とは、自閉症やアスベルガー症候群がある人の特性、自閉症の原因と有病率と他の障害との関係、自閉症スペクトラム障害及び自閉症のある人への援助について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書（p.115 - p.125）、プリント資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
広汎性発達障害（自閉症、アスベルガー症候群その他）の復習。注意欠陥多動性障害の予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　注意欠陥多動性障害児・者の理解と心理的援助
【key words】
発達障害　ADHD（注意欠陥/多動性障害）　発達障害者支援法
【授業概要】
発達障害の定義、ADHD（注意欠陥/多動性障害、ADHDの本質と困難、ADHDの原因、ADHDのある人への援助及びADHDのある人の家族への援助について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書（ p.168-p.180）、プリント資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
発達障害についての復習(p.168-p.180)。学習障害についての予習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１４回　学習障害児・者の理解と心理的援助
【key words】

	学習障害(LD)　読字障害　算数障害　デイスレクシア 【授業概要】 学習障害（LD）とは、学習障害（LD）の原因と有病率、他の障害との関係及びLDのアセスメントについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書　(p.168-p.180)、プリント資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学習障害(LD) の復習。障害受容と障害への適応について教科書を調べておくこと。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題」を記入する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　家族支援と障害の受容　障害児（者）心理学のまとめ 【key words】 家族の支援　障害の受容　障害受容過程　価値転換理論 【授業概要】 家族支援、障害者観の変遷、障害の受容及び障害受容過程について学び、障害児（者）心理学をまとめる。期末試験の傾向と対策。 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 障害児（者）心理学のまとめ。期末試験対策。 【予習復習に必要な想定時間】 90分～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・教科書を必ず持参すること。 ・障害者の問題に関するメディア（新聞やインターネットなど）の情報を日頃から注意し、常に問題意識を養うこと。 〔受講のルール〕 ・授業には、積極的に参加すること。 ・私語や携帯電話・スマートフォンの使用など他の受講生の迷惑になる行為の厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておき、各自の意識を高めること
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期試験の結果（70%）と課題に対する積極的な取り組み（30%）でもって総合的に評価する。課題はコメントカードの記述内容を点数化する。
教科書	柘植雅義・石倉健二・野口和人・本田秀夫 編　公認心理師の基礎と実践 13　障害者・障害児心理学　遠見書房　ISBN: 978-4-86616-063-4
参考書	太田信夫監修　柿澤敏文編集　（シリーズ心理学と仕事15）　障害者心理学:　北大路書房　(2017/7/21) 便宜、授業時に紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 視覚障害者のための福祉施設（日本盲人職能開発センター）にて点字やオプタコン訓練等のコミュニケーション指導員として約５年間の勤務経験あり。その時の臨床経験を活かし、障害児(者)理解に対する必要な知識や心理的支援について講ずる。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 【アクティブラーニングについて】 ケースメソッド（ある実際の事例を取り上げ、その問題の解決方法についてグループディスカッションの形で検討する。事例は３例を予定。）

講義科目名称：　心理学実験実習Ⅰ(心理学実験)　　授業コード：S3121

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	福祉心理コース・必修
担当教員			
大野　俊和			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 心理学における実験の意義、独立変数、従属変数などの概念が理解できるようになることを目的とする。 【到達目標】 実験計画や実験の手続きを理解できるようになる。 データの収集および適切な処理ができる。 独立変数・従属変数を操作・測定する統計的方法を学ぶ。 実験改善を発案する力を得る。 実験レポートを作成できるようになる。
授業の概要	通年の実験実習をとおして、研究の基本的なマナーを習得する。講義ではいくつかの有名な実験研究を取り上げ、心理学の実験に対する基本的な理解と実践的知識の習得を目的とする。各テーマ毎にレポート提出が行われるが、難しく捉えずに気軽に受講してもらいたい。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	△
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	○
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	心理学実験と実験計画 【key words】 【授業概要】 ガイダンスの後に、心理学におおける実験と、実験計画について学びます。独立変数、従属変数、因果関係第3の変数（剰余変数）について説明します。 アクティブラーニング　課題「第3の変数」についてグループ単位で話し合い、理解を深めます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	課題の解説と「錯視」実験準備 【key words】 【授業概要】 課題の回収および解説ののち、次週の実験実施のための錯視刺激の調整・準備をします。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第３回	実験の実施と個人データの集計 【key words】 【授業概要】

		錯視実験を実施します。その後、個人単位でデータを集計します。 アクティブラーニング　実験の実施およびデータの集計を行います。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第４回	錯視実験のデータの分析 【key words】 【授業概要】 課題「錯視　全データを用いた分析」を実施します。 同時に、エクセルの関数の復習を行います。 アクティブラーニング　PCを用いたデータの集計および分析を行います。ここでは、要約統計量の算出を行います。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第５回	課題の回収および講評、課題実施 【key words】 【授業概要】 最初に課題の提出と講評、錯視の解説を行います。 その後、課題「グラフ作成」を行います。 アクティブラーニング　エクセルを用いて研究結果に適したグラフを選び作成します。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第６回	グラフ課題の実施および提出 【key words】 【授業概要】 講義時間内にグラフ課題を提出します。その後、グラフ作成の講評を行います。 アクティブラーニング　エクセルを用いて研究結果に適したグラフを作成します。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第７回	「ストループ効果」実験の実施 【key words】 【授業概要】 インストラクションののちにストループ効果の実験を行います。 また、理解を促す論文を指定します。 アクティブラーニング　実験者および実験協力者になり、データを取得する手順を理解します。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第８回	「ストループ効果」実験の分析 【key words】 【授業概要】 ストループ効果のデータの受け渡しと実験の解説およびデータの分析を行います。 アクティブラーニング　PCを用いたデータの集計および分析を行います。ここでは、要約統計量の算出を行います。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第９回	「ストループ効果」課題の分析 【key words】 【授業概要】 集計データに基づいて、課題を行います。 アクティブラーニング　PCを用いてデータの分析および課題を解きます。ここでは、t検定を行います。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１０回	「ストループ効果」課題の提出、課題の講評、実験計画 【key words】

【授業概要】
前週に引き続き課題を行います。課題提出後、講評と授業内課題「癒し系音楽の効果の検討」を行います。
アクティブラーニング　PCを用いてデータの分析および課題を解きます。ここでは、実験計画として2群比較の計画を立ててもらいます。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　「触2点閾」実験の実施
【key words】

【授業概要】
実験者と実験協力者とでペアとなり、測定具を用いて、実際に背中の触2点閾を測定します。
アクティブラーニング　交互に実験者、実験協力者となり、実際にデータを取得する手順を理解します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１２回　「触2点閾」実験の解説およびデータの集計
【key words】

【授業概要】
実験の解説および個人データの整理・集計を行います。その後、データの送信を行います。
アクティブラーニング　PCを用いてデータの集計を行います。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１３回　「触2点閾」実験　データの分析
【key words】

【授業概要】
課題のため、全データをダウンロードし、触2点閾についての分析を行います。
代表値の算出を主とします。
アクティブラーニング　PCを用いてデータの分析を行います。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１４回　「触2点閾」実験　データの分析　課題提出
【key words】

【授業概要】
課題提出後、配布したデータを用いて他に興味深い結果があるかを自主的に分析し、まとめます。
アクティブラーニング　PCを用いて主体的にデータを眺め、分析・報告します。ここでは、要約統計量の算出を行います。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１５回　ユニバーサルデザイン
【key words】

【授業概要】
いくつかの失敗例を紹介しながら、ユニバーサルデザインについて考え、改善策を考えていきます。
アクティブラーニング　グループ単位で意見を出し合った後に、各自で改善案を作成・提出します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１６回　「囚人のジレンマ」の実施
【key words】

【授業概要】
繰り返しのある囚人のジレンマのデモンストレーションを行います。その後、各自で得点を算出します。
アクティブラーニング　デモンストレーションに参加するとともによい方略を作成します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１７回　「囚人のジレンマ」解説
【key words】

【授業概要】
デモンストレーションの解説および囚人のジレンマ研究の背景について解説します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１８回　「囚人のジレンマ」
【key words】

【授業概要】
囚人のジレンマから社会的ジレンマの研究を解説します。
アクティブラーニング　社会的ジレンマの定義に即した具体例についてグループ討議していきます。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１９回　「囚人のジレンマ」
【key words】

【授業概要】
ジレンマ研究から利他行動、2次のジレンマ問題について解説します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２０回　「記憶実験」の計画立案
【key words】

【授業概要】
これまで行われてきた記憶に関する実験を紹介したのち、グループ単位で記憶の実験の計画を提出してもらいます。
アクティブラーニング　グループ単位で記憶に関する実験計画を考えます。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２１回　「記憶実験」実験の実施と解説と課題提示
【key words】

【授業概要】
記憶実験の実施と解説、課題の指示、データの分析を行います。
アクティブラーニング　全データを用いて記憶のパターンについてPCを用いて分析します。ここでは、要約統計量の算出を行います。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２２回　「記憶実験」の課題遂行
【key words】

【授業概要】
前週に続いてデータの分析およびレポートの作成を行います。
アクティブラーニング　全データを用いて記憶のパターンについてPCを用いて分析します。ここでは、要約統計量の算出を行います。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２３回　「記憶実験」の課題
【key words】

【授業概要】
レポートの作成に関する補足的説明と、記憶のスキーマについてのデモンストレーションを行います。
アクティブラーニング　データ分析とともに、記憶のデモンストレーションに参加します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２４回　「漢字とかなの処理」　実験刺激の作成
【key words】

【授業概要】
「漢字とかなの処理」の実験に先立ち、実験で使用する刺激の作成を行います。
アクティブラーニング　インターネットを用いてグループ単位で刺激（2字熟語）の作成を行います。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２５回　「漢字とかなの処理」実験実施と解説、課題提示
【key words】

【授業概要】
文字種の違いが認知処理に及ぼす差異についての実験と解説を行います。
各自で取得したデータを送信したのち、課題を提示します。
アクティブラーニング　実験者と実験協力者がペアとなり、実験を実施し、データをそれぞれ所得します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２６回　「漢字とかなの処理」の課題遂行
【key words】

【授業概要】
課題に基づいた分析及びレポートの作成を行います。ここでは、要約統計量の算出を行います。
アクティブラーニング　エクセルを用いてデータの集計および分析を行ったのち、レポートを作成します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２７回　「アクションスリップ」実験の実施および解説
【key words】

【授業概要】
「アクションスリップ」実験および解説を行います。その後、アクションスリップの実験計画について解説します。
アクティブラーニング　実験者と実験協力者がペアとなり、スマートフォンを用いてデータの測定、データの送信を行います。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２８回　「アクションスリップ」課題の実施
【key words】

【授業概要】
「アクションスリップ」課題を解いていきます。ここでは、要約統計量の算出を行います。
アクティブラーニング　PCを用いて、実験結果を分析し課題を解きます。また、アクションスリップの日常例について検討します。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２９回　「仕掛けの考案」仕掛けの紹介および仕掛けの考案
【key words】

【授業概要】
仕掛け学における仕掛けについて紹介します。その後、具体的な社会問題を提示し、それを解く仕掛けを考案します。
アクティブラーニング　グループによる検討および次週の発表準備
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第３０回　「仕掛けの考案」発表および講評
【key words】

【授業概要】
各グループ単位での仕掛けを発表します。
アクティブラーニング　パワーポイントを用いたグループによる発表を行います。
【教科書ページ・参考文献】

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 事前にUSBメモリを用意することが望ましい。LL教室を多用する。 〔受講ののルール〕 各回メールでのコメント提出が義務付けられている。レポートは授業時間内に提出する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教科書はもとより、講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。また、課題の作成は、時間外学習時に行う必要がある。
オフィスアワー	金曜日3時限目（206研究室）
評価方法	レポート課題(50%)、授業内小課題（35%）、授業内でのコメント（15%）
教科書	なし。授業中にプリントを配布する。
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　青年心理学　　授業コード：S3191

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	社会福祉専攻・選択
担当教員			
橋本　広信			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 単に青年心理学に関連する知識を吸収するのではなく、まさに今青年期を生きる者として、学んだ用語や事柄を手がかりに自己洞察を深め、同時に他者への共感と理解を深めていく視点を得ることを目的とする。 【到達目標】 ①子どもとおとなの間にある、そのどちらでもない数年間のあり方が、いかにその他の人生の時期とつながっているのかを理解する。 ②青年期に何が彼らの課題となり、それはどのような意味・意義をもつのかについて、アイデンティティ概念を手掛かりに深く捉えられる。 ③青年期に意識されてくる心理的なテーマについて、「問い」の形で整理しながら、それらがもつ人生上の意味を理解し説明できる。
授業の概要	教科書に沿って、一回につき１章分のテーマをとりあげ、青年心理学の基礎用語や知識を解説する。毎回の授業で、テーマに沿った「問い」の場面を想定し、思考実験や互いの考えを出し合い共有するような課題を設定する。また、事例の考察などを通してテーマに関する青年心理の理解を深める努力をしていく。 以上のように、毎回の授業において、自分自身の中にある青年心理について省察をしながら授業を展開する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション：身近な仲間にインタビュー　『「青年らしさ」って何？』 【key words】 ・周辺人、疾風怒涛、第二の誕生、サモアの青春 【授業概要】 ・科目のオリエンテーションを行います。 ・一般的に青年が背負う課題や問題を理解するにとどまらず、受講生自身の自己理解を広げかつ深め、進路探索にもつながる体験を得られることを目指します。 ・今回は「青年らしさ」に焦点を当てながら、青年期という発達段階の特質について、仲間同士で簡単にインタビューをしながら、検討をしていきます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書2-8ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・グループに分かれて、「青年らしさ」について話し合う予定なので、それぞれが考える「青年らしさ」を言葉にできる準備をしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習3時間
	第２回	アイデンティティ 【key words】 ・自我親和感（エゴシントニック）、自我異和感（エゴディストニック）、自我体験、役割実

験、モラトリアム

【授業概要】
・青年期の発達課題の柱とみなされる「アイデンティティ」について、その概念の基礎について学んでいきます。
・学習を進める上で、「自我体験」という現象に注目しながら、具体的な個人に展開されて現れるアイデンティティの諸相を見ながらアイデンティティ概念の理解を深めていきます。
・さらに、受講生自身のアイデンティティとそのルーツについて考察を加えていきます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書9-22ページ　・吉野　弘「I was born」
・吉野源三郎『君たちはどう生きるか』　（プリント配布予定）
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・ワークシートを用いてアイデンティティについて検討し、グループ間で意見交流を行うので、自分自身について授業後もよく振り返りをしておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第３回　身体の発達：からだとこころ
【key words】

・第二次性徴、発達加速現象、早熟、晩熟、ボディ・イメージ、性役割葛藤、ジェンダー・アイデンティティ

【授業概要】
・男として、もしくは女として生まれてくることの意味を強く実感していくのが青年期であり、青年期に人は「性をもつ存在」としての自己と出会っていきます。
・それは同時に異性の発見ももたらしながら、恋愛や自分の身体への認識を形成することで、人をより個性的にしていくことになります。今回は、こうした身体の発達に伴う青年らしい心理について検討します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書27-37ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・身体醜形障害について調べておくこと。身体醜形障害の事例を通して、身体への理解が及ぼす意識の変化について話し合う予定です。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第４回　青年の自立：家族との関係
【key words】
・ブロス、マーラー、第二の分離―固体化過程、心理的離乳の三段階

【授業概要】
・青年期の大きな課題である「自立」について、親子関係を軸にして検討します。
・特に、自立が親子関係、なかでも親自身の青年期の越え方が子への向き合い方を左右し、結果として青年の自立に影響を及ぼしていくという、ライフサイクルの絡み合いについても見ていきます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書40-53ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・高村光太郎、新島襄の生涯について概要をあらかじめ調べておくこと
・「シャイン」などの映画のシナリオを通して、青年の自立と親子関係について意見を交換します。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第５回　友人関係の発達：友人関係の昨日、チャムシップ
【key words】
・ヤマアラシのジレンマ、親密圏、公共圏、友人の機能、チャムシップ、サリバン

【授業概要】
・同年代の仲間との間における相互に指示的な「かかわり」や「つながり」である友人関係が青年期にもつ意味、意義について考えていきます。
・特に、友人関係の発達段階やそれぞれの青年にとっての「友人」の質がどのように決まっていくかについて理解を深めていきます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書54-67ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・あらかじめ、「友情」を描いた小説やマンガ、映画などを探し、どこに青年らしい友情が描かれているかを説明できるようにしておくこと。それぞれが調べてきたものを通して意見交換をする予定。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第６回　恋愛・結婚
【key words】
・ジェンダー・アイデンティティ、母子分離、ルービン、ＳＶＲ理論、アンドロギュヌス

【授業概要】
・思春期以降、異性間で強く働く「恋愛」感情を中心に、漠然とした未来の「結婚」への意識も含めた変化について検討していきます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書68-80ページ

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・恋愛名言集を調べ、自分の恋愛観をピッタリと表す言葉を抜き出しておくこと。
・悩み相談の事例をもとに、青年期の恋愛についてどのように捉えるべきかについてグループ討議をする予定
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第７回　道徳性の発達：青年と正義

【key words】
・フロイト、スキナー、バンデューラ、ピアジェ、コールバーグ、ハインツのジレンマ課題

【授業概要】
・思念期に特に鋭敏化しやすい正義に関する判断や道徳性について学んでいきます。
・また、それぞれの青年が生きている文化特有の倫理・道徳観が、発達の過程で青年たちに無批判に取り込まれるメカニズムを理解します。】
【教科書ページ・参考文献】
教科書96-108ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・コールバーグの道徳性理論について予習をしておくこと。ジレンマ課題を提示しながら道徳的な判断をし、その理由について話し合う予定。生命倫理の観点からのジレンマ課題について予習をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第８回　青年の死生観：「死ぬ」ことをどう受けとめる？

【key words】
・クインラン事件、クルーザン事件、カステンバウム、死生学、希死念慮、自殺念慮、死と再生

【授業概要】
・青年期は自己が大きく変容する時期であるため、象徴的な次元で“子どもである自分”の終わりを体験する感覚を味わうことが増えることを理解していきます。中には、象徴的な次元にとどまらず、実際的な「死」に接近したり、自殺未遂や自殺をしてしまう者も出る現実を学びます。
・ユング理論の核ともなる、「死と再生」という概念を手掛かりに、青年期における死への接近の意味について考えていきます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書136-147ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・安楽死と尊厳死について予習をしておくこと。生命倫理を考える実際の事例をもとに、青年期に死に接近することについて話し合いをします。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第９回　青年と時代・文化

【key words】
・大学史、大学数の推移、帝国大学、新制大学、大学大衆化、消費社会、シラケ、モラトリアム人間、バブル、記号消費論、ロスト・ジェネレーション

【授業概要】
・教科書の内容から少し離れ、レポート課題に向けた準備となるような内容を2回続けていきます。
・今回は、特に青年期の中でも「大学生」に焦点をあてて、様々な時代の中の大学生像を学んでいきます。この学びを通して、それぞれの時代に、青年たちが何を求め、どのような思いで大学という場に集ったのかを考えていきます。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・大学のおおまかな発展の流れについて、それぞれ調べておくこと。それぞれの大学選択のプロセスを相互にインタビューしながら振り返り、グループ間で話し合いをします。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第１０回　現代大学生論

【key words】
・インサイド・アウト、アウトサイド・イン、古典的モラトリアム、ビルドゥングスなきビルドゥングス

【授業概要】
・前回確認をした、学生の個人化やまじめ化、生徒化の流れをふまえた上で、受講生と同じ時代に生きる大学生の心理に関する研究を通して、「現代における大学と大学生の心理」について考えていきます。同年代の別の大学の学生たちがどのような思いで大学生活を送り、何に取り組み何を感じ、何を考えたかについて知ることで、受講者自身が、「大学生である自己」を見るときの見方を深めていくことを目指します。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・「自分という大学生の特徴」について言葉にできるようにしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第１１回　青年が向き合う心の仕事①：青年期の病理

【key words】
・アイデンティティ拡散、人格障害、統合失調症、悩む力

【授業概要】
・青年期後期になると、大人への入り口が見えてきます。そこで、様々な人生の十字路に立つ中で、それぞれの青年がもつ課題も浮かび上がってくるということをまず理解していきます。この時点で、過去に解決すべきであった未解決の課題が浮かび上がったり、治療や回復を要する課題があるために前に進めず停滞をし、その問題と改めて向き合う青年たちの存在を理解していきま

す。そして、特に「自分とつながる」課題に焦点を当て、青年の支援の基本的な視点について解説をしていきます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書148-164ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布資料をあらかじめ熟読しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第１２回　青年が向き合う心の仕事②：青年期のつまづき（非行・問題行動）と心の成長
【key words】
・児童相談所、一時保護所、非行、少年院

【授業概要】
・資料を通しながら、「荒れる心・欠ける心」の奥にある自立を妨げる問題を理解していきます。
・特にその心がもたらす結果としての非行・問題行動に焦点を当て、青年の引き起こす反社会的な行動の奥にある、発達的な意味、成長への願いについて検討をしていきます。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・少年院についてあらかじめ調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第１３回　ロストジェネレーションから青年期を考える：働くことと青年
【key words】
・ロスト・ジェネレーション、メアリー・ブリントン、ワーキング・プア、ウィーク・タイズ、ストロング・タイズ、ＮＥＥＴ、早期離職、ポストモラトリアム

【授業概要】
・「働くこと」は「愛すること」とともに、成熟した大人がクリアすべき課題だといえます。それは、直接的にアイデンティティの課題に答えを出すことにも関わってくる大事な問題として、青年にも捉えられ、青年が自己と向き合う契機になることを理解していきます。ただし、働くということは、社会の状況と密接に関連したことであり、能力とは別に世代全体を巻き込むような大きな影響を与えるということも解説をしていきます。これらのことを「ロスト・ジェネレーション」という言葉を手掛かりに学びながら、それぞれの進路探求を振り返ります。
【教科書ページ・参考文献】
教科書165-172ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】

・それぞれの進路意識についてワークシートを作成しておくこと。一通りの学習ののち、自らの職業選択について振り返り、グループ内で意見交換をしていきます。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第１４回　ポートレート作成　20歳の頃の私
【key words】

20歳、成人、ポートレート
【授業概要】
・人生の大きな十字路のちょうど真ん中にいる20歳の頃の自分について、客観的に眺めながら、ポートレートを作成する。参考として、橋口譲二が、様々な若者の17歳の姿を写真に収めたポートレート集をとりあげ、青年期の自分を切り取る作業を実際に自分でも行い、何を発見するかを確かめます。
【教科書ページ・参考文献】
橋口譲二（2007）『新装版　17歳』（産業編集センター）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・教材として上げる作品のあらすじについて調べておくこと。課題としてワークシートを埋める課題を課す予定
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第１５回　青年と夢
【key words】
・患者性、歴史的アイデンティティ、夢

【授業概要】
・授業のまとめとして、映画などを題材にしながら、これまで学んだことを振り返りながら、青年期にこそ抱くことが出来る、『夢』について考えていきます。キーワードとして、エリクソンの「患者性（patienthood）」という言葉を手掛かりにしていきます。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・伝記などを通して、青年期の人物が、自分の将来に重ねた夢の実例を探しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・青年期をリアルタイムで生きる大学生の時にしか生き生きと学べない内容でもあるので、積極的に受講をしてもらいたい。 ・知識を覚えるというより、それを自己や他者の理解に「応用」し考える問いを多く発する授業を行う。したがって、そうした問いに対して誠実に応え、考える姿勢を授業で求める。 〔受講のルール〕 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は退席を

	命じる。その場合は欠席扱いとする。 ・評価にある通り、期末課題以外に、3回程度小レポートや感想文を課す。それぞれ評価の対象になるので、必ず提出すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	対面であれば、シャトルカード。zoomが中心になるようなら授業資料配布スレッドへのコメントの形で授業の感想を書きこむこと。
授業外時間にかかわる情報	青年が主人公の物語、映画、漫画等を探索して3作品を目標に把握しておくこと。授業内でテーマに即して発表を求めることがある。授業後、テーマに関連した事件、出来事、物語、映画などを探し、授業理解を深めておくこと。
オフィスアワー	水曜日　9：00～11：30
評価方法	〈総合評価〉総合得点60～69点：C　70～79：B　80～89：A　90点以上：S　で評価。 〈評価割合〉期末レポート試験70%、小レポート・ポートレート等提出物 30%（30点÷提出回（予定3回）＝1提出物得点（1回10点）））
教科書	・宮下一博監修・松島公望・橋本広信編著『ようこそ！青年心理学』（ナカニシヤ出版、2009）
参考書	・藤森旭人『小説・漫画・映画・音楽から学ぶ児童・青年期のこころの理解―精神力動的な視点から』（ミネルヴァ書房、2016）他　適宜指示
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ポートレートを作成すること。インタビューを実践し、聞き取りした内容をもとに最終レポートを作成することで評価を行っていく。

講義科目名称： 公衆衛生学　　授業コード：S3211

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
山﨑　博幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 公衆衛生学の概要を理解し、疫学を含む公衆衛生学的な考え方を養う。将来、社会福祉専門職（又は医療専門職）として相応しい公衆衛生の基本、知識、保健統計の読み方を身につける。 【到達目標】 公衆衛生学は何かという点を説明できると共に、これまでの人類の歴史において公衆衛生がどのように機能してきたか、今後どのように活かしていけるかを説明できる。
授業の概要	社会福祉専門職（又は医療専門職）として必要な公衆衛生・衛生学の知識を理解・習得して、人々・患者・利用者・児童生徒・職員等の身体的・精神的健康と施設・機関の安全、及び福祉の向上に寄与する責任と自覚を形成できるよう進めていく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	公衆衛生学序論 【key words】 ウインスロー、健康の定義、ICF、ソーシャルキャピタル、生命倫理 【授業概要】 公衆衛生学概論 ・ウインスローの定義について解説する ・公衆衛生学の扱う範囲や活動内容について解説する ・生活と健康について解説する 【教科書ページ・参考文献】 第１章　p1-p17 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	保健統計 【key words】 健康水準、健康指標、平均余命、平均寿命、人口統計、国勢調査、人口動態 【授業概要】 ・健康水準をはかるための物差しである健康指標について解説する。 ・日本の人口動態及び主要死因別にみた死亡率の推移について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 第２章　p19-p30 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分

第３回　疫学
【key words】
Ｊ スノウ、疫学調査、疾病分類、コホート研究、症例対照研究、介入研究、オッズ比
【授業概要】
・イギリスにおけるＪ スノウのコレラの予防について解説する。
・疫学調査の基本について解説する
・疫学の方法について解説する
【教科書ページ・参考文献】
第３章　p31-p51
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
40分

第４回　疾病予防と健康管理
【key words】
疾病の自然史、疾病リスク、疾病予防の段階（1次、二次、三次）、ポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチ、スクリーニング検査、健康日本２１
【授業概要】
・疾病予防の段階について解説する
・スクリーニング検査を含めた健康管理について解説する
・日本の国民健康づくり運動「健康日本２１」について解説する
【教科書ページ・参考文献】
第４章　p53-p82
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
40分

第５回　主な疾病の予防
【key words】
感染症、予防接種、循環器系疾患、高血圧、心疾患、糖尿病、メタボリックシンドローム、がん、アレルギー疾患
【授業概要】
・感染症のなりたち、予防について解説する
・生活習慣病のリスク因子、予防について解説する
【教科書ページ・参考文献】
第５章　p83-p138
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
40分

第６回　環境保健１
〃
【key words】
生態系、環境汚染、温室効果、放射線、化学物質、病原性微生物、薬剤耐性菌
【授業概要】
・地球の生態系、環境汚染から地球環境問題までを解説する
・放射線、有害化学物質の人体への影響について解説する
・病原性微生物とその感染経路について解説する
【教科書ページ・参考文献】
第６章　p139-p178
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
40分

第７回　環境保健２
【key words】
大気汚染、CO、NOx、SOx、上下水道、水質基準、産業廃棄物、食中毒、
【授業概要】
・大気汚染と環境基準及び人体への影響について解説する
・上下水道の仕組み、水質基準について解説する
・食中毒及び住居における室内空気汚染について解説する
【教科書ページ・参考文献】
第６章　p179-p220
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
40分

第８回　地域保健と保健行政
【key words】
コミュニティ、保健所、消費者保健、
【授業概要】
・地域保健の特徴及び展開を解説する
・薬害等に関して消費者保護について解説する
【教科書ページ・参考文献】
第７章　p221-p236
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。

		授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第９回	母子保健 【key words】 合計特殊出生率、死産・死亡、障害、児童虐待 【授業概要】 ・母子保健の水準について、各指標を解説する ・母子保健の課題、及び母子保健活動の歴史について解説する 【教科書ページ・参考文献】 第８章　p237-p251 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１０回	学校保健 【key words】 子どもの疾病、子どものメンタルヘルス、定期健康診断、歯科保健、保健教育 【授業概要】 ・子どもの健康状況、体力、ライフスタイルについて解説する。 ・学校保健の領域、組織・運営、について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 第９章　p253-p278 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１１回	産業保健 【key words】 産業医、労働安全衛生法、労働災害、職業病、ハラスメント 【授業概要】 ・働く人々の健康問題に関する歴史を解説する ・労働災害や職業病について解説する 【教科書ページ・参考文献】 第１０章　p279-p306 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１２回	高齢者の保健・医療・介護 【key words】 加齢、老化、健康寿命、認知症、介護保険、地域包括ケアシステム 【授業概要】 ・加齢に伴う様々な健康上の問題について解説する ・高齢者の保健と医療について解説する 【教科書ページ・参考文献】 第１１章　p307-p324 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１３回	精神保健 【key words】 ストレス、ソーシャルキャピタル、うつ病、統合失調症、精神保健福祉 【授業概要】 ・精神障害の疫学と分類について解説する ・精神保健福祉活動について解説する 【教科書ページ・参考文献】 第１２章　p325-p344 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１４回	国際保健医療 【key words】 WHO、UNICEF、FAO、SDGs 【授業概要】 ・国際保健の意義と課題について解説する ・国際機関について解説する 【教科書ページ・参考文献】 第１３章　p345-p359 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分

	第１５回　　保健医療福祉の制度と法規 【key words】 国民皆保険制度、医療法、医療提供施設、国民医療費、年金制度 【授業概要】 ・保健医療行政の概要と基礎知識について解説する 【教科書ページ・参考文献】 第１４章　p361-p383 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	基本的に教科書に沿って進めていく。スライドの内容はノートを取って、講義後に復習を行うこと。教科書の内容は多めなので、事前に該当する箇所を読んで予習をしておくこと。 受講のルール：私語、スマホの使用、その他授業の妨害行為を禁止とする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期試験（100%）
教科書	『シンプル衛生公衆衛生学』最新版　南江堂
参考書	「よくわかる公衆衛生の基本としくみ」第2版　秀和システム
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　人間関係論（産業・組織心理学）　　授業コード：S3231

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
漆畑　典子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 職場における問題や人間関係の問題、職場での支援方法についての心理学的知見を理解する。 【到達目標】 産業・組織心理学の基本的な知識・技法を理解・習得する。 自律型キャリア形成についてのプロセスを理解する。 労働法の基礎的知識を理解・習得する。
授業の概要	本講義では、職場における問題や人間関係の問題、職場での支援方法についての心理学的知見について解説する。 動機づけ（モチベーション）、リーダーシップ、人事評価、安全衛生管理とストレス、キャリア形成、組織論といった概念について学び、ワークシート、グループワーク等を通して実践的に身につける。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	△
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	授業ガイダンス　イントロダクション・産業・組織心理学とは何か 【key words】 人的資源管理，組織行動，安全衛生，消費者行動 【授業概要】 授業概要，シラバス（内容・評価法など），授業方式と注意点について理解する。 産業・組織心理学とは何かを概観する。 【教科書ページ・参考文献】 授業時に配布する資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：シラバスを読み、授業概要を把握する。 復習：配布資料は復習に用い保存する。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
	第２回	産業・組織心理学の歴史とテーマ 【key words】 科学的管理法，ホーソン研究，人間工学，人間関係論 【授業概要】 産業・組織心理学の歴史を概観し，産業・組織心理学を学ぶ意義について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p1～p13 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書該当ページを読む。 復習：配布資料は復習に用い保存する。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
	第３回	募集・採用と評価・処遇

【key words】
人事評価，職業適性検査，雇用ポートフォリオ，コンピテンシー，評価バイアス，教育訓練

【授業概要】
採用と評価の諸側面と問題点について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p15～p30
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当ページを読む。
復習：配布資料、返却された小テストは復習に用い保存する。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第４回　キャリア発達と能力開発
【key words】
キャリア，キャリア発達，キャリアアンカー，キャリアカウンセリング
【授業概要】
キャリアの概念，キャリア理論の特徴について学習し，現時点での自身のライフプランを作成する。
【教科書ページ・参考文献】
p31～p41
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当ページを読む。
復習：配布資料、返却された小テストは復習に用い保存する。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第５回　人間関係管理と職場の人間関係　Ⅰ
【key words】
ソーシャルキャピタル，ソーシャルサポート，ハラスメント，傾聴
【授業概要】
職場の人間関係を良好に保つことの重要性と方法について学び，情緒的サポートとしての傾聴をグループワークを通して体験する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p42～p54
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当ページを読む。
復習：配布資料、返却された小テストは復習に用い保存する。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第６回　人間関係管理と職場の人間関係　Ⅱ　・働くことの意味と働き方
【key words】
アサーション，アサーティブ，ノン・アサーティブ，アグレッシブ
【授業概要】
職場の人間関係を良好に保つ方法としてアサーションについて学び，ワークシート，ロールプレイを通して理解を深める。さらに，働くことの意味と働き方について考える。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p55～p65
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当ページを読む。
復習：配布資料、返却された小テストは復習に用い保存する。

【予習復習に必要な想定時間】
180分

第７回　組織行動の心理学的視点
【key words】
公式集団，非公式集団，集団凝集性，集団規範，社会的手抜き，集団浅慮，集団内コミュニケーション，組織文化
【授業概要】
集団・組織の特性や影響について学び，組織における人間行動に関する理解を深める。集団内コミュニケーションの方法としてグループワークを体験する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p67～p82
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当ページを読む。
復習：配布資料、返却された小テストは復習に用い保存する。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第８回　リーダーシップ
【key words】
リーダーシップ，マネジアル･グリッド，ＰＭ理論，コンティンジェンシー・アプローチ，変革型リーダーシップ，サーバント・リーダーシップ
【授業概要】
リーダーシップ理論の学びを通してリーダーシップについて理解し，グループワークを通して，どのようにリーダーシップが発揮されるかについて考える。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p83～p93
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当ページを読む。
復習：配布資料、返却された小テストは復習に用い保存する。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第９回　仕事へのモチベーション
【key words】

ワークモチベーション，内容理論，過程理論，目標設定理論，期待理論，内発的モチベーション
【授業概要】
ワークモチベーションとは何かを理解し，ワークモチベーションに関する理論を概観する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p94～p108
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当ページを読む。
復習：配布資料、返却された小テストは復習に用い保存する。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第１０回　組織開発
【key words】
ダイバーシティ，セクシャルハラスメント，ワールドカフェ
【授業概要】
組織開発について理解し，組織開発の手法であるワールドカフェのグループワークを体験する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書p109～p122
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当ページを読む。
復習：配布資料、返却された小テストは復習に用い保存する。

【予習復習に必要な想定時間】
180分

第１１回　仕事の疲労・ストレスと心身の健康
【key words】
ストレス，ソーシャルサポート，ストレスチェック，ワーク・ライフ・バランス，メンタルヘルス，バーンアウト，感情労働，ワークエンゲイジメント，
【授業概要】
労働者のストレスとメンタルヘルスに関する理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
教科書p141～p153
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当ページを読む。
復習：配布資料、返却された小テストは復習に用い保存する。

【予習復習に必要な想定時間】
180分

第１２回　作業と職場をデザインする
【key words】
ヒューマンファクターズ，SHELモデル
【授業概要】
仕事の能率と生産性を高めるための作業設計，作業研究について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p154～p167

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当ページを読む。
復習：配布資料、返却された小テストは復習に用い保存する。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第１３回　仕事の安全
【key words】
作業研究，ヒューマンエラー，労働災害，ハインリッヒの法則，ヒヤリハット分析，インシデント
【授業概要】
労働災害や産業事故に関わる人間の特性とその防止方策について学習し，危険予知トレーニングを汎用したグループワークを通して，作業や職場にひそむ危険性や有害性等の危険要因を発見し解決する方法について考える。

【教科書ページ・参考文献】
教科書p123～p140
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：教科書該当ページを読む。
復習：配布資料、返却された小テストは復習に用い保存する。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第１４回　産業・組織分野の制度・法律
【key words】
労働基準法，労働契約法，労働安全衛生法，男女雇用機会均等法，労働基準監督署
【授業概要】
労働法の基本的知識と，法改正の際に随時新しい情報にアクセスできる方法を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
参考文献：知って役立つ労働法　働くときに必要な基礎知識 厚生労働省
https://www.mhlw.go.jp/content/000507287.pdf

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：参考文献（厚生労働省ホームページ該当資料）を読む。
復習：配布資料、返却された小テストは復習に用い保存する。

	【予習復習に必要な想定時間】 180分 第１５回　消費者行動 【key words】 購買意思決定，認知的バイアス，期待不一致モデル，衡平モデル，認知的不協和理論，消費者の説得過程 【授業概要】 消費者の購買意思決定に関する諸側面について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p169～p213 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書該当ページを読む。 復習：配布資料、返却された小テストは復習に用い保存する。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
受講生に関わる情報および受講のルール	各章ごとに確認小テストを実施する予定である。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード・Googleフォーム・授業掲示板
授業外時間にかかわる情報	次回講義の教科書該当ページを各自で事前に読んでおくこと。
オフィスアワー	水曜日1時限目を予定している。
評価方法	授業内小テスト15%、ワークシート、ふりかえりシート、コメントカードの提出とその内容60%、授業への取り組み10%、 最終レポート15%
教科書	金井　篤子（編）　産業・組織心理学講座第１巻　産業・組織心理学を学ぶ　心理職のためのエッセンシャルズ 北大路書房　2019
参考書	講義に際に適宜指定する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 公官庁や公立学校などに勤務し、他の職員と連携、協働して職務にあたった。また、労働相談や職業相談の相談員として産業・組織分野における心理的支援を行った。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 教育社会学　　授業コード：S5011

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	学校教育コース・初等教育コース・必修／児童福祉コース・選択
担当教員			
木部　日出雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 子どもの社会化過程を中心に、具体的な教育事象について社会学の視点から考察する。 〔到達目標〕 ・子どもが家庭・学校・地域社会といった各集団を通して社会化されていく過程を具体的に把握できる。 ・各回の具体的な教育事象に興味・関心を持ち、それに即した身近な事例をとらえることができる。
授業の概要	・教育社会学の研究成果をもとに、教育と社会との相互関係を実証的・客観的に考察する。 ・親・教師・子どもの相互行為としての教育、教育に対する社会の影響、教育の社会に及ぼす影響等について考察する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション ー子どもの発達と社会化（人間の発達と社会、子どもの社会化過程の概要の把握） 【key words】 社会化、成長・発達、敏感期、発達課題 【授業概要】 講義の初めとして、教育社会学とは何かについて概要を理解し、次いで人間の発達と社会、子どもの社会化過程についてその概要を知り、今後の学習の見通しを持つ。 【教科書ページ・参考文献】 2p～18p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 子どもの社会化過程について、詳しく考察していこうとする心構えを持つ。次回に向けて教科書20p～37pを読み、自身が幼い頃に家族から受けた様々な影響について想起してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度 １時間程度
	第２回	家族集団と子どもの社会化（家族における親からの社会化、現代における家族の社会化をめぐる諸問題の考察） 【key words】 家族集団、父親不在、母親不在、しつけモデル、育児不安 【授業概要】 運命的な出会いの集団である家族において、親からの社会化について学び、現代社会において指摘される「父親不在と母親密着」「母親の就業と母親不在」「しつけモデルの喪失」「育児不安」など、社会化をめぐる諸問題について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 20ｐ～37ｐ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 現代社会における家族集団のありようが子どもの社会化に与える影響について考える。次回に向けて教科書38ｐ～52ｐを読み、自身が幼い頃仲間集団から受けた影響について想起する。 【予習復習に必要な想定時間】

		１時間程度
	第３回	仲間集団と子どもの社会化（子どもの仲間集団の特徴、その変容、変容の背景と変容がもたらす諸問題の考察） 【key words】 自発的選択性・対等性・流動性、重要な他者、一般化された他者 【授業概要】 子どもの仲間集団の特徴について理解し、仲間集団の現代的状況として「仲間集団の変容」「変容の背景」「遊びの変化」「変容がもたらす社会化の問題」について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 38ｐ～52ｐ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 仲間集団の変容と社会化の諸問題について考える。次回に向けて教科書53ｐ～66ｐを読み、自身の近隣集団とのかかわりについて想起してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第４回	近隣集団と子どもの社会化（地域社会の社会化機能と現代の弱体化傾向、その克服を目指した活動事例の考察） 【key words】 近隣集団、水平的関係、垂直的関係 【授業概要】 地域社会における社会化機能について理解し、現代社会における地域社会で「社会化機能の弱体化」の傾向と現在みられる「地域集団の子どもを対象にした活動事例」について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 53p～66p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 現在、各地域で行われている子どもを対象にした各種活動が子どもの社会化に及ぼす影響について考える。次回に向けて教科書67p～70pを読み、自身の経験した学校集団について想起してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第５回	学校集団と子どもの社会化（1）　ー学校の構造と組織ー（学校集団について教員、児童生徒の関係から考察） 【key words】 行政制度、社会制度、集団意識、組織体、校務分掌組織 【授業概要】 「学校」について「制度」「集団」「組織」の面から考察し、さらに「学校集団の構造と組織」について「教員」「児童生徒」及び「教員と児童生徒との関係」の観点から考察する。 【教科書ページ・参考文献】 67p～70p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 意図的な社会化機能をもつ「学校」についてその構造と組織を考察し、自身の体験も重ねて整理する。次回に向けて教科書71p～80pを読み、学校集団の社会化機能について考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第６回	学校集団と子どもの社会化（2）　ー学校集団の社会化機能ー（顕在カリキュラムと潜在カリキュラム等の考察） 【key words】 制度的カリキュラム、隠れたカリキュラム 【授業概要】 学校集団における子どもの社会化について、教育の対象、目的、内容、方法及び社会の成立と存続に欠かせない機能を有することを考察し、学校集団による社会化は顕在するカリキュラムによって行われるとともに潜在的なカリキュラムによっても行われることを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 71p～80p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 隠れたカリキュラムについて、具体的にどのようなものがあるか挙げてみる。次回に向けて教科書93p～106pを読み、テレビ、新聞等の子どもたちへの影響について考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第７回	マス・メディアと社会化環境（子どもの生活におけるマス・メディアの影響、その対応策について考察） 【key words】 マス･メディア、印刷メディア、電波メディア、疑似環境 【授業概要】 現代社会とマス･メディア、子どもの生活におけるマス･メディアの影響について考察し、マス･メディアへの対応について考える。 【教科書ページ・参考文献】 93p～106p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 身近なマス･メディアである新聞や雑誌、テレビ等に、自身はどのような影響を受けているか、具体的に考えてみる。次回に向けて教科書107p～122pを読み、ニューメディアにどのようなものがあるか挙げてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第８回	ニューメディアと子どもたち（ニューメディアの特徴、メディアリテラシー教育の必要性、情報化社会の諸問題の考察） 【key words】 ニューメディア、ネットワーク化、マルチメディア化、モバイル化、メディアリテラシー、情報モラル 【授業概要】 ニューメディアの特徴、様式等について理解し、情報化社会の諸問題と主な対策として「メディアリテラシー教育の必要性」「コンピュータウイルスや同犯罪に対する心構え」「情報モラル」

「個人情報の保護」について考察する。
【教科書ページ・参考文献】
107p～122p
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ニューメディアの一つ「スマホ」の活用と注意すべき点は何か具体的に考え、特に「ﾒﾃﾞｨｱﾘﾃﾗｼｰ教育の必要性」を把握する。次回に向けて124p～138ｐを読み、最近の少年非行について考えてみる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間程度

第９回　社会の変動と少年非行（逸脱行動、非行についての理解、現代の少年非行の特徴と原因について考察）
【key words】
逸脱行動、初発型非行、被害者なき犯罪
【授業概要】
逸脱行動、非行とは何かについて理解し、現代の少年非行の特徴及びその原因について資料を基に考察する。
【教科書ページ・参考文献】
124p～138p
【課題・予習・復習・授業準備指示】
逸脱行動、非行の意味について理解し、現代の少年非行の特徴、原因について考える。次回に向けて教科書139ｐ～153ｐを読み、児童虐待の報道事例等について想起してみる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間程度

第１０回　社会問題化する児童虐待（児童虐待の定義、その現状と社会問題化、児童虐待への対応の難しさについて考察）
【key words】
児童虐待防止法、児童福祉法、児童の権利に関する条約
【授業概要】
児童虐待について、その意味やどのように社会問題化してきたかについて考察する。また、児童虐待の現状を統計資料から読み取り、その対応の困難性について考える。
【教科書ページ・参考文献】
139p～153p
【課題・予習・復習・授業準備指示】
児童虐待の意味・現状を知り、その対応について考える。次回に向けて教科書154p～166pを読み、不登校・ひきこもりの報道事例等について想起してみる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間程度

第１１回　現代社会の不登校とひきこもり（不登校等の現状と推移、社会的背景、友人関係や支援の仕方等について考察）
【key words】
不登校、居場所づくり、進学・就職支援
【授業概要】
不登校の現状や推移について知り、その増加の社会的背景について考え、社会学の視点からのとらえ方、友人関係及び必要とされる支援の在り方について考察する。
【教科書ページ・参考文献】
154p～166p
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学校基本調査等の資料から不登校児童生徒の現状や推移について読み取り、その友人関係や支援の仕方について考える。次回に向けて学校生活における安全上の課題について想起してみる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間程度

第１２回　学校の安全管理・安全教育（学校安全の必要性、生活安全・交通安全・災害安全及び新たな安全上の課題についての考察）
【key words】
安全管理、安全教育、学校保健安全法
【授業概要】
生活安全、交通安全、災害安全の各領域や新たな安全上の課題について、安全管理及び安全教育の両面から具体的な取組ついて考察する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書には該当ページ無　参考書：渡邉正樹編著「学校安全と危機管理」(改訂版)大修館書店
【課題・予習・復習・授業準備指示】
危機管理を含む学校安全の目的、具体的な取組を理解する。次回に向けてコミュニティ・スクールについて調べてみる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間程度

第１３回　学校と地域の連携･協働による教育（開かれた学校づくり推進の経緯、コミュニティ・スクールについて考察）
【key words】
開かれた学校、コミュニティ・スクール
【授業概要】
地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯について理解するとともに、現在推進されているコミュニティ・スクールについて、その目的と内容、現状等について考察する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書には該当ページ無　参考文献：文部科学省資料「コミュニティ・スクール」、貝瀬　滋著「図説コミュニティ・スクール入門」一藝社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
コミュニティ・スクールについて目的、内容、現状等について理解する。次回に向けて諸外国の教育事情について見聞きしたことを想起してみる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間程度

第１４回　国際化する社会と教育（国境を越えた教育流動とアメリカ・ドイツ・中国等諸外国の教育事情に

	ついて考察） 【key words】 ミドルスクール運動（アメリカ）、課程標準（中国）、教育スタンダードの導入（ドイツ） 【授業概要】 近年の教育政策の動向及び諸外国の教育事情や教育改革の動向について考察する。諸外国としてはアメリカ、中国、ドイツ等を取り上げる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書には該当ページ無　参考文献：二宮　晧編著「新版　世界の学校」学事出版 【課題・予習・復習・授業準備指示】 民主主義国としてのアメリカ、ドイツ、社会主義国としての中国の教育事情等について理解し、関心のある他の国の様子について調べてみる。次回に向けて身近な生涯学習の事例について考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度 第１５回　生涯学習社会の展望（生涯学習の歩みと現状、学習のボーダレス化等について考察） 【key words】 生涯学習、経験知、専門知 【授業概要】 生涯学習について、社会教育→生涯教育→生涯学習と歩んできた日本の状況を学び、学習のボーダレス化について考察する。事例として「江戸川総合人生大学」等を取り上げ、日本の生涯学習の今後について考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書には該当ページ無　「江戸川総合人生大学」等の事例を示す資料配付　参考文献：岩永雅也･稲垣恭子編著「新版教育社会学」放送大学 【課題・予習・復習・授業準備指示】 私たちはなぜ学校教育を終えてからも生涯にわたって学び続けようとするのか、「生涯学習」が学びの在り方そのものを変化させてきているのではないか、ということについて考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
受講生に関わる情報および受講のルール	・教科書を必ず用意し、該当ページのポイントをしっかり理解するように努めること。 ・配付資料について積極的に読み取り、自分なりの考えを持つように努めること。なお、配付資料の予備は保管しませんので、出席者に取り置いてもらうかコピーをさせてもらうかしてください。 ・教育に関し社会問題化している報道等に幅広く関心を持ち、常に問題意識を持って受講すること。 ・授業中に生じた疑問は、コメントカードで質問したり、自分でも調べたりすること。 ・授業中携帯電話、スマートフォンの電源は切り、しまっておくこと。（特別な事情がある場合は申し出ること） ・授業中、私語は慎むこと。なお、飲食は禁止します。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・各回のテーマに即してあらかじめ新聞報道等を読み、問題意識を持って講義に臨むように努めること。
オフィスアワー	火曜　9時30分～10時10分　それ以外の時間帯については、アポイントを取って頂きたい。
評価方法	・筆記試験の成績の結果を主とする（90%） ・受講後の感想や質問内容を加味する（10%）
教科書	住田正樹・高島秀樹（編著）「変動社会と子どもの発達ー教育社会学入門」北樹出版　最新版
参考書	加野芳正・越智康詞（編著）「新しい時代の教育社会学」ミネルヴァ書房　最新版
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小・中学校教諭・校長及び教育行政官（指導主事、指導係長、学校教育課長、指導部長）として勤務した。この経験を活かし、教育学、教育社会学の理論を、学校現場等の実際の状況と関連付けて具体的に分かりやすく講ずる。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 介護技術Ⅰ　　授業コード：S5041

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位(60)	選択
担当教員			
辻　志帆			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 介護を必要としている人たちに、尊厳をもってその人らしい生活が送ることができるように、適切な支援が提供できるための、知識や技術を習得し実践できるようになることを目的とする。 【到達目標】 介護とは何か。介護の意義と役割を理解。日常生活に必要な介護技術を習得。介護における安全確保と危機管理を理解。
授業の概要	介護技術の基礎知識、介護と生活支援の関係、生活行為に関連した高齢者の生活支援に焦点をあて、介護の根拠を学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	△
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　ガイダンス　介護とは・介護技術の基礎知識① 【key words】 授業内容を理解する。　演習時の実習室の使用上の注意事項の説明 【授業概要】 授業に対する意欲を促す。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　介護とは・介護技術の基礎知識②　（生活行為に関連したこころとからだのしくみ） 【key words】 介護とは何か、日常生活を送る上で様々な場面における支援方法を理解する。 【授業概要】 介護は実践学で、介護の質は実践力が大きく影響し、介護技術も重要である。介護の理念を具体化する技術の意味や展開する姿勢を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p１～６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義・演習をもとに復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第３回　人間関係を形成する技術①　（身体機能低下が及ぼす生活への影響）

【key words】
介護の基礎知識を理解する。

【授業概要】
介護は実践学で、介護の質は実践力が大きく影響し、介護技術も重要である。介護の理念を具体化する技術の意味や展開する姿勢を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p６～１７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　人間関係を形成する技術②　（生活環境の整備）
【key words】
介護の基本であるボディメカニクスの重要性を理解する。

【授業概要】
人間の身体機能は、活動していることで機能が健康的に維持されている。生活行為の基本になっているのが、身体のボディメカニクスであることを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１１８～１２７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　人間関係を形成する技術③　（居室環境の整備・ベッドメーキング）
【key words】
居室環境の整備の必要性を理解する。

【授業概要】
快適なベッド生活を送るためには、シーツを崩れにくく、寝心地がよく、見た目も美しいベッドを作成する必要性を学ぶ。シーツのたたみ方については清潔と手早さを重視することを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１１２～１１７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　人間関係を形成する技術④　（居室環境の整備・ベッドメーキング・シーツ交換）
【key words】
居室環境の整備の必要性を理解する。

【授業概要】
快適なベッド生活を送るためには、シーツを崩れにくく、寝心地がよく、見た目も美しいベッドを作成する必要性を学ぶ。シーツのたたみ方については清潔と手早さを重視することを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１１２～１１７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　自立に向けた移動の介護①　（移動の意義と目的）
【key words】
高齢者の心身の状況を把握し、生活行為のための移動。移乗動作があるということを理解する。

【授業概要】
移動・移乗動作援助の原則を理解し、ベッド上での水平移動を学ぶ。寝返り・起き上がり動作を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１２７～１３３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　自立に向けた移動の介護②　（車いすの種類、操作の理解）
【key words】
車いすの各部の名称・車いすの種類・車いすの移乗方法を理解する。

【授業概要】
車いすの各部の名称や車いすの種類、車いすの移乗方法を学ぶ。車いすの操作に慣れる。段差の上がり方、降り方を学ぶ。砂利道や急な坂道の場合の介助方法を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p１３４～１３８
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　自立に向けた移動の介護③　（車いすの種類、操作の理解）
【key words】
車いすの移乗方法を理解する。
【授業概要】
車いすの各部の名称や車いすの種類、車いすの移乗方法を学ぶ。車いすの操作に慣れる。段差の上がり方、降り方を学ぶ。砂利道や急な坂道の場合の介助方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１３４～１４０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　自立に向けた移動の介護④　（歩行の介助）
【key words】
杖歩行の動作歩行を理解する。
【授業概要】
杖歩行の方法を学ぶ。階段の昇降、障害物をまたぐ方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１４１～１４４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　自立に向けた移動の介護⑤　（安楽な姿勢、良肢位の理解）
【key words】
安楽な姿勢の重要性と保持の援助方法を理解する。

【授業概要】
安楽な姿勢の保持の原則を学ぶ。転倒予防の重要性を学ぶ。視覚障害者への介助の留意点を学ぶ。認知症の人への移動介助の方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１４５～１５０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　自立に向けた入浴・清潔保持の介護①
【key words】
前期実技試験の課題を理解する。

【授業概要】
グループ別に練習をする。
【教科書ページ・参考文献】
次回は入浴介助を実施するので、タオル1本、バスタオル1枚必ず持ってくるよう伝える。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　自立に向けた入浴・清潔保持の介護②
【key words】
安全・安心で的確な入浴介助方法を理解する。

【授業概要】
入浴の意義や目的を学ぶ。入浴に関するアセスメントのポイント、安全で的確な入浴の援助方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１７７～１８２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１４回　自立に向けた入浴・清潔保持の介護③
【key words】
特殊浴槽の場合の援助方法と一般浴の場合の援助方法を理解する。

【授業概要】
特殊浴槽と一般浴の介助方法を学ぶ。入浴後は、体調確認をし、水分補給をする。皮膚には、保湿剤を塗布し、乾燥を防ぐ。爪の手入れを行う。必要があれば福祉用具の活用もする。
【教科書ページ・参考文献】

p１７７～１８２

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１５回　前期のまとめ
【key words】
前期の振り返り

【授業概要】
前期の振り返りをする。前期実技試験の練習をする。
【教科書ページ・参考文献】
次回は清拭をするので、タオル1本とバスタオル1枚必ず持ってくることを伝える。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１６回　自立に向けた入浴・清潔保持の介護③
【key words】
清拭の方法を学ぶ。

【授業概要】
全身清拭と部分清拭の仕方を学ぶ。足浴を実施する。
【教科書ページ・参考文献】
p１８２～１８６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１７回　自立に向けた身じたくの介護①
【key words】
整容行動、衣生活を調整する。介護の工夫の必要性を理解する。

【授業概要】
身だしなみの意義、目的を学ぶ。高齢者の特徴を学ぶ。衣服の脱健着患を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１８７～１９７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１８回　自立に向けた身じたくの介護①
【key words】
衣服の着脱の基本は、脱健患脱である。基本にそって実施する。

【授業概要】
衣服の選択方法や着脱の留意点をよく把握し、着替えを実施する。感覚低下の人の場合、介助の留意点を考慮し、介助をする。様々な障害の場合を想定し、各グループで練習をする。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ１８７～１９７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１９回　自立に向けた排泄の介護①
【key words】
人間が生命を維持する上で必要不可欠な生理現象の１つであり、本人のプライドを傷つけないで行う介助であることを理解する。

【授業概要】
個々の身体状況により、適切な排泄介助内容を選んで提供する。そのための基本的な知識や技術を学ぶ。ポータブルトイレの支援方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ１６０～１７６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２０回　自立に向けた排泄の介護②
【key words】
人間が生命を維持する上で必要不可欠な生理現象の１つであり、本人のプライドを傷つけないで

行う介助であることを理解する。
【授業概要】
個々の身体状況により、適切な排泄介助内容を選んで提供する。そのための基本的な知識や技術を学ぶ。差し込み便器の介助方法を学ぶ。オムツの当て方を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ１６０～１７６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２１回　自立に向けた排泄の介護③
【key words】
人間が生命を維持する上で必要不可欠な生理現象の１つであり、本人のプライドを傷つけないで行う介助であることを理解する。
【授業概要】
個々の身体状況により、適切な排泄介助内容を選んで提供する。そのための基本的な知識や技術を学ぶ。オムツ交換を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ１６０～１７６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２２回　睡眠の介護①
【key words】
睡眠環境を整える支援の留意点を把握する。不眠状態にある人への援助方法を理解する。

【授業概要】
睡眠に関するアセスメントのポイントや安眠を促す介助の方法、不眠状態にある人への援助等々を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ１９８～２０２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２３回　自立に向けた食事の介護①
【key words】
食事の意義や身体を健康に保持することの重要性を理解する。

【授業概要】
食品の栄養素・調理方法を学ぶ。身体構造も理解し、咀嚼・嚥下のメカニズムを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１５１～１５９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２４回　自立に向けた食事の介護①
【key words】
食事の意義や身体を健康に保持することの重要性を理解する。

【授業概要】
食事の重要性を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１５１～１５９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２５回　総合生活支援技術①
【key words】
後期実技試験の課題を理解する。

【授業概要】
グループ別に練習をする。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習、練習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２６回　総合生活支援技術①
【key words】
後期実技試験の課題を理解する。
【授業概要】
グループ別に練習をする。
【教科書ページ・参考文献】

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義・演習をもとに復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２７回　家政的管理技術 【key words】 家政的管理方法を理解する。 【授業概要】 人間の精神的、身体的、技術的、社会的営みであり、その基本には、配慮と管理の働きが存在していることを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p２９７～３１８ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義・演習をもとに復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２８回　家政的管理技術 【key words】 家政的管理方法を理解する。 【授業概要】 人間の精神的、身体的、技術的、社会的営みであり、その基本には、配慮と管理の働きが存在していることを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p２９７～３１８ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義・演習をもとに復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２９回　学生の振り返り（介護の考え方、介護を適切に行う能力と姿勢とは何か） 【key words】 1年間の振りかえり　・　後期の実技試験の練習 【授業概要】 1年間の振り返り、技試験の練習・実施をする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義・演習をもとに復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第３０回　まとめ（総括） 【key words】 1年間の振りかえり　・　後期の実技試験の練習 【授業概要】 実技試験の練習・実施をする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義・演習をもとに復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	講義中の迷惑な行為、私語、携帯電話の使用は厳禁。演習時の教材の準備、後片付けは各グループで協力して行う。 教材は大切に使用し、整理・整頓を心掛ける。 演習時は学校指定のジャージを着用すること。イヤリング、ネックレス、腕時計はつけないこと。長い髪は束ねること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	介護は幅広い多面的な知識と人との関わりが重要である。授業だけではなく実習やボランティア等で学んだことを活かし、総合的な視点で利用者を支援することが大切である。
オフィスアワー	初回の授業時、周知する。
評価方法	授業態度：20%、筆記試験・実技試験：80%
教科書	新　大学社会福祉・介護福祉講座　介護技術論
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	介護施設にて介護実務の経験あり。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 教職概論　　授業コード：S5061

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	学校教育コース・初等教育コース・必修／児童福祉コース・選択
担当教員			
木部　日出雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 「教職の意義及び教員の役割」や「教員の職務内容」について考察し、理解する 〔到達目標〕 ・教職の専門性及び教師に求められる資質・能力について理解できる。 ・各回の学校教育に関する事象に関心を持ち、具体的な事例をあげることができる。 ・自分自身の理想的な教師像についてイメージすることができる。
授業の概要	・学校教育の概要について学習し、教員の使命や服務義務について理解する。 ・日本の近代教育の成立から今日までの変遷をたどり、教育の今日的課題について考察する。 ・これからの時代に求められる教師像について考察し、自分自身の考えをもつ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション ー教師とは何か （教師の役割、資質能力、優れた教師等についての考察） 【key words】 教師、教員、教職員、教諭、資質能力 【授業概要】 科目の位置づけとシラバスの説明　「教師」という言葉の意味・概念、教師に求められる役割、優れた教師の条件、教師の資質能力について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 16p～29p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自身の理想的な教師像をイメージできるような心構えを持つ。次回に向けて教科書66p～99pを読み、自身の受けた学習指導の状況を想起してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第２回	学習指導（1）ーカリキュラムを作成する（教師の仕事の中核をなす学習指導、基盤となるカリキュラムの編成の考察） 【key words】 カリキュラム、教育課程の編成・管理、学習指導要領の改訂 【授業概要】 教師の仕事の中核をなす学習指導とその基盤であるカリキュラムの編成について、カリキュラムと学校の教育課程、学習指導要領及びその改訂の観点から考察する。 【教科書ページ・参考文献】

		66p～99p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実際の学校の教育課程をみてカリキュラムについて具体的に理解し、その基盤である学習指導要領とその改訂の変遷について理解する。次回に向けて教科書100p～116pを読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第３回	学習指導（2）ー授業力をつける（学力の現状と授業力が問われる背景、授業力の要素等についての考察） 【key words】 学力、授業力の要素、教材解釈、教材開発、授業評価 【授業概要】 教師の資質能力と専門性に負うところの大きい「良い授業をつくる力」について、子どもの学力の現状、授業力が問われる背景、授業力の要素、授業力をつけるという観点から考察する。 【教科書ページ・参考文献】 100p～116p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業力について、模擬授業を想定して具体的に理解し、自身の改善点について考える意欲を持つ。次回に向けて教科書32p～56pを読み、生徒指導上の課題について考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第４回	生徒指導ー子どもの心理と行動（児童生徒理解に必要な発達段階に応じた心理状態や行動様式の考察） 【key words】 発達課題、適応、不適応、生徒理解、問題行動、規範意識 【授業概要】 児童生徒を理解する上で必要な発達段階に応じた心理状態や行動様式について、学校生活における適応、不適応、生徒理解、問題行動の現状等の観点から考察し、問題行動に対する指導の在り方について考える。 【教科書ページ・参考文献】 32p～56p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 生徒指導の基盤である生徒理解について、その視点や方法を具体的に理解する。次回に向けて教科書56p～64pを読み、自身の経験した学級集団について想起してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第５回	学級の経営ー集団で指導する（学級担任の学級集団づくりを学級活動との関連で経営的側面から考察） 【key words】 学級経営、学級活動、学級集団 【授業概要】 教師が学級担任として直面する学級集団づくりについて、学級担任の仕事、学級経営と学級活動、学級活動と学級集団づくりといった観点から考察し、学級経営における生徒指導の在り方について考える。 【教科書ページ・参考文献】 56p～64p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学級集団づくりは、児童生徒一人一人の人間的成長に関わる教師の重要な仕事であることを理解する。次回に向けて教科書152p～158p、167p～173pを読み、自身が経験した教師の様子を想起してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第６回	学校の組織（校務分掌、職員会議、運営委員会等の組織・機能を理解し、学校運営への参画について考察） 【key words】 校務分掌、職員会議、企画調整会議（運営委員会）、教育環境の醸成、学校組織機能の向上 【授業概要】 現在の学校の組織・構造について、校務分掌、職員会議、企画調整会議、学校運営への参画といった観点から具体的に考察する。 【教科書ページ・参考文献】 152p～158p、167p～173p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学校組織と構成員の役割について知り、教師がチームを組んで学校運営に当たっていることを理解する。次回に向けて教科書158p～167pを読み、組織体としての学校について考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第７回	学校の運営（学校は教育目標の具現化を目指し、常にP-D-C-Aｻｲｸﾙによって運営を改善） 【key words】 学校の教育目標、学校経営計画、学校評価、自己申告制度、人事考課制度 【授業概要】

		学校は、全教育活動を通じて学校の教育目標の具現化を目指し、学校経営計画を立案し、P-D-C-Aサイクルによって内部評価、外部評価を行い、学校運営の改善を図っている。教職員は自己目標の設定と自己評価等によって学校運営に協力することが重要であることを考察する。 【教科書ページ・参考文献】 158p～167p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「学校は組織体であり、教員は学校組織の一員である」ということの意味について具体的に理解する。次回に向けて教科書118p～132pを読み、教員の養成について考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第８回	教員の養成と任用（教員の養成、専門職性の向上、任用等は、国・地方公共団体が法令に基づき実施） 【key words】 県費負担教職員制度、教育委員会制度、教員免許状、教員免許更新制 【授業概要】 国や地方公共団体が法令に基づいて教育政策や施策を決定・実施していることを教育行政の仕組みを通して考察し、教員の養成、教職の専門職性、教員の資格、教員免許状、教員免許更新制及び任用について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 118p～132p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教員になるための条件、専門職性や資格の取得、任用の在り方について理解を深める。次回に向けて教科書132p～138pを読み、教員研修にはどのようなものがあるか知っておく。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第９回	教師の資質向上と研修（教員の力量形成、職能成長等を図るための様々な研修について考察） 【key words】 学校管理職研修、教職経験者研修、初任者研修、職務研修、校内研修 【授業概要】 教員は、それぞれの職能、専門分野、能力、適性、興味・関心等に応じて、常に資質能力を向上させる必要があり、そのため「絶えず研究と修養に努めなければならない」と規定されている。このことを教師の資質能力のとらえ方、力量形成と研修、職能成長と研修、研修の種類といった観点から考察する。 【教科書ページ・参考文献】 132p～138p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教育公務員と地方公務員の研修についての規定の違いについて理解する。次回に向けて教科書138p～150pを読み、教員の服務義務等の規定について知っておく。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第１０回	教員の服務制度と勤務条件（教育公務員の採用と任免、身分上・職務上の義務、勤務条件等を考察） 【key words】 任免、服務義務、分限、懲戒、時間外勤務 【授業概要】 公立学校教員の採用と任免、服務義務、身分保障と分限・懲戒、勤務条件といった点について考察し、身分上も職務上も厳しい基準が設けられているが、それによって教員としての身分が守られていることを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 138p～150p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 服務義務の学習では、法令で示されている義務・禁止・制限について具体的事例を通して理解する。次回に向けて教科書152p～155p、234p～239pを読み、戦前期の教師像について考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第１１回	時代の流れと教師像の変遷（1）ー戦前期の学校教育と教師像（明治期～大正・昭和期まで） 【key words】 寺子屋、学制、被仰出書、森有礼、聖職教師像、国民教育、沢柳政太郎 【授業概要】 様々な歴史性を帯びて存在する教師像について、近代学校成立以前の教師、近代学校成立と教師、定型的教師像の誕生、ファシズム期の教師像という観点から戦前期における教師像について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 152p～155p、234p～239p　　参考文献：秋田喜代美・佐藤　学編著「新しい時代の教職入門」有斐閣アルマ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 江戸・明治期から第二次世界大戦までの間、教師像はどのように変遷してきたかについて理解する。次回に向けて教科書240p～256pを読み、戦後の教師像の変化を考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第１２回	時代の流れと教師像の変遷（2）ー戦後教育改革と教育の普及（戦争直後～現在と今後）

	【key words】 教育使節団、日本国憲法、教育基本法、学習指導要領、中央教育審議会、臨時教育審議会 【授業概要】 戦後、教育法制、学校制度等の改革、第三の教育改革といった教育改革が進められる中で、教師像はどのように変遷してきたかについて考察する。 【教科書ページ・参考文献】 240p～256p　　参考文献：秋田喜代美・佐藤　学編著「新しい時代の教職入門」有斐閣アルマ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 戦後の教育改革の流れとその中における教師像の変化についてとらえる。次回に向けて教科書176p～187pを読み、道徳教育の変化について考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第１３回　教育の今日的課題（1）ー道徳教育の充実（「特別の教科 道徳」について、その概要と要請の背景について考察） 【key words】 道徳教育、「特別の教科　道徳」 【授業概要】 教育の今日的課題の一つである道徳教育、特に「特別の教科　道徳」について、中教審答申及び学習指導要領（一部改正）を基に、その概要とそれが要請された背景について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 176p～187p　　配付資料：平成26年中教審答申、平成27年「学習指導要領解説　道徳編」等（抜粋） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学校の全教育活動を通じて行う道徳教育と「特別の教科　道徳」の目標、内容の概要を理解した上で、なぜそれが教育の今日的課題なのかについて考える。次回に向けて小学校の外国語教育に関する資料を探してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第１４回　教育の今日的課題（2）ー小学校の外国語教育（これまでの成果と課題、目標の改善、概要等） 【key words】 コミュニケーション能力 【授業概要】 学習指導要領改訂の中で大きな変化の一つである小学校における外国語教育について取り上げ、これまでの成果と課題、目標の改善等について理解し、今後の方向性について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書に該当ページ無　配付資料：平成28年12月中教審答申、平成29年3月改訂学習指導要領、同年７月初等教育資料（抜粋） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 小学校における外国語教育が改訂されたポイントと理由について考える。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第１５回　教育の今日的課題（3）ーチーム学校運営への対応（チーム学校運営の事例、今後の方向性等） 【key words】 学校組織マネジメント 【授業概要】 学校は、校長のリーダーシップの下、カリキュラム、日々の教育活動、学校の教育資源が一体的にマネジメントされ、教職員のほか多様な人材が専門性を生かし、能力を発揮して、子どもたちに必要な資質能力を確実に身に付けさせることができる「チームとしての学校」になることが求められていることを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書に該当ページ無　　配付資料：文科省「チーム学校運営の推進等に関する法律案概要」「チームとしての学校の在り方（要約）」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学校を取り巻く環境の変化に伴って、学校運営の在り方にも変化が求められている。こうした中で、これからの教師はどうあるべきか、教職に就く心構えについて考える。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
受講生に関わる情報および受講のルール	・教科書を必ず用意し、該当ページのポイントをしっかり理解するように努めること。 ・配付資料の予備は保管しませんので、出席者に取り置いてもらうかコピーをさせてもらうかしてください。 ・配付資料について積極的に読み取り、自分なりの考えを持つように努めること。 ・授業中に生じた疑問は、コメントカードで質問したり、自分でも調べたりすること。 ・授業中携帯電話､スマートフォンの電源は切り、しまっておくこと。（特別な事情がある場合は申し出ること） ・私語は慎むこと。授業中の飲食は禁止します。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・新聞報道等の教師に関する記事などに関心を持ち、各回のテーマに即して問題意識を持って講義に臨むように努めること。毎回、次回の授業に該当する教科書のページを読み、予習しておくこと。
オフィスアワー	火曜　9時30分～10時10分　それ以外の時間帯については、アポイントを取って頂きたい。
評価方法	・筆記試験の成績の結果を主とする（90%）

	・受講後の感想や質問の内容を加味する（10%）
教科書	佐藤　徹（編著）「教職論ー教職に就くための基礎・基本ー」東海大学出版　最新版
参考書	秋田喜代美・佐藤　学（編著）「新しい時代の教職入門」有斐閣アルマ　最新版
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小・中学校教諭・校長及び教育行政官（指導主事、指導係長、学校教育課長、指導部長）として勤務した。この経験を活かし、教育学、教育社会学の理論を、学校現場等の実際の状況と関連付けて具体的に分かりやすく講ずる。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 福祉科教育法　　授業コード： S5071

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	学校教育コース・選択
担当教員			
大竹　勤			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 高等学校教科「福祉」の教育法について学び、いかに授業を構成していくべきかを考察し、模擬授業を通して、教育実習に向けた実践力を身につける。 【到達目標】 １．高校生が教科「福祉」を学ぶ意義を理解する。 ２．興味をもって学べるような授業を目指して、教科「福祉」の指導内容とその取扱いについて理解する。　３．「福祉」を考える教員として必要な資質を育む。
授業の概要	「福祉科教育法」では、高校生に対し「福祉」についていかに理解させるかといった教育実践上の視点、留意点、その教育方法と教材の仕方に関して学ぶ科目である。しかしながら、自分自身も社会福祉の基礎知識を体系的に理解するのと同じような考え方が根底になければならない。この授業では、教科「福祉」の指導法を学ぶことの意義･役割について学ぶことを目的とするとともに、今日の社会福祉の動向を的確に把握し、何を生徒に伝えるべきかを考える授業とする。 １．福祉科教育の意義と福祉科教員の役割 ２．新学習指導要領に基づく教科「福祉」の指導内容とその取扱 ３．学習指導案の作成と模擬授業の実施

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	△
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション 自分のことを知ってもらう（プロフィール票の作成･提出） 【key words】 自分を知ってもらう 【授業概要】 授業計画について説明する　予習・復習について説明する　評価方法について説明する。 教員としても福祉援助者としても必要なコミュニケーション能力の第一歩である「自分のことを知ってもらう」ことについて考える。 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業時に配付するプロフィール票の作成 自分を知ってもらうための印象に残る自己紹介を考える 【予習復習に必要な想定時間】 0.5時間
	第２回	障害者の理解、DVD 視聴（ 障害者の自立について）　（感想文を提出） 【key words】 障害者の自立　筋ジストロフィー　難病 【授業概要】 社会福祉の援助の対象となる方への正しい理解は、福祉援助者としても、また援助者を養成する

福祉科教員としても身につけるべき資質である。このことについて考察する。援助支援の対象となるハンディキャップを持った方の自立への意識を映像を通して知る
専門職者としての役割をレポートにまとめる

【教科書ページ・参考文献】
資料配付
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自身の障害者観について考えてみる　筋ジストロフィーという病気についてあらかじめ調べておく
【予習復習に必要な想定時間】
0.5時間

第３回　対人援助技術の原則（コミュニケーション技術）
【key words】
ソーシャルワーカー　バイスティック

【授業概要】
場面にあわせた援助の原理原則についてバイスティックの７原則をもとに考察する
【教科書ページ・参考文献】
バイスティックの７原則に関する資料を配付する

【課題・予習・復習・授業準備指示】
バイスティックについて事前に調べておくこと（予習）原理原則をまとめる（復習）
ソーシャルワーカーとしての原理原則がボランティアや実習の場面でどのように役立つのかを実践の場で確認する

【予習復習に必要な想定時間】
1.0時間

第４回　コミュニケーションスキルを磨く･演習とビデオ視聴（コミュニケーション技術）
【key words】
コミュニケーションスキル　ア行トーク　サイレントトーク

【授業概要】
援助のテクニック・スキル・マインドについて、演習及び映像を通して学ぶ
映像を見て、援助場面でどのように役立てられるかレポートにまとめる

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業中に行うア行トーク・サイレントトークを復習してみよう
【予習復習に必要な想定時間】
0.5時間

第５回　伝達について（コミュニケーション技術）
【key words】
図形伝達　言語コミュニケーション　非言語コミュニケーション　コミュニケーション手段
【授業概要】
図形を言語コミュニケーションのみで伝達し、その難しさを体験する

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
話す側・聴く側の態度についても学ぶ
【予習復習に必要な想定時間】
0.5時間

第６回　信頼関係を結ぶ面接技術とは
【key words】
面接技術　ラポール　信頼関係

【授業概要】
信頼関係を結ぶ面接技術について映像を通して学ぶ

【教科書ページ・参考文献】
資料配付
【課題・予習・復習・授業準備指示】
普段の生活における自分の言動行動について考える
【予習復習に必要な想定時間】
0.5時間

第７回　コンセンサス（合意）について（コミュニケーション技術）
【key words】
コンセンサス
【授業概要】
グループ演習を通して、コンセンサス（合意すること）の難しさと重要性について学ぶ
演習を通して学んだことをレポートにまとめる

【教科書ページ・参考文献】
演習（ゲーム）の資料を配付する

【課題・予習・復習・授業準備指示】
他者の意見もしっかりと聴けるような習慣を身につける

【予習復習に必要な想定時間】
0.5時間

	第８回	家族について考える　DVD 視聴 【key words】 エンディングノート　終末医療　終末介護　家族　社会保障 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備】 家族についてあらためて考えてみよう 【授業概要】 映像を見て家族について考える 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 家族について考えてみよう 【予習復習に必要な想定時間】 0.5時間
	第９回	人の一生と社会福祉 家族援助事例検討 【key words】 相談援助　社会福祉　児童福祉　老人福祉　障害者福祉　生活保護 【授業概要】 事例をもとに援助の実際について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 身近でおきている問題について考えてみよう 福祉サービスの利用方法について調べる 【予習復習に必要な想定時間】 1.0時間
	第１０回	社会福祉制度（身近な問題から） 【key words】 相談援助　社会福祉　児童福祉　老人福祉　障害者福祉　生活保護 【授業概要】 事例をもとに援助の実際について学び、わが国の社会福祉制度について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 身近でおきている問題について考えてみよう 福祉サービスの利用方法について調べる 【予習復習に必要な想定時間】 1.0時間
	第１１回	正しい敬語の使い方（教師としての正しい言葉使い） 【key words】 尊敬語　謙譲語　丁寧語　若者用語 【授業概要】 教師として身につけるべき必要な敬語の使い方について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日常会話の中で間違った敬語を使用していないか考えてみよう 【予習復習に必要な想定時間】 0.5時間
	第１２回	学習指導要領（福祉）　教科「福祉」９科目の指導内容 【key words】 【keywords】 福祉教育　福祉体験学習　総合的な学習の時間 【授業概要】 【授業概要】 福祉教育の意義と必要性について学習指導要領をもとに考える 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 自分が小中高で経験した福祉体験学習についてまとめてみよう 【予習復習に必要な想定時間】 1.0時間
	第１３回	学習指導要領（課外活動）　部活動指導の現状 【key words】 【keywords】 部活動　体罰問題　課外活動 【授業概要】

【授業概要】
課外活動の意義と必要性について学習指導要領をもとに考える
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
自分が小中高で経験した課外活動についてまとめてみよう
【予習復習に必要な想定時間】
0.5時間

第１４回　学習指導要領（道徳教育）　人種問題・障害者問題 等
【key words】
【keywords】
道徳教育　福祉教育　総合的な学習の時間

【授業概要】
【授業概要】
道徳教育の意義と必要性について学習指導要領をもとに考える

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
自分が小中高で経験した道徳教育についてまとめてみよう
【予習復習に必要な想定時間】
0.5時間

第１５回　福祉科教育法(教科書・学習ノート・参考図書)注文
【key words】
【keywords】
社会福祉基礎　模擬授業　学習指導案

【授業概要】
【授業概要】
高校福祉教科書「社会福祉基礎」をもとに、模擬授業について考える

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
模擬授業で担当する単元を決定する
【予習復習に必要な想定時間】
1.0時間

第１６回　模擬授業について　指導案の書き方、担当決め等（模擬授業の回数･内容等は受講者数によって変更があります)
【key words】
【keywords】
社会福祉基礎　模擬授業　学習指導案

【授業概要】
【授業概要】
高校福祉教科書「社会福祉基礎」をもとに、担当する単元を決定し、模擬授業の指導案を作成してみる

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
模擬授業で担当する単元を決定する
【予習復習に必要な想定時間】
1.0時間

第１７回　学習指導案の作成
【key words】
【keywords】
社会福祉基礎　模擬授業　学習指導案

【授業概要】
【授業概要】
模擬授業を想定し、学習指導案を作成してみる

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
必要な資料収集の方法について考える

【予習復習に必要な想定時間】
1.5時間

第１８回　模擬授業① 少子化時代の子ども子育て支援
【key words】
【keywords】
社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ
【授業概要】
【授業概要】
学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
学習指導案提出（全受講生）
【予習復習に必要な想定時間】
2.0時間

第１９回　模擬授業② 子育て支援と保育
【key words】
【keywords】
社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ
【授業概要】
【授業概要】
学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
学習指導案提出（全受講生）
【予習復習に必要な想定時間】
2.0時間

第２０回　模擬授業③ 障害のある子どもの福祉
【key words】
【keywords】
社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ

【授業概要】
【授業概要】
学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
学習指導案提出（全受講生）
【予習復習に必要な想定時間】
2.0時間

第２１回　模擬授業④ 子どものすこやかな成長への支援
【key words】
【keywords】
社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ

【授業概要】
【授業概要】
学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
学習指導案提出（全受講生）
【予習復習に必要な想定時間】
2.0時間

第２２回　模擬授業⑤ 市町村と児童相談所の役割
【key words】
【keywords】
社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ

【授業概要】
【授業概要】
学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
学習指導案提出（全受講生）
【予習復習に必要な想定時間】
2.0時間

第２３回　模擬授業⑥ 社会的養護と児童虐待への対応
【key words】
【keywords】
社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ

【授業概要】
【授業概要】
学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
学習指導案提出（全受講生）
【予習復習に必要な想定時間】
2.0時間

第２４回　模擬授業⑦ 障害者福祉とは・身体障害者の現状と課題
【key words】
【keywords】
社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ

【授業概要】
【授業概要】
学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
学習指導案提出（全受講生）
【予習復習に必要な想定時間】
2.0時間

第２５回　模擬授業⑧ 身体障害者福祉の推進・障害者の生活支援
【key words】
【keywords】
社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ

【授業概要】
【授業概要】
学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
学習指導案提出（全受講生）
【予習復習に必要な想定時間】
2.0時間

第２６回　模擬授業⑨ 知的障害者の現状と課題・知的障害者の在宅支援と施設の役割
【key words】
【keywords】
社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ

【授業概要】
【授業概要】
学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
学習指導案提出（全受講生）
【予習復習に必要な想定時間】
2.0時間

第２７回　模擬授業⑩ 人口の高齢化と高齢者福祉・高齢者の健康保持と社会参加
【key words】

	【keywords】 社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ 【授業概要】 【授業概要】 学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 学習指導案提出（全受講生） 【予習復習に必要な想定時間】 2.0時間 第２８回　模擬授業⑪ 介護保険制度（１）介護保険制度（２） 【key words】 【keywords】 社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ 【授業概要】 【授業概要】 学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 学習指導案提出（全受講生） 【予習復習に必要な想定時間】 2.0時間 第２９回　模擬授業⑫ 高齢者の在宅サービス（１）・高齢者の在宅サービス（２） 【key words】 【keywords】 社会福祉基礎　模擬授業　めやす　導入　展開　まとめ 【授業概要】 【授業概要】 学生による模擬授業　授業後に他の学生からの意見を聞く 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 学習指導案提出（全受講生） 【予習復習に必要な想定時間】 2.0時間 第３０回　まとめ 【key words】 【keywords】 大村はま 【授業概要】 【授業概要】 教えるということについて考える 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 【予習復習に必要な想定時間】 0.5時間
受講生に関わる情報および受講のルール	「福祉科教育法」は、模擬授業を中心とした実践的な科目となる。高校福祉科の社会福祉に関する専門教科の科目ではなく、教科教育法に関する科目である以上、社会福祉の制度や歴史そのものを理解するというより、その理解のさせ方に関する教育実践上の視点、留意点、その教育方法に関して学ぶ科目であるが、社会福祉の基礎知識を体系的に理解するのと同じような考え方が根底になければならない。福祉科教育法履修の前後に相談援助演習･介護技術等の科目も併せて履修すること。 ※対面授業とオンライン授業の関係で、状況に応じて授業の順番を入れ替えるなどの変更があり得ます。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	コメントカードにはその日の授業を振り返り、まとめを記入すること。 模擬授業の際には、自分の担当ではない場合も学習指導案を毎回提出すること。

オフィスアワー	火曜日10時～12時
評価方法	提出レポート（ 50%）と学習指導案及び模擬授業（ 50%）により評価する。
教科書	社会福祉基礎（ 実教出版）　（購入方法について詳しくは授業中に説明する）。
参考書	介護福祉基礎（実教出版）、コミュニケーション技術（実教出版）、生活支援技術　（実教出版）、介護過程（実教出版）、こころとからだの理解（実教出版）、社会福祉基礎学習ノート（実教出版）、介護福祉基礎学習ノート（実教出版）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 教育方法論　　授業コード： S5121

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	学校教育コース・必修
担当教員			
関本　仁			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ・教育の方法について探求する。 ・教育のよりよい在り方を実践的に探る。 【到達目標】 ・教育方法についての学びを深め、教師としての実践に生かすことができるようになる。 ・教育方法に関する基礎的概念を習得することができる。 ・発表や討論を経験することにより、表現力をきたえるとともに他者の考えを知り、豊かな発想につなげることができる。
授業の概要	教育方法の意義と内容を学習・研究し、実践に役立てる。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	△
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	・オリエンテーション（講義方法、内容と評価）・授業について（教室と学び） 【key words】 講義方法と内容、評価、授業（教育と学び） 【授業概要】 ・講義の受け方等、授業のスタートにあたっての留意事項の確認 ・教育者としての自覚（教育の方法、佐藤学より） 【教科書ページ・参考文献】 授業で配布した資料・テキスト「新しい時代の教育方法」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教室の風景、坊ちゃん（私の教師像記述プリント）、自己アピール（記述）、フィンランドの教育、学級を経営する（子どもと一緒につくる）を熟読する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２回	・変化する教室というところ（転換する学校・世界と日本の教室・21世紀の教室） 【key words】 転換する学校、世界と日本の教育、21世紀の教室 【授業概要】 ・変貌する教室について考察する。 ・「坊ちゃん」から教師像をさぐる。 ・発表第1回、「教育事情」 【アクティブラーニングについて】 教育事情について発表と討論を評価する。 【教科書ページ・参考文献】 授業で配布した資料・テキスト 【課題・予習・復習・授業準備指示】 フィンランドの教育の変化、pisa2015調査を熟読する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分

	第３回	・授業の形（考えるという行為の意味） 【key words】 教える、模倣的様式、変容的様式、コメニウス、ソクラテス、メノン 【授業概要】 ・教えるという行為の2つの意味について考察する。 ・具体的に模倣的様式と変容的様式から考え、日本の学校文化を見る。 ・教育事情の発表、討論、評価を行う。 【アクティブラーニングについて】 教育事情について発表、討論、評価を行う。 【教科書ページ・参考文献】 授業で配布した資料・テキスト 【課題・予習・復習・授業準備指示】 私が薦めるこの1冊「高校生ワーキングプア」（NHK）「明治乙女物語」（文春） 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第４回	・授業の歴史(日本)（近代学校と授業の成立・新教育の展開と学びの改革・戦後新教育と授業の改革） 【key words】 一斉教授法、森有礼、聖職者教師像、国民教育、教師専門職論 【授業概要】 ・教師はその時代において歴史性を背負いながら存在している。 ・現代の教師はどのような時代性をもって教育に当たっているのかを考察する。 ・教育事情の発表 【アクティブラーニングについて】 教育事情の発表、考察、討論、評価する。 【教科書ページ・参考文献】 授業で配布した資料・テキストP179－199 【課題・予習・復習・授業準備指示】 哲学について、時代の中の教師を熟読する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第５回	・教育の技術（教育技術の特質とは・集団づくりの意義と方法） 【key words】 近代学校、学制、被仰出書、新教育、戦後新教育、アメリカ教育使節団、試案、齊藤喜博、島小教育 【授業概要】 ・近代学校と授業の成立、新教育の展開と学びの改革、戦後新教育と授業の改革について考察する。 ・教育事情の発表、考察、討論、評価を行う。 【アクティブラーニングについて】 教育事情の発表、考察、討論、評価を行う。 【教科書ページ・参考文献】 授業で配布した資料・テキスト 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布された資料を熟読する。学事奨励に関する被仰出書を熟読して理解する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第６回	・授業のデザイン（授業の組織・授業の構造・授業をデザインし創造する） 【key words】 教育技術、普遍性と個別性、集団づくり 【授業概要】 ・教育における技能と技術、普遍性と個別性、教育技術の創造性を考察する。 ・集団づくりの意義と方法について教育的意義を考える。 ・教育事情の発表 【アクティブラーニングについて】 教育事情の発表、考察、討論、評価する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・テキスト 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教育方法の歴史を熟読する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第７回	・授業をデザインして創造する（授業の主題・授業の省察と反省） 【key words】 授業の組織、授業の構造、教育をデザインし創造する。 【授業概要】 ・授業をデザインするためにその組織（授業づくりの過程）、構造（教師の活動）、創造（授業のデザインと実践のプロセス）から考察する。 ・教育事情の発表 【アクティブラーニングについて】 教育事情の発表、考察、討論、評価を行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・テキスト

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育方法の歴史（近代以前、近代以後）を熟読する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第８回　・学習指導案の意義と作成手順　・授業（教育）目標づくりとは（構造・種類と性格）
【key words】
デザイン、主題、過程の組織、個への対応、個と個のすり合わせ、省察と反省
【授業概要】
・教師はカリキュラムの単元の内容と、生徒の興味や関心を考慮しながら授業をデザインすることについて考察する。
・教育事情の発表
【アクティブラーニングについて】
教育事情の発表、考察、討論、評価を行う。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料・テキスト
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学級を経営する「ベテランの実践を学ぼう」
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第９回　・教材について　・授業の展開　・教師の姿勢と心構え
【key words】
学習指導案、授業（教育）目標づくり

【授業概要】
・学習指導案の意義、記載の構成要素、作業手順について考察する。
・学習指導案の作成に不可欠な授業目標づくりを考える。
・教育事情の発表
【アクティブラーニングについて】
教育事情の発表、考察、討論、評価を行う。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料・テキスト
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・日本教育の最大の問題点・・・田原総一郎
・指導要録（小・中・高）
・教師に必要な資質5
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１０回　・仮説実験授業　・発問のある授業　・教師の表現(伝え方)
【key words】
教職員の職務、教育法規・教育行政、教職の服務と分限・懲戒

【授業概要】
・教師としてあるべき姿を関係法規を中心に考察する。
・教育事情の発表
【アクティブラーニングについて】
教育事情の発表、考察、討論、評価を行う。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料・テキスト
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育法規、教育行政の戦後70年
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１１回　・授業における説明の役割と方法　・学習集団の意義と方法　・違いを認め合い補い合う
【key words】
教材研究、教材解釈、授業構成、齊藤善博、教師の姿勢・心構え

【授業概要】
・展開のある授業について教材の作成・利用、そして齊藤善博の「教育学のすすめ」によって考察する。
・教育事情の発表
【アクティブラーニングについて】
教育事情の発表、考察、討論、評価を行う。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料・テキスト
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学習指導要領の改訂、教師の姿勢・心構え
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１２回　・体験的学習の意義と課題　・練習の意義と方法　・自分のキャラクターを分析する
【key words】
仮設―討論―検証、板倉聖宣、「科学教育の内容と方法」、発問

【授業概要】
・「仮説実験授業」から授業の展開、授業書、討論の重要性について考察する。さらには授業づくりの核となる発問づくりについて考える。
・教育事情の発表
【アクティブラーニングについて】
教育事情の発表、考察、討論、評価を行う。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料・テキスト
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教師の表現―伝え方の極意―

	【予習復習に必要な想定時間】 90分 第１３回　・近代教育思想　・教育方法と学習指導 【key words】 ルソー、ペスタロッチ、カント、デューイ、教育方法とは 【授業概要】 ・近代教育学者が提唱する教育方法を知って、現代の教育について考察する。さらには、教育方法と学習指導の関係について学習指導要領によって考察する。 ・教育事情の発表 【アクティブラーニングについて】 教育事情の発表、考察、討論、評価を行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・テキスト 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教育制度と学校、学習指導要領を熟読する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第１４回　・欧米の近代授業理論と受容（一斉授業と開発授業） 【key words】 一斉授業、開発授業、ヘルバルト学派、経験主義的学習指導法、新しい学力観 【授業概要】 ・日本教育の明治期の教授法から大正・昭和期に影響を及ぼした教授法と新学力観について考察する。 ・教育事情の発表 【アクティブラーニングについて】 教育事情の発表、考察、討論、評価を行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・テキスト 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学習指導要領の改訂、授業時数、教科書制度、デジタル教科書と教科書制度 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第１５回　・学習指導と教授理論（指導の原理・方法・発達と学習心理） 【key words】 学習指導、稲富栄次郎、問題解釈学習、デューイ、系統学習、砂沢喜代次、プログラム学習、発見学習、レディネス、ピアジェ、ヴィゴッキー 【授業概要】 ・「学習指導」の意味、「教授理論と学習方法」、発達と学習の心理について研究し、考察する。 ・教育事情の発表 ・授業評価アンケートの実施（講義について感想を発表する） 【アクティブラーニングについて】 教育事情の発表、考察、討論、評価を行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・テキスト 【課題・予習・復習・授業準備指示】 子どもの貧困対策と就学援助、外国人児童・生徒の教育 【予習復習に必要な想定時間】 90分
受講生に関わる情報および受講のルール	・意欲的な学習態度であること。 ・教師としての在り方について、常に意識を持って学生生活を行えること。 ・授業で配布する資料はファイルして保管すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教育をとりまく社会状況、現場状況、教育改革等に関する情報の事象をとらえ、それを分析・考察し討論することによって客観的に検証・考察する。
オフィスアワー	金曜・第2時限
評価方法	提出物（レポート）、討論・発表内容と態度、定期試験による評価。いずれも60%を超えていること。
教科書	田中耕治・鶴田清司　新しい時代の教育方法　有斐閣
参考書	授業の中で紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	（平成21年4月～平成25年12月）国立市役所子ども家庭部子育て支援課（現 児童青少年課児童･青少年係）嘱託員[非常勤] （平成26年4月～平成29年3月）公益財団法人 荒川区自治総合研究所　研究員 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　教育実習事前事後指導（中・高）　　授業コード：S5141

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	-	学校教育コース・選択
担当教員			
江原　京子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　教育実習の事前事後に関する指導を通して、その意義・目的、課題、内容等を十分に理解し、教育実習が有意義で効果的なものとなることを目的とする。 [到達目標] １　学習指導・生徒指導および教育実習生としての心得などを身につける。 ２　学習指導案を作成し、模擬授業の実践を行い、振り返りとして授業研究に取り組むことができる。 ３　生徒理解に努めることができる。
授業の概要	１　３年次に行われる教育実習に向けて、その意義と目的について学びながら、実習生としての心構えを体得する。 ２　中学校や高等学校への授業参観を通して実際の教育現場を知ることで、本実習に向けての意識を高める。 ３　学習指導案の作成を行い、模擬授業の実践を行うことにより本実習の授業実践に備える。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等の説明）　教職への招待・ガイダンス　大学の事前指導で何を学ぶか 【key words】 教職とは、教育実習、教員免許状取得 【授業概要】 【授業にあたり】 １　中学校もしくは高等学校への授業参観は、新年度に参観校と日程調整を行うため、提示した回での実施とならない場合がある。 ２　先輩学生の研究授業の参観も同様である。 ３　模擬授業の順番は、前期中の授業内で決定する　※１～３、いずれの場合も変更した内容を提示する。 　教職への招待･ガイダンスを通して、教職に就くために必要とされるものは何かについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・教職への招待･ガイダンスを通して、教職に就くために必要とされるものは何か、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出する。プレゼンテーション用の資料の作成を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第２回	教職に就くにあたり：教師を目指した理由－プレゼンテーション－ 【key words】 中学校/高等学校時代を振り返る、教師を目指した理由 【授業概要】

教職に就くにあたり、教師を目指した理由を中学校もしくは高等学校時代を振り返りながらプレゼンテーションを行う。
【教科書ページ・参考文献】
プレゼンテーション用にまとめておいた冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・プレゼンテーションした内容を聞いて、意見・感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』P.1　教育実習の意義と目的･目標とは何か
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第３回　教育実習の意義と目的
【key words】
教育実習の意義と目的、必要とされる資質・能力
【授業概要】

教育実習の意義と目的、必要とされる資質・能力について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』pp.1～2
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育実習の意義と目的、必要とされる資質・能力について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。教育実習生としての心構えとはどのようなことか、事前に考えてくること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第４回　教育実習の課題と実習生としての心構え
【key words】
教育実習の課題、実習生としての心構え
【授業概要】

教育実習の課題、実習生としての心構えについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』pp.9～10
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育実習の課題、実習生としての心構えについて、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。観察実習について、事前に調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第５回　観察実習の目的とその重要性
【key words】
教師の指導法、教師と生徒及び生徒間、学習適応
【授業概要】

「見ること」によって「学ぶ」観察実習の目的とその重要性を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』P.15～
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・観察実習の目的とその重要性について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・学習指導案について調べてくること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第６回　学習指導案とは何か
【key words】
授業の設計図、確かな学びの保障
【授業概要】

生徒の確かな学びを保障する、授業づくりの指針となる学習指導案とは何かについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』P15～
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・学習指導案とは何かについて、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
予習：学習指導案の単元観、生徒観について調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第７回　学習指導案の作成にあたり　①　単元観、生徒観
【key words】
単元観、生徒観
【授業概要】

学習指導案の作成にあたり、単元観、生徒観について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学習指導案の作成にあたり、単元観、生徒観について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』P17～学習指導案を確認しておく。

【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第８回　学習指導案の作成にあたり　②　授業のねらい、導入、展開、まとめ

【key words】
授業のねらい、導入、展開、まとめ
【授業概要】

授業のねらいをつかみ、前回学んだ単元観、生徒観を踏まえ、導入、展開、まとめの流れに沿った学習指導案について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業のねらいをつかみ、前回学んだ単元観、生徒観を踏まえ、導入、展開、まとめの流れに沿った学習指導案について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第９回　中学校授業参観（朝の会、社会科、意見交換会）

【key words】
授業構成、生徒指導、教師の指導技術
【授業概要】

中学校の授業参観（朝の会、社会科の授業等）を通して、学校現場における教育活動の実際を知る。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房・観察実習記録
【課題・予習・復習・授業準備指示】
中学校の授業参観（朝の会、社会科の授業等）を通して、学校現場における教育活動の在り方について、意見･感想をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１０回　中学校授業参観の検討会　（朝の会、社会科、意見交換会）

【key words】
授業構成、生徒指導、教師の指導技術
【授業概要】

前回、実施した中学校の授業参観（朝の会、社会科の授業等）の意見・感想を踏まえ、実習に向けた深い学びへと繋げる。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』
・学生の感想・意見をまとめた観察記録
【課題・予習・復習・授業準備指示】
中学校の授業参観（朝の会、社会科の授業等）を通して、学校現場における教育活動の在り方について、意見交換を行った内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１１回　先輩学生による研究授業の視聴

【key words】
授業実習、各教科、学習指導案
【授業概要】

先輩学生の研究授業（中学校:社会科／高等学校:公民科･福祉科）を視聴し、授業実習の実際を知る。

【教科書ページ・参考文献】
・先輩学生の研究授業指導案
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
【課題・予習・復習・授業準備指示】
先輩学生の研究授業（中学校（社会科）／高等学校（公民科･福祉科）視聴をし、意見・感想をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１２回　先輩学生による研究授業の振り返り、意見交換会

【key words】
授業実習、各教科、学習指導案
【授業概要】

前回、視聴した先輩学生の研究授業（中学校:社会科／高等学校：公民科･福祉科）について意見交換を行い、授業実習に向けた深い学びへ繋げる。
【教科書ページ・参考文献】
・先輩学生の研究授業指導案
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
【課題・予習・復習・授業準備指示】
先輩学生の研究授業について、自分の意見と共通、あるいは思ってもいなかった意見･感想について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。板書とは何かについて調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１３回　板書とは
【key words】
文字の大小、内容、記述、チョークの使い方
【授業概要】

板書とは何かについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：板書とは何か、板書の要件
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・板書とは何か、板書の要件等について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・発問について調べてくること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１４回　発問とは
【key words】
発問と質問、指導言、子供の思考･認識過程
【授業概要】

発問とは何か、発問と質問の違いに言及し、子供の思考に働きかける発問の重要性について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料：発問とは
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・発問と何か、発問の重要性について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・評価規準について調べてくること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１５回　評価規準について
【key words】
到達目標、評価の観点、学力観
【授業概要】

評価規準について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：評価規準について
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・評価規準とは何か、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・前期の授業で学んだことを復習し、後期から実施する模擬授業に備えておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１６回　模擬授業の実践　①　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の模擬授業を行う
【key words】
学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解
【授業概要】
【受講にあたり】
・後期の授業は模擬授業の実践と授業研究を行う。授業者は、予め、模擬授業を行う単元を決め、学習指導案（提示した形）を作成し、教科書、資料等のコピーを期日までに提出する。
･学習指導案に沿って模擬授業が行えるように準備をしておくこと。
･授業日の前週に模擬授業の単元が授業者から提示されるため、どの回のタイトルも模擬授業の実践と明記しておくことを了承願いたい。KJ法を活用した授業研究も同様である。
・中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の模擬授業の実践を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・模擬授業観察記録、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１７回　模擬授業の実践　②　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の模擬授業を行う
【key words】
学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解
【授業概要】
－模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－
授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。

【教科書ページ・参考文献】
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・模擬授業観察記録、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１８回　授業研究　(1)　①、②の模擬授業の振り返り；KJ法を活用した授業検討会を実施する

【key words】
KJ法を利用した授業分析、指導技術、生徒への働きかけ
【授業概要】
－KJ法で模擬授業の実践の振り返りを行う－
模擬授業の実践　①、②をKJ法を利用して授業分析を行い、模擬授業の質の向上を図る。
授業内容、教師の指導技術、心構え、生徒への働きかけ等を分析する。
【教科書ページ・参考文献】
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・模擬授業者はKJ法を図にまとめて提出、観察者はKJ法を実施した意見･感想を提出すること。
・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１９回　模擬授業の実践　③　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の模擬授業を行う
【key words】
学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解
【授業概要】
－模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－
授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。
【教科書ページ・参考文献】
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・模擬授業観察記録、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第２０回　模擬授業の実践　④　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の模擬授業を行う
【key words】
学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解
【授業概要】
－模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－
授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。
【教科書ページ・参考文献】
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・模擬授業観察記録、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第２１回　授業研究　(2)　③、④の模擬授業の振り返り；KJ法を活用した授業検討会を実施する
【key words】
KJ法を利用した授業分析、指導技術、生徒への働きかけ
【授業概要】
－KJ法で模擬授業の実践の振り返りを行う－
模擬授業の実践　③、④をKJ法を利用して授業分析を行い、模擬授業の質の向上を図る。
授業内容、教師の指導技術、心構え、生徒への働きかけ等を分析する。
【教科書ページ・参考文献】
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・模擬授業者はKJ法を図にまとめて提出、観察者はKJ法を実施した意見･感想を提出すること。
・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第２２回　模擬授業の実践　⑤　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の模擬授業を行う
【key words】
学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解
【授業概要】
－模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－
授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。
【教科書ページ・参考文献】
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房
・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・模擬授業観察記録、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第２３回　模擬授業の実践　⑥　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の模擬授業を行う
【key words】
学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解
【授業概要】
－模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－

		授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。 【教科書ページ・参考文献】 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・模擬授業観察記録、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第２４回	授業研究　(3)　　⑤、⑥の模擬授業の振り返り；KJ法を活用した授業検討会を実施する 【key words】 KJ法を利用した授業分析、指導技術、生徒への働きかけ 【授業概要】 －KJ法で模擬授業の実践の振り返りを行う－ 模擬授業の実践　⑤、⑥をKJ法を利用して授業分析を行い、模擬授業の質の向上を図る。 授業内容、教師の指導技術、心構え、生徒への働きかけ等を分析する。 【教科書ページ・参考文献】 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・模擬授業者はKJ法を図にまとめて提出、観察者はKJ法を実施した意見･感想を提出すること。 ・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第２５回	模擬授業の実践　⑦　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の模擬授業を行う 【key words】 学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解 【授業概要】 －模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－ 授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。 【教科書ページ・参考文献】 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・模擬授業観察記録、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第２６回	模擬授業の実践　⑧　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の模擬授業を行う 【key words】 学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解 【授業概要】 －模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－ 授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。 【教科書ページ・参考文献】 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・模擬授業観察記録、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第２７回	授業研究　(4)　　⑦、⑧の模擬授業の振り返り；KJ法を活用した授業検討会を実施する 【key words】 KJ法を利用した授業分析、指導技術、生徒への働きかけ 【授業概要】 －KJ法で模擬授業の実践の振り返りを行う－ 模擬授業の実践　⑦、⑧をKJ法を利用して授業分析を行い、模擬授業の質の向上を図る。 授業内容、教師の指導技術、心構え、生徒への働きかけ等を分析する。 【教科書ページ・参考文献】 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・模擬授業者はKJ法を図にまとめて提出、観察者はKJ法を実施した意見･感想を提出すること。 ・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第２８回	模擬授業の実践　⑨　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の模擬授業を行う 【key words】 学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解 【授業概要】 －模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－ 授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。

	【教科書ページ・参考文献】 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・模擬授業観察記録、模擬授業の感想等をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・次回の授業者は、指導案、板書計画、プリント等のコピーを期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第２９回　模擬授業の実践　⑩　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の模擬授業を行う 【key words】 学習指導案（導入、展開、まとめ）の作成、生徒指導･理解 【授業概要】 －模擬授業の実践を通して来年度実施される教育実習に備える－ 授業者は、予め、模擬授業を行う単元の学習指導案、ワークシートやパネルの作成、板書計画等を用意し、模擬授業を実践する。 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第３０回　授業研究　(5)　⑨、⑩の模擬授業の振り返り；KJ法を活用した授業検討会を実施する。まとめ:本実習に向けて 【key words】 KJ法を利用した授業分析、指導技術、生徒への働きかけ 【授業概要】 －KJ法で模擬授業の実践の振り返りを行う－ 模擬授業の実践　⑨、⑩をKJ法を利用して授業分析を行い、模擬授業の質の向上を図る。 授業内容、教師の指導技術、心構え、生徒への働きかけ等を分析する。 本実習に向けてまとめを行う。 【教科書ページ・参考文献】 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 ・模擬授業実践者の学習指導案、教科書のコピー、ワークシート等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・模擬授業者はKJ法を図にまとめて提出、観察者はKJ法を実施した意見･感想を提出すること。 ・次年度に実施する教育実習に向けてまとめを行っておくこと。後期試験に向けて準備を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
受講生に関わる情報および受講のルール	１　本講義は３年次に行われる教育実習の本実習と同様に位置づけられており、遅刻・欠席は事前に必ず届け出ること。　欠席や遅刻の多い学生（３回の欠席で実習を認めない）や授業態度の悪い学生は、教育実習の中止も有り得るため、 熱心な受講態度を求める。 ２　教育実習の本実習に向けて、指導案を作成し模擬授業に積極的に取り組み、授業構成や教材研究、生徒理解を熱 心に学習すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード、ミニミニレポート
授業外時間にかかわる情報	１　模擬授業を行う者は授業日の前週までに指導案、教科書のコピー等を提出すること。模擬授業を受けた学生は、観察　記録・意見・感想を次回の授業日までに提出すること。ＫＪ法のまとめは授業者が行い、次回の授業日までに提出する　こと。 ２　授業の要約もしくは課題をミニミニレポートとシャトルカードにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニレポー　トをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。
オフィスアワー	水曜日　16時～18時　それ以外の時間帯については、要相談・要予約
評価方法	授業中に課したミニミニレポートの内容（30%）、模擬授業の実践（３0%）、試験またはレポート（40%）を総合して評価する。
教科書	１　『教育実習へのガイドブック』、群馬医療福祉大学 ２　文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年告示）/高等学校学習指導要領(平成30年告示)』、東山書房 ３　文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年告示）特別の教科　道徳編』、文京出版
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 中学校教諭として勤務経験をもつ教員が、教育実習の本実習に向けて、授業運営方法、指導案の作成、生徒理解を踏まえた模擬授業の実践を指導する。実際の教育現場において、教師として相応しい資質･能力の向上を目指す指導を行う。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート

	■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　日本史Ⅰ　　授業コード：S5201

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
梅山　文秀			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会科の指導者として、歴史的思考力・構成力を身につけ、現代社会、将来についてのあり方を考え実践できる資質を養う。 【到達目標】 ①日本史原始時代から中世までの流れを基本的に理解する。 ②各時代の特性を理解し、歴史の変化を認識し、考察を深める。 ③歴史の個々の事実の理解を深め、時代相を総合的に理解し、生徒を指導できる能力を養う。
授業の概要	日本の歴史の発展過程を正しく理解する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、日本列島と日本人 【key words】 人類の誕生、日本列島の形成、旧石器文化 【授業概要】 人類の誕生・日本列島の形成・日本人の起源・形成を具体的に学ぶ。岩宿遺跡の重要性を認識する。 【教科書ページ・参考文献】 P13～15 【課題・予習・復習・授業準備指示】 縄文文化について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	縄文文化 【key words】 自然環境の変化・縄文文化・三内丸山遺跡 【授業概要】 完新世にはいり、日本列島の気候はあたたかくなり、人々が土器をともなう新しい文化を生み出した。数千年にわたり、日本列島にさかえ、日本の民族と文化の原型が形成された縄文文化について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P16～19 【課題・予習・復習・授業準備指示】 弥生文化について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第３回	弥生文化 【key words】 水稲と鉄器、生産と階級、小国の分立、邪馬台国、吉野ヶ里遺跡 【授業概要】

		大陸文化の影響を受けて、紀元前４世紀～紀元後３世紀まで、水稲耕作・青銅器。鉄器を特徴とする農耕文化がおこった。薄手・赤褐色・硬い弥生土器を持つ弥生文化について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P19～23、P24～26 【課題・予習・復習・授業準備指示】 古墳について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第４回	古墳とヤマト王権 【key words】 古墳の築造、大和と朝鮮、氏姓制度 【授業概要】 古墳がさかんに築造された３世紀後半から７世紀の文化を古墳文化とよぶ。古墳の特色とヤマト王権の成立過程を学ぶ。中国・朝鮮半島との交渉・渡来人の活躍に注目する。 【教科書ページ・参考文献】 P26～37 【課題・予習・復習・授業準備指示】 聖徳太子について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第５回	飛鳥の宮廷 【key words】 蘇我氏の台頭、厩戸王の政治、遣隋使 【授業概要】 大陸から新しい文化を導入して支配体制を強力にしてきた大和朝廷の中で蘇我氏が台頭して来る。推古天皇のもと摂政となった厩戸王の政治の内容と意義を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P38～40 【課題・予習・復習・授業準備指示】 大化の改新について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第６回	大化の改新 【key words】 政変の原因、改新の政治、近江の朝廷 【授業概要】 ７世紀は古代東アジアの大転換期であった。中国では隋が滅び唐が成立した。日本は東アジアの激動の中で乙巳の変からはじまり、律令制度による中央集権体制形成の過程を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P41～52 【課題・予習・復習・授業準備指示】 奈良の大仏について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第７回	平城京の時代 【key words】 平城京と遣唐使、政治と社会の変化 【授業概要】 710年平城京に都が移された。これ以降80年余りを奈良時代という。8世紀初め、皇族・貴族の均衡がとれていた政治制度は藤原氏の進出でくずれはじめた。政治と社会の変化を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P52～60 【課題・予習・復習・授業準備指示】 桓武天皇について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第８回	平安朝廷の形成 【key words】 平安遷都、弘仁・貞観文化 【授業概要】 794年、桓武天皇はあらたな政治基盤を確立するため、平安京へ遷都した。ここでは平安初期の政治と文化について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P61～66 【課題・予習・復習・授業準備指示】 摂関政治について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第９回	摂関政治 【key words】 摂関政治、国風文化、荘園と武士団 【授業概要】 藤原北家の発展、摂関政治、国風文化、荘園について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P66～82 【課題・予習・復習・授業準備指示】 院政、白河法皇について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１０回	院政 【key words】 院政、保元・平治の乱、平氏の栄華

	【授業概要】 近年、11世紀半ばすぎから、中世社会の特色があらわれ院政期を中世の画期とする学説が定着してきた。このことに注目して院政期を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P86～92 【課題・予習・復習・授業準備指示】 鎌倉幕府について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１１回　鎌倉幕府 【key words】 源平の争乱、鎌倉幕府、執権政治 【授業概要】 源平の争乱から、鎌倉幕府の成立を学び、将軍と御家人との主従関係を理解する。さらに執権政治に至る過程を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P92～105 【課題・予習・復習・授業準備指示】 モンゴルについて調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１２回　蒙古襲来 【key words】 蒙古襲来、得宗専制政治、鎌倉文化 【授業概要】 モンゴル帝国の成立・元の建国という東アジア情勢の中で蒙古襲来の意味を学ぶ。幕府の政治が御家人の協力を基盤とした執権政治から得宗専制政治に移り、鎌倉幕府滅亡への流れを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P105～118 【課題・予習・復習・授業準備指示】 足利尊氏について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１３回　室町幕府 【key words】 建武の新政、動乱のふかまり、室町幕府 【授業概要】 14世紀鎌倉幕府は倒れ建武の新政となる。足利尊氏は室町幕府を開いて武家政権を再興した。全国的動乱の中南北朝の動乱はおわり、室町幕府の全国支配が完成する流れを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P118～128 【課題・予習・復習・授業準備指示】 応仁の乱について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１４回　応仁の乱～戦国の世 【key words】 応仁の乱、戦国大名 【授業概要】 応仁の乱後、守護大名間の争い、国一揆、土一揆がおこる。家臣が主君を実力でたおす世は、下剋上の風潮を強め、戦国時代への流れを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P132～139、P145～150 【課題・予習・復習・授業準備指示】 室町文化の文物について1つ調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１５回　室町文化 【key words】 南北朝文化、北山文化、東山文化 【授業概要】 室町時代に栄えた文化について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P128～131、P140～145 【課題・予習・復習・授業準備指示】 15世紀後半から16世紀のスペイン、ポルトガルの東アジア進出について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	教師を目指す者としての自覚を持って臨むこと。 配付資料等は必ず保管すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	毎日、新聞を読むこと。
オフィスアワー	火曜日の午後
評価方法	定期試験と確認テスト等によって評価する。
教科書	新もういちど読む山川日本史（山川出版社）
参考書	講義内で適宜紹介する。

実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小中学校教諭 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　日本史Ⅱ　　授業コード：S5205

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
梅山　文秀			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会科の指導者として、歴史的思考力・構成力を身につけ、現代社会、将来についてのあり方を考え実践できる資質を養う。 【到達目標】 ①日本史戦国の世から近世・近代・現代までの流れを基本的に理解する。 ②各時代の特性を理解し、歴史の変化を認識し、考察を深める。 ③歴史の個々の事実の理解を深め、時代相を総合的に理解し、生徒を指導できる能力を養う。
授業の概要	日本の歴史の発展過程を正しく理解する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　　「ヨーロッパ人の来航」から世界の動きと日本史を考察する。 【key words】 大航海時代、鉄砲の伝来、キリスト教のひろまり、織田信長 【授業概要】 日本の戦国時代は、ヨーロッパではルネサンス・宗教改革・大航海時代へと近代への移行期にあった。ヨーロッパ人の来航・鉄砲の伝来・キリスト教のひろまりは大きく日本の歴史を動かしていったことを学ぶ。また、信長の天下統一に向けた動きについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P155～159 【課題・予習・復習・授業準備指示】 豊臣秀吉について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	豊臣秀吉 【key words】 豊臣秀吉の全国統一、検地と刀狩、秀吉の対外政策 【授業概要】 豊臣秀吉は、信長の後継者の地位を確立し、1590年全国統一をなしとげた。秀吉の政策の中で後世に最も影響を与えた検地・刀狩について学ぶ。朝鮮出兵とその失敗は豊臣政権の崩れる原因であったことを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P159～167 【課題・予習・復習・授業準備指示】 徳川家康について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第３回	江戸幕府の成立、鎖国と貿易 【key words】 関ヶ原の戦い、江戸幕府、大坂の役、幕藩体制、鎖国、長崎貿易

【授業概要】
徳川家康は秀吉の死後、関ヶ原の戦いで勝利し江戸幕府を開いた。大坂の役で豊臣氏を滅ぼし、徳川幕府の基礎を確立した流れを学ぶ。また、鎖国に至るまでの動きとその後の貿易について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P167～179
【課題・予習・復習・授業準備指示】
幕藩体制及び鎖国に至るまでの動きを禁教も含めて復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　文治政治、江戸初期の文化
【key words】
文治政治、寛永期の文化、正徳の治
【授業概要】
江戸初期の文化及び文治政治と正徳の治について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P180～184、192
【課題・予習・復習・授業準備指示】
文治政治について復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　経済発展と元禄文化
【key words】
諸産業の発達、元禄文化
【授業概要】
経済の発展の様子を諸産業の特徴をもとに理解する。また、この頃の文化について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P184～199
【課題・予習・復習・授業準備指示】
享保の改革について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　幕政の改革Ⅰ･･･享保の改革
【key words】
徳川吉宗、財政の再建、法典の整備
【授業概要】
18世紀初め、幕府や諸藩は財政難に苦しむようになった。8代将軍吉宗は家康時代の政治を理想とし、幕府の権威を高め幕政ひきしめようと享保の改革した内容を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P200～202
【課題・予習・復習・授業準備指示】
寛政の改革について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　幕政の改革Ⅱ･･･寛政の改革
【key words】
田沼政治、寛政の改革、列強の接近
【授業概要】
大商人の経済力を利用した田沼政治に対して、1787年松平定信は寛政の改革を実施した。その内容と特色を学ぶ。また、列強の接近について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P202～209
【課題・予習・復習・授業準備指示】
天保の改革について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　幕政の改革Ⅲ･･･天保の改革と幕末
【key words】
大塩の乱、天保の改革、化政文化
【授業概要】
大塩の乱から老中水野忠邦の天保の改革の内容と特色を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P209～224
【課題・予習・復習・授業準備指示】
韓国前後の動きについて調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　幕末から明治へ
【key words】
開国、尊王攘夷、討幕
【授業概要】
開国に至るまでの動きと尊王攘夷・討幕について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P228～236
【課題・予習・復習・授業準備指示】
明治維新について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　明治維新
【key words】
大政奉還、戊辰戦争、廃藩置県、四民平等、地租改正、殖産興業
【授業概要】

	王政復古の大号令により成立した新政府は、戊辰戦争を経て近代的な中央集権的国家体制を実現させていった。その過程を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P236～250 【課題・予習・復習・授業準備指示】 文明開化について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１１回　文明開化 【key words】 自由と権利の思想、福沢諭吉、民撰議院設立建白書 【授業概要】 政府は文化や国民生活を近代化促進するために、西洋の近代思想や生活様式をとり入れた。この風潮を文明開化という。この内容と特色を学ぶ。また、この頃の政治と外交について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P250～255 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自由民権運動について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１２回　自由民権運動と帝国議会 【key words】 士族の抵抗、自由民権運動、明治十四年の政変、帝国議会、大日本帝国憲法 【授業概要】 西南戦争後言論による自由民権運動が活発となり、明治十四年の政変をへて伊藤博文を中心とする薩長派中心の政権が確立して行く動きを学ぶ。また、1889年大日本帝国憲法が制定され、1890年第一回帝国議会が開かれた。その内容と特色を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P256～265、P269～273 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日清戦争、日露戦争について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１３回　条約改正、日清・日露戦争 【key words】 不平等条約の改正、下関条約、三国干渉、日英同盟、ポーツマス条約 【授業概要】 不平等条約の改正及び日清・日露戦争と社会情勢について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P266～269、P273～293 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第一次世界大戦について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１４回　第一次世界大戦と日本 【key words】 三国同盟、三国協商、ヴェルサイユ条約、ワシントン会議 【授業概要】 第一次世界大戦とその後の世界及び日本の情勢について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P294～313 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第二次世界大戦について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１５回　第二次世界大戦と日本 【key words】 満州事変、五・一五事件、二・二六事件、日中戦争、太平洋戦争、ポツダム宣言 【授業概要】 第二次世界大戦と日本の動きについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P314～338 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日本史Ⅰ・Ⅱで学んだことを振り返り、自国の歴史を学ぶ意義について考える。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	教師を目指す者としての自覚を持って臨むこと。 配付資料等は必ず保管すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	毎日、新聞を読むこと。
オフィスアワー	火曜日の午後
評価方法	定期試験と確認テストを総合して評価する。
教科書	新もういちど読む山川日本史（山川出版社）
参考書	全集　日本の歴史（小学館）
実務者経験/アクティブラーニング/	授業担当教員

リテラシー教育	■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小中学校教諭 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 世界史　　授業コード： S5211

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
梅山　文秀			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	・世界の歴史における主な出来事や主要な人物について学ぶ。 ・世界の歴史の流れを理解する。 ・世界史を学ぶことで現代社会のより深い理解につなげる。
授業の概要	古代から近代を中心に同時代史にも留意しながら、教師に必要な知識や技術を身につけられるよう授業を展開する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　科目オリエンテーション　文明の起源　古代オリエント 【key words】 メソポタミア　古代エジプト　アッシリア　ペルシア 【授業概要】 文明の起源やそれに続く古代オリエント世界について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 PP.7～22 【課題・予習・復習・授業準備指示】 古代ギリシア・ローマについて予習する。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２回　古代ギリシアとヘレニズム 【key words】 ポリス、ペルシア戦争、アレクサンドロス大王 【授業概要】 古代ギリシアの社会、ヘレニズム文化について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 PP.23～29 【課題・予習・復習・授業準備指示】 古代ギリシア文化について1つ調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第３回　古代ローマ帝国 【key words】 元老院、ポエニ戦争、グラックス兄弟、三頭政治、アウグストゥス 【授業概要】 古代ローマ帝国について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 PP.29～35 【課題・予習・復習・授業準備指示】 古代ローマ文化について１つ調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第４回　イラン・インド・東南アジアの古代国家

【key words】
ササン朝、インダス文明、マウリヤ朝、クシャーナ朝、グプタ朝
【授業概要】
イラン・インドの古代国家について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
PP.35～42
【課題・予習・復習・授業準備指示】
インダス文明について復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　中国古代統一国家の成立①
【key words】
殷・周・春秋戦国
【授業概要】
中国の古代国家及び社会について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
PP.43～46
【課題・予習・復習・授業準備指示】
始皇帝について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　中国古代国家の成立②
【key words】
始皇帝、武帝、光武帝、シルクロード
【授業概要】
秦・漢について学ぶ。また、匈奴・突厥・モンゴル人等の遊牧系諸民族が果たした文化交流などを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
PP.46～55
【課題・予習・復習・授業準備指示】
唐について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　中世の中国社会①
【key words】
唐及び宋の制度と文化
【授業概要】
中世の中国における諸国家とその社会について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
PP.61～73
【課題・予習・復習・授業準備指示】
モンゴル帝国について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　中世の中国社会②、中国周辺諸国
【key words】
モンゴル帝国、明、清
【授業概要】
中国北方諸民族の動き、明・清の制度と社会及び周辺諸国の動きについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
PP.73～88
【課題・予習・復習・授業準備指示】
イスラム教の特質について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　中世のイスラム世界
【key words】
イスラム教、ウマイヤ朝、アッバース朝、オスマン帝国
【授業概要】
シリア・エジプト・イベリア半島・北アフリカ・イラン・トルコ・インド等広範囲に広がっているイスラム世界について、その成り立ちと発展・衰亡について学ぶ。またイスラム文化について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
PP.89～103
【課題・予習・復習・授業準備指示】
フランク王国について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　西ヨーロッパ世界の成立、中世の東ヨーロッパ
【key words】
フランク王国、カール大帝、ローマ教会、ビザンツ帝国
【授業概要】
ゲルマン民族大移動とフランク王国の建国、その後の西ヨーロッパの動きについて学ぶ。また、東ヨーロッパに栄えたビザンツ帝国について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
PP.104～114
【課題・予習・復習・授業準備指示】
十字軍について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　中世後期のヨーロッパ
【key words】

	十字軍、教皇権の衰退、百年戦争、ロマネスク、ゴシック 【授業概要】 十字軍とその失政による教皇権の衰退及び西ヨーロッパ諸国の発展の様子について学ぶ。また、中世西ヨーロッパの文化について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 PP.115～124 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ルネサンスについて調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１２回　近世ヨーロッパの形成① 【key words】 ヨーロッパ人の海外進出、ルネサンス、宗教改革 【授業概要】 ヨーロッパ人が航路を開拓してアメリカ大陸やアジアに進出していく様子やルネサンス、宗教改革について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 PP.129～142 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ピューリタン革命について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１３回　近世ヨーロッパの形成② 【key words】 ハプスブルク家、三十年戦争、絶対王政、ピューリタン革命、プロイセン 【授業概要】 近世ヨーロッパの国際政治と主権国家体制の確立について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 PP.143～158 【課題・予習・復習・授業準備指示】 アメリカ独立革命について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１４回　アメリカ独立革命、フランス革命とナポレオン 【key words】 独立戦争、フランス革命 【授業概要】 アメリカ独立革命及びフランス革命について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 PP.162～173 【課題・予習・復習・授業準備指示】 産業革命について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１５回　イギリス産業革命 【key words】 産業革命、資本主義、ウィーン体制 【授業概要】 イギリス産業革命について学ぶ。また、フランス七月革命や二月革命等によりウィーン体制が崩壊していく様子について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 PP.173～184 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	教師を目指す者としての自覚を持って臨むこと。 配付資料等は必ず保管すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	毎日、新聞を読むこと。
オフィスアワー	火曜日の午後
評価方法	定期試験と確認テスト等にて評価する。
教科書	「世界の歴史」編集委員会編『新もういちど読む山川世界史』山川出版社
参考書	参考文献などは講義の中で紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小中学校教諭 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション

	□実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 地理学　　授業コード： S5215

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
梅山　文秀			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	・地理の基礎教養を身につける。 ・世界や日本の基本的地誌や地理的感覚を認識する。 ・学習を通して、現代社会をより広く深く理解する。
授業の概要	地理学の本質や中学校の社会科地理教材を学ぶ際の留意事項などを概観したうえで、その主要項目に関して、問題意識を提示しながら考察させる。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、世界地図と地球儀、世界の気候 【key words】 図法、緯度・経度、時差 【授業概要】 主な世界地図の特色、地球儀の使い方を学ぶ。また、世界の気候について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 時差についての練習問題に取り組む。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第２回	世界の諸地域①　アジア州 【key words】 多様な自然環境、宗教、OPEC、工業化 【授業概要】 アジア州の自然環境・農業・工業・文化について学ぶ。また、中国の経済発展について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 15分
	第３回	世界の諸地域②　ヨーロッパ州 【key words】 多様な自然環境、宗教、EU 【授業概要】 ヨーロッパの自然環境、特色ある文化、EU成立後の社会や産業について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 15分
	第４回	世界の諸地域③　アフリカ州

【key words】
砂漠、熱帯雨林、植民地、アパルトヘイト、モノカルチャー経済
【授業概要】
アフリカの特色ある自然環境・文化・産業等について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第５回　世界の諸地域④　北アメリカ州
【key words】
適地適作の大規模農業、先端技術産業、多国籍企業
【授業概要】
北アメリカの特色ある自然環境、多様な民族構成、世界に影響力を持つ農業及び工業について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第６回　世界の諸地域⑤　南アメリカ州
【key words】
植民地、モノカルチャー経済、地球温暖化
【授業概要】
南アメリカの多様な自然環境・生活文化・産業・環境問題について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第７回　世界の諸地域⑥　オセアニア州
【key words】
多文化社会、羊毛、鉄鉱石
【授業概要】
オセアニア州の特色ある自然環境、多文化社会への歩み、農業・工業について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第８回　日本の領域と領土、世界と比べた日本の地理的特色、日本の気候、縮尺・地図記号・等高線
【key words】
北方領土、地理的特色、縮尺
【授業概要】
日本の領土問題、地理的特色・気候について理解する。また、読図について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
読図の練習問題に取り組む。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　日本の諸地域①　九州地方
【key words】
火山、シラス台地、北九州工業地帯
【授業概要】
九州の自然環境と社会、産業について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第１０回　日本の諸地域②　中国・四国地方
【key words】
本州四国連絡橋、瀬戸内工業地域、果樹栽培
【授業概要】
中国・四国地方の自然環境、高速道路や連絡橋の整備による生活の変化及び産業について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第１１回　日本の諸地域③　近畿地方
【key words】
琵琶湖、阪神工業地帯、歴史的景観の保全、
【授業概要】
近畿の自然環境・環境保全・工業・林業について学ぶ。

	【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 15分 第１２回　日本の諸地域④　中部地方 【key words】 日本アルプス、中京工業地帯、東海工業地域、茶 【授業概要】 中部地方の自然環境、自動車工業、特性を生かした産業について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 15分 第１３回　日本の諸地域⑤　関東地方 【key words】 東京大都市圏、京浜工業地帯、京葉工業地域、北関東工業地域 【授業概要】 関東の自然環境、首都東京、東京大都市圏、特色ある産業について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 15分 第１４回　日本の諸地域⑥　東北地方 【key words】 銘柄米、果樹栽培、伝統行事、工芸品 【授業概要】 東北の自然環境、工夫された産業、生活文化について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 15分 第１５回　日本の諸地域⑦　北海道地方 【key words】 稲の品種改良、輪作、酪農、エコツーリズム 【授業概要】 北海道の自然環境、稲作への努力、北海道型農業、酪農、漁業について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 15分
受講生に関わる情報および受講のルール	教師を目指す者としての自覚を持って臨むこと。 配付資料等は必ず保管すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	毎日、必ず新聞を読むこと。
オフィスアワー	火曜日の午後
評価方法	定期試験と確認テスト等により評価します。
教科書	「社会科　中学生の地理」（帝国書院）　「中学校社会科地図」（帝国書院）
参考書	講義の中で適宜紹介していきます。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小中学校教諭 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法

	等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 社会科教育法Ⅰ　　授業コード：S5221

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	学校教育コース・選択
担当教員			
片山　哲也			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	中学校社会科指導に必要な知識・技能を身に付けることを基本とする。具体的な授業の到達目標は、①社会科学習指導要領の目標と内容について理解すること。②教材研究の方法、③学習指導案の作成、④模擬授業などを通して、⑤中学校社会科の実践的指導力を身に付けることができる。
授業の概要	中学校社会科の指導に必要な教師の理論面・実技面での基礎基本である学習指導要領及び解説の理解、三分野の基礎知識、板書の方法などを身に付ける。その上で生徒用の教科書を用い教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業、授業研究などを行う。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　オリエンテーション 【key words】 到達目標 【授業概要】 授業概要】授業の到達目標と概要、教科の目標、評価の方法 授業のルール確認 教科書入手方法 【教科書ページ・参考文献】 中学校地理教科書 中学校歴史教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　学習指導要領の概要　学習指導要領の概要 【key words】 板書計画、アクティブラーニング＝ALと記述 【授業概要】 授業概要】地理的分野・歴史的分野の目標と内容、次期学習指導要領の概要、 示範授業①を通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。″ 地理的分野年間指導計画表１ 地理用語集作成１（アクティブラーニング＝ALと記述） 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【教科書ページ・参考文献】 中学校地理教科書 中学校歴史教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間

第３回　　社会科指導の基礎基本１
【key words】
年間指導計画
【授業概要】
【授業概要　】地理的分野の内容、
授業の展開方法、示範授業②を通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。
指導事例の紹介
地理的分野年間指導計画表２　AL
地理用語集作成２　AL

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第４回　　社会科指導の基礎基本２
【key words】
授業展開例
【授業概要】
授業概要】歴史的分野の内容、
授業の展開方法、示範授業③を通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。
指導事例の紹介
地理的分野年間指導計画表３　AL
地理用語集作成３　AL

【教科書ページ・参考文献】

各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第５回　　教材研究の方法1
【key words】
地図帳の利用
【授業概要】
授業概要】地理的分野、教科書、指導書、地図帳、参考書、地理用語辞典など
示範授業④を通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。″
地理的分野年間指導計画表４　AL
地理用語集作成４　AL

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第６回　　教材研究の方法２
【key words】
【Key words】教授用ノート、板書ノート
【授業概要】
【授業概要】地理的分野、教授用ノートの作成、板書事項の作成方法、
示範授業⑤を通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。″
地理的分野年間指導計画表５　AL
地理用語集作成５　AL

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第７回　　教材研究の方法３
【key words】
歴史授業に必要なエピソード
【授業概要】
【授業概要】歴史的分野、教科書、指導書、地図帳、参考書、歴史用語辞典など
示範授業を⑥通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。″
歴史的分野年間指導計画表１　AL
歴史用語集作成１　A
【教科書ページ・参考文献】

【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第８回　教材研究の方法４
【key words】
教授用ノートの作成、板書事項の作成方法
【授業概要】
【授業概要】歴史的分野、教授用ノートの作成、板書事項の作成方法
示範授業⑦を通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。″
歴史的分野年間指導計画表2　AL
歴史用語集作成２　AL

【Key words】
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第９回　学習評価の方法
【key words】
【Key words】総合評価、個別評価、パフォーマンス、ポートフォリオ
【授業概要】
【授業概要】総合評価、個別評価、パフォーマンス、ポートフォリオの活用
示範授業⑧を通じて授業展開例を示し、併せて板書計画を考えさせる。
歴史的分野年間指導計画表３　AL
歴史用語集作成３　AL

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第１０回　学習指導案と講義資料の作成方法
【key words】
【Key words】学習指導案と講義資料の作成
【授業概要】
【授業概要】導入・展開・まとめを基本として重点の把握に注意
示範授業⑨を通じて授業展開例を示し、学習宇指導案作成の基本的事項を学び、併せて板書計画を考えさせる。
歴史的分野年間指導計画表４　AL
歴史用語集作成４　AL

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第１１回　授業法を学ぶための示範授業⑩
【key words】
【Key words】世界の姿
【授業概要】
【授業概要】地理的分野「世界の様々な地域」を題材として授業法を学ぶ
歴史的分野年間指導計画表５　AL
歴史用語集作成５　AL

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第１２回　授業法を学ぶための示範授業⑪
【key words】
【Key words】世界の姿
【授業概要】

【授業概要】地理的分野「日本のあまざまな地域」を題材として授業法を学ぶ
授業担当者が板書計画を作成、他は重要語句の整理や補助教材を作成

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第１３回　授業法を学ぶための示範授業⑫
【key words】
板書計画を作成、他は重要語句の整理や補助教材
【授業概要】
【授業概要】歴史的分野「古代までの日本」「中世の日本」を題材として授業法を学ぶ
授業担当者が板書計画を作成、他は重要語句の整理や補助教材を作成

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第１４回　授業法を学ぶための示範授業⑬
【key words】
板書計画を作成、他は重要語句の整理や補助教材
【授業概要】
【授業概要】歴史的分野「近世の日本」「開国と近代日本の歩み」を題材として授業法を学ぶ
授業担当者が板書計画を作成、他は重要語句の整理や補助教材を作成

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第１５回　授業法を学ぶための示範授業⑭
【key words】
地理的分野、歴史的分野の示範授業から何を学ぶか
【授業概要】
【授業概要】授業研究会、地理的分野、歴史的分野の示範授業で学習したことをまとめる
プレゼンテーションと討議

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第１６回　後期授業計画オリエンテーション社会教師の基礎・基本
【key words】
東国文化副読本、地域学習の方法
【授業概要】
【授業概要】中学校社会科の指導を支える社会科学全般の知識を身に付ける方策を学ぶ
博物館、美術館などの活用や体験的学習、地域教材の扱い方やフィールドワークを学ぶ

東国文化副読本を使って、地域学習の方法を学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・示範授業に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第１７回　生徒の実態の把握方法
【key words】
授業中の生徒指導

授業中の生徒指導について
【授業概要】
【授業概要】観察方法、学力調査、学習環境の整備、座席表の活用など
C&S調査法（Q―U テスト）の活用
授業中の生徒指導について
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第１８回　情報機器と教材の活用法
【key words】
G-Tac　の活用
【授業概要】
【授業概要】インターネット、新聞、雑誌、年表、地図
群馬県総合教育センター　G-Tac　の活用方法
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第１９回　指導案作成①
【key words】
学習指導案作成
【授業概要】
【授業概要】地理的分野、歴史的分野を受講生が分担して学習指導案作成と事前検討会
役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評）

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第２０回　指導案作成②
【key words】
学習指導案作成
【授業概要】
【授業概要】地理的分野、歴史的分野を受講生が分担して学習指導案作成と事前検討会
役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評）

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第２１回　指導案作成③
【key words】
学習指導案作成
【授業概要】
【授業概要】地理的分野、歴史的分野を受講生が分担して学習指導案作成と事前検討会
役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評）

【教科書ページ・参考文献】
教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第２２回　模擬授業①
【key words】
学習指導案、模擬授業、事後検討会
【授業概要】
【授業概要】
地理的分野「世界のさまざまな地域」、を受講生が分担して各自作成した学習指導案で模擬授業、事後検討会
役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評）

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する
【予習復習に必要な想定時間】
30分から1時間

第２３回　模擬授業②
【key words】
学習指導案、模擬授業、事後検討会

		【授業概要】 【授業概要】 地理的分野「日本のさまざまな地域」を受講生が分担して各自作成した学習指導案で模擬授業、事後検討会 役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第２４回	模擬授業③ 【key words】 学習指導案、模擬授業、事後検討会 【授業概要】 授業概要】 歴史的分野「古代までの日本」「中世の日本」を受講生が分担して各自作成した学習指導案で模擬授業、事後検討会 役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第２５回	模擬授業④ 【key words】 学習指導案、模擬授業、事後検討会 【授業概要】 授業概要】 歴史的分野「近世の日本」「開国と近代日本の歩み」を受講生が分担して各自作成した学習指導案で模擬授業、事後検討会 役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第２６回	模擬授業⑤ 【key words】 学習指導案、模擬授業、事後検討会 【授業概要】 【授業概要】 歴史的分野「二度の世界大戦と日本」「現代の日本と世界」を受講生が分担して各自作成した学習指導案で模擬授業、事後検討会 役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第２７回	模擬授業⑥ 【key words】 学習指導案、模擬授業、事後検討会 【授業概要】 【授業概要】 地理的分野「日本の様々な地域」を受講生が分担して各自作成した学習指導案で模擬授業、事後検討会 役割分担（授業者、司会、研究員、指導講評） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 各自分担する年間計画・板書計画・指導案作成に必要な教科書（帝国書院中学校地理、歴史）を準備 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間
	第２８回	実践研究の方法、社会科教育の歴史

	【key words】 実践研究事例紹介 【授業概要】 【授業概要】 社会科教育に関する学会の実践研究事例紹介、社会科教育論紹介、博物館学習紹介 昭和戦後の社会科の誕生、学習指導要領の変遷（１９４５年～１９７７年　１９７８年～現在） 教育関連法規（日本国憲法、教育基本法、学校教育法）等 【教科書ページ・参考文献】 教育関連法規（日本国憲法、教育基本法、学校教育法）等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間 第２９回　学校教育の現状と課題 【key words】 アクティブラーニング 【授業概要】 【授業概要】アクティブラーニングによるジグソー、ディベート、シュミレーション、ロールプレイング、NIE いじめ、不登校、非行、貧困、虐待、働き方改革、ESD、コミニュケーションスクール 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 生徒指導提要　１章　（文部科学省） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】 30分から1時間 第３０回　ふりかえりとまとめ 【key words】 ふりかえり 【授業概要】 【授業概要】１年間を振り返り、学生間で意見交流、 教育実習に行くにあたっての課題等学生間で意見交流 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業の進捗状況に合わせて、必要な課題や準備について指示する 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕講義に関係する情報は、必要に応じて口頭で伝えるか印刷をして配布する。 〔受講のルール〕教育は厳格さと強制力を伴ってこそ身に付くものである。授業中の私語や居眠りなどが目立ち注意をしても改まらない場合は、退出を命ずる場合もある。スマホは必ず机上に置き、陰で使用しないこと。調べ学習に必要な場合があるので指示によっては活用する。また、遅刻・早退・欠席については必ず申し出ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教育に関係する必要な情報は、日頃から留意をして収集するように心掛けること。また、授業の中に参考となる書籍や雑誌の記事は必要に応じて紹介する。
オフィスアワー	質問や相談については、原則として授業の前後を活用する。なお、質問は内容により文書を作成して配布する。
評価方法	授業への取り組み態度（20%）、指導案と模擬授業（30%）、試験（50%）＝前期 授業への取り組み態度（20%）、指導案作成（30%）と模擬授業（30%）年間計画と板書例作成（20%）＝後期
教科書	１、中学校生徒用教科書　社会科　中学生の地理　　帝国書院 ２、中学校生徒用教科書　社会科　中学生の歴史　　帝国書院 ３、中学校地図帳　　帝国書院 ４　中学校学習指導要領解説　社会編　東洋出版　平成30年3月刊行 ５　国立教育政策研究所論文及び群馬県教育センター資料（担当教員が準備）
参考書	近藤裕幸著　「まずやってみる実践重視の中学校社会科教育法」梓出版社
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校教諭１５年、中学校社会科教諭４年、小中学校管理職１０年、市教育委員会学校教育課長３年、県教育委員会青少年行政６年、市教育研究所長２年（嘱託）など実務経験に基づき、学生には教師としての基本的資質と指導力の育成に当たることを授業の重要課題とする。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育

	□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 その他の具体的内容 社会科資料をインターネット、グーグルなどから引用、活用をし、実践的に使えること

講義科目名称：　社会科教育法Ⅱ　　授業コード：S5225

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	学校教育コース・選択
担当教員			
時田　詠子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 中学校社会科公民的分野等の指導に必要な知識・技能を身に付けることを目的とする。 【到達目標】 ①「社会科学習指導要領公民的分野等の目標と内容」、「解説」について理解することができる。 ②教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業や授業研究会の実践を通して、社会科の「実践的指導力の基礎」を身に付けることができる。
授業の概要	1　社会科（公民的分野等）を指導する教師の基礎基本について学ぶ。 2　実際の中学校生徒用の教科書を活用して、学習指導案の作成、模擬授業、授業研究等を行い、アクティブ・ラーニングを取り入れるなどして、「実践的な授業」について学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション、学習指導要領と解説の理解（教科の目標）、社会科学習ゲーム 【key words】 学習指導要領、３分野の概観、社会科学習ゲーム 【授業概要】 ①　本授業の意義とシラバスを理解する。特に、コマシラバスを確認し、30コマの授業概観と評価方法、予習や復習について知る。 ②　学習指導要領と解説を概観する。 ③　地理・歴史・公民領域の主な指導内容について知る。 ④　授業に生かせる学習ゲームについて知り実践する。 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】生徒用教科書３分野を概観して授業に臨む。 【復】学習指導要領の「教科の目標」を理解し、キーワードを暗記する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２回	社会科教師の基礎基本①、学習指導要領と解説の理解（地理的分野、生徒用地理教科書を用い指導事例を紹介する。） 【key words】 学習指導要領の目標・内容、学習指導要領解説、地図帳の指導 【授業概要】 ①　「学習指導要領」と「解説」の関係を理解するとともに、「生徒用地理的分野教科書」「地図帳」を用い地理的分野を概観する。教科書の重要語句については、ミニテストをすることを知る。

		②　「学習指導要領」の地理的分野の目標と内容を概観する。 ③　高校入試問題（社会科）の答え合わせ、補説を聞き、中学社会を概観する。 ④　生徒用教科書掲載の世界・日本の略地図の書き方を知り、実際に練習する。 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】配布された高校入試問題を解き、「教科書（地理的分野）」を概観し授業に臨む。 【復】世界・日本の略地図が書けるよう、反復練習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分
	第３回	社会科教師の基礎基本②、学習指導要領と解説の理解（歴史的分野、生徒用歴史教科書を用い指導事例を紹介する。） 【key words】 歴史的分野、年表の指導 【授業概要】 ①　「学習指導要領」と「解説」の関係を復習するとともに、生徒用歴史教科書を用い歴史的分野を概観する。 ②　「学習指導要領」の歴史的分野の目標を概観する。 ③　歴史教科書、折りこみ年表、資料を活用し、社会科教師として必要な知識、特に、主な年号、教科書ゴシック重要語句等を概観する。重要語句については、ミニテストをすることを知る。 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】「生徒用教科書（歴史的分野）」を読み、授業に臨む。 【復】必要な知識、年号、教科書ゴシック重要語句は理解し、暗記する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第４回	社会科教師の基礎基本③、学習指導要領と解説の理解（公民的分野、生徒用公民教科書を用い指導事例を紹介する。） 【key words】 公民的分野、新聞等を活用した指導 【授業概要】 ①　「学習指導要領」と「解説」の公民的分野を概観する。 ②　公民教科書、歴史カルタ、新聞等を活用し、社会科教師として必要な知識を身に付ける。重要語句については、ミニテストをすることを知る。 ③　教員と学生が話し合い、年間の模擬授業実施計画（年間５回）を立案する。 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】「生徒用教科書（公民的分野）」を読み、授業に臨む。 【復】次回のミニテスト（地理的分野）の準備をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第５回	教材研究「弥生文化と邪馬台国」、学習指導案略案の書き方、ミニテスト（地理的分野） 【key words】 教材づくり、略案の書き方 【授業概要】 ①　なぜ、学習指導案を作成するのか、その意義について理解する。 ②　学習指導案略案からどのように授業がつくられるのか、グループワークを行いながら理解する。 ③　ミニテスト（地理的分野）を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】ミニテスト（地理的分野）の準備を行い、授業に臨む。 【復】「弥生文化と…」授業者は担当教員に学習指導案や模擬授業の指導を受ける。 【予習復習に必要な想定時間】 90～180分
	第６回	教材研究「弥生文化と邪馬台国」、プレゼンテーション１（各自が調べたことを発表する。） 【key words】 教材研究、プレゼンテーション 【授業概要】 ①　教材研究の仕方：教科書熟読⇒学習指導要領及び解説の熟読⇒教科書会社解説の熟読⇒学習指導案関連の市販本の熟読⇒必要に応じて先輩等の学習指導案の参照等、流れについて理解する。 ②　指導するのに必要な教師としての知識について、全員がキーワードを選び、パワーポイントにてプレゼンテーションをする。効果的なスライド作成、伝わる説明について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】プレゼンテーション担当者は準備をして、授業に臨む。

【復】「弥生文化と…」の授業者は、担当教員に学習指導案や模擬授業の指導を受ける。
【予習復習に必要な想定時間】
90分～180分

第７回　教材研究「弥生文化と邪馬台国」、授業準備、プレゼンテーション２（各自が調べたことを発表する。）
【key words】
教材研究、授業準備
【授業概要】
①　模擬授業の授業者は、次週の授業の展開を説明する。
②　指導するのに必要な教師としての知識について、全員がキーワードを選び、
パワーポイントにてプレゼンテーションをする。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】プレゼンテーション担当者は準備をして、授業に臨む。
【復】「弥生文化…」の授業者は担当教員に学習指導案や模擬授業の指導を受ける。
【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第８回　模擬授業①「弥生文化と邪馬台国」、授業研究会①（授業者は代表学生２名）
【key words】
模擬授業（歴史的分野）、授業研究会
【授業概要】
①　模擬授業（50分間）、授業研究会（35分間）を実施する。授業研究会は現場の校内研修で行ってい
るような流れで、学生が進行する。特に、学生は、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・
指導する。
②　省察のため、教師または学生代表者がビデオ撮影をする。
③　対面・遠隔のどちらでも模擬授業ができるようにしておく。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】「弥生文化…」授業者はシミュレーション、指導案修正を重ね、授業に臨む。
【復】授業者・参観者ともに、授業を振り返り、次の模擬授業や教育実習に役立てる。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第９回　学習指導案細案の書き方①（生徒の実態、実態把握のためのアンケート、指導方針）
【key words】
学習指導案細案、生徒の実態、指導方針
【授業概要】
①　略案と細案の違いを理解する。
②　学習指導案細案「弥生文化と邪馬台国」の書き方（生徒の実態、教材観、
指導方針）について理解する。学生は予習での疑問を取り上げながら、
発表しながら主体的に学習する。
③　生徒の実態把握をするためのアンケート（レディネス・プリテスト等）の
作成方法について実物を見ながら、理解する。
④　板書の仕方、ワークシート作成について、実物を見ながら理解する。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】配布された学習指導案細案を熟読し、疑問点をメモし、授業に臨む。
【復】指導方針がどのように決まるか、復習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１０回　学習指導案細案の書き方②（目標、指導計画、評価規準）
【key words】
学習指導案細案、目標、指導計画、評価規準
【授業概要】
①　学習指導案細案「弥生文化と邪馬台国」の書き方（単元の目標と評価規準の関係、
指導計画、本時のねらいと展開内の評価項目と評価方法）について、実物を見ながら
理解する。
②　評価項目と３観点1）知識及び技能、2）思考力・判断力・表現力等 、3）主体的に
学習に取り組む態度、評価方法の種類について知る。
③　ミニテスト（歴史的分野）を行う。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】ミニテスト（歴史的分野）の準備を行い、授業に臨む。
【復】ミニテストの復習。「ちがい…」授業者は、指導案や模擬授業の指導を受ける。
【予習復習に必要な想定時間】
90～120分

第１１回　学習指導案事前検討会（公民的分野「ちがいのちがい」）
【key words】
模擬授業（公民的分野）、学習指導案事前検討会
【授業概要】

		①　学生が進行し学習指導案の検討会を行う。（授業者の説明→参観者の質問・意見→教員の指導助言）。予習での疑問点等を発表し、解決を図る。 ②　公民的分野の基本的な指導方法について理解する。 ③　学習指導案の基本的な書き方を復習する。 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】事前配布された、学習指導案を熟読し、疑問点等をメモし、授業に臨む。 【復】学習指導案細案の主な項目とその書き方について復習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分
	第１２回	模擬授業②（公民的分野「ちがいのちがい」）、授業研究会②　（授業者は代表学生２名） 【key words】 模擬授業（公民的分野）、授業研究会、省察 【授業概要】 ①　模擬授業（50分間）、授業研究会（35分間）を実施する。授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、学生は、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導する。 ②　省察のため、教師または学生代表者がビデオ撮影をする。 ③　対面・遠隔のどちらでも模擬授業ができるようにしておく。 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】「ちがい…」の授業者は、授業シミュレーション、指導案修正を重ね授業に臨む。 【復】授業者・参観者ともに、授業を振り返り、次の模擬授業や教育実習に役立てる。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分
	第１３回	社会科教師の基礎基本④「たくさんの知識を身に付けよう！」、地理的分野の必須な知識の習得、地図帳の指導例 【key words】 知識・技能の修得、地図帳の指導 【授業概要】 ①　地理的分野の教科書や地図帳を用い、指導に必要な知識・技能を身に付ける。 ②　板書練習を行う。 ③　自己が受けた「地図帳」の指導事例、教師が提示する指導事例について知る。 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】地理的分野教科書のゴシック重要語句の理解、地図帳の指導例を確認して、授業に臨む。 【復】地理的分野教科書のゴシック重要語句は理解して、暗記する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１４回	社会科教師の基礎基本⑤「たくさんの知識を身に付けよう！」、歴史的分野の必須な知識の習得、歴史年表の扱い方 【key words】 知識・技能の修得、歴史年表 【授業概要】 ①　歴史的分野の教科書や年表を用い、指導に必要な知識・技能を身に付ける。 ②　板書練習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】生徒用歴史的分野教科書のゴシック重要語句は理解して、授業に臨む。 【復】生徒用歴史的分野教科書のゴシック重要語句は理解して、暗記する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１５回	社会科教師の基礎基本⑥「たくさんの知識を身に付けよう！」、公民的分野の必須な知識の習得、新聞・ニュースの扱い方、シャトルカード前期のまとめ欄への記入 【key words】 知識・技能の修得 【授業概要】 ①　公民的分野の教科書や新聞等を用い、指導に必要な知識・技能を身に付ける。特に、NIE(Newspaper in Education＝「エヌ・アイ・イー」について知る。 ②　板書練習を行う。 ③　ミニテスト（公民的分野）を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】公民的分野教科書のゴシック重要語句の理解、ミニテスト準備をして、授業に臨む。 【復】公民的分野教科書のゴシック重要語句は理解して、暗記する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１６回	後期オリエンテーション、社会科学習ゲーム

【key words】
後期オリエンテーション、社会科学習ゲーム
【授業概要】
① 後期15コマの授業内容と評価方法、予習・復習について、コマシラバスで確認し、理解する。
② 後期の３つの模擬授業実施について、グループワークを行い、細案作成の準備をする。（公民班、歴史班、地理班）
③ 予習で考えてきた社会科ゲームを発表しあったり、実施に行ったりして共有する。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】社会科ゲームを考え、授業に臨む。
【復】班内で話し合ったことを学習指導案の作成に繋げる。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１７回　学習指導案事前検討会（公民的分野「民主主義と政治」）
【key words】
模擬授業（公民的分野）学習指導案事前検討会
【授業概要】
① 学生が進行し学習指導案の検討会を行う。（授業者の説明→参観者の質問・意見→教員の指導助言）
② 公民的分野の基本的な指導方法について理解する。
③ 学習指導案の基本的な書き方を復習する。

【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】「民主主義…」の授業者は、シミュレーションを重ね、指導案を修正し授業に臨む。
【復】「民主主義…」の授業者は、検討会でのアドバイスを受け、指導案を修正しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90～120分

第１８回　模擬授業③（公民的分野「民主主義と政治」）、授業研究会③（授業者は代表学生２名）
【key words】
模擬授業、授業研究会、省察
【授業概要】
① 模擬授業（50分間）、授業研究会（35分間）を実施する。授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、学生は、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・ 指導する。
② 省察のため、教師または学生代表者がビデオ撮影をする。
③ 対面・遠隔のどちらでも模擬授業ができるようにしておく。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】「民主主義…」授業者はシミュレーション、指導案修正を重ね授業に臨む。
【復】授業者・参観者ともに、授業を振り返り、次の模擬授業や教育実習に役立てる。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１９回　教材研究（歴史的分野「江戸幕府の成立と支配のしくみ」プレゼンテーション１　各自が調べたことを発表する。）
【key words】
教材研究、プレゼンテーション
【授業概要】
① 指導するのに必要な教師としての知識について、全員がキーワードを選び、パワーポイントにてプレゼンテーションをする。
② 「江戸幕府の成立と支配のしくみ」の授業者は、授業展開を説明する。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】プレゼンテーション担当者は準備をして、授業に臨む。
【復】「江戸幕府の成立と支配のしくみ」の授業者は、学習指導案を作成しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第２０回　教材研究（歴史的分野「江戸幕府の成立と支配のしくみ」プレゼンテーション２　各自が調べたことを発表する。）
【key words】
教材研究、プレゼンテーション
【授業概要】
① 指導するのに必要な教師としての知識について、全員がキーワードを選び、パワーポイントにてプレゼンテーションをする。
② 「江戸幕府の成立と支配のしくみ」の授業者は、学習指導案を配布し、説明する。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予】プレゼンテーション担当者は準備をして、授業に臨む。
【復】「江戸幕府の成立と支配のしくみ」の授業者は、教材研究を深めておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90～120分

第２１回　学習指導案事前検討会（歴史的分野「江戸幕府の成立と支配のしくみ」）
【key words】
模擬授業（歴史的分野）、学習指導案細案検討
【授業概要】
①　学生が進行し学習指導案の検討会を行う。（授業者の説明→参観者の質問・意見→教員の指導助言）
②　公民的分野の基本的な指導方法について理解する。
③　学習指導案の基本的な書き方を復習する。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】「江戸幕府…」の授業者は、シミュレーションを重ね、指導案を修正し授業に臨む。
【復】「江戸幕府…」の授業者は、検討会でのアドバイスを受け、指導案を修正しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２２回　模擬授業④（歴史的分野「江戸幕府の成立と支配のしくみ」、授業研究会④（授業者は代表学生２名）
【key words】
模擬授業（歴史的分野）、授業研究会、省察
【授業概要】
①　模擬授業（50分間）、授業研究会（35分間）を実施する。授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、学生は、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導する。
②　省察のため、教師または学生代表者がビデオ撮影をする。
③　対面・遠隔のどちらでも模擬授業ができるようにしておく。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】「江戸幕府…」授業者はシミュレーション、指導案修正を重ね授業に臨む。
【復】授業者・参観者ともに、授業を振り返り、次の模擬授業や教育実習に役立てる。
【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第２３回　教材研究（地理的分野「世界と比べた日本の平野」プレゼンテーション　各自が調べたことを発表する。）
【key words】
学習指導案細案、学習指導要領・解説
【授業概要】
①　指導するのに必要な教師としての知識について、全員がキーワードを選び、パワーポイントにてプレゼンテーションをする。
②　「世界と比べた日本の平野」の授業者は、授業展開を説明する。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】プレゼンテーション担当者は準備をして、授業に臨む。
【復】「世界と比べた日本の平野」の授業者は、学習指導案を作成しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第２４回　学習指導案事前検討会（地理的分野「世界と比べた日本の平野）」
【key words】
模擬授業（地理的分野）、学習指導案細案検討
【授業概要】
①　学生が進行し学習指導案の検討会を行う。（授業者の説明→参観者の質問・意見→教員の指導助言）
②　地理的分野の基本的な指導方法について理解する。
③　学習指導案の基本的な書き方を復習する。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】「世界と…」の授業者は、シミュレーションを重ね、指導案を修正し授業に臨む。
【復】「世界と…」の授業者は、検討会でのアドバイスを受け、指導案を修正しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90～120分

第２５回　模擬授業⑤（地理的分野「世界と比べた日本の平野」）、授業研究会⑤（授業者は代表学生２名）
【key words】
模擬授業（地理的分野）、授業研究会、省察
【授業概要】
①　模擬授業（50分間）、授業研究会（35分間）を実施する。授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、学生は、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導する。
②　省察のため、教師または学生代表者がビデオ撮影をする。

③　対面・遠隔のどちらでも模擬授業ができるようにしておく。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】「世界…」授業者は、シミュレーション、指導案修正を重ね授業に臨む。
【復】授業者・参観者ともに、授業を振り返り、次の模擬授業や教育実習に役立てる。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２６回　社会科授業におけるＴＴ、社会科におけるノート指導とワークシート（各自のレポートを基に討論会を行う。）
【key words】
Ｔ・Ｔの意義、Ｔ・Ｔの学習指導案
【授業概要】
①　Ｔ・Ｔの意義、授業の仕方、学習指導案の作成について学生が作成した資料を用い、話し合う。
②　学生が司会・板書をしながら討論を進める。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】Ｔ・Ｔの意義、ノート指導とワークシートを使用した指導についてまとめ、授業に臨む。
【復】社会科授業でのＴ・Ｔの実践についてまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２７回　模擬授業⑥（TT）、授業研究会⑥（授業者は代表学生有志２名）
【key words】
Ｔ・Ｔ、　Ｔ・Ｔの指導方法
【授業概要】
①　模擬授業（50分間）、授業研究会（35分間）を実施する。授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、学生は、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導する。
②　省察のため、教師または学生代表者がビデオ撮影をする。
③　対面・遠隔のどちらでも模擬授業ができるようにしておく。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】「Ｔ・Ｔ」の授業者は、授業シミュレーション、指導案修正を重ね、授業に臨む。
【復】授業者・参観者ともに、授業を振り返り、次の模擬授業や教育実習に役立てる。
【予習復習に必要な想定時間】
90～180分

第２８回　教育実習に必要な社会科教師の知識について①（中学・高校教科書、教師用指導書、教採過去問より）
【key words】
知識の修得
【授業概要】
①　中学校・高校教科書、教師用指導書、学習指導要領・解説、教採過去問題集を用い、必要最低限の知識は必ず習得する。
②　「学修ノート」に①の軌跡を整理する。
【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】中高教科書の重要語句を中心に「学修ノート」に学修の軌跡を記録し授業に臨む。
【復】引き続き、中高教科書の重要語句を中心に「学修ノート」に学修の軌跡を記録する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２９回　教育実習に必要な社会科教師の知識について②（中学・高校教科書、教師用指導書、教採過去問より）
【key words】
知識の修得
【授業概要】
①　中学校・高校教科書、教師用指導書、学習指導要領・解説、教採過去問題集を用い、必要最低限の知識は必ず習得する。
②　「学修ノート」に①の軌跡を整理する。

【教科書ページ・参考文献】
①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】中高教科書の重要語句を中心に「学修ノート」に学修の軌跡を記録し授業に臨む。
【復】引き続き、中高教科書の重要語句を中心に「学修ノート」に学修の軌跡を記録する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第３０回　１年間のまとめ（含む教育理論）、シャトルカードのまとめ欄への記入
【key words】

	教育理論、目指す社会科教師像 【授業概要】 ①　１年間の学修を振り返り、自己の成長や課題を知る。 ②　社会科授業に使える教育理論について知る。 ③　目指す社会科教師像についてのプレゼンを行う。 ④　「学修ノート」を仲間と見合い、仲間の良さを学ぶ。「学修ノート」を教員に提出する。 【教科書ページ・参考文献】 ①教科書「新版新しい社会公民」東書、「社会科中学生の地理」帝国・「新しい社会歴史」東書、「中学校社会科地図」帝国、②「学習指導要領（社会編）日文、③担当自作の配布資料をテキストとする。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】目指す社会科教師像のプレゼンの準備、「学修ノート」を整理し、授業に臨む。 【復】年度末筆記試験準備の学修を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関する情報〕 ・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行う。 ・本授業は、対面または遠隔とする。 〔受講のルール〕 ・対面授業で配布する資料の予備は保管しないので、欠席者は出席者からコピーをとる。 ・遠隔授業では、授業の数日前までには授業資料を送信するので、印刷または画面で見られるようにしておく。 ・遠隔授業では、不具合が生じないよう準備する。しかし、遠隔授業中、不具合が生じたらチャット等で担　教員に報告する。 ・シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨む。 ・欠席・遅刻・早退は担当教員及び教務課に必ず申し出る。 ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁とする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード、 Webポータル内のスレッドでのコメント（遠隔授業）
授業外時間にかかわる情報	①　社会科教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等には目を通す習慣を身に付ける。 ②　月３冊以上の読書をする。 ③　教科書としてあげた 1）中学校生徒用教科書「新版　新しい社会　公民」東京書籍、2）中学校生徒用教科書「新しい社会　歴史」東京書籍、3）中学校生徒用教科書　「社会科中学生の地理」帝国書院、4）中学校生徒用地図帳「中学校社会科地図」帝国書院、5）「中学校学習指導要領解説（社会編）平成29年７月」日本文教出版「中学生徒用教科書」は熟読しておく。
オフィスアワー	火曜日：9時～12時、水曜日：9時～12時
評価方法	学期末試験（50%）、ミニテスト（30%）、学習指導案の作成・模擬授業（20%）
教科書	①中学校生徒用教科書「新版　新しい社会　公民」東京書籍、②中学校生徒用教科書「新しい社会　歴史」東京書籍、③中学校生徒用教科書　「社会科中学生の地理」帝国書院、④中学校生徒用地図帳「中学校社会科地図」帝国書院、⑤「中学校学習指導要領解説（社会編）平成29年７月」日本文教出版、 ⑥その他授業担当者が適宜配布する資料をテキストとして使用する。
参考書	・近藤裕幸：「まずやってみる実践重視の中学校社会科教育法」梓出版社、2012年 ・その他、講義の中で、随時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 社会科教員専修免許状（中：社会、高：地歴・公民）を持ち、群馬県教育委員会指導主事として、中学校社会科教員の指導に４年間携わった。本授業では、担当教員が、学生の実態に応じ、アクティブ・ラーニングを取り入れた示範授業や学習指導案を提示し、授業の流れを体得してもらうなど、現場経験を生かし、実践的な指導を行っている。公民に力点を置くが、大学３年次の教育実習に備え、他２分野（地理的分野・歴史的分野）でも学生の模擬授業を実施している。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用

	■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　知的障害教育Ⅰ　　授業コード：S5301

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
大谷　幸雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　特別支援教育では最も対象者の多い障害種である知的障害について理解し、その教育の基本的な事項が理解できる。 【到達目標】 　①知的障害児の特性について理解できている。 　②知的障害教育の基本的な事項（教育課程、考え方、指導形態、指導方法など）が理解できている。 　③特別支援学校学習指導要領について理解できている。
授業の概要	講義を通して知的障害児の行動特性を理解する。また、知的障害児の学習指導要領の変遷、知的障害児のあゆみ、知的障害教育の歴史や知的障害児の現況について学習することにより、知的障害教育全般について幅広い知見を得る。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション（知的障害とは　　知的障害児の心理と行動傾向について） 【key words】 知的障害児について　　定義　　障害程度　　知能　　行動 【授業概要】 １５回の講義内容説明。　知的障害児の持つイメージについて。　知的障害児との接点を振り返る 　知的障害児とは（障害の程度、心理、行動、知能、運動機能、認知、記憶等）について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 資料提示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指定された次回の資料の範囲を予習する。今回の復習と整理。知的障害児との接点、知的障害児のイメージ、どう係わりたいかをレポート①にし、提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分～６０分
	第２回	障害種について　　発達障害との関係　　知的障害に関する法律について 【key words】 障害種　　知的障害　　発達障害　　就学免除　就学猶予　　学校教育法他 【授業概要】 他の障害との関係、比較について　　法律面から　　障害の違いについて　　知的障害児の個性について 【教科書ページ・参考文献】

資料提示
【課題・予習・復習・授業準備指示】
今回の復習、次回の予習　　次回以降学習指導要領と同解説書を持参する。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第３回　知的障害児の歴史　　知的障害教育の歴史
【key words】
知的障害児の歴史　　差別　　養護学校の義務化

【授業概要】
知的障害児と知的障害教育について　　その歴史と歩み　　養護学校の義務化　　特殊教育と特別支援教育

【教科書ページ・参考文献】
提示資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
知的障害児と教育の変遷について、学んだことを自分なりに復習し整理する。次回の予習。知的障害児の理解を深める。学習指導要領と同解説書を持参する。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分～６０分

第４回　学習指導要領の変遷、学習指導要領の位置づけ、学習指導要領について考える　知的障害教育の教育課程（１）　　学習指導要領について
【key words】
法的根拠　　学習指導要領の歩み　　解説　　教育課程

【授業概要】
知的障害児の指導と知的障害児の特性など考慮して、どのような配慮が必要かを考察し、さらに知的障害児教育の現在の教育課程に至るまでを理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐｐ．１ー３５、８０－８７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学習指導要領及び解説に親しみ熟読して内容を理解する。学習指導要領と同解説書を持参する。次回以降に自分で調べた課題について発表するので準備をする。
【予習復習に必要な想定時間】
４０～６０分

第５回　学習指導要領　　教科・領域別の指導について
【key words】
知的障害教育の教育課程（２）　教科別の指導について　　教科　　国語　算数　音楽　他

【授業概要】
発表　　教科書より障害教育の教育課程について理解する。他の障害児の教育課程と知的障害教育の教育課程の違いについても考察する。　そして、教科・領域別指導について考える。

【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐｐ.３８－５５、　８０－８７．　９４－９７．１０８－１１５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特別支援学校学習指導要領、同解説を読み復習する。次回使用する資料配付、熟読しておく。次回ミニテストあり
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第６回　教科・領域を合わせた指導について（日常生活の指導）
【key words】
日常生活　　日常の生活　　遊び　　学習

【授業概要】
発表　　領域・教科を合わせた指導の一つである日常生活の指導について学ぶ。それぞれ領域、教科をする場合の教科の内容、及びメリット、デメリット等についても検討する。復習のミニテスト実施①

【教科書ページ・参考文献】
教科書p.８８－９３　　１１２－１１５　　特別支援学校学習指導要領解説　　資料配付
【課題・予習・復習・授業準備指示】
知的障害と他の障害の教科の違いについて。教科の学習と合わせた指導の仕方など、混乱しないよう十分復習しておくこと。次回の資料配付、熟読しておく。次回復習ミニテスト予定
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第７回　教科・領域を合わせた指導について（遊びの指導、生活単元学習）
【key words】
遊び　　生活　　学習　　集団　　単元

【授業概要】
発表　　知的障害特別支援学校で主に実施されている指導形態の一つである遊びの指導、生活単元学習について理解する。復習のミニテスト②実施

【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐｐ８８－９３．１１２－１１５

【課題・予習・復習・授業準備指示】
知的と他の障害の教科の違い、教科の学習と合わせた指導の仕方など十分復習しておくこと。復

習のミニテス予定
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第８回　教科・領域を合わせた指導について（生活単元学習）
【key words】
領域・教科を合わせた指導　日常の活動　単元

【授業概要】
発表　知的障害特別支援学校で一番知られている「生活単元学習」についていくつか事例を挙げ、詳しく検討する。復習のミニテスト③実施

【教科書ページ・参考文献】
参考：阿部芳久　知的障害児の特別支援教育入門　日本文化科学社　２００６他
【課題・予習・復習・授業準備指示】
領域・教科を合わせた指導について理解する。次回使用の配付資料を読んでおく。次回ミニテスト④実施。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第９回　教科・領域を合わせた指導について（作業学習）キャリア教育
【key words】
領域・教科　園芸　農業　陶芸　木工　紙工　各種の作業

【授業概要】
ミニテスト④実施。主に中学部や高等部において実施することの多い指導形態の１つである作業学習について、いくつかの事例を挙げ説明する。

【教科書ページ・参考文献】
参考書　阿部芳久　知的障害児の特別支援教育入門　日本文化科学社　２００６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分でも作業学習について調べて理解を深める。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第１０回　自立活動の指導について
【key words】
自立活動　養護・訓練　６領域

【授業概要】
特別支援教育の教育課程では特に重要な自立活動について、変遷や概要、意義等について理解する

【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐｐ９８－１０３、１１６－１２８　参考書：前回同様

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自立活動について復習し理解を深める。次回の準備。
知的障害児の教育における学習形態について自分なりの考えをレポート②提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第１１回　学校参観　調査発表　特別支援学校と特別支援学級の学級経営について
【key words】
教育現場の実情　授業　諸問題

【授業概要】
県内の知的障害の特別支援学校の授業の様子を参観し、学校現場の授業の様子を知る
（参観出来ない場合は各地の知的障害特別支援学校の様子を資料を通して知る。各自調べた特別支援学校について発表する）

【教科書ページ・参考文献】
教科書全般　参考資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
参観（調査）した学校で感じたことや調査で出てきた課題などを含めた感じたことをレポート③にし提出する
知的障害児・者の進路問題について調べておく
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第１２回　特別支援学校と特別支援学級の指導方法について
【key words】
特別支援学校　知的障害　授業　知的障害教育

【授業概要】
前回に続いて各特別支援学校、特別支援学級で行われている教育実践の実際を検討する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐｐ．６４－７７　１０４－１０７　１３２－１３９　教科書　特別支援学校学習指導要領、配付資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
知的障害教育特別支援学校の現状と課題を理解する。
【予習復習に必要な想定時間】

	復習２０分、予習３０分 第１３回　個別の指導計画と個別の教育支援計画について 【key words】 個別支援　教育支援計画　指導計画 【授業概要】 個別の教育支援計画とは、また、個別の指導計画とは、個別の支援計画全般から眺めて説明する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp.６０－６３　参考資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 障害児・者の一生を眺めて計画される観点から教育現場でおこなわれている各支援計画と指導計画を理解する 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分 第１４回　学校卒業後の課題　進路問題について　キャリア教育について 【key words】 進路　トラブル　サポート　卒業後の課題　卒業前に対応する課題　キャリア教育 【授業概要】 知的障害者の学校卒業後の進路の現状、そこから見える課題と学校現場で求められている課題について考察する。学生各個人が調査したものを元に、そこから見えてくる課題や問題点を出しながら進め、直面してい　る問題から学校教育を見直してみる。 【教科書ページ・参考文献】 テキストｐｐ、５６－５９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業以外でも情報を集めて、進路問題に対して障害者の直面する課題の認識を深める 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分 第１５回　特別支援教育の展望と課題について 【key words】 学校卒業後の課題　社会生活　支援体制 【授業概要】 中学校卒業後すぐ社会に出る状態から後期教育の重視が叫ばれ、高等部進学が増えたが、新たなる課題が出てきた現状について講義する。講義等を通して知的障害教育の認識が深まったか話し合う。知的障害児の一　貫した取り組みの現状を理解し、どのような社会が今後どのような社会にしたいかを含め、自分の考えをまとめてレポート④を提出する。 【教科書ページ・参考文献】 資料提示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義で出てきた知的障害教育の問題点、課題等を整理し、概要をまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に係わる情報〕 ①講義の回数に応じて若干授業内容がずれる場合がある。 ②講義では予定のミニテスト以外に確認の意味でミニテストを実施する。 〔受講のルール〕 ①特別支援教育に進路を決めている学生は将来担当することが十分考えられるので、その自覚をもって授業に臨むこと。 ②予習、復習は必ず行うこと。参考書、資料にも目を通し熟知することが大切である。 ③他の学生に迷惑になる行為（私語、携帯電話の操作等）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	①予習、復習はその都度指示されなくても毎回実施すること。 ②学習の一環として要求された感想文や課題は提出期限を守って提出すること。
オフィスアワー	質問があれば授業終了後１０分間に質問、メールも可、またはシャトルカードに記載すれば次回以降に対応する。
評価方法	①レポート・ミニテスト・発表（内容、適切さ）６０％ ②筆記試験（客観的、論述）４０％ 総合評価は①②の合計が６０％を超えていること
教科書	全日本特別支援教育研究連盟：「平成29年版特別支援学校新学習指導要領ポイント整理　特別支援教育」　東洋館出版社2018　・文部科学省「特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領」海文堂書店2018　・文部科学省「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）2018
参考書	授業の中で適宜紹介、またはプリント配付する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 盲教育６年、知的障害教育２５年、肢体不自由教育５年の教育現場で実践教育を積み重ねる。特

	に障害の重い児童生徒との係わりを通して学んだこと、感じたこと、更に発達障害児の現場などを通して特別支援教育全般について幅広く講じます。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　肢体不自由教育Ⅰ　　授業コード：S5311

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
大山　知恵子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 肢体不自由教育の基礎となる用語・概念を習得する。また、関連する諸課題についての理解と自らの視点から課題を捉える力が涵養される。 【到達目標】 １　肢体不自由教育の基礎基本を習得する。（知識・理解） ２　肢体不自由教育に関わる教育・心理・医学等の多角的な視点を身につける。（思考） ３　知識を他者に表現することができる。（表現）
授業の概要	肢体不自由児の教育に関する教育・心理・生理・検査・歴史等について概説する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	△
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテ-ション、肢体不自由の定義、合理的配慮 【key words】 肢体不自由とは　脳性麻痺 【授業概要】 肢体不自由とはどういう状態であるか、肢体不自由の原因にはどんなものがあるか等について。 【教科書ページ・参考文献】 1ページ～3ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 肢体不自由とはどういうものか、まとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第２回	肢体不自由の骨格と関節、筋肉と神経系、脳機能と診断 【key words】 先天性疾患　二次障害 【授業概要】 人の身体の骨格や関節のおおまかな仕組みや筋肉や脳のおおまかな働き等について。骨や関節の先天性疾患や脳性麻痺における二次障害について。 【教科書ページ・参考文献】 4ページ～15ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 先天性疾患としてあげられる疾病を調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第３回	肢体不自由の医学的理解、脳性まひ、重度重複化 【key words】 自閉症スペクトラム障害　未熟児 【授業概要】 脳障害の広がりに伴う麻痺以外の、前頭葉機能障害や視知覚認知障害や、脳性麻痺の様々なタイプについて。 【教科書ページ・参考文献】

		16ページ～23ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 未熟児がかかえる問題について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第４回	肢体不自由の心理特性、行動特性 【key words】 認知の障害　抽象的思考活動　社会性の発達 【授業概要】 肢体不自由児は移動運動に制限があることが多く、それが原因となって起こる様々な発達の遅れや、脳損傷によって起こる特徴的な行動特性について。 【教科書ページ・参考文献】 24ページ～27ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 移動制限がもたらす弊害についてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第５回	肢体不自由児の社会的理解 【key words】 自己受容　社会的受容 【授業概要】 我が国で定着している障害受容の定義について。肢体不自由者に対する態度とその変容について。 【教科書ページ・参考文献】 28ページ～31ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 肢体不自由児（者）と接した経験についてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第６回	肢体不自由教育におけるアセスメントの意義と活用、知能検査、運動検査の方法と活用 【key words】 フォーマル・アセスメント　インフォーマル・アセスメント 【授業概要】 肢体不自由教育における実態把握のための、WISC－ⅣやGMFM（粗大運動能力尺度）等のアセスメントの方法と活用の仕方について。 【教科書ページ・参考文献】 32ページ～39ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 WISC－Ⅳについて調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第７回	肢体不自由教育における　知覚・認知検査、感覚検査、言語検査の方法と活用 【key words】 空間認知　基礎感覚 【授業概要】 知覚・認知検査、感覚検査、言語検査の方法を知ると共に検査結果から見えてきた児童の実態に対して、どのような支援ができるかについて。 【教科書ページ・参考文献】 40ページ～45ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 検査結果を活かす支援についてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第８回	肢体不自由教育における　発達検査、行動観察、学力検査の方法と活用 【key words】 遠城寺式・乳幼児分析的発達検査法　CRT・NRT 【授業概要】 発達検査、行動観察、学力検査の方法を知ると共に検査結果から見えてきた児童の実態に対して、どのような支援ができるかについて。 【教科書ページ・参考文献】 46ページ～51ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 検査結果を活かす支援についてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第９回	動作法、静的弛緩誘導法、感覚統合療法の基礎 【key words】 課題－意図－努力－身体運動 【授業概要】 動作法の歴史や心理リハビリテーションキャンプ、動作法の理論等について。 【教科書ページ・参考文献】 52ページ～53ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 動作法について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第１０回	肢体不自由教育の歴史（戦前）、高木憲次、学校の設立 【key words】 高木憲次　整肢療護園　柏学園 【授業概要】 肢体不自由教育の発展に関わる、田代義徳氏、高木憲次氏、柏倉松蔵氏等の業績について。 【教科書ページ・参考文献】

	56ページ～63ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 肢体不自由教育の発展に関わった先人の中から、一人を選んで調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分 第１１回　肢体不自由教育の歴史　　公立養護学校整備特別措置法成立と養護学校の整備、学習指導要領の制定と改訂 【key words】 盲学校、聾学校の義務制実施　養護学校の義務制 【授業概要】 盲学校、聾学校の義務制が実施されその後養護学校が義務化されるまでの経緯、肢体不自由養護学校の学習指導要領の制定についてなど。 【教科書ページ・参考文献】 64ページ～67ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学習指導要領を読む。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分 第１２回　肢体不自由教育の歴史　　養護学校義務制、自立活動の成立と意義、特別支援学校の理念と制度 【key words】 就学猶予・免除 【授業概要】 養護学校教育の義務制の実施により、どのような子どもが教育を受けられるようになったかについて。障害のある子どもに対して行われた養護・訓練から自立活動へと変わっていった経緯について。 【教科書ページ・参考文献】 68ページ～75ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 就学猶予・免除についての自分の考えをまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分 第１３回　肢体不自由特別支援学校、肢体不自由特別支援学級の現状と課題、通級による指導の現状と役割 【key words】 障害の重複化 【授業概要】 肢体不自由の特別支援学校、特別支援学級、通級による指導の特別支援教育における、それぞれの現状と課題、それぞれの役割について。 【教科書ページ・参考文献】 76ページ～81ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 障害の重複化に伴い、発生する問題についてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分 第１４回　小中学校等における肢体不自由児の教育的ニーズ、特別支援教育に関わる法令、個別の教育支援計画に基づく連携 【key words】 PT　OT　ST　バリアフリー 【授業概要】 「教育内容・方法の工夫」「支援体制の整備」「施設・設備の整備」の３つの観点から考える、肢体不自由児の教育的ニーズの実際、特別支援教育に関わる法令、支援の質に向上につながる個別の教育支援計画等について。 【教科書ページ・参考文献】 82ページ～87ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 PT　OT　STの用語を詳しく調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分 第１５回　肢体不自由教育のまとめ 【key words】 教員の役割 【授業概要】 肢体不自由教育に関わろうとする教員として、何を考え何をしていくべきかそれぞれの考えを述べる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書全ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 他の人の発表を聞いての感想をまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
受講生に関わる情報および受講のルール	・遅刻、欠席は必ず届けること。 ・積極的な授業参加、予習を求めます。 ・他の学生の迷惑となる行為（私語、スマホの操作等）、授業の流れや雰囲気を壊す行為は退席とし、欠席扱いとします。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード　ノート
授業外時間にかかわる情報	特別支援教育に関する情報に普段から触れておくこと。　（新聞、ニュース等からの情報収集） 特別支援教育の現場を知ること。　（見学、ボランティア等）
オフィスアワー	授業の前後10分間
評価方法	定期試験（50%）　ノート提出（30%）　授業への取り組み（コメントカードの内容、発言等）

	（20%）
教科書	安藤隆男・藤田継道編書「よくわかる肢体不自由教育」　2017　ミネルヴァ書房
参考書	特に指定しない
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 教員として特別支援教育に携わってきた。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 言語障害について、外部講師を招いて講義をしてもらう。

講義科目名称： 特別支援教育総論　　授業コード： S5321

英文科目名称： Introduction to Special Needs Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
久田　信行			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 特別支援教育とは何か、その全体像を理解すること。障害児教育の教育思想、歴史、制度、障害の特性、教育課程、教育方法の入門的な事項を学ぶことを通じて、特別支援教育の全体的な見通しを把握することが目的である。 【到達目標】 特別支援教育の教育思想，歴史，教育制度、法規、教育課程、教育方法等の基礎となる事項を幅広く学び、特別支援教育の基本的な考え方を身につけることが本授業の目標である。
授業の概要	目的に接近するため、障害児の心理・生理・病理を学ぶ意義や教育課程・指導方法を学ぶ必要を実践例を元に解説する。 「アクティベート教育学07　特別支援教育」を教科書として用い、特別支援教育に関する基本的通知や学習指導要領等の文書を適宜参照しつつ、講義形式を中心に、一部、project based learning (PBL)などアクティブ学習を加えて実施する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	特別支援教育の理念と制度（１） 【key words】 障害　ICF(国際生活機能分類)　障害者の権利条約　共生社会　インクルージョン 【授業概要】 「障害」の定義をICFの図式から検討する。障害の全体像を俯瞰し、権利条約が強調している障害者の尊厳を理解し、権利条約と教育の関連へと目を向けてもらう 【教科書ページ・参考文献】 教科書p.1-14.　教育支援資料　p.1～序論，p.5～ICF 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の第1章を読んでくる 【予習復習に必要な想定時間】 40分
	第２回	特別支援教育の理念と制度（2） 【key words】 特別支援学校　特別支援学級　通級による指導　交流及び共同学習 【授業概要】 特別支援教育を支える、特別支援学校、特別支援学級、通級による指導および交流及び共同学習について学び、1回目の基礎的考え方との関連を考える。関連については小グループの討論を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書　第2章　p.15-29. 文部省　初等中等教育局長「特別支援教育の推進について（通知）」平成19年 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記資料を読んでくる 【予習復習に必要な想定時間】

50分

第３回　通常の学級担任の気づきとアセスメント

【key words】
アセスメント　仮説設定　学級経営　学級集団づくり
【授業概要】
通常の学級における特別支援教育のありかたや担任の役割について、気づきとアセスメントを中心に解説
【教科書ページ・参考文献】
教科書第3章　p.31-49.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書第3章を読んでくる
【予習復習に必要な想定時間】
50分

第４回　発達障害の心理特性（１）――ＬＤ，ＡＤＨＤ

【key words】
学習障害　注意欠如多動性障害　脳障害児　認知特性　学習　行動特性
【授業概要】
学習障害と注意欠如多動性障害の特徴を学ぶ事を通じて、教科書　第4章　p.51-62. と参考書の青山・岩瀬編「インクルーシブ教育を通常学級で実践するってどういうこと？」の第1章を読んでくること「障害特性」「認知特性」、「行動特性」といった視点の特徴とインクルージョンという視点との違いを解説

【教科書ページ・参考文献】
教科書　第4章　p.51-62. と参考書の
青山・岩瀬編「インクルーシブ教育を通常学級で実践するってどういうこと？」の第1章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第1章を読み、自らの小学校時代に障害児と接した経験を振り返ってくる
【予習復習に必要な想定時間】
70分

第５回　発達障害の心理特性（２）――ＡＳＤ，軽度知的障害

【key words】
自閉スペクトラム症　軽度MR　境界線級知能　特別支援学級
【授業概要】
ASDや知的機能に遅れのある子どもたちの指導について、強みを活かした支援と集団づくりなどについて解説する
【教科書ページ・参考文献】
教科書p.63-79.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を読み、特にASDの特徴について前回のLD.ADHDと比較して整理する
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　視覚障害と聴覚障害

【key words】
盲　弱視　視覚障害教育　点字　歴史　訓盲院　聾　手話　口話　聴力検査　歴史　訓盲唖院
【授業概要】
我が国の障害児教育の開始時点を振り返ることで、その当時の人々が、障害のどのような側面に注目し、どのようなアプローチをしたかを学ぶことで、当時の障害者の置かれていた状況も推察する

【教科書ページ・参考文献】
教科書　第7章　p.99-111.　　久田信行　2009　盲唖学校の成立と山尾庸三　―吉田松陰の思想と時代背景―　群馬大学教育実践研究，　第 26号，89～100頁.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当部分と参考文献を読んでくる
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱の教育

【key words】
知的障害　知能の発達　知能の測定（知能検査）　生活中心教育と生活単元学習　肢体不自由　高木憲次　整肢療護園　動作法　自立活動　慢性疾患　病弱　虚弱　学習空白
【授業概要】
知的障害、肢体不自由、病･虚弱の教育について概略を講義する

【教科書ページ・参考文献】
教科書　第7章　P.112-129.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を読み，インターネットで高木憲次について調べておく。余裕があれば、key wordsの中の分からない事項を調べておく
【予習復習に必要な想定時間】
70分

第８回　特別の指導「自立活動」

【key words】
養護・訓練　自立　国際生活機能分類（ICF）　区分　項目
【授業概要】
自立活動の歴史と教育課程上の位置づけを中心に概略を理解し、ICFとの関連で、個別の教育支援計画と自立活動の関連を解説する
【教科書ページ・参考文献】
教科書を読み、特にp.160-161の図9-2について学習指導要領　自立活動編の該当部分を確認しておく
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記資料を読んでくる
【予習復習に必要な想定時間】

		60分
	第９回	「通級による指導」での指導の実際 【key words】 通級指導教室　教室と学級　自立活動　教科の補充的指導 【授業概要】 「通級による指導」の主要な内容は自立活動であることが意外に知られていない。教育制度としての位置づけと、現状を解説する 【教科書ページ・参考文献】 教科書　P.165-182.　群馬県教委リーフレット「群馬県小・中学校、高等学校における通級による指導」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書第10章を読み、さらに第11章(特別支援学級) も読んで,両者の違いを整理しておく 【予習復習に必要な想定時間】 80分
	第１０回	特別支援学級での指導の実際 【key words】 特別支援学級の種類　交流及び共同学習　特別な教育課程 【授業概要】 特別支援学級の重要性は高まっており、その制度としての位置づけを整理するとともに、どのような支援が出来るかを解説する 【教科書ページ・参考文献】 教科書　P.183-198. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を読み、特に交流と共同学習の違いをネットなどで調べる(ヒント：参議院議事録で「共同学習」を調べる) 【予習復習に必要な想定時間】 80分
	第１１回	ＩＣＴ機器の活用と指導の実際 【key words】 GIGAスクール　ICT活用事例　群馬県の"I can project" 【授業概要】 特別支援教育におけるICTの活用の意義、ICT機器の活用事例などを解説し，個々の児童生徒の思考に働きかける際の留意点について検討する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書　P.199-210. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を読んでくる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１２回	個別の教育支援計画と個別の指導計画 【key words】 個別の教育支援計画　個別の指導計画　特別な教育的ニーズ　PATH　実態把握　課題関連図 【授業概要】 個別の教育支援計画等の法的根拠や推移を解説し、その意義、計画立案に不可欠な要素などをPATHの技法などを通して検討する 【教科書ページ・参考文献】 教科書　p.211-226.　　干川隆「教師の連携・協力する力を促すグループワークPATHの技法を用いた試みの紹介ー」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書と干川論文を読んでくる 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１３回	特別支援学校の特別支援教育コーディネーターの役割 【key words】 校内支援体制　特別支援教育に関する委員会(校内委員会)　　コーディネーター　学校カウンセラー　学校ソーシャルワーカー 【授業概要】 小中学校の校内支援体制を支える考え方、校内組織、校内・校外との連携などについて解説する 【教科書ページ・参考文献】 教科書　P.227-239. 参考文献「発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン」（文部科学省） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書とガイドラインの1-32頁までを予習。特にわかりにくい箇所をピックアップしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１４回	通常の小中学校の特別支援教育コーディネーターの役割　：新ガイドライン 【key words】 旧ガイドラインとの比較　コーディネーター　ケースワーカー　スクールカウンセラー 【授業概要】 通常の学校における特別支援教育の体制整備を新ガイドラインから具体的に理解する 【教科書ページ・参考文献】 「発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン～発達障害等の可能性の段階から，教育的ニーズに気付き，支え，つなぐために～」（文部科学省） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン」（文部科学省）33頁～. 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１５回	関係機関や保護者との連携

	【key words】 障害受容　福祉　労働　保健　医療　地域　家庭 【授業概要】 障害受容など家族の相談と関係機関の連携について検討する あわせて前期全体を振り返り,後期の課題を予告する 【教科書ページ・参考文献】 教科書　241-257. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を読んでくる 【予習復習に必要な想定時間】 40分
受講生に関わる情報および受講のルール	入門的な内容なので、受講の条件は無い。幅広く、特別支援教育の基本的な考え方を学習するので、日常生活の中でも、障害児の教育や福祉の話題について敏感に情報収集し、自ら考えることを努力されたい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	各授業ごとにメールで質問や感想、小レポートを書いてもらいます。
授業外時間にかかわる情報	途中で本を探して読む学習等を求めますので、特別支援教育に関する本を探すようにしておいてください。
オフィスアワー	授業後の30分あるいは昼休み等をあてるので、相談等がある場合はメールで事前に申し込んでください。メールやZOOMによる相談も受けます。
評価方法	授業ごとのメール(コメントカードに替えて) 10%　読書レポート　20%　小レポート　10%　最終レポート　60%
教科書	廣瀬由美子・石塚謙二(編著)「アクティベート教育学07　特別支援教育 」ミネルヴァ書房
参考書	青山 新吾・岩瀬 直樹（著)「インクルーシブ教育を通常学級で実践するってどういうこと？（インクルーシブ発想の教育シリーズ）」学事出版 文科省 「教育支援資料」(平成25年) 及び「発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン」（平成29年）（インターネットで入手のこと）　その他、適宜指示する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 昭和53年から58年まで、北九州市立総合療育センターの臨床心理士として超早期療育を中心に、各種の障害児への実務を行ってきた。その後、昭和58年から平成4年までは国立特殊教育総合研究所の教育相談を担当し、平成4年から平成24年まで群馬大学で教育相談を担当してきた。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ICTについては、今期内に1回は事前学習の一部にe-learning教材を用いる。

講義科目名称： 障害児支援法総論　　授業コード：S5361

英文科目名称： Support Methods for Person with Special Educational Needs

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
久田　信行			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 障害児教育は、個々の教育的ニーズに応える教育的営みである。この講義では、どのように障害のある児童・生徒の教育的ニーズに応えるか、講義・実習的アクティブラーニングを通じて、教育方法論について体験的に考えられるようになることを目的とする。 【到達目標】 特別支援教育の全体像を理解するためにも、広く障害全般についての理解を深め、その指導方法と教育課程を理解することが必要である。自立活動を中心に方法論の比較が出来るようになることを目標とする。
授業の概要	心身に障害のある子どもの教育課程及びに指導法に関する科目で、視聴知肢病を含む科目である。発達障害児等の指導についても講義する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	△
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	○
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	インクルーシブ教育の基礎 【key words】 特別支援学校　特別支援学級　通級による指導　インクルーシブ教育　学級経営 【授業概要】 通級を含む、幼稚園、小学校、中学校、中等教育学校、高等学校における特別支援教育の制度を理解し、それとインクルーシブ教育の関係を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書　第1章　インクルーシブ発想とは～岩瀬直樹実践が問いかけるもの～ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1章を読み、自らの小学校時代に障害児と接した経験を振り返ってくる 【予習復習に必要な想定時間】 50分
	第２回	ブラインドウォーク、難聴体験 【key words】 ブラインドウォーク、ガイドヘルプ、キャップハンディー、視野 【授業概要】 感覚を制限した状況で、ガイドされて歩く体験を通じて、介護される恐怖や介護する上での配慮事項について検討する。 【教科書ページ・参考文献】 ガイドヘルパーに関する情報 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ネット等で調べてまとめてくる 【予習復習に必要な想定時間】 50分
	第３回	特異な行動の理解と支援　：　いわゆる問題行動へのアプローチ 【key words】

問題行動　離席　他害　常同行動
【授業概要】
いわゆる問題行動について、どう捉え、どう支援していくかを整理する。
【教科書ページ・参考文献】
「特異な行動の理解と支援」という教材
【課題・予習・復習・授業準備指示】
問題行動についてネットで調べてくる

【予習復習に必要な想定時間】
50分

第４回　動作法１　基礎的な自己リラクセーション
【key words】
自己弛緩　リラクセーション　動作法
【授業概要】
動作法の理論と方法を講義し、自己弛緩の方法を練習する
【教科書ページ・参考文献】
動作法に関するネットの情報
【課題・予習・復習・授業準備指示】
情報をまとめてくる
【予習復習に必要な想定時間】
50分
60分

第５回　インクルーシブ教育システム構築への道
【key words】
自立生活運動（IL運動）　ノーマライゼーション　インテグレーション　インクルージョン　インクルーシブ教育
【授業概要】
IL運動の歴史から、ノーマライゼーションという現在の考え方の基礎を学び、具体的にどう学校が変わって来たか海外の例を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　第3章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
IL運動の歴史や我が国での展開をネットで調べてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
50分

第６回　動作法２　基礎的な他者リラクセーション
【key words】
リラクセーションの技法　肩、軀幹、膝、足首
【授業概要】
他者弛緩　身体各部位のリラクセーションの技法を実習する
【教科書ページ・参考文献】
学習指導要領解説　自立活動編
【課題・予習・復習・授業準備指示】
運動動作に関連する部分をいくつか読んでまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
50分

第７回　教育支援資料にみる障害児の教育方法1
【key words】
支援　指導　援助
【授業概要】
教育支援資料は就学支援のための資料であるが、教科書としてもすぐれている。その全体像をまず学習する。
【教科書ページ・参考文献】
文部科学省「教育支援資料」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
上記資料の一部を読む
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　自立活動とICF　：　個別の教育支援計画と個別の指導計画
【key words】
自立活動　心身機能　活動　参加　生活機能　拡大された心
【授業概要】
ICFの図式を参考に、自立活動が担うべき活動と教育全般ではぐくむ活動、参加について学習する。これらの学習を基礎に、どのように社会参加し、地域・社会の人々と連携するかの、枠組みを学習する。
それらを基礎に、個別の指導計画を立てる実習をする。
【教科書ページ・参考文献】
教育支援資料　p.223-240. 久田信行　2011　国際生活機能分類（ICF）の基本的概念と評価の考え方　―「生活機能」と「潜在能力」を中心に―　群馬大学教育実践研究，第28号，179～191頁.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
資料を読んでくる
【予習復習に必要な想定時間】
50分

第９回　教育支援資料にみる障害児の教育方法1；1自閉症児の支援方法
【key words】
自閉症　対人行動　感覚過敏　視覚優位　言語機能
【授業概要】
自閉症児の指導について自らの体験等からディスカッションし、教育支援資料のまとめと比較検討する
【教科書ページ・参考文献】
教育支援資料　p.251-259.

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料を読んでくる。特性に応じた指導の箇所をまとめてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１０回　教育支援資料にみる障害児の教育方法2；ADHD児の支援方法 【key words】 多動　注意散漫　衝動性　薬物療法 【授業概要】 注意欠如多動性障害について指導法を検討する。行動のコントロールが必要なこともあるため、その方法も実習し、留意点についても検討する。 【教科書ページ・参考文献】 教育支援資料　p.251-259. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料を読んでくる。特性に応じた指導の箇所をまとめてくる 【予習復習に必要な想定時間】 60分 60分 第１１回　教育支援資料にみる障害児の教育方法3；学習障害児の支援方法 【key words】 発達障害　障害特性　教科学習　情報処理 【授業概要】 学習障害児発見の歴史　特性の理解ということ　学習困難の諸相　知的障害との関連 【教科書ページ・参考文献】 教育教育支援資料　p.241-250. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料を読んでくる。特性に関して述べられている部分をまとめてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 50分 第１２回　教育支援資料にみる障害児の教育方法4；情緒障害児の支援方法 【key words】 情緒障害　場面緘黙　不登校 【授業概要】 情緒障害児への支援について、場面緘黙児を例に、捉え方と支援の方法について講義し、討論する。 【教科書ページ・参考文献】 教育支援資料P.211-222.　久田，金原，梶，角田，青木(2016) 総説 場面緘黙(選択性緘黙)の多様性-その臨床と教育-,不安症研究，8 巻 1 号 p. 31-45 【課題・予習・復習・授業準備指示】 参考文献を読み、関心のある部分をまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１３回　食事介助と食機能 【key words】 摂食　嚥下　咀嚼 【授業概要】 食事介護を実習し、食物の形態や扱いでどのような体験をするか、様々な条件で調べる 【教科書ページ・参考文献】 ネットで食事介助について調べる（老人介護の情報でも可） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 調べた結果をまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１４回　インクルーシブ教育の実際　：　第２章　インクルーシブ教育をどう実践すればいいのか　PBL2 【key words】 学級経営　自主性　多様性の尊重 【授業概要】 前回の調べ学習の成果を出し合い、インクルーシブ教育を実践する上で必要な事を話し合う。併せて、岩瀬の実践に対する青山の問いかけの意味を探る。 【教科書ページ・参考文献】 教科書　第２章　インクルーシブ教育をどう実践すればいいのか（対談）青山新吾×岩瀬直樹 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第2章のp.88以降を中心に読んでくる 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　行動の自己コントロールといわゆる発達障害児等の対人関係の支援 【key words】 問題行動　離席　飛び出し　他害 【授業概要】 様々な状況で、いわゆる問題行動が発生する。それへの対処を検討するなかで、行動の自己調整が出来る様に教えることが重要になってくる。 【教科書ページ・参考文献】 ネット上の問題行動に関する情報 【課題・予習・復習・授業準備指示】 問題行動というキーワードで対処法を探してまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	指導法・支援法を中心とするが、生理・病理・心理の基礎的理解を前提に授業をするので、予習を充分に行うこと。 実習的な授業も取り入れるので、動きやすい服装で受講して下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状	コメントカード（メールにより質問や感想あるいは小レポートを送ってもらいます）

況の確認方法	
授業外時間にかかわる情報	特別支援学校学習指導要領解説と教育支援資料(webから入手可) を部分的でも良いので予習しておいてください。
オフィスアワー	授業後の30分ないしは昼休み等をあてるので、相談等がある場合は、授業中にお知らせするメールアドレスで事前に申し込んでください。
評価方法	コメントカード　10%　読書レポート　20%　実習への取り組み　10%　最終レポート　60%
教科書	青山 新吾・岩瀬 直樹（著)「インクルーシブ教育を通常学級で実践するってどういうこと？（インクルーシブ発想の教育シリーズ）」学事出版
参考書	廣瀬由美子・石塚謙二(編著)「アクティベート教育学07　特別支援教育 」ミネルヴァ書房，文科省「特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編」「教育支援資料」，「発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン」（新ガイドライン）（後半2編はインターネットで入手のこと）　その他、適宜指示する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 5年間、北九州市立総合療育センターという大規模療育施設で臨床心理士として障害児療育を行ってきた。また、障害児専門の研究所(国立特殊教育総合研究所) の重複障害研究員として10年間教育相談に当たってきた。さらに、24年間大学教員として、教育相談を行ってきた。中心的な方法は動作法で、日本リハビリテイション心理学会認定の指導者資格を有している。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　重複障害教育総論　　授業コード：S5381

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	1単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
大谷　幸雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 （重度）重複障害児の実態把握、重複障害教育の理解。個々の重複障害児に応じた指導の工夫、教材・教具の工夫をすることが重要と理解できる 【到達目標】 ①ヘレン・ケラーの学習の様子が十分理解できている。 ②日本で実践された重複障害児の学習と指導方法が理解できている。 ③重複障害児の実践事例を読み込んで、その学習内容と指導方法が理解できている。
授業の概要	（重度）重複障害児の指導について、ヘレン・ケラーの事例や日本での重複障害教育実践事例を通して考察する。そして、（重度）重複障害児一人一人に応じた支援の工夫や教材・教具の工夫について十分な理解を得る。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション（重度・重複障害児とは　　歴史の中における重複障害児の状況と教育実践） 【key words】 重複障害児　　重度・重複障害児　　重複障害児の歴史　　重複障害児の教育 【授業概要】 障害種について　　重複障害児の概念　　重度・重複障害児とは　　重複障害児の実態　　重複障害児の捉え方　　重度・重複障害児の教育の変遷等について 【教科書ページ・参考文献】 参考：文部省：重複障害教育の手引き　東洋館　昭和４５　　文部省：重複障害児指導事例集　東洋館　昭和５８ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の予習、復習とまとめ　　次回の予習：テキスト「ヘレン・ケラーはどう教育されたか」（pp.1-１８ ）の熟読と予習確認ミニテスト①実施 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分
	第２回	重複障害教育の実践事例検討①　ヘレン・ケラーのケース（その１）ヘレン・ケラーとサリバンとの初対面 【key words】 視覚聴覚障害　　ヘレンの生育歴　　指文字　　食事場面　　サリバンについて　　サリバンとの初対面　　サリバンの教育方針 【授業概要】 予習確認ミニテスト①実施　　目の見えない世界、聞こえない世界の体験　　教育的観点からヘレンの初期の行動を読み取る　　指導者サリバンのヘレン・ケラーに対する対応の仕方につ

いて
【教科書ページ・参考文献】
教科書「ヘレン・ケラーはどう教育されたか」（pp. １－１８）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習を確実にするために時々ミニテストを実施する。本時の箇所からヘレン・ケラーの行動の様子をまとめる。同様の仕方で次回の予習（pp.１８－２６）ミニテスト②実施予定
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第３回　重複障害教育の実践事例検討①　ヘレン・ケラーのケース（その２）ヘレン・ケラーの食事、しつけとサリバンの教育方針
【key words】
食事の様子　つたみどりの家　MugとMilk　ホームシック

【授業概要】
予習確認ミニテスト②　ヘレン・ケラーの学習前の様子　学習の方法　学習に対する取り組み　学習上のトラブル　身振りサインについて
【教科書ページ・参考文献】
教科書「ヘレン・ケラーはどう教育されたか」（pp. １８－２６）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習の確認ミニテスト③実施予定。　本時の箇所からヘレン・ケラーの行動の様子をまとめる。同様の仕方で次回の予習（pp.２６－４２）をする。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第４回　重複障害教育の実践事例検討①　ヘレン・ケラーのケース（その３）つたみどりの家から自宅に
【key words】
様々なトラブル　MUG　MILK　WATER　学習の混乱　井戸小屋　物には名前が？

【授業概要】
予習確認ミニテスト③　教科書の記事を通してヘレン・ケラーに対するサリバンの教育について確認する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書「ヘレン・ケラーはどう教育されたか」（pp. ２６－４２）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の記述の理解。次回の予習（pp.４２－８８）をする。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第５回　重複障害教育の実践事例検討①　ヘレン・ケラーのケース（その４）物には名前がある
【key words】
MUG　MILK　WATER　行動の変容　文章作成　色の名

【授業概要】
教科書の記事の確認と映像を通してヘレン・ケラーの教育について再認識をする。
【教科書ページ・参考文献】
教科書「ヘレン・ケラーはどう教育されたか」（pp. ４２－８８）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の記述と映像の比較をし整理する。次回の予習をする。ヘレン・ケラーの教育について整理する。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第６回　重複障害教育の実践事例検討①　ヘレン・ケラーのケース（その５）物には名前があることが理解できたヘレン・ケラーのその後
【key words】
手話　単語　語い数　文章構成　疑問噴出

【授業概要】
物に名前があると理解した後のヘレン・ケラーの様子を学ぶ。前回の映像の続きと教科書の記述の確認。

時系列にまとめる。
【教科書ページ・参考文献】
教科書「ヘレン・ケラーはどう教育されたか」（pp. ４２－８８）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書「ヘレン・ケラーはどう教育されたか」（pp. ８８－最期）の予習（時系列に）
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分
今まで学習したヘレン・ケラーの歩みについてまとめる。感想文予告。

第７回　重複障害教育の実践事例検討①　ヘレン・ケラーのケース（その６）成長したヘレン・ケラー
【key words】

成人した姿　来日したヘレン・ケラー

【授業概要】
ヘレン・ケラーがどのような支援の仕方で大人になれたか、どのような考え方をしていたかを教科書、映像から理解する。
【教科書ページ・参考文献】

教科書「ヘレン・ケラーはどう教育されたか」（pp. ８８－最後）　　次回の予習（配付資料）。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ヘレン・ケラーのまとめ。感想文①の提出。次回の予習（配付資料）
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第８回　重複障害教育の実践事例検討②　Y盲学校における盲ろう児の指導実践
【key words】
視覚・聴覚障害　　ことば　　身ぶりサイン　　発声　　見本合わせ学習　　手話

【授業概要】
戦後日本で行われた重複障害児の教育実践事例を検討し、重複障害教育について考察する。残っている映像から様子を知る。
【教科書ページ・参考文献】
志村　太喜彌：　「重度･重複障害児の教育」コレール社１９８９　他資料提供
【課題・予習・復習・授業準備指示】
日本で実践された重複障害教育を理解する。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第９回　重複障害教育の実践事例検討③　G盲学校における弱視ろう児の指導実践
【key words】
弱視・聴覚障害　　目の使い方　　形の学習　　文字の学習

【授業概要】
弱視で聴覚障害児の学習の様子を実践事例を通して学習する。
【教科書ページ・参考文献】
大谷：「弱視難聴児の初期学習」　重複障害教育研究所研究報告書
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業の実践事例のまとめ　　ヘレン・ケラーの教育との違い、共通点などを考察しレポート①提出。次回の教科書の箇所の予習（確認ミニテスト④）
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第１０回　重複障害教育の実践事例検討④　重度・重複障害児の指導（その１）自発行動の乏しい児童
【key words】
自発行動の乏しい重度・重複障害児　　適切な支援　　係わり方　　教材教具　仰臥位　　側臥位　　自発　行動　幼児

【授業概要】
予習確認ミニテスト④　　①重度・重複障害児の一般的な捉え方　　一般的な理解　　重度・重複障害児に対する教師の仕事とは　　教材・教具の役割について。　　②指導の実際（指導事例１）の検討
【教科書ページ・参考文献】
教科書「重度・重複障害障がい児の発達と指導法」(pp. ３－１１）（ｐｐ７１－７７）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
重度・重複障害児について理解する　　今日のまとめと自分の考えを整理する
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第１１回　重複障害教育の実践事例検討④　重度・重複障害児の指導（その２、３）側臥位。　手と足の働き
【key words】
触刺激　　足の操作　　自発　　側臥位　　手の操作

【授業概要】
指導事例２と指導事例３の検討。事例のまとめと発表。事例を読んで関心のあったこと、気づかされたこと等話し合う。
【教科書ページ・参考文献】
教科書「重度・重複障害障がい児の発達と指導法」(pp. ７８－８８）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の指導事例を整理　　次回の事例４，５の予習
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第１２回　重複障害教育の実践事例検討④重度・重複障害児の指導（その４、５）定頸困難。視覚障害のある重複障害児
【key words】
触刺激　　足の操作　　仰臥位　　手の操作　　姿勢の調整　　バランス

【授業概要】
指導事例４、５の検討。事例のまとめと発表。事例を読んで関心のあったこと、気づかされたこと等話し合う。
【教科書ページ・参考文献】
教科書「重度・重複障害障がい児の発達と指導法」(pp８９－９６）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の指導事例を整理　　次回の事例６，７の予習
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

	第１３回　重複障害教育の実践事例検討④　重度・重複障害児の指導（その６、７）前起こし。机座位 【key words】 手の操作　垂直軸スイッチ　視覚障害　刺激の受容　姿勢の調整　前起こし 【授業概要】 指導事例６，７の検討。事例のまとめと発表。事例を読んで、関心のあったこと、気づかされたこと等話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書「重度・重複障害障がい児の発達と指導法」(pp. ９７－１０７) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の指導事例を整理　次回の事例８，９の予習 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分 第１４回　重複障害教育の実践事例検討④　重度・重複障害児の指導（その８、９）初期学習。意思の表出 【key words】 姿勢　感覚と運動　体の部分の役割 【授業概要】 教科書の実践事例８，９の検討。　事例のまとめと発表。　事例を読んで関心のあったこと、気づかされたこと等話し合う。　今までの重度・重複障害児の実践事例を振り返り、検討する 【教科書ページ・参考文献】 教科書「重度・重複障がい児の発達と指導法」（ｐｐ．１０８-１２０） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回使用する学習指導要領､同解説書から重複障害児の教育課程について、また、医療的ケアについて、進路問題等を調べる。今まで学んだ指導事例から考えたこと等レポート②にしてまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分 第１５回　重複障害教育の展望と課課（医療的ケア、教育課程、自立活動、進路指導、諸課題） 【key words】 医療的ケア　重複障害教育の教育課程　重複障害教育の課題　自立活動　進路指導 【授業概要】 重度・重複障害児の発達と学習、及び教育課程や自立活動、医療的ケアを含め、重複障害教育の課題と展望について考える。 【教科書ページ・参考文献】 医療的ケアの資料、特別支援学校学習指導要領及びその解説。 教科書「重度・重複障がい児の発達と指導法（ｐｐ.，１２－２５） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今まで学んできたことから課題と展望について考察する。重複障害教育に対する自分の意見をまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～５０分
受講生に関わる情報および受講のルール	①可能であれば重複障害児理解のため特別支援学校もしくは入所施設訪問を計画し、重複障害児の生活の様子を理解する。 ②予習、復習は必ず行うこと、教科書は授業の前に熟読すること。 ③授業で配付する資料の予備は保管しないので、出席者からコピーをしておいてください。 ④授業中に他の学生に迷惑になる行為（私語、携帯電話使用等）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	①予習、復習はその都度指示されなくても毎回実施すること。 ②学習の一環として要求された感想文や課題は提出期限を守って提出すること。 ③授業の一環として特別支援学校か入所施設が参観できたら参観するので、日程調節が必要になる場合がある。
オフィスアワー	質問があれば授業終了後１０分間に、またはシャトルカード、メール等に記載すれば次回以降に対応する。
評価方法	①レポート・発表・ミニテスト（内容、適切さ）７０％　②筆記もしくはレポート試験（正確性、客観的、論述）３０％ 総合評価は①②の合計が６０％を超えていること
教科書	①アン・サリバン：「ヘレン・ケラーはどう教育されたかーサリバン先生の記録ー」明治図書２０１０　②進　一鷹：「重度・重複障がい児の発達と指導法」　明治図書　２０１０
参考書	ヘレン・ケラー：「わたしの生涯」角川文庫　1973　他授業の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 盲教育６年、知的障害教育２５年、肢体不自由教育５年の教育現場で実践教育を積み重ねる。特に障害の重い児童生徒との係わりを通して学んだこと、感じたこと、更に発達障害児の現場などを通して特別支援教育全般について幅広く講じます。 アクティブラーニング要素

	■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　精神保健福祉に関する制度とサービス　　授業コード：S7009

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
鈴木　秀夫			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】社会における精神障害者の人権上の問題点を踏まえ精神保健福祉士として支援できるようになることを目指す。 【到達目標】精神障害者の人権について学ぶ。障害に配慮した生活支援について理解させる。精神保健福祉法、障害者総合支援法、医療観察法等法律の意義を学ぶ。精神保健福祉士の理念、意義、対象について学ぶ。
授業の概要	精神障害者の理解のために障害者福祉の理念、基本施策を学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	△
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	○
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション　講義の進め方、精神病者監護法・私宅監置 【key words】 精神病者監護法 【授業概要】 精神障害者の扱いの歴史をひも解く。 ※私宅監置、呉秀三 【教科書ページ・参考文献】 1P ～ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	精神障害者をめぐる法律の歴史的変遷 【key words】 家族の責任・賠償責任 【授業概要】 精神衛生法の誕生。そして１９６５年改正のもつ意味。同意入院、措置入院と自由入院。 精神疾患や精神医学についても扱う。 ※入院形態と保護者制度の廃止について。 【教科書ページ・参考文献】 3~11P 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第３回	クラーク勧告、Ｙ問題、宇都宮病院問題 【key words】 脱施設化 【授業概要】 精神衛生法、精神保健法から精神保健福祉法へ。 世界は脱施設化の中、日本の精神科医療は逆行し入院中心を進めてきた。

【教科書ページ・参考文献】
※保健学７P（下段、精神科特例より下）を参照。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第４回　精神保健福祉法の誕生
【key words】
病院管理者は人の行動を制限できる
【授業概要】
法の38条『処遇』から精神保健福祉法に入る。

※、プリントと教科書。
【教科書ページ・参考文献】
17、20P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第５回　精神保健福祉法の主な内容
【key words】
宇都宮病院事件
【授業概要】
精神障害者の人権を守る「精神医療審査会」。
精神保健福祉センターから精神科病院まで。

【教科書ページ・参考文献】
教科書７P～
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第６回　医療保護入院
【key words】
退院後生活環境相談員。
【授業概要】
保護者制度の廃止から精神科病院、精神保健福祉士の業務が大きく変わった。

※退院後生活環境相談員。

【教科書ページ・参考文献】
教科書19～26P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第７回　精神保健福祉法の改正、22年改正、25年改正
【key words】
人権擁護
【授業概要】
精神衛生法の改正を含め精神保健福祉法の流れを知る。

※教科書に従って。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第８回　入院の実際、退院の実際
【key words】
入院手続き
【授業概要】
病院の精神保健福祉士の仕事から実際を学ぶ。

※教科書に従って。
【教科書ページ・参考文献】
資料配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第９回　障害者基本法と精神障害者の人権
【key words】
精神障害の合理的配慮
【授業概要】
第4章における障害者の人権から入り、精神障害者に対する課題まで進める。

※差別の禁止、合理的配慮。
次回から「理論と展開1」の教科書を持ってくる。
【教科書ページ・参考文献】
教科書197～216P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　精神障害者福祉の理念と人権
【key words】
本来の精神保健福祉論に沿って
【授業概要】
ここから「理論と展開１」の教科書に入る。

※ノーマライゼーション

【教科書ページ・参考文献】
理論と展開1の１P～
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１１回　障害者権利条約の理念と人権
【key words】
禁治産・準禁治産
【授業概要】
地域社会における精神障害者の人権。

※欠格条項、心神喪失、心神耗弱。

【教科書ページ・参考文献】
教科書37P～
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１２回　精神障害及び精神障害者
【key words】
障害構造論
【授業概要】
生活のしずらさに焦点を当てボランティア体験を報告。

※ICIDHからICFに

【教科書ページ・参考文献】
教科書50～74P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１３回　精神保健福祉の歴史と理念
【key words】
精神障害者福祉の歴史
【授業概要】
英米の精神保健福祉の歴史から日本の取り組みまで。

※ケネディー教書。

【教科書ページ・参考文献】
教科書74～88P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１４回　ノーマライゼーションをもう一度
【key words】
英米の歴史
【授業概要】
教科書に従い進める。

※能力障害と生活のしずらさ。
【教科書ページ・参考文献】
95P～
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１５回　日本の精神保健福祉とソーシャルワーク
【key words】
日本の歴史
【授業概要】
Y問題に注目。
精神保健福祉士が誕生。
【教科書ページ・参考文献】
111P～
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１６回　アメリカの巨大精神科病院
【key words】

		世界の名作に触れる 【授業概要】 映画「カッコーの巣の上で」を鑑賞。脱施設化の前の州立精神科病院の実際。 力動精神医学、巨大収容所（アサイラム）、治療共同体。 ※婦長の行うグループワークに注目。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１７回	16回の続き 【key words】 見させられた世界 【授業概要】 映画鑑賞と感想文 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１８回	国家資格とY問題 【key words】 Y問題 【授業概要】 かって精神科ソーシャルワーカーが診察し入院させた？本当？強制入院？ 【教科書ページ・参考文献】 教科書119～149P 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１９回	精神保健福祉士の専門性 【key words】 ホリス、ジャーメイン 【授業概要】 人と状況の全体関連性。 生活者の視点に立つ精神保健福祉士の視点。 ※病院精神保健福祉士の仕事 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２０回	医療観察法と更生保護法 【key words】 元の教科書に戻って 【授業概要】 本来の教科書に戻り、医療観察法を学ぶ。教科書（111P～）に従って。 ※社会復帰調整官。 【教科書ページ・参考文献】 111P～ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２１回	法的手続き 【key words】 精神保健福祉士の仕事に関連する 【授業概要】 判断の間違えはだれでも起こり得る。しかし法的手続きをしないことは人権を守っていないことになる。最悪訴えられて負ける。 入院手続き、退院手続き。 任意入院、医療保護入院、措置入院の手続き。 ※入院しているのに退院届。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２２回	関連法、医療保険制度と介護保険制度 【key words】 社会保障制度 【授業概要】 障害者総合支援法との関連。 社会保障制度全般から見ていく。 【教科書ページ・参考文献】 143P～

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２３回　年金制度と障がい者年金
【key words】

【授業概要】
教科書に従って。
172～183P

※拠出年金・無拠出年金。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２４回　労災関連と精神障害者福祉
【key words】
労災とは？
【授業概要】
業務起因性、業務遂行性。
うつ病等精神疾患との係わり。※リワークプログラム
教科書168Pを中心に。

【教科書ページ・参考文献】
168P～
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２５回　公的扶助と精神障害
【key words】
自立とは？
【授業概要】
仕事は励みになるし、ストレスになる。
就労がゴールではない。

【教科書ページ・参考文献】
教科書180～187P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２６回　経済負担の軽減と生活支援
【key words】
精神保健福祉手帳
【授業概要】
教科書に従う。

手帳は役に立つか？
※精神障害者の取得率が一番低い。
【教科書ページ・参考文献】
186～195P

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２７回　障害者雇用促進法
【key words】
労働行政と福祉行政
【授業概要】
障害者雇用促進法から職業リハビリテーションについて考える。

※雇用義務。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２８回　精神障害者の生活支援システム
【key words】
精神障害者の生活実態。
【授業概要】
教科書に従う。

※4年生で本格的に学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書217P～
【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】 第２９回　精神障害者の生活と人権 【key words】 精神医療審査会。 【授業概要】 入院しても処遇改善要求ができる。「理論と展開Ｉ」の事例172Pを復習。 【教科書ページ・参考文献】 理論と展開Ｉ」の事例172P 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　障害者総合支援法と生活支援 【key words】 当事者の「語り」。 【授業概要】 2人の当事者の話、230Pと231Pの語り。 生活実態をアンケート調査結果から。 【教科書ページ・参考文献】 230Pと231P 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	精神保健福祉士を目指し、国家試験受験を予定している学生は必ず履修すること。（授業中に予備知識、技能上のポイントの助言が多い）適宜レポート提出、小テストを実施する。年に1～2回映像での勉強を予定している。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	施設ボランティア、精神障害者イベントボランティアの紹介。ピア活動・講演会の紹介。
オフィスアワー	原則、月曜除く放課後。
評価方法	定期試験50%　レポート30%　その他毎回での考察２０%
教科書	へるす出版　精神障害者の生活支援　制度・システムとサービス
参考書	適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 精神科病院３０年以上のPSWとしての実務経験。最後の１０年は当時の副院長と看護の勉強会を実施。他、医局の勉強会において医師、SW,CPを対象にSSTトレーニングを実施。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ　　授業コード：S7014

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
鈴木　秀夫			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】精神障害者支援を中心にした社会福祉サービスと支援活動を学ぶ。 【到達目標】精神保健福祉士の専門技術と理論を学ぶ。
授業の概要	障がいに配慮した援助技術を理解するためグループワークから入る。初めにＳＳＴ(生活技能訓練)を学び、次の個別援助技術（ケースワーク）を学び、地域支援（コミュニティーワーク）を学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション　講義の進め方 【key words】 グループワークの分類 【授業概要】 科目オリエンテーション。 指示的グループワーク、非指示的グループワーク。 ※教科書188Pのデイケアプログラムを参考にする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書188P 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	障がいに配慮したグループワーク 【key words】 【授業概要】 生活技能訓練（SST） ソーシャルスキルとは？ 【教科書ページ・参考文献】 教科書52P,190P 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第３回	障害者を対象としたグループ 【key words】 ソーシャルスキルとは！ 【授業概要】 課題グループ、プログラム活動、治療グループ。 ※リーダー練習のための準備。 【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第４回　集団援助技術とＳＳＴ（生活技能訓練）

【key words】
SSTの実際
【授業概要】
ロールプレイ。ビデオから学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第５回　グループプロセスから学ぶ

【key words】
グループの凝集性
【授業概要】
グループワーク共通のグループプロセス。
開始期から作業期。

※リーダー練習。

【教科書ページ・参考文献】
教科書185P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第６回　障害者を対象としたグループワーク

【key words】
指示的はSST
【授業概要】
支持的（サポーティブ）グループワーク。

※リーダーシップとは？
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第７回　ＳＳＴの有効性

【key words】
練習しよう！
【授業概要】
何でもあり、答えも用意されている。

※では何をする、…　スキルアップ！

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
☆前年の基盤の本を持ってくる。
【予習復習に必要な想定時間】

第８回　認知行動療法の色々

【key words】
これが分かれば本物
【授業概要】
基盤95Pのべてる式認知行動療法から学ぶ。

※外在化
【教科書ページ・参考文献】
基盤95P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第９回　学びと般化

【key words】
いつもの通りにやる
【授業概要】
交代して学ぶ。宿題の報告。やってこなくて、パスしてほめられる。

※ドライラン
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　送信技能、受信技能、処理技能

【key words】
統合失調症を理解する。

【授業概要】
スキーマ、自動思考の説明。
理論的な話から認知機能に注目してもらう。

※問題解決法
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１１回　ある精神科デイホスピタルでの実践
【key words】
腕を上げる
【授業概要】
デイケアとデイホスピタル。ビエラのソーシャルクラブ。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１２回　シナリオロールプレイ「役割と自分」
【key words】
本物から学ぶ
【授業概要】
ある大学病院デイホスピタルのSSTの実際をシナリオロールプレイで学ぶ。

※レポート提出へ
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
※レポート提出
【予習復習に必要な想定時間】
第１３回　ストレス―脆弱性モデルと防御因子
【key words】
発症、再発。
【授業概要】
統合失調症の発症モデル、再発モデルを理解し、防御因子としてのSSTを学ぶ。

※防御因子
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１４回　アミン仮説と抗精神病薬
【key words】

【授業概要】
脳の生物学的視点。
精神医学理論とSST.

※第3世代の薬
【教科書ページ・参考文献】
精神医学の教科書を利用
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１５回　精神科病院の開放化
【key words】
精神科病院の歴史
【授業概要】
回転ドア現象。入院しよくなって退院したのに家に戻って悪化する。そして再入院。

これも問題だがそれ以前は入院＝収容だけ。これを打ち破ったのが患者作業。そして病棟の開放化、病院の開放化。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１６回　精神科デイケア、デイホスピタル
【key words】

【授業概要】
これまで身に着けてきたグループワーク、SST,コミュニティーミーティングを整理する。
※プログラム活動

教科書188Pの表の５－１を参照。
【教科書ページ・参考文献】
教科書188Pの表

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１７回　集団活動の中の暗黙の了解（アザンプション）

【key words】
グループプロセス
【授業概要】
精神障害者を対象にしたグループワーク。
ホーソン実験の持つ意味。

※暗黙の了解（アザンプション）
【教科書ページ・参考文献】
184~186P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１８回　退院促進と回転ドア

【key words】
治療共同体
【授業概要】
治療共同体の全体ミーティング。
自分の発言に責任を持つ。

※日中活動の場としての精神科デイケア
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１９回　セルフヘルプグループ

【key words】
イネイブリングとアスピレーション
【授業概要】
もう一つの言葉だけによるグループ。自助グループ。
支援者、治療者のいないグループ。
※ワーカーの役割がない。ワーカーは何をする。

（イネイブリングとアスピレーション）
【教科書ページ・参考文献】
教科書283Pの支援事例を参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書283Pの支援事例を参照
【予習復習に必要な想定時間】

第２０回　家族支援と感情表出研究

【key words】
感情表出
【授業概要】
ダブルバインド仮説から家族システム論的アプローチへ。

※高EE家族
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２１回　ビオンのグループワーク理論

【key words】
ペアリング
【授業概要】
1年生時のコミュニティーミーティングを振り返る。
そして体験グルグループを実施。

※3つのアザンプション。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２２回　個別援助技術と心理社会的アプローチ

【key words】
SWは社会療法
【授業概要】
ホリスの心理社会療法を振り返る。見立てからアセスメントの原型を学ぶ。

※未解決問題。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２３回　個別支援プロセス

【key words】

ケースワークをする
【授業概要】
精神疾患に着目して教科書に従う。

【教科書ページ・参考文献】
教科書162～170P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２４回　事例1（30歳・統合失調症の青年）からケアプランを学ぶ
【key words】

【授業概要】
30歳統合失調症の事例（プリント配布）

※4～5人のグループを編成、班活動で進める。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２５回　教科書の事例（45歳）からのエコマップ、ジェノグラム、レーダーチャートを覚える
【key words】
可視化
【授業概要】
アセスメント、そして支援計画。

【教科書ページ・参考文献】
教科書171～177P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２６回　ストレングスモデルに基づくアセスメント、ケアプラン
【key words】
この事例の本当の問題は？
【授業概要】
ジェノグラムから見える家族の問題。
ピアの登場をどう読み解くか？

※この事例の未解決問題とは？

【教科書ページ・参考文献】
教科書171～177P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２７回　ケアプランの完成
【key words】
ストレングスモデルになっているか？
【授業概要】
ストレングスモデルの手順。
デマンドから即サービスに結び付けない。ブローカリングモデルとの違い。

※前回の未解決問題をいかにプランに生かすか？
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２８回　ケアプランの発表
【key words】
チャレンジは？
予期できるリスクは？
【授業概要】
教科書を読み解く。

※週間予定表
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２９回　総合支援法のサービス等支援計画
【key words】

【授業概要】
教科書2つ目の事例で仲介型（ブローカリングモデル）のケアマネジメントを学ぶ。
サービス等支援計画と個別支援計画。

	※計画相談とは？ 【教科書ページ・参考文献】 教科書254～260P 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　教科書の2つの事例を比較し仲介型のケアマネジメントを学ぶ 【key words】 希望を聞くとは？ 【授業概要】 教科書では個別支援計画に触れていないのでこれを補完。 ※時間があれば279Pの統合失調症の事例も扱う。 【教科書ページ・参考文献】 時間があれば279P 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	精神保健福祉士を目指し、国家試験受験を予定している学生は必ず履修すること。（授業中に予備知識、技能上のポイントの助言が多い）適宜レポート提出、小テストを実施する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	施設ボランティア、精神障害者イベントボランティアの紹介。ピア活動・講演会の紹介。
オフィスアワー	原則、月曜除く放課後。
評価方法	定期試験50%　レポート30%　その他毎回での考察２０%
教科書	へるす出版　　精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ
参考書	適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 精神科病院、３０年以上のPSWとしての実務経験。最後の１０年は当時の副院長と看護勉強会を実施。他、医局勉強会において医師、SW,CPを対象にSST トレーニングを実施。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　社会福祉特講Ⅱ　　授業コード：S8003

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
新藤　健太・大久保　圭介			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会福祉士国家試験対策の一環として、履修済み科目についてグループ学習を行う。問題の解説を作成することを通じて、調べる方法や適切なまとめ方、伝える手段を習得することを目的とする。 【到達目標】 ①履修済み科目（1年次及び2年次前期）の基本的事項を説明できる。 ②解説をグループメンバーに理解してもらうために適切な資料を作成し、説明することができる。
授業の概要	履修済み科目の国家試験の問題（過去問等）に取り組み、グループで解説を作り説明することでグループでの学習をすすめる。 社会福祉士国家試験の受験に向け、過去問題等を活用し試験の内容や傾向に慣れ、自己学習を各自が進められるようにする。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション及び過去問等を解いてみる
	第２回	人体の構造と機能及び疾病／心理学理論と心理的支援／社会理論と社会システム（グループワーク）
	第３回	福祉行財政と福祉計画／保健医療サービス（グループワーク）
	第４回	相談援助の基盤と専門職／高齢者に対する支援と介護保険制度（グループワーク）
	第５回	確認テスト【第1回】
	第６回	確認テストの返却及び過去問等を解いてみる
	第７回	人体の構造と機能及び疾病／心理学理論と心理的支援／社会理論と社会システム（グループワーク）
	第８回	福祉行財政と福祉計画／保健医療サービス（グループワーク）
	第９回	相談援助の基盤と専門職／高齢者に対する支援と介護保険制度（グループワーク）

	第１０回　確認テスト【第2回】 第１１回　確認テストの返却及び過去問等を解いてみる 第１２回　人体の構造と機能及び疾病／心理学理論と心理的支援／社会理論と社会システム（グループワーク） 第１３回　福祉行財政と福祉計画／保健医療サービス（グループワーク） 第１４回　相談援助の基盤と専門職／高齢者に対する支援と介護保険制度（グループワーク） 第１５回　まとめ 第１６回　オリエンテーション及び過去問等を解いてみる 第１７回　人体の構造と機能及び疾病／心理学理論と心理的支援／社会理論と社会システム（グループワーク） 第１８回　福祉行財政と福祉計画／保健医療サービス／社会調査の基礎（グループワーク） 第１９回　相談援助の基盤と専門職／高齢者に対する支援と介護保険制度（グループワーク） 第２０回　確認テスト【第3回】 第２１回　確認テストの返却及び過去問等を解いてみる 第２２回　人体の構造と機能及び疾病／心理学理論と心理的支援／社会理論と社会システム（グループワーク） 第２３回　福祉行財政と福祉計画／保健医療サービス／社会調査の基礎（グループワーク） 第２４回　相談援助の基盤と専門職／高齢者に対する支援と介護保険制度（グループワーク） 第２５回　確認テスト【第4回】 第２６回　確認テストの返却及び過去問等を解いてみる 第２７回　人体の構造と機能及び疾病／心理学理論と心理的支援／社会理論と社会システム（グループワーク） 第２８回　福祉行財政と福祉計画／保健医療サービス／社会調査の基礎（グループワーク） 第２９回　相談援助の基盤と専門職／高齢者に対する支援と介護保険制度（グループワーク） 第３０回　まとめ
受講生に関わる情報および受講のルール	①すでに履修済みの科目をグループワークを行うことから、教科書を持参することが望ましい。 ②グループワークを行う回は、担当の問題の解説を次回までに作成をすること。（1問につきA4　1枚程度） ③解説はグループのメンバー分及び提出分をコピーしてくること。 解説の作成に際しての評価基準は以下の通りである。 優（5点）・・・適切な正答・解説が示されているだけでなく、図表や関連する用語なども含め、受講生にとってわかりや すい記述がされているもの 良（3点）・・・適切な正答が示されており、なおかつ必要な解説がなされているもの 可（1点）・・・適切な正答が示されているものの、解説が殆どされていないもの 不可（0点）・・・提出がされていない／提出されたものの記述が非常に乏しいもの ※なお、提出に遅延が見られた場合には1段階低い評価とします
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	①グループワークを行う回は、担当の問題の解説を次回までに作成をすること。（1問につきA4　1枚） ②自分の担当の問題以外も調べておくことが望ましい。

オフィスアワー	【益子】金曜日　10時30分～12時　事前にアポイントを取ってもらいたい。 【森田】第1回の授業時に説明する。
評価方法	定期試験30%、確認テスト20%、担当する問題の解説の作成50%（具体的な評価については受講のルールを参照のこと）※ただし、定期試験において、60 点に満たない場合は再試験とする。
教科書	1年次及び2年次前期に使用した各科目の教科書
参考書	社会福祉小六法　社会福祉用語辞典（出版社は指定しないが、最新版のもの）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 社会福祉領域における利用者への相談対応などを中心とした実務経験を有する。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　基礎演習Ⅱ　　授業コード：S9011　S9012　S9013　S9014　S9015　S9016　S9017

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位(60)	必修
担当教員			
大久保　圭介・大島　由之・鈴木　淳・吉澤　幸・梅山　文秀・山﨑　博幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 本学の建学の精神・教育目的に基づき、基礎演習Ⅱにおいては基礎演習Ⅰで行った初年次教育のステップアップとして、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動に工夫しながら自主的に取り組み、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を確実なものとする。また、基礎演習の集大成となる研究小論文の作成により、研究テーマを自主的に設定し、適した研究方法に基づき収集した資料を駆使して問題の構造を明らかにするなかで学士力の向上を図る。 〔到達目標〕 １　礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動に自主的に取り組み、工夫して行うことができる。 ２　研究小論文の完成を目指す。 ３　昌賢祭の研究発表を通して、問題解決能力やコミュニケーション能力を身につける。
授業の概要	授業を①建学の精神と実践教育、②学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の５つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法に人間としての基礎的教養力と自立的実践能力の涵養と、研究小論文作成にむけて、読書力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の向上を図る。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	建学の精神と実践教育プログラム①：前期オリエンテーション 【key words】 学長訓話・学部長講話、基礎演習Ⅱのスケジュール 【授業概要】 ・学長先生の訓話、学部長先生の講話を聞き、大学２年目の各自の目標が達成できるように、計画的に進める。　・基礎演習Ⅱのスケジュールを確認する。　・クラス担任とクラス運営方針を確認しあい、２年次が充実した一年となるよう計画を立てる。　・本時の学修をワークシートにまとめ、担任に提出する。 【教科書ページ・参考文献】 参考文献　鈴木利定・中田勝共著「威有一徳」（2002）中央法規 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各委員の役割をしっかり認識すること 【予習復習に必要な想定時間】 ―
	第２回	心身の健康プログラム①：親睦スポーツ大会に向けて 【key words】 親睦スポーツ大会、健康、協働 【授業概要】 体育委員が中心となりネット張り等の準備・片付けを行う。専攻別グループワークを通して親睦スポーツ大会の出場種目を練習し、チーム内の作戦を考え優勝目指して練習に励む。

【教科書ページ・参考文献】
シンボク大会パンフレット
【課題・予習・復習・授業準備指示】
競技内容・ルール等をよく理解する。
【予習復習に必要な想定時間】
－

第３回　建学の精神と実践教育プログラム②　生活を科学する
【key words】
雑巾縫い、手縫いとミシン縫い、環境美化

【授業概要】
手縫いとミシン縫いの違いを理解する。実際に雑巾を手縫いする。特に、針谷いと、はさみの準備、後始末まで安全に作業ができるように配慮する。
【教科書ページ・参考文献】
手縫いとミシン縫いの違いのパンフレット
【課題・予習・復習・授業準備指示】
雑巾縫いが終わっていない場合は翌日までに完成させて提出すること
【予習復習に必要な想定時間】
－

第４回　心身の健康プログラム②　学生生活の日常に潜むリスクを知る
【key words】
学生生活、日常にひそむリスクとは

【授業概要】
学生生活の中にあるリスクは、男女関係、アルバイト、交通安全、SNS、宗教、薬物、アルコール、タバコ、マネートラブルなどについて学習する。
ワークシートを提出する
【教科書ページ・参考文献】
「学生生活は危険がいっぱい」のパンフレットを活用
【課題・予習・復習・授業準備指示】
パンフレットを熟読し、学生生活が円滑に遅れるようにする。
【予習復習に必要な想定時間】
－

第５回　学士力育成プログラム①　図書館を使いこなそう
【key words】
図書館、蔵書検索レポートの書き方

【授業概要】
図書館司書を招き、「図書館の利用の仕方」の講義を受ける。蔵書検索に関して、実際にPC画面を見ながら学ぶ。CiNiiの論文検索の仕方を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
図書館司書が作成した資料を活用する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
資料を熟読し、積極的に本を借りて学修する態度を身につける。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　学士力育成プログラム②　研究小論文の作成Ⅰ　作成の基礎を知る
【key words】
研究小論文、小論文作成の概要

【授業概要】
小論文の書き方について学ぶ。小論文の組み立て方を学ぶ。（提示された小論文を読み解く）
【教科書ページ・参考文献】
学習技術研究会「知のステップ」くろしお出版
【課題・予習・復習・授業準備指示】
知のステップを熟読し、小論文の書き方を確認すること
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第７回　心身の健康プログラム③　がんやストレス、たばこの害
【key words】
がん検診の啓発、ストレス理解、たばこの害

【授業概要】
外部の専門家を招聘し、がん検診の必要性やストレスとへの対応、たばこの与える影響等について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
講義資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自らの問題としてとらえる
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　学資力育成プログラム③　　研究小論文のテーマについて
【key words】
研究小論文、問いを立てる、テーマと背景は

【授業概要】
小論文のテーマの立て方について学ぶ。また、そこに至った背景等についても考察する。
【教科書ページ・参考文献】
知へのステップ等参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
小論文のテーマについての資料収集を行う
【予習復習に必要な想定時間】

60分
第９回　学士力育成プログラム④：研究小論文作成Ⅰ（作成の概要）
【key words】
研究小論文、先行研究はどのようになっているか

【授業概要】
先行研究の状況を調べる。先行研究から自身の小論文のテーマを決める。
【教科書ページ・参考文献】
先行研究の資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自身の小論文の資料となる文献を調べておく
【予習復習に必要な想定時間】
120分
第１０回　進路・資格取得プログラム①　　年金制度について
【key words】
年金についての基礎的知識を考える

【授業概要】
外部の専門家を招聘し、講義を受けるとともに社会保障の大きな柱でもある年金について考える。
【教科書ページ・参考文献】
年金セミナーの資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
年金制度への理解が深められたか自ら検証してみる
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第１１回　学士力育成プログラム⑤　　就職能力試験
【key words】
自己表現力、一般常識や長所と短所、弱点を知る

【授業概要】
就職能力試験の日本語力と数理能力分野の自己課題を確認する。自己課題に則り自主学習の課題を探る。
【教科書ページ・参考文献】
就職課と連携した試験を行う
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分の能力を知り弱点を克服し、良い点をさらに伸ばす努力をする
【予習復習に必要な想定時間】
－
第１２回　地域貢献プログラム①　地域とのかかわりⅠ　昌賢祭の意義
【key words】
昌賢祭の意義、テーマ検討、計画立案

【授業概要】
昌賢祭の意義や昨年度の製作・発表について確認し、クラスとしてどのような意義を見出し今年度のテーマとするかを議論する。昌賢祭実行委員が主体となって推進する。
【教科書ページ・参考文献】
担当が配布した資料等を参考とする
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回までにクラス発表のテーマを考えておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第１３回　地域貢献プログラム②　　地域とのかかわりⅡ　昌賢祭の意義確認とテーマ設定
【key words】
昌賢祭の意義、テーマ設定、制作・発表

【授業概要】
前回の授業における話し合いを基に、今年度の製作・発表について考える。発表内容や政策について夏季休業中の課題について話し合う。実行委員が主体となって進める。
【教科書ページ・参考文献】
配布した資料を参考に検討する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
夏季休業中、テーマに沿った課題を進める準備をする
【予習復習に必要な想定時間】
－
第１４回　学士力育成プログラム⑥　　研究小論文作成Ⅱ　（研究方法を考える→夏季休業中の取り組み）
【key words】
研究小論文、研究方法、テーマ決める

【授業概要】
前回までの授業で得た資料を基に小論文の書き方を確認する。小論文の研究方法を考える。
【教科書ページ・参考文献】
地へのステップ等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
資料収集と研究方法を考えておく
【予習復習に必要な想定時間】
240分
第１５回　建学の精神と実践教育プログラム③：前期総括（演習ファイル整理、自己点検、夏期休暇中の過ごし方　他）
【key words】
前期総括、演習ファイルの整理、授業アンケート

【授業概要】
　演習ファイルの該当ページを確認し、総括をまとめる。本授業の評価アンケートを行う。夏季休暇の過ごし方等についての注意事項を指導。
【教科書ページ・参考文献】
演習ファイル
【課題・予習・復習・授業準備指示】
後期の演習課題を見つけておく。夏季休暇中の有意義な過ごし方について確認すること。昌賢祭や小論文の準備を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
240分

第１６回　建学の精神と実践教育プログラム④　　後期オリエンテーション（学長訓話・学部長講話　等）
【key words】
　学長訓話、学部長講話、後期目標、大学院進学

【授業概要】
　学長先生の訓話や学部長先生の講話を聴き、大学2年時の後期の意義を確認し意欲的にスタートする。
後期の演習計画を知り、演習ファイルを整理する。
【教科書ページ・参考文献】
演習ファイル
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習ファイルをまとめておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１７回　学士力育成プログラ⑦　　自己表現テスト
【key words】
　自己表現テストを実施する

【授業概要】
　自己表現テストに取り組む。終了後、自己採点を行い、自己の長所・弱点を把握する。
【教科書ページ・参考文献】
自己表現テスト
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自己採点した結果を把握し改善や伸ばす点を把握し今後の学生生活に活かす。
【予習復習に必要な想定時間】
　－

第１８回　学士力プログラム⑧　　研究小論文Ⅳ（論文の表現と表記）
【key words】
　研究小論文、論文の表現と表記

【授業概要】
　前期から進めている自身の小論文の表現と表記を確認する。　各自小論文の作成を推進する。
【教科書ページ・参考文献】
知へのステップ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
小論文の進捗状況と次回までにやっておくことをまとめ、担任に提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
　120分

第１９回　学士力育成プログラ⑨　　研究小論文Ⅴ（現状と考察）
【key words】
　研究小論文の進捗状況と考察

【授業概要】
　小論文の結果を見据えた進捗状況と考察を行う。各班（個人）に分かれて小論文の完成に向けて助言しあう。小論文の発表も見据えてレジュメの作成を行う。
【教科書ページ・参考文献】
知へのステップ、収集資料等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
小論文の完成に向けて考察を継続する。
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第２０回　地域貢献プログラム③　　地域とのかかわり（昌賢祭の製作活動・発表準備）
【key words】
昌賢祭、制作・発表準備

【授業概要】
クラスごとに昌賢祭実行委員が主体となって制作活動・発表準備を行う。
【教科書ページ・参考文献】
昌賢祭スケジュール表等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
クラス員一丸となって制作活動・発表準備にあたること
【予習復習に必要な想定時間】
　180分

第２１回　地域貢献プログラム④　　地域とのかかわり（昌賢祭の製作活動・発表準備のまとめ）
【key words】
　昌賢祭、制作・発表最終チェック

【授業概要】
昌賢祭実行委員を主体として最終準備、チェックを行い来場者にしっかりと趣旨を伝えられるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
昌賢祭計画表等

【課題・予習・復習・授業準備指示】
昌賢祭の最終チェック
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第２２回　地域貢献プログラム⑤　　地域とのかかわり（昌賢祭の実施）
【key words】
昌賢祭の実施

【授業概要】
来場者に楽しんでいただくとともに、発表内容の理解をしていただくために最大の努力を行う。
【教科書ページ・参考文献】
研究発表・計画表
【課題・予習・復習・授業準備指示】
淳簿と後片付けをしっかりと行う。
【予習復習に必要な想定時間】
－

第２３回　地域貢献プログラム⑥　　地域とのかかわり（昌賢祭の振り返り）
【key words】
昌賢祭、制作・発表の振り返り

【授業概要】
昌賢祭の実施後の整理と共に実施結果についての総括を行う。特に、次年度への課題等についてできるだけ詳細に検証し、次に生かす努力を醸成する。
【教科書ページ・参考文献】
実施結果の報告
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次年度への申し送りを行う
【予習復習に必要な想定時間】
－

第２４回　学士力育成プログラム⑩　　日本語能力試験
【key words】
日本語能力試験を実施する

【授業概要】
小論文の完成間近かになったこの時期に、正しい日本語を使用して書き上げることが重要であり、その確認のための試験を実施する。
【教科書ページ・参考文献】
試験問題
【課題・予習・復習・授業準備指示】
試験結果を確認し自分の弱点や調書について検証する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２５回　進路・資格取得プログラム④：外部講師講話
【key words】
福祉分野で活躍している方を招聘し知見を高める

【授業概要】
福祉現場で実践している関係者を招き、学生にとって福祉現場とはどういった課題を抱えているか、更にはその必要性等について話していただく。また、福祉現場で必要な資格や心構えなどについても併せて講義していただく。
【教科書ページ・参考文献】
講師資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分の進路をイメージしつつ講話を自分自身の進路選択に活かす
【予習復習に必要な想定時間】
－

第２６回　進路・資格取得プログラム⑤　　先輩学生が伝えたい事
【key words】
４年生が学んだ学修から、進路、資格取得にかかる話を聞く

【授業概要】
進路が決定した先輩からの話を聞くことで今後の学修の参考として活かす。
【教科書ページ・参考文献】
先輩からの資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自らの問題・課題としてとらえる
【予習復習に必要な想定時間】
－

第２７回　学士力育成プログラム⑪：研究小論文Ⅵ（最終仕上げに向けて）
【key words】
小論文の最終的仕上げに向かって

【授業概要】
これまでの資料との整合性や文脈についてチェックし、推敲可能な部分はしっかりと加除修正を行い小論文の完成に向けた作業を実施する。
【教科書ページ・参考文献】
知へのステップ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
誤字脱字についてもチェック
【予習復習に必要な想定時間】
－

	第２８回　学士力向上プログラム⑫　研究小論文Ⅶ　（論文の完成） 【key words】 研究小論文を完成させる 【授業概要】 参考文献の確認などを行い小論文を完成させるとともに、クラス発表内」のための準備（要点整理等）を行う。 【教科書ページ・参考文献】 参考資料の確認 【課題・予習・復習・授業準備指示】 小論文の趣旨をクラス員にしっかりと伝えるための努力をする 【予習復習に必要な想定時間】 － 第２９回　学士力育成プログラム⑩：研究小論文Ⅷ（クラス内発表会） 【key words】 研究小論文クラス内発表会 【授業概要】 これまでの成果を発表するとともに、クラス員の発表内容を聞き理解に努める。 【教科書ページ・参考文献】 発表資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表にあたって自分の思いが伝えられたかを検証する 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第３０回　建学の精神と実践教育プログラム：後期総括（演習ファイル整理、自己点検　他） 【key words】 後期総括、演習ファイルの整理、授業アンケート 【授業概要】 小売り総括を行うとともに演習ファイルを整理し担任に提出する。また、３年次への心構え等についてもしっかりと認識する。 【教科書ページ・参考文献】 演習ファイル 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ３年次への心構えを抱く 【予習復習に必要な想定時間】 －
受講生に関わる情報および受講のルール	１　基礎演習は、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。 ２　私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。 ３　全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること。 ４　座席を指定する。なお、携帯電話は指示のあった場合を除き電源を切り机上に置かないこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	図書館の利用、資料収集や作成に要する時間は、授業時間外の活用が必須である。
オフィスアワー	各担当者に確認すること
評価方法	研究小論文（４０％）、課題等の提出状況及び成果物（３０％）、取り組み状況（３０％）を総合して評価する。
教科書	１　鈴木利定・中田勝（著）『咸有一徳』中央法規，2002年。 ２　学習技術研究会『知へのステップ』くろしお出版，2002年。
参考書	授業で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 本科目は複数名の教員がクラス別で指導を行っている。 従って、それぞれの教員の実務経験の内容は異なるが、これらを加味した上で、 基礎演習を展開していく。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない

	ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 福祉情報処理　　授業コード： S1141

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	選択
担当教員			
藤本　壱			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 実社会で不可欠な「伝える能力」に主眼を置き、PowerPointの操作技術習得と共に、情報収集能力・プレゼンテーション能力・資料作成能力の向上を目的とする。 【到達目標】 ①プレゼンテーション本来の意味を理解し、実践できる。 ②Powerpointを様々な資料作成に活用できる。 ③様々な機能を駆使してデザイン力の高い資料を作成できる。
授業の概要	本講義では、PowerPointの操作技術習得と共に、「伝える力」「コミュニケーション力」を習得する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	△
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	オリエンテーションとプレゼンテーションの基本 【key words】 プレゼンテーション 【授業概要】 ・オリエンテーション ・プレゼンテーション作成前の準備（目的の明確化など） ・プレゼンテーション発表前の準備（リハーサルなど） ・プレゼンテーション発表後の作業（フォローなど） 【教科書ページ・参考文献】 7～19ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プレゼンテーション前の準備や、発表後のフォローアップなどの流れを復習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	プレゼンテーションの作成(1) 【key words】 プレゼンテーション、スライド 【授業概要】 ・プレゼンテーションの新規作成 ・初期設定（スライドサイズ、デザインの設定） ・スライドの作成（文字の入力、書式の設定） 【教科書ページ・参考文献】 21～43ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プレゼンテーションの新規作成から入力までの流れを復習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第３回	プレゼンテーションの作成(2) 【key words】

スライド
【授業概要】
・既存のスライドの再利用
・Word文書の利用
・スライドのリセット
・Excelデータの利用
【教科書ページ・参考文献】
44～57ページ

【課題・予習・復習・授業準備指示】
既存のデータをプレゼンテーションで活用する方法を復習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　訴求力のあるスライドの作成(1)
【key words】
表、罫線、セル
【授業概要】
・表の作成
・罫線の設定
・セルの塗りつぶしと結合
・セルの余白の設定
【教科書ページ・参考文献】
88～97ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
表を効果的に扱って見やすいプレゼンテーションを作ることができるようにする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　訴求力のあるスライドの作成(2)
【key words】
グラフ
【授業概要】
・グラフの元データの作成
・グラフ要素の追加と削除
・グラフ要素の書式設定
【教科書ページ・参考文献】
98～107ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グラフでデータを視覚的に表すことができるようにする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　訴求力のあるスライドの作成(3)
【key words】
図形、SmartArt
【授業概要】
・図形の作成
・図形の書式設定
・SmartArtグラフィックの作成
・SmartArtグラフィックの書式設定
【教科書ページ・参考文献】
108～129ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
図形やSmartArtを活用してわかりやすいスライドを作る
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　瓦版の作成(1)
【key words】
レイアウト、配色、背景
【授業概要】
・ページレイアウトの設定
・配色の設定
・背景画像の設定
・図形の詳細な書式設定
【教科書ページ・参考文献】
143～155ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
瓦版を作る際の様々な作業を復習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　瓦版の作成(2)
【key words】
ワードアート、テキストボックス、段組み
【授業概要】
・ワードアートの作成
・テキストボックスの作成
・段組みの作成
・画像の配置
・スクリーンショットの利用
【教科書ページ・参考文献】
156～175ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
見やすい瓦版を作成することができるようにする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

	第９回	カタログ冊子の作成 【key words】 スライドマスター 【授業概要】 ・Word文書の利用 ・スライドのリセット ・スライドマスターの設定 【教科書ページ・参考文献】 156～175ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 カタログ冊子作成の際に使う機能を理解する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１０回	動きのあるプレゼンテーション 【key words】 画面切り替え、アニメーション 【授業概要】 ・画面切り替えの設定 ・アニメーションの設定 ・動画の利用 【教科書ページ・参考文献】 177～209ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プレゼンテーションの動きを付けて訴求力を高められるようにする 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１１回	配布用飼料の作成 【key words】 ノート、PDF、印刷 【授業概要】 ・ノートの作成 ・配布資料の印刷 ・スライドのPDF化 ・資料のインターネットでの公開 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料を作成し配布できるようにする 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１２回	プレゼンテーションの実行 【key words】 スライドショー、リハーサル 【授業概要】 ・スライドショーの実行 ・スライドにペンで書きこむ ・リハーサルの実行 ・目的別スライドショーの作成 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 スライドショーやリハーサルの操作を覚えて実際の発表を行えるようにする 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１３回	プレゼンテーション作成実習 【key words】 実習 【授業概要】 ・課題に沿ってプレゼンテーションを作成 【教科書ページ・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題に沿ったプレゼンテーションを作成し、発表の準備をする 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１４回	プレゼンテーション発表 【key words】 発表 【授業概要】 ・1人ずつ順番にプレゼンテーション発表 【教科書ページ・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表が終わった人は自分の発表を振り返る 発表がこれからの人は練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１５回	プレゼンテーション発表 【key words】 発表 【授業概要】 ・1人ずつ順番にプレゼンテーション発表

	【教科書ページ・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の発表を振り返る 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	[受講生に関わる情報] ・ファイル保存用にUSBメモリを持参すること。 [受講のルール] ・積極的に授業に臨むこと。 ・実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。 ・授業に関係のないこと（例：YouTubeを見る）をしないこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	教科書の練習問題等を利用して復習すること
オフィスアワー	授業前後20分。
評価方法	・平常点（50%） ・レポート課題（50%）
教科書	よくわかるPowerPoint2013ビジネス活用編　FOM出版
参考書	必要に応じて適宜指示する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 Office関係の雑誌原稿執筆多数あり コンピュータ関連書籍執筆多数あり アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： ボランティア活動Ⅲ　　授業コード：S2011

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	選択
担当教員			
足立　勤一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	この授業の目的は、ボランティアリーダー養成である。将来、社会福祉協議会や施設に就労し、ボランティア活動計画やボランティア募集活動に従事できる能力を身につける。また、社会貢献活動ができる人材養成を目的とする。そのために、地域社会から求められているボランティア活動とは何か？を体験し探求できる能力を身につける。
授業の概要	これまでのボランティア活動は、予め決められた内容あるいは募集掲示された活動体験が主であった。この講義では、自ら社会との接点としてのボランティア活動とは何か？を探求し、実践する。1年生のボランティア活動へのアドバイスや具体的なボランティア活動を支援する。毎時間、それまでのボランティア活動の実践発表を行う。最後に、年間の活動報告書をまとめ、提出する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション：学生ボランティア活動の目的とは何か？①学生ボランティア活動史（世界・日本）
	第２回	地域社会が求めているボランティア活動とは？①本学ボランティアセンターの任務と活動。
	第３回	発表１．各自（グループ）の考える地域社会における福祉向上としてのボランティア活動とは何か？
	第４回	発表２．これまでの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
	第５回	発表３．今回までの実践活動を報告書にて発表を行う。その後ディベートを行う。
	第６回	発表４．今回までの実践活動を報告書にて発表を行う。その後ディベートを行う。
	第７回	前期の活動のまとめ。報告書にて中間発表会実施及び質疑応答を行う。夏季休暇中の活動計画書の提出。
	第８回	発表５．夏季休業中の活動報告書会実施。その後ディベートを行う。。後期の活動計画書提出。
	第９回	発表６．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
	第１０回	発表７．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
	第１１回	発表８．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。

	第１２回　　発表９．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。 第１３回　　発表10．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。 第１４回　　年間の活動報告書のまとめ。グループ内で活動評価についてディベートを行う。 第１５回　　年間活動報告会：活動の社会的評価についてディベートを行う。年間活動報告書を作成、提出する。
受講生に関わる情報および受講のルール	１．受講希望者が１０名未満の場合は開講しない。 ２．毎月の発表資料については、事前に指導教員に提出すること。万一、指定された日時迄に提出できない場合は、グループの責任で資料を　　必要部数印刷し準備すること。 ３．活動に伴う諸経費に就いては、グループ内で協議し、納得してから実践する事。『年間活動報告書』作成については、指導教員が各グループから提出された報告書をまとめ製本し、ボランティアセンターで保管する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	１．地域社会の福祉向上のために行われているボランティアセンターやNPO法人等の活動に関心を持ち、出来れば活動参加すること。　　２．希望するボランティア活動に参加し、その運営方法や人集めには何が重要かを探求する。
オフィスアワー	毎週水曜日・木曜日の１６：００～
評価方法	１．活動計画書に基づく、毎月の発表資料や内容を評価する。（４０％）＊２回未提出の場合、単位を認めない。 ２．各グループの活動結果が地域社会への貢献度に応じて評価する。（２０％） ３．年間活動報告書の内容を評価する。（３０％） ４．活動協力者の募集及び協働活動の内容について評価する（10%）
教科書	『わかる　みつかる　できる』　財団法人　内外学生センター
参考書	講義初めの授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 地域福祉の理論と方法　　授業コード：S2091

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	4単位(60)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
安留　孝子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 様々な福祉サービスの実施主体が市町村へと委譲され，地域住民が主体となるまちづくり，地域福祉の推進が重要視されている。これらの活動の一翼を担う立場としてソーシャルワーク実践を理解する。また、福祉サービスの動向は少子高齢化の進展、それに伴う国の政策の方向を無視できないため、これらの理解も同時に進める。 【到達目標】 1）「地域」のとらえ方に関する理論を理解し，住民ニーズや解決すべき問題が把握できる（把握の方法を想定できる）。 2）コミュニティソーシャルワークに関する理論を理解し，住民参画を基本とする問題解決のあり方を想定できる。 3）ソーシャルワーカーとして協働すべきネットワークのあり方と地域組織化の過程が想定できる。 4）国等の政策を理解し、これに同調した事業の展開ができるとともに、必要に応じ行政機関等へ進言できる。
授業の概要	この講義では，地域でのソーシャルワーク実践に伴う基本的視座及び理論の活用方法を学ぶ。受講者それぞれがソーシャルワーカーとしての基本的実践を「想定できる」レベルで獲得するとともに、少子高齢化の進展に伴う国等の政策の方向を正しく理解できることを目指す。集団や地域の捉え方に関する理論，地域ニーズの捉え方に関する視点，生活課題として表出する問題認識の視点を基にソーシャルワークの実践過程を学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回　　オリエンテーション　講義の進め方，評価法，レポート課題など 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　　少子高齢化社会と地域福祉 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】 第３回　地域福祉の発展過程 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第４回　地域自立生活の支援と地域福祉理論の発展、福祉圏域とは 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第５回　地域福祉の主体と福祉教育 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第６回　福祉教育の概念と内容、歩み 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第７回　福祉計画の定義・現状・課題 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第８回　行政組織と民間組織 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第９回　地域福祉を進める各団体の役割と実際 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１０回　地域福祉実践のための各種法人、団体等の役割と実際 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】

	第１１回　コミュニティソーシャルワークの考え方と展開 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回　コミュニティソーシャルワークの展開と展開を進めるためのシステム 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回　専門多職種の連携とチームアプローチと住民・利用者等とのパートナーシップの保持 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回　住民・利用者等の参加の意義と福祉行政への参画 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　ソーシャルサポートネットワークの考え方（助け合いの歴史と現代的なネットワーク） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１６回　ソーシャルサポートネットワークとエコロジカルアプローチ、ソーシャルサポートの実践例 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１７回　地域における社会資源の活用と調整・開発 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１８回　地域における社会資源の活用と調整・開発、税制面での優遇と助成金の活用 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１９回　地域における福祉ニーズの把握（アウトリーチの重要性）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２０回　地域における福祉ニーズの把握方法と実際

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２１回　地域トータルケアシステムの必要性と考え方等

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２２回　地域トータルケアシステムの展開方法、ソーシャルケア従事者の研修と組織化

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２３回　福祉サービス評価が必要となった背景と利用者の権利保護

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２４回　福祉サービス評価の考え方と方法・実際、プログラム評価とその展開

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２５回　災害支援の考え方と方法

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２６回　災害支援における地域福祉実践と課題

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２７回　復習（社会福祉基礎構造改革の必要性と検討過程）

【key words】

	【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２８回　諸外国と日本の地域福祉推進の相違と今後　欧米諸国とアジア，日本の比較，文化の差異によるまちづくり 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２９回　復習（地域福祉を担う人・団体） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　復習（社会保障制度の発展と地域福祉） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	授業は教科書を中心に進めるが、必要に応じ講義の資料を配布する。その場合、予習した上で講義に臨むこと。 授業中に生じた疑問はそのままにせず，調べる，質問するなどの行動に移すこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ICT利用（WEBフォームやメールなど）
授業外時間にかかわる情報	テキストの該当箇所は可能な限り予習を行うものとする。次回の授業に該当する箇所は受講生個々で調べ予習を行うこと。定期試験やレポートの提出のためには，授業で取り上げたトピックスが極めて重要であるため，よく復習をすること。
オフィスアワー	木曜日13：00～14：00
評価方法	定期試験やレポート概ね60%　各回での振り返り・考察概ね40% これらを総合的に評価する。
教科書	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『地域福祉と包括的支援体制』中央法規
参考書	ベンクト・ニィリエ（ハンソン友子　訳）（2008）『再考・ノーマライゼーションの原理』現代書館 広井良典（2009）『コミュニティを問い直す―つながり・都市・日本社会の未来』ちくま新書 勝部麗子（2016）『ひとりぼっちをつくらない』全国社会福祉協議会 早瀬昇（2018）『「参加の力」が創る共生社会』ミネルヴァ書房 日本社会福祉士会編（2018）『地域共生社会に向けたソーシャルワーク－社会福祉士による実践事例から』 上野谷加代子・松端克文他編（2019）『よくわかる地域福祉』ミネルヴァ書房 藤井博志編（2019）『地域福祉のはじめかた』ミネルヴァ書房 広井良典（2019）『人口減少社会のデザイン』東洋経済新報社 加山弾・熊田博喜他（2020）『ストーリーで学ぶ地域福祉』有斐閣 上野谷加代子編（2020）『共生社会創造におけるソーシャルワークの役割―地域福祉実践の挑戦』ミネルヴァ書房 朝比奈ミカ・菊池馨実編（2021）『地域を変えるソーシャルワーカー』岩波書店　など その他、授業中に適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習)

	□ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 相談援助の理論と方法Ⅱ　　授業コード：S2122

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	4単位(60)	社会福祉専攻・必修／子ども専攻・選択
担当教員			
鈴木　淳			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】クライエントは、身体上または精神上の障害や社会生活環境上の理由などから、実に多様な日常生活問題に直面しています。社会福祉士が、クライエントの主体性に力添えし、well-beingの増進をめざしてクライエントと協働する際に、その支援の中核となるのが相談援助活動です。これを適切に展開するためには、クライエントその人と置かれている状況の双方/全体を理解することで得られる根拠に基づく必要があります。本授業では、多岐にわたる実際の相談援助活動で着目すべきことがらを理論的・方法論的な基礎として整理し、ていねいに確認していきます。 【到達目標】(1～15) 1) 相談援助活動の対象を適切に認識することができる。2) 適切なケアプランに至るケースマネジメントの過程・各段階を説明できる。3) クライエントが属する各集団の特性を理解し、相談援助活動への活用の意義を述べることができる。4) 地域福祉の充実を図りうる関与・関係者とのコーディネーションとネットワーキングの主旨を説明できる。5) 各種社会資源の守備範囲をふまえ、必要に応じてその開発に意見を述べることができる。 (16～30) 1) 相談援助活動の基盤となる各種実践モデル・アプローチの考え方の差異を述べることができる。2) スーパービジョンの意義について説明できる。3)ケースカンファレンス開催の意義と参加する際の望ましい姿勢について延べることができる。4) 個人情報の利用と管理について説明できる。
授業の概要	(1～15) 1) 相談援助の対象を包括的に理解する視点を解説し、2) ケースマネジメントの過程およびケアプラン作成・実践について説明します。さらに、3) 相談援助におけるグループ・ワークの有用性を理解したのち、4) 支援活動における関与・関係者間のコーディネーションの重要性や社会資源の活用について言及します。 (16～30) 1) 相談援助活動の基本的な考え方の変遷をたどり、現代的にふまえるべき実践モデル・アプローチの主旨を理解します。2) 社会福祉士としての成長に欠かせないスーパービジョンのあり方を解説します。3) ケースカンファレンスを開催する意義と支援チーム連携について学びます。4) 相談援助活動に不可避な個人情報の保護と活用について理解を深めます。5) Ⅰ・Ⅱの総括として、クライエントを支援し、ケースとしての関わりの過程から、社会福祉士が学ぶ意味について考えます。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　科目オリエンテーション　相談援助活動の考え方　福祉ニーズの多様性 【key words】 社会福祉　制度と実践の相補性　ソーシャルワークの定義　対象化　システム論 【授業概要】 相談援助の対象・領域・ニーズについて、どのような観点から、どのようにとらえるのか、その本質と意義を検討します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp1－8。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 多様で複雑な社会におけるクライエントの生活課題にかかわって、その問題解決の道筋をどのように見出していくのか、ソーシャルワーカーとしての根本的背景的な考え方を整理しましょう。

第２回　相談援助の対象
【key words】
クライエント個人　家族力動　集団力動　地域　互酬性

【授業概要】
クライエント個人と、そのひとを取り巻く環境；家族・集団・地域との相互作用を、それぞれソーシャルワーカーとしてどのようにとらえるか、具体的に考えていきます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp8－19。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

クライエントというひとと環境との相互作用状況を理解することは、クライエントの内的能力に力添えする相談援助活動の基盤です。

第３回　ケースマネジメント 1　目的と構成要素
【key words】
在宅介護支援センター　障害者総合支援法　生活支援　QOL　社会資源

【授業概要】
相談援助活動での基本的な要素である社会資源の適切な利用について、クライエントの個別性を念頭に考えます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp21－26。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

ケースマネジメントは、ノーマライゼーション思潮の下、コミュニティケアを推進するものです。ソーシャルワークの価値・視点として理解しましょう。

第４回　ケースマネジメント 2　実践過程の概要
【key words】
ケースマネジメント過程　支援者の知・情・意　クライエントとの協働　生活ニーズ

【授業概要】
ケースとしての発見から支援の終結に至る一連の過程の概要を学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp27－32。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

ケースマネジメントを必要としているクライエントの特徴にも注目しましょう。

第５回　ケースマネジメント 3　アセスメントとケアプラン
【key words】
社会資源　ストレングス　ニーズ優先アプローチ　パートナーシップ　調整機能

【授業概要】
ケースマネジメント過程の中核となるアセスメントの意味を理解し、ケアプランに盛り込まれることになる目標と支援計画の概要を理解します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp33－52。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

クライエント自身とそのひとが身をおく生活状況の個別性をふまえ、ケースとしての身体・心理・社会 3側面の相互バランスを意識した調整と支援が重視されます。

第６回　相談援助活動における集団の活用
【key words】
集団経験　集団力学　参加の動機づけ　グループ規範　サブグループ

【授業概要】
個人の成長を促す社会的環境として注目すべき、集団（グループ）を活用したグループワークの意義と展開過程について学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp53－64。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

集団に属していることにともなう安心と不安の両面性と、ソーシャルワーカーによる支援介入・調整の考え方を理解しましょう。

第７回　集団の特性とそのグループワークの展開過程 1　自助グループ　当事者組織
【key words】
自助グループ　当事者組織　自発的市民活動　ソーシャルアクション　体験のわかちあい

【授業概要】
クライエント支援を目的とする集団は、その組織特性とソーシャルワーカーの介入水準から4つに大別されます。その考え方・目的の区別を理解しましょう。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp65－73。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

区別が明確ではない実態もありますが、基本的に何に重きをおいて組織されているのか、テーマとなる集団の特性を理解しましょう。

第８回　集団の特性とそのグループワークの展開過程 2　サポートグループ　グループワーク
【key words】
サポートグループ　グループワーク　専門職のかかわり　専門機関の支援

【授業概要】
クライエント支援を目的とする集団は、その組織特性とソーシャルワーカーの介入水準から4つに大別されます。その考え方・目的の区別を理解しましょう。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp65－73。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

区別が明確ではない実態もありますが、基本的に何に重きをおいて組織されているのか、テーマとなる集団の特性を理解しましょう。

第９回　地域福祉関係者間のコーディネーション
【key words】
地域福祉　連携　協働　コーディネーション　相互の立場性

【授業概要】
地域福祉の有効実現のために必要な、多専門職種間および専門職－住民間の連携・調整について学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp75－85。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

一職種の専門常識は、必ずしも他専門職にとっての常識とは限りません。ましてや、地域住民をや。連携の基本は、相手の立場に立ったていねいな働きかけと相互理解です。

第１０回　地域福祉実践とネットワーキング
【授業概要】
コーディネーションを有効機能化する前提として必要な、支援関係者の内発的・能動的な結びつき方；ネットワークの形成について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp86－94。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

ミクロ、メゾ、マクロの各水準での多様で広範なつながり方が、地域福祉を具体化する大きな原動力となっていることを理解しましょう。

第１１回　地域ケアシステム
【key words】
地域ケアシステム　重層的ネットワーク　ケース発見　QOL

【授業概要】
クライエントへの早期対応を可能にし、そのQOLを確保しようとする 地域福祉の重層的かつ有機的な仕組みの構築について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp94－98。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

制度の狭間のニーズをもリアルタイムに受け止めようとする地域福祉の役割を考えましょう。

第１２回　社会資源 1　定義と目的
【key words】
フォーマルな社会資源　インフォーマルな社会資源　内的資源　肯定的自己概念

【授業概要】
ウェル・ビーイングの具体的な側面に関わって援用しうる有形・無形の社会資源とは何か について、確認します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp99－104。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

他者による支援だけが社会資源ではなく、クライエント個々が備えている適応の力；内的資源を、支援関係の中で見い出し、クライエント自らがそれらを活用し始められるのかが、実はポイントである点に注意して下さい。

第１３回　社会資源 2　活用と調整
【key words】
人と環境の相互作用　個人の力　環境の力　言語化　適応支援

【授業概要】
社会資源の活用とは、その資源のあてがい/ほどこしではありません。各クライエントが自ら将来に眼を向けるための契機となるように、個別に調整された 適応支援であることを理解しましょう。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp105－109。

【課題・予習・復習・授業準備指示】

適切な社会資源の活用のためには、面談を通じて支援者が、クライエントに語り（言語化）を促し、それを助け、受け止める役割を適時担っていることを自己認識する必要があります。

第１４回　社会資源 3　開発　ソーシャルアクション
【key words】
社会資源の整備状況　再資源化　資源創出　アドヴォカシー機能　ソーシャルアクション

【授業概要】
質的にも量的にもより十分にクライエントへサービス提供するためには、支援者は、社会における資源整備の現状を認識し、社会資源の展開にも積極的に関与していくことになります。社会のさまざまなシステムへの働きかけや当事者の権利擁護のためのソーシャルアクションまで、その連続性について理解しましょう。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp109－120。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

クライエントを中心とした 同心円状の「環境」との 多様な相互作用の局面を、支援者として忘れないことが重要です。

第１５回　前期のまとめ
【key words】
－
【授業概要】
前期学習内容を振り返るとともに、後期学習内容への接続を図ります。

【教科書ページ・参考文献】
－
【課題・予習・復習・授業準備指示】

相談援助の理論的方法論的な考え方について、概ね3/4を学修しました。多くの履修学生は、この時期に相談援助実習にも臨むことになりますが、支援者としての根拠を具体的に意識するようにして下さい。

第１６回　ガイダンス　前期の復習　相談援助活動をより精緻にするために
【key words】
－
【授業概要】
前期学習内容を振り返るとともに、後期学習内容を概観します。

【教科書ページ・参考文献】
－
【課題・予習・復習・授業準備指示】

前期に学んだ相談援助のシステムを実践活動として機能させる意識をもちましょう。

第１７回　相談援助活動の基盤としての実践モデル 1　治療モデル　生活モデル　ストレングスモデル
【key words】
ジェネラリストソーシャルワーカー　ソーシャルワーク実践　モデル　アプローチ　パースペクティヴ
【授業概要】
クライエントの複雑多様な生活をリアルにとらえ、かかえる生活課題を精確に理解するよりどころとしての実践モデルを概観します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp121－141。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

治療モデル、生活モデル、ストレングスモデルの視点の差異を知るとともに、その総合が なぜジェネラリストソーシャルワーカーに必要なのかを説明できるようになりましょう。

第１８回　相談援助活動の基盤としての実践モデル 2　心理社会的アプローチ　機能的アプローチ　問題解決アプローチ
【key words】
社会的診断　精神分析　自我　潜在的可能性　動機づけ

【授業概要】
クライエントがかかえる生活課題に接近し、その解決というゴールに到達するための方法論のうち、心理社会的　機能的　問題解決　の各アプローチについて学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp143－152。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

それぞれの基盤理論、適用対象、支援焦点と展開の差異に注目しましょう。

第１９回　相談援助活動の基盤としての実践モデル 3　課題中心アプローチ　危機介入アプローチ　行動変容アプローチ
【key words】
課題　短期処遇　危機介入　対処行動　学習理論　般化

【授業概要】
クライエントがかかえる生活課題に接近し、その解決というゴールに到達するための方法論のう

ち、課題中心　危機介入　行動変容　の各アプローチについて学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp153－162。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

それぞれの基盤理論、適用対象、支援焦点と展開の差異に注目しましょう。

第２０回　相談援助活動に基盤としての実践モデル 4　エンパワメントアプローチ　ナラティブアプローチ　その他のアプローチ
【key words】
ストレングス　リジリエンス　社会構成主義　問題の外在化　実存主義　ジェンダーレンズ　解決志向
【授業概要】
クライエントがかかえる生活課題に接近し、その解決というゴールに到達するための方法論のうち、エンパワメント　ナラティブ　実存主義　フェミニスト　解決志向　の各アプローチについて学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp163－182。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

それぞれの基盤理論、適用対象、支援焦点と展開の差異に注目しましょう。

第２１回　スーパービジョンとコンサルテーション 1　スーパービジョン
【key words】
スーパービジョン　スーパーバイザー/スーパーバイジー関係　スーパーバイザリープロセス

【授業概要】
ソーシャルワーカーとしての成長を支援する支持的・教育的仕組みであるスーパービジョンの意義と目的について学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp183－200。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

困難なクライエント支援の状況でもポジティブに考えていこうとする、ソーシャルワーカーの姿勢・自己覚知のようすを理解しましょう。

第２２回　スーパービジョンとコンサルテーション 2　コンサルテーション
【key words】
コンサルテーション　コンサルタント/コンサルティ関係　コンサルテーション・リエゾン

【授業概要】
複雑多様化するクライエントのニーズに対応する際に、ある特定の専門領域についての助言をその専門家から得ることが必要になります。すなわち、ジェネラリストソーシャルワーカーがコンサルテーションを受ける意義と目的について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp201－204。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

前項 スーパービジョンと 本項 コンサルテーションの違いを理解しましょう。

第２３回　ケースカンファレンス 1　ケースカンファレンスの意義と目的
【key words】
ケースカンファレンス　サーベイランス　連携　共通理解　エビデンス・ベイスト

【授業概要】
相談援助実践過程における情報共有・役割分担・方針決定の場であるケースカンファレンスのあり方について理解します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp205－210。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

多職種（他職種）との相互理解が、相談援助活動の基盤であることを意識しましょう。

第２４回　ケースカンファレンス 2　ケースカンファレンスの展開と運営
【key words】
カンファレンス委員　カンファレンス資料　個人情報保護　カンファレンススケジュール　カンファレンス進行
【授業概要】
ケースカンファレンスの開催の準備と進行について具体的に学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp210－216。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

ケースカンファレンスに出席参加する際の姿勢についても考えていきましょう。

第２５回　ケースカンファレンス 3　実例の読み解き
【key words】
ケースカンファレンスの評価　ケースカンファレンスの普遍化

	【授業概要】 ケースカンファレンスでは何がテーマとなり、出席参加者が何を取り決めて、次の支援につなげていくのか、実例を読み解きながら理解します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp217－230。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ケースカンファレンスは、やりっぱなしではいけません。記録を残すこと、カンファレンスそのものを振り返り、今後のさまざまな支援に生かしていくこと に注意して下さい。 第２６回　相談援助活動にともなう個人情報の保護 【key words】 個人情報　プライバシー　OECD8原則　個人情報保護法　倫理綱領　守秘義務 【授業概要】 ソーシャルワークは、個別性を尊重する＝個人情報にふれる業務であるといえます。現代社会における個人情報保護の重要性を認識しながら、福祉展開上の固有課題について考えます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp231－242。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ボランティア活動や実習においても、広く守秘義務・個人情報保護の意識を高くもち続けて下さい。 第２７回　相談援助におけるICTの活用 【key words】 ICT　福祉情報　情報弱者　情報管理 【授業概要】 パソコンあるいはそのネットワークを活用した福祉情報のやり取り（提供と入手・利用）とそれらの管理について概観します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp243－256。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 福祉情報の利用に障壁がある 情報弱者 の存在に留意して下さい。 第２８回　事例の研究と分析 【key words】 事例研究　エビデンス・ベイスド・プラクティス　アカウンタビリティ　研究デザイン　研究倫理 【授業概要】 担当事例の振り返りは、相談援助実践上の有用・重要な知見を生み、支援サービスの質を向上させる契機となるものです。研究倫理に則った事例研究・事例分析のあり方について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp257－282。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事例の研究と分析は、自己研鑽と職業倫理認識のよい機会となります。自ら進んで、それをもとめましょう。 第２９回　相談援助の実際 【授業概要】 提示された事例を読み解き、ジェネラリストソーシャルワークのありようを総括します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp283－298。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各事例を理解し支援のポイントを押さえるのに必要となる関連知識も整理しましょう。 第３０回　相談援助の理論と方法Ⅱのまとめ 【key words】 エビデンス･ベイスド･プラクティス　職業倫理 【授業概要】 後期学習内容を振り返るとともに、現代社会でもとめられているソーシャルワーカー像を考えます。 【教科書ページ・参考文献】 － 【課題・予習・復習・授業準備指示】 相談援助の理論的方法論的な考え方を通算2年間学びました。十分に復習をするとともに、自らが理想とするソーシャルワーカーイメージを具体的に考えて下さい。
受講生に関わる情報および受講のルール	チェック式のレジュメを用意する他、視覚的な板書を心がけますから、各自 口頭説明も書き添えるなどノートはまめに取るようにして、さらに 受講後一両日中の復習につなげて下さい。理解を助けるために、適宜事例を示していきます。仮に、欠席によって事例を聴き逃し、自分で指定教科書だけで内容を押さえようとしても、しばしば教科書の表現が難しいため、わかりづらいことがあります。欠席しないように十分注意して下さい。

毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	minute paper
授業外時間にかかわる情報	たとえば、皆さんは、ボランティア活動などでいろいろな背景・ニーズをもったひと達と出会うでしょう。その機会には、与えられたその時の役割をこなすだけでなく、授業で取り上げた社会福祉士の観点と照らし合わせてそのひと達を理解しようと試みて下さい。それが、専攻学生としての資質と力量を向上させるトレーニングになるはずです。ただし、そのひと達に関して知り得たことについては、守秘義務を遵守することは必須です。 ★1回の授業に対して、概ね2時間以上の事前事後自主学習が必要です。
オフィスアワー	水曜日 17：00～19：00　1号館204研究室
評価方法	学期末課題レポート（85%）および授業への取り組み方（15%）で評定します。
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編　相談援助の理論と方法Ⅱ　新・社会福祉士養成講座7　中央法規2016年
参考書	授業中に適宜紹介・提示します。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 聴覚言語障害/発達遅滞・発達障害/高次脳機能障害/摂食嚥下障害を中心に、大学病院等 において 当事者に対するリハビリテーション治療・生活支援(就学・就労等を含む)ならびにその家族および関係者に対する適切な応談(コミュニケーション)・支援・リエゾン・調整・啓蒙を具体的に実践しています。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 相談援助演習Ⅲ　　授業コード：S2141　S2142　S2143　S2145　S2146

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
富澤　一央・柳澤　充・松永　尚樹・安留　孝子・大久保　圭介			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　相談援助演習Ⅱでの学習を踏まえ、総合的かつ包括的な援助について事例を通し理解する。それらのソーシャルワーク実践や相談援助実習での具体的実践を想定し、ソーシャルワーク実践技術・知識の習得を目的とする。 【到達目標】 ①実習前段階のグループワーク（事例検討）において、事例に対する専門職としての実践方法を想定し言語化できる。 ②グループワークを通して、事例に関連する専門職としての実践方法及び多職種連携の在り方を導き出す事ができる。 ③実習後の事例研究を通して、専門職として必要な知識や技術について説明できる。 ④総合的かつ包括的援助の在り方について理解した上で、専門職を目指す上での自己アセスメントに基づく学習課題を明確化できる。 ⑤ジェネラリスト・ソーシャルワークの視点から特定の事例のソーシャルワーク展開過程について想定し、アセスメントや支援計画作成ができる。
授業の概要	グループワークで事例検討を行い、ソーシャルワーカーとしての技術や価値観を修得し、知識の統合を図る。　実習後は、受講者自身の実習体験を基に事例研究をおこない、ソーシャルワーカーとしての技術及び知識の向上と統合を図る。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	オリエンテーション　授業の進め方　授業に参加する上での注意事項　評価方法 【key words】 シラバス、社会福祉士実習 【授業概要】 本授業の進め方や参加する上での注意事項について説明する 【教科書ページ・参考文献】 ・『相談援助演習』（弘文堂）の目次，P13-17. ・実習へのガイドブックの目次 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記で定めた書籍のページについて目を通してから受講すること 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	社会問題を基盤とした相談援助就労支援　退院支援の相談援助 【key words】 医療ソーシャルワーク、退院促進支援、在宅支援、就労支援 【授業概要】 就労支援及び退院支援に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。
【予習復習に必要な想定時間】

第３回　社会問題を基盤とした相談援助就労支援　退院支援の相談援助
【key words】
医療ソーシャルワーク、退院促進支援、在宅支援、就労支援

【授業概要】
就労支援及び退院支援に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

【予習復習に必要な想定時間】

第４回　社会問題を基盤とした相談援助就労支援　退院支援の相談援助
【key words】
医療ソーシャルワーク、退院促進支援、在宅支援、就労支援

【授業概要】
就労支援及び退院支援に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲

【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

【予習復習に必要な想定時間】

第５回　社会問題を基盤とした相談援助虐待　DVの相談援助
【key words】
プライバシーの保護、児童相談所、婦人保護施設

【授業概要】
虐待及びDVに関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
『相談援助演習』（弘文堂）p148－160.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。
【予習復習に必要な想定時間】

第６回　社会問題を基盤とした相談援助虐待　DVの相談援助
【key words】
プライバシーの保護、児童相談所、婦人保護施設

【授業概要】
虐待及びDVに関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
『相談援助演習』（弘文堂）p148－160.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲

【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

【予習復習に必要な想定時間】

第７回　社会問題を基盤とした相談援助虐待　DVの相談援助
【key words】
プライバシーの保護、児童相談所、婦人保護施設

【授業概要】
虐待及びDVに関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
『相談援助演習』（弘文堂）p148－160.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

【予習復習に必要な想定時間】

第８回　対象者別にみた相談援助について　低所得者・ホームレスの相談援助
【key words】
生活保護法、生活困窮者自立支援法、生活保護の原理・原則

【授業概要】

		授業概要】低所得者・ホームレスに関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）p164-166.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第９回	対象者別にみた相談援助について　低所得者・ホームレスの相談援助 【key words】 生活保護法、生活困窮者自立支援法、生活保護の原理・原則 【授業概要】 【授業概要】低所得者・ホームレスに関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）p164-166.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第１０回	対象者別にみた相談援助について　低所得者・ホームレスの相談援助 【key words】 生活保護法、生活困窮者自立支援法、生活保護の原理・原則 【授業概要】 低所得者・ホームレスに関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）p164-166.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第１１回	対象者別にみた相談援助について高齢者への相談援助 【key words】 高齢者虐待防止法、ケアマネジメント、認知症、レスパイトケア 【授業概要】 高齢者に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）p142-143.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第１２回	対象者別にみた相談援助について高齢者への相談援助 【key words】 高齢者虐待防止法、ケアマネジメント、認知症、レスパイトケア 【授業概要】 高齢者に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）p142-143.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第１３回	対象者別にみた相談援助について高齢者への相談援助 【key words】 高齢者虐待防止法、ケアマネジメント、認知症、レスパイトケア 【授業概要】 高齢者に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）p142-143.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してく

ることを期待する。

【予習復習に必要な想定時間】
第１４回　対象者別にみた相談援助について　障害者への相談援助
【key words】
障害者総合支援法、障害特性、個別支援計画

【授業概要】
障害者に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲

【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

【予習復習に必要な想定時間】
第１５回　対象者別にみた相談援助について　障害者への相談援助
【key words】
障害者総合支援法、障害特性、個別支援計画

【授業概要】
障害者に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。
【予習復習に必要な想定時間】
第１６回　対象者別にみた相談援助について　障害者への相談援助
【key words】
障害者総合支援法、障害特性、個別支援計画

【授業概要】
障害者に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲

【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

【予習復習に必要な想定時間】
第１７回　事例研究　成年後見制度と相談援助
【key words】
未成年後見人、成年後見人、身上監護

【授業概要】
成年後見制度と相談援助に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
『相談援助演習』（弘文堂）p184-186.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲

【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

【予習復習に必要な想定時間】
第１８回　事例研究　成年後見制度と相談援助
【key words】
未成年後見人、成年後見人、身上監護

【授業概要】
成年後見制度と相談援助に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
『相談援助演習』（弘文堂）p184-186.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲

【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。
【予習復習に必要な想定時間】
第１９回　事例研究　成年後見制度と相談援助
【key words】
未成年後見人、成年後見人、身上監護

【授業概要】
成年後見制度と相談援助に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

		『相談援助演習』（弘文堂）p184-186.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第２０回	事例研究　苦情解決の対処方法 【key words】 苦情解決責任者、第三者委員、事業報告書 【授業概要】 相談援助の場面において生じた苦情の対処方法について、事例を介して学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）p178-180.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第２１回	事例研究　苦情解決の対処方法 【key words】 苦情解決責任者、第三者委員、事業報告書 【授業概要】 相談援助の場面において生じた苦情の対処方法について、事例を介して学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）p178-180.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第２２回	実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション 【key words】 苦情解決責任者、第三者委員、事業報告書 【授業概要】 実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）p178-180.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第２３回	実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション 【key words】 事例を提供する学生が自ら受講生らに提示 【授業概要】 実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第２４回	実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション 【key words】 事例を提供する学生が自ら受講生らに提示 【授業概要】 実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第２５回	実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション 【key words】 事例を提供する学生が自ら受講生らに提示 【授業概要】

	実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】 第２６回　実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション 【key words】 事例を提供する学生が自ら受講生らに提示 【授業概要】 実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】 第２７回　実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション 【key words】 事例を提供する学生が自ら受講生らに提示 【授業概要】 実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】 第２８回　実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション 【key words】 事例を提供する学生が自ら受講生らに提示 【授業概要】 実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】 第２９回　実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション 【key words】 事例を提供する学生が自ら受講生らに提示 【授業概要】 実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　演習まとめ 【key words】 第1～29回までに用いたkey words 【授業概要】 【授業概要】相談援助演習Ⅲでこれまで学習してきた内容についてのまとめを行う 【教科書ページ・参考文献】 これまで扱ってきた『相談援助演習』（弘文堂）の範囲及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	（1）履修上の注意 本演習は、各種専門科目の応用である事を自覚し専門技術の獲得に向けてグループワーク等に積極的に参加すること。

	グループワークを行うため遅刻・欠席厳禁 (2) 学習上の助言 社会福祉専門職として必要な実践能力を修得するためには、自ら考え、気づくことが重要である。 (3) 予備知識や技能 上述したように「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」を始めとする各種専門科目の応用であり、それらの講義科目で得た知識と関わりが深い内容である。復習をしっかり行うこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	実習を考慮し、各種制度やサービス提供機関の理解、ソーシャルワークの専門技術について復習しておく。
オフィスアワー	各教員より授業時に伝える
評価方法	試験またはレポート（40%）、提出物・リアクションペーパー・課題への取り組み（60%）
教科書	社会福祉シリーズ21　ソーシャルワーク演習　『相談援助演習』弘文堂
参考書	社会福祉小六法　社会福祉用語辞典
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 本科目は複数名の教員によるクラス別指導を行っている。従って、それぞれの教員の経歴は異なるものであるが、いずれの教員においても相談援助業務を中心とした社会福祉領域における実務経験を有しており、それらの経験を加味した上で演習を展開していく。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 相談援助実習指導Ⅱ　　授業コード：S2161　S2162　S2163　S2165　S2166

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
富澤　一央・柳澤　充・松永　尚樹・安留　孝子・大久保　圭介			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ① 相談援助実習指導Ⅰを踏まえ、相談援助実習の意義についての再確認を行う。 ② 相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識および技術を体得する。 ③ 社会福祉士として把握・修得しておくべき事項（姿勢、倫理、技能等）を総合的に修得する。 ④ 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系的に考察できる能力を養う。 【到達目標】 ①社会福祉士（ソーシャルワーカー）の役割、業務内容等を含めた専門性について説明できる。 ②実習体験を振り返り、ジェネラリスト・ソーシャルワークの視点から支援のあり方を説明できる。 ③実習体験を自己省察し、自身の課題解決方法を想定できる。
授業の概要	前期は、「相談援助実習指導Ⅰ」を引き継ぎ、相談援助実習の意義・目的等について再確認すると共に、実習先に関する情報収集（根拠法・関連制度・利用対象者及びニーズ等）を行い、知識を深めることを主眼とする。また、問題・関心事項の具体化、、実習動機・実習課題の明確化を図るなかで、「実習計画書」等の作成を試み、加えて、実習に関する諸事項、実習関係書類の書き方等の伝達を通じ、実習に対する意識付けを行う。 後期は、実習報告書等の作成を通して実習を振り返り、そのうえで、担当教員による個別指導のもと相談援助実習総括レポートを作成する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	前期オリエンテーション　授業方法と留意事項　実習先の確認 【key words】 実習前学習　実習への心構え 【授業概要】 今年度の実習指導Ⅱ・実習の流れの説明 各学生の状況確認 実習指導Ⅱ・実習の評価方法 事前学習一環として行った春休みボランティアの記録の提出 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 提出書類を整理しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第２回	実習の意義と目的の理解（事前学習の理解・事前学習の課題と学習方法） 【key words】 課題の発見　実習計画書　相談援助実習 【授業概要】

		事前ボランティアを行なう中で自分自身の課題と相談員としての学ぶべきことは何かを考える。 その学ぶべきことはどのようにしたら実習で学べるのか文章にしていく。 学習の方法をグループで話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習で学ぶことは何かを考えてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第３回	実習体験者（先輩）の講話（実習への心構え・事前学習の必要性） 【key words】 実習課題　実習の留意点　実習計画 【授業概要】 各種別に分かれ、先輩の実習体験談を聞き、不安に感じていることを質問し解消する機会とする。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習を行なっていく中で、現在疑問や不安に感じていることをまとめてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第４回	実習先機関・施設の基本的理解　（設置根拠、業務内容、組織、利用者のニーズ、職員と業務内容） 【key words】 根拠法令　ニーズ　業務内容　多職種連携 【授業概要】 各実習先がどのような法令に基づいているのかを調べ、実習先の役割を知る。グループワークを行い施設・機関での社会福祉士の業務と多職種との関わりを話し合い、発表する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 福祉小六法 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会福祉士の業務について調べてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第５回	相談援助実習資格試験 【key words】 社会福祉士　コミュニケーション 【授業概要】 社会福祉実習に向けた基礎知識や実習生としての態度に対して試験を行う。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 相談援助の基盤と専門職 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今までの講義を復習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第６回	実習受け入れ体制の理解（実習指導者の講話） 【key words】 実習を行なうための心得 【授業概要】 　実習指導者より実習生に期待することについて講話をいただき、相談援助実習を行なうための心構えと実習において何を学びたいのかを考える機会にする。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習へ向けての心構えを復習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第７回	実習プログラムの理解（実習委託契約書の理解） 【key words】 契約書　合意書 【授業概要】 委託契約書と合意書の内容を講義し、実習生として遵守しなければならない事項を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 委託契約書、合意書を読んでくる。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第８回	実習計画書作成の理解（実習の目的・実習先選定の動機） 【key words】 実習計画書　職場実習　職種実習　ソーシャルワーク実習 【授業概要】 実習計画書と各段階（職場実習・職種実習・ソーシャルワーク実習）の実習で行なうことを講義し、自分の課題がどの段階で学べるのかを考え実習計画に取り入れていく。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック

【課題・予習・復習・授業準備指示】
先輩の講話や実習指導者の講話を振り返っておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第９回　実習計画書作成の理解（実習の目標・実習課題）
【key words】
実習計画書　職場実習　職種実習　ソーシャルワーク実習
【授業概要】
ワークシートを通して実習を通して学ばなければならないことを文章化し実習計画書を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習計画を考えてくる
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第１０回　実習計画書作成の理解　＊「実習計画書」の完成、＊「実習生紹介票」、「誓約書」
【key words】
実習計画書　実習生紹介票　誓約書
【授業概要】
実習生紹介票と誓約書の講義を行い、実習計画書、実習生紹介票、誓約書を完成させる。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習生紹介票、誓約書の内容を理解してくる
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第１１回　実習プログラムの理解（個別支援プログラムの作成）
【key words】
職場実習　職種実習　ソーシャルワーク実習
【授業概要】
実習目標ワークシートと実習計画書をもとに23日間ある実習の課題と毎日の目標を考える。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習計画書を基にどのような実習が行なえるのか考えてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第１２回　事前訪問（事前オリエンテーション）の理解（連絡方法・挨拶・身だしなみ・訪問の目的と確認事項）
【key words】
事前オリエンテーション　実習中の諸注意
【授業概要】
事前オリエンテーションの意義、目的に対して講義を行う。オリエンテーションで確認してくる事項、アポイントの取り方についてグループワークを行う。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
オリエンテーションで確認してくる事項、アポイントの取り方について復習する
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第１３回　記録方法の理解①（実習記録）
【key words】
実習日誌の目的　実習日誌の書き方
【授業概要】
実習日誌の例を読み、自分ならこのように書くと思われる箇所に赤で修正を加える。近くの学生と修正した日誌を見せ合い、意見を分かち合う。出た意見を発表し全体で分かち合う。
　自分が書いた日誌を参考に利用者とのかかわりを思い出し、実習時にどのように日誌を書くのかを考えワークシートにまとめる。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
日誌を書き直してくる。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第１４回　実習生に求められる基本姿勢の理解（職業倫理、権利擁護、プライバシーの保護、守秘義務、礼儀作法、健康管理）
【key words】
実習生としての態度　個人情報保護　守秘義務
【授業概要】
実習の場面を想定したワークシートを使用し、実習生としてどのように答えるのか、どのような行動を取るのか考える。考えた内容を発表し全員で分かち合う。
個人情報の管理方法、SNSの使用について講義を行う。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個人情報とSNSの取り扱いについてまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第１５回　オリエンテーション　学長訓話　学部長講話　巡回指導及び帰学日指導等

【key words】
実習プログラム　巡回指導　帰学日指導　PDCAサイクル
【授業概要】
実習に向けて学長より訓話、学部長より講話を頂く。
実習オリエンテーションで渡された実習プログラムを使用し、実習の内容や学ぶべき事を考える。
PDCAサイクルを使用し、実習中は実習計画の実行、評価、改善、計画を行いながら実習を行う。
巡回指導、帰学日指導について講話をし日程を確認する。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
これまでの講義の内容を復習してくる。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第１６回　記録方法の理解　実習報告書、実習レポート等　礼状作成
【key words】
実習報告書　実習レポート
【授業概要】
行ってきた実習の振り返りとして報告書を作成する。
実習レポートと実習プログラム表について説明を行い作成する。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習の振り返りをするため、これまでの資料を整理しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第１７回　実習評価の理解　自己評価
【key words】
実習評価表　自己評価
【授業概要】
実習評価表の説明を行い、行ってきた実習に対して振り返り、自分自身で評価を行う。
どのようなことができなかったのか、理由を考え、課題として行く。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習の振り返りをしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第１８回　実習評価の理解　実習先評価　実習指導者の講評
【key words】
実習評価
【授業概要】
実習先から送られてきた評価表と自分の評価表を比較し、どのような差があったのか、なぜそのようになったのか理由を考え、課題とし、これから何を学習していくのかを考える。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習の振り返りをしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第１９回　実習の振り返り（事前学習＊グループ討議と発表）
【key words】
実習事前学習
【授業概要】
実習を行なって、事前学習でやっていて良かった点、どのように役立ったのか、事前学習でもっとやっておけば良かった点、どのような場面でそのように思ったのか、それをどのように勉強したのかグループで話し合い、発表し分かち合う。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前学習で使用したものを整理しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第２０回　実習の振り返り（自己理解、自己覚知、職業倫理＊グループ討議と発表）
【key words】
自己覚知
【授業概要】
実習中の自分自身が自己覚知で来た場面を振り返る。これから支援を行う中でどのように生かしていけるのか、また、他の人の意見を聞き自分自身はどのように考えるのか自己覚知を行い、グループで話し合い、発表する。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習日誌を読み返しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第２１回　実習の振り返り（クライエントとの関わり、職員との関わり＊グループ討議と発表）
【key words】
コミュニケーション

【授業概要】
実習を振り返り、実習中にクライエントや職員との関わりで苦労した点を挙げ、自分がどのように対応したのかロールプレイを行い、クライエントの気持ちを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習日誌を読み返しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第２２回　実習後の個別スーパービジョン　実習レポート等の作成
【key words】
実習表定評　自己評定表　実習指導者の講評
【授業概要】
実習先からの実習評定表、自己評定表、実習指導者の講評を基に個別に実習を振り返る。実習での学びについて実習レポート作成
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習で使用した資料、日誌を整理しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第２３回　実習後の個別スーパービジョン　実習レポート等の作成
【key words】
実習表定評　自己評定表　実習指導者の講評
【授業概要】
実習先からの実習評定表、自己評定表、実習指導者の講評を基に個別に実習を振り返る。実習での学びについて実習レポート作成
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習で使用した資料、日誌を整理しておく。

【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第２４回　実習後の個別スーパービジョン　実習レポート等の作成
【key words】
実習表定評　自己評定表　実習指導者の講評
【授業概要】
実習先からの実習評定表、自己評定表、実習指導者の講評を基に個別に実習を振り返る。実習での学びについて実習レポート作成
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習で使用した資料、日誌を整理しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第２５回　実習の総括　（※実習レポート等の完成）
【key words】
実習表定評　自己表定評　実習指導者の講評
【授業概要】
実習先からの実習評定表、自己評定表、実習指導者の講評を基に個別に実習を振り返る。実習での学びについて実習レポート作成し提出する。
実習プログラム表も提出する。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習で使用した資料、日誌を整理しておく。
実習報告のパワーポイントを作成する。

【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第２６回　実習の総括（クラス内実習報告会・プレゼンテーション技術）
【key words】
実習の成果　自己覚知　社会福祉士
【授業概要】
作成したレポートとパワーポイントを使用し、実習での学びを報告する。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分の実習を振り返り、報告者に対する質問事項を考えてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第２７回　実習の総括　クラス内実習報告会
【key words】
実習の成果　自己覚知　社会福祉士
【授業概要】
作成したレポートとパワーポイントを使用し、実習での学びを報告する。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】

	自分の実習を振り返り、報告者に対する質問事項を考えてくる 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分 第２８回　実習の総括　クラス内実習報告会 【key words】 実習の成果　自己覚知　社会福祉士 【授業概要】 作成したレポートとパワーポイントを使用し、実習での学びを報告する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の実習を振り返り、報告者に対する質問事項を考えてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分 第２９回　実習の総括　クラス内実習報告会 【key words】 実習の成果　自己覚知　社会福祉士 【授業概要】 作成したレポートとパワーポイントを使用し、実習での学びを報告する。 クラスの代表を決定する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の実習を振り返り、報告者に対する質問事項を考えてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分 第３０回　全体実習報告会 【key words】 実習総括　社会福祉援助実習 【授業概要】 各実習指導クラスの代表による実習報告　実習での体験を聞き対人援助を考える。　2年生は来年の実習に向け事前学習の一貫として体験を聞き、ワークシートをまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の実習を振り返り、報告者に対する質問事項を考えてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
受講生に関わる情報および受講のルール	①5分の4以上出席しない場合は単位取得できない（公欠を含む）。 ②提出物が期限内に提出されない場合、単位認定を行わない。 ③欠席、遅刻をする場合は、必ず授業開始前に大学に連絡を入れること。 ④無断欠席・無断遅刻者に対しては社会福祉士実習委員会で対応について協議する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	実習に向けて、事前学習に取り組むこと。また、後期は実習のまとめ、プレゼンテーション、報告会の準備をする。
オフィスアワー	各教員より授業時に伝える
評価方法	相談援助実習資格試験（20%）、課題やグループワークへの取り組み（50%）、提出物の提出状況及びその内容（30%）を総合して評価する。　但し、相談援助実習資格試験に合格しなければ単位を認定しない
教科書	「実習へのガイドブック」群馬医療福祉大学出版
参考書	福祉臨床シリーズ編集委員会編「社会福祉シリーズ２２　相談援助実習・相談援助実習指導」弘文堂出版　／社会福祉小六法、社会福祉用語辞典、その他教員配付資料
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 障害者団体、病院、在宅介護支援センター、ホームレス支援施設などでソーシャルワーカーとしての実務経験があり、現在も社会福祉士事務所代表として成年後見受任事業などを行っている。群馬県立しろがね学園（障害児入所施設）における１５年の勤務と、児童相談所での５年の勤務をとおして、障害児・者、要保護児童などの処遇に携わった経験を活かした現場の実践感覚を大切にした授業展開を行っている。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法

	等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　低所得者に対する支援と生活保護制度　　授業コード：S2181

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
土屋　昭雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 貧困・低所得者が直面している生活問題、さらには、動向等の把握に努め、その主たる制度である「生活保護制度」についての理解を深めることを目的とする。 【到達目標】 低所得者の生活実態とその背景にある社会経済情勢を把握し、生活保護制度や低所得者対策、さらには、関連する諸施策等について学び、福祉専門職として必要な知識を習得するとともに、国家試験合格水準到達を目標とする。 ・公的扶助の意義と役割について理解している。 ・生活保護制度の動向についての説明ができる。 ・関連法規、施策について理解している。 ・ソーシャルワーカーが果たすべき役割について説明することができる。 ・社会福祉士国家試験過去問題・模擬問題等において正答を導きだすことができる。
授業の概要	本講義では、ソーシャルワーク実践を考慮し、生活保護制度概要はもとより、支援施策としての自立支援プログラム、ホームレス関連等について概説していく。また、制度を運営する組織の役割、連携のあり方についても確認し、さらには、低所得者層の生活実態、具体的なニーズと実状などについても言及していく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　　オリエンテーション〔授業の進め方、評価等授業概要に基づき説明〕、社会保険と公的扶助の違い 【key words】 生活保護・公的扶助・社会保険・社会福祉士 【授業概要】 ・授業の進め方、評価、社会福祉士国家試験における本科目について ・社会保険と公的扶助の相違点 【教科書ページ・参考文献】 p1～p6 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会保険と公的扶助の相違点の把握に努めること。第1章の熟読 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第２回　　公的扶助の概念　〔公的扶助の概念および範囲、公的扶助の意義と役割〕 【key words】 所得再分配機能・ナショナルミニマム・セーフティネット

【授業概要】
・公的扶助の概念および範囲
・公的扶助の意義と役割
【教科書ページ・参考文献】
p6～p15
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業該当ページの再確認・第2章の熟読
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第３回　貧困・低所得者問題と社会的排除　〔貧困と社会的排除、貧困・低所得者問題の現代的課題他〕
【key words】

貧困線・社会的排除・雇用、失業問題

【授業概要】
・貧困と社会的排除
・貧困および低所得者問題の現代的課題　ほか
【教科書ページ・参考文献】
p17～p33
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業該当ページの再確認・第3章の熟読
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第４回　公的扶助制度の歴史　〔海外および日本の歴史、貧困・低所得者対策の動向〕
【key words】

エリザベス救貧法・恤救規則・救護法・生活保護法・リーマンショック

【授業概要】
・海外の歴史
・日本の歴史
・貧困および低所得者対策の動向

【教科書ページ・参考文献】
p35～p62
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業該当ページの再確認・第4章の熟読
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第５回　生活保護制度の仕組み　〔生活保護法の原理・原則、保護の種類と内容および方法他〕
【key words】

基本原理・基本原則・扶助・金銭給付/現物給付

【授業概要】
・生活保護法の原理・原則
・保護の種類と内容および方法　ほか

【教科書ページ・参考文献】
p63～p88
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業該当ページの再確認・第4章の熟読
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第６回　生活保護制度の仕組み　〔保護施設、被保護者の権利および義務、不服申立てと訴訟他〕
【key words】

保護施設・不服申立て・朝日訴訟

【授業概要】
・保護施設
・被保護者の権利および義務
・不服申立てと訴訟　ほか
【教科書ページ・参考文献】
p89～p104
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業該当ページの再確認・第5章の熟読
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第７回　最低生活保障水準と生活保護基準　〔最低生活保障水準および生活保護基準の考え方、生活保護基準額の実際他〕
【key words】

生活保護基準・ナショナルミニマム

【授業概要】
・最低生活保障水準および生活保護基準の考え方
・生活保護基準額の実際　ほか
【教科書ページ・参考文献】
p105～p135
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業該当ページの再確認・第6章の熟読
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第８回　生活保護の動向　〔被保護人員および被保護世帯数、保護の開始・廃止の動向、医療扶助・介護扶助の動向〕
【key words】

保護率・被保護人員/被保護世帯数

【授業概要】
・被保護人員および被保護世帯数
・保護の開始および廃止の動向
・医療扶助および介護扶助の動向
【教科書ページ・参考文献】
p137～p162
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業該当ページの再確認・第7章の熟読
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第９回　低所得者対策の概要　〔生活困窮者自立支援法の概要、生活福祉資金貸付制度、社会手当制度、ホームレス対策他〕
【key words】

生活困窮者自立支援法・生活福祉資金貸付制度・社会手当・ホームレス・ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法

【授業概要】
・生活困窮者自立支援法の概要
・生活福祉資金貸付制度
・社会手当制度
・ホームレス対策　ほか
【教科書ページ・参考文献】
p163～p203
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業該当ページの再確認・第8章の熟読
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１０回　生活保護の運営実施体制と関係機関・団体　〔国・都道府県・市町村の役割、福祉事務所の役割他〕
【key words】

福祉事務所・社会福祉主事・スーパービジョン・スーパーバイザー

【授業概要】
・国、都道府県、市町村の役割
・福祉事務所の役割
・福祉事務所専門職の役割
【教科書ページ・参考文献】
p205～p221
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業該当ページの再確認・第9章の熟読
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１１回　貧困・低所得者に対する相談援助活動　〔生活保護制度における相談援助活動、他機関・他職種との連携・協働他〕
【key words】

アセスメント・就労支援・連携/協働・チームアプローチ・ケースカンファレンス

【授業概要】
・生活保護制度における相談援助活動
・他機関、他職種との連携、協働　ほか

	【教科書ページ・参考文献】 p223～p252 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業該当ページの再確認・第10章の熟読 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第１２回　生活保護における自立支援　〔自立とはなにか、自立支援プログラムの位置づけ、自立支援プログラムの策定および実施〕 【key words】 自立・経済的自立/日常生活自立/社会生活自立・自立支援プログラム 【授業概要】 ・自立とはなにか ・自立支援プログラムの位置づけ ・自立支援プログラムの策定および実施 【教科書ページ・参考文献】 p253～p272 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの再確認・積極的に国家試験過去問題等に取り組むこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第１３回　確認テストおよび解答解説 【key words】 公的扶助・生活保護制度・生活保護の動向・低所得者対策 【授業概要】 授業内容に基づいた一問一答問題への取り組みおよび解答解説 (解説については教科書ページを示し説明) 【教科書ページ・参考文献】 プリント配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テストの再確認 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第１４回　確認テストおよび解答解説 【key words】 公的扶助・生活保護制度・生活保護の動向・低所得者対策 【授業概要】 授業内容に基づいた一問一答問題への取り組みおよび解答解説 (解説については教科書ページを示し説明) 【教科書ページ・参考文献】 プリント配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テストの再確認 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第１５回　授業総括〔重要事項の確認〕 【key words】 公的扶助・生活保護制度・生活保護の動向・低所得者対策 【授業概要】 重要箇所の再確認 【教科書ページ・参考文献】 p1～p272(該当ページ) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 アンダーラインを引いた箇所の把握に努め教科書を熟読すること 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
受講生に関わる情報および受講のルール	私語は慎み、真摯な態度で授業に臨むこと。知識習得に向け、予習、復習を励行すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	生活保護の動向〔被保護人員・被保護世帯数等〕については、最新の数値の把握に努めること。また、新聞等に掲載される関連記事にも注意を払うこと。
オフィスアワー	月曜日〔14：20～17：30〕及び昼休み〔12：00～12：30〕
評価方法	定期試験〔80%〕・確認テスト〔20%〕

教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編『低所得者に対する支援と生活保護制度』中央法規出版
参考書	福祉小六法、その他は授業内で紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： レクリエーション活動援助法　　授業コード：S2223

英文科目名称： Assistance method of recreational activities

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	選択
担当教員			
田口　敦彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的]：レクリエーション活動の社会的意義を理解し、福祉施設、医療機関、学校等様々な活動現場における適切なレクリエーション活動支援の在り方や技術を身につけ、良好な人間関係を構築し、人々が笑顔に満ちた豊かなライフスタイルを確立できるように、公認指導者資格を有する支援者（レクリエーション・インストラクター） として、実践できるようになることを目的とする。 [到達目標]： 1.福祉分野や教育分野などで、高齢者や子どもなどの対象者の心の元気づくりの手助けをすることができる。 2.1 対1、1 対集団といった場面で、コミュニケーションを促進する力を身につけている 3.既存のアクティビティを、対象に合ったアクティビティへとアレンジする力を身につけている 4.対象者の主体性や協調性を引き出す力を身につけている 5.福祉施設や保育や学校教育など、現場に応じたレクリエーションプログラムを企画・展開する力を身につけている
授業の概要	年代ごとの課題や特徴をを知り、対象者のニーズに沿ったふさわしい形で提供できるレクリエーション活動の計画づくりを行い、対象者の元気や活力づくりの意欲を高め、自立・自律的な活動展開を支援できるよう学ぶ。レクリエーション活動支援に必要な理論と基礎技術を身につけ、様々な現場・対象者に快い楽しさのレクリエーションを提供することや良好な人間関係を構築し、楽しさの雰囲気づくりの方法を体験を通して学習する。対象者の成長や満足、達成感、充実感を獲得するためのレクリエーションプログラムの作成、発表、さらに脳トレ、介護予防体操等が実践できる技術を身につける。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	◎
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	○
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　　福祉サービスにおけるレクリエーション援助の役割 【key words】 生きがい、基本的人権、良循環 【授業概要】 余暇活動におけるレクリエーション援助の役割を理解する。さらに基本的人権としてレクリエーション活動が位置づけられていることも同時に学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 参考書　レクリエーション活動援助法P2～P7 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これからレクリエーションを活用して人々や地域を支える支援者にとってのレクリエーションの在り方について考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第２回	レクリエーション概論　　レクリエーションという言葉の主旨 【key words】 RE-CREATE 【授業概要】 レクリエーションという言葉の由来や、様々な学説・定義から、レクリエーションがどのようにとらえられてきたかを理解し、その捉え方からレクリエーションの基本的な考え方を確認する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P10～11　参考書　レクリエーション活動援助法P10～P11
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分がいままで体験してきたレクリエーション活動についてどのような活動があったのか思い出してみる。さらにその活動が、福祉分野においてどのように活用できるのかを考えてみる。

【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第３回　レクリエーション概論　　レクリエーション支援の目的と方法　インストラクターの役割
【key words】
厚生、コメニウス、フレーベル、プレイグランド運動
【授業概要】
レクリエーションのルーツを理解し、社会福祉サービスの流れの中で、レクリエーションが果たしてきた役割と今後の課題について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P11～P24　参考書　レクリエーション活動援助法P12～P16
【課題・予習・復習・授業準備指示】
重要な語句が数多く出てきたのでしっかりとまとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第４回　基礎理論　レクリエーションへの期待
【key words】
生活者　支援者　人を支える
【授業概要】
生活者　支援者という2つの視点からレクリエーションが期待されていることを確認する。さらに人を支えていく支援者にとってのレクリエーションについて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P25～P33
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書P32～33に掲載されている演習問題を解いておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第５回　基礎理論　生活のレクリエーション化
【key words】
生活のレクリエーション化
【授業概要】
レクリエーションを生活の軸に生活を遊び化してく支援の在り方を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法P19～P23
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回の講義でレクリエーションの生活化を学習する。本講義を良く整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第６回　基礎理論　レクリエーションの生活化
【key words】
レクリエーションの生活化
【授業概要】
日常生活において余暇の獲得とその充実を通して自律的な余暇生活の確立を目指すことを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法P19～P23
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回の講義で学習した生活のレクリエーション化と本講義を良く整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第７回　日常生活におけるレクリエーションの捉え方
【key words】
基礎生活　社会生活　　余暇生活

【授業概要】
近年、余暇活動にとどまらず「人間性の回復・再創造」など広義的に理解されている。福祉領域においては利用者の主体性をより尊重し、より楽しい生活を実現していくということを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法P39～P42
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ライフスタイルと基本的欲求の関係を確認しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第８回　日常生活の３領域とレクリエーション援助の関係
【key words】
基礎生活　社会生活　　余暇生活　ライフスタイル　基本的欲求
【授業概要】
福祉領域に含まれる「レクリエーション」の在り方を理解するとともに、日常生活の３つの領域(基礎生活、社会生活、余暇生活)についてどのような援助が望ましいか理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法P43～P48
【課題・予習・復習・授業準備指示】
それぞれの領域における必要なレクリエーション援助について確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

	第９回	楽しさと心の元気づくりの理論　レクリエーション活動の楽しさを感じる心の仕組み、および心の仕組みを根拠にした支援 【key words】 地域課題　コミュニティ　リージョン 【授業概要】 自分も楽しみ、その楽しさがまわりの人々や地域にも役立つことで、さらに事業を充実する方法について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P162～P169 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個人に働きかける場面と集団に働きかける場面について、それぞれにどんな効果があるか考えておく 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１０回	楽しさと心の元気づくりの理論　楽しさが心の元気をもたらす生理的な仕組み、および社会的な仕組み 【key words】 　地域課題　コミュニティ　リージョン 【授業概要】 　身近な地域（コミュニティ)とより広い範域の(リージョン)。それぞれの地域が抱える課題を理解し、解決するためのレクリエーションの活用について考えてみる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P142～157 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の住む地域を調べ、レクリエーションを活用して働きけｋることができる課題についてあげてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１１回	レクリエーション支援理論　レクリエーション支援におけるコミュニケーション 【key words】 コミュニケーションワーク　ホスピタリティ 【授業概要】 レクリエーションの提供を効果的に行うには、対象者との良好なコミュニケーションがかかせないことを理解 する必要がある。そのためのホスピタリティ、効果的な支援の方法を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P226～245 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ホスピタリティがどのような場面で有効的か、自分自身の活動を振り返り、その局面をイメージしてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１２回	レクリエーション支援理論　コミュニケーションワーク　アイスブレーキングのプログラミング～プログラミングの原則～ 【key words】 アイスブレーキングモデル 【授業概要】 レクリエーション支援が展開される様々な現場に応じた、アイスブレーキング・モデルの実践例を理解する。さらにグループにおいてアイスブレーキングモデルの作成と実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P259～269 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書P268　演習を解いておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１３回	レクリエーション支援理論　自主的、主体的に楽しむ力を育む理論　～アイスブレーキングモデルの作成～ 【key words】 アイスブレーキングモデル 【授業概要】 レクリエーション支援が展開される様々な現場に応じた、アイスブレーキング・モデルの実践例を理解する。さらにグループにおいてアイスブレーキングモデルの作成と実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P259～269 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書P268　演習を解いておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１４回	レクリエーション支援のプログラム　プログラムの立案　　アイスブレーキングのプログラミング・実践　発表 【key words】 アイスブレーキングのプログラミング 【授業概要】 アイスブレーキングのプログラミングについてグループごとに発表を行う。発表に際して、プログラムの目的の明確化、安心感、一体感が感じられるプログラム内容であったかを評価する。(質疑応答含む) 【教科書ページ・参考文献】 教科書P259～269 【課題・予習・復習・授業準備指示】

各グループの発表は今後のレクリエーション支援の素材となるので必ず記録しておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１５回　まとめ（評価・ふりかえり）
【key words】

【授業概要】
前期　授業の振り返りとテストについての確認を行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
前期テストにむけて配付プリント　ノートを整理しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１６回　楽しさと心の元気づくりの理論　ライフステージと心の元気づくり　　乳幼児期～児童期～青年期～老年期
【key words】
ライフスタイル　対応するレクリエーション課題
【授業概要】
年代ごとに大まかに共通する課題や生活環境、ライフスタイルを持っている。年代ごとの特徴を知り、対象者のニーズを把握する。さらにライフステージごとの課題について理解を深める。今回は乳幼児期～老年期を学習する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P70～P81
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ライフスタイルごとに対応するレクリエーションの視点について確認しておくこと。次回は青年期～老年期を学習するので先に取り上げた内容を事前に確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１７回　楽しさと心の元気づくりの理論　ライフステージと心の元気づくり　　少子高齢社会の課題とレクリエーション
【key words】
ライフスタイル　対応するレクリエーション課題
【授業概要】
少子高齢者の中でレクリエーションが働きかけることのできる課題は何か理解する。「個人、集団、環境づくり」といったレクリエーションの考え方に沿いながら、それらの課題に向けた支援方法について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　P92～P141
【課題・予習・復習・授業準備指示】
それぞれの課題とそれに対するレクリエーション支援について何ができるか自分自身で検討してみること。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１８回　楽しさと心の元気づくりの理論　ライフステージと心の元気づくり　地域のきずなとレクリエーション（地域介護予防事業の取り組みについて）
【key words】
生活のレクリエーション化　個人への働きかけ　集団への働きかけ
【授業概要】
高齢者社会の課題に向けて、一人ひとりの対象者にどのようなレクリエーション支援が可能か、また一人の対象者を介して、その人が所属するグループや集団、対象者を取り巻く環境にどのような働きかけができるのか理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P92～116
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個人への直接的支援、あるいは個人を介した支援が有効な高齢社会の課題をあげ、具体的な働きかけを考えてみる
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１９回　支援論　治療的意味合いを含めたレクリエーション　　セラピューティックレクリエーションサービス
【key words】
レクリエーション療法、セラピューティックレクリエーション
【授業概要】
治療的な意味合いを含めたレクリエーションについて、レクリエーション療法とセラピューティックレクリエーションの二つの方向性があることを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法(中央法規)　P150～P168
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回からレクリエーション計画の策定について学習を進めるが、どんなプログラムができそうかイメージを膨らませておく。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２０回　目的にあわせたレクリエーションワーク　素材アクティビティの提供
【key words】
素材・アクティビティ、ハードル設定、CSSプロセス
【授業概要】
レクリエーション支援がよりよい生の実現につながるものであることを理解する。あわせて、目的にあわせてレクリエーション支援の展開イメージを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　P274～P277

【課題・予習・復習・授業準備指示】
目的に合わせたレクリエーションワークを構成する3つの技術について確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２１回　目的にあわせたレクリエーションワーク　ハードル設定　CSSプロセス
【key words】
素材・アクティビティ、すり合わせ
【授業概要】
素材、アクティビティの選択について支援側からの特質と、対象者からの楽しさのすり合わせのプロセスについて理解する。さらに学習を深めるために、素材、アクティビティの選択方法について演習を行い各自検討する。レクリエーション実技　リズム手合わせ”
【教科書ページ・参考文献】
教科書　P278～P287
【課題・予習・復習・授業準備指示】
素材、アクティビティの選択が支援者の思いと対象者の目標により、慎重に検討されていることを確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２２回　目的にあわせたレクリエーションワーク　対象者間の相互作用の活用法
【key words】
ハードル設定　CSSプロセス
【授業概要】
達成感の積み重ねが対象者の有用感・自尊感情を満たし、前向きな姿勢や意欲を引き出すこと、ハードルの設定について理解する。さらに対象者間の相互作用が、対象者自ら支援の目的に近づく原動力となる原則を確認する。活用する基本技術としてのCSSプロセスについても理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P288～P297
【課題・予習・復習・授業準備指示】
リズム手遊びにみるハードルの設定について確認しておく。普段の遊びの中からCSSプロセスを実践してみる。
【予習復習に必要な想定時間】

第２３回　目的にあわせたレクリエーションワーク　指導実習
【key words】
ハードル設定　CSSプロセス
【授業概要】
乳幼児から高齢者まで幅広い支援の対象者に好まれている歌や体操を用いて、支援の良い手段として「素材・アクティビティ」を活用する技術を理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
今回紹介した技術を自分たちでも実践できるように復習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２４回　レクリエーション支援のプログラム　事業計画　レクリエーション事業とは
【key words】
マズロー５段階欲求説　生活の快　動機づけ
【授業概要】
レクリエーションプログラムを計画する際の基本的な考え方について理解する。また利用者のレクリエーションニーズの実現とレクリエーションの動機づけについて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　P162～P169　参考書　楽しさの追求を支える理論と支援の方法P26～P27
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分の得意とすることを活かしてどんな事業が展開できるかイメージを膨らませておくこと。
【key words】
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２５回　レクリエーション支援のプログラム　アセスメントに基づいたプログラム計画　A-PIEプロセス～ニーズの確認　目標設定　展開　期待される効果　～
【key words】
A-PIEプロセス
【授業概要】
A－PIEプロセスの手順とそれぞれのステップで考慮しなくてはならない事柄について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　P184～P195　参考書　楽しさの追求を支える理論と支援の方法P40～P45
【課題・予習・復習・授業準備指示】
A-PIEプロセスについてテキストにでている事例を確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２６回　レクリエーション支援のプログラム　レクリエーション事業のプログラムの組み立て方～集団を介して個人にアプローチする支援計画のつくり方～
【key words】
レクリエーションプログラム総合計画　A-PIEプロセス
【授業概要】
福祉レクリエーション総合計画の基本的な考え方に基づき計画前の確認を行う。その後、展開の技術について理解を深め、グループごとにレクリエーションプログラムの作成を行う。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P162～P195　　参考書　楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施P30～P43
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実際に自分たちが将来活躍するであろう施設や病院をイメージしながら、レクリエーション実施の一連の流れを確認しておくこと。その際に、支援者の対象者への思いを必ず確認すること。

	【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第２７回　レクリエーション支援のプログラム　プログラムの立案　事業計画　レクリエーション事業のプログラムの組み立て方 【key words】 Plan Do See プロセス 【授業概要】 「企画・準備・実施・整理」の段階から構成されるPlan-Do-Seeプロセスの手順と、それぞれのステップで考慮しなくてはならない事柄について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P196～P207　　参考書　楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施P30～P43 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の住む地域の課題を想定し、目標設定とそれに基づく地域住民を対象とした事業計画をつくってみる。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第２８回　レクリエーション支援のプログラム　リスクマネジメント　リスクマネジメントの方法～ 【key words】 リスクマネジメント 【授業概要】 レクリエーション活動における安全管理の必要性と方法について学習し、自己だけでなく犯罪や災害をも視野に入れた安全管理の考え方について理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 教科書P208～P223　参考書　楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施P30～P43 【課題・予習・復習・授業準備指示】 子ども、高齢者のプログラムイベントでどんなリスクがあるか確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第２９回　レクリエーション支援のプログラム　　レクリエーションプログラムの計画発表及び実践 【key words】 レクリエーションプログラム総合計画 【授業概要】 福祉レクリエーション総合計画の基本的な考え方に基づきそれぞれのグループごとに発表を行う。発表に際して、プログラムの目的の明確化、利用者の心を動かすプログラム内容であったかを評価する。(質疑応答含む) 【教科書ページ・参考文献】 教科書P162～P195 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実際に自分たちが将来活躍するであろう施設や病院をイメージしながら、レクリエーション実施の一連の流れを確認しておくこと。各グループの発表は今後のレクリエーション支援の素材となるので必ず記録しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第３０回　　一年間のまとめ（評価・ふりかえり） 【key words】 【授業概要】 1年の授業の振り返りとテストについての確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 後後期試験に向けてノート、プリントを整理しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
受講生に関わる情報および受講のルール	・出席を重視し、授業態度を評価するので積極的で反応の良い授業参加を心がけること。また支援者として好感のもてる 　態度、身だしなみを心掛けること。 ・授業シラバスを必ず確認すること。 ・グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。 ・遠隔授業にて受講する場合はにはカメラ機能をオンにすること。通信環境により実施できない場合は申し出ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	各地で開催される、大会や講習会・研修会・セミナー・ボランティア等へ積極的に参加し、楽しい体験（世代間交流）の中で、レクリエーション支援の在り方、手法を幅広く習得すること。
オフィスアワー	月曜日　5時間目　（変更時は掲示する）
評価方法	筆記試験　６０％　　授業中レポート　２０％　　グループワーク及び発表　２０％
教科書	レクリエーションインストラクター養成テキスト　【レクリエーション支援の基礎】　～楽しさ･心地よさを活かす理論と技術～ (財)日本レクリエーション協会編
参考書	参考書　【楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施】　【楽しさの追求を支える理論と支援の方法】(日本レクリエーション協会)　　【レクリエーション活動援助法】　(中央法規)
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 　■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	地域においてスポーツ活動指導の経験あり アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 相談援助実習

授業コード： S2801　S2802　S2803　S2804
S2805　S2806

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	3年次	4単位(180)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
富澤　一央・柳澤　充・川端　奈津子・安留　孝子・松永　尚樹・大久保　圭介			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ①相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について、具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得する。 ②社会福祉士として求められる資質、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ③関連分野と専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 【到達目標】 ①実習機関・施設の役割や関連する社会資源について説明できる。 ②支援対象との状況に合わせた会話ができる。 ③地域における実習機関・施設の役割や位置づけを説明できる。 ④実習機関・施設に関連する他職種の役割や業務、連携方法の必要性を理解し説明できる。 ⑤実習機関・施設で使用する記録の必要性を理解し、適切な記録技法をもちいて記録する事ができる。 ⑥コミュニケーション技術、面接技術をもちいて利用者と関る事ができる。 ⑦適切なアセスメントツールを使用し支援対象の全体像を把握できる。 ⑧ソーシャルワーク過程を理解し、実習指導者の指導の下、支援対象に適切な支援を実践する事ができる。 ⑨社会福祉士として倫理綱領・行動規範に基づいた行動をすることができる。 ⑩実習担当者教員・指導者からスーパービジョンを受け、社会福祉士としての課題を抽出し学習に繋げる事ができる。
授業の概要	相談援助実習は原則3年次（編入生は4年次）において実施する。ただし、3年次に履修要件を満たさず実習できなかった者は、4年次に実習を行なうことができる。 相談援助実習は実23日以上かつ180時間以上とする。 実習期間中に原則3回以上の帰学日指導と1回の実習巡回指導を受けること。 群馬医療福祉大学相談援助実習資格及び実習中止等の基準と実習へのガイドブックを参照し、遵守すること。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	△
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	△
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	△
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	△
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回 第２回 第３回 第４回

	第５回 第６回 第７回 第８回 第９回 第１０回 第１１回 第１２回 第１３回 第１４回 第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	群馬医療福祉大学相談援助実習履修資格及び実習中止等の基準を参照すること。 相談援助実習を行うために以下の履修要件を全て満たさなければならない。 1　将来、社会福祉士として社会福祉現場で働く意思を強く持っている者 2　社会福祉の学習及び実践に対して熱意と意欲を強くもっている者 3　健康状態、精神状態が相談援助実習を行うのに適当と認める者 4　実習履修年次までに哲学、倫理学、道徳教育、基礎演習Ⅰ・Ⅱ、ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ、相談援助の基盤と専門職、相談援助演習Ⅰ・Ⅱ、相談援助実習指導Ⅰ、社会福祉特講Ⅰ・Ⅱの単位を修得した者（再履修者においては、上記科目の他、総合演習Ⅰ、社会福祉特講Ⅲの単位を履修した者、編入生においては、4年次までに哲学、倫理学、道徳教育、相談援助の基盤と専門職、相談援助演習Ⅰ・Ⅱ、相談援助実習指導Ⅰ、総合演習Ⅰ、社会福祉特講Ⅲの単位を履修した者） 5　実習履修年次において相談援助演習Ⅲ、相談援助実習指導Ⅱ、社会福祉特講Ⅲを履修見込みの者（再履修者及び編入生においては、4年次に総合演習Ⅱ、相談援助演習Ⅲ、相談援助実習指導Ⅱ、社会福祉特講Ⅳを履修見込みの者） 6　社会福祉士及び介護福祉士法第7条1号の規定に基づき文部科学大臣・厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目の履修済みまたは履修中の科目においての出席状況及び授業態度が良好な者 7　ボランティア活動に積極的に取り組み、施設・機関の理解及び技術の向上を促進した者 8　相談援助実習に必要な書類及び実習担当教員が課した課題を期限までに提出し、提出書類の内容が適当と認められる者 9　相談援助実習資格試験に合格している者 10　学則に違反していない者、または学則に違反し停学等の処分を受けた者で改善の見込みのある者
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	各教員より実習指導Ⅱの授業時に伝える
授業外時間にかかわる情報	【相談援助実習中止の措置】 相談援助実習を行っている期間に以下の中止要件に該当する場合は相談援助実習を中止する場合がある。 1　重大なルール違反（実習先の就業規則並びにそれに準ずる実習のルールへの違反）を行ったとき 2　利用者への加害行為、人権的侵害を行ったとき 3　心身の事由により相談援助実習の継続が困難なとき。 4　守秘義務違反及び信用失墜行為を行ったとき 5　実習指導者が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき 6　実習施設・機関の長または実習指導者より相談援助実習中止の申し出があったとき 7　実習担当教員が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき 8　その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき
オフィスアワー	各教員より実習指導Ⅱの授業時に伝える
評価方法	①実習施設・機関による実習評価を傾斜配点し、教員が総合的に評価（40%） ②実習施設の概要の記載内容（10%） ③相談援助実習記録の記載内容（15%） ④実習のまとめの記載内容（10%） ⑤実習報告書の記載内容（10%） ⑥その他提出物の提出状況（15%） ※相談援助実習が終了したとしても提出物等が提出されない場合は相談援助実習の単位を認定しない。 ※相談援助実習指導Ⅱの単位を同一年度において修得出来なかった場合は相談援助実習の単位を認定しない。
教科書	「実習へのガイドブック」群馬医療福祉大学出版

参考書	福祉臨床シリーズ編集委員会編「社会福祉シリーズ２２　相談援助実習・相談援助実習指導」弘文堂出版　／社会福祉小六法、社会福祉用語辞典、その他教員配付資料
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 ※実務経験のある教員も含まれている。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　卒業論文指導

授業コード：S2901　S2902　S2903　S2904
S2905　S2906　S2907　S2908

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(30)	選択
担当教員			
担当教員			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 卒業論文の作成に必要な問題意識の醸成、研究方法、参考文献・資料等の収集方法、調査の方法、発表の方法等の学習を深める。これらの学習から、学生自身の専門とする領域の実践能力や、地域での活動の基礎となる問題解決能力や分析能力の質を高めることを目標とする。 〔到達目標〕 論文作成に向けた研究計画作成と研究活動の準備ができる。
授業の概要	これまでの講義・実習・演習等を通じて学んだ専門的な知識や技術をもとに、日常的な社会問題や社会福祉に関する事柄について研究的な視点から問いを立て、探求する活動の基本を学習する。学生個々の関心に基づいてテーマを設定し、担当教員の指導のもとで研究活動を実践するための準備や論文としてまとめるための資料収集を行う。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	◎
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回 教員（主な研究領域） 大島由之（臨床心理学・精神的健康） 柳澤充（マイノリティー・福祉問題） 新藤健太（障害福祉・ソーシャルワーク） 鈴木淳（障害児者支援臨床・医療心理） 真下潔（児童福祉・聴覚言語障害） 川端奈津子（発達障害・インクルーシブ保育） 乾明美（障害福祉・知的障害者支援） 益子徹（聴覚障害（情報保障・ろう文化）・障害者福祉） 巣立佳宏（社会的養護・児童心理） 大野俊和（社会心理学・教育社会心理学）※2019年度休講 上記教員が個別的に指導を行う。なお、時間割上での指定時間はないので、担当教員と協議の上、適宜指導時間を調整し指導を受けること。 授業内容：研究方法に関する指導、研究計画立案に関する指導 〔留意事項〕 履修登録にあたって、事前に各自の研究課題などを考慮し、上記一覧から指導を受けたい担当教員へ相談し研究内容と指導方法等について話し合うこと。なお、「主な研究領域」は担当教員の主な専門領域を示しており、研究計画のテーマを制限するものではない。 第２回 第３回 第４回 第５回

	第６回 第７回 第８回 第９回 第１０回 第１１回 第１２回 第１３回 第１４回 第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	この授業では、これまでの学習成果を統合し、そこから生じた問題意識を明確化した上で参加することが求められる。また、その問題意識を研究レベルで展開するために必要な事前作業が求められる。興味関心を持ち自ら積極的に取り組むことが大切となる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	その他（個々の教員とのゼミ方式の個別指導による。）
授業外時間にかかわる情報	各担当教員から指示する。
オフィスアワー	各担当教員による指示に従うこと。
評価方法	担当教員からの個別指導の履行状況：60%、研究計画：40%
教科書	授業中に紹介する。
参考書	授業中に紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 福祉サービスの組織と経営　　授業コード：S3031

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	4単位(60)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
高井　健二			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会福祉基礎構造改革の目指す「措置」から「契約」への転換の中で、社会福祉施設は、一般企業と同様に経営センスが求められている。本科目を受講することで経営学、経営理念・理論及び経営上の諸課題を学ぶことができ、社会福祉施設の経営に関する知識、センスを修得するとともに社会福祉の今後の動向を理解する。 【到達目標】 経営とは、経営資源であるヒト（人的資源）、モノ　（物的資源）、カネ（財源）、シラセ（情報資源）を効果的に活用して組織の目標を達成することである。社会福祉サービスの中核を担う専門職員として、①「経営管理」のとらえ方に関する理念・理論を理解し、リーダーシップやモチベーション等について考察できる。②規制緩和の流れの中でサービス提供組織の現状や課題を理解するとともに、特に社会福祉法人、特定非営利活動法人について理解する。③「経営管理」の構成要素として、業務管理（サービス管理）、人事・労務管理、会計・財務管理、情報管理、リスクマネジメント、建物・設備管理等についての知識を学ぶ。④組織経営のマネジメントには、幅広い知識・素養が求められる。オールランドプレイヤーとして諸課題が認識できるとともに、社会福祉施設での実践に当てはめることができる。
授業の概要	この講義では、「経営資源の活用」にかかるヒト（人的資源）、モノ（サービス管理）、カネ（財源、会計財務）、情報（経営理論、危機管理、福祉動向等）に関する事柄ついて、広範に学習する。教科書のコンテンツに沿って、下記の授業計画に基づき講義を進めるが、第１回から第６回までは補助プリントを配布、第７回以降は教科書と一部補助プリントを併用して授業を進める。経営学や人事・労務管理、簿記会計、労働法など全く学んだことのない受講生でも体系的に理解できるようにする。毎回講義終了後にミニテストを実施し、理解を深めるようにする。第１５回は試験準備として前期の総復習、第３０回は後期の総復習とする。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	オリエンテーション　　本科目全体を俯瞰するとともに、「社会福祉事業、社会福祉施設」について、基礎的な事項を再認識する。
	第２回	社会福祉（制度）の変遷と社会福祉基礎構造改革　　社会福祉の流れと社会福祉基礎構造改革（措置から契約への転換等）を学ぶ。
	第３回	企業経営・経営理念　　企業の基本的な性格や経営管理、経営理念等について学ぶ。
	第４回	経営理論（伝統的管理論）　　テイラーの科学的管理法、フアヨールの管理過程論を学ぶ。
	第５回	経営理論（人間関係論）　　メイヨーのホーソン実験、マズローの欲求５段階説、マグレガーのＸ理論・Ｙ理論を学ぶ。

	第６回　企業形態と株式会社　企業の形態や株式会社の仕組み、設立、定款等について学ぶ。 第７回　福祉サービスにおける組織と経営　福祉サービスとは、経営管理とは、事業主体・提供組織、福祉サービスと制度等を概観する。 第８回　法人とは　法人の意味・存立意義、法人の基本形態（財団法人・社団法人）、ガバナンスとコンプライアンス等を学ぶ。 第９回　社会福祉法人　社会福祉法人法人の基本的な性格、業務内容、設立と機関、規制と優遇措置、課題等を学ぶ。 第１０回　特定非営利活動法人　特定非営利活動法人とは、管理運営の基本、現状と課題等を学ぶ。 第１１回　戦略　経営戦略の策定プロセス（経営ビジョンの設定）、環境分析の手法、経営戦略の系譜等を学ぶ。 第１２回　事業計画　事業計画の策定・報告、内部・外部環境の分析、事業計画の実行・評価等を学ぶ。。 第１３回　組織論　組織構造と組織原則、組織形態等を学ぶ。 第１４回　管理運営の基礎理論　管理とは、管理の手法（ＰＤＣＡサイクル）、集団の力学等を学ぶ。 第１５回　まとめ　前期の総復習、中間テスト対策等を行う。 第１６回　リーダーシップ　リーダーシップとは、リーダーシップ理論の系譜、福祉サービス組織におけるリーダーシップのあり方等を学ぶ。 第１７回　サービスマネジメント　福祉サービスの特性・課題、福祉サービスの価値・品質、品質マネジメント等を学ぶ。 第１８回　サービスの質の評価　福祉サービスの質の向上、評価システム、第3者評価の仕組みと課題等を学ぶ。 第１９回　苦情処理とリスクマネジメント　リスクマネジメントとは、事故・苦情発生のメカニズムと対応、リスクマネジメントの取り組み等を学ぶ。 第２０回　人事・労務管理（１）　動機づけ理論、人事システム、人材の確保と採用、配置、異動等を学ぶ。 第２１回　人事・労務管理（２）　職員の処遇、給与体系（職能資格等級制度）、人事考課、人事評価と課題等を学ぶ。 第２２回　労働法規　労働法規の理念・体系、労働基本権等を学ぶ。 第２３回　労働基準法（１）　人たるに値する生活とは、労働基準法の性格・効力・適用範囲、就業規則、賃金・解雇等を学ぶ。 第２４回　労働基準法（２）　労働条件の明示、労働時間、休日・有給休暇、産前産後・育児休業等を学ぶ。 第２５回　人材育成　福祉人材の確保、職場研修、キャリアパスの考え方等を学ぶ。 第２６回　会計管理・財務管理（１）　会計・財務とは、公会計と企業会計、財務諸表、社会福祉法人おける会計制度等を学ぶ。 第２７回　会計管理・財務管理（２）　社会福祉法人における財務諸表の見方、貸借対照表、事業活動計算書、資金収支計算書等を学ぶ。 第２８回　社会福祉施設の建物・設備管理　建物・設備の分類、点検・防災、アメニテイ、防火・防災設備、防火・防災計画と対策等を学ぶ。 第２９回　情報管理　情報管理の重要性・必要性、個人情報保護、情報開示、経営における情報戦略、権利擁護制度・事業等を学ぶ。

	第３０回　　まとめ　　後期の総復習、期末テスト対策等を行う。
受講生に関わる情報および受講のルール	本科目は、社会福祉施設経営にとって必要な広範な内容のものになっているため、基礎知識の積み重ねが重要である。毎回出席は言うまでもないが、授業にかかわる事項については、関心を持って新聞、関連図書等により、自ら進んで調べる、学ぶ、知識を深めることが大事である。試験は「ノート持ち込み可」とするので、講義内容をノートに良く整理すること。毎回、事業計画に基づき予習をしたうえで講義に臨み、復習も欠かさないこと。授業中に生じた疑問は、コメントカード等により積極的に質問すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	テキスト該当箇所の予習を必須とする。本科目に関する事柄については、新聞を良く読むこと、関連図書、インターネット等で主体的に学習すること。幅広い素養、教養を身に着けるため、読書に努めること。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	中間試験、期末試験を実施し、その平均点で評価（100%）する。
教科書	新・社会福祉士養成講座「福祉サービスの組織と経営」中央法規出版（最新版）
参考書	授業の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 心理学実験実習Ⅱ　　授業コード：S3131

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	福祉心理コース・必修
担当教員			
長谷川　貴之			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔 授業の目的 〕 受講生に調査研究に関する知識・技術を習得させ，受講生が調査レポートを作成できるようになってもらうことを目的とする． 〔 到達目標 〕 実験，量的・質的調査研究に関する知識・技術を習得させる． 実験・調査レポートを作成できるスキルを身につけさせる． 客観的にレポートを評価できるスキルを身につけさせる．
授業の概要	本講義では，調査法（質問紙法）を利用しての人間理解の方法を学ぶ．その基礎として質問紙の作成に際しての項目作成，回答方法選択，face sheet の作成および倫理の問題，データ分析などについて触れる．

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	心理学における調査法 【key words】 調査法，虚偽尺度，内観法，自己報告，心理尺度，主観報告，再現性，文献検索． 【授業概要】 心理学における調査法の特徴や意義，長所，短所を知り，調査法における主観報告の意味や心理尺度を用いた研究の実施に関する手法・手順について理解する． 【教科書ページ・参考文献】 第1章 pp. 2～12 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える． 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習の時間は，３時間を目安に．
	第２回	調査法に関する諸問題 【key words】 サンプリング，許容誤差，信頼レベル，面接調査，電話調査，留置調査，郵送調査，オンライン調査，集合調査，インフォームド・コンセント，ディブリーフィング，ディセプション，研究倫理，利益相反． 【授業概要】 調査法を用いた研究を実施する際に留意すべき点として，サンプリング，調査方法，研究倫理に関する諸問題について学び，調査法の基礎について理解を深める． 【教科書ページ・参考文献】 第2章 pp. 16～27

【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に．

第３回　何をつくるのかを考える：測定概念の明確化と質的データの収集

【key words】
構成概念，心理尺度，感覚尺度，ブレイン・ストーミング，観察法，面接法，自由記述法，テキスト・マイニング，文章完成法．

【授業概要】
調査において“測りたいもの”の概念や研究背景を理解し，“測りたいもの”の測定に用いる尺度について学んだうえで，それを明確にし，実際に測るための質問項目作成の最初の段階について学ぶ．
【教科書ページ・参考文献】
第3章
pp. 30～37
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に．

第４回　項目をつくる：質問項目の作成と内容的妥当性の検討

【key words】
カテゴリー分類，単一回答法，複数回答法，順位法，一対比較法，強制選択法，評定法，自由記述法，逆転項目，内容的妥当性．

【授業概要】
具体的な質問項目づくりの段階として，質問項目の表現や形式，項目数の調整，回答形式の決定などを行い，項目案の作成と内容的妥当性の検討について学ぶ．
【教科書ページ・参考文献】
第4章
pp. 40～45
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に．

第５回　調査票をつくる：調査票の作成と調査の実施方法

【key words】
ロー・データ，スコアリング・データ，

【授業概要】
調査票を完成させ，サンプリングや調査方法を選定し，そして調査を実施する．またその後，収集したデータを統計ソフトに入力するところまでを学ぶ．
【教科書ページ・参考文献】
第5章
pp. 47～57
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に．

第６回　項目を選ぶ：項目の選定とその手法（その１）

【key words】
記述統計量，平均値，標準偏差，中央値，最大値，最小値，度数分布表，回答偏向，天井効果，床効果，相関分析，散布図，共分散，非線形関係，疑似相関，クロス表，等質性，因子分析，回転法．

【授業概要】
得られたデータの傾向や統計的な分析結果から，心理尺度として適切な項目を選定していく方法について学ぶ．
【教科書ページ・参考文献】
第6章の前半
pp. 59～78の範囲の主に前半
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える．
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に．

第７回　項目を選ぶ：項目の選定とその手法（その２）

【key words】
記述統計量，平均値，標準偏差，中央値，最大値，最小値，度数分布表，回答偏向，天井効果，床効果，相関分析，散布図，共分散，非線形関係，疑似相関，クロス表，等質性，因子分析，回転法．

【授業概要】
得られたデータの傾向や統計的な分析結果から，心理尺度として適切な項目を選定していく方

法について学ぶ.
【教科書ページ・参考文献】
第6章の後半
pp. 59～78の範囲の主に後半
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える.
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に.

第８回　心理尺度をつくる：信頼性，妥当性の検討
【key words】
信頼性，折半法，Cronbachのα係数，McDonaldのω係数，主成分分析，再検査法，並行検査法，妥当性.
【授業概要】
適切な物差しとして心理尺度を完成させる過程として，信頼性と妥当性について学ぶ.
【教科書ページ・参考文献】
第7章
pp. 82～93
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える.
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に.

第９回　ＳＤ法
【key words】
ＳＤ法（semantic differential technique, semantic differential method），プロフィール（プロファイル），因子分析.
【授業概要】
ある刺激に対して，個人が抱くイメージや感情的な意味を含む心理的意味を数量的に測定するために開発された方法がＳＤ法である．汎用性のあるＳＤ法の特徴について，具体的な調査手順からデータ分析，結果の解釈までを紹介する.
【教科書ページ・参考文献】
第8章
pp. 96～104
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える.
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に.

第１０回　経験抽出法（その１）
【key words】
経験抽出法，生態学的経時的評価法，一日再構成法，日記法，生態学的妥当性.

【授業概要】
人が時間をどのように使っているのかを調べるために開発されたデータ収集法が経験抽出法である．この調査法の長所は，経験した出来事からあまり時間を空けずに一定期間，人の感情や思考，行動などのデータの記録を行う点にある．一日再構成法などを含めた経験抽出法について学ぶ.
【教科書ページ・参考文献】
第9章の前半
pp. 105～125の範囲の主に前半
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える.
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に.

第１１回　経験抽出法（その２）
【key words】
経験抽出法，生態学的経時的評価法，一日再構成法，日記法，生態学的妥当性.
【授業概要】
人が時間をどのように使っているのかを調べるために開発されたデータ収集法が経験抽出法である．この調査法の長所は，経験した出来事からあまり時間を空けずに一定期間，人の感情や思考，行動などのデータの記録を行う点にある．日記法などを含めた経験抽出法について学ぶ.
【教科書ページ・参考文献】
第9章の後半
pp. 105～125の範囲の主に後半
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える.
【予習復習に必要な想定時間】
予習・復習の時間は，３時間を目安に.

第１２回　オンライン調査
【key words】
オンライン調査，クラウド・ソーシング，ＳＮＳ，社会調査.
【授業概要】
オンライン調査とは，インターネットを利用して行われる調査のことである．今後のさまざまな発展可能性を秘めたオンライン調査について，その使い道と現在の限界，今後の可能性について学ぶ.

	【教科書ページ・参考文献】 第10章 pp. 126～133 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える． 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習の時間は，３時間を目安に． 第１３回　翻訳法 【key words】 翻訳研究，トップダウン，比較文化研究，ボトムアップ，逆翻訳法，脱中心化，収束アプローチ， 【授業概要】 心理尺度作成の応用的な手法として「翻訳法」を取り上げ，心理尺度の翻訳に関する留意点やコツなどを紹介する．翻訳研究は，その作業自体が異なる文化を理解する一つの過程でもある．さまざまな言語や文化を有する人たちを対象にした研究を展開するという意味で，視点の転換により心理学の広がりが見えてくる． 【教科書ページ・参考文献】 第11章 pp. 138～144 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える． 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習の時間は，３時間を目安に． 第１４回　対象者の特性に応じた調査法／比較文化研究における調査法 【key words】 対象者の特性，信頼関係づくり，調査票の読みやすさ，調査票の回答のしやすさ，丁寧なアフターケア，フィードバック／比較文化調査，バイアス，不変性（等価性），確認的因子分析． 【授業概要】 高齢の対象者への質問紙調査の実施に関して，具体例を挙げながら紹介する．調査依頼のための信頼関係づくりや，調査票の作成に関する工夫や留意点，調査後の丁寧なアフターケアなど，対象者の特性に応じたさまざまな調査法の手順や各種の対応の要点について学ぶ．／比較文化研究が対象とする人たちは，異なる文化を有し，言語もさまざまである場合が多い．個人差をも含む文化という大きな概念の測定と，その影響の解明に挑戦し続けるための興味深い手法を理解しながら，調査法の応用とその可能性について学ぶ． 【教科書ページ・参考文献】 第12章／第13章 pp. 145～155 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておき，次の授業に備える． 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習の時間は，３時間を目安に． 第１５回　郵送調査法／まとめ 【key words】 郵送調査法，回収率． 【授業概要】 現代では郵送を用いた調査法の頻度は減っているが，郵送調査法の具体的な手順の理解とともに，その長所と短所を知ることで，オンライン調査と併用する意味を考えてみる． 【教科書ページ・参考文献】 第14章 pp. 157～160 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〔予習〕教科書を読んでくる．質問事項は授業ノートに書き留めておき，準備する．〔復習〕授業ノートと教科書を読み直す．考えた事はノートに書き足す．質問事項はノートに書き留めておく． 【予習復習に必要な想定時間】 予習・復習の時間は，３時間を目安に．
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 PC室もしくはLL教室での課題作成を含む． 〔受講のルール〕 事前にUSBメモリを用意することが望ましい．課題レポートの提出が必須．
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	予習・復習にかける時間は，３時間を目安にし，教科書の該当部分は必ず事前に通読しておく．
オフィスアワー	原則として，毎回授業終了後に質問・学習相談などに応じる．
評価方法	課題レポートが約６割，コメント評価が約４割．合計で60%以上が合格点． 実験・実習科目であるため，中間試験・学期末試験は実施しない．
教科書	三浦麻子監修・大竹恵子編著『心理学ベーシック第３巻 なるほど！ 心理学調査法』北大路書房，2017．ISBN 978-4-7628-2990-1
参考書	講義の中で適宜紹介する．
実務者経験/アク	

ティブラーニング/ リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 その他の具体的内容 ＰＣで表計算ソフトを用いてデータを分析する.

講義科目名称： 児童文学　　授業コード： S4432

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	社会福祉専攻・選択
担当教員			
鈴木　耕太郎			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 「児童文学」と呼ばれるジャンルの作品について、受講生ひとりひとりが理解を深め、その役割や意義についてさまざまな視点から考えられるようになることが本授業の目的となります。 [到達目標] 1:「児童文学」とは何かを理解し、その役割や意義を学ぶ。 2:「児童文学」の世界に触れ、それぞれの作品の楽しさ/おもしろさを自分のことばで述べることができるようになる。 3:「児童文学」にたくさん触れ、自分のおすすめの作品を紹介できるようになる。
授業の概要	ひとことで「児童文学」といっても、その範囲は広範にわたります。授業では「児童文学」の歴史やジャンルなど知識面を広げるとともに、なるべく多くの「児童文学」作品に触れ、それらが示す「世界」を共有してもらいます。そのほか、本授業では以下のような取り組みをします。 ・対面講義時は、毎回絵本を中心とした児童文学作品を紹介します(15分弱)。 ・講義第7回目に受講生参加型の児童書限定「ビブリオバトル」を行います(ただし、受講人数次第で全員参加か希望者参加かを決めます)。 ・講義第14回目に「絵本読み聞かせ大会」を行います(グループワークです)。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション＋児童文学とは何か 【key words】 児童文学の定義／子どもから大人まで／関心・感動 【授業概要】 まずこの講義ではどのようなことをするのか、また注意事項としてはどのようなことがあるのか、成績はどのようにつけられるのか、などをお伝えします。残りの時間でそもそも児童文学とはどのようなものを指すのか、その定義について考えます。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 （予習）講義前にどんな作品が児童文学なのか考えておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 15分程度
	第２回	児童文学に触れてみる（絵本の楽しさ１） 【key words】 絵本／日本人作家／絵本の読解／絵と文字／読み聞かせ 【授業概要】 実際に幼児に絵本の読み聞かせを行うような形で、いくつかの絵本作品を読みます（この回では日本人作家に限定します）。そして読み聞かせ後に、それぞれの作品について解説を行います。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 （予習・復習）日本人作家の絵本を講義前に最低でも1冊、講義後に1～3冊、読んでみましょう。

また、それぞれの作品はどこが面白いのか、作者の狙いはどこにあるのか考えてみましょう。
【予習復習に必要な想定時間】
5～20分

第３回　児童文学の形式とジャンル ＋ ビブリオバトルの説明
【key words】
形式／対象年齢／ジャンル／内容別
【授業概要】
ひとことで「児童文学」といっても、多様な作品を含みます。そこで、形式や内容、ジャンルなどである程度、分類し、児童文学の幅の広さ・多様さを実感してもらいます。また残りの時間でビブリオバトルの説明を行います。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
（予習）児童文学を分類するとしたら、どのような分類が考えられるか、予想してみましょう。
【予習復習に必要な想定時間】
5～15分

第４回　児童文学に触れてみる（絵本の楽しさ２）
【key words】
絵本／海外の作家／絵本の読解／絵と文字／読み聞かせ
【授業概要】
実際に幼児に絵本の読み聞かせを行うような形で、いくつかの絵本作品を読みます（この回では海外の作家に限定します）。そして読み聞かせ後に、それぞれの作品について解説を行います。
【教科書ページ・参考文献】
（予習・復習）海外の作家の絵本を講義前に最低でも1冊、講義後に1～3冊、読んでみましょう。また、それぞれの作品はどこが面白いのか、作者の狙いはどこにあるのか考えてみましょう。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
5～20分

第５回　伝説と昔話の世界＋絵本読み聞かせグループ決定
【key words】
神話／伝説／昔話／群馬の伝説・昔話
【授業概要】
児童文学の中でも伝説や昔話に特化して考えます。それらの伝説や昔話はなぜ、創作されたのか。またそれらが伝える意味や意義とは何か、考えます。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
（予習）群馬県内の昔話や伝説、あるいは自分の地元の市町村に残る伝説や昔話にはどのようなものがあるのか、調べておきましょう。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第６回　【個人発表】絵本ビブリオバトル
【key words】
ビブリオバトル／スピーチ
【授業概要】
1人3分のビブリオバトルを行います。なお、受講生の人数次第で、ビブリオバトルを行う人とジャッジする人にわかれてもらう可能性があります（この点は第3回講義時にいいます）。ただ、どちらにせよ、ビブリオバトル用のメモを提出してもらいます（メモも第3回講義終了時に渡します）。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
（予習）絵本ビブリオバトルに向けたメモを作成し、発表当日までにきちんと5分のスピーチにまとめられるようにしましょう（900字程度です）。当日はなるべくメモを見ないように努力しましょう。
【予習復習に必要な想定時間】
120～180分

第７回　都市伝説と学校の怪談
【key words】
現代伝説／都市伝説／ネットロア／学校の怪談
【授業概要】
都市伝説や学校の怪談も、広い意味では児童文学といえます。近年ではネット上の怖い話・不思議な話（ネットロア）なども話題になっています。これらの話はなぜ生まれ、広まるのでしょうか。こうした話をいくつか紹介し、そのメカニズムを考えます。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
（予習・復習）現代伝説・都市伝説・ネットロア・学校の怪談で自分が知っているものを複数思い出しておきましょう。またそれらの共通点を言えるようにしておきましょう。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第８回　ファンタジーの世界（日常編）
【key words】
ファンタジー／日常生活／異物・異世界・異人
【授業概要】
いわゆるフィクション（虚構世界）を描く児童文学作品の多くが「ファンタジー」と呼ばれるジャンルになります。その中でも、日常生活の中にファンタジーの要素が入り込む作品（たとえば、異世界の住人が日常生活の中に入り込む、あるいは日常世界と異世界とがつながっている）をいくつか紹介したうえで、それらの解説を行います。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
（予習）日常生活の中にファンタジー的な要素が含まれるような作品で、児童文学といえるものは何があるか、調べておいてください（また、その大まかな内容を把握しておいてください）。
【予習復習に必要な想定時間】
15～30分程度

第９回　ファンタジーの世界（異世界編）
【key words】
ファンタジー／異世界／世界観
【授業概要】
前回に引き続き「ファンタジー」作品を取り上げます。この回は、異世界を舞台にした作品をいくつか取り上げ、その解説を行います。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
（予習）異世界を舞台にしたファンタジー作品で児童文学といえるものは何があるか、調べておいてください（また、その大まかな内容を把握しておいてください）。
【予習復習に必要な想定時間】
15～30分程度

第１０回　戦争と平和の児童文学
【key words】
戦争／平和／残虐性／命の尊さ
【授業概要】
児童文学作品のなかで忘れてはならないのが、戦争や平和を扱う作品です。人類にとって大変難しい課題である平和の大切さ、戦争の愚かさを子どもたちにどうやって伝えるか、いくつかの作品を紹介しながら考えます。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
（予習・復習）戦争や平和に関する児童文学作品を最低でも講義前に1冊、講義後に1冊、読んでみましょう。また、それらが子どもたちに与える影響についても考えましょう。
【予習復習に必要な想定時間】
15～45分

第１１回　ノンフィクション作品と子どもの成長＋絵本読み聞かせ大会の説明
【key words】
ノンフィクション／フィクション／読み聞かせ
【授業概要】
児童文学作品の中でも「ノンフィクション」と称されるジャンルに当てはまる作品は意外に多く存在します。はたしてどのような作品がノンフィクションと呼べるのか、またそれらはどのような意図や意義をもっているのか、いくつかの作品を紹介し、解説を加えます。残りの時間で第14回に行う絵本読み聞かせ大会の説明を行います。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
（予習）児童文学の中でもノンフィクション作品としてはどのようなものがあるのか、調べておいてください（また、その内容もある程度、把握しておきましょう）。
【予習復習に必要な想定時間】
15～30分程度

第１２回　わらべ歌・童謡・詩の世界＋絵本読み聞かせ大会の準備
【key words】
わらべ歌・童謡／歌詞／詩／グループワーク
【授業概要】
わらべ歌や童謡もまた児童文学の一つといえます。私たちが幼いころに聞いたわらべ歌や童謡の歌詞を作品としてとらえなおし、その意味や意義について考えます。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
（予習）自分が知っている童謡のなかで、歌詞の意味がよくわからない（あるいは部分的にわからない）ものがないか、探してみましょう。
【予習復習に必要な想定時間】
15～30分程度

第１３回　アニメ・漫画と児童文学
【key words】
アニメ／漫画／視覚と聴覚
【授業概要】
専門家のなかでも意見が分かれるところでもありますが、広義の意味でアニメや漫画も児童文学と見なせるかと思います。これらの作品を児童文学としてとらえ返したとき、どのような意義、意味が見えるでしょうか。アニメや漫画の歴史や特性などを抑えて、その役割を考えます。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
（予習）自分の好きな漫画あるいはアニメが児童文学のジャンルでは何に当てはまるかを考えておきましょう。また、それらの漫画やアニメ作品の持つ意味・意義について考えてみましょう。
【予習復習に必要な想定時間】
30分程度

第１４回　【グループ発表】絵本読み聞かせ大会
【key words】
グループワーク／読み聞かせ／絵本／実践
【授業概要】
絵本読み聞かせの本番です。各グループとも4～8分の読み聞かせを行ってください。なお、制限時間は厳守のこと。なお、絵本読み聞かせの詳細は第11回に行います。
【教科書ページ・参考文献】

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 （予習）本番までにグループで最低でも3回は話し合い並びに練習をしておいてください。なおグループは第5回講義中に決定します。 【予習復習に必要な想定時間】 180分以上 第１５回　児童文学これまでのまとめと展望 【key words】 児童文学とは何か／意義と意味 【授業概要】 これまでの15回の内容を振り返ります。またテストに関する諸注意も行います。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 （復習）これまでの講義を振り返り、テストに備えましょう。 【予習復習に必要な想定時間】 180分以上
受講生に関わる情報および受講のルール	・私語は厳禁。遅刻（講義開始から15分以上45分未満の入室）にも厳しく対処します(2回の遅刻につき、1回の欠席とみなします）。 ・授業中、携帯電話などの使用(通話やゲーム、LINEなど)は原則認めません(教員が許可した場合に限ります)。 ・5回以上、欠席（遅刻2回も含む）した場合は定期試験は受験できないこととします。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード。遠隔の場合はZOOMのチャット機能など。
授業外時間にかかわる情報	・日常的に児童文学に触れておいてください。 ・絵本ビブリオバトルメモの未提出は原則認めません。未提出の場合は、大幅な減点を行います。 ・質問や疑問がある場合は講義中、あるいは講義後のコメントカードなどで必ず書いておいてください。
オフィスアワー	対面授業の場合は原則講義終了後、講師室で30分(ただし、場合によっては時間を取れないこともあります)。 オンラインの場合、質問などがある場合はチャットで伝えた上で、講義終了後、オンラインで行います。
評価方法	①定期試験60%、②絵本ビブリオバトルメモ10%、③授業への取り組み・態度(定期的に取るコメントカードの内容やビブリオバトル・絵本読み聞かせ出来など)30%
教科書	特に指定しません(レジュメを用います)
参考書	・川端有子『児童文学の教科書』(玉川大学出版、2013年)　・三宅興子、多田昌美『児童文学12の扉をひらく』(翰林書房、1999年)
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 介護技術Ⅱ　　授業コード：S5045

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	選択
担当教員			
辻　志帆・福田　智久			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	「授業の目的」 介護ニーズの複雑化・高度化に伴い、介護を必要としている人に、全人的で質の高い介護が提供できるよう、基礎的な　知識と技術及び態度を習得し、実践できるようになることを目的とする。 「到達目標」 ①身体障害のある人に対する医学的な知識と介護の方法が理解でき対応することができる。 ②認知症に伴うこころとからだの変化と介護について理解することができる。 ③終末期における介護の意義と尊厳を考慮した支援について理解することができる。 ④介護における安全確保と危機管理の重要性について理解し対応することができる。
授業の概要	本講義は、介護を必要とする人の「尊厳の保持」や「自立支援」などの観点から、基本的な日常の「生活支援」に焦点をあて質の高い適切な介護を提供できる能力と態度を育てることを重視している。また介護を実践する際に必要なこころとからだについての基礎的な知識を習得するとともに、社会的に重要性を増している高齢者や認知症、障害、終末期における介護についても理解を深め、介護の現状と支援のあり方について学習する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等の説明） 【key words】 シラバス 【授業概要】 科目の位置付けと授業概要の説明。学生個々の履修目的、学習目標についてレポート 【教科書ページ・参考文献】 授業概要 【課題・予習・復習・授業準備指示】 演習時は身だしなみを整えてくること 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	介護の意義と役割　①　（介護の意義　介護と生活） 【key words】 介護の概念、介護と生活支援、介護は実践 【授業概要】 介護とは、介護の仕事とは何か、介護をめぐる社会的背景、介護福祉士の誕生と法的規定について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P2~5　参考書「介護福祉総論」P2~P14　第一法規 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内容をもとに復習を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第３回	介護の意義と役割　②　（尊厳を支える介護　生活の質と介護）

【key words】
人間の尊厳、QOL
【授業概要】
尊厳の持つ意味について、尊厳を支え援助をする側と尊厳を持つ要介護者との側面について考察する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P6~P17
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義、演習をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　介護の意義と役割　③　（自立に向けた介護　ノーマライゼーションの理念　介護予防とリハビリテーション）
【key words】
自立支援、介護予防とリハビリテーション、ノーマライゼーション
【授業概要】
自立を支える介護の意義と役割について、ノーマライゼーションやICFを取り上げ、利用者の自己決定と個別化などについて学ぶ。また介護実践における介護予防とリハビリテーションの考え方を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P2~7
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義、演習をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　生活の場による介護の特徴　（居宅介護　家族介護　施設介護）グループ学習
【key words】
居宅介護・家族介護・施設介護
【授業概要】
居宅と施設など生活の場による介護の特徴、居宅サービス従事者に求められる基礎知識、介護保険制度と施設介護の現状と入居者の生活について学ぶ。家庭生活の変化と介護に　ついても学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P6～7、P11~12
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義、演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　生活の場による介護の特徴　（居宅介護　家族介護　施設介護）発表
【key words】
居宅介護・家族介護・施設介護
【授業概要】
居宅と施設など生活の場による介護の特徴、居宅サービス従事者に求められる基礎知識、介護保険制度と施設介護の現状と入居者の生活について学ぶ。家庭生活の変化と介護に　ついても学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P6～7、P11~12
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義、演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　介護を必要とする人の理解（高齢者の暮らしと生活、身体障害のある人の暮らしと生活）①
【key words】
高齢者、障がい者の生活、介護ニーズ、介護福祉サービス、ノーマライゼーション
【授業概要】
介護を必要とする高齢者や障がい者などについて具体的な事例を通して生活に関する状況と課題及び介護ニーズを取り上げ、それぞれ高齢者、障がい者を支えるための介護の在り方について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
P13~P17
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　介護を必要とする人の理解（高齢者の暮らしと生活、身体障害のある人の暮らしと生活）②
【key words】

【授業概要】
介護福祉サービスの概要やそのサービスが提供される場の特性などについて学習する。
【教科書ページ・参考文献】
P13~P17
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　介護従事者に求められる倫理性・専門性
【key words】
倫理綱領　倫理性　　専門性　バイスティックの7原則
【授業概要】
介護の専門職としての職業倫理について理解し、介護従事者に求められる倫理性、専門性について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
P18～22
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　こころとからだのしくみ（こころのしくみ）
【key words】
ひとのからだ、こころ、人間の基本的欲求、社会的欲求
【授業概要】
こころのしくみの理解では思考、記憶、学習、感情、意欲など様々な欲求に対する適応の仕組みを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
P20～p30
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　こころとからだのしくみ（からだのしくみ）
【key words】
からだの構成、ホメオスタシス、脳と脊髄、脳神経と脊髄神経
【授業概要】
からだのしくみの理解では、人間の生命維持と生体恒常性のしくみ。人体の構造やからだの各部の名称、ボディーメカニクスなどを取り上げ、人間のからだのしくみについて理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p31～38
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　生活行為に関連したこころとからだのしくみ（食事、排せつ）
【key words】
1日あたりの水分出納、口渇中枢、摂食・嚥下のメカニズム、排尿、排便のメカニズム、尿失禁
【授業概要】
食事に関するこころとからだの基礎知識として食べることの生理的意味、必要な栄養素量や水分量、食べるしくみ、食欲や口渇などを学ぶ。排せつに関するこころとからだの基礎知識として排尿・排便のしくみ、排せつ物の性状、便秘や下痢、失禁などの機能の低下や障害の原因とその影響について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
p54-67
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　高齢者と健康（病気、身体機能の低下が及ぼす生活への影響）
【key words】
加齢と病気　高齢者の病気の特徴　ホメオスタシス　人体の成分と体液
【授業概要】
身体機能が低下してきている高齢者の病気の特徴と老化が生活行為に及ぶ影響について学習する。また、高齢者の健康管理には、保健医療職との連携が必要であることについても学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P100～103
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１４回　高齢者と健康（加齢による身体機能低下、運動機能低下とADL）
【key words】
高齢者の食生活の影響　高齢者の排泄への影響　高齢者の活動への影響　ADL
【授業概要】
加齢に伴う身体機能低下が及ぼす日常生活への影響について、食生活、排せつ、活動を取り上げ学習する。また加齢による運動機能低下とADLの低下について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P103~107

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１５回　まとめ　（総括）
【key words】
尊厳を支える介護　自立に向けた介護　高齢者と障がい者の暮らしと生活　ひとのこころとからだのしくみ
【授業概要】
14回までの授業を振り返る。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１６回　後期　科目オリエンテーション（授業概要）

【key words】
シラバス　授業の関連性
【授業概要】
前期授業の振り返りと後期授業の関連性の説明。後期授業目標と行動目標
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１７回　心身状態、生活状態のアセスメント技術（全身状態とバイタルサインの観察）
【key words】
全身観察　バイタルサインの観察
【授業概要】
心身状態のアセスメント技術である「バイタルサイン」の基本的な医療知識と観察方法、その対応について
学ぶ。観察方法の体験学習を通じ、観察したことの正常、異常時の判断基準、医療職との連絡調整の必要性について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ204～212
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１８回　心身状態、生活状態のアセスメント技術（バイタルサインの計測）
【key words】
体温　呼吸　パルスオキシメーター　脈拍　血圧
【授業概要】
バイタルサインが正しく計測できるよう、基本的な医療知識と観察方法、その対応について学び、体験学習を通じて観察したことの正常、異常の判断がつき、医療職との連絡調整の必要性について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
P204~218
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１９回　身体不調時・異常時の介護①　（発熱時と脱水の対応）
【key words】
発熱時の対応　冷あん法によるクーリング　解熱への対応　脱水の観察と対応
【授業概要】
発熱時と脱水状態の介護について、基本的な医療知識と観察方法などを関連付け学習する。
【教科書ページ・参考文献】
P213～216
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２０回　身体不調時・異常時の介護②　（呼吸困難時、意識障害時のケア）
【key words】
呼吸困難　起座位　意識障害　ジャパン・コーマ・スケール
【授業概要】
基本的な医療知識と観察方法、その対応について学び実践を演習で行う。呼吸困難時の体位、意識障害時の対応を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P216~217
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２１回　身体障害のある人への理解①　（視覚障害）
【key words】
目の構造・機能　視覚機能障害　日常生活への影響
【授業概要】
視覚障害について、医学的に疾患や病態を学び、視覚障害を持つ人への理解を深めたうえで演習を通して、援助の方向性を学習する。視覚障がい者への誘導方法など。
【教科書ページ・参考文献】
P226~229　P147~149
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２２回　身体障害のある人への理解②　（聴覚・言語機能障害）
【key words】
耳の構造と機能　伝音声難聴　感音性難聴　失語症　運動機能障害性構音障害
【授業概要】
外見では分かりにくい障害であり、障害の本質が理解されにくい聴覚・言語機能障害について、医学的な知識に基づいた障害の理解と自立に向けた適切な介護について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P226~229
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】

30分

第２３回　身体障害のある人への理解③　肢体不自由（運動機能障害）

【key words】
脳血管障害　神経系疾患　パーキンソン病
【授業概要】
脳血管障害、パーキンソン病の特性を医学的に学び、障害によって今まで慣れ親しんだ生活様式を変えざるを得ない現状と自立に向けた介護の方向性について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２４回　身体障害のある人への理解④　内部障害（腎臓機能障害）

【key words】
内部障害　腎臓機能　腎不全　腎臓透析療法
【授業概要】
内部障害の現状と課題を視野に入れながら、医学的な知識に基づいた腎臓機能障害のある人の自立に向けての介護技術を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P234~238
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２５回　認知症のある人への理解②　（認知症の医学的理解、認知症に伴う心身の変化と日常生活）

【key words】
アルツハイマー型認知症　脳血管性認知症　若年性認知症
【授業概要】
認知症の原因となる疾病や症状の特徴、それらによって引き起こされる機能の変化と生活障害などの医学的理解を深めながら認知症の基礎知識と特性、心の特徴について学ぶ。また人間関係や居住環境などが認知症の人の日常生活に与える影響について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P271
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２６回　認知症のある人への理解③　（認知症に対する介護技術）

【key words】
認知症ケアの理念　パーソンセンタードケア　グループホームケア
【授業概要】
認知症ケアの歴史や理念、罹患者数の推移と認知症高齢者の現状、認知症高齢者支援対策の概要などを取り上げ。認知症を取り巻く現状について学ぶ。認知症の人の理解の重要性について「人の生活や暮らし」の視点での介護のありかたを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P266～268
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２７回　介護における安全確保と危機管理　（安全対策）

【key words】
感染症　ノロウイルス　MRSA　日和見感染症　感染予防
【授業概要】
介護現場における感染症の実態を取り上げ、感染予防の意義と必要性について理解させるとともに、感染対策の基礎知識と技術を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料　参考「人体の構造と機能及び疾病」P101~104
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２８回　人生の最終段階の介護①　（死にゆく人のこころとからだの変化）

【key words】
人間の死　医学的　法学的　人生の最終段階　危篤状態　安楽死　尊厳死
【授業概要】
人生の最終章の終末期の介護では、「死にゆく人のこころとからだの変化を取り上げ、人間の死のとらえ方、危篤状態に陥った時のからだの変化について学ぶ。また死に向かってゆく過程のこころの変化についても学習する。
【教科書ページ・参考文献】
P284～296
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２９回　人生の最終段階の介護②　（終末期における介護技術）

【key words】
高齢者のターミナルケア　緩和ケア　事前意思確認　グリーフケア
【授業概要】
人生の最終段階における介護の意義と目的、介護のポイント、高齢者のターミナルケア、緩和ケアなど、様々な症状に対しての援助方法や精神支援の重要性を学ぶ。死別後のグリーフケアにつ

	いても学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P293~296 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内容をもとに復習を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第３０回　まとめ（総括） 【key words】 人間の尊厳の保持　自立支援　介護職と多職種との連携　介護予防 【授業概要】 後期授業の振り返りと総括 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 介護について自己の思いや考え方を整理しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	「受講生に関わる情報」 演習は、学校指定の運動着、シューズを着用のこと。イヤリング、ネックレス腕時計はつけないこと。 長い爪と　マニュキアは禁止、長い髪は束ねること。 「受講のルール」 他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。挨拶や身だしなみを整えること。 演習時の教材の準備、後片付けはグループメンバーと協力して行うこと。 教材は大切に使用し、整理整頓を心がけること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	介護は、人間らしく生きることの支援なので、幅広い多面的な知識と人との関りが重要である。日頃から、新聞等の情報から社会情勢や高齢者・障害者問題等にも関心をもつことが大切である。
オフィスアワー	授業時に指示します。
評価方法	定期試験　６０％　　小テスト・レポート２０％　　授業への取り組み　２０％
教科書	「新　大学社会福祉・介護福祉講座　介護技術論」　第一法規
参考書	講義の中で適宜紹介
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 高齢者施設にて介護実務の経験あり。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 公民科教育法　　授業コード：S5082

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	4単位(60)	学校教育コース・選択
担当教員			
田村　浩一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	・高等学校公民科の指導をする上で必要となる知識・技能を身につける。 ・主に高等学校の「現代社会」で扱う現代社会の概要や主要な課題について理解を深め、授業ノート（板書・プリント案）を作成して、各自が望ましい授業のアウトラインをデザインする。 ・受講生各自が「現代社会」の模擬授業を想定した学習指導案を作成して指導計画を立案する資質を身に付けるとともに、各１回模擬授業及びその直後に受講者全員で授業研究を実施して考察・議論を行い、実践的学習指導力を養う。
授業の概要	・前期：高等学校「現代社会」の中の、「現代社会の諸課題」「青年期」「政治」「経済」の分野についての基本的事項を理解し、各自が授業ノート（板書・プリント案）を作成して、具体的授業展開について考察する。模擬定期考査問題を作成するとともに、評価のあり方を考察・研究する。 ・後期：高等学校「現代社会」の中の、「倫理」分野についての基本的事項を理解し、各自が授業ノート（板書・プリント案）を作成して、具体的授業展開について考察する。また、受講者全員が学習指導案を作成して、１回ずつ模擬授業及びその後に授業研究を実施する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	△
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	授業の概要説明（公民科の概要、授業の主眼と到達目標、授業の進め方や課題提出、評価方法、自己紹介） 【key words】 授業概要 【授業概要】 ・「公民科」の概要を理解する。 ・シラバスに沿って、授業の主眼や到達目標、授業の進め方,評価方法等を確認する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書紹介（「高等学校改訂版　現代社会」「高等学校学習指導要領解説　公民編」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「高等学校学習指導要領解説　公民編」に目を通しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分 ３０分
	第２回	学習指導要領改訂の趣旨・要点、公民科の各科目と新科目「公共」、中学校の学習との関わり 【key words】 学習指導要領の概要 【授業概要】 ・高等学校学習指導要領の総則を概観する。 ・学習指導要領（公民）の改訂の趣旨や要点を理解する。 ・公民科の各科目の概要、特に新科目「公共」について理解する。 ・中学校学習指導要領を再確認する。 【教科書ページ・参考文献】 「高等学校学習指導要領解説　公民編」P1～P80 P183～P216 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第二次世界大戦後の世界と日本の歩み（教科書巻末）に目を通しておくこと

【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第３回　現代史概観：戦後の日本及び国際社会の政治・経済の変遷
【key words】
現代史概観
【授業概要】
配布する略年表プリントを完成させながら、戦後の日本及び国際社会の政治・経済の変遷を概観・理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書巻末年表、略年表プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
略年表復習、次授業教科書の範囲を読んでおくこと、小テストに向けての学習
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第４回　教育法研究：現代社会の諸課題の理解と指導法について（地球環境問題、資源・エネルギー問題等）
【key words】
現代社会の諸課題
【授業概要】
示範授業を通じて授業展開例を示し、現代社会の諸課題についての理解を深めさせるとともに、受講生各自に授業用ノートや板書案を作成させ、具体的授業展開を考えさせる。
【教科書ページ・参考文献】
「高等学校改訂版　現代社会」P6-36 「示範授業プリント」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
板書案の仕上げ、次授業教科書の範囲を読んでおくこと、小テストに向けての学習
【予習復習に必要な想定時間】
３０～６０分

第５回　教育法研究：青年期に関わる諸課題の理解と指導法について
【key words】
青年期の諸課題
【授業概要】
示範授業を通じて授業展開例を示し、青年期の諸課題についての理解を深めさせるとともに、受講生各自に授業用ノートや板書案を作成させ、具体的授業展開を考えさせる。
【教科書ページ・参考文献】
「高等学校改訂版　現代社会」P38-51 「示範授業プリント」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
板書案の仕上げ、次授業教科書の範囲を読んでおくこと、小テストに向けての学習
【予習復習に必要な想定時間】
３０～６０分

第６回　教育法研究：個人の尊重及び法の支配の理解と指導法について
【key words】
法の支配と個人・国家
【授業概要】
示範授業を通じて授業展開例を示し、個人の尊重と国家、法の支配、世界の政治体制ついての理解を深めさせるとともに、受講生各自に授業用ノートや板書案を作成させ、具体的授業展開を考えさせる。
【教科書ページ・参考文献】
「高等学校改訂版　現代社会」P52-67 「示範授業プリント」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
板書案の仕上げ、次授業教科書の範囲を読んでおくこと、小テストに向けての学習
【予習復習に必要な想定時間】
３０～６０分

第７回　教育法研究：日本国憲法及び平和主義の理解と指導法について
【key words】
日本国憲法の基本原理
【授業概要】
示範授業を通じて授業展開例を示し、日本国憲法の基本原理や平和主義についての理解を深めさせるとともに、受講生各自に授業用ノートや板書案を作成させ、具体的授業展開を考えさせる。
【教科書ページ・参考文献】
「高等学校改訂版　現代社会」P68-81 「示範授業プリント」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
板書案の仕上げ、次授業教科書の範囲を読んでおくこと、小テストに向けての学習
【予習復習に必要な想定時間】
３０～６０分

第８回　教育法研究：基本的人権及び新しい人権の理解と指導法について
【key words】
基本的人権
【授業概要】
示範授業を通じて授業展開例を示し、基本的人権や新しい人権についての理解を深めさせるとともに、受講生各自に授業用ノートや板書案を作成させ、具体的授業展開を考えさせる。
【教科書ページ・参考文献】
「高等学校改訂版　現代社会」P82-96 「示範授業プリント」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
板書案の仕上げ、次授業教科書の範囲を読んでおくこと、小テストに向けての学習
【予習復習に必要な想定時間】
３０～６０分

第９回　教育法研究：日本の立法・行政・司法の理解と指導法について
【key words】
日本の三権の別
【授業概要】
示範授業を通じて授業展開例を示し、日本の国会、内閣、裁判所についての理解を深めさせるとともに、受講生各自に授業用ノートや板書案を作成させ、具体的授業展開を考えさせる。

【教科書ページ・参考文献】
「高等学校改訂版　現代社会」P97-111 「示範授業プリント」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
板書案の仕上げ、次授業教科書の範囲を読んでおくこと、小テストに向けての学習
【予習復習に必要な想定時間】
３０～６０分

第１０回　教育法研究：日本の地方自治及び住民の福祉の理解と指導法について
【key words】
地方自治と福祉、選挙制度
【授業概要】
示範授業を通じて授業展開例を示し、日本の地方自治や福祉、選挙制度ついての理解を深めさせるとともに、受講生各自に授業用ノートや板書案を作成させ、具体的授業展開を考えさせる。
【教科書ページ・参考文献】
「高等学校改訂版　現代社会」P112-125 「示範授業プリント」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
板書案の仕上げ、次授業教科書の範囲を読んでおくこと、小テストに向けての学習
【予習復習に必要な想定時間】
３０～６０分

第１１回　教育法研究：国際政治の動向の理解と指導法について
【key words】
国際政治の動向
【授業概要】
示範授業を通じて授業展開例を示し、今日の国際社会の動向（国際連合の役割、軍縮、地域紛争等）ついての理解を深めさせるとともに、受講生各自に授業用ノートや板書案を作成させ、具体的授業展開を考えさせる。
【教科書ページ・参考文献】
「高等学校改訂版　現代社会」P126-155 「示範授業プリント」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
板書案の仕上げ、次授業教科書の範囲を読んでおくこと、小テストに向けての学習
【予習復習に必要な想定時間】
３０～６０分

第１２回　教育法研究：現代の経済社会の理解と指導法についてⅠ（市場経済、景気変動）
【key words】
市場経済
【授業概要】
示範授業を通じて授業展開例を示し、市場経済のしくみや景気変動への理解を深めさせるとともに、受講生各自に授業用ノートや板書案を作成させ、具体的授業展開を考えさせる。
【教科書ページ・参考文献】
「高等学校改訂版　現代社会」P156-174 「示範授業プリント」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
板書案の仕上げ、次授業教科書の範囲を読んでおくこと、小テストに向けての学習
【予習復習に必要な想定時間】
３０～６０分

第１３回　教育法研究：現代の経済社会の理解と指導法についてⅡ（政府・金融機関の役割）
【key words】
財政・金融政策
【授業概要】
示範授業を通じて授業展開例を示し、政府の経済的役割や金融機関のはたらきへの理解を深めさせるとともに、受講生各自に授業用ノートや板書案を作成させ、具体的授業展開を考えさせる。
【教科書ページ・参考文献】
「高等学校改訂版　現代社会」P175-187 「示範授業プリント」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
板書案の仕上げ、次授業教科書の範囲を読んでおくこと、小テストに向けての学習
【予習復習に必要な想定時間】
３０～６０分

第１４回　教育法研究：現代の経済社会の理解と指導法についてⅢ（日本経済の動き、雇用・労働問題、社会保障）
【key words】
日本経済の動き、労働問題、社会保障
【授業概要】
示範授業を通じて授業展開例を示し、戦後日本の経済動向、雇用・労働問題、社会保障についての理解を深めさせるとともに、受講生各自に授業用ノートや板書案を作成させ、具体的授業展開を考えさせる。
【教科書ページ・参考文献】
「高等学校改訂版　現代社会」P189-221 「示範授業プリント」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
板書案の仕上げ、考査問題の構想をたてておくこと、小テストに向けての学習
【予習復習に必要な想定時間】
３０～６０分

第１５回　学習評価の研究
【key words】
考査問題
【授業概要】
・のぞましい評価のあり方についてグループ討議を行い、考察しながら理解を深める。
・模擬定期考査問題の構想を立て、作成を開始する。
【教科書ページ・参考文献】
「高等学校改訂版　現代社会」P68～P155,P156～P221 「示範授業プリント」「高等学校学習指導要領　公民編」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
夏季休業中の課題として、模擬定期考査問題を完成させ、後期最初の授業で提出すること
【予習復習に必要な想定時間】
１０時間

	第１６回	教育法研究：国際経済の動向の理解と指導法についてⅠ（国際経済のしくみ、貿易） 【key words】 国際経済のしくみ 【授業概要】 示範授業を通じて授業展開例を示し、国際経済のしくみや貿易についての理解を深めさせるとともに、受講生各自に授業用ノートや板書案を作成させ、具体的授業展開を考えさせる。 【教科書ページ・参考文献】 「高等学校改訂版　現代社会」P222-234 「示範授業プリント」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 板書案の仕上げ、次授業教科書の範囲を読んでおくこと、小テストに向けての学習 【予習復習に必要な想定時間】 ３０～６０分
	第１７回	教育法研究：国際経済の動向の理解と指導法についてⅡ（国際経済の動向、日本の役割） 【key words】 国際経済の動向 【授業概要】 示範授業を通じて授業展開例を示し、国際経済の動向や南北問題、国際協調ついての理解を深めさせるとともに、受講生各自に授業用ノートや板書案を作成させ、具体的授業展開を考えさせる。 【教科書ページ・参考文献】 「高等学校改訂版　現代社会」P235-247 「示範授業プリント」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 板書案の仕上げ、次授業教科書の範囲を読んでおくこと、小テストに向けての学習 【予習復習に必要な想定時間】 ３０～６０分
	第１８回	教育法研究：古代思想と宗教の教えの理解と指導法について 【key words】 古代思想と宗教 【授業概要】 示範授業を通じて授業展開例を示し、古代の思想や世界宗教についての理解を深めさせるとともに、受講生各自に授業用ノートや板書案を作成させ、具体的授業展開を考えさせる。 【教科書ページ・参考文献】 「高等学校改訂版　現代社会」P248-258 「示範授業プリント」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 板書案の仕上げ、次授業教科書の範囲を読んでおくこと、小テストに向けての学習 【予習復習に必要な想定時間】 ３０～６０分
	第１９回	教育法研究：日本の思想と宗教観の理解と指導法について 【key words】 日本の思想と宗教 【授業概要】 示範授業を通じて授業展開例を示し、日本の伝統意識や日本の仏教、儒教、西洋思想の受容についての理解を深めさせるとともに、受講生各自に授業用ノートや板書案を作成させ、具体的授業展開を考えさせる。 【教科書ページ・参考文献】 「高等学校改訂版　現代社会」P259-265 「示範授業プリント」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 板書案の仕上げ、次授業教科書の範囲を読んでおくこと、小テストに向けての学習 【予習復習に必要な想定時間】 ３０～６０分
	第２０回	教育法研究：近現代の西洋思想の理解と指導法について 【key words】 西洋思想 【授業概要】 示範授業を通じて授業展開例を示し、近現代の西洋思想の概要についての理解を深めさせるとともに、受講生各自に授業用ノートや板書案を作成させ、具体的授業展開を考えさせる。 【教科書ページ・参考文献】 「高等学校改訂版　現代社会」P266-284 「示範授業プリント」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 板書案の仕上げ、小テストに向けての学習、「授業ノート」の整理・まとめ 【予習復習に必要な想定時間】 ３０～６０分
	第２１回	大学入学共通テストとその指導法の研究 【key words】 大学入学共通テスト 【授業概要】 大学入学共通テスト及び大学入学センター試験の過去問等を研究し、授業等における指導のあり方を考察する。 【教科書ページ・参考文献】 共通テスト、センター試験の過去問 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「授業ノート」の整理・まとめ 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第２２回	学習指導案と授業用資料の作成 【key words】 学習指導案 【授業概要】 模擬授業の担当分野及び授業研究会の役割分担を決定する。学習指導案の基本的作成方法を理解させ、模擬授業に向けて各自で学習指導案作成、授業用資料作成に着手させる。 【教科書ページ・参考文献】

「高等学校改訂版　現代社会」「学習指導案作成例プリント」「高等学校学習指導要領　公民編」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
模擬授業に向けての学習指導案の作成（実施の１週間前までに提出）
【予習復習に必要な想定時間】
授業者は３～５時間

第２３回　模擬授業及び授業研究（第１回）
【key words】
模擬授業と授業研究
【授業概要】
「現代社会の諸課題」分野の授業を担当する受講者が模擬授業（５０分）を実施し、その後授業研究（３０分）を行い、意見交換を行う。
【教科書ページ・参考文献】
「高等学校改訂版　現代社会」模擬授業担当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】
模擬授業に向けての学習指導案の作成（実施の１週間前までに提出）、模擬授業実施者は自身の課題のまとめ
【予習復習に必要な想定時間】
授業者は３～５時間

第２４回　模擬授業及び授業研究（第２回）
【key words】
模擬授業と授業研究

【授業概要】
「青年期の課題」分野の授業を担当する受講者が模擬授業（５０分）を実施し、その後授業研究（３０分）を行い、意見交換を行う。
【教科書ページ・参考文献】
「高等学校改訂版　現代社会」模擬授業担当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】
模擬授業に向けての学習指導案の作成（実施の１週間前までに提出）、模擬授業実施者は自身の課題のまとめ
【予習復習に必要な想定時間】
授業者は３～５時間

第２５回　模擬授業及び授業研究（第３回）
【key words】
模擬授業と授業研究
【授業概要】
「国内政治」分野の授業を担当する受講者が模擬授業（５０分）を実施し、その後授業研究（３０分）を行い、意見交換を行う。
【教科書ページ・参考文献】
「高等学校改訂版　現代社会」模擬授業担当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】
模擬授業に向けての学習指導案の作成（実施の１週間前までに提出）、模擬授業実施者は自身の課題のまとめ
【予習復習に必要な想定時間】
授業者は３～５時間

第２６回　模擬授業及び授業研究（第４回）
【key words】
模擬授業と授業研究
【授業概要】
「国際政治」分野の授業を担当する受講者が模擬授業（５０分）を実施し、その後授業研究（３０分）を行い、意見交換を行う。
【教科書ページ・参考文献】
「高等学校改訂版　現代社会」模擬授業担当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】
模擬授業に向けての学習指導案の作成（実施の１週間前までに提出）、模擬授業実施者は自身の課題のまとめ
【予習復習に必要な想定時間】
授業者は３～５時間

第２７回　模擬授業及び授業研究（第５回）
【key words】
模擬授業と授業研究
【授業概要】
「国内経済」分野の授業を担当する受講者が模擬授業（５０分）を実施し、その後授業研究（３０分）を行い、意見交換を行う。
【教科書ページ・参考文献】
「高等学校改訂版　現代社会」模擬授業担当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】
模擬授業に向けての学習指導案の作成（実施の１週間前までに提出）、模擬授業実施者は自身の課題のまとめ
【予習復習に必要な想定時間】
授業者は３～５時間

第２８回　模擬授業及び授業研究（第６回）
【key words】
模擬授業と授業研究
【授業概要】
「国内経済」分野の授業を担当する受講者が模擬授業（５０分）を実施し、その後授業研究（３０分）を行い、意見交換を行う。
【教科書ページ・参考文献】
「高等学校改訂版　現代社会」模擬授業担当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】
模擬授業に向けての学習指導案の作成（実施の１週間前までに提出）、模擬授業実施者は自身の

	課題のまとめ 【予習復習に必要な想定時間】 授業者は３～５時間 第２９回　模擬授業及び授業研究（第７回） 【key words】 模擬授業と授業研究 【授業概要】 「倫理」分野の授業を担当する受講者が模擬授業（５０分）を実施し、その後授業研究（３０分）を行い、意見交換を行う。 【教科書ページ・参考文献】 「高等学校改訂版　現代社会」模擬授業担当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 模擬授業実施者は自身の課題のまとめ、授業ノートの整理・まとめ 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分 第３０回　公民科教育法の１年間の振り返り（教育実習に向けての指導のポイント、課題等をグループ討議） 【key words】 １年間の振り返り 【授業概要】 １年間の学修について振り返り、受講生間で意見交換をして、自己の成長と今後の課題を確認する。 確認したことを「授業ノート」にまとめ、提出させる。 【教科書ページ・参考文献】 「高等学校改訂版　現代社会」「高等学校学習指導要領　公民編」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	健康に留意し、欠席しないようにして下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・毎回基本的事項確認用のプリントを配布します。教科書や参考書等でよく復習して下さい。 ・授業ノートの作成及び模擬考査問題、学習指導案の作成を課します。教科書や参考書、授業プリント等で十分理解する他、図書館で本を検索したり、新聞など資料を集めて、しっかり書いてください。
オフィスアワー	授業終了後30分程度（目安）
評価方法	前後期とも定期試験を行う（50%）、授業への参加状況（25%、下記小テストを含む）、授業ノート,模擬考査問題 及び学習指導案の内容とそれに即した模擬授業（25%） 毎回の授業での評価は、コメントカードで行う（小テスト等を含む）。
教科書	『高等学校　改訂版　現代社会』（第一学習社）　『高等学校学習指導要領解説　公民編』（文部科学省）
参考書	『現代社会用語集』『政治・経済用語集』『倫理用語集』（いずれも山川出版社）　中学校用教科書『新しい社会　公民』（東京書籍）　『フォーラム　現代社会』（東京法令出版） 授業の要目に沿って、毎回穴埋め事項を含めたプリントを配布する。 学習指導案作成に際して、個別に参考図書を紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 高等学校で「公民科」「地歴科」の授業を担当（２７年間） 高等学校で管理職として、教員の授業を指導（１２年間） アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 その他の具体的内容 諸資料をインターネット等から引用して、実践的に活用する。

講義科目名称：　教育相談論　　授業コード：S5091

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・必修／児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
青木　美穂子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	教師として児童生徒の悩みに共感し、一人一人の課題解決への適切な支援ができる能力や人間としての心の痛みを理解でき、児童生徒のよさを引き出すことのできる資質の育成を図る。
授業の概要	教育相談の意義や目的、教育相談の心理学的基礎、心理アセスメント、カウンセリング諸理論、不登校等の問題行動の理解と指導について学ぶとともに、カウンセリング実習を通して教育相談の基礎的技法を身に付け、教師として必要な教育相談的資質や能力を養う。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	オリエンテーション　子どもの存在と「生きる力」 【key words】 【Key Word】 生きる力　教育相談の考え方　自己育成 【授業概要】 オリエンテーション、シラバス、教育相談の目的及び必要性について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１～１４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１４～２９ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
	第２回	教育相談・カウンセリングの考え方 【key words】 【Key Word】 教育相談の考え方　教育相談と生徒指導　カウンセリングの発想 【授業概要】 教育相談の考え方、教育相談と生徒指導、カウンセリング感覚について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１４～２９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ３１～４４ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
	第３回	子どもとかかわる基本原理　ーカウンセリングの発想からー　① 【key words】 【key word】 教師としての自己を語る　自己開示　子どもの心を聴く　感情の明確化 【授業概要】 教師として自己開示をすること、子どもの気持ちを聴き取り感情の明確化をすることの重要性を理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ３１～４４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ４４～５７
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第４回　子どもとかかわる基本原理　ーカウンセリングの発想からー　②
【key words】
【Key Word】
スピーディーな対応　子どものメッセージに応じる　子どもの努力・成長に学ぶ　事実に即して誉める・叱る

【授業概要】
子どもとかかわる基本原理について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ４４～５７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ５９～７２
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第５回　子どもの人間関係づくり①　学級の「まとまり」をつくる　＜かかわる力＞をはぐくむ
【key words】
【Key Word】
学級のまとまり　かかわる力

【授業概要】
学級のまとまりをつくること、「かかわる力」を育むことの重要性を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ５９～７２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ７２～８７
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第６回　子どもの人間関係づくり②　コミュニケーション能力を育成する　指導観・授業観の転換
【key words】
【Key Word】
コミュニケーション能力　指導観・授業観の転換

【授業概要】
コミュニケーション能力を育成することの大切さや指導観・授業観の転換について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ７２～８７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習課題　教科書Ｐ１～８７
【予習復習に必要な想定時間】
復習２時間

第７回　前半のまとめとカウンセリング実習①　構成的グループエンカウンター（実習）　ソーシャルスキルトレーニング（実習）
【key words】
【Key Word】
前半まとめ　カウンセリング実習　ロールプレイ

【授業概要】
前半のまとめをする。　次回からのカウンセリング実習の意義を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１～８７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ８９～１１４
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第８回　教育相談の計画と活動の実際　カウンセリング実習②
【key words】
【Key Word】
教育相談の計画　計画立案の実際例　教育相談活動　家庭訪問　進路指導　保護者会

【授業概要】
教育相談計画の立案や教育相談活動の実際例（家庭訪問・進路指導・保護者会）について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ８９～１１４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１１５～１２３
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第９回　学級担任が向き合う危機的な問題①　学級崩壊を克服する　カウンセリング実習③
【key words】
【Key Word】
学級崩壊　状況分析　事態改善の方向　予防対策

【授業概要】
学級崩壊の要因を理解し、学級崩壊を克服する対策を考える。
【教科書ページ・参考文献】

教科書Ｐ１１５～１２３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１２４～１４５
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１０回　学級担任が向き合う危機的な問題②　いじめを克服する　　カウンセリング実習④
【key words】
【Key Word】
いじめの基本認識　いじめ集団　指導体制　教師に求められる指導

【授業概要】
いじめについての理解を深め、いじめ解消の対策を考える。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１２４～１４５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１４５～１５７
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１１回　学級担任が向き合う危機的な問題③　不登校の問題を考える　　カウンセリング実習⑤
【key words】
【Key Word】
不登校の実態　不登校のきっかけ　不登校のサイン　子どものサイン

【授業概要】
不登校の実態を知り、不登校対策としてカウンセリングの考えを生かした対応や子どものサインに気づくことの大切さを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１４５～１５７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１５８～１７１
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１２回　学級担任が向き合う危機的な問題④　保護者との対応力を磨く　あってはならない体罰　　カウンセリング実習⑥
【key words】
【Key Word】
保護者との対応力　関係づくり　保護者の不安を解消する　体罰

【授業概要】
保護者との対応力を高めるために必要なポイントを理解する。
体罰についての理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１５８～１７１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ
【予習復習に必要な想定時間】

第１３回　問題行動の考え方と対応の実際①　　カウンセリング実習⑦
【key words】
【Key Word】
早期発見　組織的対応　近年の問題行動の考え方

【授業概要】
問題行動の考え方を知り、早期発見や組織的対応の重要性を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１７３～１７９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習課題　教科書Ｐ８９～１８２
【予習復習に必要な想定時間】
復習　２時間

第１４回　問題行動の考え方と対応の実際②　　カウンセリング実習のまとめ
【key words】
【Key Word】
事例から学ぶ　対応の実際例　　カウンセリング実習のまとめ

【授業概要】
実際の対応例　カウンセリング実習のまとめをする。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１７３～１８１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１８２～２０５
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１５回　まとめ
【key words】
【Key Word】
事例から学ぶ　対応の実際例　まとめ　　発表

【授業概要】
事例を通して対応の実際例を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１８２～２０５
【課題・予習・復習・授業準備指示】

	試験に向けてのまとめ 【予習復習に必要な想定時間】 試験に向けて　５時間
受講生に関わる情報および受講のルール	誠意ある態度での受講を求めます。講義や実習等を妨げる態度や私語を慎んで下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期試験（８０％）、授業態度（２０％）を総合して評価します。
教科書	有村久春著　学級教育相談入門　金子書房　２，５００円＋税
参考書	学習指導要領（文部科学省）　生徒指導提要（文部科学省）　幼稚園教育要領　幼保連携子ども園教育・保育要領
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 公立小・中学校の教諭経験　公立小学校の管理職経験 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 教育実習（高等学校）　　授業コード：S5145

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
－	3年次	2単位(80)	学校教育コース・選択
担当教員			
江原　京子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　教育実習は、教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場である。講義・演習をとおして得た専門的知識・技能を活かし、実習に取り組むことにより、教育者としての資質・能力の向上を図る。 [到達目標] １　高等学校の教育活動の場に臨み、生徒と直接触れ合い、指導教員の指導を受けながら、教育者として求められる 　知識・技能・態度を修得する。 ２　教科指導や生徒指導などの教育実践をとおして、生徒理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。
授業の概要	「実習時期及び実習日数・時間」 　原則として当該学年の6月中に、80時間(2週間)の実習を行う。 　※中学校と高等学校両方の教員免許状を希望する者は、中学校あるいは高等学校において、原則として6月中120時 　間（3週間）の教育実習を行い、教員免許状に必要な科目を履修することで取得できる。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　　福祉祉科　教育実習履修資格者要件 　－ 【key words】 【福祉科　教育実習履修資格者】 【授業概要】 以下に記載するすべての履修要件を満たした者 １　将来、教員として学校現場で働く意思を強くもっている者 ２　教職課程の学習に熱意と意欲をもっている者 ３　健康状態が実習を行うのに適当と認められる者 ４　実習前あるいは実習期間中に、教科または教職に関する科目：教育原理、教育方法論、教育心理学、教職概論、教育社会学、教育実習事前・事後指導、生徒指導･進路指導の理論と方法、教育相談論、特別活動の指導法、特別支援教育総論、日本国憲法、介護概論、介護技術Ⅰ、福祉科教育法を履修済みあるいは履修中であること。 ５　ボランティア活動に積極的に取り組んでいる者 ６　3年次後期開講の教職対策講座Ⅰと4年次前期開講の教職対策講座Ⅱを必ず受講する者 ７　1年次より実施する一般教養講座（基礎学力養成講座）を受講する者（原則として3年次まで） ８　実習後に都道府県で実施している教員採用試験を必ず受験する者（都道府県によっては受験が実施されない教科がある。その場合は私立学校主催の適正検査を必ず受験すること） 【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２回　公民科　教育実習履修資格者要件

－

【key words】
【公民科　教育実習履修資格者】

【授業概要】
以下に記載するすべての履修要件を満たした者
１　将来、教員として学校現場で働く意思を強くもっている者
２　教職課程の学習に熱意と意欲をもっている者
３　健康状態が実習を行うのに適当と認められる者
４　実習前あるいは実習期間中に、教科または教職に関する科目：教育原理、教育方法論、教育心理学、教職概論、教育社会学、教育実習事前・事後指導、生徒指導･進路指導の理論と方法、教育相談論、特別活動の指導法、特別支援教育総論、日本国憲法、公民科教育法を履修済みあるいは履修中であること。
５　ボランティア活動に積極的に取り組んでいる者
６　3年次後期開講の教職対策講座Ⅰと4年次前期開講の教職対策講座Ⅱを必ず受講する者
７　1年次より実施する一般教養講座（基礎学力養成講座）を受講する者（原則として3年次まで）
８　実習後に都道府県で実施している教員採用試験を必ず受験する者（都道府県によっては受験が実施されない教科がある。その場合は私立学校主催の適正検査を必ず受験すること）

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第３回

－

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第４回

－

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第５回

－

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第６回

－

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第７回

－

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第８回

－

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第９回

－

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１０回

－

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１１回

－

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１２回

－

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１３回

－

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１４回

－

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

	第１５回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	「実習上の注意」 １　実習中は実習校の指導教員の指導・指示に従い、真摯な態度で熱意をもって実習を行うこと ２　実習生といえども「教員」であるという意識をもち、態度、服装、言動等に充分気をつけること ３　「教育実習記録」は毎日記録し、指導教員へ提出すること。実習終了後は本学実習指導教員に提出すること ４　授業研究を充分に行い、授業に臨むこと ５　実習中は学習指導要領及び実習へのガイドブックを携行すること ６　実習中、本学実習指導教員に実習状況等を必ず報告すること [実習中止の措置] １　本学実習指導教員及び実習校の指導教員の指導・指示に従えない者 ２　実習上の注意（１～６）が守れない者 ３　実習校の校長より実習中止の申し出があったとき ４　その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	実習中におけるメール等（文章化したもの）での報告
授業外時間にかかわる情報	※　実習中は本学実習指導教員に実習状況･内容等をメール等で必ず報告(評価に関わる）し、疑問を残さないようにすること。
オフィスアワー	水曜日　16時～18時　それ以外の時間帯については、要相談・要予約
評価方法	１　実習中における実習状況・内容の報告(２０％)：メール等（文章化したもの）での報告を義務付ける。 ２　実習校の評価(５０％) ３　教育実習録の評価(３０％)
教科書	１　群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック』 ２　文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』 ３　文部科学省『高等学校学習指導要領解説(平成30年度告示)福祉編』(福祉科の教員免許状取得希望者) ４　文部科学省『高等学校学習指導要領解説(平成30年度告示)公民編』(公民科の教員免許状取得希望者)
参考書	適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 中学校教諭として勤務経験をもつ教員が、実習の巡回指導を行うほか、教師としての指導力が身に着くよう実践的な指導を行う。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 教育実習事前事後指導（中・高）　　授業コード：S5146

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(90)	学校教育コース・選択
担当教員			
江原　京子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　中学校及び高等学校の本実習を控え、教育基本法の目標と目的を熟知し、教育の理念・目標を熟知して教育実習に臨む。直前に控えた本実習では、どのようなことを学び、どのような視点で実習を行っていったら良いか、教材研究にも力を注ぎ、教育実習生としての心得や自覚を促すことを目的とする。 　本実習終了後は、教育実習の成果を再確認して今後の課題を見いだせるようにする。 [到達目標] １　学校の組織・運営や生徒指導および学習（教科）指導に関する基礎・基本となる内容を確実におさえることができ　　る。 ２　本実習終了後は報告会を行い、将来学校教育に従事する教員としての役割や資質について考えられる。
授業の概要	１　２年次に行った事前指導の内容を確認し、直前に控えた本実習に向けて、教育実習生としての心得や実習中に留意 　することを中心に講義を行う。 ２　生徒一人一人に対しての望ましい教育的働きかけに言及し、教材研究が充実したものとなるように指導していく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等の説明）　教育実習に臨み　－教育実習の範囲と内容－ 【key words】 学生指導、生徒指導、学級／クラス活動、校務分掌 【授業概要】 【授業にあたり】 １　教育実習の期間が異なるため、提示した回の内容での実施とならない場合がある。 ※　変更した内容を適宜提示する。 ２　本実習中は、必ずメール等で実習内容についてメールで報告を行うこと（週3回必須） ３　本実習中に困ったこと、不安なこと、わからないこと等、自分で判断せず、必ず相談すること。 【授業概要】教育実習本実習に向けて、教育実習の範囲と内容について確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教育実習本実習に向けて、教育実習の範囲と内容について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。中学生の特徴について調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分

第２回　実習を受け入れる立場から　①　－中学校の立場から－
【key words】
思春期、生徒指導、進路指導、学習指導
【授業概要】

教育実習を受け入れる中学校の立場から、思春期真っ只中の中学生との接し方、学習面で開きがある生徒の指導について等、学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』
・配布資料等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育実習を受け入れる中学校の立場から、実習生に必要とされる資質・能力とは何か等、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。高校生の特徴について調べてくること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第３回　実習を受け入れる立場から　②　－高等学校の立場から－
【key words】
青年期、生徒指導、進路指導
【授業概要】

教育実習を受け入れる高等学校の立場から、子どもでも大人でもない、「高校生」という時期の接し方、将来の自分像を考え･悩む進路指導について等、学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』
・配布資料等

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育実習を受け入れる高等学校の立場から、実習生に必要とされる資質･能力とは何か等、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。教育実習で留意する点をまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第４回　教育実習で留意すること
【key words】
規則正しい生活、守秘義務、報告･連絡･相談、提出物
【授業概要】

教育実習で留意することについて、確認する。
【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』
・レジュメ等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育実習で留意することについて、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
教育実習校の特徴等をホームページ等で確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第５回　観察実習、教育実習録の書き方
【key words】
実習校の特徴、時間割、実習日誌、実習内容、総括

【授業概要】

教育実習録（実習日誌）の書き方について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』P82～
・配布資料：書き方例
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・配布資料の書き方例を参考にして実習日誌を書き、期日までに提出すること。
・教育実習録に必要事項を記入しておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第６回　教育実習･本実習における教材研究の在り方
【key words】
教材研究、教材･教具、補助教材、確かな学びの保障
【授業概要】

教育実習･本実習における教材研究の進め方について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』P15～

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育実習･本実習における教材研究の進め方について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

	第７回	教育実習･本実習の流れ　　一日の日程（朝の会･帰りの会／ショートホームルーム等） 【key words】 一日の流れ、観察実習、授業実習、実習内容 【授業概要】 教育実習･本実習の流れ、実習内容、一日の流れ：日程（朝の会･帰りの会／ショートホームルーム等）について確認をする。 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・大学オリテンのレジュメ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各実習校の教育実習･本実習の流れ、実習内容、一日の流れについて、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 実習校の流れを確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第８回	本実習前　大学オリエンテーション 【key words】 実習の心構え、守秘義務、留意事項 【授業概要】 本実習前　大学オリエンテーションを実施する。 学長、学部長先生より訓話・講話をいただく。 心構え、留意事項等、担当教員より 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 【課題・予習・復習・授業準備指示】 大学オリエンテーションの内容をまとめ、期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第９回	研究授業案の作成（各実習校の形式に合わせて） 【key words】 学習指導案の作成、生徒理解、材料の提示、学びの保障 【授業概要】 研究授業案を各実習校の形式に合わせて作成する準備を整える。 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』・観察実習記録 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・研究授業案を各実習校の形式に合わせて作成する準備を整える。 ・次回の授業で研究授業案を作成するため、準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１０回	研究授業に向けて　　①　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の実習校での計画 【key words】 学習指導案の作成、生徒理解、材料の提示、学びの保障 【授業概要】 研究授業案を各実習校の形式に合わせて作成する。 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』P17～P36、P35～P45 ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領』東山書房 【課題・予習・復習・授業準備指示】 研究授業案を各実習校の形式に合わせて作成しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１１回	研究授業に向けて　　②　中学校（地理、歴史、公民分野）もしくは高等学校（公民、福祉）の実習校での実際 【key words】 挨拶（実習前･後、全体集会での挨拶、担当学級･クラス）、御礼状 【授業概要】 実習校における挨拶の仕方・御礼状の書き方について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック（学生用）』 ・挨拶の仕方：レジュメ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・挨拶の仕方について、まとめたものを期日までに提出すること。 ・教育実習報告会に向けて、報告書を作成しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１２回	教育実習報告・検討会①　中学校及び高等学校教育実習（報告書の作成に基づき実習生数名による報告会）

	【key words】 学習指導、生徒指導、学級／クラス経営、校務分掌、特別活動 【授業概要】 前回に引き続き報告会を実施する。 ・教育実習本実習を終え、教育実習報告書を作成し発表することで、自身の実習内容を振り返ることができる。 ・研究授業の録画を視聴し、研究授業を実施した時には気づかなかった部分に目を向けることができる。 ・他学生からの意見を聴き、実習報告書、DVDを通して、将来、教員として活躍するための基盤をつくる。 【教科書ページ・参考文献】 作成した教育実習報告書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・教育実習の報告について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・次回の発表者は報告書の準備とプレゼンテーションの準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１３回　教育実習報告・検討会②　中学校及び高等学校教育実習（報告書の作成に基づき実習生数名による報告会） 【key words】 学習指導、生徒指導、学級／クラス経営、校務分掌、特別活動 【授業概要】 前回に引き続き報告会を実施する。 ・教育実習本実習を終え、教育実習報告書を作成し発表することで、自身の実習内容を振り返ることができる。 ・研究授業の録画を視聴し、研究授業を実施した時には気づかなかった部分に目を向けることができる。 ・他学生からの意見を聴き、実習報告書、DVDを通して、将来、教員として活躍するための基盤をつくる。 【教科書ページ・参考文献】 作成した教育実習報告書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・教育実習の報告について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・次回の発表者は報告書の準備とプレゼンテーションの準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１４回　教育実習報告・検討会③　中学校及び高等学校教育実習（報告書の作成に基づき実習生数名による報告会） 【key words】 学習指導、生徒指導、学級／クラス経営、校務分掌、特別活動 【授業概要】 前回に引き続き報告会を実施する。 ・教育実習本実習を終え、教育実習報告書を作成し発表することで、自身の実習内容を振り返ることができる。 ・研究授業の録画を視聴し、研究授業を実施した時には気づかなかった部分に目を向けることができる。 ・他学生からの意見を聴き、実習報告書、DVDを通して、将来、教員として活躍するための基盤をつくる。 【教科書ページ・参考文献】 作成した教育実習報告書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・教育実習の報告について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・次回の発表者は報告書の準備とプレゼンテーションの準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１５回　教育実習報告・検討会④　中学校及び高等学校教育実習 【key words】 学習指導、生徒指導、学級／クラス経営、校務分掌、特別活動 【授業概要】 前回に引き続き報告会を実施する。 ・教育実習本実習を終え、教育実習報告書を作成し発表することで、自身の実習内容を振り返ることができる。 ・研究授業の録画を視聴し、研究授業を実施した時には気づかなかった部分に目を向けることができる。 ・他学生からの意見を聴き、実習報告書、DVDを通して、将来、教員として活躍するための基盤をつくる。 【教科書ページ・参考文献】 作成した教育実習報告書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・後輩学生に向けた教育実習報告会の準備（教育実習報告書の作成等）を行う。 ・教員採用試験に向けて学習計画を立てる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
受講生に関わる情報および受講のルール	１　遅刻・欠席は授業時間前に必ず届け出ること。無断欠席や遅刻の多い学生は受講取消もあり得る。 ２　授業中に課したミニレポート・シャトルカードを必ず提出すること。 ３　予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。 ４　将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。

毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード、ミニミニレポート
授業外時間にかかわる情報	１　授業の要約もしくは課題をミニミニレポートとシャトルカードにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニミニレポートをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。 ２　教育実習の報告書は指定された形式に則り、教育実習報告会までに提出すること。
オフィスアワー	水曜日　16時～18時　それ以外の時間帯については、要相談・要予約
評価方法	授業中に課したミニミニレポーの内容（40%）、実習報告書の内容･発表（50%）、大学オリエンテーションのまとめレポート（10%）を総合して評価する。
教科書	１　『教育実習へのガイドブック』、群馬医療福祉大学 ２　文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年告示）/高等学校学習指導要領(平成30年告示)』、東山書房 ３　文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）特別の教科　道徳編』、文京出版
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 中学校教諭として勤務経験をもつ教員が、教育実習の本実習に向けて、授業運営方法、指導案の作成、生徒理解を踏まえた模擬授業の実践を指導する。実際の教育現場において、教師として相応しい資質･能力の向上を目指す指導を行う。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 教育実習（中学校）　　授業コード：S5149

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
－	3年次	4単位(120)	学校教育コース・選択
担当教員			
江原　京子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　教育実習は、教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場である。講義・演習をとおして得た専門的知識・技能を活かし、実習に取り組むことにより、教育者としての資質・能力の向上を図る。 [到達目標] １　中学校の教育活動の場に臨み、生徒と直接触れ合い、指導教員の指導を受けながら、教育者として求められる 　知識・技能・態度を修得する。 ２　教科指導や生徒指導などの教育実践をとおして、生徒理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養う。
授業の概要	【実習時期及び実習日数・時間】 　原則として当該学年の6月中に、120時間(3週間)の実習を行う。 　※中学校と高等学校両方の教員免許状を希望する者は、中学校あるいは高等学校において、原則として6月中120時 　間（3週間）の教育実習を行い、教員免許状に必要な科目を履修することで取得できる。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	教育実習履修資格者要件 【key words】 【教育実習履修資格者】 【授業概要】 以下に記載するすべての履修要件を満たした者 １　将来、教員として学校現場で働く意思を強くもっている者 ２　教職課程の学習に熱意と意欲をもっている者 ３　健康状態が実習を行うのに適当と認められる者 ４　実習前あるいは実習期間中に、教科または教職に関する科目：教育原理、教育方法論、教育心理学、教職概論、教育社会学、教育実習事前・事後指導、生徒指導･進路指導の理論と方法、特別活動の指導法、特別支援教育総論、道徳の理論及び指導法、総合的な学習の時間の指導法、日本国憲法、地理学、世界史、日本史Ⅰ、日本史Ⅱ、社会科教育法Ⅰ、社会科教育法Ⅱを履修済みあるいは履修中であること。 ５　ボランティア活動に積極的に取り組んでいる者 ６　3年次後期開講の教職対策講座Ⅰと4年次前期開講の教職対策講座Ⅱを必ず受講する者 ７　１年次より実施する一般教養講座（基礎学力養成講座）を受講する者（原則として3年次まで） ８　実習後に各都道府県で実施する教員採用試験を必ず受験する者 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】

	第２回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第４回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第５回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第６回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第７回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第８回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第９回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】

	第１０回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１１回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	【実習上の注意】 １　実習中は実習校の指導教員の指導・指示に従い、真摯な態度で熱意をもって実習を行うこと ２　実習生といえども「教員」であるという意識をもち、態度、服装、言動等に充分気をつけること ３　「教育実習記録」は毎日記録し、指導教員へ提出すること。実習終了後は本学実習指導教員に提出すること ４　授業研究を充分に行い、授業に臨むこと ５　実習中は学習指導要領及び実習へのガイドブックを携行すること ６　実習中、本学実習指導教員に実習状況等を必ず報告すること 【実習中止の措置】 １　本学実習指導教員及び実習校の指導教員の指導・指示に従えない者 ２　実習上の注意（１～６）が守れない者 ３　実習校の校長より実習中止の申し出があったとき ４　その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	実習中におけるメール等（文章化したもの）での報告
授業外時間にかかわる情報	※　実習中は本学実習指導教員に実習状況･内容等をメール等(評価に関わる）で必ず報告し、課題･

	疑問点等を残さないようにすること。
オフィスアワー	水曜日　16時～18時　それ以外の時間帯については、要相談・要予約
評価方法	１　実習中における実習状況・内容の報告（２０％）：メール等（文章化したもの）での報告を義務付ける。 ２　実習校の評価（５０％） ３　教育実習録の評価（３０％）
教科書	１　『教育実習へのガイドブック』、群馬医療福祉大学 ２　文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）』、東山書房 ３　文部科学省　『中学校学習指導要領解説（平成29年3月告示）社会科編』、文京出版 ４　文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）特別の教科　道徳編』、文京出版
参考書	適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 中学校教諭として勤務経験をもつ教員が、実習の巡回指導を行うほか、教師としての指導力が身に着くよう実践的な指導を行う。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　知的障害者の心理・生理・病理　　授業コード：S5331

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
李　英姿			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 本講義を通して、知的障害児の教育では、児童生徒の個別の実態を適切に把握し、心理・生理・病理学の側面を踏まえて援助することが必要であり、一人ひとりの児童生徒に対応した指導内容・方法の習得を目的とする。 【到達目標】 ①知的障害者（児）の心理・生理・病理特性の基本的知識について説明することができる。 ②知的障害者（児）の認知特性について説明することができる。
授業の概要	知的障害者（児）を支援するには、その疾患及び病態を理解することが前提となる。知的障害の心理・生理・病理の特性を理解したうえで、知的障害児の教育及び社会参加のための支援について考える。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション 【key words】 知的障害、知能障害、適応行動の障害、発達期 【授業概要】 知的障害の概念、分類、疫学、原因、症状、診断について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：周産期に生じる脳障害 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	周産期に生じる脳障害 【key words】 周産期、低酸素、虚血状態 【授業概要】 低酸素・虚血状態の原因、胎児仮死・新生児仮死の症状、頭蓋内出血、早期産児の異常症状について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：染色体異常 【予習復習に必要な想定時間】 60分

	第３回	染色体異常 【key words】 ダウン症候群、脆弱X症候群 【授業概要】 染色体異常の疾病の病因、症状、疫学、診断、治療について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：先天性風疹症候群 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第４回	先天性風疹症候群 【key words】 風疹、白内障、ろう、先天性心臓病 【授業概要】 先天性風疹症候群の原因、疫学、症状、診断、治療、予防について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：二分脊椎、水頭症 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第５回	二分脊椎 【key words】 二分脊椎、水頭症 【授業概要】 二分脊椎、水頭症の原因、疫学、症状、検査、診断、治療、予後、予防について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：脳炎、髄膜炎 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第６回	脳炎、髄膜炎 【key words】 細菌性、無菌性 【授業概要】 髄膜炎・脳炎の原因、症状、疫学、検査、診断、治療、予後、予防について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：先天性代謝異常 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第７回	先天性代謝異常 【key words】 遺伝子異常、代謝障害、マススクリーニング検査 【授業概要】 先天性代謝異常の定義、原因、疫学、症状、検査、診断、治療、予後について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：頭部外傷、脳血管障害 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第８回	頭部外傷、脳血管障害 【key words】 不慮の事故、頭部外傷、脳血管障害 【授業概要】 小児の頭部外傷の実態とその予防対策、脳血管障害について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：てんかん 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第９回	てんかん 【key words】 てんかん、全般発作、部分発作 【授業概要】 てんかんの定義、病因、症状、分類、検査、診断、治療、予防、応急手当について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	予習：先天性筋ジストロフィー 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１０回　先天性筋ジストロフィー 【key words】 遺伝性疾患、骨格筋、変性、壊死 【授業概要】 先天性筋ジストロフィーの定義、分類、症状、治療、予後等について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：胎児性アルコール症候群、胎児性水俣病 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１１回　胎児性アルコール症候群、水俣病 【key words】 アルコールの摂取、有機水銀中毒 【授業概要】 胎児性アルコール症候群・胎児性水俣病の定義、疫学、原因、症状、検査、診断、治療、予防について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発達障害総論 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１２回　発達障害 【key words】 発達障害、自閉症、注意欠陥多動性障害、学習障害 【授業概要】 発達障害の定義、疫学、原因、分類、症状、治療等について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：知的障害児（者）の心理発達と認知特性（１）乳幼児期～学童期 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１３回　知的障害児（者）の心理発達と認知特性（１）　乳幼児期 【key words】 心理発達、認知特性 【授業概要】 乳幼児期から学童期までにおける知的障害児（者）の心理発達と認知特性について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：思春期から成人期までにおける知的障害児（者）の心理発達と認知特性 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１４回　知的障害児（者）の心理発達と認知特性（２）　思春期・青年期～成人期 【key words】 思春期、青年期、成人期 【授業概要】 思春期・青年期～成人期における知的障害児（者）の心理発達と認知特性について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今まで学んだ内容の復習 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　まとめ 【key words】 知的障害児の原因疾患 【授業概要】 今まで学んだ知的障害児の基礎疾患について復習する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 期末試験勉強 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	知的障害者（児）の療育及び福祉に対する熱意のある学生の受講を望みます。ノートをきちんととること。携帯電話・スマートフォンは机の上に置かずにしまっておくこと。私語厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状	コメントカード

況の確認方法	
授業外時間にかかわる情報	授業時の指示する
オフィスアワー	授業終了後３０分まで
評価方法	筆記試験（80%）、発表(20%)
教科書	なし
参考書	講義に必要な資料、プリントなど適宜配布する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 肢体不自由者の心理・生理・病理　　授業コード：S5341

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
李　英姿			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 本講義を通して、肢体不自由児の教育では、児童生徒の個別の実態を適切に把握し、心理・生理・病理学の側面を踏まえて援助することが必要であり、一人ひとりの児童生徒に対応した指導内容・方法の習得を目的とする。 【到達目標】 ①肢体不自由をきたす疾患および障がい者（児）を取り巻く状況について説明することができる。 ②運動発達と認知発達の関係、肢体不自由者（児）の認知特性について説明することができる。
授業の概要	肢体不自由者（児）は、その原因となる疾患のため、学校教育や社会参加に支障をきたしている。特別支援学校教諭として必要な医学知識と障がい者（児）の心理、家族と地域の介護、教育との連携による支援体制を学習する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション 【key words】 肢体不自由、二次障害、障害の受容 【授業概要】 肢体不自由者の概念、小児の肢体不自由の原因・特徴、二次障害、障害の受容について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ１～１０ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　ｐ１３～３１ 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第２回	脳性麻痺 【key words】 脳性麻痺、周産期 【授業概要】 脳性麻痺の概念、原因、分類、症状、診断、合併症、治療、予後等について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ１３～３１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　ｐ３３～４２ 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第３回	二分脊椎 【key words】

		二分脊椎、中枢神経系の奇形、合併障害 【授業概要】 二分脊椎の定義、疫学、原因、分類、症状、治療、予防等について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p３３～４２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　p４３～５１ 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第４回	筋ジストロフィー 【key words】 筋ジストロフィー、遺伝性、登はん性起立 【授業概要】 筋ジストロフィーの定義、分類、症状、診断、治療等について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p４１～５１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 p５３～５９ 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第５回	ペルテス病 【key words】 ペルテス病、股関節壊死 【授業概要】 ペルテス病の概念、疫学、症状、診断、治療、予後について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p５３～５９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　p６１～７０ 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第６回	骨系統疾患 【key words】 軟骨無形成症、骨形成不全症 【授業概要】 軟骨無形成症、骨形成不全症の概念、原因、疫学、症状、診断、治療について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p６１～７０ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　p７１～７９ 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第７回	手足の先天奇形 【key words】 手の先天奇形、足の先天奇形 【授業概要】 多指症、合指症、母指形成不全、裂手、先天性切断、分娩麻痺、先天性内反足等について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p７１～７９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　p８１～８５ 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第８回	先天性多発性関節拘縮症 【key words】 関節拘縮症、先天性、多発性、非進行性 【授業概要】 先天性多発性関節拘縮症の定義、病因、疫学、症状、診断、治療について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p８１～８５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　p８７～９１ 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第９回	ダウン症の整形外科の合併症 【key words】 関節弛緩性、環軸椎亜脱臼、膝蓋骨脱臼、股関節脱臼、外反扁平足 【授業概要】 ダウン症の整形外科的合併症の発症率、症状、治療について学ぶ。

	【教科書ページ・参考文献】 p８７～９５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　p９７～１０４ 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１０回　先天性股関節脱臼 【key words】 脱臼、亜脱臼、臼蓋形成不全 【授業概要】 先天性股関節脱臼の原因、症状、治療について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p９７～１０４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　p１０５～１３７ 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１１回　リハビリテーション 【key words】 リハビリテーション、ADL、QOL、ノーマライゼーション 【授業概要】 リハビリテーションの定義、内容、ADLとQOLの定義、リハビリテーションの目標について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p１０５～１４４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　p１４５～１５９ 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１２回　肢体不自由者（児）の心理（１）障害の受容 【key words】 障害の受容、受容の過程 【授業概要】 肢体不自由児の障害の告知・受容・支援について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p８～１１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　p１６１～１６５ 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分 第１３回　肢体不自由者（児）の心理（２）適応と適応規制 【key words】 適応、適応規制 【授業概要】 肢体不自由者（児）の心理（２）適応と適応規制について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 p２２５～２３６ 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１４回　肢体不自由者（児）の心理（３）心理的な支援 【key words】 エンパワーメント、自己決定力 【授業概要】 肢体不自由児、保護者への援助の基本姿勢、具体化する援助法について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p２２５～２３６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今まで学んだ内容の復習 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１５回　まとめ 【key words】 肢体不自由児の原因疾患 【授業概要】 今まで学んだ肢体不自由児の基礎疾患について復習する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 期末試験勉強 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
受講生に関わる情報および受講のルール	肢体不自由者（児）の療育及び福祉に対する熱意のある学生の受講を望みます。ノートをきちんととること。携帯電話・スマートフォンは机の上に置かずにしまっておくこと。私語厳禁。

毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時の指示する
オフィスアワー	授業終了後３０分まで
評価方法	筆記試験（８０％）、発表（２０％）
教科書	篠田達明監修　　肢体不自由児の医療・療育・教育　　金芳堂　最新版
参考書	講義に必要な資料、プリントなど適宜配布する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　知的障害教育Ⅱ　　授業コード：S5371

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
大谷　幸雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　知的障害教育の基本的知識を基に、障害の重度化・重複化している障害児の実態も理解できる。更に、人間行動の成り立ちや基本的行動や概念行動などの学習内容が理解できる。個々の障害児に合った学習法について考察できる。 【到達目標】 　①アヴェロンの野生児から当時の学習の様子が理解できる。 　②様々な学習停滞時の支援の仕方が理解できる。 　③特別支援教育の学習の方法が理解できる。
授業の概要	知的障害教育の原点である「アヴェロンの野生児の記録」をはじめ、知的障害教育の現状を知る。さらに、知的障害児には難しいといわれている教科的な学習についても、その実践事例を通して理解する。また、知的障害教育の教材・教具を実際に見たり、使い方を学習することにより知的障害教育の支援の方法を知る。今後の知的障害教育の在り方についても考察する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション　　知的障害教育1の復習①（教育課程　領域・教科別の指導他） 【key words】 知的障害教育　　知的障害児の特徴　　各教科　　教科別の指導　　領域別の指導 【授業概要】 知的障害児について知的障害教育Ｉで学んだことを復習する。知的障害とは？ 知的障害児の特徴について。知的障害児の歴史。　知的障害児の学習について。教科、領域別の指導　等々。 【教科書ページ・参考文献】 特別支援学校学習指導要領及びその解説書、自立活動解説書　　配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 領域・教科を合わせた指導について復習しておくこと。次回予習確認ミニテスト実施。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分～４０分
	第２回	知的障害教育Ｉの復習②（領域・教科を合わせた指導他） 【key words】 日常生活の指導　　遊びの学習　　生活単元学習　　作業学習 【授業概要】 予習確認ミニテスト①　　領域・教科を合わせた指導の歴史　　それぞれの指導形態について復習　　現場で行われている指導と課題について考える。 【教科書ページ・参考文献】

		特別支援学校学習指導要領、及びその解説書　　自立活動解説書　　前回配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 アヴェロンの野生児の資料配付、次回までに読んでおくこと。次回予習の確認のためミニテスト②実施 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分～５０分
	第３回	知的障害教育の原点と言われる「アヴェロンの野生児」の記録から学ぶ①　捕らえられた野生児の様子 【key words】 観察された行動　　動物との比較　　人間性とは 【授業概要】 予習確認ミニテスト②実施。　観察された野生児の様子をどう見るか　　当時の人の考え方　野生児に見られる変化　　等を資料から読み取り考察する。　　イタールの指導方針と野生児の対応について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今回の復習・整理をし、次回使用の資料に目を通しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分～５０分
	第４回	「アヴェロンの野生児」の記録から学ぶ②　人間の社会に入れられた野生児、野生児の変化 【key words】 野生児の変化　　人との係わり方　　イタールの指導 【授業概要】 野生児に対して試みたイタールの指導について資料から読み取り考察する。イタールの指導、野生児の対応について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「アヴェロンの野生児」について復習。「アヴェロンの野生児」について感想文①を提出する。次回の予習、テキスト（ｐｐ２７－３５）を読んでおく。アヴェロンの野生児の感想文提出 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分～５０分
	第５回	＜ことば・文字・数＞基礎学習の教材作りと学習法①（教材とは、日常生活行動の学習） 【key words】 日常生活行動　　学習の見通し　　学習の区切り　　自発の尊重　　見るということ　　教材の役割 課題学習　　行動観察 【授業概要】 日常生活行動とは、学習とは、学習の見通しとは、子どもの現状保障とは、教材の果たす役割などなど　基本的なことからを説明し、知的障害児の支援に重要なことであることを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 テキスト（pp.２７－３５） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のまとめ。次回の事前資料調査。 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分
	第６回	知的障害児の教材・教具について参観 【key words】 教材・教具　　自作教材　　学習するということ 【授業概要】 今後の学習に関係する知的障害児の学習場面の様子を見学するか、もしくは知的障害児の学習場面で使用している教材・教具を手にとって学ぶ。授業に関係する学習方法と知的障害児との係わり、子どもと教材との係わり、教材に対する工夫の仕方など実際の場面を通して考察する。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料、参考になる書物等紹介 【課題・予習・復習・授業準備指示】 参観を通して次回以降に行う授業との係わりについて、見通しをつける。参観の感想文②を提出する。次回の予習（テキストpp.３６－４８） 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分
	第７回	＜ことば・文字・数＞基礎学習の教材作りと学習法②（初期学習、課題学習） 【key words】 目と手の使い方　　初期学習　　教材・教具　　自作教材　　自発行動　　考えるということ 【授業概要】 教材の意味するもの　　初期学習について　　目と手の協応　　学習に必要な条件が整うことの大切さ。学習を前進させるための基礎的な課題について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 テキストpp.３６－４８　　配付資料、参考になる書物等紹介

【課題・予習・復習・授業準備指示】
今回の復習　　次回に学ぶテキスト（pp.４８～５９）を予習しておく。

【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第８回　＜ことば・文字・数＞基礎学習の教材作りと学習法③（概念行動の学習）
【key words】
パイプ抜き　　目と手の協応　　スライド　　手の使い方

【授業概要】
様々な基礎的な学習を積み重ねた知的障害児・者が次のステップに行う学習とはどのようなものがあるのか、概観的に知る。

【教科書ページ・参考文献】
テキストpp.４８－５９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回に学ぶテキスト（pp.５９～７４）を読んでおく。次回予習の確認ミニテスト③

【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第９回　＜ことば・文字・数＞基礎学習の教材作りと学習法④（概念行動形成の学習）
【key words】
見本合わせ　　宝探し　　延滞見本合わせ　　ことば　　型はめ　　形の分類　　分解と合成
【授業概要】
予習確認ミニテスト③実施　　位置、順序など文字や数の学習に関連する学習について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
テキストpp.５９ー７４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回に学ぶテキスト（pp.７４－８９）を読んでおく。次回予習確認ミニテスト実施

【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第１０回　＜ことば・文字・数＞基礎学習の教材作りと学習法⑤（見本合わせ学習）
【key words】
見本合わせ　　宝探し　　遅延見本合わせ　ことば　　型はめ　　形の分類　　形の分解と合成

【授業概要】
予習確認ミニテスト④　　学習の見通しが出来て、それが文字や数の学習になるまでの一連の流れを理解し、初期学習の重要性について考察する。
【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ．７４－８９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
今回の復習、次回の予習テキストpp.８９－１０３

【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第１１回　＜ことば・文字・数＞基礎学習の教材作りと学習法⑥（記号操作の基礎学習）
【key words】
大小　　比較　　文字の型はめ　　形の構成　　マス目　　位置の記号化　　方向　　目と手の使い方

【授業概要】
そもそも教材とはどのようなものか、なぜ大切なのか？また、記号操作とは何なのか等、文字学習に至る前におこなう学習の内容について考察する。

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ．８９ー１０３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
今回の復習と次回に学ぶテキスト（pp.１０３ー１１２）を読んでおく。予習の確認テスト⑤実施
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第１２回　＜ことば・文字・数＞基礎学習の教材作りと学習法⑦（絵と実物　　文字と単語の学習）
【key words】
文字の見本合わせ　　文字と文字　　絵と文字　　絵と単語　　５０音表

【授業概要】
予習確認ミニテスト⑤　　教材の確認　　教材の工夫　　概念行動について　　物には名前があることを知る、など具体的に学習する。

【教科書ページ・参考文献】
テキストpp.１０３-１１２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
今回の復習と次回に学ぶテキスト（pp.１１３ー１２７）を読んでおく

【予習復習に必要な想定時間】

	４０分～６０分 第１３回　＜ことば・文字・数＞基礎学習の教材作りと学習法⑧（文章と数の学習） 【key words】 数の系列化　順序数と集合数　３と５までの分解合成　記号操作 【授業概要】 学習の見通しが出来て、それが文字や数の学習に繋がることまでの一連の流れを理解し、基礎の学習の重要性について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 テキストpp.１１３ー１２７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今回の復習と次回に学ぶ箇所（pp.１２７－１４４）を読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分 第１４回　＜ことば・文字・数＞基礎学習の教材作りと学習法⑨（文の構成と計算の学習） 【key words】 文の構成と計算　お金の計算　お金のそろばん　足し算　引き算　文章問題 【授業概要】 様々な基礎的な学習をつみ重ねた知的障害児・者が行う学習とはどのようなものであるか、今まで学んできたことを整理する。 【教科書ページ・参考文献】 テキストpp.１２７－１４４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今回の復習と次回学習（テキストpp.７－２６）を読んでおく。 今までのテキストの中から「障害児の指導」に関して自分なりの考え方をまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分 第１５回　基礎学習、概念行動形成の学習、記号操作の学習まとめ。知的障害児の教育の可能性と学習法、今後の展望 【key words】 知的障害教育の考え方　基礎学習　概念行動形成　記号操作の学習　生活単元　個に応じた教育 【授業概要】 今まで学習してきた知的障害教育について復習し、整理、まとめをする。 知的障害児の学習や教育課程について検討してきたことを、テキストや資料を通してふり返る。 知的障害児の学習は可能か、出来ない原因は何かなど話合いを通して考察する。自分なりの考えをまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 今までの配付資料　今回の復習（テキストｐｐ、７－２６）を読んでおく 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今までのまとめ、復習。解らないところがあれば早めに質問を。知的障害教育について自分の考えをレポートにして提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 復習４０分
受講生に関わる情報および受講のルール	①知的障害児を指導している現場の視察、もしくは実際に使用している教材・教具の見学を計画予定。 ②進捗状況によって講義回数と講義内容が必ずしも一致しない場合がある。 ③予習、復習は必ず行うこと、教科書は授業の前に必ず熟読すること。 ④授業で配付する資料の予備は保管しないので、出席者からコピーをしておいてください。 ⑤授業中に他の学生に迷惑になる行為（私語、携帯電話使用等）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカードもしくはメール等
授業外時間にかかわる情報	①予習、復習はその都度指示されなくても毎回実施すること。 ②学習の一環として要求された感想文や課題は提出期限を守って提出すること。 ③授業の一環として特別支援学校か教材・教具のあるところを参観するので、日程調節が必要になる場合がある。
オフィスアワー	質問があれば授業終了後１０分間に、またはシャトルカードに記載すれば次回以降に対応する。
評価方法	①レポート・発表・ミニテスト（内容、適切さ）７０％ ②筆記試験（正確性、客観性、論述）３０％ 総合評価は①②の合計が６０％を超えていること
教科書	進　一鷹：「＜ことば・文字・数＞基礎学習の教材づくりと学習法」　明治図書　２００６
参考書	進　一鷹：「＜ことば・文字・数＞国語・算数の基礎学習と指導の実際」　明治図書　２００７　他プリント配付をする
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 盲教育６年、知的障害教育２５年、肢体不自由教育５年の教育現場で実践教育を積み重ねる。特に障害の重い児童生徒との係わりを通して学んだこと、感じたこと、更に発達障害児の現場などを通して特別支援教育全般について幅広く講じます。

	アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 肢体不自由教育Ⅱ　　授業コード： S5391

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
大山　知恵子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　肢体不自由教育の実際を習得する。また、関連する諸課題についての理解と自らの視点から深く課題を捉える力が涵養される。 【到達目標】 １　肢体不自由教育の実践的知識、技能を獲得する。（知識・理解） ２　肢体不自由教育に関わる教育・心理・医学等の多角的な視点を身につける。（思考） ３　知識を他者に表現することができる。（表現）
授業の概要	肢体不自由児の教育の実践に関する教育・心理・生理、福祉等について概説する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	△
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテ-ション、医療的ケア、食事指導、排泄指導 【key words】 教員による３つの行為　誤嚥　便秘 【授業概要】 教員が行う３つの医療的ケアの詳細について。重度・重複障害児に対しての食事指導や排泄指導における留意点について。 【教科書ページ・参考文献】 92ページ～97ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 食事指導で留意することについてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第２回	呼吸障害と姿勢づくり、ポジショニングと変形・側弯 【key words】 ポジショニング　感覚のフィルター機能 【授業概要】 呼吸障害を起こしやすい重度・重複障害児に対して行うポジショニングについて。また、感覚過敏の除去の仕方等について。 【教科書ページ・参考文献】 98ページ～103ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポジショニングの種類を調べる 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第３回	発作の理解と対応、外部専門家との連携、教育課程の基準と学習指導要領 【key words】 てんかん　教育計画 【授業概要】 肢体不自由児はてんかんを高頻度に合併する。その発作の種類や対応について。肢体不自由教育は医師、看護師をはじめ外部専門家との連携のもとで行われるが、その中での教師の役割や教育

		計画の立て方について。 【教科書ページ・参考文献】 104ページ～111ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 てんかん発作への対応についてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第４回	教育課程の原理と編成、体育の指導 【key words】 法令　個別の評価基準　肢体不自由をふまえた体育の指導 【授業概要】 法令の下、実態・地域の教育資源・学校の設備等をふまえて、調和のとれた人間の形成を目指して作成される教育課程について。表現することや認知面で困難を抱えていることが多い肢体不自由児に対する体育の指導について。 【教科書ページ・参考文献】 112ページ～121ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今まで経験した総合学習についてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第５回	肢体不自由者と各教科等を合わせた指導 【key words】 単元設定の力　総合的な学習 【授業概要】 肢体不自由のある子どもが知的障害を併せ持つ場合に行うことができる、知的障害特別支援学校の各教科や領域・教科を合わせた指導について。地域や子どもの実態に合わせて行う総合学習の内容について。 【教科書ページ・参考文献】 122ページ～127ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 肢体不自由児に対して、どのような総合学習ができるか、考える。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第６回	進路指導、キャリア教育、自立活動とは 【key words】 自己決定権　養護・訓練から自立活動へ 【授業概要】 肢体不自由のある子どもが、自己理解を深め進路を決定できるように進めるキャリア教育のあり方について。養護・訓練という名称で行われていたものが自立活動と言われるようになった理由等について。 【教科書ページ・参考文献】 128ページ～135ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自立活動の6つの区分について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第７回	自立活動の指導と個別の指導計画、身体の動きの指導 【key words】 自立活動の６つの区分　座位と立位 【授業概要】 自立活動における、「健康の保持」「心理的な安定」「人間関係の形成」「環境の把握」「身体の動き」「コミュニケーション」の６つの区分の詳しい内容について。その中の、「身体の動き」に関わる、座位から立位への指導の方法等について。 【教科書ページ・参考文献】 136ページ～145ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 6つの区分の中の1つを選んで、評価規準を作る。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第８回	コミュニケーション、学習指導要領における重複障害者への対応 【key words】 サイン・シンボル　AAC 【授業概要】 言葉を話すことが困難、言語理解が困難、文字を書くことが困難等の重複障害を含む肢体不自由児のコミュニケーション指導で使われる、サインやシンボル、拡大・代替コミュニケーション機器（AAC）とその効果的な使い方について。 【教科書ページ・参考文献】 146ページ～157ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 マカトンサインについて調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第９回	肢体不自由特別支援学校の専門性 【key words】 教員の力量　研修 【授業概要】 教員の力量の３つの側面と言われる、「①目に見える実践的技量」「②内面的な思考様式」「③総合的な人間力」を高めていくには、どのようなにしたらいいか、専門性の向上を図るにはどのような研修を重ねたらいいか等について。 【教科書ページ・参考文献】 158ページ～167ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	特別支援学校に求められる機能について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分 第１０回　特別支援学校教員の養成、保護者との連携 【key words】 肢体不自由特別支援学校教師の専門性の５つの因子 【授業概要】 教員が身につけておかなければならない、「専門知識と技能」「仕事の理解」「協働」「教育に対する熱意」「子どもの健康ケア」の５つの因子の内容について。保護者と教員が共通の視点で子どもを見るためにはどのような支援が必要か等について。 【教科書ページ・参考文献】 168ページ～181ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 保護者に対する具体的な支援についてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分 第１１回　脳性まひへの治療と最新アプローチ 【key words】 早期発見・早期治療 【授業概要】 理学療法（上田法）、ボツリヌス療法、胎児臍帯血移植等の脳性麻痺への治療や療育について。神経可塑性と早期発見・早期治療の関係について。 【教科書ページ・参考文献】 184ページ～193ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 脳性麻痺の治療の1つについて調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分 第１２回　肢体不自由者、障害児の福祉サービス 【key words】 障害者総合支援法　障害者手帳 【授業概要】 身体障害者手帳を持つことで受けられる福祉サービスや、障害のある一人一人の生涯にわたる生活充実のための支援について。 【教科書ページ・参考文献】 194ページ～203ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 福祉サービスの中の1つについて調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分 第１３回　障害者の権利擁護、肢体不自由児とインクルーシブ教育、 【key words】 アドボカシー　合理的配慮 【授業概要】 障害者権利条約における、「すべての障害者」の「あらゆる人権」をどのように保障していくかについて。障害のある者と障害のない者が共に学ぶインクルーシブ教育では、どのような合理的配慮が求められているか等について。 【教科書ページ・参考文献】 204ページ～211ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 インクルーシブ教育の具体例について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分 第１４回　就学前の肢体不自由教育・療育、交流及び共同学習 【key words】 通所支援　医療型児童発達支援センター　居住地校交流 【授業概要】 肢体不自由児が地域で生活していく上で、主体的に過ごすことができるようにするにはどんな支援が必要か、また、子どもを養育する親にはどのような支援が必要か等について。 【教科書ページ・参考文献】 212ページ～219ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 居住地交流をする場合、どんな交流ができるかまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分 第１５回　地域生活と余暇活動、肢体不自由者と家族 【key words】 生活の質（QOL）　親のストレス 【授業概要】 肢体不自由者が地域において生きがいのある生活を送り、生活の質を高めるにはどのような支援ができるか、また、親のストレスを和らげるためにどのような支援ができるか等について。 【教科書ページ・参考文献】 220ページ～227ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 親がかかえるストレスについてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
受講生に関わる情報および受講のルール	・遅刻、欠席は必ず届けること。 ・積極的な授業参加、予習を求めます。 ・他の学生の迷惑となる行為（私語、スマホの操作等）、授業の流れや雰囲気を壊す行為は退席とし、欠席扱いとします。

毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード ノート提出
授業外時間にかかわる情報	特別支援教育に関する情報に普段から触れておくこと。　（新聞、ニュース等からの情報収集） 特別支援教育の現場を知ること。　（見学、ボランティア等）
オフィスアワー	授業の前後10分間
評価方法	授業への取り組み（コメントカードの内容、発表）20% 提出物（ノート）30%　　定期試験　50%
教科書	安藤隆男・藤田継道編書「よくわかる肢体不自由教育」　　2017　　ミネルヴア書房
参考書	特に指定しない
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 特別支援教員として教育に携わってきた。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 医療的ケアやインクルーシブ教育に関わる映像（DVD）から、実態を知ったり課題を考えたりする。 肢体不自由児をもつ保護者の方の話を聴く。

講義科目名称： 学校図書館メディアの構成　　授業コード：S6001

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
小柳　聡美			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 司書教諭として、学校図書館メディアの構成（選択・収集・組織・保存等）ができるようになることを目的とする。　〔到達目標〕 ①学校図書館メディアの選択・収集に関する基礎知識を習得する。 ②「日本目録規則1987年版　改訂3版」により学校図書館メディアの目録が作成できる。 ③「日本十進分類法　新訂10版」により学校図書館メディアの分類ができる。
授業の概要	学校図書館メディアの教育的意義・役割及び種類・特性について学習し、その選択・収集・組織・保存等についての理解を図る。特に、各種メディアへのアクセスを容易にするための情報資源組織化の技術について学び、実務能力の養成を図る。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	△
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、　学校図書館メディアの教育的意義及び役割 (1)授業概要　配付資料に基づき学校図書館メディアの教育的意義･役割について解説する。 (2)KeyWord　学校図書館メディア (3)教科書ページ　配付資料 (4)課題･予習･復習･授業準備指示　・講義の目標を理解し、なぜ司書教諭資格を取得しようと考えたか、という点を交えて自己紹介が出来るようにしておく。
	第２回	学校図書館メディアの種類と特性 (1)配付資料に基づき学校図書館メディアの種類と特性について解説する。 (2)学校図書館メディア、奥付 (3)配付資料 (4)・奥付とは何かを理解し､実例を挙げられるようにしておく。 ・学校図書館メディアの種類と特性について理解する。
	第３回	学校図書館メディアの選択と構成 (1)配付資料に基づき学校図書館メディアの選択について考察する。 (2)学校図書館メディア、資料選択論 (3)配付資料 (4)・「図書館の自由に関する宣言」に目を通しておく。 ・資料選択方針について理解する。
	第４回	学校図書館メディアの組織化（１）分類の意義と機能 (1)資料分類法の変遷について考察する。 (2)分類、資料分類法 (3)pp6-10,pp184-187 (4)分類とは何か、近代分類法出現以降の主要な分類表のれきしについて理解する。
	第５回	学校図書館メディアの組織化（２）日本十進分類法の概要 (1)日本十進分類法について考察する。 (2)ＮＤＣ (3)pp187-200 (4)類目表、綱目表、要目表について理解する。

	第６回　学校図書館メディアの組織化（３）日本十進分類法の使い方① (1)分類規定について考察し、分類作業を行う。分類･区分の分析的過程について補足する。 (2)ＮＤＣ、ブックトーク (3)pp200-256 (4)分類演習について復習する。 第７回　学校図書館メディアの組織化（４）日本十進分類法の使い方② (1)図書記号法について解説する。 (2)ＮＤＣ、図書記号法 (3)pp256-262 (4)別置法・図書記号法について理解する。 第８回　学校図書館メディアの組織化（５）日本十進分類法の使い方③ (1)図書以外の資料（メディア）の保管と運用について解説詩、考察する。 (2)ＮＤＣ (3)pp263-269 (4)図書以外の資料の保管と運用について理解する。 第９回　学校図書館メディアの組織化（６）件名標目表 (1)基本件名標目表の使い方について解説する。 (2)件名標目、シソーラス (3)pp165-182 (4)主題からのアプローチについて理解する。 第１０回　学校図書館メディアの組織化（７）目録の意義と機能 (1)目録の意義と機能について解説する。特別支援における学校図書館教育について考察する。 (2)目録法 (3)pp13-36 (4)目録とは何かを理解する。 第１１回　学校図書館メディアの組織化（８）日本目録規則の概要 (1)日本目録規則について解説し､考察する。 (2)日本目録規則 (3)pp37-48 (4)目録規則の意義と構成について理解する。 第１２回　学校図書館メディアの組織化（９）日本目録規則の使い方① (1)日本目録規則の使い方について解説し、考察する。 (2)日本目録規則 (3)pp49-134 (4)欧米及び、日本の目録規則の歴史、書誌記録の国際標準化について理解する。 第１３回　学校図書館メディアの組織化（１０）日本目録規則の使い方② (1)日本目録規則の使い方について考察する。 (2)日本目録規則、件名標目表、主題目録法 (3)pp135-163 (4)目録記入の実例集に目を通す。 第１４回　学校図書館メディアの組織化（１１）目録の電算化 (1)国立情報学研究所、国立国会図書館等の書誌情報ネットワークシステムを解説し、目録業務の電算化について考察する。 (2)ＯＰＡＣ、書誌ユーティリティ (3)pp18-33 (4)・身近にあるコンピュータ目録は何かを確認する。 ・コンピュータ目録の作成と検索について理解する。 第１５回　多様な学習環境と学校図書館メディアの配置、　まとめ (1)現在の多様化した学習環境の中で、どのような学校図書館メディアの配置が望ましいかを考察する。 (2)学校図書館メディア、学習環境 (3)全配付資料 (4) 自身が利用してきた学校図書館について、学習環境とメディア配置の特長･改善点について考察し、全講義を振り返る。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・指定した予習・復習は必ず行うこと。 〔受講のルール〕 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	「日本十進分類法　新訂10版」の第２次区分表（教科書にあり）を暗記すること。
オフィスアワー	授業後３０分程度は対応可能
評価方法	期末筆記試験　８０％、　授業の参加態度　２０％
教科書	志保田務・高鷲忠美編著、平井尊共著『情報資源組織法』（第２版）第一法規（最新版）
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 進学塾教務職員として1年間勤務

	公立小中学校の教員でも、学力テスト対策等を行います。日常の教科指導等とのバランスを考えて、学校図書館の活用と連動させ、学力を向上させる手立ても講じます。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 情報メディアの活用　　授業コード：S6011

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
小柳　聡美			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 司書教諭として、学校図書館における情報メディアの活用ができるようになることを目的とする。 〔到達目標〕 ①学校図書館の各種情報メディアの特性とその活用方法を理解できる。 ②データベースの構造を理解できる。 ③情報検索の理論と技法を習得する。 ④著作権法を理解できる。
授業の概要	学校図書館における多様な情報メディアの特性とその活用方法の理解を図る。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回　科目オリエンテーション、　メディア専門職としての司書教諭 第２回　高度情報通信社会と学校図書館 第３回　情報メディアの発達 第４回　情報メディアの特性と選択 第５回　視聴覚メディアの活用 第６回　教育用コンテンツの活用 第７回　データベースと情報検索（１）データベースの構造 第８回　データベースと情報検索（２）情報検索の技法 第９回　インターネットによる情報活用（１）概説 第１０回　インターネットによる情報活用（２）情報検索演習 第１１回　インターネットによる情報発信・情報共有と情報モラル 第１２回　著作権とメディア（１）著作権法概説①著作物とは

	第１３回　　著作権とメディア（２）著作権法概説②著作者人格権、著作隣接権 第１４回　　著作権とメディア（３）学校図書館と著作権 第１５回　　著作権とメディア（４）インターネットと著作権、　まとめ
受講生に関わる情報および受講のルール	コメントカード
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	本学図書館ホームページの「所蔵検索」及び「情報検索ポータル」を利用し、検索方法を習得すること。
授業外時間にかかわる情報	授業後30分程度は対応可能
オフィスアワー	期末レポート（試験）　６０％　　授業中の小レポート　４０％
評価方法	井口磯夫編『情報メディアの活用』樹村房（司書教諭テキストシリーズ０５）（最新版）
教科書	授業内で適宜紹介する。
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 学校図書館司書(市町村臨時職員)として19年間勤務 司書の立場から、図書主任・司書教諭への研修等も担当した経験により、学生の皆さんが教員となり司書教諭として発令された際、他教員の授業等のコーディネートについて講じます。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 学習指導と学校図書館　　授業コード：S6021

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・初等教育コース・選択
担当教員			
鈴木　淳			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】学校図書館法および学習指導要領に示されているように、知識基盤社会・情報社会の中の諸学校における学習展開に 学校図書館は不可欠であり、児童・生徒の発達段階に応じた「読書センター」と「学習情報センター」の機能を十分に実践しなければなりません。その要としての司書教諭の役割を理解し、学習指導にかかわる図書館情報学の基礎を身につけます。 【到達目標】1）学校図書館の目的と教育課程編成・学習指導展開との関係について述べることができる。2）情報リテラシー育成の諸段階と司書教諭の介入について具体的に説明できる。3）児童・生徒および教員に対するレファレンスサービス業務の実際について具体的に説明できる。
授業の概要	受講学生によるテキストの輪読分担発表をベースに、1）図書館および図書館員の役割・業務、2）学校図書館という館種の機能特性、3）学校教育課程と連動した学校図書館としての学習指導・情報リテラシー教育、4）司書教諭の役割、5）学校図書館というインフラの整備・経営、6）レファレンスサービス業務の実際 について解説します。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　社会における図書館とは何か 【key words】 情報社会　図書館　図書館員　学校図書館　司書教諭 【授業概要】 情報社会における図書館および図書館員の役割・業務を概観し、学校図書館という館種が担う機能と司書教諭・学校司書の位置づけを理解します。 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料、教科書pp1－11。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 館種間の機能差異をふまえた上で、学校図書館とはどのような特徴をもったところなのか、概要をまとめましょう。
	第２回	学校図書館の意義・目的 【key words】 学校教育法　学校図書館法　読書センター　学習情報センター　発達段階 【授業概要】 学校図書館の意義と目的を理解し、各学年の学習指導要領；すなわち児童生徒の発達段階と連動して、学校図書館が学習指導展開に対してどのように密に関わるのかを考えます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp12－28。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 目的的に活発な読書センター/学習情報センターとしての学校図書館の役割を整理して下さい。

第３回　図書館活用教育と情報リテラシー教育

【key words】
図書館活用教育　情報リテラシー教育　学校図書館経営

【授業概要】
従来的な図書館教育・学校図書館利用指導から発展して、卒業後の生涯学習につながる、学び方の学びのための学校図書館活用ひいては情報リテラシーのスキル・アップを支援することについて、具体的に理解します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp29－55。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

図書館教育→学校図書館利用指導→学校図書館活用・情報リテラシー教育 各観点の差異をまとめて下さい。

第４回　学校図書館というインフラの整備と経営

【key words】
学校図書館基準　学校図書館の施設と設備　学校図書館資料選定　学習活動の充実

【授業概要】
教育課程の展開と実践に寄与するインフラとしての学校図書館の整備・経営について、そのハードウェア/ソフトウェア双方の有機的な関連を意識ながら、学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp231－245、プリント資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

よりよい学校図書館の構築・整備に関係する要因と現代的な課題を書き出してみましょう。

第５回　学習/教育活動を支援する情報サービス業務

【key words】
情報要求　情報サービス　二次資料　レファレンスプロセス　相互貸借

【授業概要】
情報サービスの種類のうち、特にレファレンスサービスについてその概要を学び、教員を含めた利用者のニーズに対応した資料・情報提供のための準備について理解します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp246－236。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業の第13回・第14回で、レファレンスサービスの演習を予定しています。それより前の時点で、演習課題が提示されますので、注意して下さい。

第６回　教科学習と学校図書館活用

【key words】
知識基盤社会　ＩＣＴ　分類法（NDC）　配架　教員間連携

【授業概要】
発達段階に即した知識修得を児童生徒に重ねさせることの前提として、調べ学習等に対応した学校図書館資料の整備と教員間の準備と連携について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp169－195。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

資料を探しやすい学校図書館とは何か、その条件要素をまとめましょう。

第７回　総合的な学習における学校図書館活用

【key words】
総合的な学習　調べ学習　問題意識の醸成

【授業概要】
総合的な学習における授業展開と学校図書館の活用の連動について理解を深めます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp196－214。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

領域横断的で探求的・協働的な学習に対する司書教諭としての支援のあり方を具体的に例示してみましょう。

第８回　特別支援教育における学校図書館活用

【key words】
特別な教育的ニーズ　個別の指導計画　障害特性　学校図書館サービスの工夫

【授業概要】
重複障害例も含め、特別支援教育の対象となる児童生徒の教育的ニーズを個別かつ総合的に把握し、普通教育と同質同等の学校図書館サービスを提供するために必要な工夫を認識します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp215－230。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

学校図書館の施設・設備、資料・メディア、活動の各々について、工夫の具体例を整理して下さい。

第９回　情報リテラシー教育の理論的背景

【key words】
情報探索過程　メタ認識　情報活用プロセス　情報リテラシー基準　司書教諭の関わりのレベル

【授業概要】
学習者の視点からの情報探索過程を概観し、目標としての児童生徒の情報リテラシー基準ならびに情報活用プロセスでの指導の基本事項を理解します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp67－82。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

情報探索過程の児童生徒のニーズに沿った司書教諭の支援・指導；関わりの各水準をまとめて下さい。

第１０回　全校的組織的体系的指導　年間計画　チームティーチング　実施評価

【授業概要】
児童生徒の情報リテラシー育成にかかる全校教職員の共通理解の下で組織的体系的かつ計画的に取り組むことの重要性と教育実践後の評価の有用性について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp83－103。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

情報リテラシー教育の計画的なチーム連携実践とそこでの司書教諭の役割をまとめて下さい。

第１１回　情報リテラシー教育の実際　1

【key words】
情報活用プロセス　情報リテラシー　情報活用スキル　問いの可視化　テーマ設定

【授業概要】
探求型学習および情報活用プロセスの指導の実際のうち、テーマの設定と情報探索の計画について学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp104－124。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

児童生徒の発達段階に沿ったテーマ設定の指導について、その具体例を示してみましょう。

第１２回　情報リテラシー教育の実際　2

【key words】
分類　目録　参考図書　情報カード　プレゼンテーション

【授業概要】
探求型学習および情報活用プロセスの指導の実際のうち、情報・資料の探索・収集および活用、まとめ方や発表の方法について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp125－167。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

児童生徒の発達段階に沿った資料検索とまとめ方の指導について、その具体例を示してみましょう。

第１３回　レファレンスサービス各論

【key words】
資料収集のためのチェックリスト　レファレンス依頼　レファレンス進行表

【授業概要】
第5回および第12回の内容をふまえ、レファレンスサービス業務演習のための準備をします。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp246－236、プリント資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

レファレンスサービスを実践するための実務的な準備について確認して下さい。

第１４回　レファレンスサービス演習

【key words】
資料収集のためのチェックリスト　レファレンス依頼　レファレンス進行表

【授業概要】
第5回、第12回および第13回の内容をふまえ、レファレンスサービス業務の演習をします。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp246－236、プリント資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

レファレンスサービスの実務的な流れと参考資料群を確認して下さい。

第１５回　まとめ　司書教諭という仕事

【key words】

	司書教諭の役割　教科間の連携　職員間の協働 【授業概要】 教育課程と図書館学の双方に通じている司書教諭が担う多面的な役割をまとめ、学校教育における学校図書館の意義を再確認しましょう。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp264－277。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 司書であり教諭であることの二重性と期待される活動内容について、発展的にまとめておきましょう。
受講生に関わる情報および受講のルール	受講学生の多くは、初めて図書館情報学を学ぶのだと思います。司書教諭科目群では、限られた時間内で必須事項を説いていきますから、注意を集中して授業に参加し、まずは復習を習慣化させましょう。教科書の該当箇所をあらためて通読する、ノートを見返す ことをまめにすることが、この領域の総合的な理解の基礎になります。 ★1回の授業に対して、概ね2時間以上の事前事後自主学習が必要です。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	minute paper
授業外時間にかかわる情報	図書館情報学を学んで理解した観点から、さまざまな館種の図書館を見学することをおすすめします。特に、教育実習は、実習先の学校図書館を少しでも見学するよい機会ですし、母校の学校図書館を訪れるのもいいでしょう。ただし、見学を希望する際には、事前の申し出等、先方への打診・相談が必要です(本授業担当者に まずは相談してください)。 ★1回の授業に対し、概ね2時間以上の事前事後自主学習が必要です。
オフィスアワー	水曜日 17：00～19：00　1号館204研究室
評価方法	学期末課題レポート（85%）および授業への取り組み方（15%）で評定します。
教科書	堀川照代・塩谷京子　改訂新版 学習指導と学校図書館　放送大学振興協会　2016年
参考書	図書館ハンドブック編集委員会編　図書館ハンドブック　第6版補訂版　日本図書館協会　2010年 他
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 授業担当教員は、図書館司書資格を有しています。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 学校経営と学校図書館　　授業コード：S6031

英文科目名称： School Library and School Management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
井ノ口　雄久			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 学校図書館は学校の教育的成果に深く関わっている。学校図書館活動において司書教諭が果たす役割はきわめて大きい。授業に関わるための学校図書館はいかなるものか、全体像を描くことを試みる。 【到達目標】 １）現行の学校教育の問題点を整理する。 ２）現行の学校図書館が学校教育の中でどのような位置づけにあるかを理解する。 ３）期待される学校図書館がどうあるべきかを考え、自分なりの学校図書館のあり方をイメージできるようにする。
授業の概要	学校図書館が学校教育の中で、果たす役割を制度化される課程と、これからますます重要となる児童生徒の自主性を育むために、学校図書館はいかにあるべきか、また実際の学校図書館活動の実際を通して理解することを目指す。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	科目オリエンテーション・司書教諭になるための学習 【key words】 司書教諭資格付与の規程　　司書教諭資格科目　　テキストの編集方針 【授業概要】 「学校経営と学校図書館」という科目の位置づけを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp1-9　　参考書：適宜授業中に提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバス、テキストの関係する章を読んで、疑問や問題点を把握する。 【予習復習に必要な想定時間】 概ね40分
	第２回	福島第一原子力発電所事故後の世界と新しい知的社会 【key words】 フクシマ　　原子力ムラ　　科学者集団のエートス　　専門知の公共性 【授業概要】 専門的知識の限界と知の民主化が必要となった現代社会の知のあり方について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp10-24　　参考書：適宜授業中に提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 概ね1時間
	第３回	これからの学校教育とあるべき学びの形 【key words】 拡張した心　　物知識　　協同的知識　　個人主義的学習観　　協同学習　　ファシリテーター 【授業概要】

新しい知のあり方とは、専門家と市民が協同探求する知である。その知のあり方を実現するための学校教育のあり方と学び方を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp25-40　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第４回　メディアと人間の循環
【key words】
旧来の知識観　　新しい知識観　　協同的知識
【授業概要】
新しい知のあり方のための学校教育において、学校図書館はどうあるべきかを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp41-51　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第５回　学校の中の図書館
【key words】
社会的機関　　収集・組織・保存・提供　　図書館の館種　　図書館ネットワーク
納本制度　　国立情報学研究所（NII）　　NACSIS-CAT/ILL
【授業概要】
日本における学校図書館を含む図書館制度及びその目的、そして学校図書館の目的実現の方法について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp52-68　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第６回　学校図書館の歴史（アメリカ）
【key words】
ライブラリアン　　『学校と社会』　　復誦（レシテーション）室　　プロジェクト・メソッド
ダルトン・プラン　　スクールライブラリアン　　アメリカスクールライブラリアン協会（ＡＡＳＬ）
【授業概要】
学校図書館の本質を具現化していると考えられるアメリカの学校図書館史を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp69-82　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第７回　学校図書館の歴史（日本）
【key words】
国定教科書　　問題解決学習の提唱　　新教科課程　　全国学校図書館協議会（全国ＳＬＡ）
学校図書館法の制定　　司書教諭の専従化　　学校図書館事務職員　　司書助教諭(のち学校司書)
【授業概要】
日本の学校図書館の源流について学び、近年どのように関心が寄せられているか理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp83-97　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第８回　日本の学校図書館の現状
【key words】
学校図書館の法的定義　　学校図書館の運営　　司書教諭　　学校司書
【授業概要】
本の学校図書館の最新の実態により現状を把握し、新しい学校図書館のあり方を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp98-111　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。◎課題レポートを提示する。（字数：2,000字程度　　作成期間：1ヶ月程度）
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第９回　学校図書館の目的と機能
【key words】
学習指導要領と法的拘束力　　健全な教養　　リベラルアーツ　　奉仕機関　　指導機関
【授業概要】
近代的学校教育の課題を解決するために教育改革の中で誕生・発展してきた学校図書館の目的と機能を総合的に理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp112-122　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第１０回　学校図書館の図書館サービス
【key words】
テクニカルサービス　　パブリックサービス
【授業概要】
奉仕機関であり、指導機関である学校図書館の各種のサービスについて理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp123-133　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第１１回　学校図書館の教育活動
【key words】
読書指導　　読解指導　　読みの教育の新しい視点　　読書推進運動協議会
読書週間　　子ども読書週間　　読書のアニマシオン　　ブックトーク
【授業概要】
「読み」の教育、教育内容の改革、教育方法の改革の観点から、学校図書館に期待される教育活動について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp134-146　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。◎課題レポートを提示する。（字数：2,000字程度　　作成期間：1ヶ月程度）
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第１２回　学校図書館の担当者
【key words】
司書教諭制度　　学校司書の法制化　　これからの学校図書館の活用の在り方等について
ティーチャー・ライブラリアン　　ライブラリアンシップ　　専門職の要件
【授業概要】
学校図書館運営のための協力体制と学校図書館専門職の成立の可能性の課題について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp147-156　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第１３回　学校図書館のマネジメント
【key words】
学校図書館マネジメント　マネジメント・サイクル（ＰＤＣＡサイクル）　学校図書館評価基準
利用者からのフィードバック　報告・連絡・相談（ホウレンソウ）　学校図書館のステークホルダー
【授業概要】
学校図書館の「マネジメント」とその活動の「評価」の課題について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p157-166　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第１４回　学校図書館の設計
【key words】
学校図書館は機能である　　メディアセンター機能　　ゾーニング　　ユニバーサル・デザイン
インクルーシブ・デザイン　　アフォーダンス　　教科センター方式　　学校図書館施設基準
【授業概要】
学校図書館の現状を学び、課題やその克服のために手法を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp167-179　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第１５回　学校図書館研究と学校図書館の発展
【key words】
アメリカの学校図書館ガイドライン　全国学校図書館協議会　日本図書館協会学校図書館部会
学校図書館問題研究会　国際図書館連盟学校図書館分科会　国際スクール・ライブラリアンシップ協会
【授業概要】
学校図書館の発展のために何が社会的課題か、何をなすべきかを話し合ったことを整理して自分なりの学校図書館像を考えてみる。

	【教科書ページ・参考文献】 教科書pp180-188　　参考書：適宜授業中に提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。過去の授業中に自分なりに考えた問題・課題等を整理しておく。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 概ね1.5時間
受講生に関わる情報および受講のルール	毎回、次の講義の課題を配布する。課題に基づいて、テキストの該当部分は事前に読んで、自分なりに課題をこなし、授業に臨む。授業は、課題について、グループ学習を行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	予習として、課題に対する疑問や興味を持ったことを整理する。また、毎回、必ずコメントカードに対する回答を行うので、回答によっては、どう対応すべきか考え、次のコメントカードにその結果を報告すること。また、授業中に参考図書を紹介するので、その内容を把握すること。
オフィスアワー	授業後、３０分程度対応可能。また、場合によっては、場所・時間等メールにて調整するも可
評価方法	授業の参加態度（40%）、レポート提出（２回－各30%）
教科書	司書教諭テキストシリーズⅡ…０１　『学校経営と学校図書館』　中村百合子編著　２０１５　樹村房
参考書	授業で、適宜紹介
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 高校の学校図書館運営 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 読書と豊かな人間性　　授業コード：S6041

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
小柳　聡美			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 読書教育は豊かな人間性の涵養や生きる力の育成を目的とする。その目的を達成するための方法と実践力を身につける。 【到達目標】 ① 読書指導の計画を作成し、指導できる。　② ブックトークを実演し、指導できる。 ③ 読書ノートが作成できる。　④ 読書会を実施し、指導できる。
授業の概要	学校教育における読書指導の理論と実際の全体像を把握する。さらに、読書ノートの作成や読書会を実施し、評価する。また、ブックトークという新しいコミュニケーションの精神と技術の獲得を目指す。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、科目の位置づけとシラバスの説明、評価法、レポート課題など。 授業の目的、到達目標、授業計画の全体像、評価方法等々、受講にかかわる必要情報を学ぶ。
	第２回	読書の意味(読書観／読書指導の三原則／読書についての思索)と学校図書館法 読書の意味を明らかにすると共に、その根拠を提示する。
	第３回	読書ノートの作成と読書指導の一環としての図書館利用指導プログラム 読書ノートの作成や評価の仕方を学び、図書館における読書指導計画の方法を理解する。
	第４回	読書の発達段階(読書能力／読書興味)とその構造 多様な読書材の選択は、読書能力と読書興味の発達段階に応じて行われることを学ぶ。
	第５回	読書指導の方法―ストーリーテリング・読み聞かせ・ブックトーク・自由読書・ブックリスト・読書ノート・読書会― 読書指導の方法は、さまざまなものがあるが、その主なものの概要について学ぶ。
	第６回	ブックトークの実際① ブックトークのポイント―多様な形態・テーマの多様さ・専門性・プロセス・実践上のヒント― ブックトークとは何かについて理解を深め、その一般的なプロセスや実践上のヒント等を学ぶ。
	第７回	ブックトークの実際② ブックトークのシナリオ作成―タイトル・対象・ねらい・展開（シナリオ）― ブックトークは統一テーマという呪術が生み出す創造的な演劇空間である。そのシナリオを作成する。
	第８回	ブックトークの実際③ ブックトークの試演・記録・評価 ブックトークを実際に試演し、評価ノートにより相互評価を試みて評価の仕方を学ぶ。
	第９回	第１回から第８回までの授業のまとめと課題レポート作成 第1回から第8回までの授業の内容とポイントをテーマに即してまとめ、レポートを作成する。
	第１０回	読書会の実際① 読書会のポイント―多様な形態・対象の多様さ・一般的なプロセス―

	読書会は、新しい価値発見や多様な評価法の存在に気づかせてくれる。そのポイントについて学ぶ。 第１１回　読書会の実際② 読書会の実施―対象作品を読む・進行者の決定・テーマの確認・記録・評価― 読書会の流れに従って進行し、問題の所在を深める。 第１２回　読みの原理(読書以前としてのブックスタート／読みの発達過程)と読書人格 読書法の原理を学び、読書人格を高める各種の方法を探求する。 第１３回　学校図書館における読書資料と読書環境の整備／読書療法 教育課程の具体化としての読書資料と読書環境をどう整備するかについて検討する。 第１４回　読書体験のひろがり(生徒委員会活動／教科教師との協力／図書館広報活動)と地域社会との連携 読書体験のひろがりとしての図書館活動や地域社会との連携の方法を学ぶ。 第１５回　第10回から第14回までの授業のまとめと課題レポート作成 第10回から第14回までの授業の内容とポイントをテーマに即してまとめ、レポートを作成する。
受講生に関わる情報および受講のルール	・毎回、次の授業の資料（オリジナルプリントなど）を配布し、授業内容を予告する。 ・出席重視。向上心と問題意識を持って授業に取り組むこと。 ・授業に支障を来たすような行為は厳に慎むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・シラバスで示した課題については、ワークシート等によるレポートを作成し提出すること。 ・授業テーマに関連した書を読み、読書人としての生活スタイルを確立すること。
オフィスアワー	授業の前後１０分程度は対応可能
評価方法	定期試験(レポート)が70%、提出物が30%の総合評価による。 定期試験レポートの評価基準：①課題(テーマ)が適切にまとめられている。(60%)　②文章表現が適切である。(20%) ③オリジナリティーがある。(20%)
教科書	司書教諭テキストシリーズ…04朝比奈大作編集『読書と豊かな人間性』樹村房（2002）
参考書	全国SLAブックトーク委員会編『ブックトーク―理論と実践―』全国学校図書館協議会（2001） ステーブン・クラッシェン（長倉美恵子・黒澤浩・塚原博共訳）『読書はパワー』金の星社（2002）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 平成９年度より学校図書館司書として、公立小中学校で図書館教育･読書指導に携わる アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ　　授業コード：S7007

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
新藤　健太			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 実習先機関の特徴を学びながら、精神保健福祉士の役割、精神障害者の理解、精神障害者および精神障害者施設の歴史的背景や制度を理解する。また学びをとおして、自らの精神保健福祉士像を明確にしていくことを目的とする。 【到達目標】 ①実習機関における精神保健福祉士の役割を学び、理解する。 ②学習をとおして精神疾患を抱えている人を理解する。 ③実習機関の役割を学び、そこで行われていることを理解して、希望実習先について考える。 ④精神保健福祉士としてのアイデンティティを明確にする。 ⑤実習の意義について考え、理解する。
授業の概要	実習先機関の学習をとおして精神障害者や精神保健福祉援助実習についての理解を深め、グループワークをとおした活動により、精神保健福祉士の活動する機関の役割および自らの精神保健福祉士としてのアイデンティティの確立を目指す。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	本講義のオリエンテーション 【key words】 ・オリエンテーション 【授業概要】 ・他科目でこれまで学習してきた内容について振り返りを行い、本科目との関連性について解説する。 ・前期における本科目の授業内容について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 ・p2-p23 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを参照し、「精神保健福祉援助実習の理解」を予習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第２回	各実習先種別の学習①　精神科医療機関 【key words】 ・精神科病院，精神科診療所 【授業概要】 ・授業にあたって担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。 ・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。 ・実習先機関についての説明を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ・p30-p32 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。

・テキストを参照し、「精神科病院」と「精神科診療所」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第３回　各実習先種別の学習②　精神科医療機関
【key words】
・精神科デイ・ケア施設，総合病院精神科
【授業概要】
・授業にあたって、担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。
・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。
・実習先機関について説明を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・p30-p32
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。
・テキストを参照し、「精神科病院」と「精神科診療所」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第４回　各実習先種別の学習③　精神科医療機関
【key words】
・アルコール専門病棟，認知症疾患医療センター，児童思春期病棟
【授業概要】
・授業にあたって、担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。
・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。
・実習先機関について説明を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・p30-p32
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。
・テキストを参照し、「アルコール専門病棟」と「認知症疾患医療センター」、「児童思春期病棟」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第５回　各実習先種別の学習④　障害福祉サービス事業所
【key words】
・グループホーム，生活介護および自立訓練
【授業概要】
・授業にあたって、担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。
・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。
・実習先機関について説明を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・p33-p37
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。
・テキストを参照し、「グループホーム」と「生活介護および自立訓練」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第６回　各実習先種別の学習⑤　障害福祉サービス事業所
【key words】
・就労移行支援，就労継続支援（A型・B型）
【授業概要】
・授業にあたって、担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。
・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。
・実習先機関について説明を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・p33-p37
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。
・テキストを参照し、「就労移行支援」と「就労継続支援（A型・B型）」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第７回　各実習先種別の学習⑥　障害福祉サービス事業所
【key words】
・相談支援事業，地域活動支援センター
【授業概要】
・授業にあたって、担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。
・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。
・実習先機関について説明を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・p33-p37
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。
・テキストを参照し、「相談支援事業」と「地域活動支援センター」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第８回　各実習先種別の学習⑦　行政機関

【key words】
・精神保健福祉センター，保健所
【授業概要】
・授業にあたって、担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。
・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。
・実習先機関について説明を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・p38-p39
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。
・テキストを参照し、「精神保健福祉センター」と「保健所」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第９回　各実習先種別の学習⑧　行政機関
【key words】
・市町村保健センター，保護観察所
【授業概要】
・授業にあたって、担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。
・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。
・実習先機関について説明を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・p38-p39
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。
・テキストを参照し、「市町村保健センター」と「保護観察所」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第10回　各実習先種別の学習⑨　行政機関
【key words】
・更生保護施設，児童相談所，児童自立支援施設
【授業概要】
・授業にあたって、担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。
・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。
・実習先機関について説明を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・p38-p39
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。
・テキストを参照し、「更生保護施設」と「児童相談所」、「保護観察所」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第11回　各実習先種別の学習⑩　その他
【key words】
・児童福祉関連施設，法務省関連施設，など
【授業概要】
・授業にあたって、担当者（受講生）は説明用の資料を準備する。
・受講生による説明を聞き、質疑応答を行うことを通して、実習先機関についての理解を深める。
・実習先機関について説明を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・p40-p43
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・担当者は資料の作成など説明準備を行うこと。
・テキストを参照し、「児童福祉関連施設」や「法務省関連施設」などについて予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第12回　倫理と秘密保持について①　精神保健福祉士の倫理綱領
【key words】
・ソーシャルワークにおける価値，ソーシャルワークにおける倫理
【授業概要】
・ソーシャルワークにおける価値や倫理について解説する。
・グループディスカッションを通して検討することで、ソーシャルワークにおける価値や倫理についての理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
・演習（基礎・専門）のテキストp24-p30
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「ソーシャルワークにおける価値と倫理」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第13回　倫理と秘密保持について②　精神保健福祉士の倫理綱領
【key words】
・倫理綱領
【授業概要】
・精神保健福祉士の倫理綱領について解説する。
・グループディスカッションを通して検討することで、精神保健福祉士の倫理綱領についての理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
・演習（基礎・専門）のテキストp24-p30

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・精神保健福祉士の倫理綱領を参照し、その内容について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分 第14回　自らの課題検討 【key words】 ・実習先の理解 【授業概要】 ・いくつかのグループを設け、グループごとに実習計画書を作成してみる。 ・グループごとに実習計画書の発表を行い、質疑応答を行うことで、実習先に対する理解を深める。 ・実習先について解説を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・これまでに学習した内容を復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分 第15回　全体のまとめ 【key words】 ・まとめ 【授業概要】 ・これまでに学習した内容の振り返りを行い、理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・これまでの学習した内容を復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	①対人援助専門職としての態度を身につけるため、時間厳守、連絡および相談、報告を行うことを重視します。 a 遅刻および欠席の場合は、開始前に教務課に連絡する必要があります。 b 無断欠席および無断遅刻の場合は精神保健福祉実習部会にて対応を協議します。 ②精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、自ら演習に取り組む実践的行動への努力を重視します。 ③グループワークを中心に講義を進めるため、他者とのグループワークに取り組む努力ができない場合は、受講を認めません。 ④授業中の活動を乱す行為（私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等）は慎んでください。 ⑤提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ワークシートやコメントカード
授業外時間にかかわる情報	3年生春休み期間中に精神科病院事前見学会を実施します。精神障害者及び実習機関の理解を深めるために、受入れ可能機関等の状況により随時現場での体験学習活動を実施予定です。 ①授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。 ②授業時間外の日常生活での自己覚知に積極的に取り組むこと。
オフィスアワー	初回の講義内で具体的に案内します。
評価方法	①授業への取り組み（授業内での発言・発表やグループワークへの参加状況）25%。 ②授業レポート（内容および提出状況を含む）35%。 ③課題レポート　40%。
教科書	・新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助実習指導・実習　第2版」日本精神保健福祉士養成校協会　編集　中央法規出版　2015 ・「実習へのガイドブック（学生用）」群馬医療福祉大学　2015
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用

	□ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 精神保健福祉援助演習（基礎）　　授業コード：S7011

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
新藤　健太			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力を身に着ける。 【到達目標】 ①対人援助専門職を目指す学生として、基本的なコミュニケーションと対人援助に関わる態度を身につける。 ②基本的な話す、聴く、書く、観ることを含めたコミュニケーション方法を身につけ、実践できるようになる。 ③精神障害者の生活や生活上の困難について把握することができる。 ④精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術を習得する。 ⑤専門的技術を概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力を身に着ける。
授業の概要	精神保健福祉士としての基本的コミュニケーション方法を具体的に学び、演習をとおして実践できるようグループワークやディスカッション形式で授業をすすめていく。尚、授業のなかでは相談援助に係る基礎的な知識と技術に関する具体的な実技を用いるとともに、個別指導並びに集団指導を通して、地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談事例を体系的に取り上げることとする。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	前期の講義の進め方と具体的方法について　オリエンテーション 【key words】 ・オリエンテーション 【授業概要】 ・他科目でこれまで学習してきた内容について振り返りを行い、本科目との関連性について解説する。 ・前期における本科目の授業内容について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 ・p2-p17 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを参照し、「演習の意義と目的」を予習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第２回	自己覚知①　精神障害を抱えて生きる人の理解① 【key words】 ・自己覚知，精神障害者の理解，ストレス脆弱性モデル 【授業概要】 ・「精神」というDVDを鑑賞し、自分自身が精神障害に対してどのような感想を抱いたか理解する。 ・グループディスカッションを通して、精神障害に対して抱いた感想を話し合い、精神障害について抱いた感想における自身と他者の違いを理解する。

・一般的に言われている精神障害の特徴について解説する。
●輪読：ストレングスモデル（第1章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・ストレングスモデルp3-p18
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・「精神障害とは何か」について、テキストなどを参照して予習し、自分自身の言葉で説明できるようにしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第３回　自己覚知②　精神障害を抱えて生きる人の理解②
【key words】
・自己覚知，精神障害者の理解，ピアサポート，ストレングス
【授業概要】
・「べてる流女の一生」というDVDを鑑賞し、自分自身が精神障害に対してどのような感想を抱いたか理解する。
・グループディスカッションを通して、精神障害に対して抱いた感想を話し合い、精神障害について抱いた感想における自身と他者の違いを理解する。
・ピアサポートやストレングスをキーワードに精神障害のある人の生活について解説する。
●輪読：ストレングスモデル（第1章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・ストレングスモデルp18-p30
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・第2回の授業で、自分自身が精神障害について抱いた感想が何だったかを確認しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第４回　コミュニケーションおよび面接技術の習得　ストレングスモデル
【key words】
・ストレングスモデル，リフレーミング，ケースマネジメント，社会資源
【授業概要】
・医学モデル・病理欠陥モデルとストレングスモデルの違いについて解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、ストレングス視点のアセスメントについて理解する。
・ロールプレイを通して、ストレングス視点に基づいた声かけや対応の方法を学習する。
●輪読：ストレングスモデル（第1章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・p210-p214
・ストレングスモデルp30-p44
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「ストレングスモデル」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第５回　グループダイナミクス活用技術の習得①　SSTについての理解
【key words】
・SST（社会生活機能訓練）
【授業概要】
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、SSTの機能や必要性を理解する。
・ロールプレイを通して、SSTの具体的な方法について学習する。
・ロールプレイ後のグループディスカッションを通して、SSTにおけるリーダー、コ・リーダーの役割について考察する。
●輪読：ストレングスモデル（第2章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・p215-p219
・ストレングスモデルp45-p55
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「SST」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第６回　グループダイナミクス活用技術の習得②　心理教育についての理解①
【key words】
・心理教育，EE（感情表出），EBP（科学的根拠に基づいた実践），ツールキットプロジェクト
【授業概要】
・心理教育やEE研究について解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、心理教育について理解する。
●輪読：ストレングスモデル（第2章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・p220-p224
・ストレングスモデルp55-p66
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「心理教育」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

	第７回	グループダイナミクス活用技術の習得③　心理教育についての理解② 【key words】 ・心理教育，EE（感情表出），EBP（科学的根拠に基づいた実践），ツールキットプロジェクト 【授業概要】 ・「心理教育の立ち上げ方・進め方ツールキット（グループワークの実際）」というDVDを鑑賞し、心理教育におけるグループワークの実際を理解する。 ●輪読：ストレングスモデル（第3章） ⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。 【教科書ページ・参考文献】 ・ストレングスモデルp67-p80 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・さらに学習したい場合には、心理教育実施・普及ガイドライン・ツールキット研究会（大島巌・福井里江）（2011）「心理教育の立ち上げ方・進め方ツールキットⅠ」を参照すると良い。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第８回	グループダイナミクス活用技術の習得④　集団精神療法についての理解 【key words】 ・集団精神療法 【授業概要】 ・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、集団精神療法の特徴を考察する。 ・集団精神療法について解説する。 ●輪読：ストレングスモデル（第3章） ⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。 【教科書ページ・参考文献】 ・p225-p229 ・ストレングスモデルp80-p91 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを参照し、「集団精神療法」について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第９回	情報収集および課題解決技術の習得①　ソーシャルサポートシステム 【key words】 ・ソーシャルサポート，社会資源，エコマップ 【授業概要】 ・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、ソーシャルサポートについて理解する。 ・事例に基づき、エコマップの作成を行うことで、エコマップについて理解する。 ・精神障害者を支援するためのソーシャルサポートシステムについて解説する。 ●輪読：ストレングスモデル（第4章） ⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。 【教科書ページ・参考文献】 ・ストレングスモデルp92-p110 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを参照し、「社会資源」や「ソーシャルサポート」について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第10回	情報収集および課題解決技術の習得②　家族関係の理解　家族システム 【key words】 ・精神障害者家族，EE（感情表出），循環的因果律（円環的因果律），心理教育 【授業概要】 ・精神障害者の家族が置かれてきた状況（歴史）について解説する。 ・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、精神障害者家族が精神保健福祉士に期待することなどを考察する。 ・家族をシステムとして捉えることについて解説する。 ●輪読：ストレングスモデル（第4章） ⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。 【教科書ページ・参考文献】 ・ストレングスモデルp110-p124 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを参照し、「精神障害者家族」について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第11回	情報収集および課題解決技術の習得④　アウトリーチについての理解 【key words】 ・アウトリーチ，面接技術，社会資源，ネットワーク形成 【授業概要】 ・アウトリーチについて解説する。 ・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、援助を拒否するクライエントの気持ちや訪問支援を行う際の留意点，アウトリーチの有効な点などについて考察する。 ・アウトリーチに関連する制度等について解説する。 ●輪読：ストレングスモデル（第5章） ⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。 【教科書ページ・参考文献】 ・p235-p239 ・ストレングスモデルp125-p141 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを参照し、「アウトリーチ」について予習をしておく。

【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第12回　情報収集および課題解決技術の習得⑤　チームアプローチについての理解
【key words】
・高次脳機能障害，チームケア，チームワークの原則
【授業概要】
・高次脳機能障害について解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、チームアプローチについて考察する。
・チームワークの原則などについて解説する。
●輪読：ストレングスモデル（第5章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・p240-p244
・ストレングスモデルp141-p156
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「チームアプローチ」につて予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第13回　情報収集および課題解決技術の習得⑥　ケアマネジメントについての理解①
【key words】
・ケアマネジメント，サービス等利用計画，ストレングスモデル，ICF
【授業概要】
・事例を読み、グループごとに「サービス等利用計画」を作成する。
●輪読：ストレングスモデル（第5章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・p245-p251
・ストレングスモデルp156-p167
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「ケアマネジメント」や「サービス等利用計画」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第14回　情報収集および課題解決技術の習得⑦　ケアマネジメントについての理解②
【key words】
・ケアマネジメント，サービス等利用計画，ストレングスモデル，ICF
【授業概要】
・第13回授業にて作成した「サービス等利用計画」をグループごとに発表し、良い点や改善点などについて議論をすることで、ケアマネジメントの理解を深める。
●輪読：ストレングスモデル（第5章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・p245-p251
・ストレングスモデルp167-p178
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・第13回授業で取り組んだ「サービス等利用計画」を授業開始までに完成させ、発表の手順をグループごとに確認しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第15回　前期のまとめ
【key words】
・まとめ
【授業概要】
・前期の授業で学んだことを復習し、簡単なテストを実施することで各々の理解度を確認する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・これまでの授業を復習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第16回　後期の講義の進め方と具体的方法について　オリエンテーション
【key words】
・オリエンテーション
【授業概要】
・前期の授業で学習してきた内容について振り返りを行い、後期の授業内容との関連性について解説する。
・後期における本科目の授業内容について説明する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・前期の授業内容を復習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第17回　危機介入について理解する
【key words】
・危機，危機介入
【授業概要】
・危機とは何かについて解説する。

・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、危機状態の特徴や必要な支援について考察する。
・必要な支援について解説する。
・ソーシャルワーカーが危機介入をしなければならない状況としてどのような場面が想定されるかを考察する。
●輪読：ストレングスモデル（第6章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・p230-p239
・ストレングスモデルp179-p192
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「危機介入」について予習をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第18回　医療に結びつける援助について理解する
【key words】
・摂食障害，家族関係，病識がない人へのアプローチ，治療拒否をしている人へのアプローチ，入院
【授業概要】
・摂食障害について解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、病識がない人や治療拒否をしている人へのアプローチについて考察する。
・精神保健福祉法における入院について解説する。
●輪読：ストレングスモデル（第6章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・p252-p256
・ストレングスモデルp192-p207
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「医療に結び付ける援助」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第19回　自殺予防について理解する
【key words】
・自殺予防，バイステックの7原則
【授業概要】
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、自殺を思い詰めるに至る課題や面接のポイントについて考察する。
・ロールプレイを通して、精神保健福祉士としての面接の仕方を学習する。
・自殺の危機にある人をどのような機関や人に繋げれば良いかを考察する。
●輪読：ストレングスモデル（第6章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・p257-p261
・ストレングスモデルp207-p227
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「自殺予防」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第20回　社会復帰①　地域移行支援について理解する
【key words】
・精神保健福祉士としての価値，施設症，地域移行支援，精神科病院
【授業概要】
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、退院に消極的な患者の気持ち等を考察する。
・精神保健福祉士が行う地域移行支援について解説する。
・グループディスカッションを通して社会的入院や求められる支援について考察する。
●輪読：ストレングスモデル（第6章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・p267-p271
・ストレングスモデルp227-p246
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「地域移行支援」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第21回　社会復帰②　地域定着支援について理解する
【key words】
・ICF，チームアプローチ，地域定着支援，ACT（包括型地域生活支援）
【授業概要】
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、精神障害のある人の地域生活支援について考察する。
・ICFについて解説する。
・グループごとに地域生活の支援をどのように展開するか、そのなかでの精神保健福祉士の役割を考察する。
●輪読：ストレングスモデル（第7章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】

・p272-p276
・ストレングスモデルp247-p257
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「地域定着支援」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第22回　社会復帰③　医療観察法について理解する
【key words】
・医療観察法，社会復帰調整官
【授業概要】
・医療観察法について解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、加害者側の気持ち、被害者側の気持ちを考察する。
・グループディスカッションを通して医療観察法の機能について考察する。
・医療観察法に関する批判的な意見について解説する。
●輪読：ストレングスモデル（第7章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・p277-p281
・ストレングスモデルp257-p276
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「医療観察法」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第23回　就労支援（IPS援助付き雇用）について理解する
【key words】
・IPS援助付き雇用，EBP（科学的根拠に基づく実践），就労移行支援
【授業概要】
・IPS援助付き雇用について解説する。
・「IPSを学ぶ　ストレングスモデルに基づく個別就労支援の進め方）」というDVDを鑑賞し、IPSの実際について理解する。
・我が国の一般的な就労支援とIPSの違いについて各々で考察する。
●輪読：ストレングスモデル（第7章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・ストレングスモデルp276-p292
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・さらに学習したい場合には、デボラ・R・ベッカー，ロバート・E・ドレイク（2004）「精神障害をもつ人たちのワーキングライフ　IPS：チームアプローチに基づく援助付き雇用ガイド」を参照すると良い。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第24回　地域生活支援（ACT）について理解する
【key words】
・ACT（包括型地域生活支援），EBP（科学的根拠に基づく実践），地域生活支援
【授業概要】
・ACT（包括型地域生活支援）について解説する。
・「ACTは地域精神医療を変えるか」というDVDを鑑賞し、ACTの実際について理解する。
・我が国においてACTを実践するうえでの課題等について考察する。
●輪読：ストレングスモデル（第7章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・ストレングスモデルp292-p302
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・さらに学習したい場合には、西尾雅明（2004）「ACT入門　精神障害者のための包括型地域生活支援プログラム」を参照すると良い。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第25回　権利擁護について理解する
【key words】
・社会権，権利擁護，自己決定，障害者の権利に関する条約，成年後見制度
【授業概要】
・各々で権利とは何かについて考察する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、権利侵害とは何かについて考察する。
・権利擁護について解説する。
・グループディスカッションを通して検討することで、精神保健福祉士が行う権利擁護について考察する。
●輪読：ストレングスモデル（第8章）
⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。
【教科書ページ・参考文献】
・p282-p286
・ストレングスモデルp303-p319
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「権利擁護」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第26回　地域の組織化について理解する
【key words】

	・コミュニティワーク，地域福祉計画，住民参加 【授業概要】 ・コミュニティワークの3つのゴール（タスクゴール、プロセスゴール、リレーションシップゴール）について解説する。 ・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、地域の精神保健福祉ニーズの把握方法や計画の作成方法について考察する。 ・地域福祉計画や住民参加について解説する。 ●輪読：ストレングスモデル（第8章） ⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。 【教科書ページ・参考文献】 ・p297-p301 ・ストレングスモデルp319-p333 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを参照し、「地域の組織化」について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第27回　障害年金について理解する 【key words】 ・障害年金，自立支援 【授業概要】 ・障害年金について解説する。 ・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、障害年金の受給と自立の関係について考察する。 ・障害年金を受給しやすい社会について、各々に考察する。 ●輪読：ストレングスモデル（第8章） ⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。 【教科書ページ・参考文献】 ・p302-p305 ・ストレングスモデルp333-p353 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを参照し、「障害年金」について予習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第28回　社会資源につなげる支援について理解する 【key words】 ・アウトリーチ，ACT（包括型地域生活支援），ホームレス支援 【授業概要】 ・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、アウトリーチ支援を行ううえで必要な配慮等について考察する。 ・アウトリーチ支援における精神保健福祉士の関わりについて、事例に基づいて解説を行う。 ●輪読：ストレングスモデル（第9章） ⇒ストレングスモデルの該当部分を事前に読んでおき，「発表担当者」は発表資料作成，「指定討論者」は質問を準備，「それ以外の受講生」は指定の用紙を記入して授業に望むこと。 【教科書ページ・参考文献】 ・p307-p311 ・ストレングスモデルp354-p369 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを参照し、「社会資源につなげる支援」について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第29回　自己覚知③　ゲストスピーカーによる講話 【key words】 ・精神障害者の実体験 【授業概要】 ・当事者であるとともに専門職でもある方をゲストスピーカーに招き、講話をして頂く。 ・講話を聞き、各々に精神保健福祉士として求められる役割を考察する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・これまでの授業を復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第30回　全体のまとめ 【key words】 ・まとめ 【授業概要】 ・後期の授業で学んだことを復習し、簡単なテストを実施することで各々の理解度を確認する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・これまでの授業を復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	①対人援助専門職としての態度を身につけるため、時間厳守、連絡および相談、報告を行うことを重視します。 a 遅刻および欠席の場合は、開始前に教務課に連絡する必要があります。 b 無断欠席および無断遅刻の場合は精神保健福祉実習部会にて対応を協議します。 ②精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、自ら演習に取り組む実践的行動への努力を重視します。 ③グループワークを中心に講義を進めるため、他者とのグループワークに取り組む努力ができない場

	合は、受講を認めません。 ④授業中の活動を乱す行為（私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等）は慎んでください。 ⑤提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ワークシートやコメントカード
授業外時間にかかわる情報	①授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。 ②授業時間外での日常生活での自己覚知に積極的に取り組むこと。
オフィスアワー	初回の講義内で具体的に案内します。
評価方法	①授業への取り組み（授業内での発言・発表およびグループワークへの参加状況）25%。 ②授業レポート（内容および提出状況含む）40%。 ③定期試験または課題レポート35%。
教科書	・新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助演習（基礎・専門）第2版」日本精神保健福祉養成校協会　編集　中央法規出版　2016 ・Rapp, C. A. and Goscha, R. J.(2012) The Strengths Model:A Recovery-Oriented Approach to Mental Health Services, Third Edition, New York: Oxford University Press.（＝2014, 田中英樹監訳『ストレングスモデル―リカバリー志向の精神保健福祉サービス[第3版]金剛出版）
参考書	・Becker, D. R. and Drake, R. E.(2003) Working Life for People with Severe Mental Illness, Oxford University Press.（＝2004, 大島　巌・松為信雄・伊藤順一郎監訳『精神障害のある人たちのワーキングライフ―IPS：チームアプローチに基づく援助付き雇用ガイド』金剛出版） ・西尾雅明（2004）『ACT入門―精神障害者のための包括型地域生活支援プログラム』金剛出版
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ　　授業コード：S7016

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	4単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
鈴木　秀夫			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 精神科リハビリテーションの概念、構成について学ぶ。 【到達目標】理論と展開Ⅰで学んだ理論実践方法をさらに具体的事例や訓練によって内容を深める。地域生活支援にポイントを置く。精神障害者支援のかなめ「エンパワーメント」「リカバリー」の概念を体得できることを目指す。
授業の概要	この講義では医療機関をはじめ地域でのソーシャルワーク実践の視座および活用方法を順次学び、理解を深める。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション 【key words】 仲介型のケアマネジメント 【授業概要】 理論と展開Ⅰの総まとめ、復習。 ソーシャルケースワークを振り返る。 ※次回から去年の教科書を持ってこさせる。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 精神医学を入れるか確認 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	ストレングスモデル 【key words】 希望を聞く 【授業概要】 支援計画のポイントをおさらいする。 ※ラップは何を根拠に理論を発表したか！ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第３回	心理社会的アプローチと未解決問題 【key words】 心理社会的アプローチ 【授業概要】 これまでの事例の中の未解決問題。 30歳男性の事例、45歳男性の事例から。

※社会診断とは？
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第４回　相談支援専門員とサービス管理責任者
【key words】
支援計画に二つある
【授業概要】
福祉サービスのケアマネージャーが相談支援専門員とサービス管理責任者。

※仲介型ケアマネジメント
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第５回　精神科リハビリテーション
【key words】
精神科リハビリテーション
【授業概要】
戻って「理論と展開２」の教科書に入る。
ICIDHの確認とICFの新しい視点。
教科書に従う

アンソニー、スレッシュホールズ

【教科書ページ・参考文献】
教科書1～10P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第６回　WHOのリハビリテーションの定義
【key words】
４つのリハとその後の発展
【授業概要】
医者中心から多職種チームに。

※注意することは心理社会的リハビリテーション。これがアンチスティグマにつながる。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第７回　日本の精神科リハビリテーションの歴史
【key words】
外作業・委託作業
【授業概要】
外勤委託作業（院外作業療法）や職親制度。
デイホスピタル

部分入院とは？ソーシャルクラブ

【教科書ページ・参考文献】
教科書41～45P。177P。179P。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第８回　ストレス－脆弱性モデルと精神医学の視点
【key words】
生物学的視点の持つ意味
【授業概要】
パラダイムの転換。入院中心から地域中心に。

※精神科リハビリテーションの実施機関
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第９回　精神科デイケアの登場
【key words】
精神科デイケア・デイナイトケア
【授業概要】
デイケアの内容から診療報酬について学ぶ。プログラム活動というグループワーク。

※小規模、大規模デイケア。デイナイトケア。ナイトケア。

【教科書ページ・参考文献】
教科書157P～
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１０回　治療共同体からデイホスピタルまで
【key words】
大集団精神療法
【授業概要】
退院促進の送り手と受け皿。

※M・ジョーンズとビエラ

【教科書ページ・参考文献】
教科書10P。128P～。88Pも参考に
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１１回　中間施設の限界からEE研究と家族支援
【key words】
回転ドアの次に
【授業概要】
EE研究の成果。家族心理教育プログラムの誕生。

※回転ドア現象

【教科書ページ・参考文献】
教科書11P。88P。188P。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１２回　精神科リハビリテーションの展開
【key words】
アンソニーの理念
【授業概要】
75Pから教科書に従い基本を押さえる。

※技術開発計画と資源開発計画
【教科書ページ・参考文献】
教科書75P~
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１３回　第6章、西尾雅明の精神科リハビリテーション
【key words】
教科書6章の1から
【授業概要】
精神医学をからめ①187P～入り、②195Pのケアマネジメントの視点を押さえ、③205PのACTについても学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書①187P～②195P、③205P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１４回　精神科リハとソーシャルワーク
【key words】
野中猛のケースマネジメント
【授業概要】
野中猛のケースマネジメントからイギリスのCPAまで。

※ケースマネジメント概論
【教科書ページ・参考文献】
索引を利用
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１５回　新しい精神科リハビリテーションの展開
【key words】
クラブハウス運動から
【授業概要】
SHG(セルフヘルプグループ) とピアサポートグループの違い。

※アンチスティグマ理解を！

【教科書ページ・参考文献】
教科書209P～
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１６回　精神科リハビリテーションと作業療法
【key words】
職業準備性、レディネスとは？
【授業概要】
患者作業の歴史と開放化。そして現在の作業療法。

※作業療法士

【教科書ページ・参考文献】
教科書115～127P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１７回　職業リハビリテーションと就労支援
【key words】
これが間違いやすい！
【授業概要】
障害者雇用促進法に基づく就労支援。そして居住支援も。

※ILO 条約

【教科書ページ・参考文献】
教科書3、6、33、70P。176P～
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１８回　アウトリーチとピアサポート
【key words】
セルフヘルプグループ
【授業概要】
教科書に従いながらアノニマス系と障害系の違いを理解する。
リカバリーからプロシューマー。

※二つのセルフヘルプグループ

【教科書ページ・参考文献】
教科書200P～
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１９回　デイケア・ナイトケアとプログラム活動
【key words】
包括的な支援、切れ目ない支援
【授業概要】
医療機関の取り組みと福祉サービス事業所のグループ活動。

※SSTの多様性。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２０回　実践的SSTトレーニング
【key words】
実習に向けて
【授業概要】
138Pから入りベラックのステップバイステップに。

※防御因子

【教科書ページ・参考文献】
教科書138P～
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２１回　初めてSSTを導入したデイケア
【key words】
技法は山のように
【授業概要】
A・Tベックの認知行動療法の違い。

※外在化、自動思考とスキーマ。

【教科書ページ・参考文献】
精神医学の教科書から

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２２回　中断したデイケアでのSST

【key words】
SSTトレーニング
【授業概要】
急いでプログラムに入らない。
傷つきに目を向ける。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２３回　厳しい指摘が友情

【key words】
友情とは？指し手理論を披露
【授業概要】
治療共同体のコミュニティーミーティングでも同じ。
現実に直面し人は成長する。

※成長そして成熟
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２４回　茶の湯の技法「花月」

【key words】
日本のグループワーク
【授業概要】
どんな状況でもSSTに持って行ける。

※ロールプレイ
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２５回　コ・リーダーは何をする

【key words】
本気
【授業概要】
うまくいったところ、難しかったところ、次回の工夫点。

※みんながリーダー
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２６回　家族心理教育プログラム（家族教室）での実践

【key words】
それでもSSTだけではダメ
【授業概要】
パスができる。パスして誉めてもらえる。

※家族も入る
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２７回　ピアサポートグループでの実践

【key words】
腕が上がったか！
【授業概要】
自助グループ、ピアリンクでの活動。
ナラティブ活動の延長線上に位置づける。

※サポーティブグループが前提
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２８回　指示的グループと非指示的グループ

【key words】
グループワークの色々
【授業概要】
楽しくないと飽きてしまう。

	ウォーミングアップを多用する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２９回　話し合い、学び合い、助け合い 【key words】 まず話し合い。 【授業概要】 グループはメンバーを見捨てない。 自由に楽しくそしてスキルが身につく。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　実践ＳＳＴを終えて 【key words】 これからが楽しみです 【授業概要】 これで皆さん精神保健福祉士援助実習に行ける。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	精神保健福祉士を目指し、国家試験受験を予定している学生は必ず履修すること。（授業中に予備知識、技能上のポイントの助言が多い）適宜レポート提出、小テストを実施する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	施設ボランティア、精神障害者イベントボランティアの紹介。ピア活動・講演会の紹介。
オフィスアワー	原則、月曜除く放課後。
評価方法	定期試験50%　レポート30%　その他毎回での考察２０%
教科書	へるす出版　精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ
参考書	適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 精神科病院、３０年以上のPSWとしての実務経験。最後の１０年は当時の副院長と看護勉強会を実施。他、医局勉強会において医師、SW、CPを対象にSSTトレーニングを実施。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 社会福祉特講Ⅲ　　授業コード：S8005

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
富澤　一央・松永　尚樹			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】社会福祉士国家試験対策の一環として、特に指定科目の重要な点と学習すべき内容について解説する。各回解答演習を中心とし講義に加え、学生自身が学習進度を確認しながら進め、それぞれの学生が学習の習慣化と学習課題の焦点化を目的とする。 【到達目標】 (1) 自身の学習状況を振り返り，国家試験受験に向けた学習内容を明確にできる。 (2) 解説や解答演習を通して，個々の学習方法を習慣化できる。 (3) 各回の解答演習で国家試験合格水準の正答が導き出せる。
授業の概要	社会福祉士として身に付けることが必要とされる広い範囲の基礎的な知識を学習し、その学習方法等についても解説を行う。特に、社会福祉士の国家試験の出題基準に対応した範囲の重要な点について焦点化し学習を進める。 なお、学習進度によっては取り上げる科目の順序等を変更することがあるので、各回の説明には注意すること。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　オリエンテーション 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】

		【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第４回	問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第５回	問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第６回	問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第７回	問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第８回	問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第９回	問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１０回	問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１１回	問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１６回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１７回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１８回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１９回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２０回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２１回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２２回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２３回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２４回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２５回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２６回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２７回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】 第２８回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２９回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	自主学習を前提とした学習方法や内容の解説を行う。したがって，各々が国家試験に関する学習時間を確保した上で国家試験合格に向けた学修を進めていることが必要である。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	国家試験の過去問題を用いた予習，復習をしていること。
オフィスアワー	第1回授業時に説明する。
評価方法	授業内テスト（60%），赤マル福祉の習熟度（40%）
教科書	赤マル福祉（登録方法は授業内で案内します。）
参考書	社会福祉用語辞典など，適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　教職対策講座Ⅰ　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	–	学校教育コース・選択
担当教員			
江原　京子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　次年度、全国の自治体で実施される教員採用試験に向けて、教職教養を中心として、過去・予想問題「学内模擬試験の実施を含む」を解きながら教員採用試験の合格を目指す。 [到達目標] １　教職教養の知識を身につける。 ２　各自治体で実施される教員採用試験の予想問題が解ける。 ３　将来学校教育に従事する教員としての資質の向上を図る。
授業の概要	１　4年次、各自治体で実施される教員採用試験の合格に向けて、教職教養を中心に採用試験対策に取組む。 ２　学内模擬試験を実施し本番の試験に備える（模擬試験の振り返りを行うことで力をつけていく）。 ３　教員採用試験の最新情報を得る。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	学習指導要領の変遷－改訂の推移－ 【key words】 学習指導要領改訂の推移 【授業概要】 【受講にあたり】 ※教員免許状取得希望者の必須科目である。 1　授業の進捗状況により各回の内容に変更が生じる場合がある。随時、その旨を確認しながら進めていくことを了承願いたい。 2　予習・復習の内容についても同様である。 3　以下のテキストを使用する。予習・復習に関しては、その回毎に指示する。 ①文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領(平成30年告示）』 ②東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版 ③時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』 4　予習･復習用のノートを用意すること（原則5冊以上の提出を求める）。 【授業概要】学習指導要領の改訂の推移を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 ・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018. 12月号 ・文部科学省「新しい学習指導要領の考え方」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・学習指導要領の改訂の推移について、本時の内容をミニレポートまとめ、期日までに提出すること。 ・文部科学省「新しい学習指導要領の考え方」を印刷してくること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分から90分

	第２回	新学習指導要領－総則を読み解く－① 【key words】 中教審、8つの観点、総則 【授業概要】 ・文部科学省「新しい学習指導要領の考え方」を中央教育審議会が提示した8つの観点から読み解く ・新旧学習指導要領（総則）の対照表から総則を読み解く。 【教科書ページ・参考文献】 ・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018．12月号 ・文部科学省「新しい学習指導要領の考え方」・新旧対照表 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の内容をミニレポートまとめ、期日までに提出すること。 ・配布プリントを確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分から90分
	第３回	小学校学習指導要領－改訂のポイント 【key words】 学習指導要領前文、小学校の教育課程の編成 【授業概要】 ・小学校学習指導要領の総則を丁寧に読み解き、新学習指導要領の改訂部分を学習する。 ・新旧学習指導要領（総則）の対照表から改訂のポイントを掴む。 【教科書ページ・参考文献】 ・文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年3月告示） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の内容をミニレポートまとめ、期日までに提出すること。 ・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版「学習指導要領」 【予習復習に必要な想定時間】 60分から90分
	第４回	中学校学習指導要領－改訂のポイント 【key words】 学習指導要領前文、中学校の教育課程の編成 【授業概要】 ・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・中学校学習指導要領の総則を丁寧に読み解き、新学習指導要領の改訂部分を学習する。 ・新旧学習指導要領（総則）の対照表から改訂のポイントを掴む。 【教科書ページ・参考文献】 ・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版「学習指導要領」 ・本時の内容をミニレポートまとめ、期日までに提出すること。・配布プリントを確認しておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の内容をミニレポートまとめ、期日までに提出すること。 ・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版「学習指導要領」 【予習復習に必要な想定時間】 60分から90分
	第５回	高等学校学習指導要領－改定のポイント－ 【key words】 学習指導要領前文、高等学校の教育課程の編成 【授業概要】 ・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・高等学校学習指導要領の総則を丁寧に読み解き、新学習指導要領の改訂部分を学習する。 ・新旧学習指導要領（総則）の対照表から改訂のポイントを掴む。 【教科書ページ・参考文献】 ・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版 ・時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の内容をミニレポートまとめ、期日までに提出すること。 ・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版「教育法規」を予習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分から90分
	第６回	教育法規　①　教育基本法－教育の目的・理念－ 【key words】 法規の概要、教育権･学習権、教育基本法 【授業概要】 ・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・教育法規-法規の概要を学ぶ-。 【教科書ページ・参考文献】 ・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版　「教育法規」 ・時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の内容をミニレポートまとめ、期日までに提出すること。
・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版「教育法規」を予習しておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
60分から90分

第７回　教育法規　②　地方教育行政法、地方公務員法
【key words】
教育委員会、教職員の義務
【授業概要】
・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。
・地方教育行政法、地方公務員法とは何かを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版「教育法規」
・時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版、時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分から90分

第８回　教育法規　③　学校教育法
【key words】
教職員に関する法規、就学
【授業概要】
・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。
・教職員に関する法規とは何か、学校教育法について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版「教育法規」
・時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版、時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分から90分

第９回　教育法規　④　学校保健安全法
【key words】
学校保健、学校安全
【授業概要】
・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。
・学校保健、学校安全について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版「教育法規」
・時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版、時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分から90分

第１０回　教育法規　⑤　学校の目的･目標
【key words】
小中高特支、教育課程
【授業概要】
・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。
・小中高特支の目的･目標を確認する。
【教科書ページ・参考文献】
・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版「教育法規」
・時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版、時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分から90分

第１１回　生徒指導の意義･課題
【key words】
生徒理解、教育相談
【授業概要】
・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。
・生徒理解、教育相談の在り方について学ぶ。

	【教科書ページ・参考文献】 ・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版「生徒指導･安全指導」 ・時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版、時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分から90分
	第１２回　進路指導、安全指導のあり方 【key words】 職業理解、自己理解、安全管理 【授業概要】 ・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・進路指導、安全指導のあり方について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版「生徒指導･安全指導」 ・時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版、時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分から90分
	第１３回　西洋教育史 【key words】 教育思想の流れ、主要人物･著作概要 【授業概要】 ・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・西洋史について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版「西洋教育史」 ・時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版、時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分から90分
	第１４回　日本教育史 【key words】 時代毎の教育、人物史 【授業概要】 ・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・日本教育史について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版「日本教育史」 ・時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版、時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分から90分
	第１５回　教育課程と教授･学習 【key words】 カリキュラム、学習の分類 【授業概要】 ・授業開始30分から40分程度、教員採用試験対策として、東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版から確認テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・教育課程とは何か、について確認する。 【教科書ページ・参考文献】 ・東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版「教育課程と教授･学習」 ・時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・ノートのの提出（原則5冊以上）の準備をしておくこと。・春休みの学習計画を立てておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分から90分
受講生に関わる情報および受講のルール	１　本講義は教育実習と同様に位置づけられており、遅刻・欠席は事前に必ず届け出ること。欠席や遅刻の多い学生や 受講態度の悪い学生は、本実習の単位認定取り消しも有り得るため、熱心な受講態度を求める。 ２　教員採用試験の合格を目指し、熱心に取り組むこと。

	３　予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。 ４　授業中に課したミニレポート・シャトルカードを必ず提出すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード、ミニレポート
授業外時間にかかわる情報	１　授業の要約もしくは課題をミニミニレポートにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニミニレポートをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること(評価にかかわる）。 ２　各自、ノートを用意し、授業中に行った問題を再度行い、重要事項をまとめて指定した日時までに提出すること。
オフィスアワー	水曜日　16時～18時　それ以外の時間帯については、要相談・要予約
評価方法	授業中に課したミニミニレポートの内容（30%)、授業中に実施した試験(20%)、予習復習を含めた自主学習 ノート（50%)を総合して評価する。
教科書	１　文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領(平成30年告示）』 ２　東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2022年度版 ３　時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』
参考書	東京ｱｶﾃﾞﾐｰ　『教員採用試験』（各教科）シリーズ、各自治体が出版している過去問題等
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 中学校教諭として勤務経験をもつ教員が、教員採用試験合格に向けて、教職教養を中心に指導･支援をおこなう。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 総合演習Ⅰ　　授業コード：S9021　S9022　S9023　S9024　S9025　S9026　S9027

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	必修
担当教員			
富澤　一央・鈴木　秀夫・橋本　広信・関本　仁・塚越　亜希子・時田　詠子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 本学の建学の精神に基づき、基礎演習で身につけた基礎学力や問題解決能力等を基として、高度な専門知識と豊かな人間性及び人間愛並びに奉仕の精神を備え、自立心と礼儀を重んじた世の中で役に立つ心豊かな学生を育成する。プレゼンテーション能力の向上を目指し、総合的な学士力を養成する。また、総合演習における集大成である課題研究・制作に向けて、リテラシー力を身につけ、テーマの設定や資料収集等を積極的におこなう。 【到達目標】 ①礼儀・挨拶、環境美化活動に自主的に取り組み、さらに就職模擬試験等を通じて、進路を明確化し、具体化させる。 ②総合演習の集大成である課題研究・制作についてグループまたは個人でテーマを設定し　資料収集等を積極的におこなう。 ③昌賢祭での総合的な活動を通じて、地域との深まりについて考え・実践し、社会生活における自立的実践能力を身につける。
授業の概要	授業を①建学の精神と実践教育、②心身の健康、③地域貢献、④学習統合　⑤進路･資格取得の５つのプログラムから構成し、建学の理念や教育方針にそって、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法といった自立的実践能力を育成するとともに、身だしなみ等の生活指導、学習指導及び進路指導ならびに学生生活全般に係わる個別相談などの指導･助言をおこなう。さらに、総合的な学士力を養成することにより進路を明確にし具現化させる。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	△
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	建学の精神と実践教育プログラム①　前期オリエンテーション　学長訓話　学部長講話　総合演習Ⅰの内容説明 【key words】 学長等の訓話・講話、年間計画 【授業概要】 ①　学長の訓話、学部長の講話を聞き、年度初めを意欲的にスタートする。 ②　総合演習Ⅰの３０コマの計画、学習内容の概要、評価方法、予習・復習、準備・課題等について知る。 【教科書ページ・参考文献】 ○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版 ○　授業担当者の準備した資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【復】2021年度の授業計画を確認し、手帳等に記録する。制服着用・提出物に留意する。 【準】第４回は、雑巾縫いをするので、必要物品の準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第２回	心身の健康プログラム①　心身の充実について（１）　親睦スポーツ大会にむけて 【key words】 親睦スポーツ大会、安全面での配慮 【授業概要】

①　体育イベント委員が中心となり、各種目の準備・後片付けを行う。
②　教員が準備運動を指導し、安全面での諸注意を行う。
③　チーム内で作戦を考え、優勝目指し、練習に励む。
※親睦スポーツ大会が中止の場合は、別のプログラムを計画する。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】親睦スポーツ大会のルール等を理解し、会場までの安全な行き方を確認する。
【準】体育イベント委員は、担当の仕事について理解し実行できるようにしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第３回　心身の健康プログラム②　心身の充実について（2）　親睦スポーツ大会にむけて
【key words】
親睦スポーツ大会、安全面での配慮
【授業概要】
①　体育イベント委員が中心となり、各種目の準備・後片付けを行う。
②　教員が準備運動を指導し、安全面での諸注意を行う。
③　チーム内で作戦を考え、優勝目指し、練習に励む。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】親睦スポーツ大会のルール等を理解し、会場までの安全な行き方を確認する。
【準】体育イベント委員は、担当の仕事について理解し実行できるようにしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第４回　建学の精神と実践教育プログラム②　生活を科学する（雑巾の制作をとおした日常生活の科学）
心身の健康プログラム②　心身の充実について（２）　親睦スポーツ大会
【key words】
雑巾の制作、親睦スポーツ大会の省察

【授業概要】
①　親睦スポーツ大会の振り返りを体育・イベント委員の司会の下、行う。
②　ミシン縫いと手縫いの違いについて、理解する。
③　実際に雑巾を縫う。特に針や糸、はさみの準備・後始末についてきちんと行い、安全に作業ができるよう配慮する。
④　雑巾縫い完成について時間差がでるので、早く完成した者は、自習を行う。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【準】雑巾縫いをするので、必要物品の準備をしておく。
【復】雑巾縫いが終わっていない者は指示された日時までに提仕上げ、提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第５回　進路・資格取得プログラム①　「就職・適性試験」
【key words】
就職・適性試験
【授業概要】
①　PS-U総合適性試験を受ける。
②　試験終了後、回答が配布されるので時間があれば自己採点する。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】自己の進路についてイメージしておく。
【復】受験後、復習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第６回　学習統合プログラム①　国語の力をつける（国語の基礎基本：感じのいい話し方・聞き方）
【key words】
話し方・聞き方
【授業概要】
①　国語の４領域：話す・聞く・読む・書くの基礎基本である感じのいい話し方・聞き方について知る。
②　理論だけでなく、グループワークを行い、各自話し手・聞き手を体感しながら、感じのいい話し方・聞き方について考える。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】「知のナヴィゲーター」105～109頁を熟読し、授業に臨む。
【復】自己の話し方・聞き方について省察をする。また、就職面接課題を友達と練習しあう。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第７回　学習統合プログラム②　国語の力をつける（文章の書き方の基礎基本：１ランク上の小論文を目指す）
【key words】
小論文の書き方
【授業概要】
①　正しい漢字・主述のねじれ・句読点の打ち方・三部構成等について確認する。
②　実際の小論文をみて、良さを学ぶ。また、推敲の仕方を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【復】指示されたテーマで小論文を書く。
【予習復習に必要な想定時間】
90～120分

第８回　学習統合プログラム③　国語の力をつける（小論文を書くこと、相互評価）
【key words】
小論文の相互評価
【授業概要】
①　班内で、小論文を読みあい、感想を言う。
②　推敲し、仕上げる。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】小論文を仕上げ、授業に臨む。
【復】小論文をさらに推敲し仕上げ、期日までに担任に提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
90～120分

第９回　学習統合プログラム④　課題研究にむけて～リーディング～
【key words】
リーディング
【授業概要】
①　大学で触れる様々な文章について知る。
②　文章の構成、全体像を知る。
③　目的に合った読み方を知る。（通読、精読、速読等）
④　要約、クリティカル・リーディングについて知る。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】「知のナヴィゲーター」の第３章「リーディング」を読み、授業に臨む。
【復】本・雑誌・新聞等読書の時間を生活の中に設ける。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１０回　学習統合プログラム⑤　課題研究・制作にむけて～課題研究・制作とは～
【key words】
課題研究・制作、テーマ設定
【授業概要】
①　課題研究・制作の意義、４年次までの流れを知る。
②　研究テーマの決め方について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課】研究テーマについて、自己決定しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１１回　学習統合プログラム⑥　課題研究・制作にむけて～研究テーマの決め方～
【key words】
課題研究・制作、研究テーマ
【授業概要】
①　興味のあるテーマに基づき、メンバーのグループ編制（または個人）を行う。
②　研究テーマをあげ、1）研究の背景（問題の所在）、2）RQ（研究目的）を、
　Ａ４判１枚にまとめる。（前期成果物の１つとなる）
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課】前期成果物を仕上げ、指示された日時までに提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１２回　地域貢献プログラム①　外部講師
【key words】
障害をお持ちの方の講話
【授業概要】
①　障害をお持ちの外部講師（伊勢崎市議）をお迎えし、講話を聞く。
②　グループワークを行い、社会福祉を学ぶ者として、どのような支援ができるか、
　考える。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【復】将来の志望職種として、障害を持った人にどのような支援ができるか、まとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１３回　心身の健康プログラム③　心身の充実について（3）クラスの絆づくり
【key words】

クラスの絆
【授業概要】
①　クラスの絆を深める活動を考え、クラス毎に考え、実践する。
②　例として、
1)「私の宝物」と称し、自分が大切にしている物を提示し説明、実演。
2) 学生が考えたミニゲーム
3)「将来の夢」を発表しあう。などが考えられる。
意外な一面を知り、クラスメートを一層理解し、絆が深まる。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】クラスの絆を深めるプログラムを事前にリーダーや担任に伝える。

【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１４回　地域貢献プログラム②　昌賢祭での研究発表の内容決め
【key words】
昌賢祭での研究発表内容決定

【授業概要】
①　昌賢祭委員を中心に、クラスでの研究発表のテーマ・内容を決める。
②　夏休みにできること、後期のおおよその計画を決める。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】昌賢祭での研究発表の内容を考え、授業に臨む。
【復】昌賢祭での研究発表で、夏休みできることを計画し、実践する。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第１５回　建学の精神と実践教育プログラム③　前期の総括、夏休み中の目標
【key words】
前期総括、授業アンケート
【授業概要】
①　前期総括を演習ファイルにまとめる。
②　授業アンケートを行い、学生の視点から本授業を評価する。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【復】前期の本授業に関する本ファイルを整理し、期日までに提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１６回　建学の精神と実践教育プログラム④　後期オリエンテーション　学長訓話　学部長講話　学年担任講話　連絡事項
【key words】
学長等の訓話・講話、後期計画
【授業概要】
① 学長の訓話、学部長の講話を聞き、後期を意欲的にスタートする。
② 総合演習Ｉ後期の１５コマの計画を知り、学習内容の概要、評価方法、予習・復習について知る。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【復】2021年度の授業計画を確認し、手帳等に記録する。制服着用・提出物に留意する。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１７回　進路資格取得プログラム②　　就職常識試験
【key words】
就職常識試験
【授業概要】
①　就職常識試験を受ける。
②　試験後、回答が配布されるので、時間があれば答え合わせをする。

【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【復】受験後、回答が配布されるので、採点・間違い直し、復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１８回　進路・資格プログラム③　外部講師　就職に関する講演
【key words】
就職、ハローワーク
【授業概要】
①　ハローワーク前橋所長の就職に関する講話を聞く。
②　講話の要点を記録し、自己の就職適性について、考える。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予】自己の職業適性について考え、授業に臨む。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１９回　地域貢献プログラム③　　昌賢祭研究発表にむけて（計画）
【key words】
昌賢祭研究発表

【授業概要】
①　昌賢祭研究発表具体物の作成計画を立てる。
②　昌賢祭研究発表について、具体物を作成する。

【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課】昌賢祭研究発表具体物の作成計画を踏まえ、遅れのないように作成する。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２０回　地域貢献プログラム④　　昌賢祭研究発表にむけて（発表資料・材料の準備と討議）
【key words】
昌賢祭研究発表
【授業概要】
①　昌賢祭研究発表具体物の作成計画、実際の準備制作等を始める。
②　毎回、振り返りを行い計画票をチェック、一言コメントを書き、担当に提出する。

【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課】昌賢祭研究発表具体物の作成計画を踏まえ、遅れのないように作成する。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２１回　地域貢献プログラム⑤　　昌賢祭研究発表に向けて（発表資料・材料の準備と討議）
【key words】
昌賢祭研究発表
【授業概要】
①　昌賢祭研究発表具体物の作成計画に則り、実際の準備制作等を行う。
②　毎回、振り返りを行い計画票をチェック、一言コメントを書き、担当に提出する。

【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課】昌賢祭研究発表具体物の作成計画を踏まえ、遅れのないように作成する。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２２回　地域貢献プログラム⑥　　昌賢祭研究発表にむけて（発表資料・材料の調整：全体のアウトライン決定）
【key words】
昌賢祭研究発表
【授業概要】
①　昌賢祭研究発表具体物の作成計画に則り、実際の準備制作等を行う。
②　毎回、振り返りを行い計画票をチェック、一言コメントを書き、担当に提出する。

【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課】昌賢祭研究発表具体物の作成計画を踏まえ、遅れのないように作成する。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２３回　地域貢献プログラム⑦　昌賢祭のふり返り（活動に関する自己評価・相互評価・今後の展望と課題・提案）
【key words】
昌賢祭の振り返り
【授業概要】
①　昌賢祭について振り返り、自己評価・相互評価を行う。
②　昌賢祭委員を中心に、振り返りについて口頭で話し合う。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【復】昌賢祭の振り返りについて、整理しファイルに綴じてじておく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２４回　地域貢献プログラム⑧　外部講師
【key words】
障害児施策
【授業概要】
①　前藤岡市長　新井利明氏の講話を聞く。
②　自己の志望職種に生かせる部分を知る。
【教科書ページ・参考文献】

○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【復】就職常識試験での弱点を補強しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２５回　地域貢献プログラム⑨　　外部講師　社会福祉の現状
【key words】
社会福祉の現状
【授業概要】
①　外部講師を招聘し、社会福祉の現状についての講話をいただく。
②　講話の要点を記録し、社会福祉の現状について考える。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課】講話の要点を記録し、期日までに提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２６回　地域貢献プログラム⑩　　外部講師　児童虐待の現状
【key words】
児童虐待の現状
【授業概要】
①　外部講師を招聘し、児童虐待の現状についての講話をいただく。
②　講話の要点を記録し、児童虐待の現状について考える。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課】講話の要点を記録し、期日までに提出する。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２７回　学習統合プログラム⑦　課題研究の振り返り
【key words】
課題研究、グループ研究
【授業概要】
①　前期の課題研究を振り返る。
②　グループ編制を確認し、課題研究の執筆要綱を知る。

【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課】課題研究の執筆要綱に従って、執筆できるところから書いておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２８回　学習統合プログラム⑧　課題研究の研究テーマ
【key words】
課題研究、研究テーマ
【授業概要】
①　先行研究について調べる。
②　先行研究、グループで研究したいことを鑑み、研究テーマを決定する。

【教科書ページ・参考文献】
○　「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課】課題研究の執筆要綱に従って、執筆できるところから書いておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２９回　心身の健康プログラム④　クラス裁量、クラス経営のまとめ
【key words】
クラス裁量
【授業概要】
①　クラスリーダー、サブリーダーを中心に、１年のまとめとしてやりたいことを事前に決める。
②　やりたいことを決め、実践する。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【準】学生になるべく任せ、１年が振り返られ、かつ楽しい時間となるように準備する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第３０回　建学の精神と実践教育プログラム⑤　後期の総括　　総括レポート作成　春期休業中の活動について
【key words】
後期総括、授業アンケート
【授業概要】
①　後期総括を演習ファイルにまとめ、提出する。
②　授業アンケートを行い、学生の視点から本授業を評価する。

	【教科書ページ・参考文献】 ○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版 ○　授業担当者の準備した資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課】１年分の演習ファイルを整理して、期日までに提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
受講生に関わる情報および受講のルール	【受講に係わる情報】 １　総合演習は、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組む。 ２　私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等、本学の学生にふさわしい態度で臨む。 ３　全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席する。 〔受講のルール〕 ・対面授業で配布する資料の予備は保管しないので、欠席者は出席者からコピーをとる。 ・遠隔授業では、事前に授業資料を送信するので、印刷または画面で見られる 　ようにしておく。 ・遠隔授業では、不具合が生じないよう準備する。しかし、遠隔授業中、不具合が生じたら 　チャット等で担当教員に報告する。 ・シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨む。 ・欠席・遅刻・早退は担当教員及び教務課に必ず申し出る。 ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁とする。〔受講生に関する情報〕 ・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行うこと。 ・本授業は、対面または遠隔授業を行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード、Webポータル内のスレッドでのコメント（遠隔授業）
授業外時間にかかわる情報	１　図書や雑誌等の読書をし、論文の基礎力を身に付けておく。 ２　論理的思考力を身につけるには、日々の生活を課題意識を持って送ることが重要となる。 　授業で学んだことを生活の中で実践することが大切である。
オフィスアワー	各担当教員に確認すること。
評価方法	提出物（50%）　演習への取り組み・内容等（50%）を総合して評価する。
教科書	「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
参考書	授業の中で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 社会福祉施設現場、教育現場の実務経験を持つ教員がおり、理論や法律を具体化した指導ができる。また、現場より講師を招き、最新の情報を学生に話してもらうことも可能である。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　介護体験実習指導　　授業コード：S9041

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	選択
担当教員			
大竹　勤			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	※この科目は、高等学校教諭１種免許状「福祉」の取得に必要な科目のうち「教科に関する科目」の「社会福祉総合実習」に該当する科目である。同免許取得を目指す学生のうち、本学カリキュラムにおいて「相談援助実習」、「精神保健福祉援助実習」、「特別支援学校教育実習」のうちいずれか１科目以上の単位を取得した場合はその単位で代替することができるので、その場合は当該科目を履修する必要はない。さらに、この科目は中学校教諭１種免許状並びに小学校教諭１種免許状の取得に必要な「介護等体験」に該当する科目である。同免許取得を目指す学生のうち、本学カリキュラムにおいて「相談援助実習」、「精神保健福祉援助実習」、「特別支援学校教育実習」「保育実習（社会福祉施設での実習に限る）」のうちいずれか１科目以上の単位を取得した場合はその単位で代替することができるので、その場合は当該科目を履修する必要はない。 【授業の目的】 上記の教員免許を目指す学生に必要な社会福祉に関する体験について学び、実践できるようになることを目的とする。 【到達目標】 社会福祉施設等における現場実習などを通して、講義・演習・実習等で学んだ知識と技術を実際に活用し、高齢者や障害者への総合的な介護活動等が実践できるための基礎的な能力を習得し、介護に関する総合的な知識と技術を習得する。
授業の概要	介護体験実習の意義と目的、教員として必要な福祉倫理、実習の対象となる機関・施設の設置目的・業務内容・利用者・職員の役割と援助内容・課題についての調べ学習・発表を中心に授業を進める。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	○
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（シラバス説明、授業方法及び留意事項）、自己紹介カード作成 【key words】 【keywords】 授業の進め方　自己紹介 【授業概要】 【授業概要】 授業計画について説明する　予習・復習について説明する　評価方法について説明する コミュニケーションの第一歩である自己紹介について考察する 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 自己紹介カードを配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 自分を知ってもらうための印象に残る自己紹介を考える 【予習復習に必要な想定時間】 0.5時間
	第２回	障害者の理解、ＤＶＤ視聴（障害者の自立について）

【key words】
【keywords】
障害者の自立　筋ジストロフィー　難病

【授業概要】
【授業概要】
援助支援の対象となるハンディキャップを持った方の自立への意識を映像を通して知る
専門職者としての役割をレポートにまとめる

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
筋ジストロフィーに関する資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
筋ジストロフィーという病気についてあらかじめ調べておく
【予習復習に必要な想定時間】
0.5時間

第３回　対人援助技術の原理原則
【key words】
【keywords】
ソーシャルワーカー　バイスティック

【授業概要】
【授業概要】
場面にあわせた援助の原理原則について学ぶ
バイスティックの７原則について学ぶ

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
バイスティックの７原則に関する資料を配付する

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
バイスティックについて事前に調べておくこと
ソーシャルワーカーとしての原理原則がボランティアや実習の場面でどのように役立つのかを実践の場で確認する

【予習復習に必要な想定時間】
1.0時間

第４回　事前学習の意義・目的・方法の理解（実習先希望調査票の提出）
【key words】
【keywords】
介護体験　福祉施設

【授業概要】
【授業概要】
なぜ実習事前指導が必要かを考える

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
実習先として希望する種別・施設名をあらかじめ考えておく

【予習復習に必要な想定時間】
1.0時間

第５回　実習先機関・施設の理解（高齢者施設）
【key words】
【keywords】
関係法規　介護体験　福祉施設

【授業概要】
【授業概要】
実習先を理解する（高齢者施設）
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
将来、生徒に指導する観点で受講する
【予習復習に必要な想定時間】
1.0時間

第６回　実習先機関・施設の理解（児童福祉施設）
【key words】
【keywords】
関係法規　介護体験　福祉施設

【授業概要】
【授業概要】

		実習先を理解する（児童福祉施設） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 将来、生徒に指導する観点で受講する 【予習復習に必要な想定時間】 1.0時間
	第７回	実習先機関・施設の理解（障害者支援施設） 【key words】 【keywords】 関係法規　介護体験　福祉施設 【授業概要】 【授業概要】 実習先を理解する（障害者支援施設） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 将来、生徒に指導する観点で受講する 【予習復習に必要な想定時間】 1.0時間
	第８回	実習先機関・施設の理解（その他の施設） 【key words】 【keywords】 関係法規　介護体験　福祉施設 【授業概要】 【授業概要】 実習先を理解する（その他施設） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 将来、生徒に指導する観点で受講する 【予習復習に必要な想定時間】 1.0時間
	第９回	事前訪問（事前オリエンテーション）の理解（連絡方法・挨拶・身だしなみ・訪問の目的と確認事項） 【key words】 【keywords】 連絡方法・挨拶・身だしなみ・訪問の目的と確認事項 【授業概要】 【授業概要】 実習先訪問についての具体的指導 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 将来、生徒に指導する観点で受講する 【予習復習に必要な想定時間】 1.0時間
	第１０回	実習開始までの取り組み（まとめ、レポート課題） 【key words】 【keywords】 実習先概要　職員配置 【授業概要】 【授業概要】 実習開始まで準備しておくべきことについて考える 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 将来、生徒に指導する観点で受講する 【予習復習に必要な想定時間】 1.0時間

	第１１回	記録方法の理解（実習記録①） 【key words】 【keywords】 実習記録 【授業概要】 【授業概要】 実習記録の記入方法 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 将来、生徒に指導する観点で受講する 【予習復習に必要な想定時間】
	第１２回	記録方法の理解（実習記録②） 【key words】 【keywords】 実習記録 【授業概要】 【授業概要】 実習記録の記入方法 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 将来、生徒に指導する観点で受講する 【予習復習に必要な想定時間】 1.0時間
	第１３回	コミュニケーションスキルを磨こう 【key words】 【keywords】 コミュニケーションスキル　ア行トーク　サイレントトーク 【授業概要】 【授業概要】 援助のテクニック・スキル・マインドについて、演習及び映像を通して学ぶ 映像を見て、援助場面でどのように役立てられるかレポートにまとめる 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 授業中に行うア行トーク・サイレントトークを復習してみよう 【予習復習に必要な想定時間】 0.5時間
	第１４回	実習生に求められる基本姿勢の理解（職業倫理、権利擁護、プライバシーの保護、守秘義務、礼儀作法、健康管理） 【key words】 【keywords】 職業倫理、権利擁護、プライバシーの保護、守秘義務、礼儀作法、健康管理 【授業概要】 【授業概要】 実習生に求められる基本姿勢について理解する 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料配付する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 【予習復習に必要な想定時間】 0.5時間
	第１５回	実習計画書作成の理解　＊「実習計画書」の完成、＊「実習生紹介票」、「誓約書」 【key words】 【keywords】 実習計画書　実習生紹介票　誓約書 【授業概要】

	【授業概要】 実習先に提出する資料の作成 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 将来、生徒に指導する観点で受講する 【予習復習に必要な想定時間】 2.0時間
受講生に関わる情報および受講のルール	対人援助サービスに携わる者としての視点で授業に参加すること。 演習には積極的に参加すること。授業の流れに反した行動を取る場合には履修しないこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	実習記録の練習、実習計画書の作成、実習生紹介票、誓約書等の作成は授業時間外に各自で行うこととなる。
オフィスアワー	火曜日10時～12時
評価方法	レポート及び実習計画書・実習報告書による評価とする。書類の提出状況、演習への参加状況を加味する。
教科書	教師をめざす人の介護等体験ハンドブック（大修館書店）
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 介護体験実習Ⅰ　　授業コード： S9045

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
-	3年次	1単位(45)	選択
担当教員			
大竹　勤			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	※この科目は、高等学校教諭１種免許状「福祉」の取得に必要な科目のうち「教科に関する科目」の「社会福祉総合実習」に該当する科目である。同免許取得を目指す学生のうち、本学カリキュラムにおいて「相談援助実習」、「精神保健福祉援助実習」、「特別支援学校教育実習」のうちいずれか１科目以上の単位を取得した場合はその単位で代替することができるので、その場合は当該科目を履修する必要はない。さらに、この科目は中学校教諭１種免許状並びに小学校教諭１種免許状の取得に必要な「介護等体験」に該当する科目である。同免許取得を目指す学生のうち、本学カリキュラムにおいて「相談援助実習」、「精神保健福祉援助実習」、「特別支援学校教育実習」「保育実習（社会福祉施設での実習に限る）」のうちいずれか１科目以上の単位を取得した場合はその単位で代替することができるので、その場合は当該科目を履修する必要はない。 【授業の目的】 上記の教員免許を目指す学生に必要な社会福祉に関する体験について学び、実践できるようになることを目的とする。 【到達目標】 社会福祉施設等における現場実習などを通して、講義・演習・実習等で学んだ知識と技術を実際に活用し、高齢者や障害者への総合的な介護活動等が実践できるための基礎的な能力を習得し、介護に関する総合的な知識と技術を習得する。
授業の概要	障害者、高齢者等が豊かで安定した生活を送ることができるために、社会福祉施設等における支援内容、方法について考え、実践的体験を通して、教育従事者に必要な豊かな人間性を養う。社会福祉施設等での介護体験がより良く行えるよう、実習の意義や必要性についての理解を深める。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	○
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

		【予習復習に必要な想定時間】
	第３回	
		【key words】
		【授業概要】
		【教科書ページ・参考文献】
		【課題・予習・復習・授業準備指示】
		【予習復習に必要な想定時間】
	第４回	
		【key words】
		【授業概要】
		【教科書ページ・参考文献】
		【課題・予習・復習・授業準備指示】
		【予習復習に必要な想定時間】
	第５回	
		【key words】
		【授業概要】
		【教科書ページ・参考文献】
		【課題・予習・復習・授業準備指示】
		【予習復習に必要な想定時間】
	第６回	
		【key words】
		【授業概要】
		【教科書ページ・参考文献】
		【課題・予習・復習・授業準備指示】
		【予習復習に必要な想定時間】
	第７回	
		【key words】
		【授業概要】
		【教科書ページ・参考文献】
		【課題・予習・復習・授業準備指示】
		【予習復習に必要な想定時間】
	第８回	
		【key words】
		【授業概要】
		【教科書ページ・参考文献】
		【課題・予習・復習・授業準備指示】
		【予習復習に必要な想定時間】
	第９回	
		【key words】
		【授業概要】
		【教科書ページ・参考文献】
		【課題・予習・復習・授業準備指示】
		【予習復習に必要な想定時間】
	第１０回	
		【key words】
		【授業概要】
		【教科書ページ・参考文献】
		【課題・予習・復習・授業準備指示】
		【予習復習に必要な想定時間】

	第１１回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	対人援助サービスに携わる者としての視点で実習すること。 また、将来、児童・生徒に対して社会福祉についての話ができるような意識を持って実習すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	実習記録の作成、実習報告書の作成
オフィスアワー	火曜日10時～12時
評価方法	社会福祉施設における、障害者・高齢者への基礎的な支援内容、方法が理解できていることを合格基準とし、レポート等により評価する。実習先指導者の評価及び実習記録等を加味する。
教科書	教師をめざす人の介護等体験ハンドブック（大修館書店）
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育

	□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 介護体験実習Ⅱ　　授業コード： S9046

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
-	3年次	1単位(45)	選択
担当教員			
大竹　勤			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	※この科目は、高等学校教諭１種免許状「福祉」の取得に必要な科目のうち「教科に関する科目」の「社会福祉総合実習」に該当する科目である。同免許取得を目指す学生のうち、本学カリキュラムにおいて「相談援助実習」、「精神保健福祉援助実習」、「特別支援学校教育実習」のうちいずれか１科目以上の単位を取得した場合はその単位で代替することができるので、その場合は当該科目を履修する必要はない。 〔授業の目的〕 上記の教員免許を目指す学生に必要な社会福祉に関する体験について学び、実践できるようになることを目的とする。 〔到達目標〕 社会福祉施設等における現場実習などを通して、講義・演習・実習等で学んだ知識と技術を実際に活用し、高齢者や障害者への総合的な介護活動等が実践できるための基礎的な能力を習得し、介護に関する総合的な知識と技術を習得する。
授業の概要	障害者、高齢者等が豊かで安定した生活を送ることができるために、社会福祉施設等における支援内容、方法について考え、実践的体験を通して、教育従事者に必要な豊かな人間性を養う。社会福祉施設等での介護体験がより良く行えるよう、実習の意義や必要性についての理解を深める。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	○
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回 第２回 第３回 第４回 第５回 第６回 第７回 第８回 第９回

	第１０回 第１１回 第１２回 第１３回 第１４回 第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	対人援助サービスに携わる者としての視点で実習すること。 また、将来、児童・生徒に対して社会福祉についての話ができるような意識を持って実習すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	実習記録の作成、実習報告書の作成
オフィスアワー	火曜日10時～12時
評価方法	社会福祉施設における、障害者・高齢者への基礎的な支援内容、方法が理解できていることを合格基準とし、レポート等により評価する。実習先指導者の評価及び実習記録等を加味する。
教科書	教師をめざす人の介護等体験ハンドブック（大修館書店）
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 英会話　　授業コード： S1182

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
ｻﾞｯｸ・ｸﾞﾚｰｽ			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 様々な場面で英語を聞きとりそれに応答する会話や、様々な場面で英語で自分を表現する会話を学ぶことにより会話のスキルを習得する。 [到達目標] 1.基本的な英会話に必要な語彙、文法、語句表現などを場面に応じて聞きとり、それに応答できるようになること。 2.聞き取れない語句や言い回しがある場合は英語で質問できるようになること。 3.習得した語彙、文法、語句表現を用いて、自発的に話せるようになること（応答するだけでなく）。
授業の概要	Listening, Speakingの練習を中心に行う。使い慣れていない語彙や語句、文法は例文を通して練習を行い、次にペアーでそれらを用いて会話できるようにする。それぞれの練習では様々な場面を想定して想像力を豊かにして会話を練習する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回　1. What do you think？ 〔内容〕 ・Do you think..? Yes, I do.　No, I don't. ・Interview a partner 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 goes with Nouns related to clothes 第２回　2. I' ll get him some CDs. 〔内容〕 ・Buying presents ・What do you have? 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 dress up shopping list 第３回　3. Do you mind if　I sit here？ 〔内容〕 ・Practice the conversation in pairs ・Asking permission board game. 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 Do you mind if? Yes, of course. Actually I'd rather you didn't 第４回　4. Review Lesson 〔内容〕 The First Three Lessons 〔Phrases, Vocab., Grammar〕

	第５回　5. What was he doing？ 〔内容〕 ・適当な時制を用いる練習 ・Tell the story from the pictures ・what happened to you? 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 過去形、過去進行形 Vocab related to injuries 第６回　6. What are you going to do？ 〔内容〕 ・Interview partner on their next vacation ・Make a sentence from words in brackets 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 I may go ～, I am going to go ～ Vocab related to occupations 第７回　7. Where should I go if I want to go out？ 〔内容〕 ・Make new conversation using examples ・How will you find your way? 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 Vocab related to tourism what to take / why 第８回　8. Review Lesson 〔内容〕 Games, practice, and exercises 5,6 and 7 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 第９回　9. Complaints 〔内容〕 ・Put the complaints with the picture. ・Customer survey, Describing food ・How do you like your food?(Role Play) 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 I'm afraid / I'm terribly sorry Vocab. Related to food 第１０回　10. The best way to travel辞書を活用 〔内容〕 ・In pairs decide.which hotel to stay in. ・Personal qualities ・Match the adjectives with the phrases 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 比較級. Not quite as cheap/A little more expensive 性格を表す形容詞 第１１回　11. I wish it wasn't raining. 〔内容〕 ・Read the post card and talk about the things he wishes were different. 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 性格を表す形容詞 第１２回　12. What have you been doing？ 〔内容〕 ・Match the person with the activity and how long have they been doing it? ・Pronunciation Practice 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 現在完了進行形 感情を表す形容詞 get up to 第１３回　13. What would you do？ 〔内容〕 ・what would you do in each situation? ・Describe the people using the adjectives 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 人格を表す形容詞 第１４回　14. What have you done？ 〔内容〕 ・Use examples to make new conversations. ・Speaking before and after:What have these people had done. ・Interview partner :Would you ever...? 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 現在完了形 使役動詞 I've had it dyed 第１５回　15. Review Lesson　(8-12) 〔内容〕 Games, exercises and practice. short test on whole syllabus
受講生に関わる情報および受講のルール	講師の説明が理解できない時や、質問がある場合は挙手して発言する。間違いを恐れないで積極的に会話する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ICT利用（WEBフォームやメールなど）・その他（ミニテスト）
授業外時間にかかわ	授業時に指示する。

る情報	
オフィスアワー	授業終了後30分。
評価方法	定期試験50%、授業への参加50%。
教科書	"Get Real 3" New edition　　出版社 Macmillan
参考書	英和辞典・英英辞典
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　人間と宗教　　授業コード：S1241

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
相澤　伸央			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	物質的な豊かさは科学、精神的な豊かさは宗教がそれぞれ主力です。「自分の全てを投げだして初めて共生はある」というのは福祉の源点であり、東洋の宗教に共通する根源でもあります。世界各地の宗教を理解し、特に日本の宗教を深く理解し、共に生きられる人間性を身につけたいものです。
授業の概要	グローバルな現代社会では多種多様な人間と接する機会が多くあります。このような日常の中で、互いに理解しあえる人間関係を作ることが大切です。その根底にある互いの宗教心を理解し、広い視野で共生の道を歩めるようにしたい。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　オリエンテーション　本科目の目的とシラバスの説明等 第２回　宗教の基礎知識①　人間の特徴と弱点 第３回　宗教の基礎知識②　縄文人と現代人の比較　現代日本人の特性 第４回　宗教の基礎知識③　宗教・科学・芸術・哲学の比較　宗教の特性 第５回　世界の宗教①　アジアの環境の中で活動する宗教としての仏教の特性 第６回　世界の宗教②　インド社会の中で成立した仏教と釈迦の生涯の特徴を見る 第７回　世界の宗教③　オリエントの自然環境と社会の中で育まれたユダヤ教を見る 第８回　世界の宗教④　キリスト教の成立と成長 第９回　世界の宗教⑤　イスラム教の成立から現代へ 第１０回　日本の宗教①　空海の生涯を通し、当時の社会と密教の特性を知る 第１１回　日本の宗教②　鎌倉仏教の特性と日本社会への仏教の浸透を見る 第１２回　日本の宗教③　近世から現代の日本宗教　日本の社会の特性・文化と仏教の関わりを見る(1)

	第１３回　　日本の宗教④　近世から現代の日本宗教　日本の社会の特性・文化と仏教の関わりを見る(2) 第１４回　　日本の宗教⑤　宗教(仏教)を経験を通して知る 第１５回　　まとめ　人間として現代社会を力強く生きるための智慧を考える
受講生に関わる情報および受講のルール	○授業資料の再発行はしない。必要な場合、学生間でコピーするなど対応すること。 ○受講にふさわしくない態度（ふざける、礼儀に欠ける）を取る学生には受講を拒否することがある。その場合、その講義は欠席扱いとする。 ○授業に関係のないものの教室への持込みは禁止とする。 ○携帯電話、スマートフォン等は机上に出さない。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	テキストを中心として各時間の予習を行ない、積極的に授業に参加する。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	授業態度（積極的な授業参加）を30%とし、筆記試験（自分の生き方の問題を中心）を70%として評価します。
教科書	特になし（必要に応じてレジュメ、資料等を配布）
参考書	授業ごとに必要に応じて紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　生涯学習概論　　授業コード：S1271

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
篠原　章			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	生涯学習の基本理念と内容を理解し、わが国の歴史的展開と現状や世界の流れを知るとともに、生涯学習における学び方を身に付け、学習者への支援方法を効果的に活かせる力を養う。
授業の概要	生涯学習における日本と世界の基本的考え方や理念、特にユネスコとＯＥＣＤの相違、外国の生涯教育、日本の生涯教育の先駆け、生涯学習の今後の展望を学ぶ。また現在の家庭・学校・社会の諸課題を踏まえ、生涯学習時代に期待される人間像について考察する。 社会人として仕事上必要とする書類作成の要領を公用文を中心に学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画		
	第１回	オリエンテーション 【key words】 生涯学習　生涯教育　豊かな人生　偶発的学習　独力的学習 【授業概要】 科目の位置づけとシラバスの説明。生涯学習とは何か。生涯学習は様々な局面で使われており、使う人の立場によって異なる場合が多い。法律や答申での用法を始め、これをめぐる現実や課題をさまざまな側面から説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：Ｐ１～４ 参考文献：三輪健二著「生涯学習の理論と実践」放送大学出版会、香川正弘他編「よくわかる生涯学習」ミネルヴァ書房 【課題・予習・復習・授業準備指示】 生涯学習に対する考え方を整理しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	国際社会の議論　21世紀教育はケルン宣言によって方向づけられ、生涯学習による知識と技術と資格の重要性を解説する。 【key words】 ケルン憲章　教育大臣会議　知識　技術　資格 【授業概要】 21世紀の教育の世界の流れは、先進国首脳会議でのケルン宣言・生涯学習の目的と希望によって方向づけられたと言われている。そのなかで知識と技術と資格が重要であり、すべての人々の流動性へのパスポートは教育と生涯学習であることを説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書： 参考文献：文部科学省ホームページ・ケルン宣言と世界教育大臣会議 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ケルン憲章・教育大臣会議の内容を確認すること。 【予習復習に必要な想定時間】
	第３回	日本での議論・政策　教育基本法は生涯学習の理念を導入、だれでも、いつでも、どこでも学習でき、どう評価するかを考える。 【key words】 誰でも　どこでも　いつでも　ワークライフバランス

【授業概要】
教育基本法の改正で生涯学習の理念を導入。これを踏まえて、国、文部科学省の政策・方針を学び、どこでも、いつでも学習でき、それをどのように評価するかをを説明。ワークライフバランスや遠隔教育の重要性を知る。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：P9～14
参考文献：「生涯学習政策研究」文部科学省生涯学習政策局
【課題・予習・復習・授業準備指示】
世界大学学長シンポジウム（さいたま）での文部科学省生涯学習政策局長の講演を確認すること。
【予習復習に必要な想定時間】

第４回　生涯学習の理念と理論１　古代ギリシャの思想、公教育の父コンドルセの公教育理念、私学教育を概観する。
【key words】
公教育　知識を育てる
【授業概要】
ソクラテス、プラトン、ソクラテスの思想を考える。
コンドルセの公教育の理念とその後を説明し、わが国おける私学教育と生涯学習の考えを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：P5～6
参考文献：荻野弘之著「哲学の饗宴」ＮＨＫライブラリー、コンドルセ著「人間精神進歩史第1部」「人間精神進歩史第２部」岩波文庫

【課題・予習・復習・授業準備指示】
家庭教師的学習　コンドルセ、天野貞祐氏の考え方を知ること。
【予習復習に必要な想定時間】

第５回　生涯学習の理念と理論２　ユネスコとOECDの流れを知り、最近話題のPISAの問題点を考える。
【key words】
ペタゴジー　アンドラゴジー　自己決定性　生きることを学ぶ　ＰＩＳＡ
【授業概要】
ユネスコとＯＥＣＤの教育・学習の流れと相違を知り、基本的なそれぞれの考え方を学ぶ。
最近、3年ごとに行われ話題となっているＰＩＳＡによる学習調査の問題点と将来を考える。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：P20から22
参考文献：ポール・ラングラン著「生涯教育入門」全日本教育連合会、マルカム・ノールズ著「成人教育の現代的実践」鳳出版

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ユネスコとＯＥＣＤの基本的な考え方を整理
ＰＩＳＡの日本の推移をどこに問題点があるかを知る。

【予習復習に必要な想定時間】

第６回　生涯学習の内容と形態　民間組織の台頭と情報社会の進展を取り上げ、生涯学習への影響を検討する。
【key words】
役に立つ学習　楽しむ学習　学習の基礎となる学習　個人・集団・集合学習　ワークショップ
【授業概要】
生涯学習の実態を実態を内容と形態という側面から説明
生涯学習を支える学校開放に着目しその動向を紹介する。
最近の民間組織の台頭と情報社会の進展を取り上げ、生涯学習にどのような影響するかを検討する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：P37から40
参考文献：藤岡英雄「学習関心と行動」学文社、山本思外里「大人の学校」中央公論社、廣瀬隆人「生涯学習支援のための参加型学習のすすめ方」ぎょうせい

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分の地域の学校がどのような開放をしているか調べること。
【予習復習に必要な想定時間】

第７回　学校教育と生涯学習　現在の学校は生涯学習の場であり、そのような役割を期待されているかを考える。
【key words】
リカレント教育　生きる力　奉仕・体験活動　学社連携　コミュニティールーム
【授業概要】
学校教育にかかわる人々にとって、現在の学校とは、どのような生涯学習の場であり、またどのような役割を期待されているかを説明
初等・中等教育を検討する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：P49～64
参考文献：浦野東洋一「学校改革に挑む」つなん書房、教師養成研究会編著「教育原理八訂版」学芸図書

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自己の学校観がどのようなものか整理して授業に臨むこと。
【予習復習に必要な想定時間】

第８回　外国の生涯学習１　ドイツの生涯学習の学習プログラム、統一後の問題点や北欧の生涯学習事情を概説する。
【key words】
宿泊型学習プログラム　コンブックス　学習サークル
【授業概要】

		ドイツの生涯学習の特徴はフォルクスホッホシューレという公の施設を中心に幅広い学習プログラムが提供されている点である。この点を説明するとともに、統一後のドイツ社会が抱える問題を考える。 豊かな生活水準や充実した福祉国家政策で知られているスウェーデンとデンマークの生涯学習事情を説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書： 参考文献：三島憲一「現代ドイツ」岩波新書、野崎俊一「スウェーデンの生涯学習支援」『生涯学習e辞典』日本生涯教育学会 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ドイツ、スウェーデンとデンマークの学校教育制度と福祉の関係を整理しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】
	第９回	外国の生涯学習２　オランダの個別教育、アメリカで発達したサービスラーニングや地域コミュニティーを概説する。 【key words】 ワールドオリエンテーション　シティズンシップ　サービスラーニング 【授業概要】 テーマ型の教育が取り入られているのオランダの教育、アメリカで発達したサービスラーニングや地域コミュニティーのこと、世界最大規模と言われるスミソニアン美術館を説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書： 参考文献：リヒテルズ直子「オランダの個別教育はなぜ成功したのか」平凡社、嶺井明子「シティズンシップ教育」東信堂、藤村好美「地域を変えるサービスラーニング」東洋館 【課題・予習・復習・授業準備指示】 オランダ、アメリカの教育事情、スミソニアン博物館について調べること。 【予習復習に必要な想定時間】
	第１０回	生涯学習の先駆け１　生涯勉強に励むことは古今東西を問わず語られてきた。セネカや世阿弥佐藤一斎を概説する。 【key words】 初心　修身　学は一生の大事 【授業概要】 生涯を通して勉学に励むことの重要性は古今東西を問わず語られてきた（セネカ、スマイルズ、大学　世阿弥　佐藤一斎）が、その語られ方は多様である。学び続けることの意義はどのように説かれてきたのかを考える。 【教科書ページ・参考文献】 参考文献：諸橋轍次著「古典の叡智」講談社学術文庫、野上豊一郎・西尾実「風姿花伝」岩波　文庫宇野哲人「大学」講談社学術文庫、川上正光「言志四録」講談社学術文庫 【課題・予習・復習・授業準備指示】 大学　風姿花伝　言志四録の一つ読むこと。 【予習復習に必要な想定時間】
	第１１回	生涯学習の先駆け２　理想的人間像のあり方を示した中江藤樹の生き方、生活倫理実践者の石田梅岩の石門心学を概説する。 【key words】 致良知　　五事を正す　職分　心学 【授業概要】 学問に専念することを人格完成への道筋と捉え、理想的人間像のあり方を示した中江藤樹の生きたかを説明 生活倫理の生涯学習実践者の石田梅岩の石門心学を説明 【教科書ページ・参考文献】 参考文献：山住正巳著「中江藤樹」朝日新聞、古川治著「中江藤樹」明徳出版　今井淳・山本真功編「石門心学の思想」ぺりかん社、柴田実著「石田梅岩」吉川弘文館 【課題・予習・復習・授業準備指示】 中江藤樹、石田梅岩の時代背景を事前に調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】
	第１２回	社会教育制度　生涯学習を推進するうえで重要な役割を担うことが期待されている社会教育の制度について概観する。 【key words】 公的社会教育生涯学習センター 【授業概要】 生涯学習を推進・進行するうえで重要な役割を担うことが期待されている社会教育の制度について概観する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：P65～86 参考文献：田中雅文「現代生涯学習の展望」学文社、今西幸蔵・村井茂編「現代における社会教育の課題」八千代出版 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会教育を担う人々の役割を考えること。 【予習復習に必要な想定時間】
	第１３回	生涯学習支援の動向と課題　個人、団体、施設、機関などが、ネットワークを構築し連携・協力する課題について考える。 【key words】 ネットワーク型行政　NPM　学ぶ意欲　知の循環型社会 【授業概要】 生涯学習支援においては、学習支援に係わるあらゆる人々、団体、施設、機関などが、ネットワークを構築し、連携・協力することが重要であるといわれている。これらの生涯学習支援の動向と課題について取り上げエ考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：P87～97

	参考文献：伊藤俊夫編「生涯学習の支援」実務教育出版、白石克己・廣瀬編隆人編「生涯学習の新しいステージを拓く１」ぎょうせい 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分自身が主体となり学習支援を考える。 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回　まちづくりと生涯学習　自治体が旗振り役のまちづくりと住民主体のまつづくりで、「学び」がどのように関連しているか考える。 【key words】 生涯学習宣言市町村　まちおこし　地域文化 【授業概要】 自治体が旗振り役を務めるまちづくりと住民が主体となって草の根的に展開するまちづくりに分類したうえで、それぞれの街づくりに人々の「学び」がどのように関連しているか考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：P99～110 参考文献：田村明「まちづくりの実践」岩波書店、柴田彩千子「市民主体のまちづくり活動の成立」日本女子大学大学院人間社会研究科紀要第10号 【課題・予習・復習・授業準備指示】 住民自らの生涯学習学習成果をまちづくりにいかにして反映しているかを考える。 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　グローバリゼーションと生涯学習　ダカール行動枠組みなどを初めとする世界の動きを概観し、私たちの生活への影響を考える。 【key words】 ダカール行動枠組み　ESD　自分自身との闘い 【授業概要】 生涯学習の領域でもグローバリゼーションに関する議論が活発に行われるようになった。国境にとらわれない世界が一つであるという感覚と、それに起因する諸問題が私たちの生活に影響を及ぼしている。ダカール行動枠組みなどを始めとする世界の動きを説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：P111～121 参考文献：ロランド・ロバートソン「グローバリゼーション」東京あ大学出版会、アンソニー・ギデンズ「モダニティとアイデンテティ」ハーベスト社　斉藤純一「公共性」岩波書店 【課題・予習・復習・授業準備指示】 経済・文化的グローバリゼーションの生み出す諸問題を解決するにはどのようにすればよいかを考えること。 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	板書・口述内容は、定期試験に重要なので整理すること。 レポートは必ず提出すること。 ５回を超えて欠席すると定期試験の受験資格を失う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	予習に重点を置き学習すること。「学び方を学ぶ」ということ意識して学習すること。
オフィスアワー	講師室で授業後30分
評価方法	レポート等で総合的に評価する。
教科書	「　テキスト生涯学習　　新訂版　」　学文社
参考書	講義の中で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： ボランティア活動Ⅳ　　授業コード： S2021

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	1単位(30)	選択
担当教員			
足立　勤一・ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ委員会			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	ボランティア活動Ⅳの到達目標は、施設関係団体等への就職後の任務（活動）を想定した実践力を高める。この目標達成に求められるボランティアリーダーシップやコーディネート力を身に付けることことでである。他人を「動かす」リーダーシップと依頼先（施設等）と学生を結びつけるコーディネート力は、人間形成にも通じる。
授業の概要	これまでのボランティア活動で身に付けた能力を、更に向上させる。その為には、他人を動かすリーダーシップと依頼先と学生を結びつけるコーディネート力を身に付けるためのプログラムである。正に、本学の建学の精神である「仁」の精神を具体的活動から理解し身に付けることである。「他人にやさしい」とは、弱者や高齢者への支援又は災害ボランティア支援などを視野に入れた活動の実践である。実践を通して、建学の精神を身に付けるプログラムである。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション：学生ボランティア活動に求められているのは何か？①学生ボランティア活動史（災害支援・弱者支援） 【key words】 講義の受け方・基本はグループワーク 【授業概要】 これまでのボランティア活動を基に、更に自己啓発に基づくボランティア活動とは何かを求める。 【教科書ページ・参考文献】 『わかる　みつかる　できる』　財団法人内外学生センター、他必要なテキストを紹介する。 【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】 3年間体験したボランティア活動を基に、主体的にボランティア活動ができるよう準備する。
	第２回	地域社会が求めているボランティア活動とは？①本学ボランティアセンターの任務と活動を支援する方策とは？ 【key words】 ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会 【授業概要】 地域連携センター（ボランティア部門）や社会福祉協議会ボランティアセンターの役割について調べる。 求めるボランティア活動を計画立案し出来る事から活動を開始する。 【教科書ページ・参考文献】 P14～　ボランティアグループのつくり方 【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】 これまでのボランティア体験の上で、地域の求めるボランティア活動とは何か？を関係諸団体等を訪問 し、調査する。
	第３回	発表１．各自（グループ）の考える地域社会における福祉向上を目指したボランティア活動とは何か？（身近から考える。） 【key words】 ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会

【授業概要】
第1回活動準備会。依頼されたボランティア活動の内容や希望人数等を把握し、協力者を募る。
希望者等の人数や活動目的を精査し、依頼先と連携し、具体的なボランティア活動計画を実行する。
グループ内の人間関係に注意し、依頼側とも連絡を密にして、楽しく活動できるように努める。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ６１～　「ボランティア活動をはじめる」
【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】
地域連携センター（ボランティア部門）と協力し、担当するボランティア活動の協力者を集め、勉強会を開　催する。

第４回　発表２．これまでの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後、批判的精神でディベートを行う。
【key words】
ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会
【授業概要】
第２回活動報告会。これまでの活動を、目的や目標設定を含めて活動報告書を作成し発表する。
その後、質疑応答する。（ディベートを行い、次の活動計画や実施に生かす。）
グループ内の人間関係に注意し、参加メンバーの希望に沿う役割分担し、楽しく活動できるように努める。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ６４～「快適！ボランティア術」
【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】
約束事を確認し守る。学ぶ姿勢から活動を始める。活動先が目指す夢や願いや目標を理解する。

第５回　発表３．今回までの実践活動を報告書にて発表を行う。その後、批判的精神でディベートを行う。
【key words】
ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会
【授業概要】
第３回活動報告会。これまでの活動を発表する。他の活動グループの発表についてディベートする。
批判的精神でディベートを行うことによって、次の活動計画や実施に生かす。
参加メンバーの希望に沿う役割分担し、楽しく活動ができるように努める。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ６５～　「報連相の法則を忘れずに・エマージェンシー（危機回避・危機対応）への心構えを忘れずに」
【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】
ボランティア活動は参加する者皆で協力すること。コミュニケーションが大切。

第６回　発表４．今回までの実践活動を報告書にて発表を行う。その後、批判的精神でディベートを行う。
【key words】
ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会
【授業概要】
第４回活動報告会。これまでの活動を発表する。他の活動グループの発表についてディベートする。
批判的精神でディベートを行うことによって、次の活動計画や実施に生かす。
参加メンバーの希望に沿う役割分担し、更に賛同者を募る。楽しく活動ができるように努める。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ６７～　「人間の連帯の普遍的な表現としてのボランティア活動」
【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】
人類の歴史に誕生した新しい“草の芽”。ボランティア活動は世界の普遍的な“文化”になった。

第７回　前期の活動のまとめ。中間発表会実施及び活動に関するディベートを行う。夏季休暇中の活動計画書の提出。
【key words】
ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会
【授業概要】
前期の活動を総括して発表する。他の活動グループの発表についてディベートする。
批判的精神でディベートを行い、活動を見直し、夏季休暇中の活動計画案を作成し提出する。
参加メンバーの希望に沿う役割分担し、更に賛同者を募る。協働して活動ができるように努める。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ６９～　「成熟した市民社会を築く」
地域社会から求められていることを探求し、一緒に活動することが求められている。
【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】
報道に関心を寄せ、社会の変革に気づくことが大切。社協との連携や地域の自治体との連携を模索する。

第８回　発表５．夏季休業中の活動報告書会実施。その後、批判的精神でディベートを行う。。後期の活動計画書提出。
【key words】
ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会
【授業概要】
第５回活動報告会。夏季休暇中の活動を総括して発表する。他の活動グループの発表についてディベート
する。批判的精神でディベートすることによって、活動を見直し、後期の活動計画を作成し提出する。
参加メンバーを募り、協働して目的・目標達成するための活動ができるように努める。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ７４～　「私学教育（学習）とボランティア活動」
【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】

本学の「環境美化活動」の精神を忘れずに！環境づくりもボランティア。

第９回　発表６．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後、批判的精神でディベートを行う。

【key words】
ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会

【授業概要】
第6回活動報告会。これ迄の実践活動をまとめ発表する。他のグループの発表についてディベートする。
批判的精神でディベートを行い、活動を見直し、今後の活動計画に生かす。
参加メンバーを募り、協働して目的・目標達成するための活動ができるようPRに努める。

【教科書ページ・参考文献】
Ｐ７７～　「情報源を知りたい」～ボランティア情報ファイルの作成～

【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】
地域福祉向上の観点から、視野を日本全国に広げ、報道関係を注視し、社協や他のグループがどのような
活動をしているか調べる。その１。（インターネットの活用）

第１０回　発表７．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後、批判的精神でディベートを行う。

【key words】
ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会

【授業概要】
第７回活動報告会。これ迄の実践活動をまとめ発表する。他のグループの発表についてディベートする。
常に批判的精神でディベートを行い、活動を見直し、今後の活動計画を作成し提出する。
依頼者と連携し、参加者が協働して、目的・目標達成するための活動ができるよう他の学生にPRする。

【教科書ページ・参考文献】
Ｐ８５～　「ボランティア活動推進団体一覧」

【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】
地域福祉向上の観点から、視野を日本全国に広げ、報道関係を注視し、社協や他のグループがどのような
活動をしているか調べる。その２。（インターネットの活用）

第１１回　発表８．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後、批判的精神でディベートを行う。

【key words】
ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会

【授業概要】
第８回活動報告会。これ迄の実践活動をまとめ発表する。他のグループの発表についてディベートする。
常に批判的精神でディベートを行い、活動を見直し、今後の活動計画を作成し提出する。
依頼者と連携し、参加者が協働して、目的・目標達成するための活動ができるようPRする。

【教科書ページ・参考文献】
Ｐ８７～　「ボランティア関連書籍・資料一覧」

【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】
地域福祉向上の観点から、視野を日本全国に広げ、どんな団体やグループがどのような活動をしているか
大学生の活動を中心に調べる。その３。（インターネットの活用）

第１２回　発表９．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後、批判的精神でディベートを行う。

【key words】
ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会

【授業概要】
第９回活動報告会。これ迄の実践活動をまとめ発表する。他のグループの発表についてディベートする。
常に批判的精神でディベートを行い、活動を見直し、今後の活動計画を作成し提出する。
参加者が協働して、目的・目標達成する喜びを共有できる活動ができるようにする。

【教科書ページ・参考文献】
本学の『ボランティアハンドブック』及び「活動記録簿」をまとめる。

【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】
これまでの活動について、活動の目的や目標に対する「達成度」を自己評価する。
第3者評価を受け、謙虚な態度でその評価についての分析を行い、知識・技能のみならずコミュニケーショ
ンに於いても不足していると感じた点を改善する努力をする。。

第１３回　発表10．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後、批判的精神でディベートを行う。

【key words】
ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会

【授業概要】
第10回活動報告会。これ迄の実践活動をまとめ発表する。他のグループの発表についてディベートする。
常に批判的精神でディベートを行い、活動を見直し、今後の活動計画を作成し提出する。
参加者が協働して、目的・目標達成する喜びを共有できる活動ができるようにする。

【教科書ページ・参考文献】
Ｐ４８～　「みなさんの力を待っている人々がいる」

【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】
これまでの活動について、活動の目的や目標に対する「達成度」を自己評価する。
地域社会から求められていることを自覚し、地域福祉の向上が“自らの喜び”となるように努める。

第１４回　年間の活動報告書のまとめ。グループ内で活動評価についてディベートを行う。

【key words】
ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会

【授業概要】

	年間の実践活動をまとめ、報告書を作成する。活動報告書に基づき、当初の目的・目標に対する達成度を 自己評価する。4年間のボランティア活動体験で得られた“宝物”を卒後の社会生活に生かすようにする。 参加者が協働して、目的・目標達成した喜びを共有できる体験にする。達成感を味合う。 【教科書ページ・参考文献】 特に指定しない。 【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】 これまでの活動について、活動の目的や目標に対する「達成度」を、細かく分析の上で自己評価する。 4年間のボランティア活動体験で得られた“宝物”を卒後の社会生活に生かす方策を検討する。 第１５回　年間活動報告会：活動の社会的評価についてディベートを行う。年間活動報告書を作成、提出する。 【key words】 ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会 【授業概要】 年間活動報告会。活動報告書を作成し、それに基づいて、当初の目的・目標に対する達成度を含め発表 する。 謙虚な態度で自己評価し、身に着けた能力や知識、或いは、できなかった事の反省を行い、卒後の活動 に生かす方策を具体的に作成する。（就職先で、即生かせる活動から取り組むこと） 【教科書ページ・参考文献】 特に指定しない。 【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】 これまでの活動について、どのような活動体験が自己の人間的成長につながっているかを自覚する。
受講生に関わる情報および受講のルール	１．メンバーで地域社会の現状を検討し把握する。求められる活動計画書を作成・実践・評価・改善する。(ＰＤＣＡサイクルで改革改善する) ２．毎月の発表資料については、事前に指導教員に提出すること。万一、指定された日時迄に提出できない場合は、グループの責任で資料を　　必要部数印刷し準備すること。 ３．活動に伴う諸経費に就いては、グループ内で協議し、納得してから実践する事。『年間活動報告書』作成については、指導教員が各グループから提出された報告書をまとめ製本し、ボランティアセンターで保管する。 ４．受講生希望者が10名未満の場合開講しない。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	１．地域の社会福祉協議会による福祉向上のための活動に関心を寄せ、ボランティアセンターやNPO法人等の活動に関心を持ち、出来れば活動に参加すること。 ２．希望するボランティア活動に参加し、その運営方法や広報活動を学び、他人集めには何が重要かを探求する。 ３．災害ボランティア活動に関心を寄持ち、出来れば活動に参加し実践する事が望まれる。
オフィスアワー	毎週水曜日・木曜日の１６：００～
評価方法	１．活動計画書に基づく、毎月の発表資料や内容を評価する。（４０％）＊２回未提出・未発表の場合、単位を認めない。 ２．各グループの活動結果が地域社会への貢献度に応じて評価する。（２０％） ３．年間活動報告書の内容を評価する。（３０％） ４．活動協力者の募集及び協働活動の内容について評価する（10%）
教科書	『よくわかる　NPO法人・ボランティア』　川口清史・田尾雅夫・新川達郎編　ミネルバ書房
参考書	講義初めの授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他

	その他の具体的内容

講義科目名称：　更生保護制度　　授業コード：S2185

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	1単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
篠原　章			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	更生保護の実態と社会支援のあり方を明らかにして、犯罪・非行をした人との共生社会の実現が不可欠であることを理解し、参加協力の意識を持たせる。更生保護制度は社会福祉士国家試験の科目なので、合格水準到達を目標とする。
授業の概要	相談援助活動において必要となる更生保護を考察し、刑事司法・少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職についての知識を得るとともに、機関相互の連携を学習する。社会福祉士国家試験の過去問題を取り上げる。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	◎
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	△
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	オリエンテーション　更生保護は、罪を犯した者又は非行少年を社会内で処遇改善するものであり、福祉との関連も説明する。 【key words】 非行犯罪臨床　共生社会　犯罪少年　触法少年　司法福祉　ダブルロール 【授業概要】 更生保護は、犯罪をした者及び非行のある少年に対し適切に働きかけることで、再犯を防ぎ、立ち直らせることで社会を保護し個人と公共の福祉を増進させることを説明し、福祉との関連も踏まえ、その概要を説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ２～１４ 参考書：法務省法務総合研究所編「犯罪白書24年版」、刑事立法研究会「更生保護改革ゆくえ―犯罪をした人の社会復帰のために」現在人文社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 更生保護は、犯罪をした者、非行をした者を社旗復帰させることを総合的に考察し共生社会を考えること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	仮釈放等　仮釈放は収容期間満了前に仮に釈放し、円滑な社会復帰を図ろうとする制度であることを概説する。 【key words】 仮釈放　仮出場　仮退院　悔悟の情 【授業概要】 矯正施設に収容されている人は収容期間が決められているが、仮釈放等とは、その収容期間満了前に一定の条件を付けて仮に釈放し、社会の中で生活することで、円滑な社会復帰を図ろうとする制度であることを説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ１５～２２ 参考書：瀬川晃「＜論説＞仮釈放の現代的動向と課題」同志社法学Ｖｏｌ．38，Ｎｏ．３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 仮釈放、仮出場、仮退院ごとに整理をすること。 【予習復習に必要な想定時間】

		50分
	第３回	保護観察　保護観察の制度と処遇のあり方を捉え、保護観察の種類と方法に重点を置いて概説する。 【key words】 社会内処遇　指導監督　指導援護 【授業概要】 保護観察の制度と処遇のあり方を捉え、保護観察の種類と方法に重点を置いて説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書:ｐ２３～３５ 参考書：北沢信次著「犯罪者処遇の展開」成文社、刑事立法研究会「更生保護制度改革のゆくえ」現代人文社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 保護観察の種類を中心にまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 50分
	第４回	生活環境の調整　刑事施設又少年院収容中の者、保護観察付執行猶予者の裁判確定前の生活環境の調整を考える。 【key words】 生活環境の調整、改善 【授業概要】 刑事施設又少年院に収容中の者に対する生活環境の調整、保護観察付執行猶予者の裁判確定前の生活環境の調整について主に説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ３６～４０ 参考書：松本勝編者「更生保護入門」成文堂 【課題・予習・復習・授業準備指示】 更生保護法第82，83条を確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第５回	更生緊急保護・犯罪被害者対策　刑期を終えて出所した人や保護観察中の人の保護。被害者への救済を考える。 【key words】 応急の措置　意見等聴取　心情伝達　被害者等通知 【授業概要】 刑期を終えて出所した人や保護観察中の人が改善更生のために必要な保護が受けられない場合どのような保護が受けられるか。また犯罪の被害者への支援の取組を説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ４１～５１ 参考書：野坂明宏著「司法と福祉の接点ー救護・更生緊急保護」犯罪社会学研究Ｎｏ２２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 最近、社会的問題となっている犯罪被害の事例を見ておく。 【予習復習に必要な想定時間】
	第６回	恩赦・犯罪予防活動　政令恩赦、個別恩赦について説明。犯罪予防活動の根拠、位置づけ、具体的活動を紹介する。 【key words】 大赦　特赦　復権　社会を明るくする運動　ＢＢＳ会　更生保護女性会 【授業概要】 恩赦の歴史は古く、奈良時代から行われていた。現在の政令恩赦、個別恩赦について説明。また犯罪予防活動の根拠、位置づけ、具体的活動を紹介する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ５２～５９ 参考書：野坂明宏著「司法と福祉の接点ー救護・更生緊急保護」犯罪社会学研究Ｎｏ２２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 例年7月に実施されている社会を明るく運動について調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 50分
	第７回	保護観察官・保護司　わが国の保護観察制度は官民協働であり、保護観察官と保護司の役割とその実際を説明する。 【key words】 不良措置　所在調査　保護区 【授業概要】 わが国の保護観察制度は、官民協働に大きな特色があり、保護観察官と保護司はその主要な役割を担っているといえる。この人達の役割とその実際を説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ６２～６７ 参考書：北沢信次著「犯罪者処遇の展開―保護観察を焦点としてー」」成文社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 保護観察官と保護司の役割を整理すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第８回	更生保護施設・民間協力者　更生保護施設の役割・機能を説明。更生保護女性会、BBS会、協力雇用主の活躍を概説する。 【key words】 更生保護事業　更生保護法人　更生保護女性会　ＢＢＳ会　協力雇用主 【授業概要】 更生保護施設は被保護者を宿泊させながら改善更生に必要な保護を行う場であるが、具体的にどのような役割・機能を担っているかを説明。また民間ボランティアとしての更生保護女性会、Ｂ

		ＢＳ会、協力雇用主の役割を説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ６８～７７ 参考書：日本更生保護女性連盟「40年に続く5年の歩み」、日本ＢＢＳ連盟編「ＭｅｓｓａｇｅＢＢＳ活動事例集」日本更生保護協会 【課題・予習・復習・授業準備指示】 BBS会を調べてみること 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第９回	裁判所との連携　少年事件は家庭裁判所と密接に関係している。司法機能と福祉機能を有する家庭裁判所の役割を説明する。 【key words】 全件送致主義　少年保護手続　要保護性　福祉機能　処遇勧告　処遇の転換 【授業概要】 保護観察所は少年事件をめぐって家庭裁判所と密接に連携している。少年による事件は、警察、検察で犯罪の嫌疑があるとされると、すべて家庭裁判所に送致される。司法機能と福祉機能を有する家庭裁判所の役割を説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ８０～８６ 参考書：更生保護50年史編集委員会編「更生保護50年史（第1篇） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 最高裁判所のホームページで家庭裁判所の地位と権限を調べること。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
	第１０回	検察庁・矯正施設との連携　検察官、更生保護委員会、刑務所、少年院、拘置所の役割と児童相談所について概説する。 【key words】 刑の執行指揮者　再犯防止　矯正教育　矯正処遇　被害者の視点 【授業概要】 検察官は刑の執行指揮を行っており、試行期間である保護観察所や地方更生保護委員会は事件処理等で連携している。この検察庁について説明する。また刑事施設である刑務所、少年院、拘置所の役割と国機関とのかかわりを説明。さらに児童相談所について説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ８７～９５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 検察庁の組織図、刑務所、少年院、拘置所の配置場所を確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
	第１１回	公共職業安定所・福祉事務所との連携　公共職業安定所、福祉事務所のあり方、民間団体とのかかわりを説明する。 【key words】 社会参加　総合就労支援対策　応急の救護 【授業概要】 犯罪や非行を行った者を社会に再統合していく有効な方法は、就労支援と言われている。また保護観察対象者が適切な医療、食事など健全な社会生活を営むために援護を必要とする。そのための公共職業安定所、福祉事務所のあり方を説明。また更生保護と民間団体とのかかわりを説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ９６～１０２ 参考書：阿部彩著「貧困から社会排除へ―指標の開発と現状」海外社会保障研究、田島良昭「罪を犯した障害者の地域生活支援について」政策第119巻第8号 【課題・予習・復習・授業準備指示】 福祉事務所のこと調べること。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
	第１２回	医療観察法に基づく処遇　重大な他害行為を行った人の社会復帰を目的とする医療観察制度を概説する。 【key words】 心神喪失、心神耗弱　他害行為　精神保健参与 【授業概要】 心神喪失、心神耗弱の状態で重大な他害行為を行った人の社会復帰を促進することを目的とした医療観察制度が平成17年に施行された。この制度では精神保健福祉士、社会福祉士の活躍が期待されている。これについて説明。また、生活環境の調査を本人の社会復帰の促進のために行うことについても説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ１０４～１１０ 参考書：松下正明他著【司法精神医療」中山書店 【課題・予習・復習・授業準備指示】 医療観察法、精神保健福祉法の該当条項を確認すること。 【予習復習に必要な想定時間】 50分
	第１３回	地域社会における処遇、関係機関との連携　医療機関、保護観察所、都道府県、市町村、民間団体の連携について概説する。 【key words】 ケア会議　精神保健観察　処遇の実施計画 【授業概要】 本人の円滑な社会復帰を促進するためには地域社会における処遇の3要素ともいえる医療、精神保健観察、援助が統一的な方針のもとで、適正かつ円滑に実施されることが大切である。またそのための指定通院医療機関、保護観察所、都道府県、市町村、民間団体の連携について説明 【教科書ページ・参考文献】

	教科書：ｐ１１１～１１５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 医療機関、保護観察所、都道府県、市町村、民間団体の連携を考えること。 【予習復習に必要な想定時間】 40分 第１４回　社会復帰調整官等の業務の実際　専門知識を有する社会復帰調整官の業務の実際を説明する。 【key words】 精神保健審判員　精神保健参与　処遇実施計画 【授業概要】 平成15年に成立した医療観察法において社会復帰調整官が成立した。保護観察所において精神障害者の保健及び福祉に関する専門知識を有する者が社会復帰調整官として活躍している。この社会復帰調整官の業務の実際を説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ１３４～１４１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会復帰調整官の配置の実際を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 50分 第１５回　更生保護の今後の展望　更生保護改革、国民・地域社会の理解の拡大、官民協働、保護観察の充実強化を概説する。 【key words】 再犯リスク　認知行動療法　処遇プログラム　証拠に基づく施策 【授業概要】 現在進行している更生保護改革を出発点として、問題点とされる国民・地域社会の理解の拡大、実効性の高い官民協働、保護観察の充実強化を中心に説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ１４２～１５０ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 更生保護改革の問題点を整理すること。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
受講生に関わる情報および受講のルール	板書・口述内容は、定期試験に重要なので整理すること。 国家試験の過去・予想問題の小テストを実施する。 5回を超えての欠席は、定期試験の受験資格失う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	各授業内容の重要項目はその周辺の知識も得ておくこと。
オフィスアワー	講師室で授業後３０分
評価方法	定期試験、小テストを総合的に評価する。（目安）定期試験結果70%、小テスト30%
教科書	新・社会福祉士養成講座「更生保護制度」中央法規出版
参考書	授業の中で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 権利擁護と成年後見制度　　授業コード： S2186

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
森田　隆夫			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　成年後見制度に代表されるように、権利擁護のための法、制度、組織、団体および専門職は、現在においても多くのものが用意されている。しかし、このような法、制度等を知らず又は理解しなければ、折角の法、制度等は画餅に帰する。そこで、権利擁護のための法、制度等を知り理解して、それを社会福祉の仕事、社会福祉士の資格の取得等に生かしてもらうことを目指す。 【到達目標】 ①憲法・行政法・民法につきその重要な概念、制度等を説明することができる。 ②成年後見制度につきその重要な概念、手続等を説明することができる。 ③成年後見に関連する事業、機関、団体、専門職につき重要な点を説明することができる。 ④権利擁護に関する実際の事案につき、分析、配慮等ができる。
授業の概要	相談援助活動と法との関係を学んだ上で、相談援助活動に不可欠な成年後見制度および権利擁護に係る事業、組織、団体につき概説し、これらを踏まえて、権利擁護活動の実際を考えて行きたい。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	◎
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、権利擁護と憲法Ⅰ（人権） 【key words】 基本原理　精神的自由　経済的自由　社会権 【授業概要】 基本的人権の保障につき、自由権と社会権の性質の違いを中心に説明する。 【教科書ページ・参考文献】 P7～18 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　P19～26 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	権利擁護と憲法Ⅱ（統治） 【key words】 権力分立　国会　内閣　裁判所 【授業概要】 権力分立を基礎に国会、内閣、裁判所について説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 P19～26 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　P27～33　P44～45 【予習復習に必要な想定時間】 60分

	第３回	権利擁護と行政法Ⅰ（行政組織、行政活動） 【key words】 行政主体　行政行為　行政手続 【授業概要】 行政主体、その行う行政行為の意義・種類・効果、それをチェックするための行政手続について説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 P27～33　P44～45 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　P33～44 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第４回	権利擁護と行政法Ⅱ（行政救済） 【key words】 行政不服審査　行政事件訴訟 【授業概要】 行政権行使に対する救済方法としての国家賠償、損失補償、行政不服審査、行政事件訴訟について説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 P33～44 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　P46～63 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第５回	権利擁護と民法Ⅰ（契約など） 【key words】 契約　不法行為 【授業概要】 契約の成立、内容、効果、解除等を説明する。 契約がなくても法律関係の生じる不法行為も説明をする。″ 【教科書ページ・参考文献】 P46～63 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　P64～75 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第６回	権利擁護と民法Ⅱ（親族・相続） 【key words】 婚姻　親子　相続　遺言 【授業概要】 近しい関係にある人との法律関係として、婚姻、親子、相続、遺言について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 P64～75 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　P78～85 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第７回	成年後見の概要 【key words】 成年後見制度　成年被後見人　後見開始の審判の申立 【授業概要】 成年後見制度（法定・任意）について説明する。 法定後見の一つである成年後見につき、対象、申立等を説明する。″ 【教科書ページ・参考文献】 P78～85　P108～122 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　P86～93 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第８回	保佐の概要 【key words】 被保佐人　保佐人　権限付与の申立 【授業概要】 補佐につき、対象、申立等を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 P86～93 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　P86～93 【予習復習に必要な想定時間】

60分
第９回　補助の概要
【key words】
被補助人　補助人　権限付与の申立
【授業概要】
補助につき、対象、申立等を説明する。
【教科書ページ・参考文献】
P86～93
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　P94～102
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第１０回　法定後見制度の手続等、任意後見制度
【key words】
欠格事由　行為能力　資格制限　鑑定　登記　任意後見契約　代理権
【授業概要】
後見人等の欠格事由を説明する。
成年被後見人等の行為能力・資格制限等について説明する。
鑑定、登記といった法定後見制度の手続について説明する。
任意後見について、その利用形態、手続、効力等を説明する。
日常生活自立支援事業について、その目的、内容、成年後見制度との連携等を説明する。
【教科書ページ・参考文献】
P94～102　P103～107
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第１１回　日常生活自立支援事業、成年後見制度利用支援事業、
【key words】
日常生活自立支援事業　成年後見制度利用支援事業
【授業概要】
成年後見制度利用支援事業につき、　その主旨、内容、課題力等を説明する。

【教科書ページ・参考文献】
P124～132　P134～164
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　P166～186
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第１２回　権利擁護にかかわる組織・団体、権利擁護にかかわる専門職の役割
【key words】
家庭裁判所　法務局　社会福祉協議会　弁護士　司法書士　社会福祉士　リーガルサポート　ぱーとなあ
【授業概要】
権利擁護にかかわる組織、団体として、家庭裁判所　法務局　社会福祉協議会等につき説明する。
権利擁護にかかわる専門職として、弁護士　司法書士　社会福祉士　リーガルサポート　ぱーとなあ等につき説明する。
【教科書ページ・参考文献】
P166～186
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　P188～233
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第１３回　権利擁護活動の実際Ⅰ（成年後見活動の実際・権利擁護活動の実際）
【key words】
成年後見制度の利用　クーリングオフ　市町村長申立て　児童虐待
【授業概要】
権利擁護活動の実際として、教科書の事例を題材にその対処例を提示・検討する。

【教科書ページ・参考文献】
P188～233
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　P78～122
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第１４回　権利擁護活動の実際Ⅱ（ＤＶＤ鑑賞）
【key words】
成年後見制度　根抵当
【授業概要】
成年後見制度に関するＤＶＤを鑑賞し、その実際と手続の概要を見てもらう。

【教科書ページ・参考文献】
P78～122
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　P7～233
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第１５回　まとめ
【key words】
憲法　行政法　民法　成年後見制度

	【授業概要】 権利擁護と成年後見制度に関し、特に重要と思われる事項につき再度説明をし、復習をしてもらう。 【教科書ページ・参考文献】 P7～233 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・社会福祉を志す者として、出席時間の厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要です。
オフィスアワー	火曜　10時半～12時、　木曜　16時～17時半
評価方法	定期試験（６０％）、授業時間に行う小テスト（４０％）を総合して評価する。
教科書	社会福祉士養成講座編集委員編「権利擁護と成年後見制度（新・社会福祉士養成講座19）」中央法規
参考書	六法（例：ミネルヴァ書房編集部 編「社会福祉小六法」ミネルヴァ書房，2018年） 森長秀 編著「法学入門」光生館，2015年
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 就労支援サービス　　授業コード： S2187

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	1単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
新藤　健太			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 障害者世帯や母子世帯、生活保護受給世帯等の低所得者を中心とする就労の現状及び就労支援等の実状を把握し、労働を取り巻く状況やそれらを調整するための支援について学習する。 【到達目標】 ①労働の権利性について理解し、言語化できる。 ②労働の意義及び労働を支えることの意義を理解し、言語化できる。 ③相談援助活動において必要となる就労支援制度について理解し、説明できる。 ④就労支援組織と専門職の機能について理解し、概要について説明できる。 ⑤就労支援を実施する上での連携について理解し、個別のケースに応じた支援方法を想定できる。
授業の概要	労働は、一般市民としての権利である。生活を営む上でも重要な要素であるこの権利を全うするため、様々な支援施策が展開されており、社会福祉専門職としてもそれらの支援を担う人材が期待されている。 この授業では、①就労と就労支援の意義、②労働市場の動向、③労働法規の概要、④就労支援制度の概要、⑤就労支援サービスの実施体制、⑥就労支援を取り巻く各分野（労働、福祉、教育など）における連携と実際、これらの内容を中心に「就労」について社会福祉士が携わることの意義や目的を踏まえ学習を進める。 随時、授業中にその回の主題となるテーマについて受講者の発言を求める場合がある。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	◎
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　　オリエンテーション　講義の目的、到達目標、評価方法等の理解 【key words】 ・オリエンテーション 【授業概要】 ＜授業の目標＞ ・現行の社会福祉士養成カリキュラムのなかでの“就労支援サービス（本授業科目）”の位置づけを理解するとともに、この科目を学ぶことの意味について考える。 ・ソーシャルワークのグローバル定義、地域共生社会の実現、社会福祉士養成カリキュラムの改定などを概観し、今後、社会福祉士に期待されることについて考える。 ・就労支援サービス（本授業科目）のなかで学んでもらいたい（考えてもらいたい）ことなどを説明する。 ＜授業概要＞ ・社会福祉士のカリキュラム（就労支援サービスの位置づけ） ・社会福祉士養成のなかで、就労支援サービスを学ぶ意味 ・これからの社会福祉士に求められること①（社会福祉士の現状） ・これからの社会福祉士に求められること②（授業に望むことのメッセージ） 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】

60～120分

第２回　労働の意義　働く事の意味、労働の権利と義務との関係性、社会福祉士の役割

【key words】
・労働の意義，動機づけ，キャリア発達
【授業概要】
＜授業の目標＞
・就労の意義は“生計の維持”、“社会的役割の実現”、“個性の発揮”など多義的であることを理解する。
・就労の場において、労働者がその持てる個性を発揮するためには、仕事に対する“動機づけ”が重要であることを理解する。
・人間は生涯を通して、多様な役割を果たしつつ、“キャリア発達”していくことを理解する。
・就労支援のプロセスを理解する。
＜授業概要＞
・労働の多面的な意義
・動機づけ
・キャリア発達と就労支援
・就労支援のプロセス
【教科書ページ・参考文献】
・就労支援サービス（弘文堂）p1-p16
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「労働の意義等」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第３回　現代の労働を取り巻く状況　労働市場の変化

【key words】
・労働市場，雇用課題
【授業概要】
＜授業の目標＞
・労働力の概念や労働指標を通じて、労働市場の動向をみる基礎を学ぶ。
・今後も人口減少が進む中、就労支援の経済的意義も考える。
・産業別、職業別の就業者数の動向と特徴を考える。
・様々な日本の雇用課題を理解する。
・雇用、生活をめぐる新しい概念をみることで、あるべき労働の姿を考える。
＜授業概要＞
・労働市場の動向
　・就業状態の把握と労働指標
　・労働市場の変化
・労働をめぐる課題
　・非正規雇用の増大、長時間労働、など
　・労働をめぐる新たな概念
【教科書ページ・参考文献】
・p10-p33
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「現代の労働を取り巻く状況等」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第４回　労働に関する法律と制度

【key words】
・労働法規
【授業概要】
＜授業の目標＞
・労働法規として、労働三法や労働三権について、労働契約について、労働紛争解決制度の動向について理解する。
・労働に関する公的保険として、労働災害補償保険法（労災保険法）と雇用保険法の概要を理解する。
・就労支援にかかる主な法律として、雇用対策法、職業安定法、職業能力開発促進法、最低賃金法、短時間労働者の雇用管理の改善等に関する法律の概要を理解する。
＜授業概要＞
・労働法規の動向
・労働に関する公的保険
・就労支援にかかる主な法律
【教科書ページ・参考文献】
・p19-p33
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「労働に関する法律と制度」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第５回　障害者と就労支援①　障害者の就労の現状

【key words】
・授産事業，障害者総合支援法，障害者雇用制度
【授業概要】
＜授業の目標＞
・わが国における授産事業の歴史、その後の障害者雇用の概要を理解する。
・障害者の就労支援に関する、厚生省、労働省それぞれにおける就労支援、そして厚生労働省発足後の、就労支援について理解する。
・旧制度（自立支援法以前）の就労支援の課題、そして、障害者自立支援法（現、障害者総合支援法）における就労支援について理解する。
・就労支援にかかる諸制度と、現在の障害者雇用の状況について理解する。
＜授業概要＞
・職業補導事業－授産
・厚生省と労働省
・就労支援施策の統合機運
・障害者総合支援法と就労支援

・就労支援にかかる諸制度
・障害者雇用の状況
【教科書ページ・参考文献】
・p34-p43
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「障害者の就労の現状」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第６回　障害者と就労支援②　障害者福祉施策における就労支援
【key words】
・就労移行支援事業，就労継続支援（A型・B型）事業
【授業概要】
＜授業の目標＞
・福祉分野のサービス体系と、障害者の（就労）支援において大切なポイントを理解する。
・障害者総合支援法における就労支援（就労移行支援事業、就労継続支援A型事業、就労継続支援B型事業）について、それぞれの違いを意識しながら理解する。
＜授業概要＞
・福祉分野のサービス体系
・障害者の就労支援において大切なこと
・福祉分野のサービス組織
・福祉施策と雇用施策の連携
【教科書ページ・参考文献】
・p44-p50
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「障害者福祉施策における就労支援」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第７回　障害者と就労支援③　障害者雇用施策における就労支援
【key words】
・障害者雇用促進法
【授業概要】
＜授業の目標＞
・障害者雇用促進法の内容について、その主な内容である、①障害者雇用率制度（雇用義務制度、納付金制度）、②職業リハビリテーションを理解する。
・雇用サービスの組織、団体について、①ハローワーク、②障害者職業センター、③職業能力開発施設を理解する。
・雇用支援の具体的な内容を（なんとなく）理解する。
＜授業概要＞
・雇用分野のサービス体系
・雇用分野のサービス組織と団体
・雇用支援の内容
【教科書ページ・参考文献】
・p51-p65
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「障害者雇用施策における就労支援」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第８回　障害者と就労支援④　特別支援学校における就労支援・民間の取り組み
【key words】
・特別支援学校，民間企業，CSR，SDGs，ソーシャルファーム
【授業概要】
＜授業の目標＞
・特別支援学校における就労支援について、特に、対象となる障害別の取り組みについて、その概要を理解する。
・特別支援学校における就労支援において、“個別の教育支援計画”の必要性や有効性について理解する。
・民間企業で働く障害者の現状（一般企業に雇用されている障害者数の推移など）を理解する。
・企業の社会的責任（CSR）やSDGs、社会的企業（ソーシャル・エンタープライズ）について（なんとなく）理解し、（可能であれば）自分なりの意見をもつ。
＜授業概要＞
・特別支援学校における就労支援、
　・特別支援学校の現状、
　・特別支援学校での就労支援、
　・移行期での連携と個別の教育支援計画、
・民間の取り組み、
　・民間企業で働く障害者の現状、
　・CSR、SDGs、社会的企業（ソーシャルファーム）
【教科書ページ・参考文献】
・p66-p80
・沖大幹，ほか（2018）『SDGsの基礎』，東英弥
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「特別支援学校における就労支援・民間の取り組み」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第９回　障害者と就労支援⑤　諸外国の取り組み
【key words】
・IPS，EBP，フィデリティ
【授業概要】
＜授業の目標＞
・IPS（Individual Placement and Support）について（なんとなく）理解する。
・特に、IPSと従来の職業リハビリテーションサービスの違いについて理解し、説明できるようになる。

・そのうえで、我が国の就労支援の現状や課題について、受講生それぞれが自分なりに考えることができるようになる。
・EBP（Evidence-Based Practices）やフィデリティ尺度について（なんとなく）理解する。
＜授業概要＞
・IPS（Individual Placement and Support）とは何か、
・IPSの理念、
・DVD（IPSを学ぶ）、
・Japan Individual Placement and Support Association（JIPSA）とフィデリティ尺度
【教科書ページ・参考文献】
・デボラ・D・ベッカー，ロバート・E・ドレイク（2004）『精神障害をもつ人たちのワーキングライフーIPS：チームアプローチに基づく援助付き雇用ガイド』，金剛出版
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第10回　低所得者と就労支援①　低所得者等の就労の現状
【key words】
・生活保護受給世帯，ひとり親世帯，ホームレス，生活困窮者
【授業概要】
＜授業の目標＞
・生活保護受給世帯の現状を理解し、このような人々に対する就労支援の必要性について考える。
・母子世帯（ひとり親世帯）の現状を理解し、このような人々に対する就労支援の必要性について考える。
・ホームレスの現状を理解し、このような人々に対する就労支援の必要性について考える。
・生活困窮者の現状を理解し、このような人々に対する就労支援の必要性について考える。
＜授業概要＞
・低所得者の就労を学ぶ意味
・生活保護受給世帯
・母子世帯
・ホームレス
・生活困窮者
【教科書ページ・参考文献】
・p90-p99
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「低所得者等の就労の現状」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第11回　低所得者と就労支援②　生活保護受給世帯への就労支援
【key words】
・自立，生活保護制度，自立支援プログラム
【授業概要】
＜授業の目標＞
・生活保護制度において“自立”という概念がどう変化してきたのか、現在は“自立”をどうとらえているのかを理解する。
・自立支援プログラムの概要について理解する。
・生活保護法による就労支援について、特に、①生活保護受給者等就労自立促進事業、②被保護者就労支援事業、③被保護者就労準備支援事業、を中心に理解する。
＜授業概要＞
・社会保障制度の目的と機能
・生活保護制度における自立概念の再検討
・自立支援プログラムの導入
・生活保護法による就労支援の実際
　・生活保護受給者等就労自立促進事業
　・被保護者就労支援事業
　・被保護者就労準備支援事業
　・その他生活保護制度における就労支援の取り組み
【教科書ページ・参考文献】
・p100-p113
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「生活保護受給世帯への就労支援」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第12回　低所得者と就労支援③　母子世帯への就労支援
【key words】
・ひとり親世帯
【授業概要】
＜授業の目標＞
・母子及び父子ならびに寡婦福祉法や児童扶養手当法が改正され、ひとり親家庭の就労支援施策が充実してきた経緯を理解する。
・ひとり親世帯を支援する様々な事業について（なんとなく）理解し、そのうちのいくつかは、自分の言葉で説明できるようになる。
・ひとり親世帯を対象とした就労支援において、どのようなことが大切なのか、各々に考えてみる。
＜授業概要＞
・母子世帯の年間就労収入の状況
・就労支援の実際
　・母子及び父子ならびに寡婦福祉法、児童扶養手当法等による就労支援
　・母子家庭等就業・自立支援事業
　・母子・父子自立支援プログラム策定事業
　・自立支援教育訓練給付金
　・高等職業訓練促進給付金
　・専門実践教育訓練給付金および教育訓練支援給付金
　・ひとり親家庭高等学校卒業程度認定試験合格支援事業

【教科書ページ・参考文献】
・p114-p122
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「ひとり親世帯への就労支援」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第13回　低所得者と就労支援④　ホームレス・生活困窮者への就労支援

【key words】
・ホームレス，生活困窮者
【授業概要】
＜授業の目標＞
・ホームレスの自立支援に対する基本的な方針と、具体的な施策（とりわけ、就労支援に関するもの）について理解する。
・生活困窮者自立支援制度における基本的視点について理解する。
・生活困窮者自立支援制度に規定される事業（自立相談支援事業、住居確保給付金、就労準備支援事業、認定就労訓練事業、一時生活支援事業、家計相談支援事業、学習支援事業）について理解する。
＜授業概要＞
・ホームレスへの就労支援
　・ホームレスの自立支援対策と就労支援
　・ホームレスの自立に向けた施策と今後の展望
　・ビッグイシュー
・生活困窮者への就労支援
　・生活困窮者自立支援制度の基本的視点
　・生活困窮者自立支援制度における具体的支援
　・就労支援を展開するにあたっての今後の課題
【教科書ページ・参考文献】
・p123-p137
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「ホームレス・生活困窮者への就労支援」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第14回　専門職の役割と実際①　障害者福祉施策・障害者雇用施策における専門職の役割

【key words】
・障害者福祉施策，障害者雇用施策
【授業概要】
＜授業の目標＞
・障害福祉施策における専門職（サービス管理責任者、就労支援員、職業指導員、生活支援員、障害者就業・生活支援センターの生活支援担当職員）の役割について理解する。
・障害者雇用施策における専門職（ハローワークの職員、職業カウンセラー、障害者就業・生活支援センターの就業支援担当職員、ジョブコーチ、職業訓練指導員）の役割について理解する。
＜授業概要＞
・障害者福祉施策における専門職の役割
　・サービス管理責任者
　・就労支援員
　・職業指導員
　・生活支援員
　・障害者就業・生活支援センターの生活支援担当職員
・障害者雇用施策における専門職の役割
　・ハローワークの職員
　・障害者職業カウンセラー
　・障害者就業・生活支援センターの就業支援担当職員
　・職場適応援助者（ジョブコーチ）
　・職業訓練指導員
【教科書ページ・参考文献】
・p138-148
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「障害者福祉施策・障害者雇用施策における専門職の役割」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第15回　専門職の役割と実際②　低所得者等の就労支援における専門職の役割・その他の就労支援従事者

【key words】
・低所得者等の就労支援
【授業概要】
＜授業の目標＞
・低所得者等の就労支援における専門職（生活保護の就労支援員、福祉事務所の就労支援コーディネーター、福祉事務所の総括コーディネーター、ハローワークの就労支援ナビゲーター、生活困窮者自立支援制度における支援員）の役割を理解する。
・特別支援学校の進路指導担当者、企業の従業員、発達障害者支援センターの就労支援担当職員、などを（なんとなく）理解する。
＜授業概要＞
・低所得者等の就労支援における専門職の役割
　・生活保護の現業員
　・福祉事務所の就労支援員
　・福祉事務所の就労支援コーディネーター
　・福祉事務所の総括コーディネーター
　・ハローワークの生活保護受給者等就労支援ナビゲーター
　・生活困窮者自立支援制度における支援員
・その他の就労支援の従事者
　・特別支援学校の進路指導担当者
　・企業の従業員
　・発達障害者支援センターの就労支援担当職員
　・その他の専門職

	【教科書ページ・参考文献】 ・p149-157 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを読み「低所得者等の就労支援における専門職の役割・その他の就労支援従事者」について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	この科目の指定テキストを一読し、分からない用語は事前に調べておくこと。また、授業中には受講者に対して授業の主題や視聴覚教材に対する発言を求める場合がある。受講者同士の相談等は認めるものの、他の受講者の迷惑にならないよう配慮すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	本科目は、社会福祉士の国家試験の受験科目にも指定されている。また、就労支援を必要とする人々を支援するためには、労働関係法規や就労支援に係るサービスだけでなく、障害者や母子家庭、低所得者支援施策に関する知識も実務レベルで求められる。 したがって、この科目だけでなく「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」や「低所得者に対する支援と生活保護制度」等の専門科目で学習した内容を復習することが必要となる。 なお、予習や復習の範囲については、授業時間中に指示する。
オフィスアワー	初回の講義内で具体的に案内します。
評価方法	①定期試験40% ②提出物や課題40% ③授業への取り組み（授業内での発言等）20%
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座18　就労支援サービス』中央法規（最新版）
参考書	授業の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　アクティビティ・サービス援助技術　　授業コード：S2252

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	選択
担当教員			
清水　久二雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〈授業の目的〉 人は生活の中にさまざまな「快さ」を感じながら生活しています。その「快さ」が人の心も体も豊かに、活き活きとしますが、それらは一瞬で通り過ぎ、見落としたり、気がつかないこともあります。本科目は対人援助サービスにこれらの「快さ」を発見し、その「快さ」を広げ、深めていく技術を学びます。 〈到達目標〉 ①「生活の快」をベースとした心身の活性化の意義を説明することができる。 ②日常生活の全般にある「生活の快」を発見し、それらを援助技術のヒントに創造できる。 ③1つの「生活の快」のヒントから複数の広がりを想像し、具体的援助方法の計画と実践ができる。 ④1つの「生活の快」のヒントを深める技術を身につけ、あらゆる人の心身の活性化につながる具体的援助方法の計 画と実践ができる。
授業の概要	・本科目は理論と実践のバランスを重視しています。そのため座学で知識を得たのちに演習を行うスタイルとなって 　います。演習では受講生が対象者となって体験場面と支援者としてプログラムを立案、実践することがあります。 　さらに「生活の快さ」は個人によって感じ方や捉え方が違うため、受講生同士で話し合い共有する場もあります。 ・「生活の快さ」をテーマにしているため、視覚・聴覚・嗅覚・触覚・味覚　など、あらゆる感覚を支援に活かすこ 　とも授業のテーマとしているため、可能な限り体験する機会も大切にしています。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	◎
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション　　アクティビティ・サービスとは何か 【key words】 生活の快、活性化、心が動くこと 【授業概要】 ・授業概要のオリエンテーションを行う。　人が活き活きとしている姿、「活性化」するという事はどのような状態の事を指すのかについて楽しく考えてみよう。 演習）　あなたの気持ちを上げるもの 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉テキストP8～12 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分
	第２回	なぜアクティビティ・サービスが必要なのか①(定義と生活の中にある意義) 【key words】 生活の快、セラピー、垣内理論 【授業概要】

・アクティビティ・サービスとは何かについてキーワードとなる「快さ」とは何かについて体験を交えて考えよう。「快さ」の幅広さ、個人でも様々ある事について考え、人が活性化するときに必要なものは何かについてより深く考えてみよう。
演習）「生活の快」を改めて考える
【教科書ページ・参考文献】
テキスト P8～12
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈復習〉テキストP8～12　〈予習〉テキストP13～16
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第３回　なぜアクティビティ・サービスが必要なのか②(日常生活の中にある快さとは何か)
【key words】
日常、非日常、余暇
【授業概要】
レクリエーションとの違いについて様々比較しアクティビティ・サービスは何を目指しているのかを整理します。また日常生活の中にある快さの種を見つけていこう。
演習）　1つのプログラムを使って(アレンジの体験)
【教科書ページ・参考文献】
テキストP13～16
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈復習〉　テキストP13～16　　〈予習〉テキストP17～21
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第４回　アクティビティ・サービスの効果とは　　(どんな場面でどのような効果゛あるのか)
【key words】
心理的、生理的、文化的、　社会的、物理的
【授業概要】
　アクティビティ・サービスの支援によって期待される効果は大きく分けて5つあると言われています。
　それぞれの側面では具体的にどのようなものなのかを体験を通じて考えていこう
　演習)1つのプログラムを事例として活用する(考えてみよう)
【教科書ページ・参考文献】
テキストP17～21
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈復習〉　テキストP17～21〈予習〉テキストP22～28
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第５回　アクティビティ・サービスの対象とは　　(どんな場面でどのような効果゛あるのか)
【key words】
対象、コミュニティワーク、話す、聞く、聴く、尋ねる
【授業概要】
アクティビティ・サービスはすべての人にとつて必要なサービスであると考えられています人の活動の種類や場面は沢山考えて、生活の快を得て、活性化するとい事について体験を通じて考えてみよう。　　演習)1つのプログラムを事例として活用する(発表しよう)
【教科書ページ・参考文献】
テキストP22～28
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈復習〉　テキストP22～28　　〈予習〉テキストP30～31
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第６回　生活支援学とアクティビティ・サービス
【key words】
理念価値、現実価値、文化、ニーズ、健康
【授業概要】
第1回～5回までの授業を通じて、日常性も含めた活動の場面が考えられるため、生活支援として単に提供すめだけではなく、どのような根拠、手法で提供するのかについて事例を用いて体験しながら学んでみよう。　　演習)ナラティブアプローチの体験を通じて①
【教科書ページ・参考文献】
テキストP30～31
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈復習〉テキストP30～31〈予習〉テキストP32～36
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第７回　生活支援学の成り立ち①(人権思想・理念価値・現実価値・健康)
【key words】
人権思想、理念価値、現実価値、健康
【授業概要】
アクティビティ・サービスが目指す支援の方向性は1人1人の個人の尊厳であり、そのための人権思想、価値について健康を通じて考えよう。
演習)ナラティブアプローチの体験を通じて①　(人生史を引き出す)
【教科書ページ・参考文献】
テキストP32～36
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈復習〉　テキストP32～36　〈予習〉テキストP37～43　P162～(資料編)
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第８回　生活支援学の成り立ち②(文化・ニーズ・人間関係の形成)
【key words】
文化、ニーズ、人間関係の形成
【授業概要】
・アクティビティ・サービスにおいて個人の尊厳を保持するためには文化、ニーズ、人間関係の

		形成について考えていこう。 演習))ナラティブアプローチの体験を通じて②　(人生史と年表と文化を対比させて) 【教科書ページ・参考文献】 テキストP37～43 P162～(資料編) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈復習〉テキストP37～43 P162～(資料編)　〈予習〉テキストP44～49　P162～(資料編) 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分
	第９回	人間科学としての生活支援学 【key words】 学問体系、人間科学 【授業概要】 アクティビティ・サービスが学問的体系である事について、事例を用いてその根拠について考えていこう。　　演習)ナラティブアプローチの体験を通じて③　(他己紹介) 【教科書ページ・参考文献】 テキストP44～49　P162～(資料編) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈復習〉　テキストP44～49　P162～(資料編)　〈予習〉　配布資料 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分
	第１０回	アクティビティ・サービスの6つの分類と12の種類について 【key words】 財、偶然性、アレンジ 【授業概要】 生活の快さは多様で無限にあると考えられますが、大きく分けた場合6つの分類とその中でも12の種類があると考えられます。それらの概要について学んでいこう。 演習)ひとつのテーマをいくつもの段階 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分
	第１１回	日常と非日常のアクティビティ・サービス①(刹那的、創造的) 【key words】 刹那的、創造的 【授業概要】 生活の快さには一瞬の刹那的な快さもあれば、作品として後に残る創造的な快さもあります。それらの体験を通じて学んでいこう。 演習)花色紙を使っての体験 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分
	第１２回	日常と非日常のアクティビティ・サービス②(娯楽的、学習的) 【key words】 娯楽的、学習的 【授業概要】 生活の快さには楽しむ事が中心の娯楽的な快さもあれば、学ぶ事が楽しいという快さもあります。それらの体験を通じて学んでいこう。 演習)言葉を使った体験 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分
	第１３回	日常と非日常のアクティビティー・サービス③(生理的欲求的・苦痛回避的) 【key words】 苦痛回避欲、生理的欲求 【授業概要】 生活の快さには生理的欲求を満たす快さもあれば、苦痛を回避できた事による快さもあります。それらについて、ディスカッションを通じて学んでいこう。 演習)グループディスカッション(事例を用いて) 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分
	第１４回	日常と非日常のアクティビティ・サービス④(利己的・社会的) 【key words】 利己的、社会的 【授業概要】 生活の快さには自らの楽しみのために行うものと、人のために行い喜んでもらう姿を見て自らの喜びになるものがあります。それらについグループディスカッションを通じて学んでいこう 演習)　グループディスカッション(快さを比較してみよう) 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】

配布資料
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第１５回　前期のまとめ
【key words】
生活の快、アクティビティ・サービス
【授業概要】
１～14回の授業を振りかえり、アクティビティめサービスに関する前期の学びのまとめをグループディスカッションと個人ワークによって学んだことを整理していこう。
演習)快さの見つけ方
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布資料
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第１６回　後期ガイダンス
【key words】
チーム、マネジメント、課題解決、目標志向
【授業概要】
後期15回の授業のアウトライン・到達目標・評価の視点などについて説明　その後チームのグループサイズや組織的な連携の意義について考えてみよう。
演習)様々な感覚を使うということ
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉テキストP52～69
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第１７回　日本にあけるアクティビティ・サービスの誕生
【key words】
福祉レクリエーション、歴史的経緯
【授業概要】
垣内理論が登場後、レクリエーションからアクティビティ・サービスに変遷していった歴史的経過を振り返る事によって、社会的なニーズの変遷と今後社会からどのようなニーズが求められるのかについて考えよう。
演習)視覚的な快さへの支援
【教科書ページ・参考文献】
テキストP52～69
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈復習〉テキストP52～69
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第１８回　アクティビティ・サービス計画の基本的考え方①　（基本的考え方とニーズ）
【key words】
ニーズ、自己実現、社会関係の維持・参加、心身機能の維持・改善、健康の維持・促進
【授業概要】
垣内理論の登場により、人のニーズは多種多様であり、そのニーズに基づく支援の重要性が指摘されている。それらを踏まえどのように計画されなけばならないかについて学んでいこう。
演習)聴覚的な快さへの支援
【教科書ページ・参考文献】
テキストP72～74
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈復習〉テキストP72～74
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第１９回　アクティビティ・サービス計画の基本的考え方②　（個別支援と集団支援）
【key words】
マンツーマン、グループダイナミクス、人間関係過程
【授業概要】
垣内理論において、個別の支援と集団による支援はニーズや支援の効果によって意図的に使い分ける事が重要であるとされている。支援の内容が個別支援及び集団支援の場合の違いについて体験を通じて学ぼう。　演習)触覚的な快さへの支援
【教科書ページ・参考文献】
テキストP74～77、配布テキスト
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈復習〉 テキストP74～77、配布テキスト 〈予習〉 テキストP77～80
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第２０回　アクティビティ・サービス計画の基本的考え方③　（こころが動くということ、支援者に求められること）
【key words】
情動反応、動機、動因、内発的動機付け、5H
【授業概要】
生活の快はいわばこころが動かなければ得られないものであり、支援者は如何に利用者の心を動かすのかが重要であり、そのために支援者の資質である5つのHについて考えていこう。
演習)嗅覚的な快さへの支援
【教科書ページ・参考文献】
テキストP77～80
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈復習〉 テキストP77～80 〈予習〉 テキストP89～102
【予習復習に必要な想定時間】

		60～80分
	第２１回	アクティビティ・サービス計画の基本的考え方③④　　（アクティビティ・プログラムの計画上の留意点） 【key words】 留意点、9つの要素 【授業概要】 アクティビティ・サービスのプログラムを計画するうえで、留意することについて9つの留意点があることについて学びます。　　演習)スヌーズレンの紹介①　環境の設定 【教科書ページ・参考文献】 テキストP89～102 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈復習〉　テキストP89～102 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分
	第２２回	アクティビティ・サービスの計画　　（計画書立案について） 【key words】 計画書、ニーズ 【授業概要】 アクティビティ・サービス計画書の具体的な立案方法について学びます。その後、実際に計画を作成していきます。 演習)スヌーズレンの紹介②　様々な感覚の融合 【教科書ページ・参考文献】 テキストP89～102 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈復習〉テキストP89～102　〈予習〉　テキストP104～111 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分
	第２３回	アクティビティ・サービスの展開①　　（立案した計画と活動・参加とのつながり） 【key words】 ICF、意義、内容、活動、参加 【授業概要】 ICFの意義と内容に触れアクティビティ・サービスプログラムが「活動」や「参加」とどのようにつながるのかについて22回の授業において立案した計画書を基に考えつつ、その内容を共有し学びを深めていきます。 演習)立案した計画書の発展的展開①　（快さの深まり） 【教科書ページ・参考文献】 テキストP104～111 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈復習〉　テキストP104～111　〈予習〉テキストP112～116 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分
	第２４回	アクティビティ・サービスの展開②　　（立案した計画と背景因子とのつながり） 【key words】 ICF、意義、内容、背景因子 【授業概要】 ICFの意義と内容に触れアクティビティ・サービスプログラムが「活動」や「参加」とどのようにつながるのかについて22回の授業において立案した計画書を基に考えつつ、その内容を共有し学びを深めていきます。 演習)立案した計画書の発展的展開②　（快さの広がり） 【教科書ページ・参考文献】 テキストP112～116 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈復習〉　テキストP112～116　　〈予習〉テキストP112～116 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分
	第２５回	アクティビティ・サービスの展開③　　（ポスターセッション） 【key words】 ICF、意義、内容、生活機能、背景因子 【授業概要】 23回。24回授業で実施した立案したアクティビティ・サービスの深まりと広がりについてまとめ、その内容についてポスターセッションを行い、互いの発表を見て、学びを深めていきます。 演習)立案した計画書の深まりと広がりについてのポスターセッション 【教科書ページ・参考文献】 テキストP112～116 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈復習〉　テキストP112～116　　〈予習〉　テキストP120～136 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分
	第２６回	アクティビティ・サービスの実践①　　（日常と非日常） 【key words】 日常　非日常 【授業概要】 アクティビティ・サービスにおいて「日常」、「非日常」の支援について考え、どのように支援するかについて考えていきます。 演習)立案した計画書の深まりと広がりについてのポスターセッションの振り返り 【教科書ページ・参考文献】 テキストP120～136 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈復習〉　テキストP120～136　　〈予習〉　テキストP137～144 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分
	第２７回	アクティビティ・サービスの実践②　　（個別支援からの展開）

	【key words】 個別支援、ストレングス、シナジー、プログラムの深まり 【授業概要】 アクティビティ・サービスのプログラムの個別支援を中心にテキストにある演習のA・Bを取り上げて学びます。 演習）　テキストにある演習A・B 【教科書ページ・参考文献】 テキストP137～144 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈復習〉テキストP137～144　〈予習〉テキストP145～153 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分 第２８回　アクティビティ・サービスの実践③　（集団支援） 【key words】 集団支援、プログラムの広がり 【授業概要】 アクティビティ・サービスのプログラムの個別支援を中心にテキストにある演習のC・Dを取り上げて学びます。 演習）　テキストにある演習C・D 【教科書ページ・参考文献】 テキストP145～153 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈復習〉　テキストP145～153　〈予習〉テキストP1154～160 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分 第２９回　緩和ケアとアクティビティ・サービス 【key words】 苦痛回避欲・緩和ケア 【授業概要】 ターミナル期にある人への苦痛軽減の支援についてアクティビティ・サービスのプログラムの視点から考え、学びます。 演習）　感覚への支援　（快い呼吸、排泄、口渇予防への支援） 【教科書ページ・参考文献】 テキストP1154～160 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈復習〉　テキストP1154～160 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分 第３０回　アクティビティ・サービスの総括 【key words】 アクティビティ・サービス 【授業概要】 これまでの学びを通してアクティビティ・サービスの可能性についてラウンドロビンの方式で発表し、利用者が生活の快をベースとしたいきいきと生活支援について考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分
受講生に関わる情報および受講のルール	・アクティビティ・サービスは多様価値感があり皆違うことを尊重し合えるようにしましょう。 ・個人の価値観や考える機会が多いかもしれません。授業内での情報共有した内容について、むやみに情報は共有しな いでください。特にSNSを使ったむやみな書き込み、誹謗中傷は固く禁止します。 ・受講生皆さん1人1人が主体的に学ぶことは、誰かの学びに通じています。そのため授業で出される課題等についてはルールに乗っ取った引用は出典元を明らかにし、盗用は固く禁じます。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	アクティビティ・サービスは「生活」という広い領域から「快さ」を発見することを大切にしています。生活の中にあるあらゆるものに関心を持ち、それらについて意見が求められたときに自分なりの答えができる準備をしておいてください。
オフィスアワー	初回授業時にアナウンスいたします。
評価方法	定期試験50%　授業時の課題提出物30%　小テスト10&　授業の取り組み姿勢　10% で総合的に評価する。
教科書	新訂アクティビティ・サービス(中央法規出版・.2014)
参考書	講義中に適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 介護老人保健施設で5年弱　特別養護老人ホームで19年の実務経験あり。老人保健施設においては2年10ヶ月、専従のレクリエーションワーカーとして業務にあたる。　特別養護老人ホームにおいて介護長として14年従事し、兼務として施設介護支援専門員として従事する。　利用者のアクティビティ・サービスに関するケア内容をケアプランにて計画し、またアクティビティ・サービスを日常生活の中にとり入れてきた。　現在NPO法人　アクティビティ・サービス協議会　理事　アクティビティワーカー資格とアクティビティ・ワーカー担当教員　資格保持している

	アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ・新型コロナウイルス感染状況により分散登校となる場合等は、遠隔授業を実施します。尚その場合はシラバスの 内容が変更することがあります。状況に応じて適宜説明いたします。 ・授業でのワークシートおよび調べ学習の成果物などkの提出、また個人として添削指導の要望がある場合はメー ルでも受け付けいたします。 ・成果物は学生の了承が得られた場合に限り、Google共有ドライブを使用したいと考えています。

講義科目名称： 特設科目・論語　　授業コード：S2301

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	必修
担当教員			
岡野　康幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ・本学の特色は建学の精神に「仁」を据えていることである。「仁」とは他者を自分のように感じる心である。仁の精神を学ぶことにより、自己陶冶や他者への配慮といった、人格の絶えまざる向上を目指すものである。社会を担う人間にはある程度の社会倫理が要求される。“noblesse oblige”本講義では『論語』を通じて人としてどのように生きるべきか考えていく。 ・仁の実現のために孔子が重要視したものが「学習」である。そして学習の中心は古今東西「読書」であることに変わりはない。読書の習慣が身に付くか否かは、学生時代にかかっている。そのため、本講義では「読書」に関する様々な課題を出す。 【到達目標】 ・論語の内容を建学の精神との関りで他者に説明できる。 ・論語に現れる語彙を用いて自分の考えを説明できる。
授業の概要	・孔子の発言、あるいは孔子の弟子や当時の貴族との対話から、孔子が人間や社会にどのような関心を抱き、そして分析をしていたのか。当時の社会情勢を踏まえて説明していく。そのことにより孔子の考えていたことが我々にも共通する関心ごとであることが窺えよう。 ・講義では孔子に関する映画「孔子の教え」（放題）や中島敦「弟子」を併用していく。映画や小説を通じて、現代人が孔子をどのように捉えていたのかを読み解いていく。 ・内容理解を深めるために、抗議講義した個所を１００字から２００字程度でまとめる練習をしていく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	○
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　諸注意　論語概説 【key words】 論語　孔子　儒学 【授業概要】 受講の際の注意点を最初に説明する。本学の建学の精神は『論語』で述べられている「仁」です。「仁」の理解を深めることで、人間そのものの理解を深めていきます。仁の説明の前に『論語』の来歴や孔子の人物について概説します。一つの書籍や人物が途絶えることなく、二千年以上読み継がれてきた所以を考えてみましょう。また映画「孔子の教え」を観て、孔子についての理解を深めてもらいます。 【教科書ページ・参考文献】 P151、P152 【課題・予習・復習・授業準備指示】 図書館にある『大漢和辞典』で孔子を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 10分
	第２回	孔子の政治思想Ⅰ 【key words】 徳治主義　修己治人 【授業概要】 孔子を祖とする「儒家」の政治思想は、一言で表すと「徳治主義」です。徳治主義とは、為政者

		が自己の身を正し、道徳性を高め、そのことにより周囲を感化・教導することが可能であると考える思想です。弟子たちや当時の貴族が孔子に政事（政治上の事柄）について尋ねています。孔子は政治をどのように考えていたのか。また（これは現在にも繋がりますが）政治と道徳の関係をどのように捉えていたのか考察していきます。また映画「孔子の教え」を観て、孔子についての理解を深めてもらいます。 【教科書ページ・参考文献】 プリントを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 図書館にある『大漢和辞典』で儒家を調べておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 10分
	第３回	孔子の政治思想Ⅱ 【key words】 正名 【授業概要】 孔子の政治思想を語る上で見逃せない言葉が一つあります。それが「正名」です。正名とは名実（名前と実態）がともなっているかどうかを図る思想です。名実の均衡がとれていないと国が乱れる原因になると孔子は考えています。この名実の考えは今の我々にも受け継がれていますし、哲学的問題としても議論がなされています。このことについて考察していきます。また映画「孔子の教え」を観て、孔子についての理解を深めてもらいます。 【教科書ページ・参考文献】 P86 【課題・予習・復習・授業準備指示】 図書館にある『大漢和辞典』で正名・五倫・五常を調べておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 10分
	第４回	孔子の倫理思想Ⅰ 【key words】 孝　父母　身体 【授業概要】 芥川龍之介は「人生の悲劇の第一幕は親子となったことにはじまっている」（『侏儒の言葉』）と言っています。芥川の真意がどこにあるかは別として、人間は生れた瞬間に親子という関係が自然・必然的に発生します。この親子関係の情愛を重視したのが孔子です。孔子は親（父母）と子の関係をどのように考えていたのか考察していきます。また映画「孔子の教え」を観て、孔子についての理解を深めてもらいます。 【教科書ページ・参考文献】 P1、P6、P7 【課題・予習・復習・授業準備指示】 図書館にある『大漢和辞典』で惻隠・羞悪・辞譲・是非・四端を調べておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 15分
	第５回	孔子の倫理思想Ⅱ 【key words】 仁 【授業概要】 孔子思想の中心をなすものは「仁」です。『論語』の中で仁について言及している箇所は６０以上ありますが、定義づけはなされていません。孔子自身によって場面場面でさまざまな意味合いが付されています。ここでは孔子自身によって「仁」がどのように展開されていったのか考察していきます。 【教科書ページ・参考文献】 P19 【課題・予習・復習・授業準備指示】 図書館にある『大漢和辞典』で仁・義・礼・智・信・を調べておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 10分
	第６回	孔子の学問観 【key words】 学　習　文献 【授業概要】 「学びて時に之を習ふ、亦説ばしからずや。」これは『論語』開巻第一章の言葉であり、誰もが聞いたことのある言葉でしょう。儒家における「学」の重視は、まさに孔子から始まります。孔子にとって、「学」にはどのような意味が込められていたのか。また我々が学ぶ意義についても考察していきます。 【教科書ページ・参考文献】 P1、P8 【課題・予習・復習・授業準備指示】 図書館にある『大漢和辞典』で学・習を調べておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 10分
	第７回	「弟子」1・2を読む 【key words】 子路　論語　中島敦 【授業概要】 今回より授業と平行して中島敦「弟子（ていし）」を読んでいきます。みなさんも中島の作品「山月記」（人間が虎になる話）は、高校の現代文の時間に読んだことがあるかと思います。その中島には『論語』を題材にした小説があるのです。それが「弟子」です。「弟子」は孔子より9歳年下の弟子である子路（しろ）の眼を通して、孔子と子路自身の変化を書いた小説です。第7回では子路の孔子への入門から（１）、孔子の下で学ぶ子路の姿を読んでいきます（２）。また子路の母への孝行についても考えてみましょう。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。 【教科書ページ・参考文献】 「弟子」1・2 【課題・予習・復習・授業準備指示】

「弟子」1・2を読んでおいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第８回　「弟子」3・4を読む
【key words】
子路　論語
【授業概要】
子路が街中を歩いていると、人々は孔子の噂をしています。それを聞いた子路はどうしたか（３）。孔子の学園では音楽を重視し、弟子たちに瑟（しつ）の練習をさせます。しかし子路の音は殺気にあふれています。それを聞いて孔子はどうしたのでしょう（４）。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。
【教科書ページ・参考文献】
「弟子」3・4
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「弟子」3・4を読んでおいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第９回　「弟子」5・6を読む
【key words】
子路　読書
【授業概要】
子路はよく孔子に怒られていますが、孔子は子路をどのように捉えていたのか（５）。孔子が政治の表舞台に立つと子路も師とともに出てきます。しかし孔子の活躍を隣国は恐れ策をめぐらします。母国の政治に失望した孔子は、子路をはじめ弟子たちとともに放浪の旅に出ます（６）。孔子と弟子の絆についても考えてみましょう。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。読書に関する発表をしてもらいます。
【教科書ページ・参考文献】
「弟子」5・6
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「弟子」5・6を読んでおいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第１０回　「弟子」7・8を読む
【key words】
天道　天命　読書
【授業概要】
「邪が栄えて正が虐げられるという・ありきたりの事実について」子路は疑問に思っている。と中島は子路をしてかく言わしめています。中島も抱いたであろうこの難題は、古代中国の歴史書『史記』の作者司馬遷も「伯夷列伝」に「天道是か非か」と記しています。ここでは「弟子」の他に「伯夷列伝」も視野にいれて考えていきます（７）。孔子の門下は多士済々です。子路以外の弟子の様子も読んでいきましょう（８）。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。読書に関する発表をしてもらいます。
【教科書ページ・参考文献】
「弟子」7・8
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「弟子」7・8を読んでおいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第１１回　「弟子」9・10を読む
【key words】
放浪
【授業概要】
孔子は諸国放浪中、衛の国の為政者とたびたび面会していますが、孔子は受け入れられるのか（９）。また放浪中の孔子と弟子の集団はしばしば危険な目に遭いますが、そのような時でも孔子は泰然自若としています。その様子を見た子路はどうしたでしょうか（10）。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。
【教科書ページ・参考文献】
「弟子」9・10
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「弟子」9・10を読んでおいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第１２回　「弟子」11・12を読む
【key words】
隠者　道　心
【授業概要】
放浪中の孔子師弟はさまざまな種類の人間に会います。その中でも逸民（世間を逃れ隠れ住んでいる人）との対話が眼を引きます。『論語』微子篇にその様子が記されていますが、これを題材に中島は小説「弟子」の一齣に入れます。逸民の態度に孔子や子路は自分たちの考えをどう伝えるのか、読んでみましょう。また「道」という言葉の持つ意味について夏目漱石の『心』からも考察してみましょう（11）。孔子に心酔している子路ではありますが、そんな子路にも師孔子への不満はあります。どういう不満なのでしょうか（12）。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。
【教科書ページ・参考文献】
「弟子」11・12
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「弟子」11・12を読んでおいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第１３回　「弟子」13・14を読む
【key words】
政事

	【授業概要】 孔子師弟の放浪は１４年に及びます。その間、子路は孔子から離れずついていき成長していきます（13）。子路は衛の国に乞われ仕官することになりました。これは表舞台で政治に携わることを意味します。政治家子路の誕生です。子路の手腕を読んでいきましょう（14）。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。 【教科書ページ・参考文献】 「弟子」13・14 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「弟子」13・14を読んでおいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 15分
	第１４回　「弟子」15・16を読む 【key words】 君子 【授業概要】 子路の名声は諸国に鳴り響くようになりましたが（15）、子路は衛の国の内乱に巻き込まれてしまいます。衛の内乱を伝え聞いた孔子は「由や死なん（子路は死ぬだろう）」と発言しました（16）。果たしてどうなるのか、最終章を読んでみましょう。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。 【教科書ページ・参考文献】 「弟子」15・16 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「弟子」15・16を読んでおいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 15分
	第１５回　『論語』と儒家思想の展開ー孟子を例にー 【key words】 鰥　寡　孤　独　惻隠の心 【授業概要】 孔子の歿後、孔子の教えは弟子たちによって諸国に広められていきます。孔子の教えを受け継いだ者たちの中で、現在にも伝わっているのが孟子と荀子の思想です。ここでは、孔子の倫理思想の展開として『孟子』の中から「仁義」「鰥寡孤独（かんかこどく）」と「惻隠の心」を取り上げ、孔子の思想がどのように展開したのか跡を追っていきます。また孟子の思想について考察していきます。 プリントを配布します。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 孟子の性善説について説明できるよう調べておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 15分
受講生に関わる情報および受講のルール	・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を問いかけながら、積極的に参加すること。 ・本人の責に帰す遅刻早退は認めません。また注意しても態度を改めない者（講義中のおしゃべり・居眠り等）には、退室を命ず。 ・不明な用語の当たったら、辞典類で調べること。 ・この講義では毎回受講生にも、講義内容について意見を表明したり、学生同士で議論をしてもらう。また課題について自分で調べてもらう。 ・日頃より古典をはじめとした人文学に親しみ、読書の習慣を取得すること。人生において読書の習慣が身に付くか否かの最後の年になろう。学生時代に読書が習慣化されなかったならば、恐らく一生涯読書の習慣が身に付くことはないであろう。したがって、読書に関する課題や発表等を課す。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・『論語』を代表とする古典に親しみ、古人の思考に触れ、人文学における学問様式を理解するように努めること。 ・授業計画に示されている部分を必ず一読してから授業に臨むこと。
オフィスアワー	火曜日16時から18時
評価方法	定期試験60%、レポート20%、発表20%
教科書	鈴木利定監修／中田勝編著『注解書下し論語全文』明治書院
参考書	金谷治訳注『論語』（岩波文庫）吉田賢抗著『論語』（明治書院、1960年5月）渋沢栄一『論語と算盤』（2008年10月、角川ソフィア文庫）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育

	■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 卒業論文

授業コード： S2951 S2952 S2953 S2954 S2955 S2956 S2957 S2958

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	4単位(60)	選択
担当教員			
担当教員			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 卒業論文の作成を通して問題意識の醸成、研究方法、参考文献・資料等の収集方法、調査の方法、発表の方法等の学習を深める。これらの学習から、学生自身の専門とする領域の実践能力や、地域での活動の基礎となる問題解決能力や分析能力の質を高めることを目標とする。 〔到達目標〕 論文作成
授業の概要	これまでの講義・実習・演習等を通じて学んだ専門的な知識や技術をもとに、日常的な社会問題や社会福祉に関する事柄について研究的な視点から問いを立て、探求する活動を実践する。学生個々の関心に基づいてテーマを設定し、担当教員の指導のもとで研究活動を実践し論文としてまとめる。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	○
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	◎
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回 教員（主な研究領域） 大島由之（臨床心理学・精神的健康） 柳澤充（マイノリティー・福祉問題） 新藤健太（障害福祉・ソーシャルワーク） 鈴木淳（障害児者支援臨床・医療心理） 真下潔（児童福祉・聴覚言語障害） 川端奈津子（発達障害・インクルーシブ保育） 大野俊和（社会心理学・教育社会心理学）※2019年度休講 上記教員が個別的に指導を行う。なお、時間割上での指定時間はないので、担当教員と協議の上、適宜指導時間を調整し指導を受けること。 授業内容：論文執筆に関する指導 〔留意事項〕 履修登録にあたって、事前に各自の研究課題などを考慮し、上記一覧から指導を受けたい担当教員へ相談し研究内容と指導方法等について話し合うこと。なお、「主な研究領域」は担当教員の主な専門領域を示しており、卒業論文のテーマを制限するものではない。 第２回 第３回 第４回 第５回 第６回

	第７回 第８回 第９回 第１０回 第１１回 第１２回 第１３回 第１４回 第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	この授業では、これまでの学習成果を統合し、そこから生じた問題意識を明確化した上で参加することが求められる。また、その問題意識を研究レベルで展開するために必要な事前作業が求められる。興味関心を持ち自ら積極的に取り組むことが大切となる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	その他（個々の教員とのゼミ方式の個別指導による。）
授業外時間にかかわる情報	各担当教員から指示する。
オフィスアワー	各担当教員による指示に従うこと。
評価方法	担当教員からの個別指導の履行状況：50%、執筆論文：50%
教科書	授業中に紹介する。
参考書	授業中に紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 福祉事務所運営論　　授業コード：S3041

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	２単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
林　孝和			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　行政組織の仕組み、そこで働く専門職の実態について理解を深め、「福祉事務所」の制度や社会福祉主事等の専門職員の役割を理解する。
授業の概要	福祉事務所の組織や機能、歴史と関連法制度など概要を理解し、特に行政組織の仕組みやそこで働く専門職員の実態から、福祉事務所運の今日的課題等を学ぶものである。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	オリエンテーション 【key words】 社会福祉行政の実施主体となるのが福祉事務所である 【授業概要】 社会福祉サービスに関することの中心となる機関である福祉事務所について学ぶための基本的事項を説明する。また、授業概要、授業の実施形態、評価基準等など説明する。 【教科書ページ・参考文献】 ― 【課題・予習・復習・授業準備指示】 福祉事務所の存在を確認しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	福祉事務所とは何か 【key words】 福祉ニーズと社会福祉サービスの相談窓口たる福祉事務所の特徴を知る 【授業概要】 福祉ニーズを取り巻く環境の変化。福祉事務所の法的根拠、設置目的、業務内容などを知る。また、福祉サービスの基本である地域性・総合性・迅速性とは何かについても考察する。 【教科書ページ・参考文献】 P51～70 【課題・予習・復習・授業準備指示】 福祉サービスにおける地域性とは何か考察しておく 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第３回	福祉事務所の成立と歴史的展開 【key words】 福祉事務所の大きな役割は国民のセーフティーネット実践の最前線機関である。 【授業概要】 セーフティネットの中心となる困窮対策の流れを時代考証し、主に旧生活保護法や現在の生活保

		護法に至る経緯を学ぶとともに、福祉事務所の設置、社会福祉主事制度の開始に至る法整備の状況についても検証する。 【教科書ページ・参考文献】 P15～50 【課題・予習・復習・授業準備指示】 我が国の困窮対策の歴史的流れを考察しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 120分
	第４回	福祉事務所の専門職と役割 【key words】 福祉事務所の大きな役割は国民のセーフティーネット実践の最前線機関である。 【授業概要】 福祉事務所の役割、勤務する専門職の役割、業務執行体制等など学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P93～101 【課題・予習・復習・授業準備指示】 福祉事務所で働く専門職の種類、業務内容を確認しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第５回	生活保護と福祉事務所１ 【key words】 生活保護　被保護者　被保護世帯　扶養照会　扶助 【授業概要】 生活保護の原理・原則、生活保護の現状と問題点、生活保護の相談から決定までを学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 P157～176 【課題・予習・復習・授業準備指示】 生活保護の現状を調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第６回	生活保護と福祉事務所２ 【key words】 生活保護　被保護者　被保護世帯　扶養照会　扶助 【授業概要】 生活保護における扶助の内容と具体的なケースを紹介、宿所提供施設について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 P157～176 【課題・予習・復習・授業準備指示】 生活保護の現状を調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 120分
	第７回	母子及び父子並びに寡婦と福祉事務所 【key words】 母子　父子　寡婦　ドメスティックバイオレンス　売春防止法 【授業概要】 母子自立支援員・婦人相談員の役割、DV（配偶者等による暴力）、相談・一時保護と福祉事務所の業務、役割について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P75、P183～175 【課題・予習・復習・授業準備指示】 母子、父子、寡婦の現状について考察しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 120分
	第８回	ケース検討１ 【key words】 就労困難　就労支援　母子　父子　寡婦　ドメスティックバイオレンス　売春防止法 【授業概要】 生活保護世帯、ひとり親世帯のケースを検討する。 【教科書ページ・参考文献】 P182～185 【課題・予習・復習・授業準備指示】 生活保護世帯の内訳を調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第９回	高齢者福祉と福祉事務所 【key words】 老人福祉法、高齢者虐待防止法、介護保険法、介護保険制度 【授業概要】 老人福祉法と措置、高齢者虐待防止法とその支援のあり方などを理解する。また、各種法制度と福祉事務所との関わりを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P173～174 【課題・予習・復習・授業準備指示】 高齢者福祉の現状を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 120分

	第１０回　障がい者福祉と福祉事務所 【key words】 身体障害　知的障害　精神障害　発達障害 【授業概要】 障がい者に関連する法律、制度を理解し、その支援のあり方を理解する。また、各種法制度と福祉事務所との関わりを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P74～P75 【課題・予習・復習・授業準備指示】 障がい者福祉の現状を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 120分 第１１回　ケース検討２ 【key words】 高齢者　障がい者　介護問題　貧困　就労支援　稼働能力 【授業概要】 高齢者世帯、精神障がい者世帯のケースを検討する。 【教科書ページ・参考文献】 P103～128 【課題・予習・復習・授業準備指示】 高齢者の介護問題、精神障がい者の就労に関する現状を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 120分 第１２回　保育及び児童手当等と福祉事務所 【key words】 保健所　児童手当　児童扶養手当　保育所 【授業概要】 保育に関する相談業務、保育所への入所事務手続き、各種手当（児童、児童扶養）を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P75、P164～170 【課題・予習・復習・授業準備指示】 児童福祉に関する現状を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 120分 第１３回　児童相談所と福祉事務所 【key words】 児童相談所　児童虐待　保護 【授業概要】 児童相談所とは、児童虐待の現状、福祉事務所との関わりなどを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P75 【課題・予習・復習・授業準備指示】 児童虐待の現状を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 120分 第１４回　保健センター・地域福祉と福祉事務所 【key words】 保健所　保健センター 【授業概要】 市町村保健センターの役割・主な業務、福祉事務所との関わりなどを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P76 【課題・予習・復習・授業準備指示】 保健センター、保健所の役割を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　試験前オリエンテーション 【key words】 社会福祉推進の第一線機関として抱える諸課題等について整理するとともに、今後の在り方についても検討を試みる 【授業概要】 福祉事務所の今日的課題を見ながら、今後の在り方について総論的に学びを深める。また、試験出題範囲、出題形式、評価基準を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 － 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これまで学修してきた中で、課題やそれに対する提言などを整理しておく 【予習復習に必要な想定時間】 120分
受講生に関わる情報および受講のルール	座席を指定する。授業の前に教科書は読んで予習をすること。学びを深めるためにアクティブラーニングを行うので積極的に参加すること。ペットボトルや飲料は机上に置かないこと。私語を慎むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チェックイン、チェックアウト時のGoogleフォーム。その他授業内で質問の有無を問うので、積極的に発問すること。
授業外時間にかかわる情報	上記に示した授業以外の学修は、身近な行政機関、福祉事務所や福祉施設を訪れて学習するなど授業外学修をすること。

オフィスアワー	毎週水曜日　午前10：30～12：00（この時間帯以外については要予約）
評価方法	定期試験60%、理解度テスト20%、授業への参画20%
教科書	宇山勝儀/船水浩行編著　『福祉事務所運営論』　［第４版］　ミネルバァ書房　　2016年4月
参考書	授業中に適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 Googleフォームとスマートフォンを利用して、リアルタイムで受講学生の意見を収集・公開して学びを深める。また、チェックアウト時に授業の感想・質問を集め、適宜フィードバックする。

講義科目名称：　人権教育論　　授業コード：S4371

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
久山　宗彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 第二次世界大戦で敗戦国となった日本は、戦争の惨禍の中から世界に誇れる経済大国にまで成長してきたが、これからは更に、真に人権が確立された新しい日本につくり変えていく努力が必要である。 【到達目標】 人権の面において、新しい日本を創り出すことへと動く勇気ある人になるよう努力することである。
授業の概要	真に人権が確立されることによって、日本社会には画一性ではない、多様性と豊かな自由が齎される真の国際化がなされ、これによっての新しい日本が生まれてくるよう、私達は努力したいものである。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	人権教育の推進は真の国際化につながる
	第２回	人格教育のための国連10年
	第３回	“みんな同じ”　という幻想
	第４回	国際的な人格基準の歴史
	第５回	国際交流では本来、対立が生じることになる
	第６回	多様性教育と人格教育の関わり
	第７回	偏見・階級・人権侵害に対するMINORITYの闘い
	第８回	日本の人格教育の特徴
	第９回	日本の政府関係者の取り組みとこれからの課題
	第１０回	真の国際化と間違った国際化
	第１１回	人格文化とは
	第１２回	善意の姿勢

	第１３回　　絶縁社会 第１４回　　江戸時代の子育てについて学ぶ 第１５回　　経済大国にまでなった日本であるが、更に、新しい日本につくり変えていかなければならない
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業レジュメは原則として毎回配布する。 ・授業には積極的な態度で臨むように。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	世界の国々と関わる日本の人権問題のニュースに、いつも関心を持っていただきたい。
オフィスアワー	授業後の5分間は対応可能です。また、リアクションペーパーに質問を記していただければ、次回の授業後にお答えします。
評価方法	最終試験（70%）、小レポート（20%）、リアクションペーパー（10%）
教科書	教科書は使用しないが、毎回の授業レジュメのほかに時々参考資料を配布する。
参考書	授業時に随時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　教育実習事前事後指導（特支）　　授業コード：S5144

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	1単位(60)	学校教育コース・選択
担当教員			
小林　義信			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　特別支援学校の教育実習にあたり、本実習に必要な知識・技能・態度を学び、教育実習を通して特別支援学校の教員となる資質・意欲を高める。 【到達目標】 1　特別支援学校の組織、教育課程の仕組みを理解する。 2　障害のある児童生徒理解に努め、一人一人の障害特性に合った個別の指導計画及び学習指導案の作成方法を学び、児童生徒の実態に即した指導方法を組み立てることができる。
授業の概要	1　特別支援学校教育実習の意義・目的を十分理解し、教育実習生としての心得や実習中に留意することを中心に講義を行う。 2　障害のある児童生徒一人一人の理解に努め、障害特性を踏まえた個別の指導計画及び学習指導案の作成方法を学び、　教育課程の自主編成を理解する。 3　本実習終了後、報告書を作成し発表する。研究授業の指導案をもとに授業実習の振り返りを行う。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	○
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　　オリエンテーション　教育実習の意義と目的、心構え 【key words】 教職　免許法、特別支援教育、特別支援学校、特別な教育課程、守秘義務 【授業概要】 教育実習へのガイドブックをもとに、教育実習の意義と目的、実施の方法と内容、手続き、心得等について学習する。また、特別支援学校（知的障害）の教育課程の基礎的知識について、ワークシートを通して確認する。 【教科書ページ・参考文献】 教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ1-11、Ｐ46-49 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を事前に読んで予習しておくこと。キーワードについて簡単に説明できるようにしておくこと。 授業終了後は、キーワードについてそれぞれ理解を深めておく。 【予習復習に必要な想定時間】 45分 第２回　　知的障害特別支援学校の教育活動の理解　（ＤＶＤ視聴）

【key words】

知的障害を主な対象とする特別支援学校、教科等を合わせた指導、自立活動

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。学校現場のDVDによる映像を視聴することで、実際の教育現場の様子を概観する。必要に応じて、指導者が映像を止め説明を加える。特に、知的障害を対象とする特別支援学校における特徴的な指導形態である教科等を合わせた指導について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業を復習し、キーワードについて説明できるようにしておくこと。担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第３回　肢体不自由特別支援学校の教育活動の理解　（ＤＶＤ視聴）
【key words】

バリヤフリー設備、自立活動、医療的ケア、摂食指導、食形態

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。学校現場のDVDによる映像を視聴することで、実際の教育現場の様子を概観する。必要に応じて、指導者が映像を止め説明を加える。特に、肢体不自由を対象とする特別支援学校における特徴的な校舎設備（バリヤ　フリー、自立活動室等）や自立活動の指導、医療的ケア等について理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業を復習し、キーワードについて説明できるようにしておくこと。担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第４回　障害特性の理解（知的障害・肢体不自由・病弱）
【key words】

学校教育法施行令22条-3、就学基準　、知的障害、肢体不自由、病弱の障害特性

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。

教育実習へのガイドブックを中心に、基本的事項の確認を行うとともに、各障害の特性に対応した教育的配慮について理解を深める。県内の病弱特別支援学校の現状についても把握する。
【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ61-62
【課題・予習・復習・授業準備指示】

教科書を事前に読んで各障害の特性について整理しておく。担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第５回　特別支援学校の教育課程　①
【key words】

特別支援学校の教育課程の類型　準ずる教育課程　特別な教育課程　各教科等を合わせた指導　自立活動

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。

教育実習へのガイドブックを中心に、特別支援学校の教育課程の基本的な類型について確認するとともに、それぞれの特徴について理解する。また、知的障害教育において特徴的な指導形態である各教科等を合わせた指導について理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ65-67
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を事前に読んで知的障害教育における各教科等を合わせた指導について、説明できるようにしておく。担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第６回　特別支援学校の教育課程　②
【key words】
準ずる教育課程　下学年適応教育課程　自立活動を主とする教育課程

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。

教育実習へのガイドブックを中心に、特別支援学校の教育課程の基本的な類型について確認するとともに、それぞれの特徴について理解する。特に、肢体不自由、病弱、盲、ろう　特別支援学校等で取り入れられている準ずる教育課程、下学年適応教育課程、また、自立活動を主とした教育課程については、児童生徒の実態によってさまざまな類型があることも理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ62-64　特別支援学校学習指導要領解説、自立活動解説
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を事前に読んで教育課程の類型について整理しておく。また、自立活動について基本事項を確認しておく。担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第７回　個別の教育支援計画、個別の指導計画
【key words】

個別の教育支援計画、個別の指導計画、個別の支援計画、関係機関との連携

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。

個別の支援計画と個別の教育支援計画、個別の指導計画との関係について概観図をもとに理解する。また、個別の教育支援計画、個別の指導計画について、具体例をもと項目、記述内容等確認する。指導案との関係についても触れる。

【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ67-69　特別支援学校学習指導要領解説、
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書及び資料を事前に読んでおく。担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。

【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第８回　学習指導案の作成　　生活単元学習　①
【key words】
題材（単元）設定の理由、実態、目標、評価の整合性、関連する各教科等、生活上の課題

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。生活単元学習の学習指導案の作成例をもとに、各教科等を合わせた指導の学習指導案の作成方法について理解する。特に、題材設定の理由の書き方、実態、目標、評価の整合性及び関係する各教科等について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ50-59　特別支援学校学習指導要領解説、自立活動解説
【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。　教科書及び学習指導要領を読んでおくこと。各教科等を合わせた指導について、説明できるようにしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第９回　学習指導案の作成　　生活単元学習　②
【key words】
実態、目標、評価の整合性、関連する各教科等、生活上の課題

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。学生が加筆・修正した生活単元学習指導案(教科書掲載）について発表した後、学生が中心となって検討をする。

【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ50-59　特別支援学校学習指導要領解説、自立活動解説
【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。
生活単元学習の学習指導案について指示された項目を作成しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第１０回　学習指導案の作成　日常生活の指導
【key words】
日常生活の指導（朝の会、帰りの会、基本的生活習慣の指導等）

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。
日常生活の指導の学習指導案をもとに、各教科等を合わせた指導の学習指導案の作成方法について理解する。特に、題材設定の理由の書き方、実態、目標、評価の整合性及び関連する各教科等について理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ50-59　特別支援学校学習指導要領解説、

【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は話題提供する情報の収集、メントを考えておく。配付された日常生活の指導学習指導案を読んでおくこと。
教育実習を控えた学生は教育実習の目標、手だての説明の準備をしておく。

【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第１１回　学習指導案の作成　自立活動
【key words】
題材（単元）設定の理由、実態、目標、評価の整合性、学習上又は生活上の困難

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。
自立活動の学習指導案の作成例をもとに、作成方法について理解する。特に、題材設定の理由の書き方、実態、目標、評価の整合性について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ50-59　特別支援学校学習指導要領解説、自立活動解説
【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。
配付された自立活動学習指導案及び自立活動の学習指導要領解説書を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第１２回　学習指導案の作成　各教科の指導（国語）　①
【key words】

教科指導における実態把握、各段階、内容、目標、評価

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。学習指導案の作成例をもとに、各教科の学習指導案の作成方法について理解する。特に、個人ごとの実態把握の方法と指導内容、目標、評価との関係について整理していく。

【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ50-59　特別支援学校学習指導要領解説、各教科編

【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。
配付された国語科の学習指導案をよく読んでおく。

【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第１３回　学習指導案の作成　　各教科の指導（算数・数学）　　②

【key words】
教科指導における実態把握、各段階、内容、目標、評価

国語、算数・数学、図工・美術等の指導

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。
学習指導案例の記述内容について、実態、内容、目標、評価の一貫性についてワークシートにより整理する。その後、学生が中心となって記述内容について検討をする。

【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ50-59　特別支援学校学習指導要領解説　各教科編
【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。

ワークシートにより整理した内容について改めて確認をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第１４回　教育実習で留意すること、教育実習録の書き方

【key words】
教育実習録　評価　教育実習報告会
【授業概要】

学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。

教育実習を実施するにあたり、教育実習録や教育実習報告書の書き方について、資料（様式）をもとに学習する。また、これらの書類の作成については、事務的な面だけでなく、作成過程を通じで自己評価をするということを学習する。

【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ11、p82-92
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を読んでおく。担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１５回　本実習前オリエンテーション

【key words】

教育実習に向けての個人目標、守秘義務、安全管理

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。
教育実習を実施するに当たり、実習生としての心得を改めて確認するとともに、学生が一人ずつ自分の目標　について発表する。併せて実習校の概要についても説明する。

【教科書ページ・参考文献】
教育実習へのガイドブック（教科書）　Ｐ1-10、Ｐ46-49
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各自、個人目標の発表及び学校概要説明の準備をしておく。担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第１６回　教育実習報告会・検討会　①　　4名

【key words】
学習指導、生徒指導、個別の教育支援計画、個別の指導計画、TT、保護者との連携
【授業概要】
教育実習報告書をもとに、学生が一人ずつ、教育実習の概要や教育実習で学んだこと等を発表する。特に個別に立案した教育実習の目標に対する評価について、詳しく説明する。その後、質疑応答や課題等について検討を加えることで、教育実習の学びをより深めていく。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教育実習報告書発表者は、発表事項をわかりやすくまとめておくこと。講義後、インクルーシブ教育に関するキーワードを整理しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第１７回　インクルーシブ教育と特別支援教育　①

【key words】
障害者の権利条約、障害者差別解消法、合理的配慮、基礎的環境整備、

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。講義を通じて、障害者係法規の変遷を押えがら、現在の障害者をめぐる社会の動きについて概要を理解する。併せて、特殊教育から特別支援教育への概念の変化、現在、今後の課題等についても理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
日頃から障害者問題や教育関係の情報について収集しておく。担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１８回　インクルーシブ教育と特別支援教育　②

【key words】
害の捉え方　障害モデル（医学モデル、社会モデル）　多様性　想像力

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。
人の多様性や障がいの捉え方について事例や実地体験をもとに改めて考える。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
日頃から障害者問題や教育関係の情報について収集しておく。担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１９回　個別指導と教材の活用について

【key words】
教材・教具　個別指導　概念活動　自発行動　交信関係　発信　受信

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。

映像を視聴することで個別指導の実際と教材の活用について理解する。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
日頃から障害者問題や教育関係の情報について収集しておく。担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２０回　研究授業の指導案を元にした授業実習の振り返り(説明・質問・検討)　1名ずつ　①

【key words】

個のニーズに応じた学習指導案、実態、目標、評価に整合性のある学習指導案、チームティーチング

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。教育実習の研究授業のために作成し、授業を行った指導案をもとに、一人ずつ学生が授業説明を行い、その後、検討会を行う。最後に、指導者が研究授業の対象とした教科等の指導案及び授業についてコメントをする。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメント、研究授業及び指導案について、課題や反省、評価について説明できるように準備をしておく。担当以外の学生は指導案をよく読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第２１回　教育実習布告会・検討会　②　4人

【key words】
学習指導、生徒指導、学校組織（チームで働く）、保護者との連携、コミュニケーション力

個別の教育支援計画、個別の指導計画、チームティーチング、保護者との連携

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。
教育実習報告書をもとに、学生が一人ずつ、教育実習の概要や教育実習で学んだこと等を発表する。特に個　別に立案した教育実習の目標に対する評価について、詳しく説明する。その後、質疑応答や課題等について検討を加えることで、教育実習の学びをより深めていく。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメント、教育実習報告書発表者は、発表事項をわかりやすくまとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第２２回　研究授業の指導案を元にした授業実習の振り返り(説明・質問・検討)　1名ずつ
②

【key words】
個のニーズに応じた学習指導案、実態、目標、評価に整合性のある学習指導案

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。教育実習の研究授業のために作成し、授業を行った指導案をもとに、一人ずつ学生が授業説明を行い、その後、検討会を行う。最後に、指導者が研究授業の対象とした教科等の指導案及び授業についてコメントをする。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメント、研究授業及び指導案について、課題や反省、評価について説明できるように準備をしておく。担当以外の学生は指導案をよく読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第２３回　研究授業の指導案を元にした授業実習の振り返り(説明・質問・検討)　1名ずつ
③

【key words】

個のニーズに応じた学習指導案、実態、目標、評価に整合性のある学習指導案

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。教育実習の研究授業のために作成し、授業を行った指導案をもとに、一人ずつ学生が授業説明を行い、その後、検討会を行う。最後に、指導者が研究授業の対象とした教科等の指導案及び授業についてコメントをする。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメント、研究授業及び指導案について、課題や反省、評価について説明できるように準備をしておく。担当以外の学生は指導案をよく読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

	第２４回	研究授業の指導案を元にした授業実習の振り返り(説明・質問・検討)　　1名ずつ ④ 【key words】 個のニーズに応じた学習指導案、実態、目標、評価に整合性のある学習指導案 【授業概要】 学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。教育実習の研究授業のために作成し、授業を行った指導案をもとに、一人ずつ学生が授業説明を行い、その後、検討会を行う。最後に、指導者が研究授業の対象とした教科等の指導案及び授業についてコメントをする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメント、研究授業及び指導案について、課題や反省、評価について説明できるように準備をしておく。担当以外の学生は指導案をよく読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 45分～60分
	第２５回	研究授業の指導案を元にした授業実習の振り返り(説明・質問・検討)　　1名ずつ ⑤ 【key words】 個のニーズに応じた学習指導案、実態、目標、評価に整合性のある学習指導案 【授業概要】 学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。教育実習の研究授業のために作成し、授業を行った指導案をもとに、一人ずつ学生が授業説明を行い、その後、検討会を行う。最後に、指導者が研究授業の対象とした教科等の指導案及び授業についてコメントをする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメント、研究授業及び指導案について、課題や反省、評価について説明できるように準備をしておく。担当以外の学生は指導案をよく読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 45分～60分
	第２６回	研究授業の指導案を元にした授業実習の振り返り(説明・質問・検討)　　1名ずつ ⑥ 【key words】 個のニーズに応じた学習指導案、実態、目標、評価に整合性のある学習指導案 【授業概要】 学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。教育実習の研究授業のために作成し、授業を行った指導案をもとに、一人ずつ学生が授業説明を行い、その後、検討会を行う。最後に、指導者が研究授業の対象とした教科等の指導案及び授業についてコメントをする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメント、研究授業及び指導案について、課題や反省、評価について説明できるように準備をしておく。担当以外の学生は指導案をよく読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 45分～60分
	第２７回	研究授業の指導案を元にした授業実習の振り返り(説明・質問・検討)　　1名ずつ ⑦ 【key words】 個のニーズに応じた学習指導案、実態、目標、評価に整合性のある学習指導案 【授業概要】 学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。教育実習の研究授業のために作成し、授業を行った指導案をもとに、一人ずつ学生が授業説明を行い、その後、検討会を行う。最後に、指導者が研究授業の対象とした教科等の指導案及び授業についてコメントをする。 【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメント、研究授業及び指導案について、課題や反省、評価について説明できるように準備をしておく。担当以外の学生は指導案をよく読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第２８回　研究授業の指導案を元にした授業実習の振り返り(説明・質問・検討)　1名ず　⑧
【key words】

個のニーズに応じた学習指導案、実態、目標、評価に整合性のある学習指導案
【授業概要】

学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。教育実習の研究授業のために作成し、授業を行った指導案をもとに、一人ずつ学生が授業説明を行い、その後、検討会を行う。最後に、指導者が研究授業の対象とした教科等の指導案及び授業についてコメントをする。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメント、研究授業及び指導案について、課題や反省、評価について説明できるように準備をしておく。担当以外の学生は指導案をよく読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分～60分

第２９回　教育実習のまとめ　①
【key words】

個のニーズに応じた学習指導案、実態、目標、評価に整合性のある学習指導案

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。

研究授業指導案検討会を通じて検討してきた各教科等の指導案について、改めて各教科等ごとに作成上のポイントを確認、整理する。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。自分が修正を加えた研究授業指導案について読み直しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第３０回　教育実習のまとめ　②　学校の危機管理
【key words】

学習指導案の整合性　　危機管理　　信用失墜行為

【授業概要】
学生の輪番による教育関係新聞記事等の話題提供および協議を行う。

現在の教育現場における様々な危機管理について、想定される危機とそれぞれの危機への対応方法について具体的に学ぶ。また、併せて教育公務員としての意識（識見）の向上を図る。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
担当になった学生は、話題提供する情報の収集およびコメントを考えておく。講義後は、教育公務員として求められる責任、安全配慮、資質等について整理しておく。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

受講生に関わる情報および受講のルール	1　本講義は4年時に行われる教育実習の本実習と同様に位置づけられており、遅刻・欠席は事前に必ず届けること。欠席　　や遅刻の多い学生（3回の欠席で実習を認めない）や授業態度の悪い学生は、教育実習の中止もあり得るため、熱心な受講態度を求める。 2　教育実習に向けて、児童生徒の障害特性を理解し、個別の指導計画及び学習指導案の作成に積極的に取り組み、授業構成や教材研究を熱心に行うこと。
毎回の授業に関する	コメントカード

質問や学習の進捗状況の確認方法	
授業外時間にかかわる情報	・授業の要約もしくは課題をミニレポートという形でまとめ、指定した日時までに提出すること。教育実習の報告書は指　定された形式に則り、教育実習報告会の1週間前までに提出すること。 ・実習校の情報に注意を向け、学習支援ボランティア等に積極的に参加すること。 ・学習指導案に関連した資料や図書を理解し授業に臨むこと。 ・学習指導要領、解説書等を読んでおくこと。
オフィスアワー	火曜日、水曜日　（9:00～18:00）
評価方法	授業中に課したミニレポート・コメントカードの内容（20%）、実習報告書の内容（50%）、試験またはまとめのレポート（30%）を総合して評価する。
教科書	群馬医療福祉大学『教育実習へのガイドブック』 文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領』、『解説総則編（幼稚園、小学部、中学部）と（高等部）』、『自立活動編』『各教科等編　小・中学部』
参考書	宮崎英憲　監修　全国特別支援学校長会　編著　　『特別支援学校のすべてがわかる　　教員をめざすあなたへ』　ジアース教育新社 2017
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 群馬県立の特別支援学校（知的特別支学校・肢体不自由特別支援学校）での教諭としての勤務年数31年間、教頭としての勤務年数2年間、副校長としての勤務年数1年間、校長としての勤務年数3年間をもとに、特別支援学校における教育実習の基礎的知識（教育実習の意義、学校組織、生徒理解、学習指導案の作成、授業研究の仕方等）について指導する。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 教育実習（特別支援学校）　　授業コード：S5148

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
10日間	4年次	2単位(80)	学校教育コース・選択
担当教員			
小林　義信			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　障害のある児童生徒一人一人の実態に即した教育的ニーズを把握し、個別の指導計画を立て、児童生徒が主体的に 　活動し、全人的発達を促せる指導･支援ができるような実践力や指導技術を習得することを目指す。 [到達目標] １　特別支援学校の教育活動の場に臨み、特別支援学校の仕組みを知り、障害のある児童生徒の理解に努め、教育課 　　程の自主編成が理解できる。 ２　一人一人の障害特性にあった個別の指導計画･教育支援計画、学習指導案の作成方法を学び、児童生徒の実態に 　　即した学習指導（教材教具の開発や工夫等）ができる。ティームティーチングの方法を知る。 ３　保護者理解や地域と学校との関連を理解する。
授業の概要	１　実習校（特別支援学校）において、原則として10日間（80時間以上）の実習を行う。 ２　教育実習前に立案した自己目標に対しての評価を行う。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	△
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	△
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	○
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　就務式　配属学級での実習（授業観察・授業参加）　校長講話 【key words】 職員への挨拶、指導教諭との打ち合わせ、実習録記入 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　配属学級での実習（授業参観・授業参加）　講話（生徒指導、進路指導、教務主任等） 【key words】 指導教諭との打ち合わせ、実習録記入 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３回　配属学級での実習（授業参観・授業参加）　講話（生徒指導、進路指導、教務主任等） 【key words】

	指導教諭との打ち合わせ、実習録記入 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
第４回	配属学級での実習（授業参観・授業参加） 【key words】 実指導教諭との打ち合わせ、実習録記入 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
第５回	配属学級での実習（授業参観・授業参加、授業実習） 【key words】 実指導教諭との打ち合わせ、実習録記入 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
第６回	配属学級での実習（授業参観・授業参加、授業実習） 【key words】 実指導教諭との打ち合わせ、実習録記入 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
第７回	配属学級での実習（授業参観・授業参加、授業実習） 【key words】 実指導教諭との打ち合わせ、実習録記入 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
第８回	配属学級での実習（授業参観・授業参加、授業実習、研究授業）、授業研究会 【key words】 実指導教諭との打ち合わせ、授業研究会への参加、授業説明、評価、実習録記入 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
第９回	配属学級での実習（授業参観・授業参加、授業実習） 【key words】 実指導教諭との打ち合わせ、実習録記入 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
第１０回	解務式、配属学級での実習（授業参観・授業参加、授業実習） 【key words】 職員への挨拶、実指導教諭との打ち合わせ、実習録記入（まとめ） 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
第１１回	【key words】

	【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	以下の全ての履修条件を満たしている者。 １　将来、教員として学校現場で働く意思を満たしている者。 ２　特別支援教育とその教育課程の学習に熱意と意欲を持っている者。 ３　健康状態が実習を行うのに適当と認められる者。 ４　中学校もしくは高等学校教員免許状取得可能な単位を持っている者。 ５　実習前あるいは実習期間中に、教科または教職に関する科目：障害者教育総論、障害児教育総論、知的障害教育Ⅰ、　Ⅱ、肢体不自由教育Ⅰ、Ⅱ、重複障害教育総論、ＬＤ等教育総論、知的障害者の心理・生理・病理、肢体不自由者へ　の心理・生理・病理、病弱者への心理・生理・病理、教育実習事前・事後指導を履修済みあるいは履修中であること。 ６　3年次後期開講の教職対策講座Ⅰと4年次前期開講の教職対策講座Ⅱを必ず受講する者。 ７　ボランティア活動において、障害児・者に関わる活動を積極的に行い、体験した者。 ８　実習後に都道府県で実施している教員採用試験を必ず受験する者（都道府県によっては受験が実施されない教科があ　る。その場合は私立学校主催の適性検査を必ず受験すること。）
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	実習校では、指導教諭から指導を受ける。大学担当者へは、進捗状況をメール等で報告する。また、担当者の巡回指導時にも進捗状況を報告する。必要があれば指導を受ける。
授業外時間にかかわる情報	１　ボランティア活動において、障害児・者に関わる活動を積極的に体験しておく。 ２　ＨＰ等で実習を希望する特別支援学校等の情報を得ておく。
オフィスアワー	火曜日（終日）　水曜日（10:30～18:00）
評価方法	１　実習中における実習状況・内容の報告（10%） ２　実習校の評価（50%） ３　教育実習録の評価（40%）
教科書	群馬医療福祉大学：「教育実習へのガイドブック」
参考書	文科省：特別支援学校小学部・中学部・高等部学習指導要領」「特別支援学校学習指導要領解説　総則編・自立活動編・各教科　編」
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	群馬県立の特別支援学校（知的特別支学校・肢体不自由特別支援学校）での教諭としての勤務年数31年間、教頭としての勤務年数2年間、副校長としての勤務年数1年間、校長としての勤務年数3年間をもとに、特別支援学校における教育実習の基礎的知識（教育実習の意義、学校組織、生徒理解、学習指導案の作成、授業研究の仕方等）について指導する。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 政治学Ⅰ　　授業コード：S5152

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
久山　宗彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的・到達目標】 世界の色々な国の中での日本が、それらの国とどのように関わっていけばよいかに関心を持ち、取り分け、問題を抱えている外国の人達にもどのように関わり、どのようにサポートできるかまで考える。
授業の概要	目下、日本人に求められているのは、地球市民として行動できる人になっていくことではなかろうか。このような原点に立ち返っての問題について、本講義では考えていきたい。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	現代の世界が抱える地球的問題 【key words】 ポスト主権、NGO、国連、欧州共同体 【授業概要】 国連組織というものが主権国家同士の関係で動かされていると、国家の段階では存在している民主的な統制が忘れられ、国家間の力学で動かされることになりかねない。そのような状況下でのNGOの成長していく可能性に期待したい。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第２回	政治（politics)ということば、政治とことばは切り離せない。 【key words】 Politicsと日本の政治、国民・選挙民 【授業概要】 学問の世界に嘘・誤解が入り込むと虚構になるように、政治も本来はアカデミックなものであるから、同様になる。我が国のリーダーが誰になるとしても、リーダーの条件としては、先ず、真のことばを語る人であるということである。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第３回	平和憲法と社会福祉 【key words】 コスタリカ、紛争の仲介、積極的永世非武装中立宣言、平和憲法 【授業概要】 平和憲法の精神は、コスタリカから学ぶことが多いが、コスタリカの人たちにとって平和とは、戦争がないこと、軍隊が存在しないことではなくて、民主主義・人権・自由・豊かな自然環境、そして、謙虚・寛容等の価値観が統合されている状態である。コスタリカはまた、「積極的永世

非武装中立宣言」を公表した国であるが、それは、どの国にも加担しないが、紛争を終わらせるために仲介者として積極的に介入するということである。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第４回　国際ボランティア活動、湾岸戦争後のイラクの弱者に対する救援活動
【key words】
イラク、国際ボランティア活動、経済制裁
【授業概要】
湾岸戦争後、１３回も出かけることになったイラクの乳幼児に対する緊急救援活動を通して、イラクと日本での国際ボランティア活動のスタートから終了までの大事な諸点を紹介し、ボランティア精神の重要性も明らかにする。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第５回　カリタス・ジャパンと社会福祉
【key words】
カリタス・ジャパン、政教分離、アガペー
【授業概要】
アガペー的な愛他行動に源流がある社会福祉（賀川豊彦など）であるが、人間観の世俗化が行き着くところまで行ってるようにも思われる。社会福祉におけるSpiritualityにも触れたい。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第６回　「感染症」問題
【key words】
都市化、自然の生態系、コロンブス
【授業概要】
都市化やグローバル化が進んできたことや、人間が自然の生態系を破壊し攪乱させてきたことが等が、ヒトにとってまだ免疫が低い新規の病原微生物との接触頻度を増やしていくことになった。今回は感染症の問題を政治学として扱いたい。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第７回　資源枯渇と環境破壊
【key words】
エネルギー供給、森林・オゾン層・温室効果、地球環境危機
【授業概要】
１　ソフト・エネルギーへの転換が今日ほど求められている時はない。
２　森林消失が、オゾン層破壊が、大気中の二酸化炭素濃度上昇が、どんな物理的作用を私たちに齎すかは、科学的には問題は解けているのに、政治的には解決されていない。そのことは大きな問題である。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第８回　難民の問題
【key words】
難民、基本的人権、ドイツ、日本、グローバル化、シリア難民
【授業概要】
現在、難民こそ実在であり、基本的人権の観点から保護すべきである、ということが言えるであろうか。どうもこの問いは宙に浮いてしまっているようだ。難民の定義そのものが混迷しているからである。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第９回　人口問題
【key words】
緑の革命、漁場、水不足、環境破壊、砂漠か
【授業概要】
宇宙船地球号は、現在の技術水準から考えられる収容定員があるようである。ただ、この水準は変動してきたし、今後も変動するようである。この問題を技術的に突破しても、問題が悪化する可能性もあるようだ。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布

【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１０回　宗教紛争（１）
【key words】
排他性、孤立、合理主義、物質主義、選民、イエス
【授業概要】
今日のユダヤ教徒・キリスト教徒・イスラーム教徒間の争いの根にあるものの一つは、三教徒間の根深い偏見、そして特に、神の子イエスの十字架上での死を巡る問題であり、もう一つは、宗教が異なる国家間の富・技術・工業発展などの格差から来るものである。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１１回　宗教紛争（２）
【key words】
教会組織、スンナとシーア、クルアーン、民主主義
【授業概要】
イスラームでは、ローマ・カトリックで見られる教皇・枢機卿・司教・神父・信徒という特別の教階的組織はない。宗教的なヒエラルヒー（教階制）はイスラームではどのように働くのであろうか。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１２回　人種差別問題
【key words】
イタリア、移民、多様性、アメリカ、個性、ローマ帝国
【授業概要】
ユニークであること、クリエイティブであること、人と違うことは、尊重されるべき個性であり、このような違いをあるがままに受け止めるのがイタリア人の姿勢である。人種差別のないイタリア人の視点から今回の問題を検討したい。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１３回　中東・中国に対する民主化要求
【key words】
リベラル・デモクラシー、アラブの春、世俗主義、イスラーム
【授業概要】
アラブの春のことに限らず、イスラームと民主主義について考える時には、何よりも先ず、イスラーム社会には、神から離脱することによって民主主義が達成されるという捉え方はない、と言うことである。中国については、新疆ウイグル自治区の問題を扱いたい。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１４回　平和について考える～聖遷（ヒジュラ）と聖家族エジプト避難の旅の今日への問題提起～
【key words】
平和への第一歩、聖遷、聖家族エジプト避難の旅の実際
【授業概要】
自分に敵対する悪行に反抗・敵対することで、真の平和がもたらされるであろうか？ムハンマドや聖家族がとった姿勢は、＜平和的な反一抵抗（敵対）＞あった。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１５回　世界と日本の間違い～日本や諸外国を巨視的に捉える～
【key words】
中東、文化交流、カイロ大学文学部日本学科
【授業概要】
近代化１００年のスローガンは「西洋に追い着き追い越せ」であったが、日本人は中東世界については全く欠落していた。１９７３年、オイルショックが起こって初めて、中東世界との文化交流の重要性が認識されはじめることになった。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

受講生に関わる情報および受講のルール	・授業レジュメは原則として毎回配布する。 ・授業には積極的な態度で臨むように。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	世界の色々な国と関わる日本のニュースに、いつも関心を持っていただきたい。
オフィスアワー	授業後の5分間は対応可能です。また、リアクションペーパーに質問を記していただければ、次回の授業後にお答えします。
評価方法	最終試験（70%）、小レポート（20%）、リアクションペーパー（10%）
教科書	教科書は使用しないが、毎回の授業レジュメのほかに時々参考資料を配布する。
参考書	授業時に随時紹介する。久山宗彦著「神の文化と和の文化」（北樹出版）もそのうちの一つである。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 政治学Ⅱ　　授業コード：S5154

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
久山　宗彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的・到達目標】 世界の色々な国の中での日本が、それらの国とどのように関わっていけばよいかに関心を持ち、取り分け、問題を抱えている外国の人達にもどのように関わり、どのようにサポートできるかまで考える。
授業の概要	目下、日本人に求められているのは、地球市民として行動できる人になっていくことではなかろうか。このような原点に立ち返っての問題について、本講義では考えていきたい。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	２１世紀の世界秩序 【key words】 平和、イスラーム、ハーガ・リッラー、赦し 【授業概要】 平和を巡っての、イスラームの中での「サラーム」と日本の「和」の関わりを中心に、２１世紀の世界秩序について考察したい。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第２回	余暇・研究・仕事 【key words】 二つの世界観、受験教育、労働原理、プラトンのアカデメイア、cultとculture 【授業概要】 毎日の重要な睡眠・食事・適度の運動以外に、勉学（研究）・仕事・休息余暇の関わりについて深く考えてみる。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第３回	神の文化と和の文化 【key words】 和、一と多、個人化のプロセス 【授業概要】 神中心の思惟方法に対する和中心の思惟方法について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】

特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第４回　日本・韓国・中国の文化の違い（１）
【key words】
日同一文化圏、漢字文化圏、儒教文化圏
【授業概要】
日本・韓国・中国の文化の違いを私達はどのように乗り越えていったらよいかについて論じる。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第５回　日本・韓国・中国の文化の違い（２）
【key words】
日・韓・中の比較文化、歴史問題
【授業概要】
日本・韓国・中国の文化の違いを私達はどのように乗り越えていったらよいかについて論じる。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第６回　文明の衝突
【key words】
ハンチントン、八つの文明、パックス・アメリカーナ、テロの時代
【授業概要】
冷戦後の世界からは諸文明の対立・衝突が生じ、これが世界を動かしていくというハンチントン理論を紹介する。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第７回　聖徳太子・福沢諭吉の方針が日本外交の原点
【key words】
聖徳太子・福沢諭吉・華夷秩序、冊封国家、時事新報
【授業概要】
６０７年に聖徳太子が隋に送った「日出ずる処の天子、書を日没する処の天子に致す。つつがなきや」という、日中対等の姿勢を表す手紙は、日本外交の原点を説いたものと言えるが、この外交方針はその後の歴史を顧みれば、正しかったと言える。近代日本でこの外交の原点を説いたのは福沢諭吉である。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第８回　ユダヤ文明とキリスト教文明の対話
【key words】
ヘブライズム・ヘレニズム、イエス、準備と完成
【授業概要】
クリスチャンはユダヤ人の信仰を、他の信仰の伝統とは違ったものと見做している。キリスト教は自らを、イスラエルの子供たちの信仰の自然的な継続と見ているのである。神がイスラエルの子供たちになした約束は、イエスにおいて成就された、と新約聖書は語っている。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第９回　ロシア（ギリシャ）正教文明～ローマ・カトリック世界と比較しつつ～
【key words】
第二バチカン公会議、教皇皇帝主義・皇帝教皇主義、テオドシウス一世
【授業概要】
キリスト教をローマ帝国の国教にしたテオドシウス一世の死後、この国は西ローマ帝国（ローマ・カトリック教会）と東ローマ帝国（ギリシャ正教会）にわかれ、ギリシャ正教会（東方正教会）はイスラームの影響もあって、聖像禁止令まで出すことになった。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１０回　キリスト教文明とイスラーム文明の対話（１）
【key words】
モーセ、サリーブ（十字架）と、アッラー・アクバル、共存
【授業概要】
モーセの山（ガバル・ムーサ）の頂上を目指す旅を通じて、ムスリムとクリスチャンの対話を考

	えてみたい。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１１回　キリスト教文明とイスラーム文明の対話（２） 【key words】 クルアーン、ネストリウス派のクリスチャン、ムハンマド 【授業概要】 イスラームの聖典、クルアーンは、旧約・新約聖書のアラビア的陳述であると言われる。「我らはこれをアラビア語のクルアーンにしておいた。お前たちにもわかるように。その内容はすべて我々の手元にある啓典の母体に載っているいと高くいとも賢きもの。」（光まばゆい部屋飾りの章４３：３～４９）対話の第一歩は相互認識だと思う。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１２回　平和について考える（１）～コプトの平和観～ 【key words】 報復の原理、コプトの平和論 【授業概要】 ヘロデ王の幼子イエス殺害計画という攻撃に対してなされた聖家族のエジプト避難の旅には、積極的な反一抵抗（敵対）という極めて能動的な態度が見られるが、これは「汝の敵を愛し、汝の敵を赦すように」というコプトの平和論からきている。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１３回　平和について考える（２）～アッシジの聖フランシスコの平和観～ 【key words】 聖フランシスコと教皇フランシスコ、「平和を求める祈り」 【授業概要】 戦いと平和を巡って、エジプトのスルターンと熱い対話をした聖フランシスコであったが、スルターンの真の回心は望めなかった。これは現在のムスリムとクリスチャンの対話にも通じるものがあるようだ。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１４回　ダブリン（Dublin）のホスピス発祥の地である「聖母ホスピス」を訪ねて 【key words】 ターミナルケア、聖母ホスピス、careとcure 【授業概要】 医療技術は絶えず最新のものでなければならないが、「死」に対する深い精神的な態度は変わるものではない。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１５回　歴史から学ぶ国際政治学と日本の進む道 【key words】 国際政治学、理想主義、現実主義、現状是認主義 【授業概要】 国際政治学は、時代によって平和の到来を大きく捉えたり、現実主義へ回帰していったりしている。歴史の中には因果関係を考える題材が豊富にあるはずである。しかし、体系的な因果関係を考えることはなかなか難しい。また、日本で言われる現実主義は現状是認主義の場合が多く、Realismと区別しなければならない。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業レジュメは原則として毎回配布する。 ・授業には積極的な態度で臨むように。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	世界の色々な国と関わる日本のニュースに、いつも関心を持っていただきたい。
オフィスアワー	授業後の5分間は対応可能です。また、リアクションペーパーに質問を記していただければ、次回の

	授業後にお答えします。
評価方法	最終試験（70%）、小レポート（20%）、リアクションペーパー（10%）
教科書	教科書は使用しないが、毎回の授業レジュメのほかに時々参考資料を配布する。
参考書	授業時に随時紹介する。久山宗彦著「神の文化と和の文化」（北樹出版）もそのうちの一つである。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　マスメディア論　　授業コード：S5155

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
新井　英司			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　混迷の現代社会の中で、いかに自分の人生を輝かせていくか。そのために、物事を客観的に見ていくには どうしたらよいのだろうか。 　３５年前、群馬県上野村で起きた日航機の墜落という大惨事を多角的に見つめながら、墜落は事故だった のか、それとも事件だったのか、考察してゆきます。 【到達目標】 ①ものの見方、考え方が深められるようになる。 ②客観的な認識の方法と態度について理解する。 ③メディア・リテラシーが磨かれる。 ④複眼で見る大切さを知る。 ⑤なぜ、という問いの重要性を認識する。
授業の概要	日航１２３便の墜落は単独機としては世界最大の犠牲者、５２０人を数えました。しかし、３５年も 経とうとするいま、依然として原因は不明で、墜落の責任はだれ一人とっていません。 　そこで、墜落をめぐる国、自衛隊、警察、日航、米軍等の動きを追いながら、墜落の真相を探ります。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　　オリエンテーション 【key words】 令和の時代と世界 【授業概要】 ・オリエンテーション ・「令和」という時代、どんな風景？ ・ファクト(事実)とフェイク(偽) ・政府はいつも真実を語っているか 【教科書ページ・参考文献】 米国映画『記者たち』と日本映画『新聞記者』➡政府はウソをつく 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・情報やニュースを批判的に読むことを日日の生活態度にしよう。 ・これ本当か、疑問に思ったら確かな複数の新聞で確認してみよう。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分

第２回　　１９８５年８月１２日、それは起きた！

【key words】
「どうして自分たちは死ななければならなかったのか」
【授業概要】
・あの日に何が見えたのか
・事故原因は圧力隔壁修理ミスか
・多数の腑に落ちない出来事
・新たな真実を求めて

【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』の序章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「日航機の航跡と機内状況」（テキストの第１，２章）
墜落した日航機は羽田を離陸して４４分、細かく追ってみよう。

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第３回　　日航機の航跡と機内状況

【key words】
離陸から４４分間のドキュメント
【授業概要】
・日航１２３便の航跡
・１８時２４分、コックピットは極度の緊張
・事故から３５年、いま遺族は‥

【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』（序章　第１，２，３章）
配布資料　「日航機の航跡図」「家族に宛てたメモ」ほか

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「圧力隔壁をめぐって」
（テキストの序章、第１、２、３章）

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第４回　　圧力隔壁をめぐって

【key words】
原因は圧力隔壁の修理ミスか？
【授業概要】
・事故原因を推理してみよう
・全日空雫石事件とは何か
・墜落原因の不徹底な究明
・真相を追って

【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』（序章　第１，２，３章）、
「日航機墜落　今日１５年　圧力隔壁説に？」（毎日新聞）ほか

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「遺族の気持ち、政治家や日航関係者の発言」
（テキストの序章、第１、２、３章）

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第５回　　遺族の気持ち、政治家、関係者の発言

【key words】
原因究明への温度差
【授業概要】
・まるで他人事、政治家の動き
・事故原因に触れたがらない日航関係者
・２６万人の署名、究明を求める遺族

【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』（序章　第１，２，３章）、
「変わらぬ想い　日航機事故３４年　英国婦人」（2015/08/04　上毛新聞）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「自衛隊、米軍、警察等の動向」
（テキストの序章、第１、２、３、４章）

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第６回　　不可解な救助体制　～自衛隊、米軍、警察等の動向～

【key words】
不可解な救助活動
【授業概要】
・これまでの登場人物を確認しょう　（別紙資料）
・不可解な自衛隊の動向
・墜落時の自衛隊
・米軍の対応
・東京消防庁の対応

・群馬県警察の対応

【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』(序章　第１、２、３、４章)
「国産ミサイル本格推進」(1985/08/11　日航機墜落前日の読売新聞)

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「地元の小、中学生は見た」
(テキストの序章、第１、２、３、４、終章)

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第７回　地元の小、中学生は見た

【key words】
生かされない目撃情報

【授業概要】
・「小さな目、事故に怒り」
・文集が記録した墜落前後の上野村
・真っ赤な飛行機とファントム二機
・未来を見つめて

【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』(序章　第１、２、３、４、終章)
「川上慶子さん　死の直前の妹を励ます」（上毛新聞）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「遺体に秘められた事実」
(テキストの序章、第１、２、３、４、終章)

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第８回　遺体に秘められた事実

【key words】
「死人に口あり」

【授業概要】
・「死人に口あり」
・どうしてなの、完全炭化の遺体
・炭化遺体の不自然な位置
・ガソリンとタールの異臭

【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』(序章　第１、２、３、４、終章)
「５０５名の遺体の位置」(事故調査報告書から作成)

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「遺物、展示品が教えるもの」
(テキストの序章、第１、２、３、４、終章)

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第９回　遺物、展示品が教えるもの

【key words】
第４エンジンのなぞ

【授業概要】
・木っ葉微塵の第４エンジン
・墜落現場にはあり得ない遺物
・編集されたボイスレコーダ

【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』(序章　第１、２、３、４、終章)
参考文献　青山　透子『日航１２３便墜落　遺物は真相を語る』

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「御巣鷹山と高天原山」
墜落現場の上野村の「上野」とは何のこと？

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１０回　御巣鷹山と高天原山

【key words】
古い信仰に根付いた地域

【授業概要】
・上野村の「上野」とは
・御巣鷹山とはどんな山
・墜落現場、高天原山とは
・「彷徨える魂を救う」

【教科書ページ・参考文献】
配布資料　「山中領」と呼ばれた地域の地図と特徴

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「点と線と面と」

		青山　透子　　著者は全体をどう推理したか 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第１１回	点と線と面と 【key words】 著者、青山　透子さんの推理 【授業概要】 ・点と線と面と ・墜落にまつわる異例な事態 ・著者、青山　透子さんの推理 ・間違ったことを正す勇気 【教科書ページ・参考文献】 青山　透子著『日航１２３便　墜落の新事実』(序章～終章) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回は「墜落から３５年、いま」 風化していく墜落、次世代への語り部は 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第１２回	墜落から３５年、いま 【key words】 我がもの顔の日米地位協定 【授業概要】 ・墜落から３４年、いま ・不平等な日米地位協定 ・次世代に向け、語り部となれ 【教科書ページ・参考文献】 青山　透子著『日航１２３便　墜落の新事実』(序章～終章) 沖縄では基地内の「水質汚染調査　米軍拒む」(2018/11/25　朝日) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回は「討論　墜落は事故か事件か」 日航１２３便の墜落をどう見るか、各自の考えをまとめて下さい 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第１３回	討論　墜落は事故か事件か 【key words】 事故か事件か 【授業概要】 ・討論　墜落は事故か事件か ・事故ならば‥‥ ・事件ならば‥‥ 【教科書ページ・参考文献】 青山　透子著『日航１２３便　墜落の新事実』(序章～終章) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回は「急がば回れ」 人は常に選択、判断を迫られる、そこで大切なことは 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第１４回	急がば回れ 【key words】 迫られる真偽の判断 【授業概要】 ・公権力によるデータのデタラメ化 ・急がば回れ ・苦労は買ってでも ・迫られる判断、選択 ・「嘘つきは、戦争のはじまり」(2019/01/07　宝島社の朝日新聞への全面広告) ・「ハンマーを持って。バカがまた、壁をつくっている。」 (2020/01/07　宝島社の朝日新聞への全面広告) 【教科書ページ・参考文献】 配布資料「時代を切る宝島社の新聞への全面広告」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回は「まとめ　客観的認識とは」 最終回はありがとうの心で前進 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第１５回	まとめ　客観的認識とは 【key words】 客観的認識とは 【授業概要】 ・客観的 ・主観と客観 ・客観的認識に大切な三つの視点 ・ありがとうの心で前進

	【教科書ページ・参考文献】 「自分で考える社会を取りもどす」（毎日新聞） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 後期の試験に向けて 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
受講生に関わる情報および受講のルール	タイムリーなニュースや話題を取り上げ、意見や感想を発表し合います。その都度、資料も配布しますので、積極的に参加して下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	毎時間授業終了後、３０分は対応可能。
評価方法	筆記試験１００％
教科書	テキストは　青山　透子　著『日航１２３便　墜落の新事実』（河出書房新社　刊）の最新版
参考書	日々の新聞、テレビ等。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 群馬テレビに４１年余り勤務し、この間、報道、制作、編成、営業、事業と各部門を経験、一方、アナウンサー　やプロデューサーとして番組・イベントの企画、制作に携わりました。 また、県域テレビ局の誕生から成長、さらにはテレビのデジタル化という難局に直面し、現場の局員として、あるいは役員、顧問として様々な試練を乗り越えて来ました。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　教職実践演習（中・高）　　授業コード：S5163

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
江原　京子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　それまでに履修した教職に関する科目の状況を踏まえ、教員としての必要な実践的指導力を確認し、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできることを目的とする。 [到達目標] １　履修カルテを通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補うことができる。 ２　急激な社会の変化に対応しきれない子どもたちの心の叫びに耳を傾けることができる。 ３　教師に求められる規範意識を確認することができる。
授業の概要	１　講義形態はオムニバス方式である。学校教育からの視点にとどまらず、それぞれの担当教員が、社会的規範、福 　祉の分野から、広い視野をもって将来、教員を目指す学生の資質の向上を図る。 ２　教師としての使命感や責任感、教育的愛情がもてるようにする。 ３　社会性や対人関係能力を養う。 ４　教科内容等の指導力が身につくように、授業設計と模擬授業を取り入れる。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等の説明）　共生社会を生きる 【key words】 ～との共生、共生･共育の思想と実践 【授業概要】 【受講にあたり】 1　全15回の授業はオムニバス方式となっているため、タイトル自体の変更はないが、回の入れ替わりがある。その旨を授業の初日に配布資料等で説明する。 2　資料等に関しては、各担当の教員が用意する。 　障害のある子どもと共に生き、共に学び合う、共生社会を生きる意味を探る。 【教科書ページ・参考文献】 参考図書：嶺井正也･小沢牧子(1996)『共生・教育を求めて』赤石書店. 資料、レジュメ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 共生･教育の思想と実践について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 子ども観について調べてくること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第２回	子どもの世界　-子ども観とは- 【key words】 子供の世界、子供観

【授業概要】
子供観とは、子供をどのような存在とみなすかに関する大人社会で広く共有されている見方のことである。近世になって、子供はただの「小さな大人」なのではなく、子供という独自な存在であるとみなされるようになった。子供観の変遷について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
参考図書：宮澤康人、星薫(1992)『子供の世界』放送大学教育振興会.
舘昭、広瀬洋子(1991)『子供観』放送大学教育振興会. 資料、レジュメ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
子ども観とは何か、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
インテグレーションとインクルージョンについて調べてくること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第３回　障害児教育を考える
【key words】
障害者の定義、障害児教育の成立、養護学校義務化

【授業概要】
生産性の低い原始・古代社会は、多くの障害児（者）の遺棄・殺害が行われ、生産力向上･キリスト教の普及になると、障害児（者）の保護・救済が行われるようになった。貧困からの開放の手段として、子ども･障害児（者）の教育・訓練に着目されるようになった歴史的変遷を辿り、現在の障害児教育を考える。
【教科書ページ・参考文献】
参考図書：後藤安彦(1988)『逆光の中の障害者たち』千書房
資料、レジュメ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
障害児教育の歴史的変遷を理解し、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
障害者の権利条約･教育について調べてくること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第４回　学校における合理的配慮と環境整備
【key words】
障害者の権利に関する条約、合理的配慮、環境整備

【復習・課題：
【授業概要】
平成26年1月、わが国は「障害者の権利に関する条約」を批准し、共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育を推進していく必要がある。学校における合理的配慮と環境整備について具体的に学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
障害者の権利条約･教育
資料・レジュメ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学校における合理的配慮と環境整備について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。教師に必要とされる資質について考えてくること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第５回　教職について考える　①　A小学校教諭のドキュメンタリーから教師に必要とされる資質、教育的愛情、使命感について学ぶ
【key words】
教師に必要とされる資質、教育的愛情、使命感

【授業概要】
A小学校教諭のドキュメンタリー番組の映像を視聴し、教師に必要とされる資質、教育的愛情、使命感について学ぶ。
グループになり、意見交換を行う。
【教科書ページ・参考文献】

ドキュメンタリー番組の録画
レジュメ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教師に必要とされる資質、教育的愛情、使命感について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。配布資料を読んでおくこと。学校文化と教師文化について調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第６回　教職について考える　②　学校文化、教師文化からみる教師像
【key words】
学校文化、教師文化

予習：配布資料と生徒指導提要を読んでおくこと。
　　生徒指導提要を持参すること。
【授業概要】
学校文化、教師文化からみる教師像について学ぶ。
わが国における学校文化、教師文化についてグループ討議を行う。

【教科書ページ・参考文献】
参考書：長田勇他(1990)『なぜ少女は走ったか』川島書店.
配付資料･レジュメ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
わが国における学校文化、教師文化について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。生徒指導提要を読み、次回の授業に持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第７回　教職について考える　③　生徒指導の事例から教師と家庭との連携について考える
【key words】
生徒指導の在り方、家庭との連携

生徒指導、家庭との連携

【授業概要】
生徒指導（「断念を教えることのつらさ－家庭に複雑な事情のある生徒－」）の事例から教師と家庭との連携について考える
グループになり、意見交換を行う。
【教科書ページ・参考文献】
参考書：関根正明(1998)『子どもの心にせまる生徒指導』学事出版.
配付資料、レジュメ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
生徒指導の在り方について、本時の内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。学校内の職務内容、役割等を調べておくこと。第12回、13回のプレゼンテーションの準備をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第８回　学校内におけるチームアプローチ
【key words】
教員の役割、職務内容、教職員間の連携

【授業概要】

教員の役割、職務内容、教職員間の連携の在り方について学ぶ

【教科書ページ・参考文献】
配布資料、レジュメ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学校を取り巻く地域社会と保護者との人間関係について、各自、考えをまとめておくこと。
学校内におけるチームアプローチについて、ミニミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第９回　学校外の関係者との協働
【key words】

地域社会、保護者との連携

【授業概要】

学校を取り巻く地域社会や保護者との人間関係の構築等について学ぶ

【教科書ページ・参考文献】
配布資料、レジュメ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学校を取り巻く地域社会や保護者との人間関係の構築等について、ミニミニレポートにまとめ、期日日までに提出すること。学校と協働している専門機関・専門職にはどのような所・ものがあるか、調べておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１０回　他専門機関・専門職との協働
【key words】
医療、福祉、労働
【授業概要】

教員が医療、福祉、労働といった他専門機関・専門職と協働することで、生徒理解を深める

【教科書ページ・参考文献】
配布資料、レジュメ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
他専門機関・専門職との協働について、ミニミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１１回　教育法規－教師がよってたつべき法規範－①日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則
【key words】
日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則、体罰

【授業概要】
日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則の重要な条文を音読してもらった後、その意義等の解説を加える。それを踏まえて、体罰に関する判例を用いて討論を行なう。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント（日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布プリント（学校保健安全法、教員職員免許法、地方公務員法、教育公務員特例法、著作権法）の特に下線が引かれた条文を確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１２回　教育法規－教師がよってたつべき法規範－②学校保健安全法、教員職員免許法、地方公務員法、教育公務員特例法、著作権法
【key words】
学校保健安全法、教員職員免許法、地方公務員法、教育公務員特例法、著作権、

【授業概要】
学校保健安全法、教員職員免許法、地方公務員法、教育公務員特例法、著作権法の重要な条文を音読してもらった後、その意義等の解説を加える。それを踏まえて、著作権に関する具体例を用いて討論を行なう。

【教科書ページ・参考文献】
配布プリント（学校保健安全法、教員職員免許法、地方公務員法、教育公務員特例法、著作権法）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
練習問題の答案提出と交換に解説を渡すので、よく復習をしておいてほしい。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１３回　授業設計と模擬授業　① -中学校の教育実習から-
【key words】
教材観、生徒観、導入の仕方、授業設計

【授業概要】
　中学校の教育実習で実施した授業実習を振り返り、授業実習の総まとめとして行なった研究授業を基にして授業設計のあり方を検証する。
　作成した資料を基にプレゼンテーションを行う。
【教科書ページ・参考文献】
発表者が作成した資料、レジュメ

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 各発表者の授業設計について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分 第１４回　授業設計と模擬授業　② -高等学校の教育実習から- 【key words】 教材観、生徒観、導入の仕方、授業設計 【授業概要】 高等学校の教育実習で実施した授業実習を振り返り、授業実習の総まとめとして行なった研究授業を基にして授業設計のあり方を検証する。 作成した資料を基にプレゼンテーションを行う。 【教科書ページ・参考文献】 発表者が作成した資料、レジュメ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各発表者の授業設計について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分 第１５回　「教職実践演習」のまとめ；改めて教師とはー使命感・責任感、教育的愛情等を確認するーB小学校の実践事例を通してー 【key words】 使命感・責任感、教育的愛情 【授業概要】 F県B小学校のLD通級指導教室に通う子どもの「わかった」に寄り添う指導の実際の場面を録画したビデオを視聴し、教師としての使命感・責任感・教育的愛情とは何かを確認する。 【教科書ページ・参考文献】 B小学校の実際の指導の様子を録画したDVD レジュメ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 改めて教師とはー使命感・責任感、教育的愛情等-について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。定期試験に向けて準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
受講生に関わる情報および受講のルール	１　遅刻・欠席は授業時間前に必ず届け出ること。無断欠席や遅刻の多い学生は受講取消もあり得る。 ２　授業中に課したミニレポート・シャトルカードを必ず提出すること。 ３　予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。 ４　将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード、ミニレポート
授業外時間にかかわる情報	１　授業の要約もしくは課題をミニミニレポートにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニミニレポートをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。 ２　定期試験やミニミニレポートのまとめは授業中の内容が中心となるため、真摯な態度で授業に臨み、毎回の授業内容を確認し、疑問点等を残さないようにしておくこと。
オフィスアワー	水曜日　16時～18時　それ以外の時間帯については、要相談・要予約
評価方法	授業中に課したミニミニレポート(30%)、小テスト(40%)、発表の内容（10%）、試験またはレポート（20%）を総合して評価する。
教科書	各担当教員が準備する。
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 ・教育委員会の適応指導教室、中学校の特別支援学級を担当した経験をもつ教員が、一人一人の子どもの障害特性を理解し、多様性を受け入れられる広い視野がもてる教師の育成を目指す。 ・カウンセラー経験のある教員が、学校現場で求められる教育相談についての解説や、スクールカウンセラー・外部機関との連携の重要性、カウンセリングの 基本的な考え方、技法などについて指導を行う。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習)

	■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　病弱者の心理・生理・病理　　授業コード：S5351

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
李　英姿			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 本講義を通して、病弱児の教育では、児童生徒の個別の実態を適切に把握し、心理・生理・病理学の側面を踏まえて援助することが必要であり、一人ひとりの児童生徒に対応した指導内容・方法の習得を目的とする。 【到達目標】 ①病弱児の生理・心理の基礎知識について説明することができる。 ②「特別支援教育」などに携わる際に「子どもの慢性疾患」の基本的知識を身につけることができる。
授業の概要	病弱児は、その原因となる疾患のため、学校教育や社会参加に支障をきたしている。病弱児を支援するには、その疾患及び病態を理解することが前提となる。これらを理解したうえで、病弱児の教育及び社会参加のための支援について考える。特別支援学校教諭として必要な医学知識と病弱児の心理、家族と地域の介護、教育との連携による支援体制を学習する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション 【key words】 健康、病気、障害、病弱者（児） 【授業概要】 健康、病気、障害の定義、病弱者両育児の対象疾患について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p１～７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：p２８～４４ 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第２回	発達障害の考え方と広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害 【key words】 発達障害、自閉症、ADHD 【授業概要】 発達障害の定義、自閉症、広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害の原因、疫学、症状、治療、支援方法等について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p２８～４４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　p４５～５４

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第３回　知的障害を伴わない発達障害と二次障害
【key words】
発達障害、二次障害、予防
【授業概要】
発達障害の二次障害の症状と予防対策等について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p４５～５５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p５９～７３
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第４回　循環器疾患の理解と支援
【key words】
先天性心疾患、後天性心疾患
【授業概要】
先天性心疾患と後天性心疾患の症状、診断、治療および学校における心疾患児童への対応の注意点等について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p５９～７３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p７４～８５
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第５回　呼吸器疾患の理解と支援
【key words】
呼吸器の感染症、喘息、過換気性症候群
【授業概要】
呼吸器の感染症、喘息、過換気性症候群の定義、原因、疫学、症状、治療、支援方法等について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p７４～８５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p８６～１０２
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第６回　悪性腫瘍の理解と支援
【key words】
小児がん、白血病、脳腫瘍
【授業概要】
小児がんの特徴、白血病、脳腫瘍の原因、疫学、症状、検査、診断、治療、緩和医療とターミナルケア等について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p８６～１０２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p１０３～１１４
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第７回　腎・泌尿器疾患の理解と支援
【key words】
腎炎、ネフローゼ症候群、尿路感染症
【授業概要】
急性、慢性腎疾患の原因・疫学・症状・検査・診断・治療、子どもの学校生活における留意点について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１０３～１１４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p１１５～１３３
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第８回　成長障害、内分泌疾患の理解と支援
【key words】
成長障害、低身長、肥満、糖尿病
【授業概要】
成長障害、低身長、肥満、糖尿病の原因・診断基準・症状・治療等について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p１１５～１３３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p１３４～１４９
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第９回　消化器疾患の理解と支援
【key words】
嘔吐、下痢、便秘、胃・十二指腸潰瘍

【授業概要】
嘔吐下痢症、便秘、消化道潰瘍の原因・症状・治療・予防について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１３４～１４９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p１５０～１７３
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１０回　神経系疾患の理解と支援（１）　てんかん、脳性まひ、ダウン症
【key words】
てんかん、脳性麻痺、ダウン症
【授業概要】
てんかん、脳性麻痺、ダウン症の原因・疫学・症状・診断・治療・支援方法等について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p１５０～１７２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p１７３～１９４
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１１回　神経系疾患の理解と支援（２）　知的障害、脊髄性筋萎縮症、筋ジストロフィー
【key words】
知的障害、脊髄性筋萎縮症（SMA）
【授業概要】
知的障害、脊髄性筋萎縮症、筋ジストロフィーの定義・疫学・症状・診断・治療・予後について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１７３～１９４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p１９７～２０５
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１２回　病気、障害の受容とセルフケア
【key words】
受容、セルフケア
【授業概要】
病気・障害の受容とセルフケアの定義、過程と特徴について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p１９７～２０５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p２０６～２１４
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１３回　病気、障害の子どもの心理的特性
【key words】
疾患、病気、、社会、心理問題
【授業概要】
病弱児の病気への理解、抱えやすい心理、社会的問題について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p２０６～２１４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　p２１５～２２４
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１４回　教育・医療・保健・福祉の連携と支援
【key words】
フォーマル・サービス、インフォーマル・サポート、ノーマライゼーション、全人的ケア
【授業概要】
地域で暮らすことへの包括的支援、全人的ケアの理念と機能等について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p２１５～２２４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学習内容を復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１５回　まとめ
【key words】
病弱児の基礎疾患
【授業概要】
今まで学んだ病弱児の原因疾患について、疾病の定義、原因、疫学、分類、症状、検査、診断、治療、予後、支援法などを復習する。

【教科書ページ・参考文献】
ｐ１～２２４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
期末試験準備
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

受講生に関わる情報および受講のルール	病弱児の療育及び福祉に対する熱意のある学生の受講を望みます。ノートをきちんととること。携帯電話・スマートフォンは机の上に置かずにしまっておくこと。私語厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時の指示する
オフィスアワー	授業終了後３０分まで
評価方法	筆記試験（100%）
教科書	小野次朗ら　編著　　病弱児の生理・病理・心理　　ミネルヴァ書房　　最新版
参考書	講義に必要な資料、プリントなど適宜配布する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： LD等教育総論　　授業コード： S5401

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
江原　京子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　地域の小・中学校に在籍するLD（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動性障害）、高機能自閉症等、発達障障害のある子ども達の特性を把握し、一人一人がもつ「困り感」を理解し、その指導・支援方法を考えていく。 [到達目標] 1　LD･ ADHD･高機能自閉症等、発達障害のある子ども達の特性を把握できる。 2　LD･ ADHD･高機能自閉症等、発達障害のある子ども達がもつ「困り感」に寄り添う指導・支援ができる。 3　LD通級指導教室の実際の指導の様子をみて、一人一人に合った教材・教具を作成することができる。
授業の概要	1　特殊教育から特別支援教育へと移行した歴史的背景に触れながら、LD,ADHD,高機能自閉症といわれる発達障がい 　　のある子どもたちの学校における「困り感」を緩和できるような指導・支援方法を考えていく。 2　LD 通級指導教室での実際の指導の様子を見ながら、発達障がいのある子どもにとって有効な指導・支援方法を探 　　り、個別の教育支援計画・指導計画の作成方法を学ぶ。 3　学校の支援体制にも触れ、保護者との好ましい関係づくりを模索していく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　　科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等の説明）　　特殊教育から特別支援教育へ 【key words】 特殊教育、特別支援教育 【授業概要】 ※　15回の予定は、受講生の関心や理解の程度により多少変更があります。 障害の種類や程度等に応じ特別の場で指導を行う特殊教育から、障害のある児童生徒まで含めて一人ひとりの教育的ニーズに応じて適切に支援を行う特別支援教育とは何かを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 参考書：石部元雄『よくわかる障害児教育　第3版』(2015) ミネルヴァ書房 文部科学省ホームページ　第1章　特殊教育から特別支援教育へ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特殊教育から特別支援教育へと変わっていった歴史的変遷を復習し、本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。テキストP64～P79の該当ページを事前に学習してお

くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第２回　LDとは　　LDの定義・特性（視･聴覚）-アメリカにみる歴史的な背景 -
【key words】
LDの定義、特性(視覚･聴覚)

【授業概要】

LDの概念がS.A.Kirkによって提唱された当時のアメリカの社会的背景に目を向ける。
LDの定義に言及し、その特性（視覚･聴覚）を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
テキストP64～P71　第3章　LD、ADHD、高機能自閉症の概論
【課題・予習・復習・授業準備指示】
LDとは何か、LDの定義とその特性に言及した本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。テキストP64～P71、P80～P92の該当ページを事前に学習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第３回　ADHDとは　　ADHDの定義・特性(感覚と知覚)
【key words】
ADHDの定義、特性(感覚と知覚)

【授業概要】

ADHDの定義に言及し、その特性(感覚と知覚）を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
テキストP64～P71、P80～P92　第3章　LD、ADHD、高機能自閉症の概論

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ADHDとは何か、ADHDの定義とその特性に言及した本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。テキストP64～P79、P93～P102の該当ページを事前に学習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第４回　高機能自閉症と自閉症　　自閉症の定義・特性(感覚と知覚)
【key words】
高機能自閉症、自閉症の定義、特性(感覚と知覚)

【授業概要】

高機能自閉症、自閉症の定義に言及し、その特性(感覚と知覚）を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
テキストP64～P79、P93～P102　第3章　LD、ADHD、高機能自閉症の概論
【課題・予習・復習・授業準備指示】
高機能自閉症の定義とその特性に言及した本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。発達の遅滞や発達障害の判定のために用いられることの多い、WISC知能検査について調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第５回　WISC知能検査から子どもの特徴を捉える
【key words】
WISC知能検査、子どもの特徴･特性

【授業概要】
・発達の遅滞や広汎性発達障害の判定のために用いられることの多いWISC知能検査を学び、子どもの
特徴･特性を捉える。
・実際のWISC知能検査に触れる。

【教科書ページ・参考文献】
WISC知能検査
WISC知能検査についての配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実際のWISC知能検査に触れ、本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
文部科学省ホームページ：「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」とについて調べておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第６回　「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」
【key words】
個別の教育支援計画、個別の指導計画

【授業概要】

「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」とは何かについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
文部科学省ホームページ「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」について
「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」についての資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」とは何か、本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。テキストP12～P19の該当ページを事前に学習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第７回　発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援　①　読み書きが苦手な子どもの理解と指導の在り方
【key words】
発達障がい、「困り感」、読み書きの指導

【授業概要】

読み書きが苦手な子どもの理解と指導の在り方を学び、発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援を考える。

【教科書ページ・参考文献】
テキストP12～P19　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして

【課題・予習・復習・授業準備指示】
読み書きが苦手な子どもの理解と指導の在り方について、本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。テキストP20～P27　第2章　指導の方法と理論:具体例を事前に学習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第８回　発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援　②　算数が苦手な子どもの理解と指導の在り方
【key words】
発達障がい、「困り感」、算数の指導

【授業概要】

算数が苦手な子どもの理解と指導の在り方を学び、発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援を考える。
【教科書ページ・参考文献】
テキストP20～P27　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして
【課題・予習・復習・授業準備指示】
算数が苦手な子どもの理解と指導の在り方について、本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。テキストP28～P43　第2章　指導の方法と理論:具体例を事前に学習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

	第９回	発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援　③　不注意・多動・衝動性のある子どもの理解と指導の在り方 在り方 【key words】 発達障がい、「困り感」、不注意･多動･衝動性 【授業概要】 不注意・多動・衝動性のある子どもの理解と指導の在り方を学び、発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援を考える。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP28～P43　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして 【課題・予習・復習・授業準備指示】 不注意・多動・衝動性のある子どもの理解と指導の在り方について、本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。テキストP44～P61の該当箇所を事前に学習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１０回	発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援　④　対人関係が苦手な子どもの理解と指導の在り方 【key words】 発達障がい、「困り感」、対人関係 【授業概要】 対人関係が苦手な子どもの理解と指導の在り方を学び、発達障がいのある子どもの「困り感」に寄り添う支援を考える。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP44～P61　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして 【課題・予習・復習・授業準備指示】 対人関係が苦手な子どもの理解と指導の在り方について、本時の授業内容をミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。テキストP8～プレゼンテーションを行う箇所を選び、事前にレジュメを作成し準備を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１１回	LD通級指導教室の指導の実際　　①　子どもの実態を把握する 【key words】 LD通級指導教室、子どもの実態、指導の実際 LD通級指導教室、子どもの実態、指導の実際 【授業概要】 ※プレゼンテーションの順番について;予め学生相互で話し合って決定する。 　レジュメ等、プレゼンテーションに必要な資料は各自が予め用意し、配布する。 LD通級指導教室に通う子どもの実態を把握し、指導の実際を学ぶ。 テキストの第2章　指導の方法と理論:具体例をとおしての中から、興味関心のある指導例をまとめ、プレゼンテーションを行う①。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP8～　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして 資料：プレゼンテーションのレジュメ等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 LD通級指導教室の指導の実際を踏まえ、プレゼンテーションの内容についてミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。プレゼンテーションの準備をする。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１２回	LD通級指導教室の指導の実際　　②　子どもの実態に合った指導・支援方法を捉える 【key words】 LD通級指導教室、子どもの実態、指導･支援方法 【授業概要】 LD通級指導教室に通う子どもの実態を把握し、指導・支援方法を捉える。 テキストの第2章指導の方法と理論:具体例をとおしての中から、興味関心のある指導例をまと

め、プレゼンテーションを行う②。
【教科書ページ・参考文献】
テキストP8～　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして
資料：プレゼンテーションのレジュメ等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
LD通級指導教室の指導の実際を踏まえ、プレゼンテーションの内容についてミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。プレゼンテーションの準備をする。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１３回　LD通級指導教室の指導の実際　③　子どもの実態に合った教材・教具を考える
【key words】
LD通級指導教室、子どもの実態、教材･教具

【授業概要】
LD通級指導教室に通う子どもの実態を把握し、一人ひとりに合った教材・教具の在り方について考える。
テキストの第2章指導の方法と理論:具体例をとおしての中から、興味関心のある指導例をまとめ、プレゼンテーションを行う③。
【教科書ページ・参考文献】
テキストP8～　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして
資料：プレゼンテーションのレジュメ等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
LD通級指導教室の指導の実際を踏まえ、プレゼンテーションの内容についてミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。プレゼンテーションの準備をする。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１４回　LD通級指導教室の指導の実際　④　教材・教具の有効的な活用方法
【key words】
LD通級指導教室、教材･教具の有効的な活用方法

【授業概要】
LD通級指導教室に通う子どもの実態を把握し、一人ひとりに合った教材・教具の有効な活用方法について考える。
テキストの第2章指導の方法と理論:具体例をとおしての中から、興味関心のある指導例をまとめ、プレゼンテーションを行う④。
【教科書ページ・参考文献】
テキストP8～　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして
資料：プレゼンテーションのレジュメ等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
LD通級指導教室の指導の実際を踏まえ、プレゼンテーションの内容についてミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。LD指導教室の指導の実際を確認しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１５回　保護者との関わり／まとめ
【key words】
保護者との関わり、寄り添う

【授業概要】
LD通級指導教室等、通常学級に在籍している発達障がいのある子どもとの指導・支援を通して、当該子どもの保護者との関わり、寄り添う支援を考える。
まとめを行う。

【教科書ページ・参考文献】
テキストP8～　第2章　指導の方法と理論:具体例をとおして
資料：保護者との関わりについて
【課題・予習・復習・授業準備指示】
LD通級指導教室等、通常学級に在籍する子どもとの関わりを通して、当該子どもの保護者との関わり方についてミニレポートにまとめ期日までに提出すること。定期試験に向けて準備をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

受講生に関わる情報および受講のルール	1　遅刻・欠席は授業時間前に必ず届け出ること。無断欠席や遅刻の多い学生は受講取消もあり得る。 2　授業中に課したミニレポート・シャトルカードを必ず提出すること。

	3　予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。 4　将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード、ミニレポート
授業外時間にかかわる情報	1 授業の要約もしくは課題をミニミニレポートにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニミニレポートをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。 2 定期試験やミニミニレポートのまとめは授業中の内容が中心となるため、真摯な態度で授業に臨み、毎回の授業内容を確認し、疑問点等を残さないようにしておくこと。
オフィスアワー	水曜日　16時～18時　それ以外の時間帯については、要相談・要予約
評価方法	授業中に課したミニミニレポートの内容（30%）、発表（20%）、試験またはレポート（50%）を総合して評価する。
教科書	独立行政法人国立特殊教育総合研究所『LD・ADHD・高機能自閉症の子ども指導ガイド』東洋館出版、2005年
参考書	佐藤暁著　『見てわかる　困り感に寄り添う支援の実際』　学習研究社、200８年
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 学習障害コーディネーターの経験をもつ教員が、通常学級におけるLDの特性が見られる児童の指導、さらにはLD通級指導教室に通う児童の指導、担当教諭の指導を通して、一人一人に合った教材・教具の工夫・作成ができ、子どもの「困り感」に寄り添う指導･支援ができる教師を養成する。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 病弱教育　　授業コード：S5411

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	学校教育コース・選択
担当教員			
大谷　幸雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目標〕 病弱教育では特別支援教育の中では普通教育に近い学習をすることも求められている。また、近年、からだの病気以外にも心に問題を抱えている児童生徒も入級してきている。病弱教育のこのような様々の現状とその対応について理解できる。 〔到達目標〕 ①病弱児の主な病気についての理解が深まる。 ②病弱教育に係わる教員の専門性について理解できる。 ③病気の子や保護者の気持ちが理解できる。
授業の概要	病弱教育は対象の児童生徒が罹患している主な病気について理解を深めるとともに、病弱教育の教員として問われる資質についても考えながら、病弱教育の専門性と病弱教員としての基本的な知識が習得出来る。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	△
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション　病弱教育とは　病気の子どもの現状 【key words】 病弱　虚弱　病弱教育　病弱の子の現状　障害者白書　全国病弱調査 【授業概要】 シラバスについて。病弱、虚弱の意味。テキストについて説明。県内の病弱特別支援学校について。学校参観について。　普通教育、特別支援教育、病弱教育のそれぞれの専門性について。学生に病気について調査発表の依頼。「①病弱教育ではどんな教員が求められているか？　②また、病弱教育に対してどのような対応が求められているかなど、また、この授業で何を学習したいか」をレポートにより提出。 【教科書ページ・参考文献】 テキストｐｐ．８－１４。参考書「病気の子どもの理解のために」より引用 【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表担当の病気について調べること、本日のまとめ、次回の予習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０～４０分
	第２回	病弱教育の変遷と現状 【key words】 海外の病弱教育　日本の病弱教育　病弱児の学校教育 【授業概要】 海外の病弱教育の歴史　日本の病弱教育の歴史　休暇集落　養護学園など病弱教育の歴史と用語の説明　病弱教育の意義　病気の子どもの学校教育 【教科書ページ・参考文献】 テキストｐｐ．１５－２１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】

本日のまとめと整理、課せられた病気について調べまとめておくこと。次回の予習。次回の発表者は発表資料を準備すること。次回ミニテスト①実施予定
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第３回　特別支援教育の現状　　病気の理解について①～例：色素性乾皮症　　膠原病
【key words】
インクルーシブ教育　　特別支援学校　　特別支援学級　　通級による指導　　XP　　紫外線　　コラーゲン病　　エリテマトーデス　　あざ

【授業概要】
特別支援教育の現状、特に病弱教育について理解する。また、色素性乾皮症、膠原病等について発表してもらった後、病弱教育の観点から配慮事項等を考察する。病弱教育についてミニテスト①実施。

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ．２２－２８、　　参考書「病気の子どもの理解のために」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の予習。次回の発表者は発表資料準備を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第４回　具体的な指導への配慮事項①　　病気の理解について②～例：腎疾患　　てんかん　等
【key words】
子どもの不安　　組織的な対応　　腎臓の働き　　発作　　コントロール　　診断と治療法　退院後　セルフケア

【授業概要】
病気になった子どもの不安、対応の仕方について考える。　発表者に腎疾患等について発表してもらった後、病弱教育の観点から配慮事項等を考察する

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ、３０－３７　　必要に応じて参考書の該当箇所
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の予習。次回の発表者は発表資料準備を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第５回　学校視察　出来ない場合は全国の病弱教育特別支援学校について資料調査
【key words】
病弱教育の現場　　全国にある病弱の特別支援学校

【授業概要】
県内の病弱特別支援学校を訪問、参観と説明を聞き、病弱教育の現状を知る。授業で出てきた病弱教育特有の特徴の確認を行う。見学の日を変更しても参観実施出来ない場合は全国にある病弱特別支援学校について資料等を通して実態調査をし発表する。

【教科書ページ・参考文献】
必要に応じて病弱特別支援学校の資料配付
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の病弱の特別支援学校の感想文①を提出する。次回の発表者は発表資料準備を行うこと。学校参観が実施出来なかった場合は、授業で出された日本国内にある病弱特別支援学校についてまとめ、課題等まとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分～４０分

第６回　病気の子どもに関する手続きと関係法令　　病気の理解について③～例：アレルギーとぜんそく　　クローン病　等
【key words】
学校教育法　　病院にある学級　　退院後　　気管支　　アレルゲン　　治療　ピークフローメーター　　炎症性腸疾患

【授業概要】
病気に罹患した子どものための教育環境について考える。法令に基づいた対応とは。　病気について発表してもらった後、病弱教育としての配慮事項を考察する。次回ミニテスト②実施予定

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ、４０－５２　　必要に応じて参考書の該当箇所
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の予習。次回の発表者は発表資料準備を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第７回　学習指導要領を踏まえた病弱教育について①　　病気の理解について④～例：肥満　　糖尿病　等
【key words】
個別の教育支援計画　　訪問教育　　自立活動　　食事　　運動　　生活　　血糖値　　インシュリン

【授業概要】
学習指導要領を踏まえて行う病弱教育の中にある個別の教育支援計画、教育課程編成について考える。また、発表者に肥満、糖尿病等について発表してもらった後、病弱教育の観点から配慮事項等を考察する。ミニテスト②実施。

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ、４０－５２　　必要に応じて参考書の該当箇所
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の予習。次回の発表者は発表資料準備を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第８回　学習指導要領を踏まえた病弱教育について②　　病気の理解について⑤～例：筋ジストロフィー　潰瘍性大腸炎　等

【key words】
高等部　自立活動　教科書　ベッドサイド　ジストロフィン　筋力低下　大腸　二次障害　クローン病

【授業概要】
前回に引き続けて学習指導要領を踏まえた指導について考える。　発表者に筋ジストロフィ、腫瘍性大腸炎等について発表してもらた後、病弱教育の観点から配慮事項等を考察する

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ、５４－９２　　必要に応じて参考書の該当箇所
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の予習。次回の発表者は発表資料準備を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第９回　具体的な指導への配慮事項②（入院）　　病気の理解について⑥～例：心疾患　ペルテス病　等

【key words】
身体の病気の事例　チアノーゼ　大腿骨　早期診断　早期治療

【授業概要】
身体の病気の事例について検討する。　発表者に心疾患、ペルテス病等について発表してもらった後、病弱教育の観点から配慮事項等を考察する。

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ、９４－１１２　　必要に応じて参考書の該当箇所
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の予習。次回の発表者は発表資料準備を行う。次回ミニテスト実施予定。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第１０回　具体的な指導への配慮事項③（家族に対して）　　病気の理解について⑦～例：もやもや病　ムコ多糖症　等

【key words】
心の病　脳血管　バイパス手術　GAG　酵素補充　喪失の体験

【授業概要】
身体の病気事例について検討する。　発表者にもやもや病、ムコ多糖症等について発表してもらった後、病弱教育の観点から配慮事項等を考察する。ミニテスト実施。

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ、１１３－１２５　　必要に応じて参考書の該当箇所
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の発表者は発表資料準備を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第１１回　具体的な指導への配慮事項④（入院中）　　病気の理解について⑧～例：白血病　血友病　等

【key words】
前籍校　連携　骨髄　プロトコール　造血組織　出血症状　インヒビター

【授業概要】
退院後に考えられることを事例を通して理解する。発表者に白血病、血友病等について発表してもらった後、病弱教育の観点から配慮事項等を考察する

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐｐ、１２６－１５２　　必要に応じて参考書の該当箇所
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の予習。次回の発表者は発表資料準備を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分～６０分

第１２回　具体的な指導への配慮事項⑤（退院に向けて）　　病気の理解について⑨～例：こころの病気　等

【key words】
ストレス、　脳の病気、１００人に一人

【授業概要】
こころの病は誰もが罹患する可能性のあるものであり、適切な治療で完治するものでもあるが、こじらせてしまうこともありうる。様々な心の病気について知り、正しい理解をする。

	【教科書ページ・参考文献】 テキストｐｐ、５０－５２．１１３－１２５．１８９－２０１　　必要に応じて参考書の該当箇所 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。次回の予習。次回の発表者は発表資料準備を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分 第１３回　具体的な配慮事項⑥（発達障害：LD、ADHD、自閉スペクトラム症）　病気の理解について⑩～例：脳腫瘍　他 【key words】 発達障害　LD　ADHD　自閉スペクトラム症 【授業概要】 発達障害（LD、ADHD、自閉スペクトラム症など）と病弱教育について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 テキストｐｐ．２０２－２１１、２１６－２２４　他　必要に応じて参考書の該当箇所 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日の病気と病弱教育としての観点から、配慮事項等をまとめ整理する。 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分 第１４回　具体的な指導への配慮事例⑦（退院後の生活、再発）　病気の理解⑪その他の病気 【key words】 配慮事項　受容　多軸評価　連携　知能検査　授業　活動　不登校 【授業概要】 現代社会の片隅で生じている様々な問題（摂食障害、不登校、緘黙等）について、考える目を持ち、理解し、対応について考えることができる。 【教科書ページ・参考文献】 テキストｐｐ．１２６－１５１、２１２－２１５、２２１－２２４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今までのまとめをする。今までの様々な検討から病弱教育の教師像を考える。「①この授業で何を学んだか？②どんな病弱教師になりたいか」を振り返ってレポート②次週提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分 第１５回　病弱教育の展望と今日的課題について 【key words】 病気と社会　自立と病気　進路問題　教師の専門性 【授業概要】 病弱教育の抱えている問題、課題について今まで受講した中から明確にさせていく。病弱教育の現状から問われる教師としての専門性についても考察する。「①この授業で何を学んだか？②どんな病弱教師になりたいか」を振り返ってレポート②を提出する。 【教科書ページ・参考文献】 まとめ資料提示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特別支援教育の一つである病弱教育について理解が深めたかを自分でチェックする。病気と児童生徒の関係を正しく理解すること。 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分～６０分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に係わる情報〕 ①病弱教育の現地視察が可能であれば、授業の一環として計画する。この場合は見学者の健康管理もできていないと実施できないので十分健康に注意する必要がある。 ②病弱教育は病気に関することを扱うきわめて教師の専門性や倫理観が求められる。そこで児童生徒について知り得た個人情報の取り扱いなどには十分注意する必要がある。 ③学校参観の日程などは不確実な面がある。また、病気について発表してもらうので、講義の回数と講義内容が必ずしも一致しない場合がある。確認のため臨時にミニテストを行う場合がある。 〔受講のルール〕 ①予習・復習を必ず行うこと。教科書は授業前に熟読すること。 ②将来自分が病弱教育の担任になったつもりで課題を明確にすること。 ③受講中に他の学生に迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカードかメール
授業外時間にかかわる情報	質問等あれば授業終了時に、メールまたはコメントカードに記載あれば次回以降に対応。
オフィスアワー	質問があれば授業終了後１０分間に、またはシャトルカードに記載すれば次回以降に対応する。
評価方法	①発表（取り組みと内容）・ミニテスト・レポート（内容、適切さ）６０％　③筆記もしくはレポート試験（客観　論述）４０％　総合評価は①②③の合計が６０％を超えていること
教科書	全国特別支援学校病弱教育校長会：「特別支援学校の学習指導要領を踏まえた　病気の子どもガイドブック」ジアーズ教育新社　平成２７
参考書	全国特別支援学校病弱教育校長会編：「病気の子どもの理解のために」　より引用するのでプリントアウトする。http://www.nise.go.jp/portal/elearm/shiryou/byoujyaku/supportbooklet.html
実務者経験/アクティブラーニング/	授業担当教員

リテラシー教育	■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 盲教育６年、知的障害教育２５年、肢体不自由教育５年の教育現場で実践教育を積み重ねる。特に障害の重い児童生徒との係わりを通して学んだこと、感じたこと、更に発達障害児の現場経験など踏まえて特別支援教育全般について幅広く講じます。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 読書指導と文芸　　授業コード： 6032

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
2021年度未開講			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 読書の意味と読書指導の方法を、文芸学の視点を通して学び身につける。 【到達目標】 ① 読書指導の方法を説明し、指導できる。　② ブックトークを実演し、指導できる。 ③ 読書ノートが作成できる。　④ 読書会を実施し、指導できる。
授業の概要	幼児・児童・生徒・成人を対象とした読書指導の理論と実際を、具体的な文芸作品とかかわらせながら学ぶ。さらに、読書ノートの作成や読書会を実施し、評価する。また、ブックトークという新しいコミュニケーションの精神と技術の獲得を目指す。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	◎
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、科目の位置づけとシラバスの説明、評価法、レポート課題など。 授業の目的、到達目標、授業計画の全体像、評価方法等々、受講にかかわる必要情報を学ぶ。
	第２回	読書とは何か―多様な読書論の現在―／読書指導の三原則／読書についての思索 読書の意味を明らかにすると共に多様な読書論の現在について探求する。
	第３回	読書ノートの作成とその評価―読書と図書館―／要約の方法／読書材の読後評価 読書ノートの作成や評価の仕方を学び、読書において図書館が果たす役割を考える。
	第４回	読書指導と発達段階―多様な読書材の選択―／読書のタイプ／読書の構造―読者とは何か― 多様な読書材の選択は、読書能力と読書興味の発達段階に応じて行われることを学ぶ。
	第５回	読書指導の方法―ストーリーテリング・読み聞かせ・ブックトーク・自由読書・ブックリスト・読書ノート・読書会― 読書指導の方法は、さまざまなものがあるが、その主なものの概要について学ぶ。
	第６回	ブックトークの実際① ブックトークのポイント―多様な形態・テーマの多様さ・専門性・プロセス・実践上のヒント― ブックトークとは何かについて理解を深め、その一般的なプロセスや実践上のヒント等を学ぶ。
	第７回	ブックトークの実際② ブックトークのシナリオ作成―タイトル・対象・ねらい・展開（シナリオ）― ブックトークとは統一テーマという呪術が生み出す創造的な演劇空間である。そのシナリオを作成する。
	第８回	ブックトークの実際③ ブックトークの試演・記録・評価 ブックトークを実際に試演し、評価シートにより相互評価を試みて評価の仕方を学ぶ。
	第９回	第１回から第８回までの授業のまとめと課題レポート作成 第1回から第8回までの授業の内容とポイントをテーマに即してまとめ、レポートを作成する。
	第１０回	読書会の実際① 読書会のポイント―多様な形態・対象の多様さ・一般的なプロセス― 読書会は、新しい価値発見や多様な評価法の存在に気づかせてくれる。そのポイントについて学

	ぶ。 第１１回　読書会の実際② 読書会の実施―対象作品を読む・進行者の決定・テーマの確認・記録・評価― 読書会の流れに従って進行し、問題の所在を深める。 第１２回　読書法の指導―ブックスタート・読みの多様さ・読書学の誕生―／読書療法 読書法の原理を学び、読書人格を高める各種の方法を探求する。 第１３回　読書と古典―日本書紀の読み方・西行の読み方・平家物語の読み方・方丈記の読み方・おくの細道の読み方― 古典をどう読むか、日本書記、西行、平家物語、方丈記、おくの細道などにおいて検証する。 第１４回　読書と近代文芸―鴎外を読む・漱石を読む・鬼城を読む・朔太郎を読む・有流を読む― 近代文芸をどう読むか、鴎外、漱石、鬼城、朔太郎、有流などにおいて検証する。 第１５回　第10回から第14回までの授業のまとめと課題レポート作成 第10回から第14回までの授業の内容とポイントをテーマに即してまとめ、レポートを作成する。
受講生に関わる情報および受講のルール	・毎回、次の授業の資料（オリジナルプリントなど）を配布し、授業内容を予告する。 ・出席重視。向上心と問題意識を持って授業に取り組むこと。 ・授業に支障を来たすような行為は厳に慎むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・シラバスで示した課題については、ワークシート等によるレポートを作成し提出すること。 ・授業テーマに関連した書を読み、読書人としての生活スタイルを確立すること。
オフィスアワー	授業の前後10分程度は対応可能
評価方法	定期試験(レポート)が70%、提出物が30%の総合評価による。 定期試験レポートの評価基準：①課題(テーマ)が適切にまとめられている。(60%)　②文章表現が適切である。(20%) ③オリジナリティーがある。(20%)
教科書	大越和孝・泉宜宏・宮絢子編著『読書』東洋館出版社（2017）
参考書	全国SLAブックトーク委員会編『ブックトーク―理論と実践―』全国学校図書館協議会（2001） 岩波書店編集部編『日本古典のすすめ』岩波書店（2007）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　精神保健の課題と支援　　授業コード：S7003

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	4単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
鈴木　秀夫			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】こころと社会について深い関心を持ち、主体的に学習を続け基本知識を理解させる。 【到達目標】ライフサイクルで見る精神保健学の視点を理解させる。精神保健の個別課題への取り組みと実際について理解させる。
授業の概要	精神保健を縦軸（ライフサイクル）　と横軸（日常の実際の生活面）でとらえ、現代社会病理を精神保健の視点でとらえる。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション　講義の進め方 【key words】 ライフサイクル 【授業概要】 昔は異常心理学と重なっていた。 今は精神保健・メンタルヘルスと呼び、切り口がライフサイクルになっている。 メンタルヘルスの啓発講話を実際に体験してもらい精神保健の理解を深める。 ※　海馬 【教科書ページ・参考文献】 １P～ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	精神保健とは？メンタルヘルスの予防とは？ 【key words】 カプランさん 【授業概要】 精神保健とは？健康とは？ カプランの第一次予防、第二次予防、第三次予防を理解する。 ※ウエルビーン。ヘルスプロモーション 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第３回	ライフサイクルと精神保健 【key words】 ウェルビーン 【授業概要】 WHOの健康の定義。 疾病性、事例性を理解する。

		腕のいい医者は疾病化させない。腕のいいワーカーは事例化させない。 ※スピリチュアルな健康も忘れない。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第４回	これまでの精神保健教育 【key words】 学校精神保健 【授業概要】 精神疾患についての捉え方、学校保健教育の問題。 人生の節目（ライフサイクル）、ここに目を向ける。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第５回	学童期前、学童期・青年期の精神保健 【key words】 思春期とドーパミン 【授業概要】 エリクソンの発達課題から教科書に従って。 【教科書ページ・参考文献】 教科書17～28P 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第６回	モンスターペアレントを精神保健で見ると 【key words】 家族は怖くない 【授業概要】 クライマー、モンスターペアレントはどこにもいる。 ※キーワードは罪悪感！ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第７回	不登校・いじめ 【key words】 登校刺激は意味がない 【授業概要】 引きこもりの悪循環。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第８回	虐待とその背景 【key words】 境界性パーソナリティ障害と虐待 【授業概要】 暴力の連鎖、NHKの教育番組から。斉藤学の調査。 精神疾患との関連。境界性人格障害、解離性障害　…等。 ※精神医学の教科書をひも解く。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第９回	成人の精神保健 【key words】 うつ病の人格特性 【授業概要】 成人期の危機。職場、家庭での新たな精神保健課題。 ※うつ病 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１０回　アルコール関連問題・薬物乱用について
【key words】
嗜癖とは？
【授業概要】
依存と乱用の区別、違い。

【教科書ページ・参考文献】
教科書107～121P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１１回　高齢者の精神保健
【key words】
薬の誕生
【授業概要】
認知症対策を中心に。

※二つの失語。

教科書61～69P、82～92P
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１２回　精神保健福祉法の成立と精神保健
【key words】
精神保健医療福祉の改革ビジョン
【授業概要】
精神障害者対策。
パラダイムの転換。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１３回　精神保健福祉の歴史
【key words】
時代の変化
【授業概要】
新しい取り組み、精神保健医療福祉の改革ビジョン。
ストレス－脆弱性モデルを正確に理解し、精神保健福祉と精神科医療の実際を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１４回　学校精神保健
【key words】
個人と集団の違い
【授業概要】
犯罪の低年齢化は本当か？
非行の二つのタイプ。家庭裁判所の調査報告を基に。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１５回　DALYと精神保健
【key words】
DALY
【授業概要】
疾病調整生命年（DALY)を知る。
新しい精神保健の捉え方。

※21世紀はメンタルヘルスの時代。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１６回　精神保健を精神病理から見る
【key words】
正常・異常
【授業概要】
異常とは？
量的異常と質的異常。では病的とは？

※清風堂書店「精神保健学」から
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１７回　西のゲール、東の岩倉
【key words】
障害者を地域が支える。
【授業概要】
ベルギーゲールの取り組み。伝説と家庭看護の実際の取り組み。
日本では京都、岩倉の実際。

※スピリチュアルの世界。スピリチュアルな健康！
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１８回　記憶の異常
【key words】
記憶、知能、認知
【授業概要】
前期、認知症の単元を復習。神経伝達物質、ドーパミン、セロトニンだけでなくアセチルコリンも。
大脳中枢神経について精神医学の教科書から。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１９回　知能・　知覚の異常
【key words】
感覚、知覚
【授業概要】
幻覚としての幻聴、幻視の違い。

※精神医学をひも解く。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２０回　感情の異常
【key words】
不安も感情の障害
【授業概要】
気分障害と感情の異常。
抑うつ、不安、パニックも感情の障害。
パニック障害を正確に知る。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２１回　不眠と精神保健
【key words】
レム睡眠、ノンレム睡眠
【授業概要】
不眠のメカニズム。時差ボケがどうして起こるか？
うつ病の不眠。入眠導入剤。新たに非ベンゾジアゼピン系も出た。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２２回　精神障害者の現状
【key words】
復習を兼ねて！
【授業概要】
平成25年精神保健福祉法の改正で「退院後生活環境相談員」が誕生。
そして地域移行が加速化。

※精神障害者制度改革
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２３回　障害者総合支援法
【key words】

精神保健福祉法や医療法と組めるのか？

【授業概要】
教科書のポイントから総合支援法を押さえる。

【教科書ページ・参考文献】
教科書238P～。136P～
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２４回　医療観察法、更生保護法
【key words】
CPAやケース会議の区別
【授業概要】
ソーシャルワークとプロベーションの違い。
更生保護制度を絡めて。

【教科書ページ・参考文献】
教科書149～164P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２５回　精神保健関連法
【key words】
保健所の業務
【授業概要】
地域精神保健の実際と課題。
生活臨床も忘れずに！
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２６回　世界の精神保健
【key words】
国連総会、WHO
【授業概要】
DALYをもう一度。アルコール関連問題での社会的損出をについても扱う。

※国連やWHOの新しい取り組み。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２７回　緩和ケアと精神保健
【key words】
在宅でターミナルケア
【授業概要】
これまでのターミナルケアからの転換。

【教科書ページ・参考文献】
教科書164～179P
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２８回　精神保健学の新しい取り組みと調査研究。
【key words】
調査研究
【授業概要】
国際調査研究。参与観察からトライアングレーション。

※プログラム研究とフディリティ尺度。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２９回　精神保健分野における精神保健福祉士の役割
【key words】
司法ソーシャルワーク
【授業概要】
教科書に従って。

※スクールソーシャルワーク、スクールカウンセリング。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　　精神保健の課題と支援を学んで 【key words】 1年間のまとめ。 【授業概要】 1年間のまとめ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	精神保健福祉士を目指し、国家試験受験を予定している学生は必ず履修すること。（授業中に予備知識、技能上のポイントの助言が多い）適宜レポート提出、小テストを実施する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	施設ボランティア、精神障害者イベントボランティアの紹介。ピア活動・講演会の紹介。
オフィスアワー	原則、月曜除く放課後。
評価方法	定期試験50%　レポート30%　その他毎回での考察２０%
教科書	へるす出版　　精神保健学　　精神保健の課題と支援
参考書	適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 精神科病院、30年以上のPSWとしての実務経験。最後の１０年は当時の副院長と看護勉強会を実施。他、医局勉強会において医師、SW,CPを対象にSSTトレーニングを実施。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 精神疾患とその治療　　授業コード： S7006

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	4単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
重田　理佐			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 精神保健福祉士の仕事を行う基礎となる精神医学の知識を身につける。 【到達目標】 １、精神医学、医療の歴史と現状について理解する。 ２、脳及び神経の生理、解剖の基礎の理解。 ３、精神医学の概念、診断の基本について理解する。 ４、代表的な精神障害について理解する。 ５、精神障害の治療の概要について理解する。 ６、病院精神医療について理解する。 ７、司法精神医学、産業精神医学、学校精神保健について理解する。
授業の概要	精神科病院の勤務医としての臨床経験を伝えながら精神保健福祉士の仕事の基礎となる精神医学の知識を習得出来るよう援助する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	△
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　授業オリエンテーション 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　精神医学、精神医療の歴史 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３回　精神現象の生物学的基礎 【key words】 【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第４回　精神医学の概念

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第５回　精神疾患の症状と診断１

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第６回　精神疾患の症状と診断２

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第７回　精神科検査法

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第８回　器質性精神障害

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第９回　精神作用物質使用による精神及び行動の障害

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　統合失調症１

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　統合失調症２

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１２回　気分障害

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１３回　気分障害２

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１４回　神経昇氏江障害１

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１５回　神経症性障害２、摂食障害

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１６回　パーソナリティ障害

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１７回　知的障害、発達障害

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１８回　小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１９回　精神科薬物療法

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２０回　電気けいれん療法

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２１回　精神療法

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２２回　作業療法、リハビリテーション

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２３回　精神医療の現在

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２４回　医療観察法、私法精神医学

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２５回　精神科救急

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２６回　産業精神医学

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２７回　学校精神保健

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】 第２８回　復習１ 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２９回　復習２ 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　復習３ 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	予習復習を行う。積極的な授業への参加、質問を行うことが望ましい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後30分。
評価方法	前期末にレポート課題を行い、後期末に筆記試験を行う。筆記試験により評価を行う。
教科書	新・精神保健福祉士養成講座１　精神疾患とその治療　中央法規
参考書	講義のなかで適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 精神科病院の勤務医 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ　　授業コード：S7008

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
新藤　健太			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 各自の配属実習先の特徴を学びながら、精神障害者の理解、精神障害者及び精神障害者施設の歴史的背景や制度の理解、配属実習先の理解をとおして、自らの精神保健福祉士像を明確にし、精神保健福祉士として援助できるようになることを目的とする。 【到達目標】 ①配属実習機関における精神保健福祉士の役割を学び、理解する。 ②実習における各自の実習目標の設定方法や記録方法を具体的に学ぶ。 ③精神保健福祉士として精神疾患を抱えている人を理解し、受容できるようになる。 ④精神保健福祉士としてのアイデンティティを確立する。
授業の概要	実習計画書の作成をとおして精神保健福祉援助実習についての理解を深め、実習後のグループワークをとおした振り返りにより、自らの精神保健福祉士としてのアイデンティティの確立と、対人援助者としての自己覚知を深めていく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	講義オリエンテーションおよび精神保健福祉援助実習に向けての心構え 【key words】 ・オリエンテーション，精神保健福祉援助実習 【授業概要】 【授業概要】 ・精神保健福祉援助実習指導Ⅰでこれまで学習してきた内容について振り返りを行い、本科目との関連性について解説する。 ・前期における本科目の授業内容について説明する。 ・精神保健福祉援助実習について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 ・p2-p23 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを参照し、「精神保健福祉援助実習」について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第２回	精神保健福祉現場実習について　配属施設の決定 【key words】 ・精神保健福祉援助実習 【授業概要】 ・各自の配属先施設について伝える。 ・実習に向けて作成する各書類と作成におけるポイントについて説明する。 【教科書ページ・参考文献】 ・p53-p63 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを参照し、「実習計画、関係書類の作成」について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分

	第３回	自己紹介表の作成①　自己紹介表の意義と目的および作成 【key words】 ・自己紹介表 【授業概要】 ・自己紹介表の意義や目的について説明する。 ・グループディスカッションを通して検討することで、自己紹介表を完成させる。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自、自分なりに自己紹介表を作成しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第４回	自己紹介表の作成②　自己紹介表の作成 【key words】 ・自己紹介表 【授業概要】 ・グループディスカッションを通して検討することで、自己紹介表を完成させる。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自、自分なりに自己紹介表を作成しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第５回	実習計画書の作成①　実習先施設の情報収集および概要書の作成 【key words】 ・実習機関・施設の概要 【授業概要】 ・実習機関・施設の概要を整理することの意義や目的について説明する。 ・グループディスカッションを通して検討することで、実習機関・施設の概要を完成させる。 【教科書ページ・参考文献】 ・p53-p63 ・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p14-p17 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを参照し、「実習計画、関係書類の作成」について予習をしておく。 ・各自、自分なりに実習機関・施設の概要を作成しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第６回	実習計画書の作成②　実習先施設の情報収集および概要書の作成 【key words】 ・実習機関・施設の概要 【授業概要】 ・グループディスカッションを通して検討することで、実習機関・施設の概要を完成させる。 【教科書ページ・参考文献】 ・p53-p63 ・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p14-p17 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自、自分なりに実習機関・施設の概要を作成しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第７回	実習計画書の作成③　実習先施設の情報収集および概要書の作成 【key words】 ・実習計画書 【授業概要】 ・実習計画書を作成することの意義や目的について説明する。 ・グループディスカッションを通して検討することで、実習計画書を完成させる。 【教科書ページ・参考文献】 ・p53-p63 ・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p18-p37 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを参照し、「実習計画、関係書類の作成」について予習をしておく。 ・各自、自分なりに実習計画書を作成しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第８回	実習計画書の作成④　実習先施設の情報収集および概要書の作成 【key words】 ・実習計画書 【授業概要】 ・グループディスカッションを通して検討することで、実習計画書を完成させる。 【教科書ページ・参考文献】 ・p53-p63 ・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p18-p37 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自、自分なりに実習計画書を作成しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第９回	現場実習に係わる留意事項①　守秘義務および契約・契約書 【key words】 ・守秘義務，契約書 【授業概要】 ・精神保健福祉士の倫理綱領について解説する。 ・グループディスカッションを通して検討することで、実習生としての守秘義務について理解を深める。

・誓約書を作成する（印鑑持参）。
【教科書ページ・参考文献】
・p69-p75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「実習に向けての心構え」について予習をしておく。
・誓約書を作成するので、印鑑を持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第10回　現場実習に係わる留意事項②　卒業生講話
【key words】
・卒業生講話
【授業概要】
・卒業生の講話を聞き、精神保健福祉士の仕事や精神保健福祉援助実習について具体的に理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・卒業生講話に向けて、質問したいことなどを整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第11回　実習記録・日誌の記述方法①
【key words】
・実習記録・日誌
【授業概要】
・実習記録・日誌の意義や目的について説明する。
・事例を読み、実際に実習記録を作成してみることによって、実習記録・日誌の書き方について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
・p79-p88
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p38-p61
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「実習記録・実習日誌」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第12回　実習記録・日誌の記述方法②
【key words】
・実習記録・日誌
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、実習記録・日誌の目的や書き方について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
・p79-p88
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p38-p61
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自、自分なりに実習記録・日誌を作成しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第13回　実習先への事前訪問について
【key words】
・事前訪問
【授業概要】
・事前訪問の目的について説明する。
・グループディスカッションを通して検討することで、事前訪問の目的や確認すべき内容について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
・p64-p68
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「事前訪問」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第14回　自らの課題検討
【key words】
・課題
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、実習に向けての自らの課題を明らかにし、その対応について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自、実習に向けて不安なことなどを整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第15回　前期のまとめ
【key words】
・まとめ
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、実習に向けての自らの課題を明らかにし、その対応について理解を深める。
・実習に向けての最終確認を行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

・各自、実習に向けて不安なことなどを整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第16回　後期の講義の進め方と具体的方法について　オリエンテーション
【key words】
・オリエンテーション
【授業概要】
・精神保健福祉援助実習で学習してきた内容について振り返りを行い、後期の授業内容との関連性について解説する。
・後期における本科目の授業内容について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
・p120-p149
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「事後学習」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第17回　配属実習の振り返り①　個別事例の検討
【key words】
・事後学習
【授業概要】
・実習後の事後学習の目的や方法について解説する。
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。
【教科書ページ・参考文献】
・p120-p149
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第18回　配属実習の振り返り②　個別事例の検討
【key words】
・事後学習
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。
【教科書ページ・参考文献】
・p120-p149
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第19回　配属実習の振り返り③　個別事例の検討
【key words】
・事後学習
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。
【教科書ページ・参考文献】
・p120-p149
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第20回　配属実習の振り返り④　個別事例の検討
【key words】
・事後学習
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。
【教科書ページ・参考文献】
・p120-p149
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第21回　配属実習の振り返り⑤　個別事例の検討
【key words】
・事後学習
【授業概要】
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。
【教科書ページ・参考文献】
・p120-p149
・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】

		60～120分
	第22回	配属実習の振り返り⑥　個別事例の検討 【key words】 ・事後学習 【授業概要】 ・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。 【教科書ページ・参考文献】 ・p120-p149 ・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第23回	配属実習の振り返り⑦　個別事例の検討 【key words】 ・事後学習 【授業概要】 ・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。 【教科書ページ・参考文献】 ・p120-p149 ・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第24回	配属実習の振り返り⑧　個別事例の検討 【key words】 ・事後学習 【授業概要】 ・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。 【教科書ページ・参考文献】 ・p120-p149 ・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第25回	配属実習の振り返り⑨　個別事例の検討 【key words】 ・事後学習 【授業概要】 ・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。 【教科書ページ・参考文献】 ・p120-p149 ・ソーシャルワーク実習ノート第2版　p61-p75 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第26回	実習報告会① 【key words】 ・実習報告会 【授業概要】 ・実習報告会の目的や方法について説明する。 ・実習報告会でのプレゼンテーションを聞き、質疑応答を行うことを通して、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについての理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自、自分なりに実習報告会の準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第27回	実習報告会② 【key words】 ・実習報告会 【授業概要】 ・実習報告会の目的や方法について説明する。 ・実習報告会でのプレゼンテーションを聞き、質疑応答を行うことを通して、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについての理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自、自分なりに実習報告会の準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第28回	実習報告会③ 【key words】 ・実習報告会

	【授業概要】 ・実習報告会の目的や方法について説明する。 ・実習報告会でのプレゼンテーションを聞き、質疑応答を行うことを通して、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについての理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自、自分なりに実習報告会の準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分 第29回　振り返りと今後の課題 【key words】 ・振り返り，今後の課題 【授業概要】 ・本科目で学習してきた内容を振り返り、各自が専門職として今後どのような課題に向き合うべきかを考察する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本科目で学習してきた内容を復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分 第30回　全体のまとめ 【key words】 ・まとめ 【授業概要】 ・本科目で学習してきた内容を振り返り、今後向けての講義を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本科目で学習してきた内容を復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	①対人援助専門職としての態度を身につけるため、時間厳守、連絡および相談、報告を行うことを重視します。 a 遅刻および欠席の場合は、開始前に教務課に連絡する必要があります。 b 無断欠席および無断遅刻の場合は精神保健福祉実習部会にて対応を協議します。 ②精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、自ら演習に取り組む実践的行動への努力を重視します。 ③グループワークを中心に講義を進めるため、他者とのグループワークに取り組む努力ができない場合は、受講を認めません。 ④授業中の活動を乱す行為（私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等）は慎んでください。 ⑤提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ワークシートやコメントカード
授業外時間にかかわる情報	①授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。 ②授業時間外での日常生活での自己覚知に積極的に取り組むこと。
オフィスアワー	初回の講義内で具体的に案内します。
評価方法	①授業への取り組み（授業内での発言・発表やグループワークへの参加状況）25%。 ②授業レポート（内容および提出状況を含む）35%。 ③課題レポート　40%。
教科書	新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助実習指導・実習　第2版」日本精神保健福祉士養成校協会　編集　中央法規出版　2015／「実習へのガイドブック（学生用）」群馬医療福祉大学　2015／「実習生必携　ソーシャルワーク実習ノート　第2版」杉本浩章・田中和彦　みらい　2015
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない

	ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 精神保健福祉援助演習（専門）　　授業コード：S7012

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
新藤　健太			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に必要な知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力を身に着ける。 【到達目標】 ①基本的な話す、聴く、書く、観ることを含めたコミュニケーション方法を身につけ、実践できるようになる。 ②精神障害者の生活や生活上の困難について把握することができる。 ③精神保健福祉士に求められる相談援助に必要な知識と技術を習得する。 ④専門的技術を概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力を身に着ける。
授業の概要	精神保健福祉分野での専門的援助技法を具体的に学び、演習をとおして実践できるようグループワークやディスカッション形式で演習をすすめていく。尚、授業のなかでは総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげるとともに、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導を中心とした演習形態の授業を行うこととする。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	前期の講義の進め方と具体的方法について　オリエンテーション 【key words】 ・オリエンテーション 【授業概要】 ・精神保健福祉援助演習（基礎）でこれまで学習してきた内容について振り返りを行い、本科目との関連性について解説する。 ・前期における本科目の授業内容について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・精神保健福祉援助演習（基礎）で学習してきた内容について復習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第２回	セルフヘルプグループについて理解する 【key words】 ・セルフヘルプグループ，ヘルパーセラピー原則，非専門性 【授業概要】 ・事例を読み、グループディスカッションによる検討を通して検討することで、セルフヘルプグループの役割などを理解する。 ・セルフヘルプグループの成り立ちや役割、専門職との関係について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 ・p312-p316

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「セルフヘルプグループ」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第３回　ピアサポートについて理解する
【key words】
・ピアサポート，ピアサポーターのバウンダリー，ピアサポーターのヒエラルキー
【授業概要】
・ピアサポートについて解説する。
・「WRAPその魂に触れる」というDVDを鑑賞し、WRAPの実際からピアサポートに期待される要因について理解する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、ピアサポートの必要性などを考察する。
【教科書ページ・参考文献】
・p317-p321
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「ピアサポート」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第４回　自死遺族に対する支援について理解する
【key words】
・ソーシャルワークのグローバル定義，自死遺族への支援，グリーフワーク・グリーフケア
【授業概要】
・ソーシャルワークのグローバル定義について解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、ソーシャルワーカーとしての自死遺族への支援について考察する。
【教科書ページ・参考文献】
・p327-p331
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「自死遺族に対する支援」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第５回　地域との連携について理解する
【key words】
・地域住民，ボランティア
【授業概要】
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、地域住民が主体となる精神保健福祉の推進について考察する。
・地域住民が主体となる精神保健福祉の推進における精神保健福祉士の役割について解説する。
【教科書ページ・参考文献】
・p332-p336
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「地域との連携」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第６回　薬物事犯者の更正保護について理解する
【key words】
・保護観察所，社会復帰調整官，薬物依存，ダルク（自助グループ）
【授業概要】
・更生保護の目的や保護観察所について解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、覚せい剤使用の影響や必要な支援について考察する。
・薬物事犯者の更生保護における自助グループや精神保健福祉士の役割について解説する。
【教科書ページ・参考文献】
・p337-p343
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「薬物事犯者の更生保護」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第７回　発達障害のある子ども・若者の支援について理解する
【key words】
・発達障害，ライフステージ，教育現場との連携
【授業概要】
・「発達障害へのアプローチ」および「発達障害の理解と支援」というDVDを鑑賞し、発達障害の特徴について理解する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、発達障害のある子ども・若者の支援について考察する。
・発達障害のある子ども・若者の支援について解説する。
【教科書ページ・参考文献】
・p344-p348
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「発達障害のある子ども・若者の支援」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第８回　うつ病性障害（うつ病）の成人の支援について理解する
【key words】
・うつ病性障害（うつ病），自殺のリスク，家族への支援
【授業概要】
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、うつ病性障害（うつ病）の成人の支援について考察する。
・うつ病性障害（うつ病）支援や家族支援について解説する。
【教科書ページ・参考文献】

・p384-p388
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「うつ病性障害（うつ病）の成人の支援」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第９回　ひきこもりの若者の支援について理解する
【key words】
・ひきこもり，家族への支援，社会資源
【授業概要】
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、ひきこもりの若者の支援について理解する。
・ひきこもりの若者の支援について解説する。
※ 可能であれば、ゲストスピーカーによる講話を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・p369-p373
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「ひきこもりの若者の支援」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第10回　アルコール依存症の成人の支援について理解する
【key words】
・アルコール依存症，自助グループ（断酒会）
【授業概要】
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、アルコール依存症の成人の支援について考察する。
・断酒会を含んだ、アルコール依存症の成人の支援について解説する。
【教科書ページ・参考文献】
・p379-p383
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「アルコール依存症の成人の支援」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第11回　相談援助場面を想定した実技指導①　インテーク
【key words】
・インテーク（受理面接）
【授業概要】
・インテーク（受理面接）の目的や方法などについて解説する。
・事例を読み、ロールプレイを通して検討することでインテーク（受理面接）の実際を理解する。
・インテーク（受理面接）のポイントについて解説する。
【教科書ページ・参考文献】
・p124-p128
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「インテーク（受理面接）」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第12回　相談援助場面を想定した実技指導②　アセスメント
【key words】
・アセスメント
【授業概要】
・アセスメントの目的や方法などについて解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、アセスメントの実際について理解する。
・アセスメントのポイントについて解説する。
【教科書ページ・参考文献】
・p129-p133
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「アセスメント」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第13回　相談援助場面を想定した実技指導③　プランニング
【key words】
・プランニング（支援計画の作成）
【授業概要】
・プランニング（支援計画の作成）の目的や方法などについて解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、プランニング（支援計画の作成）の実際について理解する。
・プランニング（支援計画の作成）のポイントについて解説する。
【教科書ページ・参考文献】
・p134-p138
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「プランニング（支援計画の作成）」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第14回　相談援助場面を想定した実技指導④　モニタリングおよび評価
【key words】
・モニタリング，評価
【授業概要】
・モニタリング及び評価の目的や方法などについて解説する。
・事例を読み、グループディスカッションを通して検討することで、モニタリング及び評価の実際について理解する。
・モニタリング及び評価のポイントについて解説する。

【教科書ページ・参考文献】
・p139-p148
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを参照し、「モニタリング及び評価」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第15回　前期のまとめ
【key words】
・まとめ
【授業概要】
・前期の授業で学んだことを復習し、簡単なテストを実施することで各々の理解度を確認する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・これまでの授業を復習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第16回　後期の講義の進め方と具体的方法について　オリエンテーション
【key words】
・オリエンテーション
【授業概要】
・前期の授業で学習してきた内容について振り返りを行い、後期の授業内容との関連性について解説する。
・後期における本科目の授業内容について説明する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・前期の授業内容を復習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第17回　配属実習の振り返り①　個別事例の検討
【key words】
・事後学習
【授業概要】
・実習後の事後学習の目的や方法について解説する。
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第18回　配属実習の振り返り②　個別事例の検討
【key words】
・事後学習
【授業概要】
・実習後の事後学習の目的や方法について解説する。
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第19回　配属実習の振り返り③　個別事例の検討
【key words】
・事後学習
【授業概要】
・実習後の事後学習の目的や方法について解説する。
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第20回　配属実習の振り返り④　個別事例の検討
【key words】
・事後学習
【授業概要】
・実習後の事後学習の目的や方法について解説する。
・グループディスカッションを通して検討することで、各自の実習体験を共有し、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについて考察する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・各自の実習体験を振り返り、整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

	第21回	配属実習の振り返り⑤　実習報告書の作成 【key words】 ・実習報告書 【授業概要】 ・実習報告書を作成する目的や作成の方法について説明する。 ・グループディスカッションを通して検討しながら、実習報告書を作成する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自、自分なりに実習報告書を作成しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第22回	配属実習の振り返り⑥　実習報告書の作成 【key words】 ・実習報告書 【授業概要】 ・実習報告書を作成する目的や作成の方法について説明する。 ・グループディスカッションを通して検討しながら、実習報告書を作成する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自、自分なりに実習報告書を作成しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第23回	配属実習の振り返り⑦　実習報告書の作成 【key words】 ・実習報告書 【授業概要】 ・実習報告書を作成する目的や作成の方法について説明する。 ・グループディスカッションを通して検討しながら、実習報告書を作成する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自、自分なりに実習報告書を作成しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第24回	配属実習の振り返り⑧　実習報告会の準備 【key words】 ・実習報告会 【授業概要】 ・実習報告会の目的や方法について説明する。 ・グループディスカッションを通して検討しながら、実習報告会の準備を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自、自分なりに実習報告会のプレゼン資料を作成しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第25回	配属実習の振り返り⑨　実習報告会の準備 【key words】 ・実習報告会 【授業概要】 ・実習報告会の目的や方法について説明する。 ・グループディスカッションを通して検討しながら、実習報告会の準備を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自、自分なりに実習報告会のプレゼン資料を作成しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第26回	配属実習の振り返り⑩　実習報告会の準備 【key words】 ・実習報告会 【授業概要】 ・実習報告会の目的や方法について説明する。 ・グループディスカッションを通して検討しながら、実習報告会の準備を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自、自分なりに実習報告会のプレゼン資料を作成しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第27回	実習報告会① 【key words】 ・実習報告会 【授業概要】 ・実習報告会の目的や方法について説明する。 ・実習報告会でのプレゼンテーションを聞き、質疑応答を行うことを通して、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについての理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	・各自、自分なりに実習報告会の準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分 第28回　実習報告会② 【key words】 ・実習報告会 【授業概要】 ・実習報告会の目的や方法について説明する。 ・実習報告会でのプレゼンテーションを聞き、質疑応答を行うことを通して、精神保健福祉士の役割やソーシャルワークについての理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・各自、自分なりに実習報告会の準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分 第29回　振り返りと今後の課題 【key words】 ・振り返り，今後の課題 【授業概要】 ・本科目で学習してきた内容を振り返り、各自が専門職として今後どのような課題に向き合うべきかを考察する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本科目で学習してきた内容を復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分 第３０回　全体のまとめ 【key words】 ・まとめ 【授業概要】 ・本科目で学習してきた内容を振り返り、今後向けての講義を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本科目で学習してきた内容を復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	①対人援助専門職としての態度を身につけるため、時間厳守、連絡および相談、報告を行うことを重視します。 a 遅刻および欠席の場合は、開始前に教務課に連絡する必要があります。 b 無断欠席および無断遅刻の場合は精神保健福祉実習部会にて対応を協議します。 ②精神保健福祉援助実習に関わる授業のため、自ら演習に取り組む実践的行動への努力を重視します。 ③グループワークを中心に講義を進めるため、他者とのグループワークに取り組む努力ができない場合は、受講を認めません。 ④授業中の活動を乱す行為（私語、携帯電話の使用、飲食、居眠り等）は慎んでください。 ⑤提出期限を過ぎたものについては評価の対象になりません。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	①授業内での自己学習課題の指示は必ず行うこと。 ②授業時間外での日常生活での自己覚知に積極的に取り組むこと。
オフィスアワー	初回の講義内で具体的に案内します。
評価方法	①授業への取り組み（授業内での発言・発表およびグループワークへの参加状況）25%。 ②授業レポート（内容および提出状況含む）40%。 ③定期試験または課題レポート35%。
教科書	新精神保健福祉士養成講座「精神保健福祉援助演習（基礎・専門）第2版」日本精神保健福祉養成校協会　編集　中央法規出版　2016
参考書	Rapp, C. A. and Goscha, R. J.(2012) The Strengths Model:A Recovery-Oriented Approach to Mental Health Services, Third Edition, New York: Oxford University Press. (＝2014, 田中英樹監訳『ストレングスモデル―リカバリー志向の精神保健福祉サービス[第3版]金剛出版)
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育

	□情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 精神障害者の生活支援システム　　授業コード：S7015

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
鈴木　秀夫			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】精神障害者の生活支援、相談支援、居住支援、雇用・就労支援を精神保健福祉士のかかわりから学ぶ。 【到達目標】地域生活支援と相談支援援助に焦点を当て事例を重ね実戦的なソーシャルワークを学ぶ。
授業の概要	これまでの精神保健福祉士養成科目の総まとめ。精神障害者の地域生活支援に焦点をあて「意義」と「特徴」について学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	○
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション　講義の進め方 【key words】 精神保健福祉士と精神保健福祉。 【授業概要】 授業の進め方とパラダイムシフトについて。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	精神障害者の概念 【key words】 アンチスティグマ。 【授業概要】 オープンドアからオープン・ザ　ドア ICFとアンチスティグマ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書1～26P 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第３回	パラダイムの転換とピア活動 【key words】 パラダイムの転換の歴史 【授業概要】

		支援関係の転換。 地域移行・地域定着とピア活動 【教科書ページ・参考文献】 教科書26～46P 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第４回	精神障害者の生活実態 【key words】 患者調査と東日本大震災 【授業概要】 教科書に従い 内閣府の障害者白書、患者調査。 【教科書ページ・参考文献】 教科書51～60P 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第５回	居住支援 【key words】 ケア付きかケア無し。 【授業概要】 宿所提供 ケアホーム、グループホームの一元化。ほか 【教科書ページ・参考文献】 教科書135P～ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第６回	障害者雇用 【key words】 WHOの定義 【授業概要】 教科書に従う。 障害者雇用と職業リハビリテーション。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ※体験グループの開始 【予習復習に必要な想定時間】
	第７回	作業療法と就労支援 【key words】 「職業レディネス」。 【授業概要】 ソーシャルワークと障害者雇用。 【教科書ページ・参考文献】 教科書174～190P 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第８回	ストレングスモデル、ＩＰＳの考え方 【key words】 ACT、IPS 【授業概要】 脱施設化による地域移行とクライシス。 対応するクライシスシステム。 【教科書ページ・参考文献】 教科書113P 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第９回	障害者の自立と社会参加のための生活支援システム 【key words】 新しい支援、自助グループ 【授業概要】 障害者のための生活支援システム。

		コープランドと仲間たちによるケア。 ※WRAPによるケアシステム。 【教科書ページ・参考文献】 教科書57P,120P 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１０回	社会療法のための病院機構 【key words】 社会療法と治療共同体 【授業概要】 社会療法のための病院機構いわゆる精神科病院が本来あるべき姿を見直す。 社会学的視点。クラーク・Dの著書を読みあう。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プリント配布 【予習復習に必要な想定時間】
	第１１回	退院時訪問指導と地域移行 【key words】 イギリスでの始まり 【授業概要】 コミュニティーミーティングのルール。 自我志向の発言、「私」を主語にした発言。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１２回	新しい精神科医療の流れ 【key words】 人間図書館 【授業概要】 新しい役割とグループワーク。 ①退院後生活環境相談員の仕事。 ②英国の新しい取り組み。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１３回	福祉的就労 【key words】 自由と責任 【授業概要】 医療機関でのグループ、福祉サービス事業所でのグループ。 ※発言の自由。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１４回	行政による相談支援 【key words】 ストレングスモデル 【授業概要】 精神保健福祉センター。保健所活動。 引きこもりの青年にミーティング。 ミーティングは人を育て、成長させる。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１５回	世界の退院促進の流れに遅れない 【key words】 のぞえ式の紹介 【授業概要】 精神科スーパー救急。 入院は3か月以内。精神保健福祉士は病棟に2名以上。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】

受講生に関わる情報および受講のルール	精神保健福祉士を目指し、国家試験受験を予定している学生は必ず履修すること。（授業中に予備知識、技能上のポイントの助言が多い）適宜レポート提出、小テストを実施する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	施設ボランティア、精神障害者イベントボランティアの紹介。ピア活動・講演会の紹介。
オフィスアワー	原則、月曜除く放課後。
評価方法	定期試験50%　レポート30%　その他毎回での考察２０%
教科書	（注意）中央法規出版　　精神障害者の生活支援システム
参考書	適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 精神科病院、３０年以上のPSWとしての実務経験。最後の１０年は当時の副院長と看護勉強会を実施。他、医局勉強会において医師、SW、CPを対象にSST トレーニングを実施。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 精神保健福祉援助実習　　授業コード：S7021

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	4単位(180)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
新藤　健太			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	①精神保健福祉援助実習をとおして、精神疾患を抱えている利用者の理解を深め、精神疾患を抱えて生活することを具体的に理解・把握し、援助実践の具体的技術を体得する。 ②精神保健福祉士として求められる資質、倫理を理解し、精神保健福祉士としてのアイデンティティを確立するための自己理解につなげる課題把握および総合的に対応できる能力を習得する。 ③精神保健福祉士と関連分野の専門職との連携のあり方および具体的内容を実践的に理解する。
授業の概要	実習は4年次において大学の指定および実習受入れ機関の指定する期間にて実施する。実習は23日間以上かつ210時間（相談援助実習履修者は180時間）（休憩時間を除く総実習時間）とする。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	△
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	○
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第４回

		【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第５回	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第６回	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第７回	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第８回	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第９回	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第10回	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第11回	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第12回	【key words】

	【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第13回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第14回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第15回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	（実習履修資格者） 本学における実習履修者資格は原則として「精神保健福祉法」に定める「精神保健福祉士」の資格取得を目指す第4年次の学生で、次に掲げる者とする。 ①将来、精神保健福祉士として精神保健福祉現場で働く意思を強くもっている者。 ②精神保健福祉の学習および実践に対しての熱意と意欲があり、健康状態等実習を行うのに適当と認められる者。 ③精神保健福祉士国家試験の受験に必要な科目の単位を取得または、取得見込みのある者。 ④「精神保健福祉援助演習基礎・専門」、「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ」、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「総合演習Ⅰ・Ⅱ」、「ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得または、取得見込みのある者。 ⑤実習先機関事前見学実習に出席し、レポート課題を提出している者。 ⑥実習に関する書類等を提出期限内に提出している者。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ワークシートやコメントカード
授業外時間にかかわる情報	（実習上の注意） ①実習へのガイドブック（学生用）学校法人昌賢学園　最新版を参照し、遵守すること。 ②精神保健福祉援助実習の教科書を熟読し、精神保健福祉援助演習および精神保健福祉各科目を充分に事前学習すること。 ③群馬医療福祉大学精神保健福祉援助実習履修資格及び実習中止等の基準、群馬医療福祉大学精神保健福祉援助実習履修資格及び実習中止等の基準細則を熟読すること。
オフィスアワー	授業のなかで説明する。
評価方法	①実習機関における実習評価を基準に、実習担当教員による総合評価（40%） ②巡回および帰学日および実習中の指導状況と実習態度（15%） ③実習記録（10%） ④実習後の振り返りをとおした実習報告会を含めた実習のまとめ（10%） ⑤実習報告書（10%） 注意１：実習終了後、提出物等が未提出の場合は実習の単位を認定しない。 注意２：精神保健福祉援助実習指導Ⅱの単位を同一年度において取得できない場合は実習の単位を認定しない。
教科書	授業のなかで適宜紹介する。
参考書	授業のなかで適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　社会福祉特講Ⅳ　　授業コード：S8007

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
富澤　一央・松永　尚樹・川端　奈津子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会福祉特講Ⅲで学習したことを基礎とし、社会福祉士国家試験対策の一環として、特に指定科目の重要な点と学習すべき内容について解説する。各回の講義に加え毎月月例テストを実施し、学生自身が学習進度を確認しながら進め、それぞれの学生が学習の習慣化と学習課題の焦点化を目的とする。 【到達目標】 ①自身の学習状況を振り返り、国家試験受験に向けた学習内容を明確にする。 ②解説や回答演習を通して、個々の学習方法を習慣化する。 ③月例テストや各階の回答演習で国家試験合格水準の正答が導き出せる。
授業の概要	社会福祉士として身に付けることが必要とされる広い範囲の基礎的な知識を学習する。特に、社会福祉士の国家試験の出題基準に対応した範囲の重要な点について焦点化し学習を進める。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　　科目オリエンテーション 第２回　　人体の構造と機能及び疾病 第３回　　月例テスト 第４回　　心理学理論と心理的支援 第５回　　社会理論と社会システム 第６回　　月例テスト 第７回　　現代社会と福祉 第８回　　地域福祉の理論と方法 第９回　　福祉行財政と福祉計画 第１０回　　月例テスト

	第１１回　　社会保障 第１２回　　低所得者に対する支援と生活保護制度 第１３回　　保健医療サービス 第１４回　　権利擁護と成年後見制度 第１５回　　月例テスト 第１６回　　社会調査の基礎 第１７回　　相談援助の基礎と専門職 第１８回　　相談援助の理論と方法 第１９回　　月例テスト 第２０回　　福祉サービスの組織と経営 第２１回　　高齢者に対する支援と介護保険制度 第２２回　　障害者に対する支援と障害者自立支援制度 第２３回　　児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 第２４回　　月例テスト 第２５回　　就労支援サービス 第２６回　　更正保護制度 第２７回　　月例テスト 第２８回　　重要項目解説 第２９回　　重要項目解説 第３０回　　重要項目解説
受講生に関わる情報および受講のルール	自分自身での学習が大切となるため、毎日の積み重ねをすること 各国家試験対策委員が行なう試験対策グループのいずれかに必ず参加すること 過去3年分の国家試験問題の解答・解説を読んでおくこと 模擬試験や国家試験の案内を行うため聞き逃さないようにすること
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	個人での学習とグループ学習を併用し学習へのモチベーションを維持していくこと。
オフィスアワー	0
評価方法	試験（月例テストを含む）（60%）、授業中の課題や提出物及び受講態度（40%）を総合して評価する。
教科書	新・社会福祉士養成講座21　資料編　中央法規出版
参考書	医療情報科学研究所「クエスチョン・バンク 社会福祉士」、中央法規出版「社会福祉士国家試験過去問題集」、社会福祉小六法、社会福祉士用語辞典、（最新版）　その他自分にあった参考書
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 　□実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 　□PBL(課題解決型学習) 　□ディスカッション・ディベート

	□グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　教職対策講座　　授業コード：S8014

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	–	学校教育コース・選択
担当教員			
江原　京子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 　全国の自治体で実施される教員採用試験に備え、願書の書き方、自己アピール文・小論文の作成、面接試験対策を行う。一般教養、教職教養、専門教養の直前予想問題「学内模擬試験の実施を含む」を解きながら教員採用試験合格を目指す。 [到達目標] １　願書、自己アピール文、小論文の作成ができる。 ２　各自治体で実施される教員採用試験の予想問題が解ける。 ３　面接試験対策を通して、将来学校教育に従事する教員としての資質の向上を図る。
授業の概要	１　３年次の後期から開講している教職対策講座Ｉを教職教養、専門教養を中心に継続して行う。 ２　外部講師を招くなどして、面接試験対策を強化する。 ３　願書の書きかた、小論文の書きかた、面接試験対策を行い、教員採用試験合格に向けて取り組む。 ４　学内模擬試験を実施する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等の説明　教員採用試験対策　教員採用試験の概要説明 【key words】 教員採用試験、願書 【授業概要】 【受講にあたり】 ※教員免許状取得希望者の必須科目である。 1　授業の進捗状況により各回の内容に変更が生じる場合がある。随時、その旨を確認しながら進めていくことを了承願いたい。 2　予習・復習の内容についても同様である。 3　以下のテキストを使用する。予習・復習に関しては、その回毎に指示する。 ①文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）/高等学校学習指導要領(平成30年告示）』 ②東京教友会編著　『教職教養ランナー』　一ツ橋書店、2021年度版 ③時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』 4　予習･復習用のノートを用意すること。 【授業概要】教員採用試験の概要説明　※希望する自治体の願書を持参すること。 次回以降、授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する。範囲は予めメール等で周知する。 【教科書ページ・参考文献】 希望する自治体の願書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.4月号の願書の書き方を読んでおくこと。

次回の授業時に持参すること。希望する自治体の願書を作成し、次回持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第２回　願書の書き方
【key words】
志望動機、求める教師像
【授業概要】
・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。
・希望する自治体の願書を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.4月号
【課題・予習・復習・授業準備指示】
希望自治体の願書を作成、次回持参すること。
時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.4月号の願書の書き方を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第３回　自己アピール文の作成方法・解説
【key words】
自己アピール、強み
【授業概要】
・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。
・自己アピール文を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.4月号
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・次回の授業時までに自己アピール文を完成させ、持参すること。
・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.5月号、論作文のページを読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第４回　論作文の基本
【key words】
序論･本論･結論
【授業概要】
・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。
・論作文の基本を学習する。
【教科書ページ・参考文献】
時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.5月号
【課題・予習・復習・授業準備指示】
時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.5月号、論作文のページを読んでおくこと。当日、持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第５回　パターンでスラスラ論作文
【key words】
論理性、教職への情熱、使命感
【授業概要】
・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。
・論作文の出題傾向を熟知する。
【教科書ページ・参考文献】
時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.5月号、論作文のページを読んでおくこと。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題にあった論作文を書き、期日までに提出すること。時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018.5月号　合否を分ける「答申」の部分を読んでおくこと。当日持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第６回　合否を分ける「答申」
【key words】
文部科学大臣、中教審、諮問
【授業概要】
・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。
・答申とは何か
【教科書ページ・参考文献】
時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018.5月号
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・答申とは何か、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。
・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.6月号「答申」早わかりシートを読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第７回　「答申」早わかりシート
【key words】
教育制度改革、生徒指導、学力･学習活動関連
【授業概要】
・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。
・出る「答申」早わかり14シートを確認し、教育制度改革、生徒指導、学力･学習活動関連の「答

		申」を熟知する。 【教科書ページ・参考文献】 時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.6月号「答申」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.12月号を読んでおくこと。当日、持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第８回	試験直前対策　①　生徒指導 【key words】 生徒指導提要 【授業概要】 ・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・圧倒的に出題される生徒指導（生徒指導提要）の資料を確認する。 【教科書ページ・参考文献】 時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.12月号 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.3月号を読んでおくこと。当日、持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第９回	試験直前対策対策　②　いじめ、不登校、児童虐待 【key words】 いじめ、不登校、児童虐待 【授業概要】 ・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・いじめ、不登校、児童虐待をデータで読み解く。 【教科書ページ・参考文献】 時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2019.3月号 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１０回	試験直前対策問題　③　教育法規・専門教養 【key words】 教育法規、専門教養 【授業概要】 ・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・教員採用試験で頻出される教育法規、専門教養を確認する。 【教科書ページ・参考文献】 時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』号、月は前授業内で提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』号、月は本授業内で提示する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１１回	試験直前対策問題　④　教育時事、専門教養 【key words】 教育時事、専門教養 【授業概要】 ・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・教員採用試験で頻出される教育時事・専門教養を確認する。 【教科書ページ・参考文献】 時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』号、月は前授業内で提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・本時の学びをミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018.8月号 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１２回	試験直前対策問題　⑤　個人面接試験対策 【key words】 志望動機、目指す教師像 【授業概要】 ・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・個人面接試験対策を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018.8月号 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・実際に行った個人面接について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018.8月号を持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第１３回	試験直前対策問題　⑥　集団面接試験対策

	【key words】 自己アピール、教師としての資質･能力、使命感 【授業概要】 ・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・集団面接試験対策を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018.8月号 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・実際に行った集団面接について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018.8月号を持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分 第１４回　試験直前対策問題　⑦　集団討論試験対策 【key words】 教育時事、教師としての資質･能力、使命感 【授業概要】 ・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・集団討論試験対策を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018.8月号 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・実際に行った集団討論について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出すること。 ・時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018.8月号を持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分 第１５回　試験直前対策問題　⑧　場面指導 【key words】 状況判断、児童生徒に寄り添う 【授業概要】 ・授業開始20分から30分程度、直前対策として時事通信出版局『月刊　教員養成セミナー』等から小テストを実施する（範囲は予めメール等で周知する）。 ・場面指導のやり方を熟知する。 【教科書ページ・参考文献】 時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』2018.8月号 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・実際に行った場面指導について、ミニレポートにまとめ、期日までに提出する。 ・教員採用試験に向けて最終確認、準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
受講生に関わる情報および受講のルール	１　本講義は教育実習と同様に位置づけられており、遅刻・欠席は事前に必ず届け出ること。欠席や遅刻の多い学生 や受講態度の悪い学生は、本実習の単位認定取り消しも有り得るため、熱心な受講態度を求める。 ２　教員採用試験の合格を目指し、熱心に取り組むこと。 ３　予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておき、授業中に課したミニミニレポートを必ず提出すること。 ４　全国の自治体で行われる教員採用試験を必ず受験すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ミニミニレポート
授業外時間にかかわる情報	１　授業の要約もしくは課題をミニミニレポートにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニミニレポートを まとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。 ２　各自、ノートを用意し、授業中に行った問題を再度行い、重要事項をまとめて指定した日時までに提出するこ と。
オフィスアワー	水曜日　16時～18時　それ以外の時間帯については、要相談・要予約
評価方法	授業中に課したミニミニレポートの内容（50%）、試験またはまとめのレポート（50%）を総合して評価する。
教科書	１　文部科学省　『中学校学習指導要領（平成29年告示）/高等学校学習指導要領(平成30年告示)』 ２　東京教友会編著　『教職教養ランナー』一ツ橋書店、2022年度版 ３　時事通信出版局　『月刊　教員養成セミナー』
参考書	東京ｱｶﾃﾞﾐｰ　『教員採用試験』シリーズ、各自治体が出版している過去問題等
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 中学校教諭として勤務経験をもつ教員が、間近に迫る教員採用試験に向けて、願書の作成、小論文、模擬授業の実践、個人面接、集団討論･面接を中心に指導・支援を行う。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク

	■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 総合演習Ⅱ　　授業コード：S9031　S9032　S9033　S9034　S9035　S9036　S9037

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	必修
担当教員			
松永　尚樹・長津　一博・新藤　健太・岡野　康幸・川端　奈津子・山岸　裕美子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 本学の建学の精神・教育目的に基づき、３年次で身につけた知見を深める。総合演習Ⅱにおいては、礼儀・挨拶、環境美化活動、課題研究・制作、進路決定等に主体的に取り組み、学士力を養成する。特に、この演習における集大成である課題研究・制作では、自発的なテーマ設定、資（史）料収集、分析・考察を行うが、適切な方法で丹念に調べることや、検討過程を論理的に記述できることを目指す。テーマ設定においては、地域貢献に供する課題をとりあげ、提案や論考を行うことも有効である。 【到達目標】 ①礼儀・挨拶、環境美化活動について、自主的に取り組むことができる。 ②総合演習の集大成である課題研究・制作について、的確な研究方法に基づいて取り組むことができる。 ③自己の適性を把握し、適切な進路決定ができる。
授業の概要	内容を、①建学の精神と実践教育 ②学習統合 ③進路・資格所得 ④地域貢献 ⑤心身の健康 の５つのプログラムから構成する。学年全体での授業では、建学の精神に則り、社会人となるための基礎的スキルの修得、福祉の視点から地域生活をとらえるための講義（外部講師）を予定している。クラス単位での授業では、「課題研究・制作」と題し、４年間の集大成として専門的な知識・技能を活かした論述・制作等を仕上げる。これらの演習を通し、総合的に学士力の向上を図る。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	建学の精神と実践教育プログラム①　学長訓話・学部長講話、ディプロマポリシー、演習Ⅱの計画 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	進路・資格プログラム①　「自己表現テスト」 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】

	第３回　心身の健康プログラム①　心身のバランス（親睦スポーツ大会に向けた活動） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第４回　心身の健康プログラム②　心身のバランス・他者との連繋 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第５回　建学の精神と実践教育プログラム②（生活を科学する－雑巾縫いをとおして） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第６回　学習統合プログラム①　課題研究・制作（ガイダンス） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第７回　進路・資格取得プログラム②　「自己表現テスト」のふりかえり 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第８回　学習統合プログラム②　課題研究・制作 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第９回　学習統合プログラム③　課題研究・制作 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１０回　学習統合プログラム④　課題研究・制作 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１１回　学習統合プログラム⑤　課題研究・制作

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１２回　学習統合プログラム⑥　課題研究・制作

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１３回　地域貢献プログラム①　「地域での住民と行政サービスとの関わり」

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１４回　進路資格取得プログラム③　「エントリー試験」

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１５回　建学の精神と実践教育プログラム③　前期総括

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１６回　建学の精神と実践教育プログラム④　学長訓話・学部長講話

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１７回　進路・資格取得プログラム④　「エントリー試験」のふりかえり

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１８回　地域貢献プログラム②　地域のネットワーク作り（クラス内研修）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１９回　地域貢献プログラム③　児童虐待の早期発見について

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２０回　学習統合プログラム⑦　課題研究・制作

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２１回　心身の健康プログラム③　「ストレス社会をどう生きるか」

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２２回　地域貢献プログラム④　「昌賢祭」での実践活動について

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２３回　地域貢献プログラム⑤　「昌賢祭」実践活動

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２４回　学習統合プログラム⑧　課題研究・制作

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２５回　学習統合プログラム⑨　課題研究・制作

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２６回　学習統合プログラム⑩　課題研究・制作（クラス内発表会①）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２７回　学習統合プログラム⑪　課題研究・制作（クラス内発表会②）

【key words】

	【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２８回　学習統合プログラム⑫　課題研究・制作（学年全体発表会） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２９回　心身の健康プログラム④　１年のまとめ（クラス裁量） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　建学の精神と実践教育プログラム⑤　後期総括 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	１　総合演習は、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。 ２　遅刻・欠席をしないことはもとより、折り目正しく熱意のある受講態度で臨むこと。 ３　全体オリエンテーション等の「学校行事」には、必ず出席すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業計画に示されている内容を事前に把握し、わからない部分については授業にて解決するよう努力すること。課題研究・制作に共同で取り組む際は、まず綿密な計画を立て、進捗状況を確認しあうこと。また、不明な箇所については担当者に相談すること。
オフィスアワー	各担当者に確認すること。
評価方法	課題研究・制作（40%）、演習への取り組み・内容等（30%）、提出物（30%）の総合点とする。
教科書	『咸有一徳』中央法規、『初編 伝習録』明治書院、『知のナヴィゲーター』くろしお出版
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： サービス・ラーニングⅠ　　授業コード：S2001　S2003

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(60)	必修
担当教員			
ボランティア委員会教員（主担当）・1学年教員（副）			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 大学近隣の地域の様々なフィールドで行われる実践活動と課題、そして学生らに期待されている事柄を知り、興味関心を持ったフィールドにおける課題解決のための取り組みを企画することを通じて、地域社会の様々な実践に触れ、その経験を他の授業にフィードバックさせて学生自身の学修を深化させること、様々な人々と関わる経験からコミュニケーション能力・社会性・協調性・行動力といった能力を培うことを目的とする。 【到達目標】 ①本学カリキュラムにおけるサービス・ラーニングの位置づけを理解し、説明することが出来る ②大学近隣で実践される様々な団体・機関の活動について理解し、説明することが出来る ③地域の課題の調査分析、解決方法の提案、企画化の手順を体験し、実践することが出来る ④グループワークやプレゼンテーションのプロセスや留意点を学び、実践することが出来る
授業の概要	身近な地域で行われている実践を知り、そこでの課題を見つけ、その解決に向けた調査・分析から解決のためのプロジェクトの企画立案と提案、実行と振り返りまでを2年間かけて実施する。この1年目にあたるこの講義では、全学ディプロマポリシーである『真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける』基礎を育むものとして、前期・後期の年間を通じた講義を実施する。 具体的には、学生にとって身近な大学近隣地域の社会福祉・教育等の現場をフィールドとし、前期は地域の社会福祉や教育の現場で行われている実践やその機関についての知識と学生としてこれらの地域と関わるための社会的常識やマナーを座学と演習を通じて学ぶ。後期は、各自の興味関心に応じたグループを作成し、グループ単位で地域の実践の場における取り組みへの見学・参加を通じて、自分たちに何ができるのかを学び取り、次年度の実践活動につながるプロジェクトを企画立案する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	△
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	○
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回　科目オリエンテーション 【key words】 知行合一，ボランティア活動，サービス・ラーニング，社会人基礎力 【授業概要】 これまでの「地域・団体からの依頼に受講生が参加・協力する」から「学生が主体となって地域の身近な問題を見つけ，その解決に向けて調査・分析から解決策の提示を行う」という，より能動的な活動を目指す本講義について，その導入経緯と意義の説明を行う。その後，全30回の授業の概要と各回の流れ，授業の中で必要となる姿勢等についての説明と簡単な演習を行う予定である。 【教科書ページ・参考文献】 参考資料01ボランティアとは（小倉常明・松藤和生（編著） 2004 「いちばんはじめのボランティア」樹村房，p2-3.） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：参考資料01を一読しておくこと。 課題：次回までにWS02に自分の考えを書いておくこと

【予習復習に必要な想定時間】
15-30分

第２回　サービス・ラーニングとボランティア活動の理念、歴史

【key words】
ボランティア活動，ボランティア活動の原則，サービス・ラーニング
【授業概要】
今後，地域での活動を考えていく際の基盤となる「ボランティア」の理念について，その歴史と合わせて解説を行う。その後，前回のワークシートを用いたグループワークを行い，ボランティアや地域で学ぶことに対するお互いの考えを共有し，理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
参考資料02ボランティアの歴史性格理念（小倉常明・松藤和生（編著） 2004 「いちばんはじめのボランティア」樹村房，p4-17.）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートを完成させ，次回講義の際に持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
15-30

第３回　大学から募集・依頼のあるボランティア活動の紹介と意義，その参加方法

【key words】
地域連携センター，ボランティア活動，地域貢献活動
【授業概要】
サービス・ラーニングの中で学外での活動の際に支援をいただく地域連携センターの紹介と学年や専攻単位で参加する行事ボランティアや地域貢献活動の意義と内容について解説を行う。特に，地域から大学に募集や依頼のあったボランティア活動に個人での応募・参加する際の方法の説明を受け，各個人で申し込みが行えるようになる。
【教科書ページ・参考文献】
参考書：ボランティア活動ハンドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備：配布されている場合にはボランティア活動ハンドブックを講義に持参すること。
課題：配布されたワークシートを完成させ，次回講義の際に持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
15-30

第４回　昨年度の活動紹介

【key words】
サービスラーニング，令和2年度の実践，ニーズ調査
【授業概要】
昨年度の1年生が「サービスラーニングⅠ」で行った活動について紹介を行い，今後の授業で行う活動についてのイメージづくりを行う。可能であれば，2年次の学生に協力を求め，各班からの活動紹介を行う（もしくは動画視聴で代える）。
【教科書ページ・参考文献】
授業内で指示
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートを完成させ，次回講義の際に持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30-40

第５回　高齢者を対象とした活動の実際

【key words】
高齢者，社会福祉施設でのボランティア活動
【授業概要】
近隣地域における団体・機関の実践活動として，主に高齢者を対象とした活動の実際，そこでの課題，受講生をはじめとした地域の若者に期待していること等について講義を通じて知識を学び，受講生同士のグループワークを通じて理解を深める。また，講師として大学近隣の社会福祉法人より職員の方をお招きする可能性がある。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料を中心に実施予定
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートを完成させ，次回講義の際に持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
15-30

第６回　障害者を対象とした活動の実際

【key words】
障害者，障害者スポーツ，余暇支援
【授業概要】
近隣地域における団体・機関の実践活動として，主に障害を持つ方を対象とした活動の実際，そこでの課題，受講生をはじめとした地域の若者に期待していること等について講義を通じて知識を学び，受講生同士のグループワークを通じて理解を深める。また，講師として県内の障害者をもつ方への活動（スポーツ、余暇支援）の普及・運営等に関わる法人より職員の方をお招きする可能性がある。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料を中心に実施予定
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートを完成させ，次回講義の際に持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
15-30

第７回　子どもを対象とした活動の実際①保育・児童福祉

【key words】
保育園・幼稚園・認定子ども園，児童福祉施設，病児保育
【授業概要】
近隣地域における団体・機関の実践活動として，主に幼児教育，児童福祉領域における活動を取り上げ，その活動の実際，課題，受講生をはじめとした地域の若者に期待していること等について講義を通じて知識を学び，受講生同士のグループワークを通じて理解を深める。また，講師として幼稚園や子育て支援、保護者支援を行う機関の方を講師の方をお招きする可能性がある。
【教科書ページ・参考文献】

配布資料を中心に実施予定
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートを完成させ，次回講義の際に持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
15-30

第８回　子どもを対象とした活動の実際②学校・教育
【key words】
小学校，中学校，高等学校，特別支援学校，教育委員会
【授業概要】
近隣地域における団体・機関の実践活動として，主に教育現場における活動を取り上げ，その活動の実際，課題，受講生をはじめとした地域の若者に期待していること等について講義を通じて知識を学び，受講生同士のグループワークを通じて理解を深める。また，講師として学内外で教員養成に関わる方をお招きする可能性がある。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料を中心に実施予定
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートを完成させ，次回講義の際に持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
15-30

第９回　活動紹介の振り返り
【key words】
グループワーク，興味関心
【授業概要】
これまでの講義を経て抱いた自分の興味関心についてまとめたWS09を用いてグループワークを行い，自他の興味関心を整理する。また，後期のグループ活動でサポートいただくことができる学内教員のリストを確認する予定である。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料を中心に実施予定
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシート2種類を完成させ，次回講義の際に持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30-40

第１０回　学外での活動に向けて必要になる準備
【key words】
社会人基礎力，メールの作法，電話の作法
【授業概要】
学内の教員や学外機関に連絡を行う場合の方法や手続きについて説明を行う。具体的には，メールの書き方や電話のかけ方，研究室の訪問方法などを指す。
【教科書ページ・参考文献】
参考資料03マナー（旧ボランティア活動ハンドブックp16-23）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートを完成させ，次回講義の際に持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
15-30

第１１回　地域で活動する団体と活動内容の紹介①
【key words】
社会福祉協議会，ボランティアセンター，福祉のまちづくり
【授業概要】
自分たちが興味関心をもった領域での活動を調べたり，活動を見学する際の拠点となる地域の団体として、社会福祉協議会の活動紹介を行う。講師として群馬県または前橋市社会福祉協議会のボランティアセンターに関わる方をお招きする可能性がある。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料や提示資料を中心に実施予定
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートを完成させ，次回講義の際に持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
15-30

第１２回　地域で活動する団体と活動内容の紹介②
【key words】
公民館，社会教育，地域振興
【授業概要】
自分たちが興味関心をもった領域での活動を調べたり，活動を見学する際の拠点となる地域の団体として、公民館の活動紹介を行う。講師として前橋市東公民館に関わる方をお招きする可能性がある。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料や提示資料を中心に実施予定
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートを完成させ，次回講義の際に持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
15-30

第１３回　予備日①（講義／フィールドワーク／振り返り／学年として参加する地域貢献活動等）
【key words】
後日案内
【授業概要】
これまでの講義の進捗状況や社会情勢の動向を踏まえて内容を決定する。学内外の方を講師に招いての講義や、学内外でのフィールドワーク、学外での活動が実施される可能性がある。
【教科書ページ・参考文献】
後日案内
【課題・予習・復習・授業準備指示】
後日案内
【予習復習に必要な想定時間】
後日案内

	第１４回	予備日②（講義／フィールドワーク／振り返り／学年として参加する地域貢献活動等） 【key words】 後日案内 【授業概要】 これまでの講義の進捗状況や社会情勢の動向を踏まえて内容を決定する。学内外の方を講師に招いての講義や、学内外でのフィールドワーク、学外での活動が実施される可能性がある。 【教科書ページ・参考文献】 後日案内 【課題・予習・復習・授業準備指示】 後日案内 【予習復習に必要な想定時間】 後日案内
	第１５回	前期のまとめ／後期の活動説明 【key words】 ふりかえり、ポートフォリオまとめ 【授業概要】 前期に紹介を受けた諸活動について振り返りを行い，後期からの興味関心に基づくグループ分けとそこでの活動について説明を行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料を中心に実施予定 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内で指示 【予習復習に必要な想定時間】
	第１６回	後期オリエンテーション／概要説明、領域分け 【key words】 グループ活動，興味関心 【授業概要】 後期の取り組みについて確認を行い，自分の興味関心のある領域とキーワード3つをまとめたワークシートに基づくグループワークを行う。授業終了時に，後期の活動希望をまとめた用紙を提出し、後期のグループ活動班を決定する予定である。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料を中心に実施予定 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内課題：グループ所属希望調査 【予習復習に必要な想定時間】
	第１７回	班活動準備①班編成と自己紹介、アイスブレイク 【key words】 チームで働く力，役割，自己紹介 【授業概要】 学生の興味関心で作成されたグループを呈示し，グループごとに自己紹介とアイスブレイク，役割の決定を行う予定である。その後、ポートフォリオ（後期）に沿って、「自分たちの興味関心を持った領域でどのようなニーズがあるのか」を調べるための4回分の活動計画を班ごとに立案し、発表資料にまとめる。その第1回となる予定。 【教科書ページ・参考文献】 グループ活動ポートフォリオを配布予定 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：適宜指示 【予習復習に必要な想定時間】
	第１８回	班活動準備②活動期間の計画立案 【key words】 計画立案，アイディアの発信，統合 【授業概要】 ポートフォリオ（後期）に沿って、「自分たちの興味関心を持った領域でどのようなニーズがあるのか」を調べるための4回分の活動計画を班ごとに立案し、発表資料にまとめる。その第2回となる予定。 【教科書ページ・参考文献】 グループ活動ポートフォリオを持参 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：適宜指示 【予習復習に必要な想定時間】
	第１９回	班活動準備③活動期間の計画立案 【key words】 計画立案，アイディアの発信，統合 【授業概要】 ポートフォリオ（後期）に沿って、「自分たちの興味関心を持った領域でどのようなニーズがあるのか」を調べるための4回分の活動計画を班ごとに立案し、発表資料にまとめる。その第3回となる予定。 【教科書ページ・参考文献】 グループ活動ポートフォリオを持参 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：適宜指示 【予習復習に必要な想定時間】
	第２０回	班活動準備④活動期間の計画立案 【key words】 振り返り，プレゼンテーション準備 【授業概要】 ポートフォリオ（後期）に沿って、「自分たちの興味関心を持った領域でどのようなニーズがあるのか」を調べるための4回分の活動計画を班ごとに立案し、発表資料にまとめる。その第4回として発表練習までを行う予定。 【教科書ページ・参考文献】 グループ活動ポートフォリオを持参 【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：適宜指示
【予習復習に必要な想定時間】

第２１回　活動計画発表会
【key words】
プレゼンテーション，振り返り
【授業概要】
全体で集合し，各班の発表担当より、それぞれの計画をまとめたパワーポイントを使用し、班ごとに5分未満で発表予定。
【教科書ページ・参考文献】
グループ活動ポートフォリオを持参
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第21回の翌日よりグループでの活動期間に入る。学外活動の場合には活動前後で地域連携センターに報告を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】

第２２回　活動期間①
【key words】
グループ活動
【授業概要】
班ごとに作成した計画に沿って学内外で活動を行う（第一週目）
【教科書ページ・参考文献】
グループ活動ポートフォリオを持参
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学外活動の場合には活動前後で地域連携センターに報告を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】

第２３回　活動期間②
【key words】
グループ活動
【授業概要】
班ごとに作成した計画に沿って学内外で活動を行う（第二週目）
【教科書ページ・参考文献】
グループ活動ポートフォリオを活用すること
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学外活動の場合には活動前後で地域連携センターに報告を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】

第２４回　活動期間③
【key words】
グループ活動
【授業概要】
班ごとに作成した計画に沿って学内外で活動を行う（最終週）
【教科書ページ・参考文献】
グループ活動ポートフォリオを活用すること
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学外活動の場合には活動前後で地域連携センターに報告を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】

第２５回　活動報告会の説明およびお礼状指導
【key words】
プレゼンテーション、お礼状
【授業概要】
全体で集合し、活動期間の取り組みを通じて見出したニーズと自分たちに何ができるかの企画について発表を行う発表会の説明を行った後，学内外でお世話になった方へのお礼状の書き方や提出期限について講義を行う予定である。
【教科書ページ・参考文献】
グループ活動ポートフォリオおよびボランティア活動ハンドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：お礼状の下書きの作成
【予習復習に必要な想定時間】

第２６回　発表会準備・お礼状作成①
【key words】
振り返り、企画立案、お礼状作成
【授業概要】
グループごとに話し合って定めた時限・教室等に集合し，発表会準備とお礼状（下書き・添削後の清書）の作成として活動を行う予定である。
【教科書ページ・参考文献】
グループ活動ポートフォリオ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備指示：実施の前後で授業担当に連絡を行うこと。また、学内で集まる場合には前日までに教務課にて教室を借りること。
【予習復習に必要な想定時間】

第２７回　発表会準備・お礼状作成①
【key words】
振り返り、企画立案、お礼状作成
【授業概要】
グループごとに話し合って定めた時限・教室等に集合し，発表会準備とお礼状（下書き・添削後の清書）の作成として活動を行う予定である。また、次回の成果発表会に向けてプレゼンtネーションの練習等を行うこと。
【教科書ページ・参考文献】
グループ活動ポートフォリオ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備指示：実施の前後で授業担当に連絡を行うこと。また、学内で集まる場合には前日までに教務課にて教室を借りること。
【予習復習に必要な想定時間】

	第２８回　活動報告会① 【key words】 プレゼンテーション、企画提案、成果発表 【授業概要】 全体で集合し，グループそれぞれによる企画発表を行う。各班10分前後の予定。 【教科書ページ・参考文献】 グループ活動ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 お礼状の清書の提出／完成 【予習復習に必要な想定時間】 第２９回　活動報告会② 【key words】 プレゼンテーション、企画提案、成果発表 【授業概要】 全体で集合し，グループそれぞれによる企画発表を行う。各班10分前後の予定。 【教科書ページ・参考文献】 グループ活動ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：適宜指示 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　サービス・ラーニングⅠ振り返りとⅡに向けた説明 【key words】 サービス・ラーニング 【授業概要】 全体で集合し，全体の振り返りを行った後に次年度に向けた作業の確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】 グループ活動ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループ活動ポートフォリオの提出 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	＜受講生に関わる情報＞ ・配布資料やポートフォリオの保管用として配布されたファイルを毎回持参すること ・講師を大学外から招くことや学外に出る機会があり得るため、実習に順ずる態度・身だしなみで取り組むこと。 ・クラスやコース、専攻を超えたグループワークが多く行われる予定であるため、真摯な態度でのぞむこと。 ＜受講のルール＞ ・遅刻／欠席については大学のルールに則り、教務課に連絡を行うこと。 ・特に後期は各グループで教室や時限が異なる可能性があるため、担当教員との連絡、掲示板の確認を密に行うこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	毎回の授業後にウェブポータルのスレッドやコメントカード（またはシャトルカード）のやり取りを行う予定
授業外時間にかかわる情報	・前期：各回でワークシートの作成等が課題として課される。 ・後期：各グループでの活動が多くなる。活動ごとのポートフォリオ記入に加え、担当教員の指示を確認すること。
オフィスアワー	授業内で案内する
評価方法	P/D評価である。各回のワークシートの作成・提出（50%）、とポートフォリオの作成・完成（50%）で評価を行い、基準を超えた場合に単位を認定する予定である。
教科書	使用しない。各回で資料の配布等を行うため、配布されたファイルに保管すること。
参考書	ボランティア活動ハンドブック（鈴木利定・監修）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 福祉や教育における各領域での実践経験のある教員が関わっている。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援

	□その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 相談心理学（公認心理師の職責）　　授業コード：S3322

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	社会福祉専攻・選択
担当教員			
大島　由之			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 対人援助職の中でも，公認心理師をはじめとした心理学の専門職が関わる心理的援助の具体的な活動や，そこで求められる知識・職責を理解すること。 【到達目標】 ①福祉，保健医療，教育その他の分野における心理職の役割，求められる倫理、法的義務等について説明できるようになる。 ②各分野における心理職の具体的な業務について例示できるようになる。 ③心理的支援を要する者等の安全を確保するための方法やその考え方、情報の適切な取り扱い方の留意点ついて具体的に述べることができ，各分野での相談援助活動での実践に関連づけることができるようになる。 ④心理職として求めらる知識・技術に関する自己分析や研鑽の方法について理解し，将来的な実践に沿って計画できるようになる。 ⑤心理職の立場から多職種間の連携や地域資源の活用の意義とその実践について説明できるようになる。
授業の概要	福祉，保健医療，教育等の領域で実践されている心理的支援やその業務の具体像を学び，それぞれの領域で求められる専門性や資格とその職責について理解することを目指す講義である。様々な領域における心理職やその支援の実際について座学と演習を通じて紹介する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション 【key words】 公認心理師，社会福祉士，精神保健福祉士 【授業概要】 15回の講義での実施内容と講義のルールについて説明を行う。また、平成29年7月に施行された「公認心理師法」によって誕生した国家資格である公認心理師について紹介を行い、主な活動分野である保健医療・福祉・司法犯罪・教育・産業労働における相談活動の実際やそこでの役割についてグループワークを通じて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p1-4, 参考書p11-21. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：配布されたワークシートを完成させて次回授業時に持参すること。 授業準備指示：昨年度「チームケア入門Ｉ」を受講した学生は資料を持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 15-20分
	第２回	福祉，保健医療，教育等の領域における「心理職」の役割 【key words】 心理職の役割，相談，介助 【授業概要】

		各領域における心理職の業務とその役割について，特に社会福祉士や精神保健福祉士，介護福祉士との差異を中心に知識を学び，事例を用いたグループワークを通じて考えを深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p4-19. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：配布されたワークシートを完成させて次回持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第３回	福祉，保健医療，教育等の領域における「心理職」の法的義務，倫理 【key words】 法的義務，倫理綱領，行動規範，信用失墜行為 【授業概要】 各領域の心理職に求められる法的義務・倫理について、特に福祉領域を例に，社会福祉士や精神保健福祉士，介護福祉士との差異を含めて知識を学び、事例を用いたグループワークを通じて考えを深める 【教科書ページ・参考文献】 教科書p20-32. 参考書p22-34. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：配布されたワークシートを完成させて次回持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第４回	相談をはじめとする心理的支援の場でどのようにクライエントの安全を確保するか 【key words】 インフォームド・コンセント、秘密保持、リファー、制限の設定、多重関係、治療契約 【授業概要】 各領域の心理職が行う相談活動に共通して求められるクライエントの安全確保のための手段や考え方について、社会福祉士や精神保健福祉士，介護福祉士との差異を含めて知識を学び、事例を用いたグループワークを通じて考えを深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：さまざまな場面での対応例について第5章（p144-252）より適宜紹介する。 参考書：p35-47. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：配布されたワークシートを完成させて次回授業時に持参すること 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第５回	誰に・どこまで・何を？；心理的支援を行う上で得た情報の取り扱いと守秘義務 【key words】 守秘義務、警告義務、守秘義務の例外的状況 【授業概要】 各領域の心理職が行う相談活動に共通して求められる情報の取り扱いと守秘義務に関する留意点とジレンマについて、社会福祉士や介護福祉士との差異を含めて知識を学び、事例を用いたグループワークを通じて考えを深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：さまざまな場面での対応例について第5章（p144-252）より適宜紹介する。 参考書：p48-60 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：指定された内容についてまとめること 【予習復習に必要な想定時間】 15-60分
	第６回	心理的支援を行う専門家としての自己課題の発見とその解決 【key words】 知識、技術、職業的ウェルビーイング、自己覚知 【授業概要】 各領域で心理職をはじめとした相談に関わる専門職に共通して求められる自己覚知と自己研鑽について知識を学び、事例を用いたグループワークを通じてその理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p64-76. 参考書p121-130. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：配布された資料に基づきワークシートを完成させて持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 15-60分
	第７回	心理的支援を行う専門家としての生涯にわたって学び続けるために 【key words】 自己研鑽、ロールプレイ、スーパーヴィジョン、教育分析 【授業概要】 各領域で心理職をはじめとした相談に関わる専門職に共通して求められる自己研鑽についてスーパーヴィジョンとロールプレイ、教育分析などの手法についての知識を学び、ワークシートを用いたグループワークを通じてその理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 参考書p131-141. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：配布されたワークシートを完成させて次回持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 15-60分
	第８回	多職種と連携した心理的支援の実際 【key words】 チーム医療、チーム学校、リエゾン 【授業概要】 各領域において心理職とその他の様々な職種の連携について知識を学び、それぞれの作成したレポートを教材としたグループワークを通じてその理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：さまざまな領域での多職種連携について第5章（p144-252）より適宜紹介する。
参考書p142-155.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートを完成させて次回持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
15-60分

第９回　地域資源を活用した心理的支援の実際
【key words】
アウトリーチ、包括型地域支援、一次予防、二次予防、三次予防
【授業概要】
各領域において心理職とその他の様々な職種が行う地域支援について知識を学び、事例を用いたグループワークを通じてその理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p287-310.
参考書p142-155.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：福祉領域における相談に関する興味関心に関する課題の作成と提出
【予習復習に必要な想定時間】
10-15

第１０回　福祉施設や障害者支援センターをはじめとする福祉領域における心理的支援の実際
【key words】
エンパワメント、権利擁護、アウトリーチ
【授業概要】
福祉分野における心理職が行う相談活動について知識を学び、受講生の興味関心に対応した場面での事例を用いたグループワークを通じてその理解を深める。また、受講生の興味関心に応じて福祉領域において心理臨床活動を行っている学内外の専門家をゲストスピーカーとして招く可能性がある。

【教科書ページ・参考文献】
教科書p151-153,159-181.
参考書p74-83

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：保健医療領域における相談に関する興味関心に関する課題の作成と提出

【予習復習に必要な想定時間】
60-120分

第１１回　病院をはじめとする保健医療分野における心理的支援の実際
【key words】
心理面接、心理査定、心理療法、緊急対応
【授業概要】
保健医療分野における心理職が行う相談活動について知識を学び、受講生の興味関心に対応した場面での事例を用いたグループワークを通じてその理解を深める。また、受講生の興味関心に応じて保健医療領域において心理臨床活動を行っている学内外の専門家をゲストスピーカーとして招く可能性がある。
【教科書ページ・参考文献】

教科書p182-190,195-204,244-252.
参考書p61-73.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：教育領域における相談に関する興味関心に関する課題の作成と提出
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第１２回　学校や教育センターをはじめとする教育分野における心理的支援の実際
【key words】
スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教育相談
【授業概要】
教育分野における心理職が行う相談活動について知識を学び、受講生の興味関心に対応した場面での事例を用いたグループワークを通じてその理解を深める。また、受講生の興味関心に応じて教育領域において心理臨床活動を行っている学内外の専門家をゲストスピーカーとして招く可能性がある。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p227-237,156-158.
参考書p84-96.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：司法犯罪領域における相談に関する興味関心に関する課題の作成と提出
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第１３回　被害者支援センターや少年鑑別所等をはじめとする司法・犯罪分野における心理的支援の実際
【key words】
家庭裁判所調査官、心理技官、保護観察官
【授業概要】
司法犯罪分野における心理職が行う相談活動について知識を学び、受講生の興味関心に対応した場面での事例を用いたグループワークを通じてその理解を深める。また、受講生の興味関心に応じて司法犯罪領域において心理臨床活動を行っている学内外の専門家をゲストスピーカーとして招く可能性がある
【教科書ページ・参考文献】
教科書p216-226.
参考書p97-109.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：産業労働領域における相談に関する興味関心に関する課題の作成と提出
【予習復習に必要な想定時間】

	30-60分 第１４回　企業内健康管理センター等をはじめとする産業・労働分野における心理的支援の実際 【key words】 ストレスチェック、EAP、復職支援 【授業概要】 産業労働分野における心理職が行う相談活動について知識を学び、受講生の興味関心に対応した場面での事例を用いたグループワークを通じてその理解を深める。また、受講生の興味関心に応じて産業労働領域において心理臨床活動を行っている学内外の専門家をゲストスピーカーとして招く可能性がある。 【教科書ページ・参考文献】 参考書p110-120. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：5つの領域のうち、興味関心に応じて領域を1つ選び、社会福祉士／精神保健福祉士／介護福祉士との連携についてのレポート課題を実施予定 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分 第１５回　まとめ 【key words】 自己研鑽、生涯学習 【授業概要】 各領域において心理職とその他の様々な職種が行う相談活動とそこで求められる資質とその向上について、各自が作成したレポートを用いたグループワークを通じて理解を深め、講義のまとめとして公認心理師に求められる今後の展開について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 参考書p156-169. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：最終レポート課題の準備を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・公認心理師の受験資格取得のための必須科目である。興味を持つ学生は必ず受講すること。 ・社会福祉士や精神保健福祉士の相談活動にも共通する部分はあるが、基本的には「将来的に公認心理師の資格取得を検討している学生」や「公認心理師の業務に興味関心をもつ学生」を対象とする講義である。 ・講義内で課題作成等を求める場合が多い。図書館の活用，コンピューター室やLL室の利用が可能なようにしておくこと。 ・講義内で上記の課題を教材として用いたグループワークを行う機会が多い点に留意すること。 ・補助教材としてプリントを配布することが多いため、前述の課題とあわせて各自でA4版のフラットファイル等を用いて保管することが望ましい。 〔受講のルール〕 ・指定する教科書を購入し、毎回持参すること。 ・授業時間中は、講義に集中するため、私用での携帯電話、スマートフォン、タブレット端末は使用せず、卓上にも置かないこと。もちろん，各自の個別の事情（例：授業中に保護者や実習先からの連絡がある）で確認が必要な場合には卓上に置くことを認める。その際は，授業開始前に担当教員に相談すること。 ・遅刻／欠席する際には，大学のルールに則り，講義開始前までに事務局に連絡を行うこと。受講生への伝言等による連絡は『言った／言わない』のトラブルを防ぐために行わないこと。 ・事務局への事前連絡があった遅刻／欠席の場合のみ，その回の課題を後日に提出することを認める。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカードまたはウェブポータルのスレッド機能／アンケート機能を利用予定
授業外時間にかかわる情報	各回ごとに事前学習として事例や記事を配布し，その感想や自分なりの対応案をレポート課題として課すため，授業内での指示に留意すること。これらを用いた受講生同士のグループワークを行うため、積極的かつ真摯な取り組むを望む。
オフィスアワー	金曜5限（16:00-17:30）
評価方法	授業ごとの課題：60%，学期末に課す最終レポート課題：40%（詳細は初回講義時に説明）
教科書	鑪幹八郎　・名島潤慈（編著）心理臨床家の手引［第4版］　誠信書房　(2018)
参考書	野島一彦（編）公認心理師の基礎と実践① 公認心理師の職責　遠見書房（2018）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 教育機関・福祉施設での心理職 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法

	等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 心理学実験実習Ⅲ（心理的アセスメント）　　授業コード：S3141

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	福祉心理コース・必修
担当教員			
植原　美智子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［授業の目標］ 　社会福祉士や精神保健福祉士，公認心理師に代表される対人援助職に求められる心理的アセスメントに関する基礎的な知識を理解し，観察法や検査法（代表的な知能検査・パーソナリティ検査等）のなりたち・特徴・意義及び限界について説明できるようになる。 ［到達目標］ ①心理的アセスメントの手法，意義，目的について説明できるようになる。 ②代表的なパーソナリティ検査，知能検査，神経心理学的検査の理論的背景とその運用上の特徴について説明できるようになる。 ③事例を読み解く際に，どういった心理的アセスメントが必要かについて想定できるようになる。
授業の概要	心理的アセスメントとは「対象となる事例の心理的側面に関する情報を収集し，その情報を統合し，事例の心理的問題についての総合的な査定を行う作業」と定義される。本講義ではその手法である面接や観察，信頼性・妥当性が確かめられた心理検査の概要と事例での運用，報告のまとめ方について解説を行う。 授業は双方向性で進めるため、教科書等で予習が必要である。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーションと授業契約と心理的アセスメント 【key words】 心理的アセスメント　信頼性と妥当性 【授業概要】 本講義15回の説明 本講義では心理的アセスメントの手法である面接や観察、信頼性・妥当性が確かめられた心理検査の概要と事例での運用、報告のまとめ方について解説を行う。 授業の目標 社会福祉士や精神保健福祉士、公認心理師などに代表される対人援助職に求められる心理セスメントに関する基礎的な知識を理解し、観察法や検査法のなりたち・特徴・意義及び限界について説明できるようになる。 【教科書ページ・参考文献】 pp40-41 【課題・予習・復習・授業準備指示】 心理学的アセスメントの定義、なぜアセスメントが重要なのかを調べてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２回	心理的アセスメントとは何か、心理的アセスメントの目的及び倫理 【key words】 面接　行動観察　情報　守秘義務 【授業概要】 心理学的アセスメントは、対象となる事例の心理的側面に関する情報を収集し、その情報を統合

し、事例の心理的問題についての総合的な査定を行う作業である。アセスメントの諸技法について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
P41（1アセスメントとは何か）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。まとめたレポートを提出。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがあるので、指示された範囲を予習する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第３回　面接法を用いたアセスメント
【key words】
初回面接　協働関係　情報収集　言語・非言語的情報

【授業概要】
初回面接とは、クライエントのどの問題をどのように扱っていくのかということを話し合う場である。またなぜ、ケース・フォーミュレーションが必要なのか、ケース・フォーミュレーションの特徴を理解する
【教科書ページ・参考文献】
pp42～P45（2ケース・フォーミュレーション,3初回面接）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがあるので指示された範囲を予習する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第４回　観察法を用いたアセスメント
【key words】
観察　行動の生起頻度や連続性　観察法の利点と限界　観察法に対応した記録法

【授業概要】
観察法は、対象となる人や行動を、自然な状況や統制された状況の下で観察する方法である。事前学習してきた内容をグループでディスカッションしてまとめる。その内容を発表しコメントをもらう。ディスカッション：調べてきた内容を説明し話し合う。

【教科書ページ・参考文献】
P48～P49（3.観察法）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
レポート提出。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがあるので指示された範囲を予習する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第５回　検査法によるアセスメント（1）心理検査とは何か
【key words】
パーソナリティ理論　ビッグファイブ理論
【授業概要】
1980年代以降、人間に最も普遍的で重要と思われる特性を特定していこうという動向が強くなった。こうした流れの中、パーソナリティ理論、ビッグファイブが誕生した。この背景と理論を学ぶ。ディスカッション：調べてきた内容を説明し話し合う。

【教科書ページ・参考文献】
pp50～51（3.質問紙法）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出。授業の冒頭でミニテストを行うことがあるので指示された範囲を予習する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第６回　〃　（2）質問紙法によるアセスメント
【key words】
リッカート尺度　介入効果　質問紙法の長所と短所

【授業概要】
質問法の長所・短所・使用上の注意点を理解する。授業では実際に標準化された質問紙を体験する。事前学習してきた内容をグループでディスカッションしてまとめる。その内容を発表しコメントをもらう。
【教科書ページ・参考文献】
pp50～51（3.質問紙法）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがあるので指示された範囲を予習する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第７回　投影法によるアセスメント(1)
【key words】
あいまいな状況　SCT　インクのしみ　反応

【授業概要】
投影法は、質問紙法や作業検査法と並ぶ人格検査の一方法である。その種類と特徴を理解する。

投影法の代表的なロールシャッハ・テストや文章完成法・P-Fスタディの実施方法・内容を理解する。また質問紙法との比較をする。
【教科書ページ・参考文献】
pp52～53 (4.検査法(2)投影法)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがあるので指示された範囲を予習する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第８回　投影法によるアセスメント(2)
【key words】
あいまいな状況　バウム・テスト　統合型S-HTP法　家族画法

【授業概要】
描画法もいくつかの種類があるのでその種類と特徴を理解したうえで、体験してみる。事前学習してきた内容をグループでディスカッションしてまとめる。その内容を発表しコメントをもらう。

【教科書ページ・参考文献】
pp52～53 (4.検査法(2)投影法)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがあるので指示された範囲を予習する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第９回　作業検査法によるアセスメント
【key words】
連続加算作業　作業曲線　作業の安定性や注意力
加算作業　一桁　内田勇三郎　パーソナリティ検査

【授業概要】
作業検査とは、一定の作業を課し、そこでの反応に認められる特徴から被験者のパーソナリティを推定する。具体的で明確な作業を課すため、投影法のような反応の自由度を持たない点が特徴である。事前学習してきた内容をグループでディスカッションしてまとめる。
【教科書ページ・参考文献】
資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがあるので指示された範囲を予習する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１０回　知能検査と発達検査 (1) 保護者からの聞き取りによる発達段階の査定
【key words】
知的活動　精神年齢　知能指数(IQ)

【授業概要】
知能検査と発達検査の理解とそれぞれの特徴を学ぶ。事前学習してきた内容をグループでディスカッションしてまとめる。その内容を発表しコメントをもらう。

【教科書ページ・参考文献】
資料を配布する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがあるので指示された範囲を予習する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１１回　〃　(2) 個別式知能検査
【key words】
WAIS　WISC　WPPSI4つの指標得点

【授業概要】
事前学習してきた内容をグループでディスカッションしてまとめる。臨床心理学における「知能」は「賢さ」や「頭の良さ」というものより、もう少し広い要素を含めた概念である。知能検査の歴史を知る。
【教科書ページ・参考文献】
pp54～57 (5.検査法3　知能検査)

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがあるので指示された範囲を予習する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１２回　神経心理学的検査やストレスチェックに関連した心理的アセスメントの実際
【key words】
高次脳機能　見当識　言語　認知　行為　記憶　注意　前頭葉機能

	【授業概要】 高次脳機能障害には、外傷、疾病などによる脳の損傷によって生じ、おもには言語、認知、行為、読み書き、記憶、注意、前頭葉機能に障害を示すもの、および認知症がある。授業では、各高次脳機能とその代表的な検査法について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 pp58～59(検査法(4.神経心理学的検査) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがあるので指示された範囲を予習する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１３回　検査バッテリーとは 【key words】 質問紙検査　投影法　知能検査 【授業概要】 事前学習してきた内容をグループでディスカッションしてまとめる。人間のあらゆる側面を評価できる単独の心理検査は存在しない。そこで通常は、被験者を多面的にとらえるため、複数の異なる検査を組み合わせて使用する。 【教科書ページ・参考文献】 資料配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがあるので指示された範囲を予習する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１４回　心理的アセスメントの解釈・報告・倫理 【key words】 各検査の性質・長所・短所　背景にある理論　被験者の心身の状態 【授業概要】 心理検査が活かされ、真にクライエントに利するものとなるためには、検査のデータについて考えるだけではなく、面接時に受ける印象、家庭に関する情報など、心理検査結果以外の情報までを含めた総合的な査定が行われる必要がある。役立つ報告書について概説する。 【教科書ページ・参考文献】 資料を配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがあるので指示された範囲を予習する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１５回　まとめ 【key words】 読み手のニーズ　守秘義務　通告義務　インフォームド・コンセント 【授業概要】 15回の授業を振り返り、守秘義務　通告義務　インフォームド・コンセントについて、理解できたか確認する。 アセスメントとは何か、診断との違い、定義、諸技法についてまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 資料を配布する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 15回のまとめ 【予習復習に必要な想定時間】 90分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・教科書を毎回持参すること。 〔受講のルール〕 ・遅刻／欠席については大学のルールに則り，事務局に講義開始前に連絡すること。受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。 ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ，配布資料の再配布を行う。 ・その他，詳細についてはシラバスを参照すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	シラバスにのっとり授業を進める。したがってシラバスで紹介した内容を事前に予習をしておくこと（レポート提出）。 授業の初めに前回の授業内容が把握できているか確認のためにミニテストを行うので復習をしておくこと。 また授業内での指示に留意すること。
オフィスアワー	火曜日　15時～18時。それ以外の時間を希望する場合には，応相談。
評価方法	■定期試験50%　■ミニテスト30%　■事前学習10%　■レポート課題の提出10%（詳細は初回講義時に説明）

教科書	下山晴彦（編）　よくわかる臨床心理学［改訂新版］　ミネルヴァ書房　(2009)　　［注］第11版以降を購入すること
参考書	下山晴彦（編）公認心理師必携　精神医療・臨床心理の知識と技法　医学書院　(2016) 福島哲夫（編）公認心理師　必携テキスト　学研　(2018)
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 臨床心理士・公認心理師として、精神科病院における心理面接・心理療法・心理アセスメント等の心理担当職員、教育機関のスクールカウンセラー、児童養護施設における心理療法担当職員など15年の実務経験を活かし，公認心理師・臨床心理士に必要な知識・技術・価値・倫理について講じる。また社会福祉士としてソーシャルワークにおける心理的援助について講じる。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ■コメントカードの実施。授業後、コメントカードを記入してもらい次回の授業で全員に説明する（質問提供者は匿名、授業の質問のほかに希望すること、問題点など）。 ■授業は基本的に双方向型。次回の授業についての事前学習をして授業に臨み、各グループでまとめ、代表者が発表する。コメントをもらう。

講義科目名称： 認知心理学（知覚・認知心理学）　　授業コード：S3151

英文科目名称： Cognitive Psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
大野　俊和			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 知覚・認知心理学の知識を習得するとともに、その活用について思考をめぐらせることができること。 【到達目標】 社会福祉の場面において、その知識をどう活用できるか吟味する能力を得ること。
授業の概要	知覚・認知心理学は，感覚や感情、思考や記憶、理解や推論といった人間の知覚・認知活動について研究する幅広い学問です。本講義では、認知心理学の分野で行われた実験研究、臨床的事例を紹介しながら、やさしく人間の認知機能について紹介します。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	△
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	認知心理学の誕生と変貌――認知革命ー 【key words】 【授業概要】 1認知心理学とは何か　〈1〉認知心理学の定義　〈2〉認知心理学の誕生 2認知心理学の特徴と方法 【教科書ページ・参考文献】 1～13ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書第1章を読んでおくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第２回	認知心理学の誕生と変貌――情報工学から機能的生物学へ 【key words】 【授業概要】 認知心理学の変貌　抽象的情報処理モデルから脳の機能モデルへ、新たな視点 【教科書ページ・参考文献】 18～25ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書第1章を読んでおくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第３回	知覚の基礎――環境とのファーストコンタクト　臨床事例を通じて 【key words】

【授業概要】
不良設定問題としての知覚　同化と対比　順応と残効
【教科書ページ・参考文献】
32～48ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書第2章を読んでおくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第４回　知覚の基礎――生態とのかかわり―
【key words】

【授業概要】
知覚世界　ミッドレベルビジョン
【教科書ページ・参考文献】
49～68ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書第2章を読んでおくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第５回　高次の知覚――見ることから理解することへ
【key words】

【授業概要】
2次元形態の認識、3次元形態の認識（マーの円柱理論、ビーダーマンのRBC理論）
【教科書ページ・参考文献】
69～79ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書第3章を読んでおくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第６回　高次の知覚――顔の認識
【key words】

【授業概要】
顔認識研究の意義　相貌失認とその理論
【教科書ページ・参考文献】
80～98ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】

教科書第3章を読んでおくこと

【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第７回　注意――情報の選択と資源の集中
【key words】

【授業概要】
注意とは何か　注意の古典的モデル
【教科書ページ・参考文献】
99～109ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書第4章を読んでおくこと

【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第８回　注意――視覚的注意
【key words】

【授業概要】

視覚的注意の特性　有限資源としての注意
【教科書ページ・参考文献】
110～127ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】

教科書第4章を読んでおくこと

【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第９回　表象ーーこころの中身、その形式
【key words】

【授業概要】
表象とは何か　命題表象　アナログ表象
【教科書ページ・参考文献】

131～139ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書第5章を読んでおくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

	第１０回　表象ーーイメージ論争 【key words】 【授業概要】 ピリシンの批判とイメージ論争　イメージ論争と神経科学的研究、スキーマ 【教科書ページ・参考文献】 140～164ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書第5章を読んでおくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第１１回　記憶――過去・現在・未来の自己をつなぐ 【key words】 【授業概要】 記憶のあらまし、記憶の基礎 【教科書ページ・参考文献】 165～192ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書第6章を読んでおくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第１２回　記憶――臨床事例を通じて 【key words】 【授業概要】 生きることと記憶　記憶と自己　日常記憶 【教科書ページ・参考文献】 193～204ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書第6章を読んでおくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第１３回　言語ーー成長する心の辞書システム 【key words】 【授業概要】 言語研究と認知心理学　言語の表象　脳と言語機能 【教科書ページ・参考文献】 205～244ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書第7章を読んでおくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第１４回　問題解決と推論――意思決定、集合知 【key words】 【授業概要】 心理学における「問題」、問題解決へのアプローチの歴史、推論 【教科書ページ・参考文献】 245～267ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書第8章を読んでおくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第１５回　問題解決と推論・到達テスト 【key words】 【授業概要】 推論・思考の領域固有性　生得性と文化による影響、確認テスト 【教科書ページ・参考文献】 268～279ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書第8章を読んでおくこと、配布資料をまとめておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
受講生に関わる情報および受講のルール	各章ごとに確認小テストを実施する予定である。また毎回コメントカードを用いてコメントの提出が求められる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状	コメントカード方式、毎回の授業の理解度についてコメントカードにより確認する。

況の確認方法	
授業外時間にかかわる情報	授業中に必要な文献を適宜紹介するので、文献探索・ダウンロードしておくこと。 授業中に検査や資料を渡すので、USBメモリを用意しておくこと。
オフィスアワー	金曜日3時限目を予定している。
評価方法	授業内小テスト50%、授業内コメントや発言20%、到達テスト30%
教科書	認知心理学 -- 知のアーキテクチャを探る 新版道又 爾（著），北崎 充晃（著），大久保 街亜（著），今井 久登（著），山川 恵子（著），黒沢 学（著）有斐閣
参考書	適宜指定する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 その他の具体的内容 展望記憶の訓練において，スマホのカレンダーやタイマーを利用し，実際に使えるようにする。

講義科目名称：　社会心理学（社会・集団・家族心理学）　　授業コード：S3161

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
大野　俊和			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　個人が集団や社会の中でどのように振る舞うかについて、適応およびマイクローマクロ関係という視点から社会心理学の基本知識を身につける。また、社会的相互作用を読み解くことで、人間と社会に関する幅広い視野と総合的な知識を身につける。 【到達目標】 ①人の心理や行動について、状況との関係から理解する視点を得る。 ②よりよい人間関係を阻害したり促進する要因について理解し、関係づくりのために必要なことについて考えることができる。 ③社会心理学の視点を学ぶことで集団間の対立を越えるために必要なことについて考えることができる。
授業の概要	「社会的動物」といわれる人間を理解するために、人間の社会性をめぐる社会心理学の知見を、「適応」、「マイクローマクロ関係」という2つのキーワードをもとに整理し、解説を試みる。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	△
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	◎
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	人間の社会性をどう捉えるか　ガイダンスと序章 【key words】 【授業概要】 「適応」と「マイクローマクロ関係」という2つのキーワードを用いて人間の社会性を理解する試みについて理解を深めます。 とくに、集団という生活形式の中で生じた適応がより複雑な情報処理能力を生み出してきた可能性を軸に学びます。 【教科書ページ・参考文献】 1～25ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 序章を読み、用語などを調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第２回	社会的影響過程 【key words】 【授業概要】 集団という生活形式はどのような特徴をもち、人々はその中でどのような行動傾向を見せるのでしょうか。 他者の存在だけで生じる社会的促進、社会的抑制、規範的影響や情報的影響といった社会心理学の古典的な研究を紹介しながら社会的影響の「文法」となるものについて学びます。 【教科書ページ・参考文献】 31～42ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】

第1章を読み、用語などを調べておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第３回　社会的影響過程
【key words】

【授業概要】
個々人の社会的影響の結果、いったい何が巨視的には起こっているのでしょうか。
社会的影響のマクロ的帰結に関する限界質量モデルやダイナミック社会的インパクト理論について学びます。
【教科書ページ・参考文献】
43～58ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第1章を読み、用語などを調べておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第４回　社会的交換
【key words】

【授業概要】
霊長類の中で高度な知性を持つヒトが、協力的な関係をどのように作り出し、集団の中で適応していくのかを「社会的交換」の観点から理解を深めます。
【教科書ページ・参考文献】
59～80ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第2章を読み、用語などを調べておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第５回　社会的交換
【key words】

【授業概要】
社会的交換の視点から、協力行為や利他性に関する不思議について学びます
【教科書ページ・参考文献】
81～96ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第2章を読み、用語などを調べておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第６回　グループとしての協調行為
【key words】

【授業概要】
グループによる協調行為がどのような特徴をもつのかについてグループを媒介とする適応の観点から学びます。
【教科書ページ・参考文献】
97～109ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第3章を読み、用語などを調べておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第７回　グループとしての協調行為
【key words】

【授業概要】
ブレインストーミングを例証しながら、グループによる遂行が少なからず非効率を生み出すことを学びます。
この非効率とグループの耐性とのトレードオフ関係について理解を深めていきます。
【教科書ページ・参考文献】
110～130ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第3章を読み、用語などを調べておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第８回　文化・社会環境と適応行動ーー文化の生成
【key words】

【授業概要】
適応論の視点を社会・文化の問題に拡張し、これまでの社会・文化研究での議論を学びます。
【教科書ページ・参考文献】
131～139ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第4章を読み、用語などを調べておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第９回　文化・社会環境と適応行動ーー文化の生成
【key words】

【授業概要】
ヒトにとっての適応行動の有効性は、社会環境の性質に左右されます。この点についてパトナムや山岸の研究を紹介し、理解を深めます。
【教科書ページ・参考文献】

	140～157ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第4章を読み、用語などを調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第１０回　態度、社会的認知のメカニズム 【key words】 【授業概要】 「適応」と「マイクローマクロ関係」をキーワードにしながら、「個人の心理」について学びます。 ここではとくに、態度や社会的認知の諸研究から社会的知性について理解を深めます。 【教科書ページ・参考文献】 163～179ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第5章を読み、用語などを調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第１１回　態度、社会的認知のメカニズム 【key words】 【授業概要】 前回に引き続き、態度、社会的認知の研究の中から、意識的ではない自動的な認知処理過程を取り上げて学びます。 【教科書ページ・参考文献】 180～198ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第5章を読み、用語などを調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第１２回　集団間認知とステレオタイプ 【key words】 【授業概要】 集団に対する個人の認知を学びます。内集団びいき、外集団差別など社会的アイデンティティ理論にもとづく研究を学びます。 【教科書ページ・参考文献】 199～212ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第6章を読み、用語などを調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第１３回　集団間認知とステレオタイプ 【key words】 【授業概要】 社会的認知研究のうち、集団間認知や行動の背後にあるステレオタイプの性質やステレオタイプ化について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 213～236ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第6章を読み、用語などを調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第１４回　統合的な社会心理学に向けて 【key words】 【授業概要】 各回を振り返り、あらためて「適応」と「マイクローマクロ関係」というキーワードを振り返り、メタ理論の重要性について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 237～248ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 終章を読み、用語などを調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第１５回　具体的な研究動向の紹介と到達テスト 【key words】 【授業概要】 配偶者選択や殺人に関する進化心理学的研究を学びます。最後に理解を深めるために各回のキーワードに確認のテストを行います。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料を読み、理解を深めておいてください 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 PCを用いて資料の閲覧を行うため、LLもしくはPC室で作業を行う。 〔受講のルール〕

	メールでのコメントカード記入を毎回実施する。 各トピックごとに小テストを実施する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	スマートフォンを用いたコメントカードを使用する。
授業外時間にかかわる情報	教科書はもとより、講義中に指定した文献は各自で事前に読んでおくこと。
オフィスアワー	金曜日3時限目（206研究室）
評価方法	授業内コメントカード（15%）、小テスト・小レポート（55%）、到達テスト（30%）
教科書	亀田達也・村田光二　複雑さに挑む社会心理学(改訂版)：適応エージェントとしての人間　有斐閣アルマ (2010年改訂版)　2010
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 臨床心理学（臨床心理学概論）　　授業コード：S3171

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
植原　美智子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［授業の目標］ 　社会福祉士や精神保健福祉士，公認心理師などに代表される対人援助職に求められる臨床心理学の基礎として，こころの病理・失調，心理アセスメント、心理療法に関する概要（歴史となりたち、概念、意義、適応及び限界）、その知識を有する者としての社会的責任に関する知識を習得すること。 ［到達目標］ ①こころの異常／失調の捉え方やその生起・維持のメカニズムの理論的枠組みについて説明できるようになること ②心理アセスメントの目的と意義，代表的な手法の種類と特徴と適応に関する基礎的な内容について説明できるようになること ③代表的な心理療法のなりたちと概要、特徴的な技法，効果と限界／課題について説明できるようになること
授業の概要	臨床心理学とは、「科学，理論，実践を統合して、人間行動の適応調整や人格的成長を促進し、さらには不適応、障害、苦悩の成り立ちを研究し、問題を予測し、そして問題を軽減、解消することを目指す学問」と定義されている。本講義では、対人援助職として「こころの失調／異常」を抱える人への適切な対応／他専門家との協働できるようになるための基礎知識を広く取り上げ、その成り立ちや実践との関連を紹介する予定である。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーションと授業契約，異常心理学（1）こころの異常・失調をどのように捉えるか 【key words】 異常、適応的基準、価値的基準、統計的基準、病理的基準 【授業概要】 15回の講義での実施内容と講義のルールについて説明を行う。また、臨床心理学という学問の中で取り上げられる「こころの失調／異常」を捉える視点である4つの基準について解説を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p69-70 参考書：青木省三（2012）「ぼくらの中の発達障害」筑摩書房 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。まとめたレポートを提出。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがあるので、指示された範囲を復習する 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第２回	臨床心理学のなりたちと展開（1）歴史と社会的背景 【key words】 診断・査定・評価、臨床心理学・カウンセリング・心理療法、臨床心理士、PTSD、公認心理師 【授業概要】 わが国における臨床心理学の成り立ちについて、特に医療や社会情勢との関連を中心に知識を学

ぶ。また、医療との関連で必須となる診断の基準について、各自が作成したレポートを用いたグループワークを通じて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p2-9,18-25.
参考書：西井重超（2018）「精神疾患にかかわる人が最初に読む本」照林社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。まとめたレポートを提出。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
15-30

第３回　異常心理学（2）ストレッサーとストレス反応，対処方略
【key words】
ストレッサー、ストレス反応、コーピング
【授業概要】
ストレッサーとストレス反応の関係性、およびコーピングの関係性とその代表的理論について講義を通じて知識を学ぶ。また、ラザルスの心理社会的ストレスモデルにおけるコーピングの重要性について、グループワークを通じて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p36-37
参考書：マーガレット・M・ホームズ（2015）「子どものトラウマ治療のための絵本シリーズ；こわい目にあったアライグマくん」誠信書房
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。まとめたレポートを提出。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第４回　異常心理学（3）発達障害と二次障害
【key words】
発達障害、自閉症スペクトラム、注意欠如多動症、学習症、二次障害
【授業概要】
福祉・教育領域をはじめ、心理的アプローチの重要性が指摘されている発達障害の特徴について、特に代表的な3つを中心に講義を通じて知識を学ぶ。また、その対応や支援を検討する際の視点について、グループワークを通じて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p122-127
参考書：札幌市発達障が者支援関係機関連絡会議 就労支援プロジェクト（2017）「職場で使える『虎の巻』；発達障がいのある人たちへの八つの支援ポイント」同市保健福祉局
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。まとめたレポートを提出。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第５回　心理療法（1）精神分析／力動論的アプローチ①理論的背景
【key words】
意識・前意識・無意識（局所論）、リビドー、イド・エス・超自我（構造論）
【授業概要】
「こころの異常・失調」を理解し、介入するための理論の1つである精神分析／精神力動的アプローチの成り立ちと特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、実際にクライエントの困難を理解する際の視点について、各自の作成したレポート課題を用いたグループワークを通じて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p146-153
参考書：藤山直樹（2008）「集中講義・精神分析（上）精神分析とは何かフロイトの仕事」岩崎学術出版社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。まとめたレポートを提出。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第６回　心理療法（2）精神分析／力動論的アプローチ②防衛機制と心理・性的発達段階
【key words】
防衛機制、リビドー、心理・性的発達段階
【授業概要】
精神分析／精神力動的アプローチの特徴の1つである「心の平衡を保つために生じる心の中の働き（力動）」である防衛機制について、その個人差がどのように形成され、どのような形であらわれるのかを中心に講義を通じて知識を学ぶ。また、それぞれの表現型について各自の作成したレポート課題を用いたグループワークを通じて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p146-153
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。まとめたレポートを提出。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第７回　心理療法（3）行動療法／行動論的アプローチ
【key words】
レスポンデント条件づけ・系統的脱感作、オペラント条件づけ・トークンエコノミー法、観察学習・SST
【授業概要】
「こころの異常・失調」を理解し、介入するための理論の1つである行動療法の成り立ちと特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、具体的な技法とその基盤となった実験の対応について、各自の作成したレポート課題を用いたグループワークを通じて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】

		教科書：p154-161 参考書： ・三田村 仰（2017）「はじめてまなぶ行動療法」金剛出版 ・アダム・ハート=デイヴィス（2016）「パブロフの犬:実験でたどる心理学の歴史」創元社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。まとめたレポートを提出。 授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第８回	心理療法（4）来談者中心療法／ヒューマニスティック・アプローチ 【key words】 無条件の肯定的関心、共感的理解、自己一致 【授業概要】 「こころの異常・失調」を理解し、介入するための理論の1つである来談者中心療法の成り立ちと特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、その理念と技法との対応について、各自の作成したレポート課題を用いたグループワークを通じて理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p142-145 参考書：平木典子・藤田博康（編）（2019）「キーワードコレクション カウンセリング心理学」新曜社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。まとめたレポートを提出。 授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第９回	心理的アセスメント（1）面接法 【key words】 アセスメント、初回面接、ラポール、守秘義務、面接の構造化 【授業概要】 心理アセスメントの諸技法の1つである面接法の特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、構造化による差異について、各自の作成したレポート課題を用いたグループワークを通じて理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p40-47 参考書：高野陽太郎・岡隆（2017）「心理学研究法；心を見つめる科学のまなざし 補訂版」有斐閣 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。まとめたレポートを提出。 授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第１０回	心理的アセスメント（2）観察法 【key words】 参加観察法・非参加観察法、交流的観察・面接観察・非交流的観察、サンプリング 【授業概要】 心理アセスメントの諸技法の1つである観察法の特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、観察者の参加形態によって生じる変化と特長について、各自の作成したレポート課題を用いたグループワークを通じて理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p48-49 参考書：高野陽太郎・岡隆（2017）「心理学研究法；心を見つめる科学のまなざし 補訂版」有斐閣 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。まとめたレポートを提出。 授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第１１回	心理的アセスメント（3）検査法①パーソナリティ 【key words】 質問紙法、投影法、作業検査法、テストバッテリー 【授業概要】 心理アセスメントの諸技法の1つである検査法、特にパーソナリティの測定を中心に、その特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、手法による差異と特長について、各自の作成したレポート課題を用いたグループワークを通じて理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p50-53 参考書：高野陽太郎・岡隆（2017）「心理学研究法；心を見つめる科学のまなざし 補訂版」有斐閣 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。まとめたレポートを提出。 授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第１２回	心理的アセスメント（4）検査法②知的能力・高次脳機能 【key words】 知能検査，神経心理学的検査 【授業概要】 心理アセスメントの諸技法の1つである検査法、特に知的能力・高次脳機能の測定を中心に、その特徴について講義を通じて知識を学ぶ。また、検査の特徴について、各自の作成したレポート課題を用いたグループワークを通じて理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p54-61 参考書：武田克彦・山下 光（2019）「神経心理検査ベーシック」中外医学社

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。まとめたレポートを提出。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分 第１３回　臨床心理学のなりたちと展開（2）専門性と社会的連携 【key words】 コミュニケーション、ケース・マネジメント、システム・オーガニゼーション 【授業概要】 これまでに紹介した異常心理学・心理アセスメント・心理療法についての専門職である臨床心理士や公認心理師の実践活動、特に諸領域で共通して必要となる技能を中心に、その特徴について講義を通じて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p10-13 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。まとめたレポートを提出。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分 第１４回　臨床心理学のなりたちと展開　（3）各領域における実践の特徴 【key words】 保健医療、福祉、教育、司法犯罪、産業労働 【授業概要】 諸領域における臨床心理学を活用した実践活動について講義と各自の作成したレポート課題を用いて知識を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p260-281 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。まとめたレポートを提出。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分 第１５回　臨床心理学のなりたちと展開　（4）職責と倫理、科目のまとめ 【key words】 倫理、法的義務、倫理的ジレンマ 【授業概要】 15回の講義の振り返りを行う。これまでに紹介した異常心理学・心理アセスメント・心理療法における倫理や法的義務について知識を学び、理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p254-257 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内で受けた指示に沿って定期試験への準備を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 60-90分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・子ども専攻の学生の受講は、内容が大きく異なるため原則として不可とする。特別な理由があって受講を希望する場合には、事前に教務課と担当教員へご相談ください。 ・事前学習の課題作成のため、図書館やPC室／LL室の利用が可能な状態にしておいてください。 ・講義内で事前学習の課題を資料として用いるグループワークを行う機会があります。グループは基本的に教員がランダムに指定します。 ・教科書以外に、補助教材としてプリントを配布します。前述の事前学習の課題とあわせて、各自でA4版のフラットファイル等を用いて保管するようにしてください。なくしてしまった場合の再発行はできない場合があります。 〔受講のルール〕 ・遅刻／欠席については大学のルールに則り、事務局に講義開始前に連絡してください。受講生への伝言等による連絡は過去にトラブルがありましたので、行わないようにしてください。 ・事務局への事前連絡があった欠席の場合のみ、配布資料の再配布や課題の後日提出を認めます。 ・教科書を毎回持参してください。 ・授業中は、講義に集中するため、私用での携帯電話、スマートフォン、タブレット端末の使用せず、卓上にも置かないでください。授業中に実習先等からの連絡がある予定等、何らかの事情で確認や使用が必要な場合には使用・卓上に置くことを認めます。その回の授業開始前に担当教員にご相談ください。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	シラバスにのっとり授業を進める。したがってシラバスで紹介した内容を事前に予習をしておくこと（レポート提出）。 毎回、授業の初めに前回の授業内容が把握できているか確認のためにミニテストを行うので復習をしておくこと。 また授業内での指示に留意すること。
オフィスアワー	火曜日　15時～18時。それ以外の時間を希望する場合には、応相談。
評価方法	■定期試験50%　■ミニテスト30%　■事前学習10%　■レポート課題の提出10%（詳細は初回講義時に説明）
教科書	下山晴彦（編）　よくわかる臨床心理学［改訂新版］　ミネルヴァ書房　(2009)　［注］第11版以降を購入すること
参考書	本学図書館に所蔵のある書籍やウェブ上で公開されている資料などを各回の授業テーマや課題に応じて適宜紹介します。購入の必要はありませんが、興味を持った場合には各自で手に取ってみてくださ

	い。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 臨床心理士・公認心理師として、精神科病院における心理面接・心理療法・心理アセスメント等の心理担当職員、教育機関のスクールカウンセラー、児童養護施設における心理療法担当職員など20年の実務経験を活かし、公認心理師・臨床心理士に必要な知識・技術・価値・倫理について講じる。また社会福祉士としてソーシャルワークにおける心理的援助について講じる。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ■コメントカードの実施：授業後、コメントカードを記入してもらい次回の授業で全員に説明する（質問提供者は匿名、授業の質問のほかに希望すること、問題点など）。 ■授業は基本的に双方向型。次回の授業についての事前学習をして授業に臨み、各グループでまとめ、代表者が発表する。コメントをもらう。

講義科目名称： 心理療法（心理学的支援法）　　授業コード：S3221

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	社会福祉専攻・選択
担当教員			
植原　美智子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［授業の目標］ 　社会福祉士や精神保健福祉士、公認心理師に代表される対人援助職に求められる心理療法並びにカウンセリングに関する基礎的な知識を理解し、事例への適用について考察することができるようになること。 ［到達目標］ ①代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適用、その限界について説明できるようになること ②福祉、保健医療、教育等の領域における訪問による心理的支援や地域での実践の意義について説明できるようになること ③心理学的支援における留意点や倫理的配慮を想定できるようになること
授業の概要	心理療法は臨床心理学の知見を応用した心理的支援の技法の総称であり、各々の背景には理論・歴史、特徴、効果と限界、特徴が存在する。本講義では「心理的支援が実施できるようになること」ではなく、これまでの講義で学んできた「心理的支援に関する理解」を深め、対人援助職を目指す／対人援助職として活躍する中で、その知識を活用できるようになることを目指す。そのため、講義では出来る限り演習形式や疑似体験を含めた体験的な学びを行う予定である。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　科目オリエンテーションと授業契約及び心理療法とカウンセリングの歴史 【key words】 臨床心理学の全体構造　カウンセリングと心理療法と臨床心理学の違い　日本の臨床心理学の課題 【授業概要】 【講義の進め方】 ①出席の確認 ②ミニテスト ③テーマの確認 ④テーマについて、グループディスカッション ④次回までの課題提示(レポート等) 【授業の目標】 日本の臨床心理学には、森田療法や内観療法といった心理療法もあるが、基本的には欧米からの移入によって成立し、発展したのが日本の臨床心理学の歴史である。現在、日本の臨床心理学は、大きな転換点に立っている。外国から移入した各学派の理論を越えて、日本の社会的現実に根差した臨床心理学の統合と再構築が求められている。日本の臨床心理学の歴史を概観する。 【教科書ページ・参考文献】 P18-P25（6世界の臨床心理学の歴史　7日本の日臨床心理学の歴史） 資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。

【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２回　基礎となる3つの考え方（１）精神分析療法／力動的アプローチ

【key words】
Freud,S.　無意識と意識　精神分析の古典的技法　自由連想法・介入・抵抗の分析・夢の分析・転移

【授業概要】
フロイトによる精神分析理論を学ぶ。精神分析の古典的分析技法にはどのような技法があるのかを学習する。ディスカッション：グループで調べてきた内容・用語を他者に説明してディスカッションする。また、代表者が発表する。
【教科書ページ・参考文献】
P146～P153（3.精神分析 4.分析心理学）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第３回　〃　（２）行動療法／行動的アプローチ

【key words】
レスポンデント行動　オペラント行動　学習理論　古典的条件づけ　オペラント条件づけ

【授業概要】
ディスカッション：グループで調べてきた内容・用語を他者に説明してディスカッションする。また、代表者が発表する。現在の行動療法は、仮説検証を目指す実証的なアプローチを共通基盤に持つ。行動科学から引き出された知識と系統的に利用して人間の問題の把握をしていく。授業では、行動療法における学習とは、また授業では、行動療法における学習と行動、古典的条件づけ、オペラント条件づけ行動を説明する。
【教科書ページ・参考文献】
P154～P157(5.行動療法)

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第４回　〃　（３）来談者中心療法／ヒューマニスティック・アプローチ　面接技術

【key words】
クライエント　非指示的アプローチ　逐語記録　無条件の積極的関心　共感的理解　自己一致

【授業概要】
クライエント中心療法は、アメリカの心理療法家であるロジャーズによって提唱された。理論の基本について学ぶ。事前に調べてきた内容・用語を他者に説明してディスカッションする。また、代表者が発表する。
【教科書ページ・参考文献】
P142～P143（2.クライエント中心新療法）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第５回　エビデンスを重視する心理療法：認知療法と認知行動療法

【key words】
認知行動理論　エビデンスベイスト　ABC理論　推論のあやまり　三項随伴性（刺激ー反応ー結果）

【授業概要】
治療の有効性が厳しく審査される欧米において、クライエントの恩恵を最大限にすべく効率性を実証し、社会的な説明責任を全うしようとする認知行動療法が心理療法の中核的地位を占めるに至っている。その成り立ちを学ぶ。事前に調べてきた内容・用語を他者に説明してディスカッションする。代表者が発表する。
【教科書ページ・参考文献】
P158～P161（6.認知行動療法）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第６回　個人ではなくシステムに働きかける心理療法（１）家族療法／システムズ・アプローチ

【key words】
IP(Identitied Patient)　円環的因果律　家族システム論

【授業概要】
家族療法は個人を取り巻く家族をひとまとまりの単位として心理療法の対象とする。IPとは「患者とみなされる人」という意味であり、IPが示す問題行動や症状は、個人だけではなく家族のSOSであるとみなされる。事前に調べてきた内容・用語を他者に説明してディスカッションする。代表者が発表する。
【教科書ページ・参考文献】

P162～P165（7家族療法）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第７回　〃　（２）アウトリーチとコミュニティ心理学

【key words】
地域精神保健活動　心理的社会的問題　社会的文脈のなかの人間　人と環境への働きかけ　社会構成主義　相対主義的性質

【授業概要】
コミュニティ心理学は、1960年代の米国において、地域精神保健活動を母体として誕生した新しい心理学の分野である。コミュニティ心理学の実践の場も変容を続けている。調べてきた内容・用語をグループ内で他者に説明してディスカッションする。また、代表者が発表する。
【教科書ページ・参考文献】
P166～P171(8コミュニティ心理学 9ナラティブ・セラピー)

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第８回　日本独自の心理療法：森田療法、内観療法、動作法

【key words】
森田療法の「ヒポコンドリー現象」　内観療法の「身調べ」　動作法の心身一元「現象」
【授業概要】
日本で生まれた心理療法について、理論と方法を学ぶ。動作法は実際に体験する。調べてきた内容・用語をグループで他者に説明してディスカッションする。また、代表者が発表する。
【教科書ページ・参考文献】
P172～177（10動作法　11森田療法　12内観療法）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第９回　『ことば』に頼らない心理療法（１）遊戯療法

【key words】
遊ぶことの意味　アクスラインの8原則　問題解決を促すかかわり

【授業概要】
遊戯療法では、子どもとセラピストが遊びに集中できるための枠組みが重要になる。枠組みとはどのようなものか、遊ぶことにはどのような意味があるのか学ぶ。調べてきた内容・用語をグループ内で他者に説明してディスカッションする。また、代表者が発表する。
【教科書ページ・参考文献】
p178-p179（1遊戯療法）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１０回　〃　（２）表現療法・箱庭療法・コラージュ療法

【key words】
「選ぶ」「置く」「切る」「貼る」

【授業概要】
箱庭療法はイメージを媒介する介入方法の一つである。たくさんのミニチュアからいくつかを「選んで」、それらを「箱」のなかに「置く」。箱庭療法の意義をを学ぶ。表現療法・コラージュ療法の理論・技法を学ぶ。実際に体験する。調べてきた内容・用語を他者に説明してディスカッションする。また、代表者が発表する。
【教科書ページ・参考文献】
p180～p181（2箱庭療法）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１１回　技法に特徴を持つ心理療法（１）ブリーフセラピー／短期療法

【key words】
受動的注意集中　標準練習　特殊練習　黙想練習　気持ちが落ち着いている

【授業概要】
ディスカッション：グループで調べてきた内容・用語を他者に説明してディスカッションする。また、代表者が発表する。自律訓練法は、心身安定のための心理生理学的訓練法で、一定の言語公式を心の中で反復的に唱え、その公式の内容に受動的注意集中を行って、段階的に心理生理的再体制化をはかる方法である。その効果を体験的に学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
P186-P187（5自律訓練法）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１２回　〃　（２）トラウマの治療

【key words】
自己表現　アサーション　非主張的表現　攻撃的表現　「私もOK、あなたもOK」

【授業概要】
【授業概要】
アサーションとは、「自分の気持ち・考え・意見・相手への希望などを伝えたいときには、なるべく素直に、その場にあった適切な方法で杖たる自己表現」すること。その根底には、人間一人ひとりが頃なる価値観や考えをもち、表現することを基本的人権として大切にしようとする理念がある。相手も自分も大切にする表現とはどのようなものかを学ぶ。
グループで調べてきた内容・用語を他者に説明してディスカッションする。また、代表者が発表する。
【教科書ページ・参考文献】
P196-P197（10アサーション・トレーニング）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１３回　集団に対する心理的支援：エンカウンター，こころの健康教育,心理教育

【key words】
ファシリテーターと複数のメンバー　グループ・ダイナミクス　対人関係
【授業概要】
集団療法は、集団を対象とした心理療法であり、セラピストあるいはファシリテーターと複数のメンバーによって行われる。集団療法の種類や特徴を体験的に学ぶ。調べてきた内容・用語を他者に説明してディスカッションする。また、代表者が発表する。
【教科書ページ・参考文献】
P198～P207（1集団療法　4心理教育）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１４回　福祉、保健医療、教育等の分野における心理的支援の実際　プライバシーの配慮や倫理

【key words】
被害・被災とトラウマ反応　心理的反応　適応の援助　文化の問題　従業員援助プログラム　行動側面に注目

【授業概要】
【授業概要】
衝撃的で強いストレスとなる出来事に巻き込まれたときに、さまざまな精神的な変調を生じることがあり、これをトラウマと呼んでいる。こうしたトラウマ体験への多様な心理的反応を知り、どのような対応ができるのか考える。調べてきた内容・用語を他者に説明してディスカッションする。また、代表者が発表する。
【教科書ページ・参考文献】
P218-P223（15被害者相談　6異文化間カウンセリング　7 EAP）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１５回　まとめ

【key words】
死への心理的プロセス　ターミナルケア　緩和ケア　精神的ケアの重要性

【授業概要】
現代の心理療法はエビデンスがいかに担保されるか、の問題が大きい。しかしながら，人には古代から脈々と受けつがれた固有の文化が存在する。これは普段は意識されないものであるが、全世界の人々に共通する普遍的な無意識の層に流れていると考えられている。自然界の考え方をどのようにとらえるか。各心理療法の特徴から福祉的場面での心理療法を考える。全講義のまとめをする。
【教科書ページ・参考文献】
資料配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
全講義のまとめと学期末試験の準備を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・教科書を毎回持参すること。 〔受講のルール〕 ・遅刻／欠席については大学のルールに則り、事務局に講義開始前に連絡すること。受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。 ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ、配布資料の再配布を行う。 ・その他、詳細についてはシラバスを参照すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状	コメントカード

況の確認方法	
授業外時間にかかわる情報	シラバスにのっとり授業を進める。したがってシラバスで紹介した内容を事前に予習をしておくこと（レポート提出）。 授業の初めに前回の授業内容が把握できているか確認のためにミニテストを行うことがあるので復習をしておくこと。 また授業内での指示に留意すること。
オフィスアワー	火曜15時～18時。それ以外の時間を希望する場合には，応相談。
評価方法	■定期試験50%　■ミニテスト30%　■事前学習10%　■レポート課題の提出10%
教科書	下山晴彦（編）　よくわかる臨床心理学［改訂新版］　ミネルヴァ書房　(2009)　［注］第11版以降を購入すること
参考書	下山晴彦（編）公認心理師必携　精神医療・臨床心理の知識と技法　医学書院　(2016) 福島哲夫（編）公認心理師　必携テキスト　学研　(2018)
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 臨床心理士・公認心理師として、精神科病院における心理面接・心理療法・心理アセスメント等の心理担当職員、教育機関のスクールカウンセラー、児童養護施設における心理療法担当職員など20年の実務経験を活かし、公認心理師・臨床心理士に必要な知識・技術・価値・倫理について講じる。また社会福祉士としてソーシャルワークにおける心理的援助について講じる。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ■コメントカードの実施。授業後、コメントカードを記入してもらい次回の授業で全員に説明する（質問提供者は匿名、授業の質問のほかに希望すること、問題点など）。 ■授業は基本的に双方向型。次回の授業についての事前学習をして授業に臨み、各グループでまとめ、代表者が発表する。コメントをもらう。

講義科目名称： 人格心理学（感情・人格心理学）　　授業コード：S3261

英文科目名称： Psychology of Emotion and Personality

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	社会福祉専攻・選択
担当教員			
橋本　広信			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 自分や自分以外の人がどのような人かを考える心理学的視点について、「人格（パーソナリティ）」と「感情」に注目しながら、人が生きている大きな時間的空間的な背景にも注目し、多面的に人とその人生をとらえる力を養うことを目的とする。 【到達目標】 ①人とその心の全体的な理解をめざして、多様な人格（パーソナリティ）理論と感情のメカニズムについて理解できる。 ②すべての人に共通する視点、集団の一員としての人を理解する視点、一人ひとり個別の人間を理解する視点という三層の視点を養う。 ③人格と感情の機能や構造を理解し、その人それぞれに出会うであろう危機や回復についての道筋をイメージすることができ、「人がその人らしく生きる」ことを心理学的に支援する方法を描ける。
授業の概要	・教科書に沿いながら、まず「人格（パーソナリティ）」に関する理論や研究を全般的に見ていく。そして、後半には時として人の行動を強く規定する「感情」について参考書を基に学んでいく。 ・この授業を通して、普通に生きる人のあり方やその感情の動きはもちろん、時に了解しがたい次元に行ってしまう人の心理をも理解し、それも人の心のある意味自然な働きとしてとらえる枠組みなどもつかみながら、深い人間理解に根差した人間観、人生観を磨く機会にしてもらいたい。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	どうして人は誰かの性格をきめつけるの？：科目オリエンテーション 【key words】 内集団・外集団、個人差、基本的な統計的手法、構成概念、統制過程と自動過程、ステレオタイプ、偏見、内集団ひいき、相貌学、体系によるパーソナリティ分類、ハロー効果、血液型ステレオタイプ、確証バイアス 【授業概要】 ・15回の授業の流れと目標などについて、科目のオリエンテーションを行います。まず、ある人に関心をもったとき、その人を端的な特徴に基づき単純化して捉える人の傾向性について学び、人が人と関わるときに何に基づいて振る舞いを決めているかについて検討します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書1-21ﾍﾟｰ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会心理学で基本的に扱う内容となるので、なるべく社会心理学の教科書を持参しながら受講すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第２回	性格の個人差などは、存在しないのでは？：社会構成主義のパーソナリティ観 【key words】 パーソナルコンストラクト理論（ケリー）、if...then...行動パターン、パーソナリティの一貫性、基本的帰属のエラー、対応バイアス、状態と特性 【授業概要】

パーソナリティというものが人の中に実態として存在するようなものではなく、状況に応じて場面場面で作られていくという考え方を基本的にとる立場の社会構成主義的な考え方について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書22-34ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ケリーのパーソナルコンストラクト理論についてあらかじめ予習をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第３回　類型としてとらえるパーソナリティ、特性でとらえるパーソナリティ
【key words】
ユング、外向、内向、キャッテルの特性論、アイゼンクの2軸、ビッグファイブ理論、オルポート、
【授業概要】
どのようにパーソナリティが形成されるかの論争とは別に、心理学の大きな課題として、人のパーソナリティを客観的に理解するにはどうすればよいかというテーマがある。今回はその基本となる類型論と特性論に基づくパーソナリティ理解のあり方について、様々な心理学者の考えを基に学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書35-46ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当箇所について予習をしておくこと。またそれに基づいて作られたパーソナリティ検査についても調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第４回　遺伝はパーソナリティのあり方にどう影響していると考えるべきか？
【key words】
遺伝、ポリジーンモデル、遺伝的多様性、クロニンジャー、行動遺伝学、共有環境、非共有環境
【授業概要】
自分の中に生まれながらにあって、歳をとるごとになおかつ影響を及ぼし続ける「遺伝」の影響について学んでいく。まだまだ不明な点も多い遺伝の影響であるが、「行動遺伝学」などの研究を理解し、どのように遺伝の影響を考えるべきかについて解説する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書47-62ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「「犯罪者」の先祖をもつ子どもがいたとしたら「犯罪者」になりやすいのか？」という問題について、いろいろ調べて自分なりの答えを出せるようにしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第５回　遺伝と環境の相互作用によるパーソナリティ形成の考え方
【key words】
新相互作用論、当為自己、理想自己、ＣＡＰＳ、パーソナリティの神経基盤、精神力動モデル、対話的自己（ハーマンス）
【授業概要】
遺伝の影響は侮れないが、それが決定的な要因になるとはいえない。遺伝はパーソナリティの基盤を作りながらも、生まれ育つ環境の中でどのようなことを学びながら生きるのかという環境との相互作用のあり方を理解する必要がある。ここでは、基本的に相互作用的にパーソナリティが形成されるメカニズムをモデル化した理論を学び、パーソナリティを多面的に動きのあるものとして見る視点を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書63-73ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
フロイト、ハーマンスの理論について予習をし、彼らの見方からどうパーソナリティのあり方を説明できるかを確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第６回　パーソナリティは変わるもの？変わらないもの？
【key words】
トーマスとチェス、ニューヨーク縦断研究、乳児期の３タイプ、愛着（アタッチメント）、ストレンジ・シチュエーション法、愛着スタイル、アイデンティティ地位論、モラトリアム、マクアダムスの3層構造
【授業概要】
パーソナリティは生まれた時と青年期、また老年期では同じだろうか、違うだろうか。それぞれどんなところが変わって、そして変わらないのだろうか。今回はそんな疑問に対して、発達心理学の研究から答えを考えていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書76-83ページ　（青年期、パーソナリティの形ができあがってくるまで）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
パーソナリティを層構造としてとらえる視点について、特に復習をしっかりしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習1時間、復習3時間

第７回　パーソナリティの完成ってあるの？　成人期・老年期のパーソナリティ
【key words】
親密性、生殖性（ジェネラティビティ）、中年期の危機（ミッドライフクライシス）、個性化（ユング）、ライフレビュー（バトラー）、後悔、老延期超越
【授業概要】
青年期を通過する間に、人それぞれのパーソナリティが明確になってくる。それに伴い、それぞれのパーソナリティの偏りやくせ、課題も明確になってくる。良い悪いは別として、そうした課題を抱えながら中年期以降に現れる、中年期の危機と「個性化」の過程について理解し、人格の全体を生きるという視点から人とその人生を捉える見方を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書84-86ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】

ユングの個性化について予習をし、ある程度人に説明できるようにしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第８回　私の中の私　パーソナリティと統合失調症

【key words】
多重人格、統合失調症
【授業概要】
ここまで学んだことのまとめとして、自明であるはずの自分のパーソナリティが混乱したり崩壊したり、機能しなくなる統合失調症をもとにして、病から見えてくる、パーソナリティというものの本質を考えてみる。
【教科書ページ・参考文献】
参考書：ともよ（2018）『わたし中学生から統合失調症やってます』（合同出版）、木村きこり『統合失調症日記』（ぶんか社）、他
【課題・予習・復習・授業準備指示】
参考として当事者による漫画や物語を参考にしていくので、受講前にそれらに目を通してもらいたい。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第９回　パーソナリティの測り方とは？

【key words】
観察法、実験法、面接法、質問紙法、投影法、
【授業概要】
これまでの心理学の歴史において、多様な方法とスタイルでパーソナリティを測ろうとする試みが行われてきた。他の教科でもすでに有名な心理検査を学習済みだと思われるので、そうした検査の解説というより、そうしたものを利用した研究などについて解説し、パーソナリティを測ることの意義や方法について学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書87-112
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習3時間、復習1時間
【予習復習に必要な想定時間】
今あるものとは別に、自分が独自に客観的にパーソナリティを測りたいと仮定したとき、何をどう図ればよいかについて、学生なりの考えを説明できるようにしておくこと。

第１０回　パーソナリティに問題がある場合、臨床ではどうすればいいの？：パーソナリティ障害と心理臨床

【key words】
DSM-5、パーソナリティ障害、Ａ群、Ｂ群、Ｃ群、自己愛性人格障害、パーソナリティ障害、愛着障害
【授業概要】
パーソナリティのあり方自体に生きづらさを生む問題を抱え込みながら生きる人がいる。現在増えていると言われるこの障害は薬物療法そのもので問題が解決しにくい面もあり、専門家も忌避することが多いという。ここで、このパーソナリティ障害について、参考書を参照しながら、じっくりと考えてみたい。そして、具体的にどのような点が問題になるか、またどのようにして回復の道が開かれるのかを学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書113-116㌻、鍋田恭孝（2007）『思春期臨床の考え方・すすめ方』（金剛出版）、レイチェル・レイランド（2007）『ここは私の居場所じゃない：境界性人格障害からの回復』（星和書店）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書該当ページ、ＤＳＭ、参考文献などを調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第１１回　普遍言語としての「感情」と、パーソナリティと感情の関係

【key words】
情動の文化理論、エクマン、高次認知的情動、基本情動の価値、罪悪感、愛情、復讐心の進化、道徳的感情
【授業概要】
動物に比較するとはるかに複雑に発達をしている「感情」が、人に普遍的にパーソナリティに備わっているのはなぜか。エヴァンズの参考書に沿いながら、進化論の観点からまず普遍言語のように備わる人の感情について学んでいく。そして、人それぞれにもっている感情の強さが、どのようにそのパーソナリティに関わっているかについても検討する。
【教科書ページ・参考文献】
エヴァンズの参考文献1-63㌻の中からトピックを抜き出して扱う。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
可能であれば参考書を手に入れること。なければ借りたり他の感情に関する図書に目を通しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第１２回　感情心理学からみた幸福への近道

【key words】
幸福感（happiness）、喜び（joy）、世界幸福感データベース、デブリーフィング、ベック、認知療法、情動のカタルシス論、デブリーフィング、至高体験（マズロー）、フランクル
【授業概要】
人にとって満足をもたらす快感や幸福感を引き起こす要素は共通であるとはいえないが、ある意味でそれぞれの人が感じる幸福感の要素の中に、その人の個性もあるといえよう。また、中には幸福感を避けて通るような思考回路を形成する人もいる。こうした幸福を感じさせる感情が、いかにある人の人生と結びつくのかについて、様々な角度から探ってみる。
【教科書ページ・参考文献】
エヴァンズの参考文献64-105㌻、配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
マズローの「至高体験」について調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

	第１３回　感情と心の健康とパーソナリティ 【key words】 タイプＡ、タイプＢ、タイプＣ、タイプＤ、アレキシサイミア（失感情症）、自閉症、サイトカイン、オキシトシン、シナプスの刈込、自殺 【授業概要】 参考文献に基づき、感情のコントロールに課題をもつ感情障害について理解を深めていく。その基本的メカニズムを学びながら、事例も通して、人が自分の中から出てくる感情をうまく扱えないという状態について共感的に理解するための専門的な知識を得る。 【教科書ページ・参考文献】 島　義弘（2017）『パーソナリティと感情の心理学』（サイエンス社）、乾　敏郎（2018）『感情とはそもそも何なのか』（ミネルヴァ書房） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「感情障害」についてあらかじめ調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間 第１４回　コンピューターは果たして感情を持ちうるのだろうか？：泣いたコンピューター 【key words】 感情的コンピューティング、動く主体の顔、キスメット、いくつかの映画（『ロスト・エモーション』『ブレード・ランナー』『Ａ・Ｉ』など）から 【授業概要】 コンピューターはすでにいくつかの感情を識別できるようになっている。しかし、今のところ、情動を持つかのようなコンピュータプログラムは作れても、実際の感情をもったロボットを作れる段階にはない。映画の世界では、はるかに実験的な世界がいくつも描かれており、そうした思考実験的な世界をもとに、感情とパーソナリティの関係について考えてみたい。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 あらかじめ、この授業時間までに上記の映画について、一つでも視聴をしておくようにすること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間 第１５回　まとめにかえて：理想のパーソナリティとは、どういうものであるべきか 【key words】 健康な人格（パーソナリティ） 【授業概要】 ・人格心理学の総まとめとして、様々に学んだことも通しながら、では、「理想的なパーソナリティ」とはどのようなものかについて考えていく。 ・「健康な人格」について多様な心理学者のパーソナリティ論をまとめたシュルツの考えを参考に、よりよい生き方、あり方には何が必要なのかを考え、授業をしめくくる。 【教科書ページ・参考文献】 シュルツ（1982）『健康な人格』（川島書店） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・あらかじめ、「健康なパーソナリティ」だと思われる偉人などについて調べ、説明できるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・選択科目ではあるが、社会福祉士や公認心理等国家資格に関連する基礎知識も扱う。 〔受講のルール〕 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語・携帯電話の使用等）は退席を命じる。その場合は欠席扱いとする。 ・評価方法にある通り、3回程度小レポートや感想文を課す。それぞれ評価の対象となるので、必ず提出すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式を予定。zoom方式での授業が主体の場合は、資料を送るスレッドに返信をする形で、コメントを書き込むこと。
授業外時間にかかわる情報	シラバスにある授業外時間の課題を参考にして、教科書や参考書、その他資料について積極的に予習をお願いしたい。 人格の構造について関心を持ち、精神障害などの本質について考える視点を持って授業に臨んでほしい。
オフィスアワー	火曜日　11：00～13：30
評価方法	・総合評価は、以下の通りの割合で評価。総合得点６０～６９点：C　７０～７９点：B　８０～８９点：A　９０点以上：S ・期末試験７０％、小レポート・感想文等提出物３０％（３０÷提出回（予定3回）＝１提出物得点（１回10点満点：提出により得点））
教科書	鈴木公啓・荒川歩・太幡直也・友野隆成（2018）『パーソナリティ心理学入門：ストーリーとトピックで学ぶ心の個性』（ナカニシヤ出版）
参考書	・ディラン・エヴァンズ（遠藤利彦訳）『感情』（岩波書店）、乾　敏郎（2018）『感情とはそもそも何なのか』（ミネルヴァ書房）、Dan.P.McAdams The Person:An Introduction to the Science of Personality Psychology .(5th edition). Wiley.,USA.2009. 他適宜指示。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素

	□PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 その他の具体的内容 zoomを用いた授業を実施する場合がある。その際にはzoomのブレイクアウトルームや投票機能を使用して、可能な限り双方向的に授業を行いたいと考えているので、積極的な参加をお願いする。

講義科目名称：　司法・犯罪心理学　　授業コード：S3271

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	社会福祉専攻・選択
担当教員			
西中　宏吏			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	我が国の司法システムや関係する法律・制度、犯罪心理学の諸理論について理解し説明できるようになること、司法・犯罪領域における公認心理師の業務について理解しその基礎を身につけることを目的とする。
授業の概要	犯罪心理学が関わるテーマを幅広く扱う。我が国の、司法システムや関係する法律・制度、犯罪心理学の諸理論、犯罪者に対するアセスメントや処遇、被害者の支援などについて講義を行い、必要に応じてディスカッションの時間を設ける。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	オリエンテーション 【key words】 司法・犯罪心理学 【授業概要】 犯罪心理学のイメージと実際、犯罪心理学がカバーする範囲などについて概説する。 【教科書ページ・参考文献】 参考：入門　犯罪心理学（ちくま書房） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 犯罪心理学についての自分のイメージを明確にしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第2回	司法・犯罪心理学に関する法律と制度 【key words】 刑事司法手続き、少年司法手続き、医療観察法、裁判員制度 【授業概要】 我が国の司法制度や関連する法律について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 参考：公認心理師の基礎と実践19　司法・犯罪心理学（遠見書房） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の精読および関連する内容についての自学 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
	第3回	犯罪原因論（１） 【key words】 犯罪の社会学的要因 【授業概要】 犯罪の社会学的要因や諸理論いついて説明する。 【教科書ページ・参考文献】 参考：非行・犯罪心理学　学際的視座からの犯罪理解（明石書店）、犯罪心理学　犯罪の原因をどこに求めるか（培風館） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の精読および関連する内容についての自学

【予習復習に必要な想定時間】
６０分～９０分

第4回　犯罪原因論（２）
【key words】
犯罪の心理学的要因
【授業概要】
犯罪の心理学的要因や諸理論について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
参考：非行・犯罪心理学　学際的視座からの犯罪理解（明石書店）、犯罪心理学　犯罪の原因をどこに求めるか（培風館）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布資料の精読および関連する内容についての自学
【予習復習に必要な想定時間】
６０分～９０分

第5回　犯罪原因論（３）
【key words】
犯罪の生物学的要因
【授業概要】
犯罪の生物学的研究や諸理論について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
参考：非行・犯罪心理学　学際的視座からの犯罪理解（明石書店）、犯罪心理学　犯罪の原因をどこに求めるか（培風館）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布資料の精読および関連する内容についての自学
【予習復習に必要な想定時間】
６０分～９０分

第6回　犯罪原因論（４）
【key words】
犯罪の発達的要因
【授業概要】
犯罪の発達要因と主要な縦断的研究について説明する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布資料の精読および関連する内容についての自学
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第7回　各種犯罪と犯罪行動
【key words】
窃盗犯、粗暴犯、性犯罪、重大犯罪、薬物犯、プロファイリング
【授業概要】
各種犯罪について解説する。また、犯罪行動がどのようにして行われるか検討する。
【教科書ページ・参考文献】
参考：公認心理師の基礎と実践19　司法・犯罪心理学（遠見書房）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布資料の精読および関連する内容についての自学
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第8回　犯罪者のリスク・アセスメントおよびリスク・マネジメント
【key words】
犯罪者のリスク・アセスメントおよびリスク・マネジメントについて説明する。
【授業概要】
犯罪（特に暴力再犯）のリスク・アセスメントおよびリスク・マネジメントについて説明する。
【教科書ページ・参考文献】
参考：HCR-20第２版　暴力のリスク・アセスメント（星和書店）、HCR-20コンパニオン・ガイド暴力のリスク・マネジメント（星和書店）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布資料の精読および関連する内容についての自学
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第9回　犯罪者処遇（１）
【key words】
施設内処遇、刑事施設
【授業概要】
主に刑事施設における心理学の専門家の役割と犯罪者の処遇について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
参考：非行・犯罪心理学　学際的視座からの犯罪理解（明石書店）、公認心理師の基礎と実践19　司法・犯罪心理学（遠見書房）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布資料の精読および関連する内容についての自学
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第10回　犯罪者処遇（２）
【key words】
社会内処遇、更生保護
【授業概要】
更生保護における心理学の専門家の役割と犯罪者の処遇について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
参考：非行・犯罪心理学　学際的視座からの犯罪理解（明石書店）、公認心理師の基礎と実践19　司法・犯罪心理学（遠見書房）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布資料の精読および関連する内容についての自学

	【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分 第11回　犯罪者処遇（３） 【key words】 少年法、少年事件 【授業概要】 非行少年の処遇における心理学の専門家の役割について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 参考：非行・犯罪心理学　学際的視座からの犯罪理解（明石書店）、公認心理師の基礎と実践19 司法・犯罪心理学（遠見書房） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の精読および関連する内容についての自学 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分 第12回　被害者支援 【key words】 犯罪被害、トラウマ、被害者支援 【授業概要】 犯罪被害者に対する心理的支援について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 参考：公認心理師の基礎と実践19　司法・犯罪心理学（遠見書房） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の精読および関連する内容についての自学 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分 第13回　犯罪予防／家事事件の心理学 【key words】 犯罪予防、犯罪対策、家事事件、離婚、児童虐待 【授業概要】 犯罪予防と犯罪対策における心理学について説明する。 家事事件における制度や法律および心理学の専門家の役割などについて説明する。 【教科書ページ・参考文献】 参考：公認心理師の基礎と実践19　司法・犯罪心理学（遠見書房）、非行・犯罪心理学　学際的視座からの犯罪理解（明石書店）、入門　犯罪心理学（ちくま書房） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の精読および関連する内容についての自学 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分 第14回　精神鑑定 【key words】 責任能力、刑事精神鑑定、医療観察法鑑定、心理鑑定 【授業概要】 精神鑑定における制度・法律および心理学の専門家の役割について説明する 【教科書ページ・参考文献】 参考：刑事精神鑑定ハンドブック（中山書店） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の精読および関連する内容についての自学 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分 第15回　医療観察制度 【key words】 医療観察法の目的、疾病性、治療反応性、社会復帰要因 【授業概要】 参考：刑事精神鑑定ハンドブック（中山書店） 【教科書ページ・参考文献】 これまでの配布資料および参考資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の精読および関連する内容についての自学 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
受講生に関わる情報および受講のルール	欠席等により授業で配布する資料を取得できなかった場合、予備は保管しないので出席者に依頼しコピーをとること。 携帯電話等は音の出ない設定にし、使用を控えること（緊急の場合を除く）。 予習、復習を行うこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業で配布した資料や参考文献を精読し、理解すること。必要に応じて小レポートを課す場合があるので、次回授業時に提出すること。
オフィスアワー	授業後２０分間対応可能
評価方法	平常点（60%）、レポート（40%）
教科書	授業時に配布するレジュメ等の配布資料
参考書	適宜指定する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 　□実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 社会福祉法制（関連行政論）　　授業コード：S3301

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	選択
担当教員			
森田　隆夫			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　社会福祉は、憲法25条にその根拠を置くが、その多くは、憲法25条を具体化した福祉六法等の社会福祉に関する法律に基づいて運営される。従って、社会福祉をはじめとする相談援助を志す者は、この社会福祉に関する法律を知り、理解することが不可欠である。この授業は、社会福祉法制の歴史を踏まえた上で社会福祉に関する法律を理解し、法的な面からの社会福祉の考察を目指す。 【到達目標】 ①社会福祉と法の通史的観点を身につける。 ②六法で条文を調べることができる。 ③社会福祉六法等につきその重要な概念、制度等を説明することができる。 ④法を解釈するという思考方法をとることができる。
授業の概要	社会福祉法制の歴史、憲法との関わりを明らかにした上、社会福祉法及び社会福祉6法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、介護保険法、そして、障害者自立支援法などを例にとり、概説する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	◎
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、社会福祉法制の意義と体系 【key words】 社会福祉法制　社会保障　社会福祉　公的扶助 【授業概要】 社会福祉法制の意義と体系について説明をする。 個々の社会福祉概念につき説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 プリント１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】プリント２pp1~2、資料pp12~15 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	社会福祉の法と行政のあゆみⅠ 【key words】 鰥寡条　目盲条　恤救規則 【授業概要】 古代から現代にいたる社会福祉の歴史を概観する。 【教科書ページ・参考文献】 プリント２pp1~2、資料pp12~15 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】プリント２pp3~4、資料pp16~19 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第３回	社会福祉の法と行政のあゆみⅡ

【key words】
鰥寡条　目盲条　恤救規則
【授業概要】
古代から現代にいたる社会福祉の歴史を概観する。
【教科書ページ・参考文献】
プリント２pp3~4、資料pp16~19
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】プリント３
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　日本国憲法と社会福祉
【key words】
幸福追求権　生存権　公的助成　地方自治
【授業概要】
社会福祉法制の基礎となる日本国憲法について、特に関連する事項について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
プリント３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　pp27～32、pp67～68
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　社会福祉法Ⅰ（理念・目的、定義、実施機関・専門職務者など）
【key words】
目的・理念　社会福祉事業　福祉事務所
【授業概要】
社会福祉法の目的・理念、定義、福祉事務所等の実施機関・専門職務者などについて説明する。
【教科書ページ・参考文献】
pp27～32、pp67～68
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　pp32～67
【予習復習に必要な想定時間】

第６回　社会福祉法Ⅱ（社会福祉法人、社会福祉事業、地域福祉の推進など）
【key words】
社会福祉法人　社会福祉事業　福祉サービス
【授業概要】
社会福祉法人について説明する。
社会福祉事業の主体、経営準則、福祉サービスの制度等につき説明する。
【教科書ページ・参考文献】
pp32～67
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書 pp98～104
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　生活保護法Ⅰ（目的・理念、原理・原則、実施機関と専門職務者、収入認定など）
【key words】
目的・理念　原理・原則　福祉事務所、収入認
【授業概要】
生活保護法の目的・理念　原理・原則を説明する。
福祉事務所といった実施・現業機関や専門職務者に就き説明をする。
保護決定のための収入認定について説明をする。

【教科書ページ・参考文献】
pp98～104
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　pp104～120
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　生活保護法Ⅱ（保護の決定・実施、保護の種類・範囲・方法、保護施設、被保護者の権利義務など）
【key words】
保護の決定・実施　保護の種類・範囲・方法　保護施設　被保護者の権利義務
【授業概要】
保護の決定・実施、それに基づく保護の種類・範囲・方法、保護施設について説明をする。
保護を受ける被保護者の権利および義務について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
pp104～120
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　pp168～248
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　児童福祉法
【key words】
児童　児童相談所　児童福祉事
【授業概要】
児童福祉法の基本理念、対象、実施期間、事業・施設について説明をする。
【教科書ページ・参考文献】
pp168～248
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　pp308～321　資料(教育基本法、少年法)
【予習復習に必要な想定時間】
60分

	第１０回　母子及び父子並びに寡婦福祉法、教育基本法、少年法（刑法との関連から） 【key words】 母子等　寡婦　児童福祉審議会、教育基本法、少年法、刑法 【授業概要】 母子及び父子並びに寡婦福祉法の目的、定義、サービス等を説明する。 児童・未成年保護の観点から教育基本法、少年法（刑法との関連して）についても概説する。 【教科書ページ・参考文献】 pp308～321　資料(教育基本法、少年法) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　pp617～627 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１１回　身体障害者福祉法 【key words】 身体障害者　身体障害者更生相談所　身体障害者福祉司　身体障害者手帳　身体障害者更生施設 【授業概要】 身体障害者福祉法の目的・理念、定義、実施機関等について、身体障害者手帳、身体障害者福祉法のサービス・施設について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 pp617～627 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　pp654～681 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１２回　知的障害者福祉法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 【key words】 知的障害者　療育手帳　精神障害者　精神障害者保健福祉手帳 【授業概要】 知的障害者福祉法と精神保健及び精神障害者福祉に関する法律を比較しつつ、それぞれの目的、定義実施機関等を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 pp654～681 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　pp559～602　資料(労働三法、労働安全衛生法 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１３回　障害者総合支援法、労働三法、労働安全衛生法 【key words】 目的・理念　障害者　応能負担、労働三法、労働安全衛生法 【授業概要】 障害者総合支援法の目的、基本理念、定義、サービス等を説明する。 就労支援に関連して労働三法、労働安全衛生法についても概説する。 【教科書ページ・参考文献】 pp559～602　資料(労働三法、労働安全衛生法) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　pp323～336、pp377～513 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１４回　老人福祉法、介護保険法 【key words】 老人福祉法、介護保険法、老人、被保険者、要支援、要介護 【授業概要】 老人福祉法、介護保険法の目的、定義、サービス等を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 pp323～336、pp377～513 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書（主だった条文）、プリントの見直し 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　まとめ 【key words】 社会福祉法制の体系　社会福祉法制のあゆみ　福祉六法　障害者総合支援法　介護保険法 【授業概要】 社会福祉法制に関し、特に重要と思われる事項につき再度説明をし、復習をしてもらう。 【教科書ページ・参考文献】 教科書（主だった条文）、プリントの見直し 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・社会福祉を志す者として、出席時間の厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要です。　また、別掲の参考書での学習も、お勧めします。

オフィスアワー	火曜　10時半～12時、　木曜　16時～17時半
評価方法	定期試験（６０％）、授業時間に行う小テスト（４０％）を総合して評価する。
教科書	ミネルヴァ書房編集部 編「社会福祉六法」ミネルヴァ書房，2019年
参考書	宇山勝義 他 編「社会福祉行政論」ミネルヴァ書房，2010年 河野正輝 他 編「社会福祉法入門 第3版」有斐閣，2015年
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 臨床心理学特論（神経・生理心理学）　　授業コード：S3341

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	福祉心理コース・選択
担当教員			
鈴木　淳			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】大脳を中心とした中枢神経系の構造と活動(すなわち、高次脳機能)は、ヒトが生きていく上でのさまざまな心理事象・認知行動の生物学的基盤そのものであり、その基盤自体を支持・応用するものでもあります。その一方で、高次脳機能障害の様子に対する世間一般の理解のしかたとしては多彩ゆえに不可解な印象をもちやすいともいえ、当事者の心理的ケアはそのリハビリテーション上 極めて重要です。その支援に携わる心理専門家は、一見不可解なその当事者の心の成り立ちや仕組みについての科学的理解・根拠にもとづくことが必須であるといえます。本授業では、その素養である神経・生理心理学の知識と考え方を教授し、症例等も提示しながら立体的・有機連関的な当事者理解に導きます。 【到達目標】 1)中枢神経系の構造と機能の概要を説明できる。2)心理事象・認知行動の生理学的基盤・機序を概説できる。3)高次脳機能障害の病態を説明できる。4)多彩な高次脳機能障害児者の多様なリハビリテーションに伴なう心理的ケアのポイントとその根拠を説明できる。
授業の概要	1)中枢神経系の構造・構成と機能・情報処理について、視覚的に講じ、2)認知行動の各側面とそれに与る中枢神経系部位等の対応関係(機能局在と神経連絡)をおさえます。その上で、3)脳損傷をもたらす神経内科・脳神経外科的疾患の各病態を概観し、高次脳機能障害の臨床症状群を理解し、4)当事者のリハビリテーションにおける心理的ケアのポイントと根拠について言及します。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	○
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　ヒトの心理事象とその生物学的基礎　神経・生理心理学を学ぶ意義 【key words】 精神機能　行動　生物学的基盤　全体論と局在論　研究方法 【授業概要】 心と脳は“同一”のものであるという作業仮説にもとづいて、多彩な精神機能・行動と脳との関係をどのように考えるか、その学問的背景を理解します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 pp.1-10、配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業での重要項目の復習を重視
	第２回	神経系の解剖・生理　1　神経系の構成と情報伝達　連絡線維　髄鞘化　神経系の発生と成長・発達 【key words】 神経細胞（ニューロン）　グリア細胞　血液-脳関門（BBB）　神経信号伝達の物理/化学　跳躍伝導 【授業概要】 神経活動の基本単位であるニューロンの機能解剖を概観し、特に中枢神経系の発達（髄鞘化）にともなう跳躍伝導が迅速な認知行動の下地であることを理解します。 【教科書ページ・参考文献】

教科書　pp.11-13,18-46、配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視
第３回　神経系の解剖・生理　２　大脳の3次元構成　皮質と皮質下　機能局在と全体　連合野　　脳動脈系　画像診断
【key words】
前頭葉　頭頂葉　側頭葉　後頭葉　大脳基底核　視床　機能局在　連合野　脳血管系　責任病巣　CT/MRI
【授業概要】
大脳の各部位(脳葉皮質および皮質下構造)が分担しかつ統合する生理・心理機能とあわせて、それらを維持するのに不可欠な栄養・酸素供給の仕組み(脳血管系・脳血流)を知り、臨床上基本的な画像診断情報について学びます。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視
第４回　小テスト　１　および　神経活動の背景・一般機能　意識　注意　認知適応のための構え
【key words】
意識レベル　見当識　感情　気分　意欲　(汎性)注意　精神反応　機能変動

【授業概要】
臨床上、大脳巣症状に多様に影響をおよぼし修飾しうる大局的・全体的な背景機能・一般機能の状態について考えます。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視
第５回　視覚　聴覚　体性感覚　運動　大脳の機能的非対称性(側性化)　利き手
【key words】
視覚　聴覚　体性感覚　身体運動　大脳の側性化　利き手

【授業概要】
感覚様式ごとの知覚・認識や身体運動の調整にかかわっている経路・仕組みを概観し、利き手や言語中枢と関係する大脳の機能偏倚を知ります。

【教科書ページ・参考文献】
教科書　pp.47-64,185-200、配布資料

【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視
第６回　小テスト　２　および　言語(speechとlanguage　言語中枢　角回　縁上回　右半球と言語)
【key words】
話しことばと言語　運動言語中枢　感覚言語中枢　弓状束　角回　縁上回

【授業概要】
ヒトに固有な高次脳機能である言語行動を支持する神経系の機能解剖を学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書　pp.185-200、配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視
第７回　学習　記憶
【key words】
ワーキングメモリ　長期記憶　側頭葉内側部　間脳　健忘　学習　意思決定　脳の可塑性

【授業概要】
適応行動の基盤でもある学習と記憶の生理・病理について考えます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書　pp.65-80,81-110
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視
第８回　小テスト　３　および　情動　感情　動機づけ　発動性　人格　ストレス
【key words】
情動　自律神経系　大脳辺縁系　情動の表出　情動の認知　ストレス　動機づけ

【授業概要】
喜怒哀楽が行動の組織化にどのようにかかわってくるのかについて言及します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書　pp.111-136,137-164
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業での重要項目の復習を重視
第９回　睡眠　概日リズム
【key words】

		睡眠　睡眠周期　脳波　脳幹網様体賦活系　概日リズム 【授業概要】 日常生活の大きなリズムである睡眠の生理について系統発生的・生涯発達的に学ぶとともに、睡眠の病態にもふれる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書　pp201-226、配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業での重要項目の復習を重視
	第１０回	小テスト　４　および　脳損傷(神経内科・脳神経外科的疾患)概要、高次脳機能障害　１　失語　１　臨床分類と特徴的症状 【key words】 脳損傷の病態　失語症　古典的分類　臨床症状 【授業概要】 脳損傷をもたらす神経内科・脳神経外科的疾患を概観し、失語症の臨床分類・特性について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業での重要項目の復習を重視
	第１１回	高次脳機能障害　２　失語　２　リハビリテーションにおける心理的ケア 【key words】 言語治療　失語症リハビリテーション　失語症者の心理・社会的問題 【授業概要】 失語症リハビリテーション過程ならびに治療的コミュニケーションの意味を理解します。また、失語症者がかかえやすい心理・社会的問題について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業での重要項目の復習を重視
	第１２回	小テスト　５　および　高次脳機能障害　３　失行・失認　１　臨床分類と特徴的症状(遂行機能障害を中心に) 【key words】 高次脳機能障害　失行　失認　臨床症状 【授業概要】 一見不可解に感じられてしまいがちな高次脳機能障害の神経心理学的病態を、障害当事者の視点に立って理解します。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業での重要項目の復習を重視
	第１３回	高次脳機能障害　４　失行・失認　２　リハビリテーションにおける心理的ケア 【key words】 高次脳機能障害リハビリテーション　高次脳機能障害者の心理・社会的問題 【授業概要】 高次脳機能障害リハビリテーション過程ならびに生活行動支援の意味を理解します。また、高次脳機能障害者がかかえやすい心理・社会的問題について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業での重要項目の復習を重視
	第１４回	器質性精神疾患(認知症を中心に)　特徴的症状　リハビリテーションにおける心理的ケア 【key words】 認知症　臨床症状　認知症リハビリテーション　認知症者の心理・社会的問題 【授業概要】 記憶障害の特徴的進展が中核の認知症者について、その心理・社会的問題を中心に、リハビリテーション過程ならびに生活行動支援の意味を理解します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書　pp.165-184,249-272、配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業での重要項目の復習を重視
	第１５回	小テスト　６　および　臨床評価(神経心理検査)のテストバッテリー 概説　授業全体のまとめ 【key words】 神経心理検査　臨床評価　エビデンス　職業倫理 【授業概要】 神経心理検査の代表的なものについて、その評価守備範囲・構成内容を紹介します。あわせて、

	支援対象者を評価し支援するということの職業倫理を理解します。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業での重要項目の復習を重視
受講生に関わる情報および受講のルール	各専門用語で表わされる内容を徐々に組み上げていくように授業が進展していきますから、小テストを足がかりに都度確実に理解しようという姿勢が受講生には求められます。それを経ることで、高次脳機能障害児者の支援にかかわる心理専門家としてのevidence-based practiceの基本が養われていきます。必ず慣れてきますから、少し難しさを感じたくらいで学びを諦めないこと。高次脳機能障害児者は、かかえてしまったその障害特性の本質を理解しようとする 一人でも多くのひと(＝皆さん)の支援現場登場を待っているのです。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	minute paper
授業外時間にかかわる情報	まずは授業の復習を十分に行なうようにして下さい。あわせて、世に送り出されている数多くの神経心理学書を複数手に取って読みましょう。電子メディアに載っている中枢神経系のアトラスも多く眺め、あわせて自分の手で実際にイラストを描いてみるなど、その構造の立体的理解に努めて下さい。 ★1回の授業に対し、概ね2時間程度の事前事後自主学習が必要です。
オフィスアワー	水曜日 17：00～19：00　1号館204研究室
評価方法	6回の小テスト(60%)および学期末レポート(40%)で評定します。
教科書	岡田隆・広中直行・宮森孝史　生理心理学　第2版　脳の働きから見た心の世界　サイエンス社　2015年
参考書	梅田　聡編　神経・生理心理学(公認心理士の基礎と実践10) 遠見書房　2021年 ジョン・ピネル　佐藤敬 他 訳　ピネル バイオサイコロジー 脳-心と行動の神経科学　西村書店　2005年 山鳥　重　神経心理学入門　医学書院　1985年 メディックメディア　脳・神経(第2版)　病気がみえる 第7巻　メディックメディア　2017年
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 言語聴覚士として、聴覚言語障害/発達遅滞・発達障害/高次脳機能障害/摂食嚥下障害を中心に、当事者に対するリハビリテーション治療・生活支援(就学・就労等を含む)ならびにその家族および関係者に対する適切な応談(コミュニケーション)・支援・リエゾン・調整・啓蒙を具体的に実践しています。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 心理演習　　授業コード：S3351

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	3年次	2単位(30)	福祉心理コース・選択
担当教員			
大島　由之			
公認心理師資格取得を希望する者のみを対象			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［授業の目標］ 　社会福祉士や精神保健福祉士，公認心理師に代表される対人援助職の援助技法としてのコミュニケーション，カウンセリング技法やアセスメント結果や支援計画の伝達等について，その基本的技能と研鑽の方法について具体的な場面を想定したロールプレイを通じて理解し，一定の水準で技法を意図的に使用できるようになること。 ［到達目標］ ①カウンセリングにおける「聴くこと」に関する基礎的な技能を修得すること。 ②対人援助場面における「伝えること」に関する基礎的な技能を修得すること。 ③自分の「聴き方」「伝え方」の特徴を把握し，その振り返りと自己研鑽の計画が立てられるようになること。
授業の概要	対人援助において、目の前の相手との間に信頼関係を築き，その語りに耳を傾け、求めている援助ニーズを的確に捉え、支援計画や情報を伝えることは重要な課題である。本講義では、こうしたコミュニケーションの基本的な技法について確認した上で、カウンセリングの中核である「聴くこと」と「伝えること」の実践的なトレーニングを行う。講義は演習とロールプレイを中心に進める予定であり，受講生間でのロールプレイの実施、振り返り、記録の作成を通じて技能の習得を目指す。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーションと授業契約，対人援助場面におけるコミュニケーションとは 【key words】 カウンセリング，自己一致、無条件の肯定的配慮、共感的理解、熟練性、魅力性、信頼性、援助専門職の欲求、援助動機 【授業概要】 ・コース及び公認心理師養成課程における科目の位置づけ、授業契約の説明。 ・心理に関する支援を要する対象とのコミュニケーションで必要となる知識を学び、知識を活用した技法によって期待される効果を左右する要因について学ぶ。 ・「対人援助」に関わることへの欲求や動機が、対人援助場面におけるコミュニケーションにどのような影響を与えうるかを学び、 自分自身の欲求や動機を題材に考えを深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p1-19. 参考書①p1-12. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：配布した事例の中から1つ選び、相談者の立場となって10分程度のロールプレイが出来るようワークシートを完成させ、次回持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60-90分
	第２回	ロールプレイを用いた演習の意義と方法 【key words】

ロールプレイ、ロールテイキング、オブザーバー、PNP技法
【授業概要】
・カウンセリング技法をはじめとする言語的／非言語的コミュニケーション技法の訓練方法について学ぶ。
・事例を用いたロールテイキングによる模倣学習を体験する。
・課題を用いたロールプレイとその観察を体験し、それぞれの立場からフィードバックする体験をする。
【教科書ページ・参考文献】
参考書①p129-142.
参考書②p8-20.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回準備指示：配布された資料を通読し、「明確化」と「感情反映」がどんな技法かを理解しておくこと
課題：配布したワークシートの事例に対して自分であれば何と返答するかを記入し、次回持参すること
【予習復習に必要な想定時間】
60-90分

第３回　傾聴技法（１）明確化・感情反映
【key words】
明確化、思考、感情、態度、行動、感情反映、生理反応、動機、欲求
【授業概要】
傾聴技法である「明確化」と「感情反映」の定義と期待される機能について知る。
・2つの技法について、講義内でのロールプレイを通して模倣などの形で体験し、技法を意図的に用いる経験を積む。

【教科書ページ・参考文献】
教科書p40-44.
参考書①p25-35.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回準備指示：配布資料を通読し、「言い換え」と「要約」がどんな技法かを理解しておくこと
課題：配布したワークシートの事例に対して自分であれば何と返答するかを記入し、次回持参すること
【予習復習に必要な想定時間】
60-90分

第４回　〃　（２）言い換え・要約
【key words】
言い換え、意訳、要約、簡略化
【授業概要】
・傾聴技法である「言い換え」と「要約」の定義と期待される機能について知る。
・2つの技法について、講義内でのロールプレイを通して模倣などの形で体験し、技法を意図的に用いる経験を積む。
・「明確化」「感情反映」も含めた一連の傾聴技法を用いたコミュニケーション方法を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書p40-44.
参考書①p25-40.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回準備指示：配布資料を通読し、「探索」がどんな技法かを理解しておくこと
課題：配布したワークシートの事例に対して自分であれば何と質問するかを記入し、次回持参すること
【予習復習に必要な想定時間】
60-90分

第５回　活動技法（１）探索
【key words】
開放型Q（なぜ・どのように）、閉鎖型Q（いつ・誰・何・どこで）
【授業概要】
・活動技法である「探索」の定義と特徴について知る
・傾聴技法の明確化との差異をロールプレイを通じて体験し、理解を深める
・意図しない「探索」の乱用を避けるための工夫を学ぶ

【教科書ページ・参考文献】
教科書p267-286.
参考書①p41-445.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回準備指示：配布資料を通読し、「情報提供」と「自己開示」の特徴と差異を理解しておくこと
課題：配布したワークシートの事例に対して自分なりの「情報提供」と「自己開示」を記入し、次回持参すること
【予習復習に必要な想定時間】
60-90分

第６回　〃　（２）情報提供と自己開示
【key words】
情報提供、心理教育、自己開示
【授業概要】
・活動技法である「情報提供」の定義と特徴について知る
・援助的コミュニケーションの中で用いられる自己開示の特徴と期待される効果、留意点を知る
・ロールプレイを通じて「情報提供」と「自己開示」について体験し、理解を深める

【教科書ページ・参考文献】
教科書p267-286.
参考書①pp54-58（情報提供）,68-71（自己開示）

【課題・予習・復習・授業準備指示】

次回準備指示：配布資料を通読し、「A-B-Cモデル」の特徴を理解しておくこと
復習：講義内で実施したロールプレイの振り返りワークシートを記入し、次回持参すること
【予習復習に必要な想定時間】
60-90分

第７回　困りごと・問題を定義づける技法
【key words】
A-B-Cモデル、問題の特定性、問題の的確性
【授業概要】
・心理に関する支援を要する対象の理解とニーズの把握及び支援計画を検討する中で困りごとや問題を定義する枠組みの1つであるA-B-Cモデルを知り、事例に応用する
・問題行動（B）を理解する際に、特定性（いつ・誰・何・どこで）の視点で整理できるようになる
・問題行動（B）を理解する際に、的確性（何・どのように）の視点から思考・情動・行動・生理を整理することを体験する
【教科書ページ・参考文献】
参考書①p81-97.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回準備指示：配布資料を通読し、観察技法とその枠組みを理解しておくこと
復習：講義内で実施したロールプレイの振り返りワークシートを記入し、次回持参すること

【予習復習に必要な想定時間】
60-90分

第８回　対人援助場面における観察技法
【key words】
観察、非言語的要素、矛盾提示、語調反射
【授業概要】
・対人援助場面における非言語的要素の重要性と観察の技法について学ぶ
・身振り、表情、生理的反応、身体的特徴、容姿、声と話し振りなどの非言語的要素の特徴とそれが持つ意味を理解する
・非言語的要素に注目した面接技法（矛盾提示、語調反射）についてロールプレイを通じて体験し、理解を深める

【教科書ページ・参考文献】
参考書①p13-23（観察技法）、45-49（矛盾提示）、63-67（語調反射）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：講義内で実施したロールプレイの振り返りワークシートを記入し、次回持参すること
課題：配布された事例のロールプレイ原稿の冒頭に「自己紹介」、「守秘義務の説明」を自分なりに加え、次回持参すること
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第９回　伝える技法（1）必要なことを伝える（自己紹介、守秘義務、インフォームドコンセント）
【key words】
初回面接、自己紹介、守秘義務、タラソフ判決、インフォームドコンセント
【授業概要】
・初回面接を題材に、自己紹介と守秘に関する説明を行う方法とその重要性について学ぶ
・守秘義務とその例外事項について、タラソフ判決等を含めてその条件や考える観点を理解する
・相談者に説明を尽くして同意を得ることの重要性と難しさをロールプレイを通じて体験し、理解を深める

【教科書ページ・参考文献】
教科書p34-39.
参考書③p44-45,
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：講義内で実施したロールプレイの振り返りワークシートを記入し、次回持参すること

【予習復習に必要な想定時間】
60-120分

第１０回　〃　（2）分かったことを伝える（アセスメント結果等）
【key words】
臨床心理査定、フィードバック、倫理的配慮
【授業概要】
・心理検査や面接、観察を通じて得られたアセスメントの結果のフィードバックの実際とその意義について学ぶ
・ロールプレイを通じて、「伝える内容」と「伝え方」にどのような配慮が求められるのかを体験し、理解を深める

【教科書ページ・参考文献】
教科書p50-63.
参考書③p40-41 Ⅲ-1.アセスメントとは何か
参考書④pp7-23. 第1章 心理検査の伝え方と活かし方
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回準備指示：配布資料を通読し、目標設定とその援助手続きについて理解しておくこと
復習：講義内で実施したロールプレイの振り返りワークシートを記入し、次回持参すること
【予習復習に必要な想定時間】
60-90分

第１１回　〃　（3）これからのことを伝える（支援計画と同意）
【key words】
目標設定、最終目標の設定と具体化・現実化、利益と損失、小目標
【授業概要】
・相談者との間での目標設定とその達成に向けた経過支援について学ぶ
・相談者自身が目標達成に向けて動きやすく工夫された支援計画について学ぶ
・相談者の現実生活を検討した上で、地域資源を活用した支援方法とその計画を学ぶ

	【教科書ページ・参考文献】 参考書①p99-114. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業準備指示：これまでに作成・提出・評価を受けたロールプレイの振り返りワークシートを整理し、次回持参すること 【予習復習に必要な想定時間】 15－30分 第１２回　自分の対人援助技法を振り返る方法（1）これまでのロールプレイを振り返る 【key words】 ロールプレイ、クライエント体験、自己の価値観 【授業概要】 ・これまでのロールプレイで得られた感想やオブザーバー役からのコメントを振り返り、自分自身の対人的コミュニケーション方法の特徴について省察する。 ・自分が苦手とする場面や得意とする場面について振り返り、グループワークを通じて受講生間でその共有を行う ・自分の特徴に沿ってどのような自己研鑽／訓練の計画を立てることができるかを考え、理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 参考書②p8-20. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業準備指示：指定されたペアで模擬面接を行い、その録音データをUSB等に入れて次回持参すること 【予習復習に必要な想定時間】 60-120分 第１３回　〃　（2）録画や録音を用いた振り返り 【key words】 ロールプレイ、自己の面接技法のクセ 【授業概要】 ・録画された各自のロールプレイの映像を見直し、自分の対人援助場面におけるコミュニケーション技法を振り返る ・振り返りとグループワークを通じて自分のコミュニケーション技法の特徴について省察を行う ・他者の面接映像を通じて、自分とは異なる特徴や技法を学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 参考書②pp8-20. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 最終レポート課題を呈示するので指示に沿って計画的に作成すること。 【予習復習に必要な想定時間】 120-360分 第１４回　福祉、保健医療、教育等の分野におけるチームアプローチを考える 【key words】 多職種連携、守秘義務、倫理的ジレンマ 【授業概要】 ・相談援助の場面で協働しうる専門職（社会福祉士、精神保健福祉士、医師、カウンセラー等）の専門性と役割について学ぶ ・公認心理師をはじめとした対人援助職としての職業倫理及び法的義務について学ぶ ・相談者に関わる専門職間で連携をとりながらチームアプローチを行う場合の留意点について学ぶ ・倫理的ジレンマに関する事例についてグループ討議を行い、その捉え方について理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 教科書の第5章を適宜利用 参考書③p38-39, pp262-281 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業準備指示：これまでの提出物等を綴じたファイルを整理・次回持参すること 【予習復習に必要な想定時間】 30-180分 第１５回　まとめ 【key words】 面接技法、自己研鑽 【授業概要】 ・これまでの講義およびロールプレイで得られた知識と考えについて振り返りを行う。 ・公認心理師をはじめとした対人援助職に求められる職業倫理と法的義務に基づく自己研鑽・生涯学習について、各自の進路設計に応じた今後の自己研鑽を検討し、グループでの共有を行う 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 最終レポート課題について期日までに作成を行い、提出すること 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・公認心理師資格取得を希望する者のみを対象とする。 ・受講生間でロールプレイやグループワークを行う講義であるため，遅刻／欠席については相談援助演習等に準ずる形で厳密に連絡を行うこと ・携帯電話やタブレット端末等は講義中、指示があった場合を除き、原則として使用しないこと。個別の事情がある場合には、各回の講義開始前に申し出ること。 ・教科書以外に、補助教材としてプリントを配布することが多いため、前述の課題とあわせて各自でA4版のフラットファイル等を用いて保管することが望ましい。 〔受講のルール〕 ・指定された教科書を購入し、毎回持参すること。

	・授業で使用したワークシートを講義後半で振り返りに用いるため、フラットファイル等で各自保管すること。 ・模擬面接の録画等を行う場合がある。映像や音声の保管が必要となるため，指示に応じてUSBメモリー等を用意すること。 ・遅刻／欠席については大学のルールに則り，事務局に講義開始前に連絡すること。 ・受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。 ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ，配布資料やワークシートの再配布を行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカードまたはウェブポータルのスレッド機能を用いる予定
授業外時間にかかわる情報	・各回の演習内容の振り返りをレポートとして課すため，授業内の指示に留意すること
オフィスアワー	初回に案内する。
評価方法	(1) レポート課題の提出：35% ・100%の提出で35点評価。また規定の方法で連絡のあった欠席のみ後日の提出を認める。 ・ルーズリーフ等、規定の用紙や様式以外の提出は評価の対象としないので留意すること。 ・ワークシートの形式では、指示された全ての欄に記述があることを条件とする。空欄や不足がある場合には評価の対象としない。 ・欠席による後日の提出、または不足があった場合の再提出は講義のあった週の金曜18時までとする。 (2) 課題内容および授業内課題の取り組みの評価：65% 以下の2つの基準で評価を行う。なお最終レポートについても同様である。 基準①（7点）：指示に沿った内容の記述や考察が行われている。 基準②（3点）：レポートの体裁面の評価として、「誤字脱字なし」・「論文調の表現」・「文字数の規定」を評価する ；①②を満たして1つの課題あたり10点満点。 最終評価では総得点を100点満点に換算し、0.65をかけた値を評価点とする。
教科書	鑪幹八郎・名島潤慈（編著）心理臨床家の手引［第４版］誠信書房（2018）
参考書	①大谷 彰（著） カウンセリングテクニック入門 二瓶社（2004）. ②氏原 寛・藤田博康（著） ロールプレイによるカウンセリング訓練のかんどころ 創元社（2014）. ③下山晴彦（編）よくわかる臨床心理学 改訂版 ミネルヴァ書房(2016) ④竹内健児（著） 事例でわかる心理検査の伝え方・活かし方 金剛出版（2009）.
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 教育機関・福祉施設での心理職 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 心理実習　　授業コード：S3361

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	3年次	2単位(30)	福祉心理コース・選択
担当教員			
植原　美智子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	『公認心理師法』では、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野（主要5分野）において、合計80時間以上実習が求められている。現在のところ、医療機関での実習が必須となっている。心理学が貢献できる分野とその実践を体験的に学んでいく。 【目的】 ①心理に関する支援を要するものへのチームアプローチを理解する。 ②多職種連携の重要性、および地域連携の実際について理解する。 ③公認心理師としての役割の基本的な水準を習得する。 【到達目標】 ①訪問する施設において適切な態度で実習に臨むことができる。 ②事前事後学習を通して、心理師として必要な姿勢とは何かを述べることができる。 ③将来、公認心理師として活動するための基本的姿勢を身につける。
授業の概要	本科目は、「公認心理師」資格を受験するために必要になる。心理実習は、公認心理師としての役割や基礎姿勢を養うための学外実習である。実習機関は、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野に関する施設であり、各実習施設における実習と学内での指導を含める。施設の見学を主とする「見学実習」を通して、心理職としての役割の基本的な水準を習得する。事前事後指導と見学の全出席が必要である。実習先や実習の日程は、実習機関の都合により決定する。 授業形態：演習、実習・実技、一部対面授業あり（遠隔授業の可能性もある）。 注意：医療機関実習では、予防接種などが義務付けられる可能性がある。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	大学内で実習担当教員によるオリエンテーション。教育分野における施設見学1 【key words】 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教職員、保護者 【授業概要】 教育分野における公認心理師が働く現場を理解する。基本的コミュニケーションを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 報告書の作成及び次回の施設見学の予定の確認と事前学習 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分
	第2回	教育分野における施設見学2 【key words】 関係者との連携、地域理解、公認心理師の役割 【授業概要】 教育現場における公認心理師から話を聞く。主に心理職員の業務の様子や施設内の見学、機関概要・業務内容についての講義により、それぞれの分野についての基礎知識を深める。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】

		報告書の作成及び次回の施設見学の予定の確認と事前学習 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分
	第3回	教育分野における施設見学3 【key words】 外部機関、保護者、教職員、学校教育法 【授業概要】 教育分野における公認心理師に質問する。多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 報告書の作成及び次回の施設見学の予定の確認と事前学習 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分
	第4回	福祉分野における施設見学1 【key words】 関係者との連携、利用者と地域理解、公認心理師の役割 【授業概要】 福祉分野における公認心理師が働く現場を理解する。基本的コミュニケーションを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 報告書の作成及び次回の施設見学の予定の確認と事前学習 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分
	第5回	福祉分野における施設見学2 【key words】 児童福祉法、障害者総合支援法、社会福祉法、老人福祉施設、地域包括支援センター 【授業概要】 福祉分野における公認心理師から話を聞く。主に心理職員の業務の様子や施設内の見学、機関概要・業務内容についての講義により、それぞれの分野についての基礎知識を深める。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 報告書の作成及び次回の施設見学の予定の確認と事前学習 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分
	第6回	福祉分野における施設見学3 【key words】 国立児童支援施設、国立障害者リハビリテーションセンター、ホームレス自立支援事業 【授業概要】 福祉分野における公認心理師に質問する。多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 報告書の作成及び次回の施設見学の予定の確認と事前学習 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分
	第7回	保健医療分野における施設見学1 【key words】 病院、診療所、保健所、市町村保健センター、介護老人保健センター 【授業概要】 保健医療分野における公認心理師が働く現場を理解する。基本的コミュニケーションを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 報告書の作成及び次回の施設見学の予定の確認と事前学習 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分
	第8回	保健医療分野における施設見学2 【key words】 チーム医療、チームアプローチ、多職種連携 【授業概要】 保健医療分野における公認心理師から話を聞く。主に心理職員の業務の様子や施設内の見学、機関概要・業務内容についての講義により、それぞれの分野についての基礎知識を深める。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 報告書の作成及び次回の施設見学の予定の確認と事前学習 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分
	第9回	保健医療分野における施設見学3 【key words】 医療法、介護保険法、地域保健法、精神保健福祉法、介護保険法 【授業概要】 保健医療分野における公認心理師に質問する。多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	報告書の作成及び次回の施設見学の予定の確認と事前学習 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分 第10回　司法・犯罪分野における施設見学1 【key words】 裁判所、刑務所、少年院、少年鑑別所、保護観察所、更生保護施設、家庭裁判所 【授業概要】 司法・犯罪分野における公認心理師が働く現場を理解する。基本的コミュニケーションを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 報告書の作成及び次回の施設見学の予定の確認と事前学習 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分 第11回　司法・犯罪分野における施設見学2 【key words】 刑法、裁判所法、更生保護事業法、法務省設置法 【授業概要】 司法・犯罪分野における公認心理師から話を聞く。主に心理職員の業務の様子や施設内の見学、機関概要・業務内容についての講義により、それぞれの分野についての基礎知識を深める。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 報告書の作成及び次回の施設見学の予定の確認と事前学習 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分 第12回　司法・犯罪分野における施設見学3 【key words】 刑事司法制度、矯正機関、更生保護機関、犯罪被害者等基本法、被害者支援 【授業概要】 司法・犯罪分野における公認心理師に質問する。多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 報告書の作成及び次回の施設見学の予定の確認と事前学習 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分 第13回　産業・労働分野における施設見学1 【key words】 組織内健康管理センター、地域障害者職業センター、障害者就業・生活線センター 【授業概要】 産業・労働分野における公認心理師が働く現場を理解する。基本的コミュニケーションを学ぶ。多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 報告書の作成及び次回の施設見学の予定の確認と事前学習 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分 第14回　産業・労働分野における施設見学2 【key words】 障害者雇用促進法、労働基準法、労働契約法、過労死等防止対策推進法、メンタルヘルス、自殺予防 【授業概要】 産業・労働における公認心理師から話を聞く。主に心理職員の業務の様子や施設内の見学、機関概要・業務内容についての講義により、それぞれの分野についての基礎知識を深める。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 報告書の作成及び次回の施設見学の予定の確認と事前学習 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分 第15回　大学内で実習者の報告会 【key words】 プレゼンテーション、振り返り、まとめ、公認心理師の役割 【授業概要】 外部実習の報告。プレゼンテーションを行い、振り返りをする。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 外部実習の報告。プレゼンテーションの準備。 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分
受講生に関わる情報および受講のルール	［受講生に関わる情報］ ・受講に際しては，「公認心理師」資格を受験するための必修科目の単位を修得していること、または習得見込みであること。 ・授業の出席は必須。もし欠席する場合は教務課に連絡するとともに担当教員にも連絡すること。 ・心理職志望者としての自覚を持って実習に臨むこと。 ・遅刻欠席は厳禁。 ・実習指導者および担当教員の指示に必ず従うこと。

	・施設等を訪問する際には社会人としてのマナーや礼儀をわきまえること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	・実習報告書（レポート） ・レポート ・実習先訪問
授業外時間にかかわる情報	・配布される「心理実習の手引き」を熟読すること。 ・訪問する施設の概要、設立根拠法、歴史について理解しておくこと。 ・毎回の実習の後、速やかに「実習レポート」を作成し提出すること。
オフィスアワー	火曜日　15:00～18:00　これ以外は応相談
評価方法	■事前・事後指導および見学実習の参加40%　■討論・報告書作成50%　■学生の自己評価10%
教科書	・心理臨床家の手引［第4版］鑪　幹八郎・名島潤慈　誠信書房(2018/6/20)
参考書	・「臨床心理学」第15巻第1号―医療・保健領域で働く心理職のスタンダード　金剛出版（2015/1/8) ・「臨床心理学」第15巻第2号―学校・教育領域で働く心理職のスタンダード　金剛出版(2015/3/10) ・「臨床心理学」第15巻第3号―産業・組織領域で働く心理職のスタンダード　金剛出版(2015/5/10) ・「臨床心理学」第18巻第4号―公認心理師のための職場地図 金剛出版（2018/7/1) ・「臨床心理学」第15巻第5号―福祉領域で働く心理職のスタンダード　金剛出版（2015/9/8)
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 臨床心理士・公認心理師として、精神科病院における心理面接・心理療法・心理アセスメント等の心理担当職員、教育機関のスクールカウンセラー、児童養護施設における心理療法担当職員など20年の実務経験を活かし，公認心理師・臨床心理士に必要な知識・技術・価値・倫理について講じる。また社会福祉士としてソーシャルワークにおける心理的援助について講じる。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ■コメントカードの実施：授業後、コメントカードを記入してもらい次回の授業で全員に説明する（質問提供者は匿名、授業の質問のほかに希望すること、問題点など）。 ■授業は基本的に双方向型。次回の授業についての事前学習をして授業に臨み、各グループでまとめ、代表者が発表する。コメントをもらう。

講義科目名称： 心理学と心理的支援（心理学概論）　　授業コード：S1052

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース／福祉心理コース／児童福祉コース／初等教育コース・必修／学校教育コース・選択
担当教員			
大島　由之			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 人間行動について，科学としての心理学の視点で，科学的客観的に観察するための基礎知識の習得を目指す。さまざまな領域の心理学を学びながら、人間に対する視野を広げることを目的とする。 【到達目標】 ①人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を 理解する。 ②人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題を理解する。 ③日常生活と心の健康との関係について理解する。 ④心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について理解する。
授業の概要	はじめて心理学を専門的に学ぶ講義として，知覚・認知・学習・発達・適応・臨床の分野に分け，心理学の主要領域について，広く概説を行う。また，心理学の基礎的な知識の習得を通じて，社会福祉士・精神保健福祉士・幼小中高特別支援学校教諭・保育士・公認心理師などをはじめとする対人援助職を目指す上で基本となる心理学的な観点からの人間理解・支援の方法について学ぶことを目指す。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	心理学の歴史と心理学の研究法 【key words】 授業についてのガイダンス，心理学の歴史と対象，心理学の種類、心を探求する方法の発展 【授業概要】 授業開始にあたっての連絡事項を説明する。続いて，科学としての心理学の誕生から現在の心理学までの経緯，心理学の研究法や心理学の種類を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書「第1章 心理学の視点」p1-17. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第2回	外部環境をとらえる 【key words】 感覚の種類と特徴，視知覚，対比，錯視，プレグナンツの法則，運動の知覚、感覚・知覚 【授業概要】 外部環境のとらえ方，網膜に写る像とは異なる形で知覚される人間の視知覚について学習し，実際に簡単な知覚の実験も行う。また，アニメーションの原理であるベータ運動とファイ現象についても確認する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書「第2章 第3節 感覚・知覚」p45-53. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分

	第3回	内部環境の調整ー神経系の仕組み 【key words】 神経伝達物質とホルモン，中枢神経系の仕組み，脳の構造と機能、心の生物学的基盤 【授業概要】 感覚器官から入った刺激は中枢神経系に入る。脳の神経回路を用いて推理し判断する。中枢系の構造と機能について学習確認する 【教科書ページ・参考文献】 教科書「第2章 第1節 心の生物学的基盤」p20-28. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第4回	発達１ 【key words】 心の発達の基盤、発達とライフサイクル，生涯発達について，ハヴィガーストとエリクソンの発達理論 【授業概要】 人間の発達を生涯という観点から捉えたハヴィガーストとエリクソンの発達理論を学習する。現代社会での生涯発達を考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書「第3章 第1節 生涯発達」p98-106. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第5回	発達２ 【key words】 情動の発達，自律と依存，援助行動，認知思考の発達とピアジェの発達理論，恐怖と不信感，現代の発達病理 【授業概要】 人間の発達の中でも，情動・自律と依存・援助行動といった対人関係に関わる発達，心の理論の発達，更にピアジェの認知発達について学習していく。心の理論課題を実際に体験する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書「第3章 第2節 心の発達の基盤」p107-123. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第6回	学習，欲求と動機づけ 【key words】 古典的条件づけとオペラント条件づけ，感情・動機づけ・欲求，技能の学習における集中と分散、学習・行動 【授業概要】 古典的条件づけとオペラント条件づけの違い，様々な動機づけ，技能学習における集中と分散の効果の違いについて学習を進める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書「第2章 第2節 感情・動機づけ・欲求」p29-44、「第2章 第4節 学習・行動」p54-63 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第7回	認知と記憶 【key words】 記憶，認知、記銘の方略，情報の検索と忘却，問題解決，記憶障害と認知症 【授業概要】 短期記憶と長期記憶の違い，エラーフリーや記憶のコード化等の記憶方略，情報の検索と忘却，問題の解決について学習を進める。記憶障害について，記憶のコード化の課題作成練習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書「第2章 第5節 認知」p64-74. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第8回	知能 【key words】 知能と知能テスト，知能検査と知能の表示法，知的障害と発達障害、個人差 【授業概要】 知能の定義と様々な知能検査について確認する。また実際に知能検査結果から知能指数を算出する。知的障害と発達障害の違いを確認する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書「第2章 第6節 知能・パーソナリティ」p75-85、「第5章 第1節 心理アセスメント」p152-163. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第9回	パーソナリティ 【key words】 パーソナリティとその測定，心理検査の信頼性と妥当性，性格の形成，テストバッテリー 【授業概要】 パーソナリティとその測定方法である心理検査の違いを確認していく。さまざまなテストを組み合わせるテストバッテリーについて説明する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書「第2章 第6節 知能・パーソナリティ」p75-85、「第5章 第1節 心理アセスメント」p152-163.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第10回　適応の問題１
【key words】
適応とストレス，正常と異常，適応と不適応，ストレスが身体に及ぼす影響、健康生成論
【授業概要】
正常と異常の違い，適応と不適応の違いを確認する。ストレスが身体に与える影響について，心理学的理論と個体差、レジリエンス、首尾一貫感覚などについて取り上げ学習を進める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書「第4章 日常生活と心の健康」p124-151
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第11回　適応の問題２
【key words】
乳幼児期・児童期の適応困難，思春期・青年期の不適応，青年期・成人の適応困難
【授業概要】
乳幼児期・児童期からの適応困難として，学習障害・注意欠陥／多動性障害・自閉症スペクトラム障害について学習を進める。思春期・青年期の不適応として，摂食障害・家庭内暴力・不登校などを取り上げる。青年期・成人の適応困難として，神経症と心身症，及び精神病，特に双極性障害（躁うつ病）と統合失調症についてその違いと対応について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書「第6章 第1節 子ども・家庭福祉」p75-85、「同第3節 障害児・者福祉」p208-213、「同第4節 精神保健福祉」p214-218.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第12回　高次脳機能障害
【key words】
注意障害，記憶障害，遂行機能障害，失認失行，病識，
【授業概要】
頭部外傷や脳血管症などによる高次脳機能障害の主なものについて，その機序を説明し，その対応についても取り上げる。
【教科書ページ・参考文献】
「医学概論（人体の構造と機能及び疾病）」の教科書を用いる予定。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第13回　心理臨床とカウンセリング、公認心理師
【key words】
アセスメントの諸技法，面接法，心理療法におけるアセスメントと介入技法、マイクロカウンセリング
【授業概要】
心理臨床にとって必要なアセスメントの諸技法，面接法・観察法・検査法を確認する。更に面接法での基本的スキルを概説する。様々な心理療法（精神分析、認知行動療法、ブリーフセラピー、家族療法など）についても概説していく。また、公認心理師について概説する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書「第5章 第2節 心理的支援の基本的技法～第4節 心理の専門職」p162-197.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第14回　対人関係１
【key words】
非言語的コミュニケーション，好意の獲得，対人距離
【授業概要】
対人関係における非言語的コミュニケーションの役割，対人効果の決定因，パーソナルスペース等，対人関係の取り方，その意味について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書「第1章 第7節 社会のなかでの心理」p86-97.また、参考資料を別途指定予定。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第15回　対人関係２，社会と文化，対人交流とコミュニケーション
【key words】
対人関係における親和欲求，コミュニケーションスキル，社会と文化におけるグローバルコミュニケーション、集団・組織
【授業概要】
対人関係における親和欲求，効果的なコミュニケーションスキル，社会と文化におけるグローバルコミュニケーション，文化，ジェンダーの問題を取り上げ，学習を進めていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書「第1章 第7節 社会のなかでの心理」p86-97.また、参考資料を別途指定予定。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

	試験準備として授業内での指示・案内に沿って各自で準備を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60-90分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・出欠管理や提出物の返却を効率的に行うために毎回座席の指定があるものとお考え下さい。指定する座席は，事前にウェブポータル等で連絡するか各教室の入口に貼り出します。 ・教科書以外に、補助教材としてプリントを配布します。後述する「事前学習の課題」とあわせて、各自でA4版のフラットファイル等を用いて保管するようにしてください。 ・このプリントは各回の授業前後にウェブポータルにアップロードを予定しています。プリントを紛失／汚損してしまった場合には，各自でウェブポータルからダウンロード／印刷するようにしてください。 ・「事前学習の課題」に備えて，図書館やPC室／LL室，コピー機等の利用が可能な状態にしておいてください。 ・講義時間内に，「事前学習の課題」を用いたグループワークを行うことがあります。その際のグループは基本的に教員がランダムに指定します。 〔受講のルール〕 ・教科書を毎回持参してください。 ・授業時間中は、講義に集中するため、私用での携帯電話、スマートフォン、タブレット端末は使用せず、卓上にも置かないでください。もちろん，各自の個別の事情（例：授業中に保護者や実習先からの連絡がある）で確認が必要な場合には卓上に置くことを認めます。その際は，授業開始前に担当教員にご相談ください。 ・遅刻／欠席する際には，大学のルールに則り，講義開始前までに事務局に連絡を行ってください。受講生への伝言等による連絡は，『言った／言わない』のトラブルを防ぐために行わないようにしてください。 ・事務局への事前連絡があった遅刻／欠席の場合のみ，その回の課題を後日に提出することを認めます。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード（またはウェブポータルのスレッド機能やアンケート機能）を使用予定
授業外時間にかかわる情報	「事前学習の課題」として，次回内容の予習にあたる用語調べや事例検討を課すことが多くあります。そのため，シラバスの記載内容や授業内での指示をよく確認するようにしてください。この「事前学習の課題」を用いて、授業時間中のグループワークを行うため，各自の積極的かつ真摯な取り組みを望みます。また，提出後に評価・返却を受けた「事前学習の課題」の定期試験への持ち込みを許可する予定です（詳しくは初回に説明）。
オフィスアワー	金曜5限（16:00-17:30）
評価方法	事前学習の課題／授業内課題の提出：25%，提出された課題内容／取り組みの評価：25%，定期試験：50%（詳細は初回講義時に説明）
教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟(編)『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座2 心理学と心理的支援』中央法規出版,2021年.
参考書	各回で適宜紹介します。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 福祉施設や教育機関でのカウンセラーとしての勤務経験。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 社会学と社会システム　　授業コード：S1074

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース／学校教育コース／児童福祉コース／初等教育コース・選択
担当教員			
白石　憲一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 人口構造の変化、経済の低成長、グローバル化、技術進歩などによって生じている現在の大きな社会変動や社会問題について、マクロ、ミクロ、メゾレベルから整理することにより、社会学のエッセンスを解説することを目的とする。 【到達目標】 「社会を見る眼」を養い、社会問題の改善のための処方箋を模索する力を身につけることを到達目標とする。 ①現代社会の特性を理解する。 ②生活の多様性について理解する。 ③人と社会の関係について理解する。 ④社会問題とその背景について理解する。
授業の概要	個別的な問題領域について、統計資料や研究事例を紹介するとともに、社会学の理論的・抽象的な概念について整理する。授業では小テストを適宜実施して、学生の理解の確認も行っていく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	科目オリエンテ-ション 【key words】 社会学 【授業概要】 講義で扱う内容について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 2頁～237頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第2回	ジェンダー 【key words】 ジェンダー開発指数、ジェンダーエンパワメント指数 【授業概要】 ジェンダー開発指数、ジェンダーエンパワメント指数の解釈の方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 110頁、158頁、235頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ジェンダー開発指数、ジェンダーエンパワメント指数の統計を調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第3回	貧困問題 【key words】

		貧困線、相対的貧困 【授業概要】 貧困の種類、健康格差について、統計数値を用いて学習する。 【教科書ページ・参考文献】 51頁～56頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 貧困率の統計について確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第4回	格差 【key words】 ジニ係数 【授業概要】 不平等の指数について、統計数値を用いて学習する。 【教科書ページ・参考文献】 51頁～56頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ジニ係数の統計について確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第5回	福祉国家 【key words】 イギリス、アンデルセン 【授業概要】 イギリスの福祉の歴史とアンデルセンの福祉国家レジーム論について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 85頁～87頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 諸外国の社会保障制度について確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第6回	虐待 【key words】 児童・障害者・高齢者虐待、DV 【授業概要】 虐待の種類と対応を中心に学習する。 【教科書ページ・参考文献】 220頁～223頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第7回	人口からみた社会変動 【key words】 合計特殊出生率、人口オーナス 【授業概要】 人口に関係する指標について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 72頁～85頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 人口統計について確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第8回	社会集団と組織 【key words】 官僚、集団の類型 【授業概要】 集団の諸類型について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 164頁～175頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第9回	社会関係資本 【key words】 社会関係資本、パットナム 【授業概要】 社会関係資本の理論について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 187頁～197頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第10回	社会問題と福祉 【key words】 社会問題、福祉 【授業概要】 社会問題と福祉の関係について、実例に基づいて学習する。 【教科書ページ・参考文献】 224頁～225頁

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第11回　社会的ジレンマ 【key words】 囚人のジレンマ、社会的ジレンマ 【授業概要】 囚人のジレンマ、社会的ジレンマの具体例、社会的ジレンマ解消の方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 176頁～186頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第12回　児童虐待 【key words】 児童虐待 【授業概要】 現場での児童虐待の対応について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 220頁～223頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第13回　生活の質 【key words】 幸福感 【授業概要】 幸福感の決定要因について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 99頁～104頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 幸福感の統計について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第14回　家族 【key words】 マードック、ウォーナー、オグバーン、パーソンズ 【授業概要】 家族の機能、制度としての家族について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 105頁～119頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第15回　日本社会と社会問題 【key words】 マルクス、オグバーン、ウェーバー、マートン 【授業概要】 日本の社会問題と社会学における思想とのかかわりについて学習する。 【教科書ページ・参考文献】 211頁～225頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
受講生に関わる情報および受講のルール	新聞、ニュースなどで最新の経済の情報について確認すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	予習を毎回行い、質問があればコメントカードを活用すること。
オフィスアワー	木曜日4限
評価方法	試験（60%）と授業中の課題（40%）によって評価
教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟「社会学と社会システム」（中央法規出版株式会社）
参考書	いとう総研資格取得支援センター「見て覚える！社会福祉士国試ナビ」（中央法規）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素

	□PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： プログラミングの基礎　　授業コード：S1143

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
藤本　壱			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 基本的なプログラミングを通して、物事を順序立てて考えられるようになることを目的とする 【到達目標】 ①プログラミングの基本的な考え方を理解できる ②基本的なプログラムを自分で作ることができる ③機械学習の基本を理解することができる
授業の概要	様々な用途に利用できるプログラミング言語の「Python」を使い、プログラミングの基本を解説する。 また、Pythonは人工知能関連のプログラミングでもよく使われているので、人工知能のごく基本の部分（画像認識）も解説する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第1回	オリエンテーションと初めてのPython 【key words】 Python、IDLE 【授業概要】 Pythonの導入部分を解説する ・授業のオリエンテーション ・Pythonの概要 ・IDLEの起動 ・1行だけのプログラムを入力する 【教科書ページ・参考文献】 12～41ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自宅のパソコンにPythonをインストールしてIDLEで復習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第2回	複数行のプログラム 【key words】 ファイル 【授業概要】 複数行からなるプログラムを作成する ・ファイルの作成や保存 ・プログラムの入力と実行 ・プログラムの入力例 【教科書ページ・参考文献】 42～53ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プログラムの入力から実行までの流れを復習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分

	第3回	変数と計算 【key words】 変数、計算 【授業概要】 プログラムの中で情報を記憶するための「変数」を解説する ・変数の基本 ・データの型 ・変数の計算 ・文字列の操作 【教科書ページ・参考文献】 66～83ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 変数を使って計算するプログラムを自分で作ってみる 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第4回	条件によって処理を分ける 【key words】 if、論理演算子 【授業概要】 条件を判断してその後の処理を分ける方法を解説する ・条件判断の基本 ・条件を表す式の書き方 ・条件判断の書き方 【教科書ページ・参考文献】 92～97ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 条件によって処理が分かれるプログラムを自分で作ってみる 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第5回	処理の繰り返し 【key words】 for、range 【授業概要】 同じ処理を何度も繰り返して実行する方法を解説する ・一定回数の繰り返し ・条件を満たすまで繰り返す ・繰り返しのネスト ・繰り返しを途中で抜ける 【教科書ページ・参考文献】 98～105ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 繰り返しを含むプログラムを自分で作ってみる 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第6回	リストによるデータの処理 【key words】 リスト、for 【授業概要】 同じ系統のデータを多数扱う際に便利なリストを解説する ・リストの概要 ・リストにデータを代入する ・リストからデータを順に取り出す 【教科書ページ・参考文献】 84～89ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 リストを含むプログラムを自分で作ってみる 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第7回	辞書によるデータの処理 【key words】 辞書 【授業概要】 リストと並んでよく使うデータ構造である辞書を解説する ・辞書の概要 ・辞書にデータを代入する ・辞書の活用 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 辞書を活用したプログラムを自分で作ってみる 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第8回	関数の利用 【key words】 関数、引数、戻り値 【授業概要】 処理を関数にまとめることで、同じような処理を何度も書かずに効率良くすることができる。この回では既存の関数を使う方法を解説する ・関数の概要 ・組み込み関数とユーザー定義関数 ・よく使う組み込み関数

【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
関数を使ったプログラムを自分で作ってみる
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第9回　関数の作成

【key words】
関数、def
【授業概要】
プログラムの中で同じような処理が複数回出てくる場合、それを関数にまとめると効率が良くなる。この回では関数を作る方法を解説する。
・関数を作る手順
・引数と戻り値の扱い方

【教科書ページ・参考文献】
106～111ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分で関数を作る練習をする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第10回　モジュールの基本

【key words】
モジュール、import
【授業概要】
関数を集めてモジュールにすると、他のプログラムでも使いまわすことができる。この回では、既存のモジュールを使う方法や、自分でモジュールを作る方法を解説する
・モジュールの概要
・モジュールのインストール
・モジュールの作成
・モジュールのインポート
・モジュール内の関数の呼び出し

【教科書ページ・参考文献】
112～118ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
モジュールを使ったプログラムを作ってみる
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第11回　モジュールの活用

【key words】
モジュール
【授業概要】
既存のモジュールがいろいろあるので、便利なものを紹介する
・グラフの作成（matplotlib）
・Webページのスクレイピング（Requests、BeautifulSoup）

【教科書ページ・参考文献】
114～115ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
モジュールを活用したプログラムを作ってみる
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第12回　アプリを作ってみる(1)

【key words】
アプリ、tkinter
【授業概要】
画像を扱うアプリを作ることを通して、画像の処理やアプリづくりの実際を学ぶ
ユーザーからの入力を受け付けて動作するアプリを作る
・画面にボタンを配置する
・ボタンがクリックされたときに反応するようにする
・アプリの中身を作る
【教科書ページ・参考文献】
122～129ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
アプリの中身を書き換えて動作を試してみる
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第13回　アプリを作ってみる(2)

【key words】
pillow、画像
【授業概要】
画像を扱うアプリを作ることを通して、画像の処理やアプリづくりの実際を学ぶ
・アプリを使ってみる
・画像の扱い方
・画像ファイルの選択
・アプリの機能追加
【教科書ページ・参考文献】
130～148ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
piloowの他の機能を調べて自分で改造してみる
【予習復習に必要な想定時間】

	30分 第14回　機械学習の基本(1) 【key words】 scikit-learn 【授業概要】 Pythonは機械学習のライブラリが充実しているが、その中の1つである「scikit-learn」を使って、機械学習の基本を学習する ・機械学習の考え方 ・scikit-learnのインストール ・サンプルデータの扱い方 【教科書ページ・参考文献】 150～169ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 機械学習の仕組みを復習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第15回　機械学習の基本(2) 【key words】 scikit-learnを使って手書きの数字を認識するところまでを学習する 【授業概要】 ・手書き文字認識の仕組み ・手書き文字認識をアプリ化する 【教科書ページ・参考文献】 170～187ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 手書き文字認識の仕組みを復習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	[受講生に関わる情報]　配布資料は当授業のホームページから各自ダウンロードすること。 [受講のルール] 積極的に授業に臨むこと。 演習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	配布資料を使って復習する プログラミングに必要なソフトは自分でパソコンにインストールする
オフィスアワー	授業前後20分
評価方法	筆記試験
教科書	Python1年生、森巧尚著、翔泳社
参考書	なし
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 プログラム開発経験豊富 プログラミング関連の書籍を多数執筆 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 その他の具体的内容 授業を録画して後日YouTubeで配信

講義科目名称： 医学概論（人体の構造と機能及び疾病）　　授業コード：S2032

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
山﨑　博幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会福祉専門職（又は医療専門職）に求められる基本的な医学知識・医学用語を正しく理解する。 人体の構造と機能及び疾病を理解する。疾病・障害とその支援について理解する。具体的には以下の点について理解する。 ①人のライフステージにおける心身の変化と健康課題について理解する。 ②健康・疾病の捉え方について理解する。 ③人の身体構造と心身機能について理解する。 ④疾病と障害の成り立ち及び回復過程について理解する。 ⑤公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策 を理解する。 【到達目標】 基礎的な人体の構造、疾病について説明することができる。 生命の尊厳を知り、人体への畏怖の念を持つことができる。 医療、福祉分野において危機管理能力の形成がなされる。
授業の概要	社会福祉専門職(又は医療専門職）に必要な基本的な医学知識・医学用語を学び、次に人体の構造と機能、さらに疾病・障害とその支援について学んでいく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	ライフステージにおける心身の特徴、心身の加齢・老化 【key words】 成長、発達、発育、思春期、青年期、成人期、加齢、老化 【授業概要】 ・乳幼児期・学童期の成長、思春期・青年期の心身の特徴について学習する ・成人期の心身の特徴について学習する ・加齢と老化の違い、臓器の加齢変化について学習する 【教科書ページ・参考文献】 教科書　p2～14 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第2回	ライフステージ別の健康問題、健康と疾病の概念、国際生活機能分類 【key words】 ライフステージ、健康、疾病、ICIDH、ICF 【授業概要】 ・ライフステージ別の現代的課題について学習する ・健康と疾病の概念及び国際生活機能分類について学習する 【教科書ページ・参考文献】 教科書　p15～31

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第3回　人体部位の名称
【key words】
骨格系、筋系、循環器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系、皮膚、血液
【授業概要】
・人体の体表における区分や各部位の名称を学習する
・人体を構成する器官系と、各器官系を構成する臓器系の名称を学習する

【教科書ページ・参考文献】
教科書　p32～46
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第4回　器官系と臓器の役割
【key words】
骨格系、筋系、循環器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系、皮膚、血液
【授業概要】
・各器官系の機能および人体における役割の全体像を学習する
・各器官系を構成する臓器系の機能を学習する

【教科書ページ・参考文献】
教科書　p47～57
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第5回　疾病の発生原因と成立機序
【key words】
外的要因、内的要因、炎症、変性、虚血、発がん、免疫反応
【授業概要】
・疾病の発生原因について学習する
・病変の成立機序について学習する

【教科書ページ・参考文献】
教科書　p58～74
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第6回　リハビリテーションの概要と範囲
【key words】
リハビリテーション、ノーマライゼーション、ADL、QOL、IADL、高次脳機能障害、廃用症候群、ロコモティブシンドローム、チーム医療
【授業概要】
・リハビリテーションの定義、概念、目的について学習する
・ADLとQOLについて学習する
・リハビリテーションの対象及び方法について学習する

【教科書ページ・参考文献】
教科書　p75～91
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第7回　感染症、神経疾患、認知症、高次脳機能障害
【key words】
インフルエンザ、ノロウィルス、エイズ、COVID-19、ウイルス性肝炎、アルツハイマー病、パーキンソン病
【授業概要】
・主な感染症の概要及び感染対策について学習する
・代表的な神経疾患の症状、検査、診断、治療について学習する

【教科書ページ・参考文献】
教科書　p92～107
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第8回　脳血管疾患、心疾患
【key words】
脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、CT、MRI、虚血性心疾患、心不全、弁膜疾患、不整脈、大動脈疾患、高血圧
【授業概要】
・脳血管疾患の概要、後遺症について学習する
・虚血性心疾患の病態について学習する
・高血圧症の基準や治療について学習する

【教科書ページ・参考文献】
教科書　p108～121
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第9回　内分泌・代謝疾患、呼吸器疾患
【key words】
糖尿病、コレステロール、甲状腺、気管支喘息、COPD、肺炎、肺がん
【授業概要】
・糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患、下垂体疾患、副腎疾患の概要について学習する。
・高齢者に多い肺疾患について学習する

【教科書ページ・参考文献】
教科書　p122～137
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第10回　腎・泌尿器疾患、消化器・肝胆膵疾患、骨・関節の疾患
【key words】
腎不全、透析、腎移植、肝炎、ヘリコバクターピロリ、骨粗鬆症、関節リウマチ
【授業概要】
・腎不全、泌尿器疾患について病態を学習する
・肝疾患、胆嚢疾患、すい臓疾患について概要・検査・治療・予防法を学習する
・高齢化に伴い増加する骨・関節の疾患の特徴を理解する

【教科書ページ・参考文献】
教科書　p138～156
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第11回　血液・免疫・アレルギー疾患、眼科疾患、視覚障害、耳鼻咽喉科疾患、聴覚障害、平衡機能障害
【key words】
貧血、造血器腫瘍、アレルギー、白内障、緑内障、難聴、メニエール病
【授業概要】
・貧血、造血器腫瘍、造血不全の概念について学習する。
・再生不良性貧血、全身性エリトマトーデスについて学習する
・主要な眼科疾患、耳鼻咽喉疾患について学習する

【教科書ページ・参考文献】
教科書　p157～176
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第12回　口腔疾患、婦人科・産科
【key words】
う蝕、歯周疾患、生殖器腫瘍、妊娠、合併症、更年期障害
【授業概要】
・歯・歯周組織の構造、疾患について学習する
・生殖器悪性腫瘍と良性腫瘍について学習する
・妊娠・分娩の一連の流れを学習する
・育児放棄、特定妊婦について学習する

【教科書ページ・参考文献】
教科書　p177～189
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第13回　精神疾患、精神障害、発達障害、小児科疾患、肢体不自由、知的障害、高齢者に多い疾患
【key words】
DSM-5、自閉症スペクトラム、ADHD、統合失調症、先天性疾患、肢体不自由、知的障害、ダウン症候群、老年症候群、フレイル
【授業概要】
・代表的な精神疾患について学習する
・小児疾患の特徴、要因について学習する
・高齢者に多く出現する病態・疾病の特徴について学習する

【教科書ページ・参考文献】
教科書　p190～208
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第14回　生活習慣病（総論）、内部障害、悪性腫瘍と緩和ケア
【key words】
メタボリックシンドローム、内部障害、緩和ケア
【授業概要】

	・生活習慣病の病態と予防の概要を学習する ・内部障害の概要を学習する ・悪性腫瘍とその治療の概略について学習する ・緩和ケアの対象者とその概要について学習する 【教科書ページ・参考文献】 教科書　p209～219 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第15回　公衆衛生 【key words】 予防医学、健康の社会決定要因、健康増進 【授業概要】 ・公衆衛生とは何かについて学習する ・公衆衛生の目的である健康の保持・増進、寿命の延長、疾病の予防について学習する ・公衆衛生の各ライフステージの保健対策について学習する ・公衆衛生の疾病対策について学習する 【教科書ページ・参考文献】 教科書　p220～232 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	スライドで映した重要事項や口述した内容はノートに筆記していく事。 将来医療福祉分野に携わる者としてふさわしい知識を会得する事。 講義毎に前回の講義のおさらいを行う。各自、復習をすること。 手を動かすことによって記憶の定着が促進される。ノートのみではなく、積極的に教科書にも書き込みを行ってください。 〔受講のルール〕 私語、スマホの使用、その他授業の妨害行為を禁止とする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期試験（100%）
教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟　編集 『最新・社会福祉士養成講座　『医学概論』最新版　中央法規
参考書	講義の中で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保健医療と福祉　　授業コード： S2043

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
山﨑　博幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ①保健医療の課題を持つ人に対する、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。 ②ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を理解する。 ③保健医療に係る政策、制度、サービスについて理解する。 ④保健医療領域における社会福祉士の役割と、連携や協働について理解する。 【到達目標】 医療倫理を含む保健医療に係る倫理について説明することができる。保健医療の動向について説明することができる。保健医療に係る政策・制度・サービスの概要について説明することができる。保健医療領域にお ける専門職の役割と連携について説明することができる。保健医療領域における支援の実際について説明することができる。
授業の概要	ソーシャルワークに必要な保健医療と福祉について以下の点を概説する。 ・保健医療の課題をもつ人の理解 ・医療倫理 ・保健医療の動向 ・保健医療領域に必要な政策・制度およびサービスに関する知識 ・保健医療領域における専門職の役割と連携 ・保健医療領域における支援の実際

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	病者の理解 【key words】 疾病、健康、ICIDH、ICF、岡村重夫、ナラティブモデル、パーソンズ、キューブラ―ロス、スティグマ 【授業概要】 ・初回なので、授業の進め方やルールについて説明する。 ・健康の定義、疾病の概念、等について解説する。 ・病ももつことによって生じる諸問題について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 第１章　p2-12 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第2回	家族の理解 【key words】 家族の多様化、世帯、ダブルケア、五大疾病、家族支援、スピリチュアルペイン 【授業概要】

・家族構成の変遷とその弊害について解説する。
・疾病・障害が家族に与える影響について解説する。
・家族支援について、事例をあげて解説する。
【教科書ページ・参考文献】
第１章　p13-22
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第3回　患者の権利
【key words】
患者の権利法をつくる会、パターナリズム、患者の権利章典、リスボン宣言、インフォームドコンセント、インフォームドアセント
【授業概要】
・患者の権利という概念が生まれてきた経緯について解説する。
・インフォームドコンセント、インフォームドアセントについて解説する。
【教科書ページ・参考文献】
第１章　p23-30
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第4回　医療倫理と倫理的課題
【key words】
倫理、規範、法令遵守、医療倫理の4原則、ニュルンベルク綱領、生殖医療、移植医療、終末期医療
【授業概要】
・医療倫理の基礎、4原則について解説する。
・現代における医療倫理の課題について解説する。
【教科書ページ・参考文献】
第２章　p34-41
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第5回　患者の意思決定をめぐる課題
【key words】
パターナリズム、ICモデル、IDモデル、SDMモデル、アドバンスケアプランニング、人生会議
【授業概要】
・医療における意思決定支援のモデルについて解説する。
・アドバンスケアプランニング、アドバンスディレクティブ、ポルストについて解説する。
・意思決定支援をめぐる諸問題について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
第２章　p42-50
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第6回　疾病構造の変化
【key words】
疾病構造、人口転換、慢性疾患、非感染性疾患（NCDs）、健康の社会決定要因、疾病負荷
【授業概要】
・死因別にみた疾病構造に変化について解説する。
・戦後日本の人口構成及び高齢化について解説する。
・非感染性疾患（生活習慣病）について解説する。
【教科書ページ・参考文献】
第３章　p52-61
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第7回　入院医療から在宅医療/病院完結型医療から地域完結型医療へ
【key words】
社会的入院、老人保健法、後期高齢者医療制度、在宅医療、地域包括ケアシステム
【授業概要】
・高齢者医療制度の変遷について解説する。
・地域包括ケアシステムの概要について解説する。

【教科書ページ・参考文献】
第３章　p62-73
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第8回　保健医療における福祉的課題

【key words】
難病、ターミナルケア、老人ホーム、依存症、ICD、認知症、自殺企図、虐待防止
【授業概要】
・難病と福祉的課題について解説する。
・認知症、ターミナルケアと福祉的課題について解説する。
・自殺企図、虐待防止と福祉的課題について解説する。
【教科書ページ・参考文献】
第３章　p74-83
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第9回　保健医療の政策・制度および保健医療サービスの提供

【key words】
保健医療制度、国民医療費、医療法、医療事故、医療提供施設、在宅医療サービス
【授業概要】
・保健医療の政策・制度について全体像を概説する。
・医療提供施設、在宅医療サービスと医療提供体制について解説する。

【教科書ページ・参考文献】
第４章　p86-103
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第10回　医療費の保障およびその他の政策・制度

【key words】
医療保険、労災歩保険、被用者保険、地域保険、高額療養費制度、難病法、精神保健福祉法、診療報酬、介護保険
【授業概要】
・医療費保障制度の体系を解説する。
・社会保険、公費負担医療、無料低額診療、診療報酬制度について解説する。
・介護保険制度について解説する。
【教科書ページ・参考文献】
第４章　p105-125
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第11回　保健医療領域における専門職と院内連携

【key words】
専門職、チームモデル、場所の論理、SECIモデル、暗黙知、アンティシペーション・ダイアログ
【授業概要】
・保健医療領域のソーシャルワーカーが連携することになる専門職について解説する。
・３つのチームモデルについて解説する。
【教科書ページ・参考文献】
第５章　p128-137
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第12回　地域の関係機関との連携の実際

【key words】
地域共生社会、地域連携クリティカルパス、医療ソーシャルワーカー業務指針
【授業概要】
・医療を取り巻く社会環境、地域の関係機関との連携について解説する。
・いくつかの事例をあげて、地域の関係機関との連携について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
第５章　p138-149
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第13回　医療機関におけるソーシャルワーカーが所属する部門の構築

【key words】
スクリーニング、カンファレンス、電子カルテ、スーパーバイザー、バーンアウト、キャリアラダー、ワークライフバランス、マネジメント
【授業概要】

	・医療機関におけるソーシャルワーカーが所属する部門に位置づけについて解説する。 ・情報共有の仕組みについて解説する。 ・組織における管理体制について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 第５章　p150-160 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第14回　保健医療領域におけるソーシャルワーカーの役割 【key words】 医療ソーシャルワーカー業務指針、グリーフワーク、アドバンスケアプランニング、退院援助、ソーシャルワークの歴史、マネージドケア、生江孝之、清水利子、浅賀ふさ、吉田ますみ、出淵みや子 【授業概要】 ・医療ソーシャルワーカー業務指針について解説する。 ・ソーシャルワークの歴史について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 第６章　p162-174 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第15回　保健医療領域にお ける支援の実際 【key words】 回復期リハ、自宅退院、在宅医療、終末期ケア、救急現場、周産期、認知症、災害現場 【授業概要】 事例１～８までのうち、各自１つのシナリオを読んでレポートを作成する。 レポートに書くべき課題内容は、前の週に知らせる。 【教科書ページ・参考文献】 第６章　p175-222 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定ページの事例１から８までを読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	予習・復習を必ず行うこと。授業だけではなく、日頃から新聞・ニュース・インターネット等から保健医療に関する情報に接すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する
オフィスアワー	授業終了30分。又は、随時（事前に要連絡）。
評価方法	定期試験　80%　　レポート　20%
教科書	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集　最新・社会福祉士養成講座　『保健医療と福祉』最新版　中央法規
参考書	講義の中で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他

	その他の具体的内容

講義科目名称： 高齢者福祉　　授業コード：S2063

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	4単位(60)	社会福祉コース／福祉心理コース／学校教育コース・必修／児童福祉コース／初等教育コース・選択
担当教員			
林　孝和			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 高齢化が著しい我が国において、高齢者を取り巻く環境は大きく変化してきていることを理解し、高齢者が活き活きとその人らしい生き方を実現するための各種施策を理解する。また、介護を必要とする高齢者も増加することが予測されていることから、介護保険制度を中心に介護を社会で支えるということはどのようなことかを知る。 【到達目標】 ①高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境につ いて理解する。 ②高齢者福祉の歴史と高齢者観の変遷、制度の発展過程について理解する。 ③高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。 ④高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解す る。
授業の概要	我が国の高齢者を取り巻く環境は大きく変容している。そこで高齢化の現状を把握するとともに、高齢者の特性の理解や高齢者のニーズについての理解を高める。また、具体的な支援方策の論拠となる介護保険制度をはじめとした諸制度をしっかり理解する。このことにより、専門職である社会福祉士として高齢者に対するより適切な支援が可能となり、高齢者の自立した生活と生活の質の向上に資するものである。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第1回	オリエンテーション（授業の進め方等概説） 【key words】 高齢者に対する支援を学ぶにあたって、「高齢者」と一括りにすることなく一人ひとりを尊厳をもって対応することが基本。 【授業概要】 高齢者に対する支援と介護保険制度を学ぶにあたって、学生の高齢者への意識やイメージについて確認し、それはどうしてなのかを自らの言葉で語れるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第2回	高齢者の定義と特性（社会的理解・身体的理解） 【key words】 高齢者と老いを検証する 【授業概要】 高齢期における生活の変化や家族と社会との関係、生きがいや安全安心の確保、高齢者差別など様々な課題・問題が発生している。その原因を探るために社会的理解や身体的機能の変化等を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第3回　高齢者の特性（精神的理解・総合的理解）

【key words】
高齢者個々に特性がある
【授業概要】
高齢者の身体的理解をする。ここでは加齢に伴う身体機能の変化や外見から見た高齢化と内面から見た変化について検証するとともに、加齢に伴う基礎的運動機能の変化などから高齢者を総合的に理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第4回　高齢者の生活実態、少子高齢化と社会的問題

【key words】
人生５０年時代から人生９０年時代へ
【授業概要】
我が国の高齢化は先進国に例を見ない速さで進行しており、その酔及びその大きな原因となった少子高齢化等の動向について現状認識をする。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第5回　高齢者を取り巻く諸問題

【key words】
高齢化は重層的な課題を社会に投げかける
【授業概要】
高齢者を取り巻く諸問題とは何か、例えば健康問題や介護の門外、更には経済的な問題等々多くの問題の派生が懸念されている。それらについて具体的な事例を含めて検証する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第6回　高齢者保健福祉の起源と生成

【key words】
老いを歴史から考える
【授業概要】
我が国の高齢者の定義はどのように変遷してきたのか。高齢者（老人）に対する福祉サービスはどのようになされてきたのか、奈良時代までさかのぼってその起源から現代にいたるまでを検証する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第7回　高齢者保健福祉制度の発展

【key words】
護の社会化とは何かを考え整理する
老年人口の急増とその対応は
【授業概要】
第二次世界大戦後、我が国の福祉制度は児童や障害者、貧困者に対する対応を中心に充実されてきた。そうした中で、新たな課題として老年人口の急増が表出し、その対応を図るため老人福祉法が制定された。その経緯と現在の状況について歴史的に学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第8回　高齢者保健福祉の法体系

【key words】
高齢者は一律に支えられる人ではない
【授業概要】
高齢者保健福祉推進の基本的考え方を示した「高齢社会対策基本法」や「高齢社会対策大綱」について、その理念や国等が行うべき施策について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第9回　高齢者支援の関係法令　老人福祉法

【key words】
老人は敬愛される存在だけか？
【授業概要】
歴史的な救済制度等について学んできた中で、社会の変化に伴い「老人福祉法」が制定されるが、その基本的な理念や法の構成とその役割について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第10回　高齢者の医療の確保に関する法律
【key words】
高齢者と医療は切っても切れない
【授業概要】
高齢化に伴い多くの人々が加齢による身体機能の衰えや精神的課題を生じる。その対応を図るための医療制度について基本的なことを学ぶ。また、高齢者の支援に関連して近年表出してきた高齢者虐待や住宅問題等の課題への対策などについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第11回　高齢者虐待防止法・その他の関係法規　　「小テスト」
【key words】
高齢者を取り巻く環境は社会の縮図
【授業概要】
高齢者虐待や高齢者の住みやすい街づくり、更には高齢者の住まいの問題と様々な分野において高齢者の生活支援が求められている。そう言った分野についても知識を修得する。
「第１回から第１０回までを振り返り、その成果を小テストで評価する。」
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第12回　介護保険制度の全体像
【key words】
「介護を社会で支える」とはどういったことなのかの基本的な理解をする
【授業概要】
介護保険制度の最も初歩的・基本的事項である「サービス利用の方法」「サービス内容」「全体の仕組み」さらには目的と理念について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第13回　法改正と背景と方向性
【key words】
新たな高齢者介護の在り方を考える
【授業概要】
介護保険制度の理念の把握と共に、介護保険制度創設から最近の制度改正に至る原因、改正内容について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第14回　保険財政と保険者・被保険者
【key words】
安定したサービス供給のために
【授業概要】
制度の基本である財源の基本的な分野とともに、主体となる保険者・被保険者について、より詳細な把握を行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第15回　前期授業の総括
【key words】
介護の普遍化
授業概要　　第１回から第１４回までの講義を総括する
課題等　　夏季休業中に高齢者福祉のポイントや介護保険制度についてしっかりと復習しておくこと
【授業概要】
第１回から第１４回までの講義を総括する
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第16回　介護保険制度の仕組みとプロセス
【key words】
要介護認定とは保険給付とは何かを知る
【授業概要】
介護保険サービスを受けるには要介護認定の流れを理解し、介護保険サービス該当者になる条件等を理解する。また、その給付対象者や要介護認定のプロセスについて理解するとともに、受けられるサービスメニューを把握する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第17回　介護報酬と地域支援事業
【key words】
介護サービス事業者には介護報酬が支払われる。またサービスは地域での実施が主体となる
【授業概要】
サービス事業者に支払われる介護報酬について学ぶとともに、新たなサービスとしてセリされた地域支援事業創設の背景等について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第18回　地域包括支援センターと介護保険事業計画
【key words】
地域包括支援センターの創設と介護保険の計画的実施
【授業概要】
制度改正により創設された地域包括支援センターの役割や人員配置等について学ぶ。更には、介護保険制度を計画的に推進するための計画や組織等についても学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第19回　介護保険制度総括
【key words】
サービスは質の確保が肝要
【授業概要】
高齢者福祉サービスの主流となった介護保険制度の基本的事項についての整理を行う。また、サービスの質の確保等に関して求められる情報の公表や苦情への対応、更には「福祉サービス運営適正化委員会」「介護保険審査会」等の役割を知る。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第20回　介護保険サービスにおける専門職の役割と実際
【key words】
サービスの基本はなにか
【授業概要】
サービスの対象者の変化や専門職の役割と実際について、特に中心となる各種職種ごとの具体的な業務や課題、専門職の資格取得要件等について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第21回　居宅サービスと施設サービス
【key words】
居宅と施設サービスの両立
【授業概要】
専門職のフォローを行うとともにサービスメニューの主体となる「居宅サービス」「施設サービス」には多くのサービス形態が存在しており、その内容について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第22回　介護予防サービスと地域密着型サービス　　「小テスト」
【key words】
介護予防は元気な高齢者を創る
【授業概要】
介護予防の必要性と、どのようjな予防サービスが実施されているかを学ぶ。また、法改正により新たなサービスとして「地域密着型サービス」が創設されたころから、その概要についても学ぶ。
第１２回から第２１回までの理解度等について把握するため「小テスト」を実施する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第23回　高齢者と家族等を支援する組織と役割　行政の役割
【key words】
実施主体は市町村
【授業概要】
高齢者が安心して暮らし続けられる地域社会の仕組みづくりを推進するために、国や都道府県、市町村等がそれぞれの役割を分担している、それらの役割について理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

	第24回	高齢者と家族を支援する組織と役割　地域包括支援センターの組織体系と役割 【key words】 地域を主体としたサービス体系の構築 【授業概要】 地域における高齢者サービスの中心的機関である「地域包括支援センター」の組織体系と役割について知るとともに地域における民間の中核組織である「社会福祉協議会」や「NPO法人」の役割についても理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第25回	高齢者支援の方法 【key words】 高齢者もパワーを有している 【授業概要】 高齢者を多方面的にアセスメントし、高齢者の持つ弱さや強さを理解する。そこから、支援と共に家族との関連や家族の果たす役割、地域のグループを活用した相談援助等について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第26回	高齢者支援の方法と実際 【key words】 ストレス耐性の脆弱性を支える 【授業概要】 高齢者を支えるケアマネジメントは、どのように発展したのか。その意義や実践面での対応等について学ぶ。また、各種事例からサービスの利用と地域連携等について検証する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第27回	高齢者を支援する専門職の役割と実際 【key words】 専門職によるチームケアで効果を 【授業概要】 高齢者サービスにおいて多くの専門職がかかわることになるため、それぞれの職種について基本的理解と他職種連携についてその必要性にについてその必要性と実践の展開について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第28回	高齢者領域における社会福祉士の役割 【key words】 社会福祉士の役割 【授業概要】 高齢者領域における社会福祉士の役割について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第29回	高齢者と家族等に対する支援の実際 【key words】 地域包括ケアシステム、多職種連携、介護予防 【授業概要】 地域包括ケアシステムにおける認知高齢者支援について学ぶ。介護予防における支援について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第30回	後期の総括 【key words】 介護の社会化を実現するために 【授業概要】 高齢者への支援にあたっては、介護サービスは勿論のこと、医療や保健、住宅、街づくりまで広範にわたることを改めて理解するとともに、特に今後の認知症対策や終末期ケアまで含めた今後予想される超高齢社会への様々な対応についても検証する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	座席を指定する。私語厳禁。ペットボトルは机上に置かないこと。	
毎回の授業に関する	授業内で示すGoogleフォーム	

質問や学習の進捗状況の確認方法	
授業外時間にかかわる情報	予習をして授業に臨むこと。わからない部分についてはチェックアウト時に質問するか、授業中若しくは授業終了後に遠慮なく行うこと。新聞やニュースなどを確認し、高齢者関係情報については必ず目を通すように心がけること。
オフィスアワー	毎週水曜日　午前10：30～12：00（この時間帯以外については要予約）
評価方法	定期試験60％、理解度テスト20％、授業への参画20％
教科書	最新・社会福祉士養成講座 2 『高齢者福祉』中央法規
参考書	関係資料は適宜配布する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 Googleフォームとスマートフォンを利用して、リアルタイムで受講学生の意見を収集・公開して学びを深める。また、チェックアウト時に授業の感想・質問を集め、適宜フィードバックする。

講義科目名称：　ソーシャルワークの基盤と専門職（共通）　　授業コード：S2123

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
新木　惠一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会福祉士の役割と意義を学び、ソーシャルワークの概念を知るとともに、ソーシャルワークの形成過程を時代背景とともに理解することを目的とする。さらに、相談援助の理念、専門職倫理としての「倫理綱領」などについて学ぶことを目的とする。 【到達目標】 ①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。 ②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。 ③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。
授業の概要	社会福祉士及びソーシャルワーカーの役割と意義を知り、ソーシャルワークの構成要素やの形成過程、理念、倫理的ジレンマなどについて学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	オリエンテーション（授業計画説明、予習復習の説明、評価方法の説明など） 【key words】 講義の受け方 【授業概要】 講義の受け方、予習・復習について、評価方法、などについて説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第2回	社会福祉士及び介護福祉士法における位置づけ 【key words】 社会福祉士、名称独占、認定社会福祉士制度 【授業概要】 社会福祉士及び介護福祉士法における社会福祉士の位置づけについて学ぶ。資格の特性について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第3回	精神保健福祉士法における精神保健福祉士の役割と意義、現代社会とは 【key words】 精神保健福祉士、現代社会とは、産業構造の変化、雇用形態の変化、人口減少、少子化、高齢化、世帯人数、認知症高齢者 【授業概要】 精神保健福祉士の役割と意義について学ぶ。現代社会はどのような社会かについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第4回　現代の社会福祉士及び精神保健福祉士に求められる専門性

【key words】
地域、福祉課題、総合的かつ包括的な相談援助、ソーシャルワークの本質、生活困窮者自立支援法

【授業概要】
広範化と深刻化する問題状況のなかで、それらに対応できるだけの専門性を高めるだけではなく、地域を基盤としたソーシャルワークの必要性について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第5回　ソーシャルワーク専門職のグローバル定義

【key words】
グローバル定義、IFSW、IASSW、ウェルビーイング

【授業概要】
国際的な合意に基づくソーシャルワーク専門職のグローバル定義に関して詳しく学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第6回　ソーシャルワークの原理、ソーシャルワーク実践の判断と価値、価値・理念・原則、ソーシャルワーク専門職として身につける価値

【key words】
価値、理念、原則、人権、社会正義、集団的責任、多様性尊重、尊厳の保持、利用者本位、当事者主権、平等、民主主義

【授業概要】
価値はソーシャルワークの判断に影響を与えるということを学ぶ。ソーシャルワーク専門職としてグローバル定義に示されている人権、社会正義、集団的責任、多様性尊重を身につける価値であることの理由を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第7回　ソーシャルワークの理念、地域生活支援という視座、ノーマライゼーション、社会的包摂

【key words】
ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン、ソーシャルエクスクルージョン、糸賀一雄、地域生活支援、バンク・ミケルセン、ニィリエ、

【授業概要】
地域を基盤とした支援を展開するための重要概念としてのノーマライゼーションについて学ぶ。ノーマライゼーションの歴史を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第8回　権利擁護が必要とされる背景、深刻な人権侵害の顕在化、権利擁護の概念、権利擁護の態様、ソーシャルワーク実践としての権利擁護

【key words】
基本的人権、社会権、生存権、自由権、契約、判断能力、虐待、搾取、権利擁護の介入レベル

【授業概要】
権利擁護が必要とされる背景について学ぶ、。現代社会における権利擁護とは何か、ソーシャルワークが果たす権利擁護とは何かについて学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第9回　ソーシャルワークの形成過程、ソーシャルワーク前史、慈善組織協会、

【key words】
慈善、四箇院、聖徳太子、行基、エリザベス救貧法、産業革命、新救貧法、ブース、ラウントリー、社会調査、横山源之助、COS

【授業概要】
ソーシャルワークが体系化される以前は宗教的な価値観に基づき慈善活動が行われていたことを学ぶ。COSが組織化される背景と目的について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第10回　セツルメント、青少年団体

【key words】
セツルメント運動、バーネット、トインビー・ホール、隣保館、ハル・ハウス、YMCA、YWCA、ボーイスカウト、ガールスカウト、キングスレーホール

【授業概要】
セツルメント運動の成立過程と役割について学ぶ。青少年活動の役割と意義について学ぶ。

	【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第11回　ケースワークの確立、専門化するソーシャルワーク、世界恐慌・大不況とソーシャルワーク 【key words】 リッチモンド、友愛訪問、社会診断、医療ソーシャルワーク、キャボット、キャノン、ミルフォード会議、ジェネリックソーシャルワーク、グループワーク、コミュニティーオーガニゼーション 【授業概要】 リッチモンドによりケースワークが体系化された過程を学ぶ。医療ソーシャルワークの歴史を学ぶ。ミルフォード会議でどのような議論があったのかを学ぶ。世界大恐慌とソーシャルワークの関係性について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第12回　診断主義学派と機能主義学派、グループワークの形成、コミュニティーオーガニゼーション、日本での発展 【key words】 診断主義学派、フロイト、ハミルトン、機能主義学派、ランク、タフト、ロビンソン、ぐるーうワーク、コイル、ニューステッター、コミュニティーオーガニゼーション、ロスマン 【授業概要】 診断主義学派と機能主義学派の相違を学ぶ。グループワークとコミュニティーオーガニゼーションの形成過程を学ぶ。第二次世界大戦後の日本におけるソーシャルワークの発展過程について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第13回　社会不安とソーシャルワーク、問題解決アプローチ、ソーシャルワークモデルの乱立 【key words】 貧困の文化、貧困戦争、公民権運動、パールマン、問題解決アプローチ、四つのP、ワーカビリティー、心理社会的アプローチ、ホリス、医学モデル、生活モデル、ソーシャルワークトリートメント 【授業概要】 第二次世界大戦後のアメリカの経済状況、社会問題とソーシャルワークの関係性について学ぶ。問題解決アプローチが登場したことによるソーシャルワークへの影響について学ぶ。1960年代以降のソーシャルワークのモデルについて学び、日本の動向について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第14回　ソーシャルワークの統合化とジェネラリストアプローチの成立、ジェネラリストアプローチからジェネラリストソーシャルワークへ 【key words】 ソーシャルワークの統合化、ミルフォード会議、シーボーム報告、システム理論、ジェネラリストソーシャルワーク、エコロジカル・ソーシャルワーク、インターフェイス、相互作用 【授業概要】 ケースワーク、グループワーク、コミュニティーオーガニゼーションが統合していく段階を学び、ジェネラリストソーシャルワークの成立過程を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第15回　専門職倫理と倫理的ジレンマ 【key words】 ソーシャルワーク実践にあたっては、あらゆる場面で専門職としての判断が求まられる。そのようなときに 必要なのが専門職倫理である。 【授業概要】 専門職には何故「専門職倫理」が求められるのか。また、どういったことが「専門職倫理」なのかを考察する。そういったときに必要となるのが専門職団体の示す「倫理綱領」であり、その必要性と倫理綱領の意義と内容について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	ノートは板書を写すだけでは不十分であり、それ以外に口頭で解説したことなどをまとめて記述すること。予習として次回授業の該当部分を一読し、不明な用語などを調べ、調べた用語をノートにまとめる。また、予習の段階で質問があれば、予めノートに記述しておくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード

授業外時間にかかわる情報	予習として次回授業の該当部分を一読し、不明な用語などを調べ、調べた用語をノートにまとめる。また、予習の段階で質問があれば、予めノートに記述しておくこと。
オフィスアワー	月曜日8時20分～10時30分　水曜日8時20分～10時30分
評価方法	定期試験またはレポート60%、課題への取り組み40%とする。課題は1回の講義に対して①用語調べ3点、②授業メモ3点、③「本日のまとめ」（講義まとめ）4点で計10点の配点である。
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座　（中央法規）　最新版 山縣ら編『社会福祉用語辞典』（ミネルヴァ書房）最新版
参考書	適宜、紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　ソーシャルワークの基盤と専門職（社福）　　授業コード：S2124

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
新木　惠一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ジェネラリストソーシャルワーク、総合的かつ包括的な相談援助、などについて学ぶことを目的とする。 【到達目標】 ①社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。 ②ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。 ③ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解す る。 ④総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する
授業の概要	地域を基盤とした総合的かつ包括的な相談援助の全体像、理論、概念と範囲及び専門的機能について学び、さらに、ジェネラリストソーシャルワークについて理解を深める。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	ソーシャルワーク専門職の概念、ソーシャルワーク専門職の範囲 【key words】 専門職の成立条件、職能団体、専門職 【授業概要】 社会的に専門職であると認知されるための成立条件とは何かについて学ぶ。専門職の職能団体にはどのような団体があるのか、また、その役割について学ぶ。ソーシャルワーク専門職にはどのような職業があるのかを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第2回	社会福祉士が求められる領域（行政機関、福祉関係、医療関係、司法関係、独立事務所、職域拡大） 【key words】 社会福祉士の領域 【授業概要】 現代社会において、社会福祉士が求められる領域、場（行政機関、福祉関係、医療関係、司法関係、独立事務所、職域拡大）　について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第3回	福祉行政等における専門職 【key words】 福祉事務所の現業員、査察指導員、社会福祉主事、児童福祉司、身体障害者福祉司、知的障害者福祉司

【授業概要】
福祉行政等における専門職としてどのような職名で働いているのかについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第4回　民間の施設・組織に おける専門職
【key words】
施設長、生活相談員、社会福祉協議会職員、地域包括支援センター職員、スクールソーシャルワーカー、医療ソーシャルワーカー
【授業概要】
民間組織においてソーシャルワーカーがどのような職名で働いているのか学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第5回　相談援助専門職の範囲、諸外国の動向
【key words】
相談援助の専門職、イギリスの動向、アメリカの動向、スウェーデンの動向など
【授業概要】
ソーシャルワーク専門職にはどのような職業があるのかを学ぶ。諸外国のソーシャルワークをめぐる動向について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第6回　ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象
【key words】
ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象
【授業概要】
ミクロ・メゾ・マクロレベルの意味と対象について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第7回　ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの介入、支援の実際
【key words】
ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク
【授業概要】
ミクロ・メゾ・マクロレベルへのそれぞれの介入方法、支援の実際について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第8回　価値とは、専門職として共有する価値と個人の価値観
【key words】
価値の内在化、自己覚知、非審判的態度、受容
【授業概要】
価値の持ついくつかの意味について学ぶ。ソーシャルワーカーは専門職として共有する価値を基盤に実践していくことを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第9回　自己決定、自立支援、エンパワメントとストレングス視点
【key words】
自己決定、利用者本位、インフォームドコンセント、ノーマライゼーション、自己決定権、依存的自立、自立支援、エンパワメント、ストレングス
【授業概要】
自己決定概念の成立過程、自己決定と自己責任の関係性、自立の概念整理、エンパワメントとストレングス視点について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第10回　ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容、動向とその背景、地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座
【key words】

【授業概要】
わが国のソーシャルワークは「課題別」から「地域割」による実践へと変化していることを踏まえ、地域を基盤としたソーシャルワーク、総合的かつ包括的な相談援助とは何かを学ぶ。地域を基盤とした相談援助における4つのパラダイムシフトについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第11回　総合的かつ包括的な相談援助の全体像、地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座、地域を基盤としたソーシャルワークの8つの機能 【key words】 広範なニーズへの対応、本人の解決能力の向上、連携と協働、個と地域の一体的支援、予防的支援、支援困難事例への対応、権利擁護活動、ソーシャルアクション 【授業概要】 地域を基盤としたソーシャルワークの8つの機能、個と地域の一体的支援とは何かについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第12回　ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点、ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容 【key words】 ジェネラリストソーシャルワーク、地域を基盤としたソーシャルワーク、総合的かつ包括的な相談援助、 【授業概要】 ジェネラリストソーシャルワークにより地域を基盤としたソーシャルワークや総合的かつ包括的な相談援助の実践が可能となることを学ぶ。機関・団体間の合意形成と相互関係について学ぶ。利用者、家族の参画について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第13回　ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質 【key words】 点と面の融合、システム思考とエコシステム、本人主体、ストレングス・パースペクティブ、マルチシステム 【授業概要】 ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質として、点と面の融合、システム思考とエコシステム、本人主体、ストレングス・パースペクティブ、マルチシステムがあることを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第14回　予防機能、新しいニーズへの対応機能、総合的支援機能 【key words】 総合的かつ包括的な相談援助、地域を基盤としたソーシャルワーク、個と地域の一体的支援機能、予防機能、新しいニーズ、総合的支援機能 【授業概要】 現代ソーシャルワーク実践の特質を反映する機能として、個と地域の一体的支援機能、予防機能、新しいニーズ、総合的支援機能について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第15回　多問題家族への支援、権利擁護機能、社会資源開発機能、講義まとめ 【key words】 家族システム、エコシステム、権利擁護、ケースアドボカシー、コーズアドボカシー、資源開発 【授業概要】 現代ソーシャルワーク実践の特質を反映する機能として、多問題家族への支援、権利擁護機能、社会資源開発機能について学ぶ。講義まとめを行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	ノートは板書を写すだけでは不十分であり、それ以外に口頭で解説したことなどをまとめて記述すること。予習として次回授業の該当部分を一読し、不明な用語などを調べ、調べた用語をノートにまとめる。また、予習の段階で質問があれば、予めノートに記述しておくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	予習として次回授業の該当部分を一読し、不明な用語などを調べ、調べた用語をノートにまとめる。また、予習の段階で質問があれば、予めノートに記述しておくこと。授業後は復習すること。
オフィスアワー	月曜日8時20分～10時30分　水曜日8時20分～10時30分
評価方法	定期試験またはレポート60%、課題への取り組み40%とする。課題は1回の講義に対して①用語調べ3点、②授業メモ3点、③「本日のまとめ」（講義まとめ）4点で計10点の配点である。
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座　『　』（中央法規）最新版 山縣ら編『社会福祉用語辞典』（ミネルヴァ書房）最新版
参考書	適宜紹介する

実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　ソーシャルワーク演習Ⅰ（共通）　　授業コード：S2171　S2172　S2173　S2174　S2175

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(30)	社会福祉コース／児童福祉コース・必修／福祉心理コース／学校教育コース／初等教育コース・選択
担当教員			
富澤　一央・柳澤　充・安留　孝子・松永　尚樹・大久保　圭介			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。 ②ソーシャルワークの価値規範と倫理を 実践的に理解する。 ③ソーシャルワークの実践に必要なコミ ュニケーション能力を養う。 ④ソーシャルワークの展開過程において 用いられる、知識と技術を実践的に理解する。 【到達目標】 ①自己覚知について説明することができる。 ②基本的なコミュニケーション技術について説明することができる。 ③基本的な面接技術について説明することができる。 ④ソーシャルワークの展開過程について説明することができる。 ⑤ソーシャルワークの記録について説明することができる。 ⑥グループダイナミクスの活用の仕方について説明することができる。 ⑦プレゼンテーション技術について説明することができる。
授業の概要	ソーシャルワーク等の実習と関連づけながら、福祉専門職として必要な基本的な視点や原則、姿勢、態度についての理解を深め、援助技術として、ソーシャルワークの役割や価値基盤の理解、専門職としての自己覚知、他者理解、基本的なコミュニケーション技法の習得を目指し、ロールプレイやグループワークによる実践的・体験的な演習方法で学ぶ。いくつかの事例を通して、ソーシャルワークの展開過程について学ぶ。ソーシャルワークにおける記録、グループダイナミクス、プレゼンテーションについて学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	オリエンテーション　ソーシャルワーク演習の意義・目的及び位置づけ　授業の進め方　授業に参加する上での注意事項 【key words】 演習の概要　相談援助実習規定 【授業概要】 演習の位置づけを理解し演習に参加することができる。 ソーシャルワーク実習の規定を理解し、相談援助実習に向かう姿勢の基礎を構築する。 自己紹介を通して自分自身の振り返り、人の話を聞く態度を学 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	自己覚知 【key words】 自己理解と他者理解

【授業概要】
自己覚知のための、自己理解と他者理解について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　基本的なコミュニケーション技術　言語的技術　質問、促し
【key words】
質問、促し
【授業概要】
言語的技術 について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　基本的なコミュニケーション技術　言語的技術　感情の反映、繰り返し、要約
【key words】
感情の反映、繰り返し、要約
【授業概要】

言語的技術について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　基本的なコミュニケーション技術　言語的技術まとめ
【key words】
質問、促し、言い換え、感情の反映、繰り返し、要約
【授業概要】
言語的技術（質問、促し、言い換え、感情の 反映、繰り返し、要約等） について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　基本的なコミュニケーション技術　非言語技術
【key words】
表情、態度、身振り、位置取り 等
【授業概要】
非言語技術(表情、態度、身振り、位置取り 等） について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第7回　基本的な面接技術　　面接の構造化
【key words】
面接の構造化
【授業概要】
面接の構造化について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　基本的な面接技術　場の設定
【key words】
場の設定
【授業概要】
場の設定(面接室、生活場面、自宅等)について学ぶ。
ツールの活用（電話、e-mail 等)について、それぞれの特徴を理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　ソーシャルワークの展開過程　児童
【key words】
ソーシャルワークの展開過程
【授業概要】
事例を通して、ソーシャルワークの展開過程（ケースの発見 ・インテーク ・アセスメント ・プランニング ・支援の実施 ・モニタリング ・支援の終結と事後評価 ・アフターケア）について

		学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１０回	ソーシャルワークの展開過程　高齢 【key words】 ソーシャルワークの展開過程 【授業概要】 事例を通して、ソーシャルワークの展開過程（ケースの発見 ・インテーク ・アセスメント ・プランニング ・支援の実施 ・モニタリング ・支援の終結と事後評価 ・アフターケア）について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１１回	ソーシャルワークの展開過程　障害 【key words】 ソーシャルワークの展開過程 【授業概要】 事例を通して、ソーシャルワークの展開過程（ケースの発見 ・インテーク ・アセスメント ・プランニング ・支援の実施 ・モニタリング ・支援の終結と事後評価 ・アフターケア）について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１２回	ソーシャルワークの展開過程　生活困窮 【key words】 ソーシャルワークの展開過程 【授業概要】 事例を通して、ソーシャルワークの展開過程（ケースの発見 ・インテーク ・アセスメント ・プランニング ・支援の実施 ・モニタリング ・支援の終結と事後評価 ・アフターケア）について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１３回	ソーシャルワークの記録 【key words】 支援経過の把握と管理 【授業概要】 ソーシャルワークの記録について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１４回	グループダイナミクスの活用 【key words】 グループワークの構成、グループワークの展開過程 【授業概要】 グループワークの構成(グループリーダー・ コリーダー・グループメンバー) 、・グループワークの展開過程(準備期・開始 期・作業期・終結期) について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１５回	プレゼンテーション技術 【key words】 個人プレゼンテーション ・グループプレゼンテーション 【授業概要】 個人プレゼンテーション ・グループプレゼンテーション について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今までの演習で考えたことを振り返り、まとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分

受講生に関わる情報および受講のルール	(1)履修上の注意 グループワーク等に積極的に参加すること。無断欠席、無断遅刻はグループワークを乱すものであることを自覚すること。また、無断欠席、無断遅刻は実習に多大な影響を及ぼすことから、実習出来なくなる場合がある。 (2)学習上の助言 福祉専門職として必要な実践力を習得するために、自ら考え、気付くことが重要である。 (3)予備知識や技能 「ソーシャルワークの基盤と専門職」と深い関わりがある科目であることから、講義内容を十分に理解することが重要である。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	演習で学んだ内容や援助技術等を意識しながらボランティア活動に参加することが重要である。また、ボランティア活動を通して自己理解を深め、あるいは他者理解に努め、その都度振り返ることが求められる。
オフィスアワー	各教員より授業時に伝える
評価方法	試験またはレポート（40%）、提出物・リアクションペーパー・課題への取り組み（60%）
教科書	適宜、配布する。
参考書	社会福祉六法（出版社は問わない）、社会福祉用語辞典
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 障害者団体、病院、在宅介護支援センター、ホームレス支援施設などでソーシャルワーカーとしての実務経験があり、現在も社会福祉士事務所代表として成年後見受任事業などを行っている。群馬県立しろがね学園（障害児入所施設）における１５年の勤務と、児童相談所での５年の勤務をとおして、障害児・者、要保護児童などの処遇に携わった経験を活かした現場の実践感覚を大切にした授業展開を行っている。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　精神保健福祉制度論　　授業コード：S7005

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース・福祉心理コース・選択
担当教員			
鈴木　秀夫			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会における精神障害者の人権上の問題点を踏まえ精神保健福祉士として支援できるようになることを目指す。 【到達目標】 ①精神障害者に関する法制度の体系について理解する。 ②精神保健福祉法、医療観察法等の医療に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する。 ③生活支援に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する。 ④生活保護制度や生活困窮者自立支援制度等の経済的支援に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する。 ⑤障害者に関する法制度を適切に活用でき、法制度の限界と課題について考えることができる。
授業の概要	精神障害者の理解のために障害者福祉の理念、基本施策を学ぶ。精神障害者の人権について学ぶ。障害に配慮した生活支援について理解させる。精神保健福祉法、障害者総合支援法、医療観察法等法律の意義を学ぶ。精神保健福祉士の理念、意義、対象について学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	オリエンテーション　講義の進め方 【key words】 精神保健福祉士　精神保健 【授業概要】 授業の進め方と精神保健について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第2回	精神障害者に関する制度・施策の理解　精神障害者に関する法律の体系 【key words】 精神保健福祉法　宇都宮病院事件 【授業概要】 精神保健福祉法の歴史と関連法律について講義を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第3回	精神障害者に関する制度・施策の理解　精神障害者に関する法律の体系 【key words】

		人権擁護　障害者基本法　障害者権利条約 【授業概要】 精神保健福祉法の歴史と関連法律について講義を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第4回	精神障害者の医療に関する制度　精神保健福祉法の概要と精神保健福祉士の役割 【key words】 入院形態　入院の方法（移送制度等）　人権擁護（退院請求、精神医療審査会指定医制度）　精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割（退院後生活環境相談員等） 【授業概要】 入院形態について講義し、入院、退院時の精神保健福祉士の役割をディスカッションする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第5回	精神障害者の医療に関する制度　医療観察法の概要と精神保健福祉士の役割 【key words】 審判・処遇の流れ　処遇の内容　精神保健参与員の役割　社会復帰調整官の役割　医療観察法における精神保健福祉士の役割 【授業概要】 医療観察法について講義し、医療観察法における精神保健福祉士の役割をディスカッションする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第6回	精神障害者の医療に関する制度　精神障害者の医療に関する課題 【key words】 非自発的入院　意思決定支援　家族等の同意　アウトリーチ　精神科救急　地域移行、地域定着 【授業概要】 現在の精神障害者医療の課題について説明し、精神保健福祉士の支援方法を考える。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第7回	精神障害者の生活支援に関する制度　相談支援制度と精神保健福祉士の役割 【key words】 相談支援制度　精神保健福祉士の役割 【授業概要】 相談支援制度の概要と精神保健福祉士の役割について講義する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第8回	精神障害者の生活支援に関する制度　居住支援制度と精神保健福祉士の役割 【key words】 居住支援制度　精神保健福祉士の役割 【授業概要】 居住支援制度の概要と居住支援における精神保健福祉士の役割について講義する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第9回	精神障害者の生活支援に関する制度　就労支援制度と精神保健福祉士の役割 【key words】 就労支援制度　精神保健福祉士の役割 【授業概要】 就労支援制度の概要と就労支援における精神保健福祉士の役割について講義する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第10回	精神障害者の生活支援に関する制度　精神障害者の生活支援制度に関する課題 【key words】 相談支援　居住支援　就労支援 【授業概要】 精神障碍者の生活支援に関する課題を概説し、精神保健福祉士としての対応についてディスカッションする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】

	第11回　精神障害者の経済的支援に関する制度　生活保護制度と精神保健福祉士の役割 【key words】 生活保護　精神保健福祉士の役割 【授業概要】 生活保護法を受給している精神障害者の生活と支援について概説し、精神保健福祉士の役割についてディスカッションする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第12回　精神障害者の経済的支援に関する制度　生活困窮者自立支援制度と精神保健福祉士の役割 【key words】 生活困窮者自立支援制度　精神保健福祉士の役割 【授業概要】 生活困窮に陥っている精神障害者に対する支援と連携についてディスカッションする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第13回　精神障害者の経済的支援に関する制度　低所得者対策と精神保健福祉士の役割 【key words】 生活福祉資金貸付制度　無料定額診療所　無料定額宿泊所　求職者支援制度　法律扶助　災害救助等　低所得者対策における精神保健福祉士の役割 【授業概要】 精神障害者が利用できる低所得者対策について概説し、精神障害者への支援についてディスカッションする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第14回　精神障害者の経済的支援に関する制度　精神障害者の経済的支援制度に関する課題 【key words】 無年金　経済的支援 【授業概要】 精神障害者の経済的支援制度に関する課題を概説し、経済的支援の法制度について振り返る。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第15回　まとめ 【key words】 ノーマライゼーション　人権擁護　合理的配慮 【授業概要】 精神障害者が生活をする中での課題、精神保健福祉士としての役割、支援方法についてまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	精神保健福祉士を目指し、国家試験受験を予定している学生は必ず履修すること。（授業中に予備知識、技能上のポイントの助言が多い）適宜レポート提出、小テストを実施する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	施設ボランティア、精神障害者イベントボランティアの紹介。ピア活動・講演会の紹介。
オフィスアワー	原則、月曜を除く放課後。
評価方法	定期試験50%　レポート30%　その他毎回での考察２０%
教科書	精神保健福祉士養成講座編集委員会編集　新・精神保健福祉士養成講座　『　　』最新版　へるす出版
参考書	適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 精神科病院30年以上のPSWとしての実務経験。最後の10年は当時の副院長と看護の勉強会を実施。他、医局の勉強会において医師、SW,CPを対象にSSTトレーニングを実施。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション

	□実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　サービス・ラーニングⅡ　　授業コード：S2004　S2006

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位(60)	必修
担当教員			
大島・他２学年担任　サービスラーニング・ゼミ担当者			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 大学近隣の地域の様々なフィールドで行われる実践活動と課題、そして学生らに期待されている事柄を知り、興味関心を持ったフィールドにおける課題解決のための取り組みとして昨年度に企画立案したプロジェクトの実施を通じて、地域社会の問題解決に挑み、その経験から社会福祉・教育の専門職としてのキャリアを形成する土台となる体験基盤を主体的・実践的学習活動を通して構築する。 【到達目標】 ①地域社会にある課題を見つけ出し、その解決に向けた道筋を描き出すことができる。 ②課題解決に向けた具体的な地域貢献・社会貢献のための活動を計画することができる。 ③計画した活動について、地域社会への提案と具体的な実践をすることができる。 ④実践を通じて得た学びから、専門職としてのキャリアを考える体験基盤をつくることができる。
授業の概要	身近な地域で行われている実践を知り、そこでの課題を見つけ、その解決に向けた調査・分析から解決のためのプロジェクトの企画立案と提案、実行と振り返りまでを2年間かけて実施する。この2年目にあたる本講義では、全学ディプロマポリシーである『地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践』を行う場として、年間を通じてグループ単位での実践活動を行う。 具体的には、昨年度に各グループの企画案に基づき、前期は大学近隣地域の社会福祉・教育等の現場への提案とそこでの協議を通じ、企画の具体化に向けた準備を行う。後期はグループで企画した活動の実践活動を展開する。最終的にはそれぞれが活動した内容をポートフォリオとして記録に残し、全体での報告会によって知識と体験を共有する。これらを全体を通して、一人一人がそれぞれの進路や具体的な学習課題と向き合う上で、土台となる体験基盤を得られるよう、積極的な関与を求めたい。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション 【key words】 サービス・ラーニング、授業予定、ポートフォリオ 【授業概要】 全体で集合して実施する。今年度に取り組む予定（前期：企画立案・依頼・調整、後期：実践と振り返り、発表）を説明後、昨年度のグループごとに取り組みの振り返りと、昨年度に他の受講生から受けたフィードバックを確認し、今年度の活動について自分の興味関心をまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 昨年度のポートフォリオと配布資料等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業準備：完成済の「昨年度のポートフォリオ」を必ず持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分（以下分単位）
	第２回	活動準備①学内外での活動および、各自で行うボランティア活動の手続きの説明 【key words】

ボランティア活動（継続・依頼・行事）、地域貢献活動、学生事故補償制度
【授業概要】
全体で集合して実施する。今後の学内外でのグループ単位での活動に向けた事務手続きについて、地域連携センターと事務局（学生課・教務課）より説明を受ける。また、昨年度はCOVID-19の影響で実施できなかった各個人でのボランティア活動を行う際の手続きや記録の方法についても説明を受ける。最後に、今年度に助言・指導を受けることが可能な教員の紹介等を行う予定である。
【教科書ページ・参考文献】
（当日配布予定のボランティア活動ハンドブック・ボランティア活動記録簿
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第３回　活動準備②グループ編成
【key words】
アイスブレイク、サービス・ラーニング
【授業概要】
昨年度の実践および現在の興味関心に沿ってグループを編成し、今年度の活動に向けた顔合わせと興味関心の共有、アイスブレイク、活動可能な日時の調整等を行う。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料（ポートフォリオ予定）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：次回の活動予定日時・場所の報告
【予習復習に必要な想定時間】
15-30

第４回　●活動準備③グループ活動1
【key words】
情報収集、調べ学習、研究室訪問、企画立案
【授業概要】
全体では集合せず、グループごとに立てた計画に沿って実施する。自分たちの興味関心と昨年度に自他が調査・発表したニーズに沿って、グループごとに情報収集、調べ学習、企画案出、教員の研究室訪問等を行うこと。
【教科書ページ・参考文献】
ポートフォリオ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：ポートフォリオに基づく活動報告
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第５回　企画準備④企画の検討
【key words】
企画立案、地域ニーズ
【授業概要】
全体で集合して実施する。学内外に企画を提案する際の様式について説明を行う。その後、グループごとに企画立案と具体化を進める。
【教科書ページ・参考文献】
ポートフォリオ・配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：次回の活動予定日時・場所の報告
【予習復習に必要な想定時間】
15-30

第６回　●活動準備⑤グループ活動2
【key words】
情報収集、調べ学習、研究室訪問、企画立案
【授業概要】
全体では集合せず、グループごとに立てた計画に沿って実施する。自分たちの興味関心と昨年度に自他が調査・発表したニーズに沿って、グループごとに企画の立案、情報収集、教員の研究室訪問等を行うこと。
【教科書ページ・参考文献】
ポートフォリオ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：ポートフォリオに基づく活動報告
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第７回　企画準備⑥他の班との情報共有
【key words】
グループワーク、コミュニケーション、情報共有
【授業概要】
全体で集合して実施する。他のグループの受講生との間で、自分の班で検討されている企画案や進捗状況について発表・共有する。その後、各グループに戻り、改めてグループの企画・今後のスケジュール等を確認する。
【教科書ページ・参考文献】
ポートフォリオ・配布資料・ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：グループワークの感想や学びなどの提出
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第８回　●活動準備⑥グループ活動3
【key words】
企画立案、社会人基礎力
【授業概要】
全体では集合せず、グループごとに立てた計画に沿って実施する。前回のグループワークでの学びを参考に、グループごとの企画立案を進めること。また、企画を依頼／持ち込む学外機関への訪問や見学を行う際には、既定の事務手続きをとること。

【教科書ページ・参考文献】
ポートフォリオ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：ポートフォリオに基づく活動報告
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第９回　●活動準備⑦グループ活動4
【key words】
企画立案、社会人基礎力
【授業概要】
全体では集合せず、グループごとに立てた計画に沿って実施する。前回のグループワークでの学びを参考に、グループごとの企画立案を進めること。また、企画を依頼／持ち込む学外機関への訪問や見学を行う際には、既定の事務手続きをとること。
【教科書ページ・参考文献】
ポートフォリオ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：ポートフォリオに基づく活動報告
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第１０回　●活動準備⑧グループ活動5
【key words】
企画立案、社会人基礎力
【授業概要】
全体では集合せず、グループごとに立てた計画に沿って実施する。前回のグループワークでの学びを参考に、グループごとの企画立案を進めること。また、企画を依頼／持ち込む学外機関への訪問や見学を行う際には、既定の事務手続きをとること。
【教科書ページ・参考文献】
ポートフォリオ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：ポートフォリオに基づく活動報告
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第１１回　企画準備⑨企画発表会および企画書説明
【key words】
プレゼンテーション、グループワーク
【授業概要】
全体で集合して実施する。前期の企画発表会の発表内容や形式等の説明および、発表会までに完成・提出する企画書の様式について説明を行う。説明終了後は、グループごとに発表準備や企画書の作成を行う。
【教科書ページ・参考文献】
ポートフォリオ・配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１２回　●活動準備⑩グループ活動6
【key words】
企画調整、プレゼンテーション
【授業概要】
全体では集合せず、グループごとに立てた計画に沿って実施する。主に企画発表会に向けた準備、企画を持ち込む先の調整や検討等を想定している。
【教科書ページ・参考文献】
ポートフォリオ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：ポートフォリオに基づく活動報告
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第１３回　●活動準備⑪グループ活動7
【key words】
企画調整、プレゼンテーション
【授業概要】
全体では集合せず、グループごとに立てた計画に沿って実施する。主に企画発表会に向けた準備、企画を持ち込む先の調整や検討等を想定している。
【教科書ページ・参考文献】
ポートフォリオ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：ポートフォリオに基づく活動報告
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第１４回　企画発表会①
【key words】
プレゼンテーション
【授業概要】
全体で集合して実施する。グループごとに企画発表を行う予定である。
【教科書ページ・参考文献】
ポートフォリオ・発表資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：発表の感想記録
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第１５回　企画発表会②・前期振り返り
【key words】
プレゼンテーション

【授業概要】
全体で集合して実施する。グループごとに企画発表を行う予定である。
【教科書ページ・参考文献】
ポートフォリオ・発表資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：発表の感想記録
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第１６回　後期オリエンテーション
【key words】
地域での実践活動、サービス・ラーニング
【授業概要】
全体で集合して実施する。後期は前期に立案した企画に基づき、地域での実践活動と振り返りを行う予定であり、その流れや手続きについて確認を行う。
【教科書ページ・参考文献】
ボランティア活動ハンドブック、配布資料、ポートフォリオ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：次回に向けた準備学習を指示予定
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第１７回　地域での実践活動に向けた準備
【key words】
社会人基礎力、マナー・態度、報告様式
【授業概要】
全体で集合して実施する。改めて地域で求められるマナーや態度について各自の考えや意見をもとにグループワークを行い、次回以降の実践活動に備えた準備を行う。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料、ポートフォリオ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：次回以降の活動予定日時・場所の報告
【予習復習に必要な想定時間】
15-30

第１８回　●地域での実践活動①
【key words】

【授業概要】
全体では集合せず、グループごとに立てた計画に沿って実施する。助言・指導を仰ぐ教員の指示に沿いながら、学内外の活動における既定の事務手続きを順守して行うこと。
【教科書ページ・参考文献】
ポートフォリオ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：ポートフォリオに基づく活動報告
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第１９回　●地域での実践活動②
【key words】

【授業概要】
全体では集合せず、グループごとに立てた計画に沿って実施する。助言・指導を仰ぐ教員の指示に沿いながら、学内外の活動における既定の事務手続きを順守して行うこと。
【教科書ページ・参考文献】
ポートフォリオ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：ポートフォリオに基づく活動報告
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第２０回　●地域での実践活動③
【key words】

【授業概要】
全体では集合せず、グループごとに立てた計画に沿って実施する。助言・指導を仰ぐ教員の指示に沿いながら、学内外の活動における既定の事務手続きを順守して行うこと。
【教科書ページ・参考文献】
ポートフォリオ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：ポートフォリオに基づく活動報告
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第２１回　●地域での実践活動④
【key words】

【授業概要】
全体では集合せず、グループごとに立てた計画に沿って実施する。助言・指導を仰ぐ教員の指示に沿いながら、学内外の活動における既定の事務手続きを順守して行うこと。
【教科書ページ・参考文献】
ポートフォリオ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：ポートフォリオに基づく活動報告
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第２２回　後期中間報告
【key words】

		グループワーク、コミュニケーション、情報共有 【授業概要】 全体で集合して実施する。他のグループの受講生との間で、自分のグループで実施している活動について発表・共有する。その後、各グループに戻り、改めてここまでのグループの活動について振り返りを行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：グループワークの感想や学びなどの提出 【予習復習に必要な想定時間】 30-60
	第２３回	●地域での実践活動⑤ 【key words】 【授業概要】 全体では集合せず、グループごとに立てた計画に沿って実施する。助言・指導を仰ぐ教員の指示に沿いながら、学内外の活動における既定の事務手続きを順守して行うこと。 【教科書ページ・参考文献】 ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：ポートフォリオに基づく活動報告 【予習復習に必要な想定時間】 30-60
	第２４回	●地域での実践活動⑥ 【key words】 【授業概要】 全体では集合せず、グループごとに立てた計画に沿って実施する。助言・指導を仰ぐ教員の指示に沿いながら、学内外の活動における既定の事務手続きを順守して行うこと。 【教科書ページ・参考文献】 ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：ポートフォリオに基づく活動報告 【予習復習に必要な想定時間】 30-60
	第２５回	●地域での実践活動⑦ 【key words】 【授業概要】 全体では集合せず、グループごとに立てた計画に沿って実施する。助言・指導を仰ぐ教員の指示に沿いながら、学内外の活動における既定の事務手続きを順守して行うこと。 【教科書ページ・参考文献】 ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：ポートフォリオに基づく活動報告 【予習復習に必要な想定時間】 30-60
	第２６回	●地域での実践活動⑧ 【key words】 【授業概要】 全体では集合せず、グループごとに立てた計画に沿って実施する。助言・指導を仰ぐ教員の指示に沿いながら、学内外の活動における既定の事務手続きを順守して行うこと。 【教科書ページ・参考文献】 ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：ポートフォリオに基づく活動報告 【予習復習に必要な想定時間】 30-60
	第２７回	企画報告会／お礼状等の説明 【key words】 社会人基礎力、お礼状 【授業概要】 全体で集合して実施する。企画報告会の内容や形式を説明後、実践活動に関連して対応いただいた方へのお礼状の作成について説明を行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：お礼状の下書き作成 【予習復習に必要な想定時間】 30-60
	第２８回	報告会 【key words】 プレゼンテーション 【授業概要】 実践した活動について、グループごとの報告を順次実施していく。 【教科書ページ・参考文献】 発表資料・ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：お礼状の下書き作成 【予習復習に必要な想定時間】 30-60

	第２９回　報告会 【key words】 プレゼンテーション 【授業概要】 実践した活動について、グループごとの報告を順次実施していく。 【教科書ページ・参考文献】 発表資料・ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：ポートフォリオの完成 【予習復習に必要な想定時間】 30-60 第３０回　全体振り返り 【key words】 振り返り、職業観 【授業概要】 これまでの学修全体を振り返っての学びや今後のキャリアについての検討を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオの提出 【予習復習に必要な想定時間】 30-120
受講生に関わる情報および受講のルール	＜受講生に関わる情報＞ ・授業時間として設定された時限以外でのグループ活動が中心となるため、メンバー同士で協力し合い、活動がうまく動いていくように、各自積極的に役割を担っていくこと。 ・講義内やグループ活動ごとに、ポートフォリオへの記入や小レポートの作成、メールやウェブポータル上での報告を求める。各自が期限を厳守し、真摯な態度で臨むこと。 ・大学外での活動が中心となるため、実習に順ずる態度・身だしなみで取り組むこと。 ・わからないことなどがあれば、遠慮なく担当教員をはじめとした学内の教員、地域連携センターに相談をすること。一人で解決しようとせず、人に力を借りることも学ぶこと。 ＜受講のルール＞ ・遅刻／欠席については大学のルールに則り、教務課に連絡を行うこと。 ・特に後期は各グループで教室や時限が異なる可能性があるため、担当教員との連絡、掲示板の確認を密に行うこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	毎回の授業後にウェブポータルのスレッド／アンケートやコメントカード（またはシャトルカード）のやり取りを行う予定
授業外時間にかかわる情報	・前期：各回でワークシートの作成等が課題として課される。 ・後期：各グループでの指導となるため、担当教員の指示を毎回確認すること。
オフィスアワー	授業内で案内する
評価方法	P/D評価である。各回でのワークシート等の作成・提出（50%）、とポートフォリオの作成・完成（50%）で評価を行い、基準を超えた場合に単位を認定する。
教科書	使用しない。各回で資料の配布等を行うため、配布されたファイルに保管すること。
参考書	適宜紹介
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 道徳の理論及び指導法　　授業コード：S5085

英文科目名称： Moral theory and teaching methods

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・初等教育コース・選択
担当教員			
岡野　康幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】道徳心をどのように育てていくのかを建学の精神と関連しながら、「小学校・中学校道徳化指導に必要な知識・技能の習得」をすることで学んでいく。 【到達目標】①「道徳科学習指導要領の目標と内容及び解説」について理解することができる。②教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業や授業研究会の実践を通して、道徳科の実践的指導力を身に付けることができる。
授業の概要	小学校・中学校道徳化指導に必要な教師の理論面・実技面での基礎基本を身に付ける。その基礎基本の力量を活用して、教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業、授業研究会等を行う。児童・生徒が日常的に経験する事例から道徳の端緒を探り、どのように拡充していくか考察する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	オリエンテーション（授業概要、評価方法等）、道徳の本質・意義 【key words】 道徳の本質 【授業概要】 授業の進め方や概要を説明します。また道徳の本質とはどういうことなのか。教育の視点から考察する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第2回	建学の精神「仁」から、道徳心について考える 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第3回	道徳教育の歴史、学習指導要領の目標と内容 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】

	第4回	子どもの心の成長と道徳性の発達について 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第5回	現代社会における道徳教育の課題について 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第6回	道徳科指導計画：全体計画、年間指導計画、教育活動全体を通じた指導について 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第7回	様々な指導法（ティーム・ティーチング、ロールプレイング、ペープサートや場面絵、類型化、板書、説話等） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第8回	評価方法（記述による評価、個人内評価、ポートフォリオ評価、座席表・通知票の評価、組織を生かした評価等） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第9回	学習指導案の基本的な作成方法 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第10回	学習指導案の作成・模擬授業の準備① 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第11回	学習指導案の作成・模擬授業の準備② 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】 第12回　学習指導案の作成・模擬授業の準備③ 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第13回　模擬授業①、授業研究会① 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第14回　模擬授業②、授業研究会② 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第15回　日常の事例から改めて道徳について考える 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。注意をしてもやめない時は退室を命ずる。 ・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。 ・不明な用語に当たったら、辞典類で調べること。 ・臨機応変の対応ができるよう、15回の講義中に１人１分で発表をしてもらいます。 ・シラバスは講義の進行状況によって変わることもある。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教育に関する新聞記事等の情報を常に把握していること。
オフィスアワー	火曜日16時～18時
評価方法	筆記試験50%、学習指導案の作成30%、小テスト・レポート20%
教科書	文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年3月公示）解説　特別の教科　道徳編」廣済堂あかつき、文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年3月公示）解説　特別の教科　道徳編」教育出版、貝塚茂樹・林泰成『道徳教育論』放送大学教育振興会、2021年3月
参考書	・文部科学省「わたしたちの道徳（小学校1・2・3・4年、5・6年）各文渓堂、教育出版、廣済堂あかつき2015年6月。文部科学省「私たちの道徳（中学校）」廣済堂あかつき、2015年6月、文部科学省「私たちの道徳」活用のための指導資料。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）

	□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　特別活動の指導法　　授業コード：S5101

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・必修／児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
青木　美穂子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	特別活動の内容構成と教育的意義、特別活動の目標と基本的な性格、学級（ＨＲ）活動・児童会（生徒会）活動・学校行事・クラブ活動の目標･内容等を理解し、小･中・高等学校教師として、特別活動を指導できる資質や能力の育成を図る。
授業の概要	特別活動の内容構成と教育的意義、特別活動の目標と基本的な性格、学級（ＨＲ）活動・児童会（生徒会）活動･学校行事・クラブ活動の目標･内容等を講義やグループ協議を通して理解する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	オリエンテーション　特別活動とはどんな学習活動か 【key words】 思い出に残る特別活動　集団活動 【授業概要】 オリエンテーション、シラバス、学習活動としての集団活動の特質を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ８～１７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１８～２９ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
	第２回	特別活動の教育上の特性 【key words】 教科教育　課外活動　世界の学校　日本の学校教育　特別活動の位置づけ 【授業概要】 特別活動の教育上の特質を知り、これからの日本の学校教育における特別活動について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１８～２９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ３０～３８ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
	第３回	特別活動の目標と主な内容 【key words】 特別活動の目標　学級活動・ＨＲ活動　児童会活動･生徒会活動　クラブ活動　学校行事　国旗･国歌の取り扱い 【授業概要】 特別活動の目標と主な内容を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ３０～３８ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ３９～４６

【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第４回　特別活動の教育課程上の位置づけ
【key words】
各教科との関連　道徳教育との関連　総合的な学習の時間との関連　学級経営との関連　生徒指導･キャリア教育との関連
【授業概要】
特別活動の教育活動全体における意義を知り、各教科・外国語活動・道徳教育・総合的な学習の時間や学級経営・生徒指導･キャリア教育との関連を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ３９～４６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ４７～６４
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第５回　特別活動で教師に求められる力量
【key words】
教師の指導力　ガイダンスとカウンセリング　構成的グループエンカウンター　ＣＳＳ
【授業概要】
特別活動で教師に求められる力量について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ４７～６４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ６５～７５
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第６回　特別活動と学級経営　学級集団の心理学
【key words】
学習指導要領　学級風土　学級集団づくり
【授業概要】
特別活動と学級経営の関係を知り、学級集団の心理学について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ６５～７５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ７６～８７
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第７回　特別活動の全体計画と指導計画
【key words】
全体計画　年間指導計画　教師のリーダーシップ
【授業概要】
特別活動の全体計画と年間指導計画について知り、教師のリーダーシップの重要性を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ７６～８７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ８８～９７
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第８回　学級活動・ホームルーム活動とは
【key words】
学級活動　ホームルーム活動
【授業概要】
小・中学校における学級活動の目標や学習過程、内容や指導計画について理解する。
高等学校のホームルーム活動について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ８８～９７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ９８～１１５
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第９回　学級活動の指導の実際
【key words】
学級会　学年オリエンテーション　クラス会議　キャリア教育
【授業概要】
小中学校の学級活動の指導の実際を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ９８～１１５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１１６～１２１
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１０回　児童会・生徒会活動とは
【key words】
生徒会活動　児童会活動
【授業概要】
児童会活動・生徒会活動の成立と展開、目標と内容、指導計画、指導上の留意点を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１１６～１２１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１２２～１３２
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

	第１１回　児童会･生徒会活動の指導の実際 【key words】 指導計画　指導内容　荒れの見られる集団 【授業概要】 児童会･生徒会活動の児童計画や指導内容を知り、指導の実際について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１２２～１３２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１３３～１４５ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１２回　クラブ活動の内容と指導の実際 【key words】 クラブ活動　位置づけ　年間指導計画　部活動 【授業概要】 クラブ活動の内容と指導の実際を理解する。また、荒れの見られる集団で行うクラブ活動や部活動の指導のポイントも理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１３３～１４５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１４６～１５２ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１３回　学校行事とは 【key words】 学校行事　内容　指導計画 【授業概要】 学校行事の目標や学習過程、内容について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１４６～１５２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１５３～１６１ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１４回　学校行事の指導の実際 【key words】 指導のポイント　指導事例 【授業概要】 学校行事の指導の実際を理解する 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１５３～１６１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１６２～１７３ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１５回　特別活動における評価　まとめ 【key words】 評価の意義　評価の方法　評価の具体 【授業概要】 特別活動における評価の意義や方法を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１６２～１７３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 試験に向けてまとめ 【予習復習に必要な想定時間】 ５時間
受講生に関わる情報および受講のルール	誠意ある態度での受講を求めます。講義や実習等を妨げる態度や私語を慎んで下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業中に指示します。
オフィスアワー	授業終了後３０分
評価方法	定期試験（８０％）　授業態度（２０％）を総合して評価します。
教科書	河村茂雄編著　特別活動の理論と実際　図書文化　２，２００円＋税
参考書	小･中･高等学校学習指導要領　特別活動編（文部科学省）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 公立小・中学校の教諭経験　公立小学校の管理職経験 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション

	□実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　生徒指導・進路指導の理論と方法　　授業コード：S5131

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・必修／児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
青木　美穂子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	いじめ、不登校、自殺、体罰、暴力、万引き等の問題行動を示す児童生徒をはじめとして、規範意識の低下、人間関係の希薄化等、様々な課題が学校教育にはある。教師としてこれらの生徒指導上の諸課題に適切に対応できる基礎的･基本的な資質･能力を備えた教師の育成を図ることを目的としている。
授業の概要	小･中･高校教諭として求められる生徒指導に関する基礎的知識や援助・指導方法等について、講義やグループワーク、話し合いを通して習得する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	生徒指導とは 【key words】 生徒指導　日本の学校教育の特徴 【授業概要】 日本の学校教育の特徴を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１０～２１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ２２～３５ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
	第２回	現代の子どもとこれからの生徒指導 【key words】 発達課題　対人関係 【授業概要】 子どもの発達課題や対人関係の変化を知り、現代の子どもとこれからの生徒指導のあり方を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ２２～３５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ３６～６１ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
	第３回	教育活動における生徒指導 【key words】 教育活動　子どもの理解　資料 【授業概要】 学習指導と生徒指導の関係を知り、教育活動における生徒指導の重要性を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ３６～６１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ６２～７３

【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第４回　生徒指導体制と組織的な取組
【key words】
学級担任　教科担任　校務分掌　年間指導計画
【授業概要】
学級担任や教科担任等の校務分掌を知り、生徒指導体制の確立と組織的な取組の重要性を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ６２～７３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ７４～８１
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第５回　生徒指導に関する主な法令
【key words】
法令　懲戒　校則　体罰　中途退学
【授業概要】
生徒指導に関する主な法令を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ７４～８１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ８２～９９
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第６回　進路指導･キャリア教育とは
【key words】
進路指導　キャリア教育
【授業概要】
進路指導・キャリア教育の内容と指導の実際を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ８２～９９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１００～１１３
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第７回　現代の子どもを取り巻く問題
【key words】
社会の変化　子どもの変化
【授業概要】
現代の子どもを取り巻く生徒指導上の課題を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１００～１１３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１１４～１２５
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第８回　不登校の理解と対応
【key words】
不登校
【授業概要】
不登校の現状と対応についての理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１１４～１２５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１２６～１４１
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第９回　いじめの理解と対応
【key words】
いじめ　実態調査
【授業概要】
いじめの全般的傾向を知り、対応についての理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１２６～１４１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１４２～１５９
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１０回　非行の理解と対応
【key words】
非行　対応事例
【授業概要】
非行の理解と対応について知る。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１４２～１５９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１６０～１７３
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１１回　学級崩壊･授業崩壊の理解と対応

	【key words】 学級崩壊　授業崩壊　予防 【授業概要】 学級集団が崩壊する際の学校種ごとの特徴を知り、学級崩壊や授業崩壊を予防する指針を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１６０～１７３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１７４～１８３ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１２回　家庭･地域･関係機関との連携 【key words】 地域社会　関係機関　教育センター 【授業概要】 地域社会と学校との関係を知り、家庭･地域･関係機関とのよりよい連携を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１７４～１８３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１８４～１９７ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１３回　特別支援教育と生徒指導 【key words】 特別支援教育　障害特性 【授業概要】 特別支援教育における生徒指導のあり方を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１８４～１９７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書１９８～２０９ 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回　進路指導・キャリア教育の展開 【key words】 進路指導　キャリア教育　ガイダンス　ポートフォリオ 【授業概要】 ガイダンスの機能を生かした進路指導･キャリア教育のあり方を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１９８～２０９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ２１０～２１７ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１５回　高等学校中途退学問題の理解と対応　まとめ 【key words】 中途退学 【授業概要】 高等学校教育に内在する諸問題を知り、中途退学の現状と相談･指導のポイントを理解する。 試験に向けてのまとめ 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ２１０～２１７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 試験に向けてまとめ 【予習復習に必要な想定時間】 ５時間
受講生に関わる情報および受講のルール	誠意ある態度での受講を求めます。講義や実習等を妨げる態度や私語を慎んで下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業中に指示します。
オフィスアワー	授業終了後３０分
評価方法	定期試験（８０％）　授業態度（２０％）を総合して評価します。
教科書	河村茂雄編著　生徒指導･進路指導の理論と実際　図書文化　２，２００円＋税
参考書	小･中･高等学校学習指導要領（文部科学省）　生徒指導提要（文部科学省）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 公立小･中学校教諭　公立小学校管理職 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク

	□アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　総合的な学習の時間の指導法　　授業コード：S5135

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・初等教育コース・選択
担当教員			
青木　美穂子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	総合的な学習の時間の特徴である、探求的な見方･考え方･総合的･横断的な学習の仕方を理解し、各教科等の見方･考え方を総合的に活用して、児童生徒一人一人の豊かな学びの実現に向けた指導力を身に付ける。
授業の概要	小学校･中学校･高等学校の各学校段階における総合的な学習の時間に必要な知識･技能（学習指導要領･解説の理解、年間指導計画･単元計画の作成、各教科等の関連性、評価方法等）を身に付ける。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画		
	第１回	オリエンテーション　　進化し、教育課程の中核を担う総合的な学習の時間 【key words】 アクティブ･ラーニング　学びの地図　カリキュラムデザイン 【授業概要】 教育課程の中核を担う総合的な学習の時間の重要性を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ８～１５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１６～２１ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
	第２回	資質･能力の三つの柱と目標の改訂 【key words】 三つの柱　横断的・総合的　探求 【授業概要】 改訂された資質･能力の三つの柱と目標を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１６～２１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ２２～２７ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
	第３回	目標と内容のポイント 【key words】 総合的な学習の時間の目標と内容　資質･能力 【授業概要】 同号的な学習の時間の目標と内容を理解し、育成を目指す資質・能力を知る。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ２２～２７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ２８～３１ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
	第４回	他教科等で育成を目指す資質･能力との関連　日常生活や社会との関わりの重視

【key words】
他教科との関連　日常生活とのかかわり
【授業概要】
他教科等で育成を目指す資質･能力との関連を理解する。
日常生活や社会との関わりを重視していることを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ２８～３１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ３２～４１
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第５回　探求課題の解決
【key words】
探求課題　横断的･総合的な課題　地域や学校の特色　興味・関心
【授業概要】
横断的･総合的な課題や地域や学校の特色に応じた課題等、探求的な課題について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ３２～４１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ４２～５５
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第６回　指導計画
【key words】
全体計画　年間計画　単元計画
【授業概要】
全体計画や年間計画･単元計画について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ４２～５５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ５６～６５
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第７回　学習指導（比較･分類、ＩＣＴ活用、体験活動）
【key words】
比較･分類　ＩＣＴ　体験活動
【授業概要】
比較･分類、関連図蹴る技法の活用やＩＣＴの活用、体験活動の充実等の指導方法を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ５６～６７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ６８～８３
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第８回　学習指導（指導体制・地域教材･学習環境の活用、調査活動、プログラミング）
【key words】
指導体制」地域教材　プログラミング
【授業概要】
指導体制の工夫や地域教材の活用、調査活動やプログラミング体験の充実等の指導方法を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ６８～８３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ８４～９３
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第９回　評価
【key words】
評価の基本　児童の評価　教師の評価　指導計画の評価
【授業概要】
評価の基本や児童の評価、教師の評価、指導計画の評価等を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ８４～９３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ９４～１１１
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１０回　新授業プラン（３年生）　授業プラン作成の計画
【key words】
授業プラン（３年生）
【授業概要】
３年生の授業プラン例を学習し、自分の授業プラン作成の計画を立てる。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ９４～１１１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１１２～１２９
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１１回　新授業プラン（４年生）
【key words】
授業プラン（４年生）
【授業概要】

	４年生の授業プラン例を学習し、自分の授業プランの作成に取りかかる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１１２～１２９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１３０～１４７ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１２回　新授業プラン（５年生） 【key words】 授業プラン（５年生） 【授業概要】 ５年生の授業プラン例を学習し、自分の授業プランの作成を進める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１３０～１４７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１４８～１６５ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１３回　新授業プラン（６年生） 【key words】 授業プラン（６年生） 【授業概要】 ６年生の授業プラン例を学習し、自分の授業プランの作成をまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１４８～１６５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 中学校教科書Ｐ１１２～１６５ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１４回　新授業プラン（中学生） 【key words】 授業プラン（中学生） 【授業概要】 中学１・２・３年生の授業プラン例を学習し、自分の学習プラン作成を仕上げる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１１２～１６５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 まとめ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１５回　授業プラン発表 【key words】 授業プラン発表 【授業概要】 作成した授業プランの発表する。 発表を聞いて互いに学びあう。 【教科書ページ・参考文献】 まとめ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 まとめ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
受講生に関わる情報および受講のルール	誠意ある態度での受講を求めます。講義や実習等を妨げる態度や私語を慎んで下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業中に指示します。
オフィスアワー	授業終了後３０分
評価方法	レポート（授業プラン）作成と発表（８０％）　授業態度（２０％）を総合して評価します。
教科書	田村学編著　小学校新学習指導横領の展開　総合的な学習　明治図書　１８００円＋税
参考書	小･中･高等学校学習指導要領　総合的な学習の時間編　文部科学省
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 公立小･中学校教諭　公立小学校管理職 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育

	■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　特別支援教育論　　授業コード：S5421　S5422

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・初等教育コース・選択
担当教員			
小林　義信・鈴木　淳			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害等、様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童、生徒の授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるようう、子供たちの学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な基礎的な知識や支援方法を理解する。
授業の概要	テキストをもとに、特別支援教育の制度、内容、発達障害等の障害特性、通常学校における特別支援教育、学級経営、生活指導、授業づくり、教育課程、個別の教育支援計画、個別の指導計画、特別支援教育コーディネーターの役割、家庭や地域との連携、支援体制、外国籍の児童生徒等への支援について学習する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画

第1回　オリエンテーション、本講義の目的　特別支援教育の概要

【key words】
特別支援教育、重複障害、盲聾、点字。指文字
【授業概要】
オリエンテーションを受けることで本講義の概要、目的、評価方法等を理解し、各自の学修の見通しをもつ。重複障害教育の実践映像を視聴することで、特別支援教育の実際に触れる。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
シラバスや教科書の目次等を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
受講のルール参照

第2回　特別支援教育の変遷　　統合教育　　インクルーシブ教育　　特別支援教育の現行制度

【key words】
特別支援教育の理念　統合教育　　インクルーシブ教育　　特別支援学校　特別支援学級　通級指導教室
【授業概要】
教科書の内容を中心に説明をしていく。その過程で、必要に応じて学生に質問をし、理解度を確認する。キーワードについては、内容を理解し説明できるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P10～P23
【課題・予習・復習・授業準備指示】
シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、内容を確認しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
受講のルール参照

第3回　障害特性の理解と学習指導・生活指導①　視覚障害

【key words】
視機能　盲　弱視　触覚特性　ブラインディズム
【授業概要】
視覚の生理と病理、視機能、盲と弱視、視覚障害児の心理特性、視覚障害児に対する教科指導と生活指導の基本的な配慮事項 について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P152～P165
【課題・予習・復習・授業準備指示】
シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、説明できるようにしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
受講のルール参照

第4回　障害特性の理解と学習指導・生活指導②　聴覚・言語障害
【key words】
ことばの鎖　言語習得　speechとlanguage　構音障害　吃音
【授業概要】
聴覚・言語の生理と病理、言語発達、聴覚・言語障害の臨床類型、聴力レベルと聴覚保障、聴覚・言語障害児の言語と心理、聴覚・言語障害児に対する教科指導と生活指導の基本的な配慮事項 について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P166～P181、P134～P151
【課題・予習・復習・授業準備指示】
シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、説明できるようにしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
受講のルール参照

第5回　障害特性の理解音と学習指導・生活指導③　肢体不自由(運動機能障害)、摂食嚥下障害
【key words】
姿勢　運動　感覚　摂食嚥下　リスク管理
【授業概要】
四肢・頭頚部体幹、運動と感覚の生理・病理、運動発達、肢体不自由児の心理特性、肢体不自由児に対する教科指導と生活指導の基本的な配慮事項、摂食嚥下障害における食事介助とリスク管理 について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P182～P195
【課題・予習・復習・授業準備指示】
シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、説明できるようにしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
受講のルール参照

第6回　障害特性の理解音と学習指導・生活指導④　知的障害
【key words】
IQ　社会適応行動 知的発達　運動発達　重複障害
【授業概要】
知的精神活動と大脳機能、AAIDD(旧AAMR)による知的障害の定義、知的障害児の心理特性、知的障害児に対する教科指導と生活指導の基本的な配慮事項 について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P210～P219
【課題・予習・復習・授業準備指示】
シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、説明できるようにしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
受講のルール参照

第7回　障害特性の理解音と学習指導・生活指導⑤　病弱・身体虚弱(内部障害)
【key words】
学習空白　自己管理支援　自尊感情　医療的ケア　特定行為
【授業概要】
代表的な内部障害の病態とそれに伴う生活制限、病弱・身体虚弱児の心理特性、病弱・身体虚弱児に対する教科指導と生活指導の基本的な配慮事項、特別支援教育における医療的ケア について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P196～P209
【課題・予習・復習・授業準備指示】
シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、説明できるようにしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
受講のルール参照

第8回　障害特性の理解音と学習指導・生活指導⑥　発達障害、情緒障害
【key words】
発達障害者支援法　学習障害　注意欠陥多動性障害　自閉症スペクトラム障害　情緒障害
【授業概要】
発達障害者支援法、発達障害の臨床特性(LD、ADHD、ASD)、発達障害児に対する教科指導と生活指導の基本的な配慮事項、情緒障害の特徴と教育的・福祉的配慮事項 について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P78～133
【課題・予習・復習・授業準備指示】
シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、説明できるようにしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
受講のルール参照

第9回　障害はないが特別な教育ニーズがある子どもたちの学習上または生活上の困難とその対応
【key words】

		外国につながる子ども、国籍、就学義務　日本語教室　絶対的貧困　相対的貧困　子どもの権利条約　児童相談所　虐待 【授業概要】 教科書の内容を中心に説明をしていく。その過程で、必要に応じて学生に質問をし、理解度を確認する。キーワードについては、内容を理解し説明できるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P220～P235 【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、内容を確認しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 受講のルール参照
	第10回	特別支援学校における教育の仕組みとその実際（教育課程　各教科・各教科等を合わせた指導　自立活動）① 【key words】 特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱）　障害の程度と特性、特別支援学校の教育課程 【授業概要】 教科書の内容を中心に説明をしていく。その過程で、必要に応じて学生に質問をし、理解度を確認する。キーワードについては、内容を理解し説明できるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P46～P52 【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、内容を確認しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 受講のルール参照
	第11回	特別支援学校における教育の仕組みとその実際（教育課程　各教科・各教科等を合わせた指導　自立活動）①　　自立活動　② 【key words】 準ずる教育、特別な教育課程　生活科　日常生活の指導　遊びの指導　生活単元学習　作業学習　自立活動　特別支援教育のセンター的機能 【授業概要】 教科書の内容を中心に説明をしていく。その過程で、必要に応じて学生に質問をし、理解度を確認する。キーワードについては、内容を理解し説明できるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P51～P58 【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、内容を確認しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 受講のルール参照
	第12回	個別の教育支援計画及び個別の指導計画　作成の意義と方法 【key words】 個別の教育支援計画　個別の指導計画　関係機関との連携　教育目標　手立て　評価 【授業概要】 教科書の内容を中心に説明をしていく。その過程で、必要に応じて学生に質問をし、理解度を確認する。キーワードについては、内容を理解し説明できるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P28～P31 【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、内容を確認しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 受講のルール参照
	第13回	小・中学校における特別支援教育の仕組（特別支援教育コーディネーター　関係機関・家庭との連携） 【key words】 特別支援学校のセンター的機能　特別支援教育コーディネーター　発達障害（LD、ADHD、広汎性発達障害） 【授業概要】 教科書の内容を中心に説明をしていく。その過程で、必要に応じて学生に質問をし、理解度を確認する。キーワードについては、内容を理解し説明できるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P24～P33、P58～P59 【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、内容を確認しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 受講のルール参照
	第14回	特別支援学級や通級による指導の仕組みとその実際 【key words】 特別支援学級　通級による指導　対象とする障害種　教育課程　自立活動 【授業概要】 教科書の内容を中心に説明をしていく。その過程で、必要に応じて学生に質問をし、理解度を確認する。キーワードについては、内容を理解し説明できるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P36～P45 【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、説明できるようにしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 受講のルール参照

	第15回　　まとめ 【key words】 行動の理解と対応 【授業概要】 提示された事例をもとに、事例が示す行動の理解とその対応について考え、レポートにまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 シラバスを読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。これまでの学修を整理し、特別な支援を必要とする子どもへのかかわりのポイントを確認しておく。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 受講のルール参照
受講生に関わる情報および受講のルール	1　教科書を事前に読んで予習をしておくこと。（1時間程度） 2　学修の過程でに生じた疑問等は積極的に質問して、内容理解に努める。 3　授業後復習することで内容理解に努める。　（1時間程度） 4　やむを得ず授業を欠席する場合には、メール等で必ず講師に連絡する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	授業中に質問できなかった事項については、コメントカードやメール等を利用して早めに担当教員にコンタクトを取り、疑問のまま放置しない。学習の進捗状況については、コメントカード、授業中の質問、ワークシート等で確認する。
授業外時間にかかわる情報	1　特別支援教育に関する情報を日頃から新聞記事やインターネット等で収集に努める。
オフィスアワー	小林　火・水　（17:00～18:00）　2号館 2階 高等教育支援センター室 鈴木淳　水　（17:00～19:00）　1号館 2階 204研究室
評価方法	レポート　30%　　試験　70%
教科書	大塚玲編著　「教員をめざすための特別支援教育入門」萌文書林
参考書	湯浅恭正編　「よくわかる特別支援教育」第2版　ミネルヴァ書房 文部科学省　特別支援学校　幼稚部教育要領、小学部・中学部学習指導要領 河合康・小宮三弥編著　「わかりやすく学べる特熱支援教育と障害児の心理・行動特性」北樹出版
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 （小林） 群馬県立の特別支援学校（知的特別支学校・肢体不自由特別支援学校）での教諭としての勤務年数31年間、教頭としての勤務年数2年間、副校長としての勤務年数1年間、校長としての勤務年数3年間をもとに、特別支援学校における教育実習の基礎的知識（教育実習の意義、学校組織、生徒理解、学習指導案の作成、授業研究の仕方等）について指導する。 （鈴木） 主に大学病院等で言語聴覚士として、乳幼児から高齢者まで広くリハビリテーション臨床に37年間従事してきた実務経験を有する。これには、機能回復訓練習（治療）の他、家族支援、就学・復学・復職支援、多職種連携等含む。また、特別支援教育コーディネーターと協働して支援対象幼児・児童・生徒および担任教諭への専門アドバイスも行ってきた。大学では障害学生学修支援室支援コーディネーター教員も兼任している。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： カウンセリング（心理演習）　　授業コード：S3182

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・児童福祉コース・初等教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
植原　美智子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［授業の目標］ 　社会福祉士や精神保健福祉士、公認心理師に代表される対人援助職の援助技法として，カウンセリング技法やアセスメント結果、支援計画の伝達等の基本的技能と研鑽の方法についてロールプレイを通じて理解し，一定の水準で技法を意図的に使用できるようになること。 ［到達目標］ ①カウンセリングにおける「聴くこと」に関する基礎的な技能を修得すること。 ②対人援助場面における「伝えること」に関する基礎的な技能を修得すること。 ③自分の「聴き方」「伝え方」の特徴を把握し，その振り返りと自己研鑽の計画が立てられるようになること。
授業の概要	対人援助において、目の前の相手との間に信頼関係を築き、その語りに耳を傾け、求めている援助ニーズを的確に捉え、支援計画や情報を伝えることは重要な課題である。本講義では、こうしたコミュニケーションの基本的な技法について確認した上で、カウンセリングの中核である「聴くこと」と「伝えること」の実践的なトレーニングを行う。講義は演習とロールプレイを中心に進める予定であり、受講生間でのロールプレイの実施、振り返り、記録の作成を通じて技能の習得を目指す。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	科目オリエンテーションと授業契約及びカウンセリングとは 【key words】 カウンセリングの技法、理論的背景 【授業概要】 ・講師および授業内容の紹介、成績評価の説明 ・これまでに学んでいる相談援助技術と「カウンセリング技法」との関連について理解し、この授業での学びについてイメージを深める。 ・グループワーク等の試行。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p1-12. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分
	第２回	カウンセリング技法の理論的背景・効果・機能するための条件 【key words】 カウンセリング技法の大別、人間性中心理論、社会的影響条件 【授業概要】 カウンセリングの技法の理論的背景、技法に期待される効果、技法がその機能を発揮するための条件について理解する。 【教科書ページ・参考文献】

教科書：p1-12.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第３回　クライエントの観察技法
【key words】
身振り、表情、生理反応や容姿、声と話し振り、スペースと時間
【授業概要】
カウンセリングの基盤となるクライエントの観察技法について、非言語要素ごとの特徴とその検討について講義と演習を通じて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p13-23.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第４回　傾聴技法①全体説明と明確化
【key words】
傾聴技法、理解とフィードバック、ラポール形成、明確化
【授業概要】
カウンセリング技法の中心となる傾聴技法の目的を理解し、傾聴技法についてイメージを持つ。また、明確化技法についての講義・演習を行う。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：p25-30
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第５回　傾聴技法②明確化と感情反映
【key words】
明確化、感情反映、感情と生理的変化、感情の背景にある動機と欲求
【授業概要】
傾聴技法「明確化」と「感情反映」について講義・演習を通じて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p27-35.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第６回　傾聴技法③言い換えと要約
【key words】
思考と事実、発言の簡略化、フィードバック、意図的
【授業概要】
傾聴技法とは何か、聴き方の基礎技術を学ぶ。その上で、傾聴技法「言い換え」と「要約」について講義・演習を通じて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p35-40.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第７回　カウンセリング技法の訓練方法
【key words】
ロールプレイ、スキル、模倣学習、抵抗の処理
【授業概要】
カウンセリング技法の訓練方法について講義と演習を通じて理解を深める。さらに、いくつかの技法をロールプレイにおいて、繰り返し使ってみる。カウンセリングにおける有効な技法とは何か、技法を効果的にするカウンセラーの態度とはどのようなものか、体験的に学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp129-139.
参考書：氏原寛・藤田博康（2014）「ロールプレイによるカウンセリング訓練のかんどころ」創元社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第８回　カウンセリング技法を実践・振り返る①傾聴技法
【key words】
ロールプレイ、明確化、感情反映、言い換え、要約
【授業概要】
これまでに取り上げた4つの傾聴技法を用いた模擬面接（ロールプレイ）を受講生間で実施し、傾聴技法の理解の度合いについて知識と実践から振り返る。クライエントのあいまいな思考や感情・行動・態度をはっきりさせていく明確化によって、カウンセラーの理解をクライエントに確認することを体験する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書p25-40
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第９回　活動技法①探索と矛盾提示
【key words】
活動技法、探索（開放型／閉鎖型）、情報収集、クライエントの言動の不一致
【授業概要】
傾聴技法によるラポール形成の次の段階であるクライエントのより深い理解を目的としたカウンセリング技法として、4つの活動技法を学ぶ。また、この4つの活動技法のうち，探索と矛盾提示を取り上げ、演習を通じて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p41-49
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第１０回　活動技法②解釈と情報提供
【key words】
高度な共感、仮説の提起、心理教育、意図的応答
【授業概要】
活動技法はクライエントに深い洞察や情報を与えることを目的としている。探索・矛盾提示・解釈・情報提示の4技法を使うことにより、クライエントが認識しない感情、行動のパターを明らかにすることができる。本講義では活動技法の「解釈」と「情報提供」について講義・演習を通じて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p49-58
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第１１回　カウンセリング技法を実践・振り返る②傾聴技法と活動技法
【key words】
ロールプレイ、傾聴技法、活動技法
【授業概要】
これまでに取り上げた傾聴技法と活動技法を用いた模擬面接（ロールプレイ）を受講生間で実施し、それぞれの技法の理解について実践から振り返る。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p25-40，41-58
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第１２回　さまざまなカウンセリング技法
【key words】
リフレーミング、語調反射、自己開示、反復、沈黙
【授業概要】
これまでに学んだ傾聴技法、活動技法には分類されていない技法について、講義と演習を通じて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p59-80
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第１３回　模擬面接①実施
【key words】
傾聴技法、活動技法、観察技法
【授業概要】
これまでに講義で取り上げた技法について各自の目標を設定し、模擬面接を行う。
【教科書ページ・参考文献】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実施した模擬面接の振り返り（例：逐語録またはワークシートなど）の完成
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第１４回　模擬面接②振り返り
【key words】
傾聴技法、活動技法、観察技法
【授業概要】
前回行った模擬面接の振り返りについてグループディスカッションを行う。グループで話し合った結果を報告し、フィードバックを受ける。
【教科書ページ・参考文献】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終

	了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 適宜指示 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分 第１５回　まとめ 【key words】 傾聴技法、活動技法、観察技法 【授業概要】 全15回講義の振り返りを行う。分析的理論による技法、実存・人間主義的理論による技法、認知理論による技法、行動理論による技法、システム理論による技法、特定の障害の治療を目的とした技法などの総括を行う。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 定期試験に向けて復習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・受講生間でロールプレイやグループワークを行う講義であるため，遅刻／欠席については厳密に連絡を行うこと。 ・携帯電話やタブレット端末等は講義中、指示があった場合を除き、原則として使用しないこと。個別の事情がある場合には、各回の講義開始前に申し出ること。 ・教科書以外に、補助教材としてプリントを配布することが多いため、前述の課題とあわせて各自でA4版のフラットファイル等を用いて保管することが望ましい。 〔受講のルール〕 ・教科書を毎回持参すること。 ・遅刻／欠席については大学のルールに則り，事務局に講義開始前に連絡すること。 ・受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。 ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ，配布資料やワークシートの再配布を行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・参考図書や関連書籍を読み、授業内に解説したキーワードについて理解を深めること。 ・各授業の学習成果を確認するため，小レポートやミニテストを適宜行う予定である。復習をしっかりしておくこと。 ・各回の演習内容の振り返りをレポートとして課すため，授業内の指示に留意すること
オフィスアワー	火曜日　15:00～18:00 これ以外の時間は応相談
評価方法	■定期試験50%　■ミニテスト30%　■事前学習10%　■レポート課題の提出10%
教科書	大谷 彰（著）　カウンセリングテクニック入門 二瓶社（2004）.
参考書	氏原 寛・藤田博康（著）　ロールプレイによるカウンセリング訓練のかんどころ 創元社（2014）.
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 臨床心理士・公認心理師として、精神科病院における心理面接・心理療法・心理アセスメント等の心理担当職員、教育機関のスクールカウンセラー、児童養護施設における心理療法担当職員など20年の実務経験を活かし，公認心理師・臨床心理士に必要な知識・技術・価値・倫理について講じる。また社会福祉士としてソーシャルワークにおける心理的援助について講じる。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ■コメントカードの実施。授業後、コメントカードを記入してもらい次回の授業で全員に説明する（質問提供者は匿名、授業の質問のほかに希望すること、問題点など）。 ■授業は基本的に双方向型。次回の授業についての事前学習をして授業に臨み、各グループでま

	とめ、代表者が発表する。コメントをもらう。

講義科目名称： 発達心理学特講（健康・医療心理学）　　授業コード：S3331

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	福祉心理コース
担当教員			
植原　美智子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［授業の目標］ わが国では多くのメンタルヘルスの問題を抱えており、その解決は日本社会全体の重要な課題である。医療・保健領域におけるチーム医療に参加する場合は言うまでもなく、福祉や教育などの他領域においても、適切な実践活動をするためには、精神医療の基本的な知識は必須である。心理学を健康づくりに応用するために、医療ではどのような視点が必要なのかを学ぶ。 ［到達目標］ ①健康心理学、医療心理学の特徴を説明することができる。 ②地域での心理学的視点での支援を理解できる。 ③多職種協働における患者中心の連携システムの特徴を説明できる。 ④生物・心理・社会的アセスメントの概略を説明できる。
授業の概要	主に保健医療関連分野における予防、治療、リハビリテーションに関する心理的支援を行うために必要となる心理学の基礎知識とその実践について理解することを目指す講義である。 ディスカッション：調べてきた内容・用語をグループで他者に説明し合う。また、違いや共通する側面について議論し、代表者が発表し、全体で共有することを授業の基本とする。 ミニテスト：授業の冒頭に前回授業内容のミニテストを実施して理解度を確認する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　　科目オリエンテーション　及び健康心理学 【key words】 生活習慣病、疾病予防、行動変容、一字・二次・三次予防、健康日本21 【授業概要】 【講義の進め方】 ①出席の確認 ②ミニテスト ③テーマの確認 ④テーマについて、グループディスカッション ④次回までの課題提示(レポート等) 【講義の概要】 健康とは、心身両面の健やかさに留まらず、社会情勢や信仰などの個人の信念まで含めて、良好な状態を指す。我が国においても、国民の健康を保持増進する目的から、我が国固有の医療保険制度を確立してきた。その制度の維持等、を含めて健康と医療とは何かを考える。 【授業の目標】 保健医療領域における公認心理師の役割は今後ますます期待されてくる。医学・心理学における正確な知識とそれに基づくアセスメント、心理支援の方法を習得することは重要なカリキュラムである。ここでは、その基本となる予防、心理相談、アセスメント、再発予防、リハビリテーションを柱として、チーム医療の流れを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 健康・医療心理学　pp6-16　資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範

		囲を学習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２回	健康心理学におけるアセスメントと支援 【key words】 健康行動変容、計画行動理論、社会認知理論、認知行動療法 【授業概要】 目標 ■健康心理学におけるアセスメントの特性について理解する。 ■計画行動理論とそのアセスメントについて学ぶ。 ■社会的認知理論とそのアセスメントについて説明できるようにする。 ディスカッション：調べてきた用語をグループで話し合い代表者が発表する。 【教科書ページ・参考文献】 健康・医療心理学　pp17-28 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第３回	ストレスマネジメント 【key words】 ストレス、コーピング、トランスアクショナル・モデル、ストレスマネジメント 【授業概要】 目標 ■ストレスの成立プロセスを理解し説明できる。 ■コーピングの種類を説明できる。 ■ストレスと心身の疾病との関係を説明できる。 ディスカッション：調べてきた用語を他者に説明し合う。グループで議論し、代表者が発表する。 【教科書ページ・参考文献】 健康・医療心理学　pp29-38 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第４回	各種の心理支援法 【key words】 リラクセーション法、漸進的筋弛緩法、自律訓練法、腹式呼吸、エクスポージャー療法、アクセプタンス＆コミットメントセラピー、多職種協働 【授業概要】 目標 ■リラクセーション法の機序と効果を説明できる。 ■エクスポージャー療法の機序と効果を説明できる。 ■健康心理学的多職種協働について理解し、具体例を述べることができる。 ディスカッション：調べてきた用語を他者に説明し合う。グループで議論し、代表者が発表する。 【教科書ページ・参考文献】 健康・医療心理学　pp39-53 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第５回	医療心理学 【key words】 チーム医療、他職種との連携、個別支援、医療制度、ライフステージ 【授業概要】 目標 ■医療機関での心理職の役割を説明できる。 ■診断の意味を理解できる。 ディスカッション：調べてきた用語を他者に説明し合う。グループで議論し、代表者が発表する。 【教科書ページ・参考文献】 健康・医療心理学　pp56-66 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第６回	医療心理学におけるアセスメントと支援 【key words】 面接、テストバッテリー、心理検査、生物・心理・社会的アセスメント 【授業概要】 目標 ■面接によるアセスメントの概略を説明できる。 ■テストバッテリーを説明できる。 ディスカッション：調べてきた用語を他者に説明し合う。代表者が発表する。 【教科書ページ・参考文献】 健康・医療心理学　pp.67-81 【課題・予習・復習・授業準備指示】

		講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第７回	精神科・児童精神科 【key words】 精神科医療、精神疾患、コンサルテーション、リエゾン、精神科リエゾンチーム 【授業概要】 目標 ■精神科医療の領域・疾患・心理支援について説明できる。 ■精神科における心理臨床とコンサルテーション、及びコンサルテーション・リエゾンの違いを説明できる。 ディスカッション：調べてきた用語をグループで議論し、代表者が発表する。 【教科書ページ・参考文献】 健康・医療心理学　pp63-101 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第８回	院内独立型心理室 【key words】 総合病院、独立型審理室、コンサルテーション・リエゾン精神医学、力動的アセスメント 【授業概要】 目標 ■独立型心理室の支援について理解し、説明できる。 ■心理支援に必要な職能について理解し、説明できる。 グループで議論し、代表者が発表する。 【教科書ページ・参考文献】 健康・医療心理学　pp102-112 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第９回	心療内科 【key words】 心療内科、心身相関、心身症の発症、心身医学的アセスメント、心身症の治療 【授業概要】 目標 ■心身症について説明できる。 ■心身相関について説明できる。 ■心身症の発症機序と心身医学的心理療法について説明できる。 事前に用語調べをして当日はグループでディスカッションする。グループで議論し、代表者が発表する。 【教科書ページ・参考文献】 健康・医療心理学　pp113-125 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１０回	小児科（母子保健含む） 【key words】 小児科疾患、周産期の心理支援、NICU、周産期母子医療センター 【授業概要】 目標 ■小児科でのチーム医療の特徴を説明できる。 ■周産期医療について説明できる。 ディスカッション：調べてきた用語を他者に説明し合う。 【教科書ページ・参考文献】 健康・医療心理学　pp127-140 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１１回	緩和医療 【key words】 緩和医療、全人的苦痛、がん対策基本法、対象喪失、悲嘆の過程 【授業概要】 目標 ■緩和医療について説明できる。 ■対象喪失に伴う心理過程、悲嘆の過程について理解し、説明できる。 ディスカッション：調べてきた用語を他者に説明し合う。グループで議論し、代表者が発表する。 【教科書ページ・参考文献】 健康・医療心理学　pp141-147 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】

	90分 第１２回　産業保健 【key words】 労働者の心の健康、ストレス関連疾患、セルフケア、ストレスチェック制度 【授業概要】 目標 ■産業保健について説明できる。 ■産業保健領域の疾患と心理支援について説明できる。 ディスカッション：調べてきた用語をグループで議論し、代表者が発表する。 【教科書ページ・参考文献】 健康・医療心理学　pp150-157 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第１３回　地域保険活動の実際 【key words】 社会資源、多職種連携、地域機関連携、生活支援、ケア会議 【授業概要】 目標 ■地域で暮らす人々のニーズを把握できる。 ■地域での相談活動の進め方を理解できる。 ディスカッション：調べてきた用語をグループで議論し、代表者が発表する。 【教科書ページ・参考文献】 健康・医療心理学　pp164-185 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第１４回　災害心理学 【key words】 急性ストレス障害、外傷後ストレス障害、PFA、フラッシュバック、ストレスマネジメント 【授業概要】 目標 ■急性ストレス障害、外傷後ストレス障害を説明できる。 ■災害時の心理状態の変化と心理的ケアについて説明できる。 ■心理的応急措置（PFA）の活動内容を述べることができる。 ディスカッション：調べてきた用語を他者に説明し合う。グループで議論し、代表者が発表する。 【教科書ページ・参考文献】 健康・医療心理学　pp188-198 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第１５回　多職種協働と医療連携 【key words】 チーム医療、キーパーソン、多職種協働、スペシャリティ・ジェネラリティ、患者中心 【授業概要】 目標 ■臨床チームワークについての歴史的の経緯を説明できる。 ■チーム医療の重要性を理解しチーム医療について説明できる。 ディスカッション：調べてきた用語をグループで議論し、代表者が発表する。 【教科書ページ・参考文献】 健康・医療心理学　pp212-22　資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
受講生に関わる情報および受講のルール	［受講生に関わる情報］ ・受講に際しては、「心理学理論と心理的支援」「臨床心理学（社会福祉専攻）」の授業を受講済みであることが望ましい。 ・予習、復習をしっかり行い、授業への理解度を高めること。 ・授業の予習をしてまとめたレポートは提出する。 ・授業では、調べた内容をグループで話し合い、代表者が発表する。 ・各授業の学習成果を確認するため，授業の冒頭にミニテストを実施する。 ［受講のルール］ ・授業には，遅刻、居眠り、忘れ物、私語、等をせずに、目的意識を持ち、集中して臨むこと。 ・他の受講生の迷惑になる行為はしないこと。 ・授業に関係のない物は鞄の中にしまうこと。各自の諸事情により、机上に出す必要のある物に関しては、あらかじめ担当教員に申し出ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・新聞、ニュースなどで関連事項をチェックしておき、各自の意識を高めること。 ・参考図書や関連書籍を読み、授業内に解説したキーワードについて理解を深めること。

	・各授業の学習成果を確認するため，小レポートやミニテストを適宜行う予定である。復習をしっかりしておくこと。
オフィスアワー	火曜日：15:00～18:00　　これ以外は応相談
評価方法	■定期試験50%　■ミニテスト30%　■事前学習10%　■レポート課題の提出10%
教科書	健康・医療心理学（公認心理師カリキュラム準拠）　宮脇　稔・大野太郎・藤本　豊・松野俊夫（編）医歯薬出版
参考書	臨床発達心理学の基礎（講座・臨床発達心理学)2017　臨床発達心理士認定運営機構　ミネルヴァ書房 丹野義彦（編著）「公認心理師の基礎と実践」シリーズ⑯健康・医療心理学 遠見書房、2018年 適宜，授業時に紹介
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 臨床心理士・公認心理師として、精神科病院における心理面接・心理療法・心理アセスメント等の心理担当職員、教育機関のスクールカウンセラー、児童養護施設における心理療法担当職員など20年の実務経験を活かし，公認心理師・臨床心理士に必要な知識・技術・価値・倫理について講じる。また社会福祉士としてソーシャルワークにおける心理的援助について講じる。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ■コメントカードの実施。授業後、コメントカードを記入してもらい次回の授業で全員に説明する（質問提供者は匿名、授業の質問のほかに希望すること、問題点など）。 ■授業は基本的に双方向型。次回の授業についての事前学習をして授業に臨み、各グループでまとめ、代表者が発表する。コメントをもらう。